福岡市埋蔵文化財調査報告書　第一七九集別冊

井相田C遺跡Ⅱ

一九八八年

福岡市教育委員会

井相田C遺跡Ⅱ（福岡市埋蔵文化財調査報告書 第179集別冊）正誤表

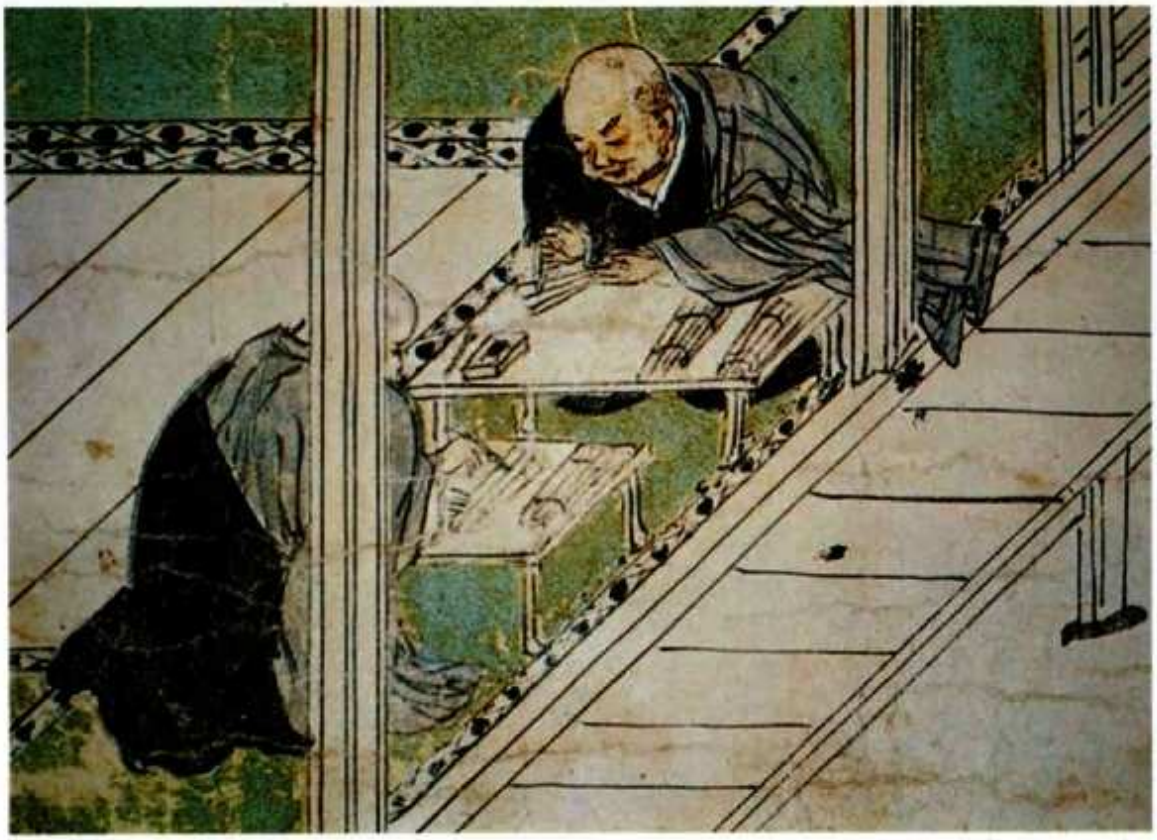
頁	行	誤	正
挿図目次	挿図 57	柿経頭部分類図	柿経頭部形態分類図
〃	挿図 59	……84	……83
図版目次	図版 82	第二〇　巻第七之三（表面）	第二一　巻第七之三（表面）
表目次	第　三　表	柿経の巻束別書写一覧	柿経の巻束別書写一覧
65	上段3行目	一二九頁	一二八頁
〃	上段4行目	一三〇頁～一五九頁	一二九頁～一五七頁
〃	挿図 56	柿経頭部分類	柿経頭部形態分類図
70	No. 7	十万　皆(妙)舎利弗 皆如舎	十万　皆(妙)舎利弗 皆如舎
73	No. 70	諸人聞(己) 聞已	諸人聞(己) 聞已
〃	No. 79	一切皆(観)喜 皆観喜	一切皆(観)喜 皆観喜
74	No. 89	或善哉善男	般善哉善男
75	No. 104	明照曜諸相	明照曜諸相
76	No. 132	白齊(蜜)常 齊蜜常	白齊(蜜)常 齊蜜常
89	下から21枠目 〜 23枠目	2—94 / 2—(99 / — 2—95 / 2—(98 / — 2—96 / 2—(97 / —	2—94 / 2— 99 / — 2—95 / 2— 98 / — 2—96 / 2— 97 / —
107	上から3枠目 〜 10枠目	4—10 / B / (29.1) / B / (18.5) / — / (30.4) / B / (14.6) / B / 32.7 / B / (11.7) / B / (7.0) / B / 32.7 / B / (9.2)	4—10 / B / (29.1) 〃 / B / (18.5) 〃 / — / (30.4) 〃 / B / (14.6) 〃 / B / 32.7 〃 / B / (11.7) 〃 / B / (7.0) 〃 / B / 32.7 〃 / B / (9.2)
116	上から9枠目	17—127 / 17—146 / —	17—127 / 17—146 / 〃
119	上から2枠目	— /	— / 片面写経
〃	上から9枠目	— / 〃	— / 〃 ※
137	上から3段目 3—6—38	常欲安世　願賜	常欲安世間　願賜
〃	上から4段目 3—6—86	其佛号曰	其佛号曰
図版71	上段キャプション	巻第六之六（表画）	巻第六之六（表面）

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第一七九集別冊

井相田C遺跡Ⅱ

昭和六十三年三月

福岡市教育委員会



(1) 柿経作製風景（14世紀前半頃）—『稚児観音縁起』より—

例言

一、本書は、井相田(いもだ)C遺跡第二次調査における池SG一六より出土した墨書木札のうち、多くの出土点数を数える柿経・笹塔婆だけを分冊としてまとめたものである。

一、本書では、墨書した板の形態は同じであるが、経文を墨書したものを柿経と呼び、真言等の一枚で完結する内容を墨書したものを笹塔婆と呼び区別した。

一、本書では、巻名を「巻」、品名を「品」、行数を「行」で示した。八―一一―10とある場合は、巻第八の見寶塔品第一一の10行目を示す。

一、本書では、柿経に書かれている経文の表裏関係を明らかにするため、アルファベットで表示した。例えば、aとa'は同じ板に書かれたもので、aは表面、a'は裏面に書かれていることを示す。

一、本書では、柿経の個数を「幾つの束」(例:二つの束)、各巻の経文を分割して書写した二〇枚前後の板の一組を「幾束」(例:一束)と表記した。

一、柿経の計測・釈読は、瀧本正志・吉田扶希子が行ない、児嶋絹子が協力した。

一、柿経の整理、調査にあたっては、光谷拓実氏(奈良国立文化財研究所)・藤澤典彦氏(元興寺文化財研究所)の御教示を得た。

一、本書の執筆・編集は瀧本が担当した。

本文目次

第一章　柿経・笹塔婆　　頁

一　柿経……65

二　笹塔婆……83

三　小結……84

挿図目次

挿図五七　柿経頭部分類図……65

挿図五八　SG一六出土柿経実測図（縮尺½）……66

挿図五九　SG一六出土笹塔婆実測図（縮尺½）……84

図版目次

図版三一　(一)柿経作製風景（稚児観音縁起より）

図版三二　(一)法華経信解品第四　巻第二之一二（表面）

(二)法華経信解品第四　巻第二之一二（裏面）

図版三三　(一)法華経信解品第四　巻第二之一三（表面）

(二)法華経信解品第四　巻第二之一三（裏面）

図版三四　(一)法華経信解品第四　巻第二之一四（表面）

(二)法華経信解品第四　巻第二之一四（裏面）

図版三五　(一)法華経信解品第四　巻第二之一五（表面）

(二)法華経信解品第四　巻第二之一五（裏面）

図版三六　(一)法華経信解品第四　巻第二之一六（表面）

図版三七　(一)法華経信解品第四　巻第二之一六（裏面）

(二)（未記入）　巻第二之一（表面）

図版三八　(一)法華経薬草喩品第五　巻第三之一（裏面）

(二)法華経薬草喩品第五　巻第三之二（表面）

図版三九　(一)法華経薬草喩品第五　巻第三之二（裏面）

(二)法華経薬草喩品第五　巻第三之三（表面）

図版四〇　(一)法華経薬草喩品第五　巻第三之三（裏面）

(二)法華経薬草喩品第五　巻第三之四（表面）

法華経授記品第六　巻第三之四（裏面）

図版四一　(一)法華経授記品第六　巻第三之五（表面）

(二)法華経授記品第六　巻第三之五（裏面）

図版四二　(一)法華経授記品第六　巻第三之六（表面）

(二)法華経授記品第六　巻第三之六（裏面）

図版四三　(一)法華経授記品第六　巻第三之七（表面）

法華経化城喩品第七　巻第三之七（裏面）

図版四四　(一)法華経化城喩品第七　巻第三之八（表面）

(二)法華経化城喩品第七　巻第三之八（裏面）

図版四五　(一)法華経化城喩品第七　巻第三之九（表面）

(二)法華経化城喩品第七　巻第三之九（裏面）

図版四六　(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一〇（表面）

(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一〇（裏面）

図版四七
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一〇（表面）
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一〇（裏面）
図版四八
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一一（表面）
(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一一（裏面）
図版四九
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一二（表面）
(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一二（裏面）
図版五〇
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一三（表面）
(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一三（裏面）
図版五一
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一四（表面）
(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一四（裏面）
図版五二
(一)法華経化城喩品第七　巻第三之一五（表面）
(二)法華経化城喩品第七　巻第三之一五（裏面）
図版五三
(一)法華経五百弟子受記品第八　巻第四之二（表面）
(二)法華経五百弟子受記品第八　巻第四之二（裏面）
図版五四
(一)法華経法師品第一〇　巻第四之七（表面）
(二)法華経法師品第一〇　巻第四之七（裏面）
図版五五
(一)法華経勧持品第一三　巻第五之四（表面）
(二)法華経勧持品第一三　巻第五之四（裏面）
図版五六
(一)法華経勧持品第一三　巻第五之五（表面）
法華経安楽行品第一四
(二)法華経安楽行品第一四　巻第五之五（裏面）
(一)法華経安楽行品第一四　巻第五之六（表面）
図版五七
(二)法華経安楽行品第一四　巻第五之六（裏面）
図版五八
(一)法華経安楽行品第一四　巻第五之七（表面）
(二)法華経安楽行品第一四　巻第五之七（裏面）
図版五九
(一)法華経安楽行品第一四　巻第五之八（表面）
(二)法華経安楽行品第一四　巻第五之八（裏面）
図版六〇
(一)法華経安楽行品第一四　巻第五之九（表面）
(二)法華経安楽行品第一四　巻第五之九（裏面）
図版六一
(一)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一〇（表面）
法華経従地涌出品第一五
(二)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一〇（裏面）
図版六二
(一)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一一（表面）
(二)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一一（裏面）
図版六三
(一)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一二（表面）
(二)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一二（裏面）
図版六四
(一)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一三（表面）
(二)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一三（裏面）
図版六五
(一)法華経従地涌出品第一五　巻第五之一四（表面）
(二)（未　記　入）　巻第五之一四（裏面）
図版六六
(一)法華経如来寿量品第一六　巻第六之一（表面）
(二)法華経如来寿量品第一六　巻第六之一（裏面）
図版六七
(一)法華経如来寿量品第一六　巻第六之二（表面）
(二)法華経如来寿量品第一六　巻第六之二（裏面）
図版六八
(一)法華経如来寿量品第一六　巻第六之三（表面）
(二)法華経如来寿量品第一六

図版六八　法華経分別功徳品第一七　巻第六之三（裏面）
図版六九　(一)法華経分別功徳品第一七　巻第六之四（表面）
(二)法華経分別功徳品第一七　巻第六之四（裏面）
図版七〇　(一)法華経分別功徳品第一七　巻第六之五（表面）
(二)法華経分別功徳品第一七　巻第六之五（裏面）
図版七一　(一)法華経分別功徳品第一七　巻第六之六（表面）
(二)法華経分別功徳品第一七　巻第六之六（裏面）
図版七二　(一)法華経分別功徳品第一七　巻第六之七（表面）
(二)法華経分別功徳品第一七　巻第六之七（裏面）
法華経随喜功徳品第一八
図版七三　(一)法華経随喜功徳品第一八　巻第六之八（表面）
(二)法華経随喜功徳品第一八　巻第六之八（裏面）
図版七四　(一)法華経随喜功徳品第一八　巻第六之九（表面）
(二)法華経随喜功徳品第一八　巻第六之九（裏面）
法華経法師功徳品第一九
図版七五　(一)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一〇（表面）
(二)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一〇（裏面）
図版七六　(一)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一一（表面）
(二)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一一（裏面）
図版七七　(一)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一二（表面）
(二)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一二（裏面）
図版七八　(一)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一三（表面）
(二)（未記入）　巻第六之一三（裏面）

図版七九　(一)法華経法師功徳品第一九　巻第六之一四（表面）
（未記入）　巻第六之一四（裏面）
図版八〇　(一)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之一（表面）
(二)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之一（裏面）
図版八一　(一)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之二（表面）
(二)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之二（裏面）
図版八二　(一)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之三（表面）
(二)法華経常不軽菩薩品第二〇　巻第七之三（裏面）
法華経如来神力品第二一
図版八三　(一)法華経如来神力品第二一　巻第七之四（表面）
(二)法華経如来神力品第二一　巻第七之四（裏面）
図版八四　(一)法華経嘱累品第二二　巻第七之五（表面）
(二)法華経嘱累品第二二　巻第七之五（裏面）
法華経薬王菩薩本事品第二三
図版八五　(一)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之六（表面）
(二)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之六（裏面）
図版八六　(一)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之七（表面）
(二)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之七（裏面）
図版八七　(一)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之八（表面）
(二)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之八（裏面）
図版八八　(一)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之九（表面）
(二)法華経薬王菩薩本事品第二三　巻第七之九（裏面）
図版八九　(一)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一〇（表面）

図版八九　(二)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一〇（裏面）
図版九〇　(一)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一一（表面）
(二)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一一（裏面）
図版九一　(一)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一二（表面）
(二)（未記入）　巻第七之一二（裏面）
図版九二　(一)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一三（表面）
(二)法華経妙音菩薩品第二四　巻第七之一三（裏面）
図版九三　(一)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之一（表面）
(二)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之一（裏面）
図版九四　(一)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之二（表面）
(二)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之二（裏面）
図版九五　(一)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之三（表面）
(二)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之三（裏面）
図版九六　(一)法華経観世音菩薩普門品第二五　巻第八之四（表面）
法華経陀羅尼品第二六
(二)法華経陀羅尼品第二六　巻第八之四（裏面）
図版九七　(一)法華経陀羅尼品第二六　巻第八之五（表面）
(二)法華経陀羅尼品第二六　巻第八之五（裏面）
図版九八　(一)法華経陀羅尼品第二六　巻第八之六（表面）
法華経妙荘厳王本事品第二七
(二)法華経妙荘厳王本事品第二七　巻第八之六（裏面）
図版九九　(一)法華経妙荘厳王本事品第二七　巻第八之七（表面）
(二)法華経妙荘厳王本事品第二七　巻第八之七（裏面）
図版一〇〇　(一)法華経妙荘厳王本事品第二七　巻第八之八（表面）
(二)法華経妙荘厳王本事品第二七
法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之八（裏面）
図版一〇一　(一)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之九（表面）
(二)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之九（裏面）
図版一〇二　(一)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之一〇（表面）
(二)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之一〇（裏面）
図版一〇三　(一)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之一一（表面）
(二)法華経普賢菩薩勧発品第二八　巻第八之一一（裏面）
図版一〇四　笹塔婆

表目次

第三表　柿経の巻束別書写一覧
第四表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―一～三）
第五表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―三～五）
第六表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―六～八）
第七表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―八～一〇）
第八表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―一一～一三）
第九表　SG一六出土柿経観察表（巻第一―一三～二―二）
第一〇表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―一～五）
第一一表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―五～七）
第一二表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―七～一〇）

第一三表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―一〇～一二）
第一四表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―一二～一五）
第一五表　SG一六出土柿経観察表（巻第二―一五～三―二）
第一六表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―二～四）
第一七表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―四～七）
第一八表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―七～九）
第一九表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―九～一二）
第二〇表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―一二～一四）
第二一表　SG一六出土柿経観察表（巻第三―一四～四―三）
第二二表　SG一六出土柿経観察表（巻第四―三～五）
第二三表　SG一六出土柿経観察表（巻第四―五～八）
第二四表　SG一六出土柿経観察表（巻第四―八～一〇）
第二五表　SG一六出土柿経観察表（巻第四―一〇～一二）
第二六表　SG一六出土柿経観察表（巻第四―一二～五―三）
第二七表　SG一六出土柿経観察表（巻第五―三～五）
第二八表　SG一六出土柿経観察表（巻第五―五～八）
第二九表　SG一六出土柿経観察表（巻第五―八～一〇）
第三〇表　SG一六出土柿経観察表（巻第五―一〇～一三）
第三一表　SG一六出土柿経観察表（巻第五―一三～六―一）
第三二表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―一～四）
第三三表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―四～七）
第三四表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―七～九）
第三五表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―九～一二）
第三六表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―一二～一五）
第三七表　SG一六出土柿経観察表（巻第六―一五～七―二）
第三八表　SG一六出土柿経観察表（巻第七―二～五）
第三九表　SG一六出土柿経観察表（巻第七―五～七）
第四〇表　SG一六出土柿経観察表（巻第七―七～一〇）
第四一表　SG一六出土柿経観察表（巻第七―一〇～一二）
第四二表　SG一六出土柿経観察表（巻第七―一二～八―二）
第四三表　SG一六出土柿経観察表（巻第八―二～四）
第四四表　SG一六出土柿経観察表（巻第八―四～七）
第四五表　SG一六出土柿経観察表（巻第八―七～九）
第四六表　SG一六出土柿経観察表（巻第八―九～一一）

附編

井相田C遺跡出土柿経の復元

―出土柿経片等の経文同定―

法華経巻第一～巻第八

第一章　柿経・笹塔婆

一　柿　経（挿図五八　図版三三～一〇三）

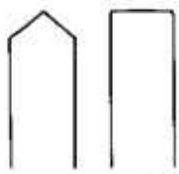
本柿経の調査は、経文の同定を行なうとともに、板の両面に書写している経文各行の組合せ関係表（本書八六頁～一二九頁）を作成して、柿経の復原（本書一三〇頁～一五九頁）を主体に行なった。その結果、本遺跡出土の柿経が、二一四一本からなる一つの束であることを含め、多くの点を明らかにすることができた。以下、項目別に説明していく。

出土点数

完形品から一㎝角ほどの小片まで含めて、四二〇〇点を数える柿経が出土した。後述するが、SG一六出土の柿経は、復原すると二一四一本の薄い剝板[11]から成る。

形態

頭部形態の違いを分類の基準にすれば、二種類の柿経がある。短冊型のA型と頭部を山形に尖したB型とである。A型はB型の頭部切断前の形態と考えられる。B型の頭部側縁には、五輪塔を模倣した切り込みの痕跡は認められない[12]。しかし、頭部を山形に切ることで、五輪塔を意識的に表現したものと思われる。



挿図56　柿経頭部分類

法量

長さ二七㎝～三五㎝、幅・四㎝～二㎝、厚さ〇・三㎜～一㎜を測る。長さの大半は、二七㎝、三〇㎝、三三㎝のいづれかに近い数値を示しているものの、その他の数値を測るものも少なくない。長さと幅と厚さにおいては、相互の関連性は認められない。柿経を経文の順番に並べると、同じ法量の柿経が続くが、法量の異なる柿経が混在して頭部の並びが凹凸になるところも少なくない。

柿経の板の樹種

出土した柿経は、すべて杉材である[13]。

経典

すべて法華経（妙法蓮華経）である。法華経八巻以外の経典から書写した柿経は出土していない[14]。

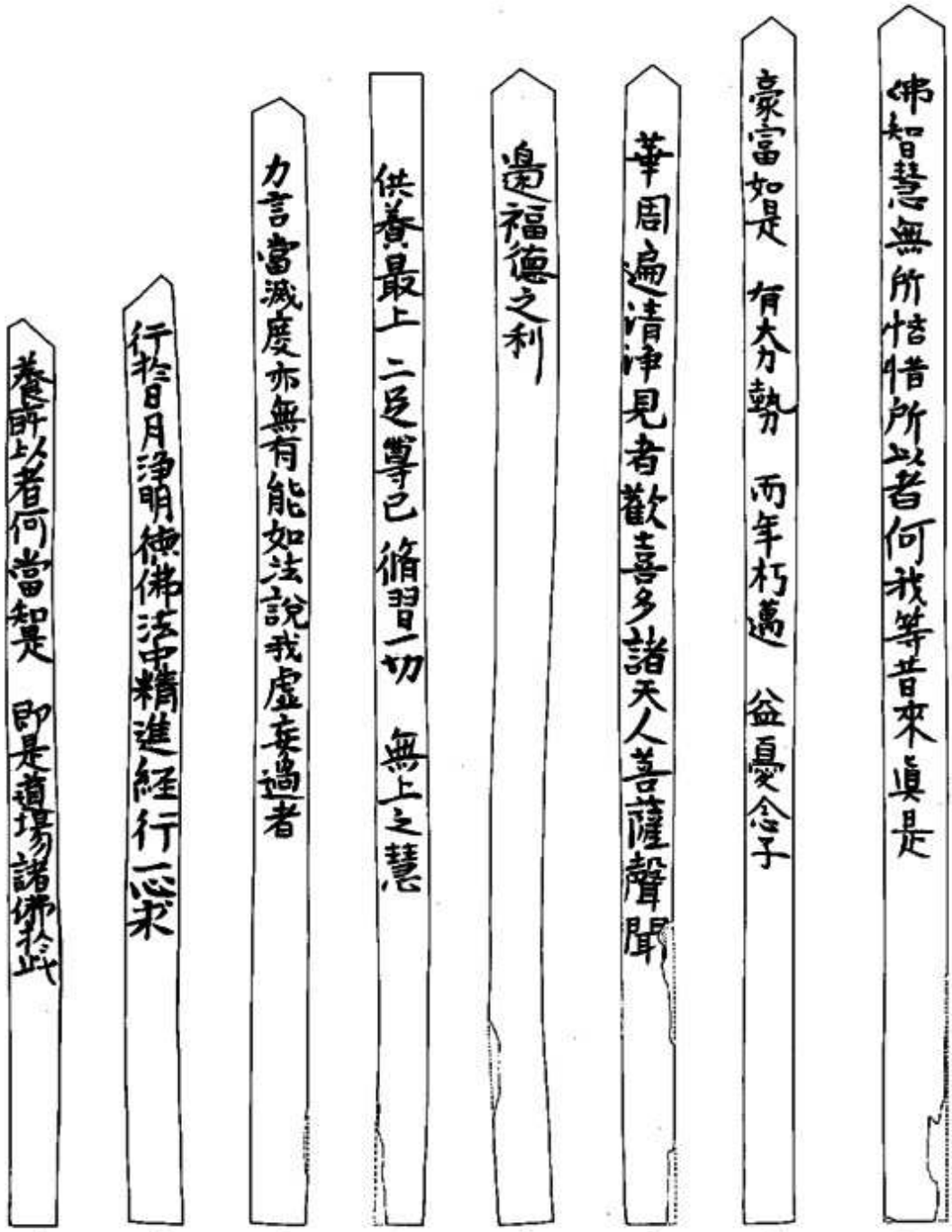
柿経数

出土した柿経は、経文が重複していないことから、法華経八巻だけを書写した一つの束の柿経であろう。本遺跡出土の柿経は、二一四一本から成る一つの束である。

写経方法

薄い剝板の両面に法華経を書写したもの（両面写経）と片面だけに書写したもの（片面写経）とがある。両者は一つの束の柿経に混在する。

片面写経には、一束の全部（巻第二―一、巻第二―一六、巻第三―一五、巻第四―一三、巻第五―一四、巻第六―一三・一四・一五・一六、巻第七―一三）もしくは一束の大半（巻第一―一三、巻第四―一二、巻



1.如来神力品第二十一　46行目(巻7－4裏面)
2.薬王菩薩本事品第二十三　21行目(巻7－6表面)
3.如来寿量品第十六　89行目(巻6－3表面)
4.授記品第六　19行目(巻3－4表面)
5.観世音菩薩普門品第二十五　48行目(巻8－2表面)
6.授記品第六　98行目(巻3－6表面)
7.信解品第四　123行目(巻2－14表面)
8.信解品第四　106行目(巻2－13裏面)

挿図58　SG 16出土柿経実測図（縮尺1/2）

巻・束番号	一束本数	書写行数
4－1	19	38
4－2	20	40
4－3	20	40
4－4	21	41
4－5	20	40
4－6	20	40
4－7	20	40
4－8	20	40
4－9	20	40
4－10	20	40
4－11	21	41
4－12	26	44
4－13	3	3

巻・束番号	一束本数	書写行数
3－1	18	36
3－2	20	40
3－3	20	40
3－4	20	40
3－5	20	39
3－6	21	42
3－7	19	38
3－8	20	40
3－9	18	36
3－10	20	40
3－11	20	40
3－12	20	40
3－13	20	40
3－14	19	38
3－15	8	8

巻・束番号	一束本数	書写行数
2－1	20	20
2－2	20	40
2－3	20	40
2－4	20	40
2－5	20	40
2－6	20	40
2－7	22	43
2－8	18	36
2－9	20	40
2－10	20	40
2－11	21	42
2－12	20	40
2－13	20	40
2－14	20	40
2－15	20	40
2－16	13	13

巻・束番号	一束本数	書写行数
1－1	20	40
1－2	20	40
1－3	20	40
1－4	20	40
1－5	20	40
1－6	20	40
1－7	20	40
1－8	20	40
1－9	20	40
1－10	20	40
1－11	20	40
1－12	20	40
1－13	20	26
1－14	2	4

巻・束番号	一束本数	書写行数
8－1	20	40
8－2	20	40
8－3	20	40
8－4	20	40
8－5	20	40
8－6	20	40
8－7	20	40
8－8	20	40
8－9	20	40
8－10	20	40
8－11	15	19

巻・束番号	一束本数	書写行数
7－1	20	40
7－2	19	38
7－3	19	38
7－4	20	40
7－5	20	39
7－6	21	42
7－7	20	40
7－8	18	35
7－9	20	40
7－10	20	40
7－11	19	37
7－12	20	20
7－13	20	27

巻・束番号	一束本数	書写行数
6－1	20	40
6－2	20	40
6－3	19	38
6－4	19	37
6－5	20	40
6－6	19	38
6－7	19	38
6－8	17	34
6－9	20	40
6－10	18	36
6－11	20	40
6－12	15	30
6－13	19	19
6－14	20	20
6－15	20	20
6－16	4	4

巻・束番号	一束本数	書写行数
5－1	20	40
5－2	20	40
5－3	20	40
5－4	20	40
5－5	20	40
5－6	20	40
5－7	20	40
5－8	20	40
5－9	20	40
5－10	20	40
5－11	20	40
5－12	19	38
5－13	20	40
5－14	13	13

第三表　ＳＧ16出土柿経の巻束別書写一覧

第七―一三、巻第八―一一）片面写経のものと、一束の中で一本だけ（巻第二―七、巻第三―五、巻第四―四、巻第四―一一、巻第六―四、巻第七―八、巻第七―一一）片面写経のものとがある。一束の全部もしくは大半が片面写経の場合は、それぞれの巻の初めか終わりの束にしか認められないことから、写経を行なう当初の段階ですでに決められていたのであろう。すなわち、書き手が意識的に行なったものと思われる。他方、一束の中で一本だけ片面写経のものが含まれている場合は、二通り考えられる。一つは書き手が無意識の内に片面写経にしてしまった場合である。他方の一つは、書き手が行数の関係で意識的に行なった場合である。

今回出土した柿経の書写方法は、片面写経と両面写経とが一つの柿経で併用されている。二種類の写経方法が一つの柿経に混在するのは、柿経の書写方法が両面写経から片面写経へ変わる、過渡期の資料としての姿を反映させているものと考えられる。両面写経から片面写経へと変化するのは室町時代、一四五〇年を前後する頃と推定されている。[注15]

書写字数

経文は一行一七字、偈頌は一行一六字もしくは二〇字を片面に書写している。[注16]両面に写経している場合は、三二字～四〇字を一本の柿経に書写している。

記入の順番

一束二〇本で四〇行の経文を書写する場合は、二〇番目の行までは順次板の片面に書写する。二一番目の行は、一〇番目の行を書写した板の裏面に書写し、二二番目以降の行も順次裏面に書写していく。以上のように書写すると、一束二〇本の柿経を扇状に広げると表裏面とも経文は右から左へ続くようになる。[注17]

書写人数

書写が、幾人もの手によることは、明らかであるが、人数を特定することはできなかった。[注18]

巻束数

法華経八巻の各巻は、二〇本前後の柿経を一組とする束と端数からなる。第二表に示したように、巻第一は一三束一本、巻第二は一五束一三本、巻第三は一四束八本、巻第四は一二束三本、巻第五は一三束一三本、巻第六は一五束四本、巻第七は一二束、巻第八は一〇束一五本である。[注19]

一束の柿経の数

一束は二〇本の柿経を一組とするのが大半を占めるが、巻末の束を除いても、二〇本以外の本数（一五、一八、一九、二一、二二、二六本）で一束を構成するものも全体の二五％を占める。各巻においても違いが認められる。巻第一、第八では一束はすべて二〇本であるのに対して、他の巻では混在する。[注20]厳格に一束の本数（二〇本）が守られているとは言えない。

巻束番号

法華経八巻の各巻を一束～一六束に分け、各束の最初の柿経の余白には、巻名と束番号を書いている。例えば、巻第一の三番目の束だと「一之三」と記している。これは書写を行なう時や、終了し

た時に順番が判るようにしたのであろう。第四表～第四六表に示した様に、記入の仕方は同一様式ではなく、各巻ごとに特徴を呈している。[注11] このことからも、柿経が幾人もの書き手によることが判る。

巻題、品題を記した柿経

出土した巻題、品題は左記に示すとおりであるが、書写方法も含め、経文を墨書した柿経と変わりない。

妙法蓮華経巻第一　序品第一
妙法蓮華経巻第二　方便品第二
妙法蓮華経巻第五　譬喩品第三
妙法蓮華経巻第七　薬草喩品第五
妙法蓮華経巻第八　授記品第六
化城喩品第七
序品第一　授学無学人記品第九
法師品第一〇
譬喩品第三　見宝塔品第一一
提婆達多品第一二
授記品第六　勧持品第一三
安楽行品第一四
授学無学人記品第九　従地涌出品第一五
如来寿量品第一六
見宝塔品第一一　分別功徳品第一七
法師功徳品第一九
勧持品第一三　常不軽菩薩品第二〇
如来神力品第二一
従地涌出品第一五　嘱累品第二二
薬王菩薩本事品第二三
分別功徳品第一七　妙音菩薩品第二四
陀羅尼品第二六
常不軽菩薩品第二〇　荘厳王本事品第二七
普賢菩薩勧発品第二八
嘱累品第二二
妙音菩薩品第二四
荘厳王本事品第二七

誤字・脱字・増字・加字・抹消のある柿経

柿経の作製は、柿経の作製規定ともいうべき、限定された時間内で写経を完了させなければならない。そのため写経には速写性が求められる。その結果、書写された経文には、誤字、[注12] 脱字、[注13] 増字、[注14] 加字、[注15] 抹消が多く、正しく書写した経文は少ない。本遺跡出土の柿経では、法華経八巻の総行数四〇八八行の内、三三四八行を確認したが、その中で三九七行を数える誤字、脱字、増字、加字、抹消が認められた。この誤字等の割合は、八本～九本に一本と高く、柿経の有する特性を明示している。

誤字のある柿経

誤字のある柿経は一四六ヶ所、一四〇本で認められた。

No	1	2	3	4
巻・品・行	一・一・44	一・一・57	一・一・81	一・一・83
	(誤) 恭敬尊重讃歎爲諸菩薩説大乗経(各)無量	(誤) 優婆塞優婆夷諸修行得道場復(是)諸菩薩	(誤) 又(觀)諸佛　聖主師子　演説經典　微妙第一	(誤) 梵音深妙　(今)人樂聞　各於世界　講説正法
	(正) 経名無	(正) 復見諸	(正) 又視諸	(正) 妙　令人

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
一・一・90	一・二・4	一・二・29	一・二・123	一・二・129	一・二・135	一・二・138	一・二・160	一・二・168	一・二・199
(誤)種々因緣 而求佛道 或有行施 金銀(增)瑚 (正)銀瑠瑚	(誤)聞辟支佛所不能知所以者何佛會(現)近百 (正)會親近	(誤)正使滿十方 皆(如)舍利弗 及餘諸弟子 亦滿十万利 (正)皆如舍	(誤)之知見示衆生故欲以佛(是)知見悟衆生故 (正)佛之知	(誤)利弗諸佛出於五(濁)惡世所謂劫濁煩惱濁 (正)五濁惡	(誤)辟支佛又舍利弗是諸比(其)比丘尼自謂已 (正)比丘比	(誤)慢人所以者何若有比丘實(等)阿羅漢若不 (正)實得阿	(誤)以深心念佛 修持淨(戒)故 此等聞得佛 大喜充徧身 (正)淨戒故	(誤)若人信歸佛 如夾不欺(誑)亦無貪嫉意 斷諸法中惡 (正)欺誑亦	(誤)綵(彩)作佛像 百福莊嚴相 自作若使人 皆已成佛像 (正)綵畫作

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
一・二・206	一・二・215	二・三・15	二・三・61	二・三・82	二・三・174	二・三・269	二・三・278	二・四・33	二・四・47
(誤)若人散亂心 乃至以丁華 供養於(塔)像 漸見無數佛 (正)於畫像	(誤)未來世諸佛 雖說百千億 無數諸法(壬)其實爲丁乘 (正)法門 其	(誤)(非)口生從法化生得佛法分尒時舍利弗欲 (正)佛口生	(誤)可思議等數譬論所不能及非佛智力(等)(丘) (正)力無能	(誤)華光佛住世 壽十二(十)劫 其國人民衆 壽命八小劫 (正)二小劫	(誤)病死憂悲苦惱急癡(時)蔽三毒之火教化令 (正)癡暗蔽	(誤)飢渴惱急 甚可怖畏 此(若)難處 況復火火 (正)此苦難	(誤)到於空地 離諸(若)難 長者見子 得出火宅 (正)諸苦難	(誤)其父聞師子牀寶(机)承足諸婆羅門刹利居 (正)寶几承	(誤)爲見捉使者執之(俞)急強並將還干時窮子 (正)之念急

25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
二・四・51	二・四・86	二・四・93	二・四・96	二・四・162	三・五・9	三・五・54	三・六・12	三・六・57	三・七・137
(誤)者(阿)父知其子志意下劣自知豪貴爲子所 (正)者何父	(誤)吾逃走怡傳辛(若)五十餘年其本字其我名 (正)辛苦五	(誤)常說我等爲子世尊我等以三(若)故於生死 (正)三苦故	(誤)勤加(精)進得至涅槃一日之價既得此已心 (正)加精進	(誤)汝於來世(常)得作佛 一切諸佛 祕藏之法 (正)世 當得	(誤)心所行通達無礙又於諸法究盡明了(亦)諸 (正)了示諸	(誤)惠雲含潤 電光晃曜 電聲遠震(合)衆悅豫 (正)震 令衆	(誤)側散諸寶華周遍清淨其國菩薩無量千(萬) (正)量千億	(誤)其佛國土 嚴淨第一 衆生見者 無不(受)樂 (正)不愛樂	(誤)見哀愍饒益我等所獻宮殿願垂納處尒時 (正)饒益我

35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
三・七・186	三・七・291	三・七・335	四・八・24	四・一一・41	五・一二・43	五・一三・57	五・一四・134	五・一五・67	五・一五・134
(誤)羅門若天魔梵及餘世間所不能轉謂是(若) (正)謂是苦	(誤)諸天神龍王 阿脩羅衆等(當)雨於天華 以供養彼佛 (正)等 常雨	(誤)尒乃集大衆 爲說眞實法 諸(佛)方便力 分別說三乘 (正)諸佛方	(誤)土故(當)作佛事教化衆生諸比丘當樓那亦 (正)故常作	(誤)身諸(佛)禮拜供養尒時佛放白毫丁光卽見 (正)諸佛禮	(誤)變達多品淨心信(欲)不生疑惑者不墮地獄 (正)信敬不	(誤)自作此經典(能)惑世間人 爲求名聞故 分別說是經 (正)典 誑惑	(誤)往討(罰)王見兵衆戰有功者卽大歡喜隨功 (正)討伐王	(誤)將五萬恒沙 其數過於是 四萬(乃)三萬 二萬至丁萬 (正)萬及三	(誤)(小)言是我父生育我等是事難信佛亦如是 (正)少言是

45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
五·一五·148	五·一五·152	五·一五·153	六·一六·86	六·一六·91	六·一六·99	六·一七·12	六·一七·30	六·一七·36	六·一七·39
(誤)佛昔從釋種 出家近伽耶 坐於菩提樹 尒炎(商)末久 (正)炎尚未	(誤)佛得道甚近 所成就甚多 願爲除衆疑 如(實)分別說 (正)如實分	(誤)譬如(小)壯人 年始二十五 示人百歲子 髮白而面皺 (正)如少壯	(誤)意云何頗有人能說此良醫虛(妄)罪不不也 (正)虛妄罪	(誤)自我得佛來 所(紹)諸劫數 無量百千萬 億載阿僧祇 (正)所經諸	(誤)我復於彼中 爲說無上法 (沙)等不聞此 但謂我滅度 (正)法汝等	(誤)轉清淨法輪復有小(干)國土微塵數菩薩摩 (正)小千國	(誤)養大會一一佛上有諸菩薩執(林)旛蓋次第 (正)執持旛	(誤)或住不退(池) 或得陀羅尼 或無礙樂說 萬億旋總持 (正)退地 或	(誤)復有小千界 微塵數菩薩 餘各八生在 當(昇)成佛道 (正)當得成

55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
六·一七·68	六·一七·82	六·一七·99	六·一七·104	六·一七·108	六·一七·125	六·一七·146	六·一八·9	六·一八·18	六·一九·143
(誤)若復持禁戒 清淨無(上)漏 求於無上道 諸佛之所歎 (正)無缺漏	(誤)若有深心者 清淨而質(直) 多聞能總持 隨義解佛語 (正)質直 多	(誤)以四(善)供養衆僧所以者何是善男子善女 (正)四事供	(誤)戲以妙(意)聲歌唄讚頌則爲已於無量千萬 (正)妙音聲	(誤)樹高廣嚴好百千比丘於其中(辺)園林浴池 (正)中止園	(誤)我滅後(諸)善男子善女人受持讀誦是經典 (正)後諸善	(誤)應以天華散 天衣覆其身 頭面(接)足禮 生心如佛想 (正)面接足	(誤)處若在僧坊若空閑地若城邑巷陌聚落(日) (正)聚落田	(誤)樂之具皆給與之一一衆生與(補)閻浮提金 (正)與滿閻	(誤)唯獨自明了 餘人所不見(一)千世界中 一切諸羣萌 (止)見三千

65	66	67	68	69	70	71	72	73	74
六·一九·161	七·二〇·11	七·二〇·23	七·二〇·25	七·二〇·64	七·二〇·76	七·二〇·77	七·二〇·79	七·二一·7	七·二一·10
(誤)是人意清淨 明利(知)穢濁 以此妙意根 知上中下法 (正)利無穢	(誤)諦法度生老病死究意涅(般)爲求辟支佛者 (正)涅槃爲	(誤)常不(轉)得大勢以何因緣名常不(經)是比丘 (正)不輕得 不輕是	(誤)悉體拜(賀)歡而作是言我深敬汝等不敢輕 (正)拜讚歎	(誤)(我)意云何尒時四衆常輕是菩薩者豈異人 (正)汝意云	(誤)汝等行道 皆當作佛 諸人聞(已)輕毀爲言 (正)聞已輕	(誤)不輕菩薩 能忍受之 其罪畢(已)臨命終時 (正)畢已臨	(誤)復爲諸人 廣說是經 諸(者)法衆 皆蒙菩薩 (正)諸著法	(誤)之尒時世尊(於)(大)殊師利等無量百千万億 (正)於文殊	(誤)迦樓(維)緊那羅摩睺羅伽人非人等一切衆 (正)樓羅緊

75	76	77	78	79	80	81	82	83	84
七·二一·18	七·二一·53	七·二一·55	七·二一·56	七·二一·58	七·二一·59	七·二一·62	七·二二·2	七·二二·9	七·二二·29
(誤)羅迦樓羅緊那羅摩睺羅(迦)人非人等以佛 (正)羅伽人	(誤)以佛滅度後 能持是經故 諸佛皆(現)喜 現無量神力 (正)皆歡喜	(誤)是人之功德 無邊無有窮 如十方虛(空)不可得邊際 (正)虛空不	(誤)能(於)是經者 則爲已見我 亦見多寶佛 及諸分身者 (正)能持是	(誤)滅度多寶佛 一切皆(現)喜 十方現在佛 幷過去未來 (正)皆歡喜	(誤)亦見亦供養 亦令得歡喜 諸佛(生)道場 所得秘要法 (正)佛坐道	(誤)於如來滅後 知佛所說經 因緣及次第隨義如(實)說 (正)如實說	(誤)尒時釋迦(至)尸佛從法座起現大神力以右 (正)迦牟尼	(誤)法(令)以付囑汝等汝等當受持讀誦廣宣此 (正)法令以	(誤)皆大(歡)喜 (正)大歡喜

85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
七・二三・16	七・二三・19	七・二三・20	七・二三・26	七・二三・35	七・二三・47	七・二三・51	七・二三・58	七・二三・68	七・二三・72
(誤)一樹一臺其樹去量盡一箭(連)(止)諸寶樹(入) (正)箭道此諸寶樹皆	(誤)佛爲一切衆生悉見菩薩(乃)衆菩薩諸聲聞 (正)薩及衆	(誤)衆說法華經是一切衆生(尊)見菩薩樂習苦 (正)生悉見	(誤)(究)中雨勞陁羅華摩訶勞陁羅華細抹輕黑 (正)空中雨	(誤)沙世界其中諸佛同時讚言(義)或善哉善男 (正)言善哉	(誤)勤行大精進 捨所(受)之身 (正)听愛之	(誤)羅類婆羅阿問婆等俱大王我(令)當(速)供養 (正)我今當還供	(誤)告一切衆生悉見菩薩善男子我涅(般)時到 (正)涅槃時	(誤)於佛卽(爲)海此岸栴檀爲積供養佛身而以 (正)卽以海	(誤)自念言我雖作(聞)供養心猶未足我今當更 (正)作足供

95	96	97	98	99	100	101	102	103
七・二三・76	七・二三・110	七・二三・118	七・二三・152	七・二三・154	七・二三・156	七・二四・10	七・二四・15	七・二四・36
(誤)前然百福(住)嚴臂七万二千歲而以供養令 (正)福莊嚴	(誤)斯陁(合)阿那含阿羅漢辟支佛爲第一此経 (正)陁含阿	(誤)憶此經能(天)饒益一切衆生充滿其願如清 (正)能大饒	(誤)宿王華以此(樂)王菩薩本事品囑累於汝我 (正)此藥王	(誤)令斷絶惡魔魔民諸天龍夜(又)鳩槃茶等得 (正)夜叉鳩	(誤)听以者何此經則爲聞(淨)提人病之良藥若 (正)閻浮提	(誤)名曰妙音久已殖衆德本供養親(近)無量百 (正)親近無	(誤)三昧(住)嚴王三昧淨光明三昧淨藏三昧不 (正)昧莊嚴	(誤)閻浮檀金爲(華)白銀爲葉金剛爲臂瓠叔迦 (正)爲華白

104	105	106	107	108	109	110	111	112	113
七·二四·54	七·二四·60	七·二四·68	七·二四·78	七·二四·80	七·二四·89	七·二四·108	八·二五·5	八·二五·53	八·二五·96
(誤)熾(或)(老)明照曜諸相具足如那羅延堅固之 (正)熾盛光明	(誤)居輕利安樂行不四(天)調和不世事可忍不 (正)四大調	(誤)多寶佛告妙音言善哉善哉汝(於)爲供養釋 (正)汝能爲	(誤)妙(意)菩薩伎樂供養奉上寶器者豈異人乎 (正)妙音菩	(誤)已會供養親近無量諸佛久植德本又(用)恒 (正)又值恒	(誤)身或現宰官婦女身或現婆羅(明)婦女身或 (正)羅門婦	(誤)是在斯變現度(能)衆生佛告華德菩薩善男 (正)度脫衆	(誤)量百千万億衆生受諸(若)惱聞是觀世音菩 (正)諸苦惱	(誤)現佛身(所)爲說法應以辟支佛身得度者卽 (正)身而爲	(誤)我爲汝略說聞名及見身心念不空過能滅諸有(苦) (正)諸有苦

114	115	116	117	118	119	120	121	122	123
八·二五·109	八·二六·59	八·二六·64	八·二六·66	八·二六·70	八·二六·78	八·二六·83	八·二六·84	八·二六·85	八·二六·86
(誤)衆生被困厄無量(若)逼身觀音妙智力能救世閒苦 (止)量苦逼	(誤)尒時有羅刹(如)等一名藍婆二名毗藍婆三 (正)刹女等	(誤)擁護讀誦受持法華經者除(某)衰患若有伺 (正)除其衰	(誤)伊提履一伊提(履)二伊提履三阿提履四伊 (正)提泯二	(誤)掌上我頭上莫惶於法師若夜(又)若羅刹若 (正)夜叉若	(誤)如殺(父)(子)罪亦如壓油(俠)斗秤欺誑人調達破僧罪 (正)殺父母罪油殃斗	(誤)哉汝等(得)能擁護受持法華名者福不可量 (正)等但能	(誤)何況擁(諸)具足受持供養經卷華香瓔珞抹 (正)擁護具	(誤)香塗香燒香蘇(妙)樂然種種燈蘇燈油燈 (正)蓋伎樂	(誤)諸香(油)燈蘇摩那華油燈瞻蔔華油燈婆師 (正)香油燈

124	125	126	127	128	129	130	131	132	133
八・二七・7	八・二七・10	八・二七・16	八・二七・26	八・二七・29	八・二七・44	八・二七・49	八・二七・86	八・二七・87	八・二七・88
(誤)(正) 眼是二子有大神力超徳智慧久修菩薩(通)菩薩所	(誤)(正) 方便波羅蜜慈悲喜捨乃至三十七品(脩)(明)品助道	(誤)(正) 十指爪掌白言願母往詣雲雷音宿王(施)智王華智	(誤)(正) 身下出水身(下)出火或現大身滿虛空中而身上出	(誤)(正) 王心淨信解時父見子神力(始)是心大歡喜力如是	(誤)(正) 得値如優曇波羅華(文)如一眼之龜値浮木華又如	(誤)(正) 久已通達淨藏菩薩已於無量百千萬億(却)萬億劫	(誤)(正) 功徳智慧故頂上(内)髻光明顯照其眼長廣上肉髻	(誤)(正) 而紺青色眉間(豪)相白如珂月齒白齊(密)常閑牟相齊密常	(誤)(正) 有光明膚色赤好如頻婆(果)尒時妙莊嚴王婆果尒

134	135	136	137	138	139	140
八・二七・102	八・二八・17	八・二八・23	八・二八・40	八・二八・48	八・二八・61	八・二八・102
(誤)(正) 莊嚴王本事品時八万四千人遠(出)離垢於遠塵離	(誤)(正) 四法於如夾(時)後心得是經尒時普賢菩薩夾滅後	(誤)(正) 諸惱(不)者(告)不得便是人若行若立讀誦此惱人者皆不	(誤)(正) 惡(談)我身亦自常護是人唯願世尊聽我說惑亂我	(誤)(正) 阿羅帝波羅帝(七十)(六十)薩婆僧伽三摩地伽蘭地帝薩	(誤)(正) 授手令不恐怖不(隨)惡趣卽往兜率天上弥不墮惡	(誤)(正) 天龍人非人等一切大會(告)大歡喜受持佛會皆大

脫字のある楞経

脫字のある楞経は、一六九ヶ所一五六本で認められた。

増字のある柿経

増字のある柿経は八〇ヶ所、七七本で認められた。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
巻・品・行	一・一・20	一・一・50	一・一・53	一・一・64	一・一・81	一・二・26	一・二・28	一・二・77
(誤)	(菩)薩不休息菩薩寶掌菩薩藥王菩薩勇於菩	(西)天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩	眉間白毫相光照東方萬八千世界靡不周(周)	法王之子已會親(口)近供養過去無量諸佛必	(口)又覩諸佛聖主師子演說經典微妙第一	除諸菩薩(五)衆信力堅者諸佛弟子衆會供養諸佛	假使滿世閒皆如舍利弗盡思共度量不能(見)測佛智(域)	說之今此會中如我等比百千萬億世世已(如)
(正)	薩不休息	天龍夜叉	界靡不周	會親近供養	又覩諸佛	菩薩衆信	不能測佛智	億世世已

No.	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
巻・品・行	一・二・117	一・二・138	二・二・316	二・三・378	三・五・64	三・五・98	三・六・48	三・七・3	三・七・272	四・九・23
(誤)	(如)法究竟皆得一切種智舍利弗現在十方無	慢人所以者何若有比丘實(別)得阿羅漢若不	我皆濟拔令出三界我雖先說汝等滅(度)度	植諸善本深心堅固如是之人乃可爲(口)說	譬如大雲普(雲)覆一切既出于世爲諸衆生	是名大樹而得增長如是迦葉佛所(口)說法	譬諭所不能知諸菩薩衆無數千萬億那由(他)	阿僧祇劫尒時有佛名大通智勝如來(未)應供	若入是城快得安(口)穩若能前至寶所亦可得	所共讃歎稱其功德尒時世尊欲重宣此(口)義
(正)	法究竟皆	丘實得阿	汝等滅度	乃可爲說	雲普覆一	佛所說法	萬億那由	如來應供	得安穩若	重宣此義

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
四・九・50	四・十・16	四・十・26	四・十・121	四・二一・36	四・二一・66	四・二一・143	五・二二・40	五・二二・43	五・二二・102
(誤)(正)在通王如來無異亦爲此佛而作長子過是(空)長子過是	(誤)(正)願愍衆生故生此人間藥王若(右)有人問何等王若有人	(誤)(正)淨業報於我滅度後愍衆生故生於惡世廣(度)於惡世廣	(誤)(正)(足)夜叉鬼神等爲作聽法衆是人樂說法分別無罣礙夜叉鬼神	(誤)(正)法華經故出於諸佛前時其有欲以我身示(口)以我身示	(誤)(正)五百由旬枝葉華果次第嚴飾樹下皆有寶(口)下皆有寶	(誤)(正)暫讀此經是則爲(羊)難假使劫燒擔負乾草則爲難假	(誤)(正)生得阿羅漢果無數衆生悟辟支佛(可)不可思佛不可思	(誤)(正)婆達多品淨心信敬不生疑惑者不(墮)墮地獄不墮地獄	(誤)(正)垢世界六反震動娑婆世界三千(千)衆生住不三千衆生

29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
五・一三・25	五・一三・33	五・一四・15	五・一四・72	五・一四・95	五・一四・119	五・一五・85	五・一五・87	五・一五・156	五・一六・9
(誤)(正)彌是一切衆生喜(心)見佛及六千菩薩轉次授生喜見佛	(誤)(正)尒時摩訶波闍波提比丘尼及耶(輸)輸陀羅比及耶輸陀	(誤)(正)外書及(沒)路伽耶陀逆路伽耶陀者亦不親近書及路伽	(誤)(正)不以小乘法苦但以大乘而爲解說令(令)得一說令得一	(誤)(正)菩薩道者無得憒之令其疑(悔)悔語其人言汝其疑悔語	(誤)(正)不知不覺不問不信不解其人雖不問(問)不信不問不信	(誤)(正)各白其佛言世尊此諸無量無邊阿僧祇(衹)菩阿僧祇菩	(誤)(正)男子且待須臾(者)有菩薩摩訶薩名曰彌勒釋須臾有菩	(誤)(正)從無量劫來而行菩薩道巧於難問答其心無所(畏)畏心無所畏	(誤)(正)之言汝等諦聽如來祕密神通之力一切世(間)力一切世

39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
五・一七・61	六・一九・25	七・二〇・51	七・二〇・60	七・二〇・64	七・二〇・79	七・二〇・80	七・二〇・87	七・二〇・89	七・二一・35
(誤)(住)若善男子有如是功德於阿耨多羅三藐三(菩)提 羅三藐三	(誤)羅聲迦樓羅(緊)聲緊那羅聲摩睺羅伽聲火聲 樓羅聲緊	(誤)(住)於四衆中(諸)說法心無所畏得大勢是常不輕 衆中說法	(誤)(住)(比)(丘)比丘尼優婆塞優婆夷以瞋恚意輕賤我故 比丘尼優	(誤)(住)汝意云何尒時四衆常(用)輕是菩薩者豈異人 衆常輕是	(誤)(住)復爲諸人廣說是經諸著法衆皆蒙菩薩(大) 皆蒙菩薩	(誤)(住)教化成就令(佛)住佛道不輕命終值無數佛 就令住佛	(誤)(住)世世受持如是經典億億万劫至不可議(口) 至不可議	(誤)(住)諸佛世尊時說是經是故行者於佛滅後(口) 於佛滅後	(誤)(住)尒時佛告上行等菩薩大衆諸佛神力如是(八) 神力如是

49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
七・二三・12	七・二三・56	七・二三・65	七・二三・82	七・二三・102	七・二三・106	七・二三・121	七・二三・163	七・二四・26	七・二四・49
(誤)(住)聲聞衆佛壽四万二千(千)劫菩薩壽命亦等彼 二千劫菩	(誤)(住)(今)尒時一切衆生悉見菩薩說是偈已而白佛 尒時一切	(誤)(住)起若干千塔如是日月淨(淨)明德佛(佛)敕一切衆 月淨明德佛敕一	(誤)(住)切衆生悉見菩薩於大衆中立此誓言我捨(多) 誓言我捨	(誤)(住)法華經亦復如是於千万(億)億種諸經法中最 千万億種	(誤)(住)爲其尊又如帝釋於三十三天中王此(經)經亦 王此經亦	(誤)(住)病得醫(座)如暗得燈如貧得寶如民得王如賈 得醫如暗	(誤)(住)說是藥王菩薩本事品(一)時八万四千菩薩得 事品時八	(誤)(住)由旬汝身第一端正百万万福光明殊妙是(口) 明殊妙是	(誤)(住)妙音菩薩於彼國與八万四千(衆)菩薩俱共 四千菩薩

番号	箇所	誤	正
59	七・二四・55	(誤) 身入七寶(臺)臺上昇虛空去地七多羅樹諸菩	(正) 七寶臺上
60	七・二四・59	(誤) 世尊淨(法)華宿王智佛問 世尊少病少惱起	(正) 尊淨華宿
61	七・二四・73	(誤) 阿羅訶三(菩)(提)藐三佛陀國名現一切世間劫名	(正) 訶三藐三
62	七・二四・86	(誤) 王身或現諸小王身或現長(主)者身或現居士	(正) 現長者身
63	七・二四・88	(誤) 丘尼優婆塞優婆夷身或現長者(身)居士婦女	(正) 長者居士
64	七・二四・96	(誤) 國土爲諸衆生說足(同)經典拎神通變化智慧	(正) 說足經典
65	七・二四・103	(誤) 而爲說法如是種種隨所應度者而爲(行)形	(正) 而爲現形
66	七・二四・111	(誤) 品時與妙音菩薩俱來者八(十)萬四千人皆得	(正) 者八万四
67	八・二五・70	(誤) 門婦女身得(應)度者卽現婦女身而爲說法應	(正) 身得度者
68	八・二六・18	(誤) 反濕彌履剃二十四 阿亶吟波隸輸地途賣反二(二)十五	(正) 輸地途賣反二十五
69	八・二七・35	(誤) 是二子從空中下到其母所所合掌白母父王	(正) 其母所合
70	八・二七・60	(誤) 中有大寶牀敷百千萬天(女)衣其上有佛結跏	(正) 萬天衣其
71	八・二七・62	(誤) 希有端嚴殊特成就第一微妙之色時(時)雲雷	(正) 色時雲雷
72	八・二七・82	(誤) 不此二子已會供養六十五百千那億那由(他)	(正) 那億那由
73	八・二七・96	(誤) 莊嚴相菩薩是哀愍妙莊嚴王及諸眷屬故(長)	(正) 諸眷屬故
74	八・二七・101	(誤) 者一切世 諸天人民亦應禮拜佛說是妙(說)	(正) 佛說是妙
75	八・二八・26	(誤) 養法華經故是人若坐思(性)(七)惟此經亦時我復	(正) 坐思惟此
76	八・二八・68	(誤) 亦時釋迦牟尼佛讚言善哉善哉普賢汝能(善)	(正) 普賢汝能
77	八・二八・96	(誤) 目角睞身體臭穢惡瘡膿(一)血水腹短氣諸惡	(正) 瘡膿血水

加字のある柿経

加字のある柿経は一ヶ所、一本で認められた。

No	1
巻・品・行	五・一四・195
	說無漏妙法 度無量衆生 後當入涅槃 如烟盡燈滅

抹消のある柿経

抹消のある柿経は三ヶ所、三本で認められた。抹消した字は、すべて、次に書いたものと同字である。

No	3	2	1
巻・品・行	二・四・194	五・一四・59	八・二八・91
	無漏無爲 諸法之王 能爲下劣 忍于斯事（抹消）	不生不出 不動不退 常住一相 是是（抹消）名近處	汝狂人耳空作行終終無所獲如是報當（抹消）

順序の異なる柿経

順序の異なる柿経は二〇ヶ所、二〇本で認められた。

No	1	2	3	4	5	6	7	8
巻・品・行	一・二・67	一・二・89	一・二・115	二・三・258	三・五・3	三・五・102	三・六・3	三・六・51
	(誤) 佛言世尊唯願說之(者)(何)(是)唯願說之所以 (正) 佛言世尊唯願說之唯願說之所以者何是	(誤) 此聲罪根深重及增上(未)(慢)得謂得未證謂 (正) 此聲罪根深重及增上慢未得謂得未證謂	(誤) 數方便種種因緣聲論言辭而爲衆生(說)(演) (正) 數方便種種因緣聲論言辭而爲衆生演說	(誤) 野于之屬 竝已前死 諸(惡)(大)獸 競來食噉 (正) 野于之屬 竝已前死 諸大惡獸 競來食噉	(誤) 說迦葉善說如來眞實功德(如)(誠)所言如來 (正) 說迦葉善說如來眞實功德誠如所言如來	(誤) 諸聲(衆)(佛) 皆非滅度 汝等所行 是菩薩道 (正) 諸聲聞衆 皆非滅度 汝等所行 是菩薩道	(誤) 此弟子摩(迦)(訶)葉於未來世當得奉覲三百 (正) 此弟子摩訶迦葉於未來世當得奉覲三百	(誤) 脫無量菩薩及(聞)(聲)衆令時世尊欲重宣此 (正) 脫無量菩薩及聲聞衆令時世尊欲重宣此

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
三・六・88	三・七・159	三・七・188	四・一〇・18	五・一四・114	六・一六・59	七・二〇・62	七・二一・33	七・二二・9	七・二三・113
(諸)余時世尊復告大衆今語(我)汝是大目揵連	械盛諸天華共詣下方推尋是(見)相大通智	法無明緣行行緣識識緣名(名)色緣六入	未來世必得作(何)佛以故若善男子善女人	(三)(第)法如是智者應守護一心安樂行無量衆所敬	戀慕渴仰於(便)佛種善根是故如來雖不實	阿鼻(獄)(地)受大苦惱畢是罪已復遇常不輕	從十方來譬如雲集變成寶帳徧覆此(諸)(間)	法今以付囑汝(汝)(等)等當受持讀誦廣宣此	典者亦復於一切衆生中亦爲第一(如)(是)
(正)余時世尊復告大衆我今語汝是大目揵連	械盛諸天華共詣下方推尋是相見大通智	法無明緣行行緣識識緣名色名色緣六入	未來世必得作佛何以故若善男子善女人	第三法如是智者應守護一心安樂行無量衆所敬	戀慕渴仰於佛便種善根是故如來雖不實	阿鼻地獄受大苦惱畢是罪已復遇常不輕	從十方來譬如雲集變成寶帳徧覆此間諸	法今以付囑汝等汝等當受持讀誦廣宣此	典者亦復如是於一切衆生中亦爲第一一

19	20
七・二四・3	七・二四・77
(諸)眉間白毫相光遍照東方百(万)(億)八那由佗	(諸)神力華德於汝意云何余時(雷)(音)王(雲)佛所
(正)眉間白毫相光遍照東方百八万億那由佗	(正)神力華德於汝意云何余時賽雷音王佛所

柿経の余白に名号、種子のあるもの

柿経の余白に名号、種子のあるものは三本認められた。一本は種子と名号を書き、二本は名号だけを書いている。名号は、「南無阿旃陀佛」と「南無薬師□」である。

No.	1	2	3
巻・品・行	四・一〇・41	四・一〇・43	七・二二・29
	言　南無阿於陀佛　南無薬師□□	其有欲疾得一切種智慧當受持是経拜供養持者　南無阿弥陀佛	皆大歓喜　南無阿弥陀佛

二　笹塔婆（挿図五九　図版一〇四）

二本の笹塔婆が出土している。柿経と同じ形態を呈し、頭部形態がB型である。一本は完形品で、長さ二六・一cm、幅一・四cm、厚さ〇・五mmを測る。下端部が欠失する笹塔婆は、残存長二〇・一cm、幅一・四cm、厚さ〇・五mmを測る。二本とも片面の中央部に「阿薩婆」の墨書を残す。

「阿薩婆」は梵字の𑖀𑖰(a)𑖨𑖿(sa)𑖪𑖽(va)を音写したものであろう。阿は如来部、薩は蓮華部、婆は金剛部を表示している。

二本の笹塔婆は、出土状況から前述の柿経と同じ束に混在していたものと思われる。

挿図59　SG 16出土笹塔婆実測図（縮尺1/2）

三　小　結

柿経・笹塔婆を含む墨書木札のまとめは本冊第五章に附し、本項では本遺跡出土の柿経で明らかになった点をまとめるとともに、いくつかの問題点を取り上げ、今後の調査・研究を進める上での手掛りとしたい。

本柿経の特徴は次の通りである。

(1)柿経は二一四一本からなる一つの束である。

(2)形態は二種類認められる。一つは短冊型（A型）、他の一つは頭部を山型に尖らした型（B型）である。[注66]

(3)写経した経典は、法華経八巻だけである。

(4)一つの柿経に片面写経と両面写経とを併用している。片面写経は一九二本を数える。

(5)経文四〇行を二〇本の板両面に書写するのを一束とする束は、全束で二割強の割合でしかない。他の束は、一五本～二六本に二〇行～四四行を写経している。

(6)一行の書写字数は、一部に例外はあるが[注67]、経文では一七字、偈頌（げじゅ）では一六字もしくは二〇字である。

(7)誤字・脱字等は多く、八本～九本に一本の割合である。

(8)書手の数は不明であるが、幾人かの手によって書写している。

(9)柿経が、亡者・追善供養のものか、逆修（法）のものかは願文が出土していないので不明である。

(10)柿経の年代は、一五世紀中頃を下限とするものの、上限は不明である。[注68]

(11)本柿経は、現在のところ九州で唯一の遺在例である。

以上のような特徴を有する本柿経と、過去に報告となった柿経とを比較すると、いくつかの違いが認められる。

一つは、一つの束の柿経に二つの写経方法（片面写経・両面写経）を併用していることである。法華経八巻を両面写経した柿経の場合でも行数の関係から、数本の片面写経を含まざるを得ない。しかし、本柿経における片面写経した数は実に一九二本を数え、その特異性には注目される。そのような書写形態は、少なくとも時代性を反映しているものと思われる。と言うのも、両面写経から片面写経への変化する時期は、室町時代、一四五〇年を前後する頃であることが報告されており[注69]、その時期と本柿経の年代とが重なる可能性を示しているからである。すなわち本柿経が、両面写経から片面写経への移行期の形態を示すものとして取らえられる。ただ、地域的特性や、書き手の問題も考慮されるので、今後の類例の出現を待って検討したい。

一束の本数の違いも、本柿経の特徴の一つである。他の両面写経における遺例では、二〇本を一束として書写しているが、本柿経では二割強を占めるにすぎず、大半の束は二〇本以外の本数である。さらに、一束二〇本以外の数には、一貫性は認められない。これは、亡者、追善供養もしくは逆修（法）での柿経の形骸化の一端を示しているのか、単に地域的な問題としてとられるべきものかは今後の研究課題であろう。同様なことは板の形態においても言える。本来柿経は、卒塔婆を作ることでの功徳と写経を行なうことでの功徳の

二つの功徳を得る方法（作法）であったと推定される。柿経の頭部形態が山形であるのは、卒塔婆を意識してのものであろう。しかし、本柿経には頭部が山形を呈していないものも少なくない。これは、明らかに柿経の簡略化の一端を示すものであろう。

本柿経には、他の柿経との類似点も多く認められる。本柿経と、他の遺例での法華経八巻の経文の区切り方（一行の書写字数）には、異同は認められず、明らかに手本経と同じくするものである。また、本柿経でも誤字・脱字が多く認められた。この割合は八本～九本に一本と高い。他の遺例でも同様なことが報告されており[注(5)]、柿経の有する特質の一つであろう。すなわち、本柿経が一日経であるか否かは別として、本柿経に見られる誤字・脱字の多さは、限定された時間内に仕上げる、速字性を求められた結果に起用するのは確かであろう。

問題点の一つとして書手の人数がある。人数を判明する書体の違いは、一束を単位として変わる場合と、一束の途中で変わる場合とが認められるものの、総人数、分担写経行数まで把握しきっていない。

また、前述した本柿経が他の遺例と異なる特質は、時代性、地域性、宗派の違いに基づくものかは不明で、今後の類例の発見を待って再検討しなければならない。

註(1) 柿経の薄板は、木材を割って成形している。そのため、板の横断面形は三角形を呈している場合がある。

註(2) 奈良市西大寺極楽坊で発見された柿経に例をみる。「日本仏教民俗基礎資料集成 第六巻」 37P 中央公論美術出版 一九七五年

註(3) 樹種鑑定は、光谷拓実氏（国立文化財研究所）の御教示による。

註(4) 他の遺例では、法華経八巻の他に開結経（無量義経、観普賢経）、阿弥陀経、般若心経が書写されている。

註(5) 「日本仏教民俗基礎資料集成 第六巻」 22P下段10ℓ～21ℓ 中央公論美術出版 一九七五年
経文の分割の関係から一行の字数が、一七字に満たない例もある。例えば、法華経巻第一、序品第一の七三行目は、「日」の一字だけである。

註(7) 経文四〇行を二〇本の板に書写した場合は、最初の行を書写した板の裏面に最後の行がくるようにしている。

註(8) 書体の違いが、明瞭に認められる場合と、そうでない場合がある。字体のその多くは楷書である。

註(9) 勝尾寺文書にみられる各巻の束数とは大きく異なる。

註(10) 巻第六では、二〇本を一束とする束は巻の半数に達しない。

註(11) 写経を行う前に、巻束番号だけを先に記入した可能性は高い。

註(12) 本書でいう誤字とは、経文の文字を書写する際、誤って他の字を書いた場合をいう。

註(13) 本書でいう脱字とは、経文の文字を書写する際、字をぬかしている場合をいう。

註(14) 本書でいう増字とは、経文に関係ない文字を、書きこんでいる場合をいう。

註(15) 本書でいう加字とは、書写したあと、書手が脱字を発見し、その部分に字を加筆した場合をいう。

註(16) A・B型以外に頭部の隅だけを落とした形態のものもあるが、これはA型に含めた。

註(17) 註(6)に同じ。

註(18) 柿経は供養後、直接池に投げ入れた場合と、経堂、寺に奉納したのち、池に投げ入れた場合とでは、年代に大きなへだたりがある。前者の場合だと、柿経の年代を共伴遺物から一五世紀中頃と比定できるが、後者の場合だと、奈良市元興寺例にみられるように数百年にわたって寺に安置されていることから、柿経の年代決定は難しい。

註(19) 註五に同じ。

註(20) 例えば、不退寺例（「不退寺こけら経民俗資料緊急調査報告書」 53P 元興寺仏教民俗資料研究所 一九七七年）や、一乗谷朝倉氏遺跡例（「特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅱ 昭和58年度発掘調査整備事業概報」 12P 福井県立朝倉氏遺跡資料館 一九八四年）がある。

柿経観察復原表

――柿経観察・復原表について――

○巻名・束番号は、数字で示した。例えば1―1とある場合は、法華経巻第一の一番目の束であることを示す。
○頭部形態の各型は、本書六五頁に示す通りである。
○柿経の計測値は、長さと幅をcm、厚さをmmで示した。欠損している場合の法量は括弧つきで示した。
○経文の品題、行数は、数字で示した。例えば、表面1―1、裏面1―40と記されている場合は、表面に序品第一の一行目、裏面には序品第一の四〇行目を書写していることを示す。
○「未記入」とは、板に何も書写していない状態を指す。
○未確認の柿経は※で表示した。

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1－1	B	(16.5)	1.7	1.0	1－1	1－40	—	
〃	—	—	—	—	1－2	1－39	—	※
〃	—	—	—	—	1－3	1－38	—	※
〃	—	—	—	—	1－4	1－37	—	※
〃	—	—	—	—	1－5	1－36	—	※
〃	—	—	—	—	1－6	1－35	—	※
〃	—	—	—	—	1－7	1－34	—	※
〃	B	(19.9)	(1.7)	0.9	1－8	1－33	—	
〃	B	(26.6)	(1.1)	0.4	1－9	1－32	—	
〃	—	—	—	—	1－10	1－31	—	※
〃	B	(32.0)	(1.6)	0.4	1－11	1－30	—	
〃	—	—	—	—	1－12	1－29	—	※
〃	B	(11.9)	(1.2)	0.7	1－13	1－28	—	
〃	—	—	—	—	1－14	1－27	—	※
〃	—	—	—	—	1－15	1－26	—	※
〃	—	—	—	—	1－16	1－25	—	※
〃	B	(18.3)	(1.2)	0.3	1－17	1－24	—	
〃	—	(24.2)	(1.2)	0.4	1－18	1－23	—	
〃	B	(22.5)	(1.7)	0.4	1－19	1－22	—	
〃	B	(26.2)	(1.4)	0.6	1－20	1－21	—	
1－2	—	—	—	—	1－41	1－80	—	※
〃	—	—	—	—	1－42	1－79	—	※
〃	—	—	—	—	1－43	1－78	—	※
〃	—	(12.9)	(1.7)	0.5	1－44	1－77	—	
〃	B	(17.6)	(1.7)	0.4	1－45	1－76	—	
〃	—	—	—	—	1－46	1－75	—	※
〃	—	—	—	—	1－47	1－74	—	※
〃	B	(19.8)	(1.8)	0.5	1－48	1－73	—	
〃	—	—	—	—	1－49	1－72	—	※
〃	B	(13.6)	(1.3)	0.9	1－50	1－71	—	
〃	—	—	—	—	1－51	1－70	—	※
〃	—	—	—	—	1－52	1－69	—	※
〃	—	(17.0)	(1.7)	0.7	1－53	1－68	—	
〃	B	(13.8)	1.7	0.4	1－54	1－67	—	
〃	—	—	—	—	1－55	1－66	—	※
〃	—	—	—	—	1－56	1－65	—	※
〃	—	(25.7)	(1.7)	0.4	1－57	1－64	—	
〃	B	32.6	1.7	0.8	1－58	1－63	—	
〃	—	—	—	—	1－59	1－62	—	※
〃	—	—	—	—	1－60	1－61	—	※
1－3	B	32.5	(1.2)	0.3	1－81	1－120	—	巻束番号「一巻三」
〃	B	(21.2)	(1.3)	0.5	1－82	1－119	—	
〃	B	(8.7)	1.7	0.5	1－83	1－118	—	
〃	—	—	—	—	1－84	1－117	—	※
〃	—	—	—	—	1－85	1－116	—	※
〃	B	(22.4)	(1.7)	0.5	1－86	1－115	—	
〃	—	—	—	—	1－87	1－114	—	※
〃	B	(17.5)	(1.1)	0.5	1－88	1－113	—	
〃	—	—	—	—	1－89	1－112	—	※
〃	—	(23.5)	(1.7)	0.5	1－90	1－111	—	

第4表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1－3	—	—	—	—	1－ 91	1－110	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 92	1－109	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 93	1－108	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 94	1－107	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 95	1－106	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 96	1－105	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 97	1－104	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 98	1－103	—	※
〃	—	—	—	—	1－ 99	1－102	—	※
〃	B	(9.9)	1.7	0.3	1－100	1－101	—	
1－4	—	—	—	—	1－121	1－160	—	※
〃	—	—	—	—	1－122	1－159	—	※
〃	—	—	—	—	1－123	1－158	—	※
〃	—	—	—	—	1－124	1－157	—	※
〃	—	—	—	—	1－125	1－156	—	※
〃	B	32.3	(1.6)	0.5	1－126	1－155	—	
〃	B	(32.4)	(1.2)	0.6	1－127	1－154	—	
〃	—	—	—	—	1－128	1－153	—	※
〃	—	—	—	—	1－129	1－152	—	※
〃	—	—	—	—	1－130	1－151	—	※
〃	—	—	—	—	1－131	1－150	—	※
〃	—	—	—	—	1－132	1－149	—	※
〃	—	—	—	—	1－133	1－148	—	※
〃	—	—	—	—	1－134	1－147	—	※
〃	—	—	—	—	1－135	1－146	—	※
〃	—	(22.5)	(1.1)	0.6	1－136	1－145	—	
〃	—	—	—	—	1－137	1－144	—	※
〃	—	—	—	—	1－138	1－143	—	※
〃	—	—	—	—	1－139	1－142	—	※
〃	—	—	—	—	1－140	1－141	—	※
1－5	—	—	—	—	1－161	1－200	—	※
〃	B	(20.0)	1.6	0.6	1－162	1－199	—	
〃	B	(5.7)	(1.3)	0.4	1－163	1－198	—	
〃	—	—	—	—	1－164	1－197	—	※
〃	—	—	—	—	1－165	1－196	—	※
〃	—	(12.2)	(1.7)	0.4	1－166	1－195	—	
〃	—	—	—	—	1－167	1－194	—	※
〃	—	—	—	—	1－168	1－193	—	※
〃	—	—	—	—	1－169	1－192	—	※
〃	—	—	—	—	1－170	1－191	—	※
〃	—	—	—	—	1－171	1－190	—	※
〃	—	—	—	—	1－172	1－189	—	※
〃	—	—	—	—	1－173	1－188	—	※
〃	B	(32.1)	1.7	0.6	1－174	1－187	—	
〃	—	—	—	—	1－175	1－186	—	※
〃	—	—	—	—	1－176	1－185	—	※
〃	—	—	—	—	1－177	1－184	—	※
〃	—	—	—	—	1－178	1－183	—	※
〃	—	—	—	—	1－179	1－182	—	※
〃	—	—	—	—	1－180	1－181	—	※

第５表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1－6	B	32.2	(1.1)	0.5	1－201	1－240	—	巻頭番号「一巻六」
〃	—	—	—	—	1－202	1－239	—	※
〃	—	—	—	—	1－203	1－238	—	※
〃	—	—	—	—	1－204	1－237	—	※
〃	—	—	—	—	1－205	1－236	—	※
〃	B	(32.0)	(1.1)	0.4	1－206	1－235	—	
〃	—	—	—	—	1－207	1－234	—	※
〃	—	—	—	—	1－208	1－233	—	※
〃	—	—	—	—	1－209	1－232	—	※
〃	—	—	—	—	1－210	1－231	—	※
〃	—	—	—	—	1－211	1－230	—	※
〃	—	(25.0)	(1.4)	0.4	1－212	1－229	—	
〃	—	—	—	—	1－213	1－228	—	※
〃	—	—	—	—	1－214	1－227	—	※
〃	—	—	—	—	1－215	1－226	—	※
〃	—	—	—	—	1－216	1－225	—	※
〃	B	(5.0)	(1.6)	0.6	1－217	1－224	—	
〃	—	—	—	—	1－218	1－223	—	※
〃	—	—	—	—	1－219	1－222	—	※
〃	B	(21.2)	(1.6)	0.9	1－220	1－221	—	
1－7	—	—	—	—	1－241	2－ 36	—	※
〃	—	—	—	—	1－242	2－ 35	—	※
〃	—	—	—	—	1－243	2－ 34	—	※
〃	—	—	—	—	1－244	2－ 33	—	※
〃	—	(30.1)	(1.2)	0.4	2－ 1	2－ 32	—	
〃	B	(23.3)	(1.5)	0.4	2－ 2	2－ 31	—	
〃	—	—	—	—	2－ 3	2－ 30	—	※
〃	B	(32.5)	1.6	0.7	2－ 4	2－ 29	—	
〃	—	(29.2)	(1.6)	0.5	2－ 5	2－ 28	—	
〃	—	(18.3)	(1.6)	0.4	2－ 6	2－ 27	—	
〃	B	(12.4)	(1.6)	0.9	2－ 7	2－ 26	—	
〃	—	—	—	—	2－ 8	2－ 25	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 9	2－ 24	—	※
〃	—	(23.8)	(1.6)	0.4	2－ 10	2－ 23	—	
〃	B	(28.6)	(1.0)	0.3	2－ 11	2－ 22	—	
〃	B	(28.9)	(1.2)	0.4	2－ 12	2－ 21	—	
〃	—	—	—	—	2－ 13	2－ 20	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 14	2－ 19	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 15	2－ 18	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 16	2－ 17	—	※
1－8	B	(29.9)	1.8	0.6	2－ 37	2－ 76	—	
〃	—	(13.3)	(1.2)	0.5	2－ 38	2－ 75	—	
〃	—	(11.7)	(1.6)	0.4	2－ 39	2－ 74	—	
〃	—	(30.9)	1.8	0.3	2－ 40	2－ 73	—	
〃	—	—	—	—	2－ 41	2－ 72	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 42	2－ 71	—	※
〃	—	(31.2)	1.8	0.6	2－ 43	2－ 70	—	
〃	—	—	—	—	2－ 44	2－ 69	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 45	2－ 68	—	※
〃	—	(10.2)	(1.8)	0.7	2－ 46	2－ 67	—	

第6表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1－8	—	—	—	—	2－ 47	2－ 66	—	※
〃	B	(17.9)	(1.1)	0.4	2－ 48	2－ 65	—	
〃	B	(25.8)	(1.4)	0.5	2－ 49	2－ 64	—	
〃	—	—	—	—	2－ 50	2－ 63	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 51	2－ 62	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 52	2－ 61	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 53	2－ 60	—	※
〃	—	(14.4)	(1.7)	0.6	2－ 54	2－ 59	—	
〃	—	—	—	—	2－ 55	2－ 58	—	※
〃	B	(9.8)	(1.1)	0.4	2－ 56	2－ 57	—	
1－9	B	(25.5)	(1.8)	0.4	2－ 77	2－116	—	※束番号「一巻九」
〃	B	32.9	1.8	1.0	2－ 78	2－115	—	
〃	—	—	—	—	2－ 79	2－114	—	※
〃	—	(7.2)	(1.8)	0.7	2－ 80	2－113	—	
〃	—	—	—	—	2－ 81	2－112	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 82	2－111	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 83	2－110	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 84	2－109	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 85	2－108	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 86	2－107	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 87	2－106	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 88	2－105	—	※
〃	—	(28.7)	(1.5)	0.5	2－ 89	2－104	—	
〃	—	(9.8)	1.8	0.8	2－ 90	2－103	—	
〃	—	—	—	—	2－ 91	2－102	—	※
〃	—	(21.0)	(1.8)	0.5	2－ 92	2－101	—	
〃	—	—	—	—	2－ 93	2－100	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 94	2－(99	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 95	2－(98	—	※
〃	—	—	—	—	2－ 96	2－(97	—	※
1－10	B	(19.0)	(1.5)	0.3	2－117	2－156	—	
〃	—	—	—	—	2－118	2－155	—	※
〃	—	—	—	—	2－119	2－154	—	※
〃	—	—	—	—	2－120	2－153	—	※
〃	B	(26.5)	(1.5)	0.4	2－121	2－152	—	
〃	B	(17.3)	(1.6)	0.5	2－122	2－151	—	
〃	—	(32.3)	(1.2)	0.6	2－123	2－150	—	
〃	B	(11.3)	(1.1)	0.5	2－124	2－149	—	
〃	—	—	—	—	2－125	2－148	—	※
〃	B	(13.1)	(1.6)	0.5	2－126	2－147	—	
〃	—	—	—	—	2－127	2－146	—	※
〃	—	—	—	—	2－128	2－145	—	※
〃	—	(17.4)	(1.6)	0.4	2－129	2－144	—	
〃	B	(19.0)	(1.5)	0.9	2－130	2－143	—	
〃	B	(5.5)	(1.1)	0.4	2－131	2－142	—	
〃	—	(8.2)	(1.7)	0.5	2－132	2－141	—	
〃	—	—	—	—	2－133	2－140	—	※
〃	—	—	—	—	2－134	2－139	—	※
〃	—	(19.1)	(1.7)	0.5	2－135	2－138	—	
〃	—	—	—	—	2－136	2－137	—	※

第７表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1−11	B	(13.2)	1.7	0.7	2−157	2−196	—	
〃	—	(22.8)	(1.7)	0.5	2−158	2−195	—	
〃	—	—	—	—	2−159	2−194	—	※
〃	—	(25.6)	1.8	0.6	2−160	2−193	—	
〃	—	—	—	—	2−161	2−192	—	※
〃	—	—	—	—	2−162	2−191	—	※
〃	—	(20.7)	1.8	0.3	2−163	2−190	—	
〃	—	(22.5)	(1.7)	0.5	2−164	2−189	—	
〃	—	(18.9)	(1.8)	0.5	2−165	2−188	—	
〃	—	—	—	—	2−166	2−187	—	※
〃	—	—	—	—	2−167	2−186	—	※
〃	B	(23.2)	1.8	0.6	2−168	2−185	—	
〃	—	—	—	—	2−169	2−184	—	※
〃	—	—	—	—	2−170	2−183	—	※
〃	—	(21.0)	(1.7)	0.5	2−171	2−182	—	
〃	B	(25.9)	(1.8)	0.6	2−172	2−181	—	
〃	—	—	—	—	2−173	2−180	—	※
〃	B	(19.1)	(1.8)	0.6	2−174	2−179	—	
〃	—	(18.2)	(1.8)	0.7	2−175	2−178	—	
〃	—	—	—	—	2−176	2−177	—	※
1−12	—	—	—	—	2−197	2−236	—	※
〃	B	(8.3)	(1.7)	0.4	2−198	2−235	—	
〃	B	(17.1)	(1.8)	0.3	2−199	2−234	—	
〃	—	—	—	—	2−200	2−233	—	※
〃	—	(14.9)	(1.8)	0.3	2−201	2−232	—	
〃	—	—	—	—	2−202	2−231	—	※
〃	—	—	—	—	2−203	2−230	—	※
〃	—	—	—	—	2−204	2−229	—	※
〃	—	(23.0)	(1.7)	0.6	2−205	2−228	—	
〃	—	(17.9)	1.6	0.5	2−206	2−227	—	
〃	B	(32.8)	(1.7)	0.6	2−207	2−226	—	
〃	—	(11.1)	(1.7)	0.5	2−208	2−225	—	
〃	—	—	—	—	2−209	2−224	—	※
〃	—	—	—	—	2−210	2−223	—	※
〃	—	(6.8)	(1.7)	0.5	2−211	2−222	—	
〃	B	32.9	(1.5)	0.7	2−212	2−221	—	
〃	—	—	—	—	2−213	2−220	—	※
〃	—	—	—	—	2−214	2−219	—	※
〃	B	(27.8)	(1.6)	0.4	2−215	2−218	—	
〃	—	—	—	—	2−216	2−217	—	※
1−13	—	(8.8)	(1.7)	0.7	2−237	未記入	—	片面写経，巻束番号「一巻十三」
〃	—	(20.7)	(1.4)	0.7	2−238	〃	—	〃
〃	B	(19.0)	(1.7)	0.8	2−239	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	2−240	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	2−241	〃	—	〃 ※
〃	B	32.6	1.6	0.9	2−242	〃	—	〃
〃	B	(24.4)	(1.4)	0.6	2−243	〃	—	〃
〃	B	(32.6)	(1.5)	0.8	2−244	〃	—	〃
〃	B	(31.0)	(1.3)	0.6	2−245	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	2−246	〃	—	〃 ※

第８表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
1−13	B	(19.3)	(1.2)	0.5	2−247	未記入	—	片面写経
〃	—	—	—	—	2−248	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	2−249	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	2−250	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	2−251	2−262	—	※
〃	—	(18.3)	(1.7)	0.6	2−252	2−261	—	
〃	B	(20.4)	1.7	0.5	2−253	2−260	—	
〃	—	—	—	—	2−254	2−259	—	※
〃	—	—	—	—	2−255	2−258	—	※
〃	—	—	—	—	2−256	2−257	—	※
1−14	B	(16.6)	1.7	0.8	2−263	2−266	—	
〃	—	—	—	—	2−264	2−265	—	※
2−1	B	34.7	(1.5)	0.5	3− 1	未記入	—	片面写経．巻束番号「貳之一」
〃	B	(15.1)	1.5	0.6	3− 2	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	3− 3	〃	—	〃 ※
〃	B	(34.7)	(1.3)	0.4	3− 4	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	3− 5	〃	—	〃 ※
〃	—	(33.1)	(1.5)	0.4	3− 6	〃	—	〃
〃	—	(10.9)	(0.9)	0.3	3− 7	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	3− 8	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	3− 9	〃	—	〃 ※
〃	—	(22.6)	(1.4)	0.5	3− 10	〃	—	〃
〃	B	(33.5)	(1.4)	0.4	3− 11	〃	—	〃
〃	B	(34.6)	(1.3)	0.9	3− 12	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	3− 13	〃	—	〃 ※
〃	—	(23.7)	(1.4)	0.8	3− 14	〃	—	〃
〃	B	(13.1)	(1.5)	0.6	3− 15	〃	—	〃
〃	B	(34.5)	(1.7)	1.0	3− 16	〃	—	〃
〃	—	(14.6)	(1.7)	1.0	3− 17	〃	—	〃
〃	B	(22.0)	(1.5)	0.3	3− 18	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	3− 19	〃	—	〃 ※
〃	B	(26.8)	(1.6)	0.7	3− 20	〃	—	〃
2−2	B	(29.1)	1.6	0.5	3− 21	3− 60	—	
〃	B	35.1	1.5	0.4	3− 22	3− 59	—	
〃	B	(23.2)	(1.2)	0.4	3− 23	3− 58	—	
〃	—	(24.3)	(1.6)	0.3	3− 24	3− 57	—	
〃	—	(31.9)	(1.6)	0.4	3− 25	3− 56	—	
〃	B	(30.8)	(1.5)	0.3	3− 26	3− 55	—	
〃	—	—	—	—	3− 27	3− 54	—	※
〃	B	(12.5)	(1.2)	0.6	3− 28	3− 53	—	
〃	—	—	—	—	3− 29	3− 52	—	※
〃	—	(17.5)	(1.6)	0.4	3− 30	3− 51	—	
〃	B	(31.1)	1.5	0.5	3− 31	3− 50	—	
〃	—	—	—	—	3− 32	3− 49	—	※
〃	—	—	—	—	3− 33	3− 48	—	※
〃	—	(17.4)	(1.1)	0.8	3− 34	3− 47	—	
〃	B	35.0	(1.6)	0.5	3− 35	3− 46	—	
〃	—	—	—	—	3− 36	3− 45	—	※
〃	—	(33.3)	(1.5)	0.6	3− 37	3− 44	—	
〃	B	(6.7)	(0.9)	0.4	3− 38	3− 43	—	

第9表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2－2	—	(20.4)	1.6	0.6	3－ 39	3－ 42	—	
〃	B	(19.7)	1.6	0.8	3－ 40	3－ 41	—	
2－3	B	(34.8)	(1.5)	0.5	3－ 61	3－100	—	巻束番号「二之三」
〃	—	(23.0)	(1.6)	0.4	3－ 62	3－ 99	—	
〃	—	(25.4)	(1.7)	0.4	3－ 63	3－ 98	—	
〃	B	(27.0)	(1.5)	0.4	3－ 64	3－ 97	—	
〃	—	—	—	—	3－ 65	3－ 96	—	※
〃	B	(19.7)	(1.0)	0.3	3－ 66	3－ 95	—	
〃	B	(9.0)	(1.6)	0.5	3－ 67	3－ 94	—	
〃	B	(22.1)	(1.6)	0.5	3－ 68	3－ 93	—	
〃	—	—	—	—	3－ 69	3－ 92	—	※
〃	B	(30.0)	(1.4)	0.3	3－ 70	3－ 91	—	
〃	—	(17.7)	(1.6)	0.3	3－ 71	3－ 90	—	
〃	—	—	—	—	3－ 72	3－ 89	—	※
〃	B	35.1	(1.6)	0.3	3－ 73	3－ 88	—	
〃	—	(26.5)	(1.6)	0.3	3－ 74	3－ 87	—	
〃	—	(18.6)	(0.9)	0.3	3－ 75	3－ 86	—	
〃	—	—	—	—	3－ 76	3－ 85	—	※
〃	—	(31.9)	(0.9)	0.4	3－ 77	3－ 84	—	
〃	—	(21.1)	(0.9)	0.3	3－ 78	3－ 83	—	
〃	B	(34.2)	(1.5)	0.6	3－ 79	3－ 82	—	
〃	—	—	—	—	3－ 80	3－ 81	—	※
2－4	—	—	—	—	3－101	3－140	—	※
〃	B	34.8	(1.5)	0.5	3－102	3－139	—	
〃	—	—	—	—	3－103	3－138	—	※
〃	—	—	—	—	3－104	3－137	—	※
〃	B	(24.5)	(1.5)	0.6	3－105	3－136	—	
〃	—	—	—	—	3－106	3－135	—	※
〃	—	—	—	—	3－107	3－134	—	※
〃	—	—	—	—	3－108	3－133	—	※
〃	—	—	—	—	3－109	3－132	—	※
〃	B	(14.5)	(1.5)	0.4	3－110	3－131	—	
〃	B	(8.0)	(1.1)	0.5	3－111	3－130	—	
〃	—	(16.1)	(1.5)	0.4	3－112	3－129	—	
〃	B	(10.5)	(1.0)	0.4	3－113	3－128	—	
〃	B	34.9	1.5	0.4	3－114	3－127	—	
〃	—	—	—	—	3－115	3－126	—	※
〃	B	35.0	(1.5)	0.4	3－116	3－125	—	
〃	B	(22.4)	(1.5)	0.4	3－117	3－124	—	
〃	—	—	—	—	3－118	3－123	—	※
〃	B	35.1	(1.5)	0.6	3－119	3－122	—	
〃	A	35.0	1.5	0.5	3－120	3－121	—	
2－5	—	—	—	—	3－141	3－180	—	※
〃	—	(20.1)	(1.5)	0.4	3－142	3－179	—	
〃	—	(22.9)	(1.3)	0.5	3－143	3－178	—	
〃	—	—	—	—	3－144	3－177	—	※
〃	B	34.9	1.5	1.0	3－145	3－176	—	
〃	—	(17.3)	(1.5)	0.8	3－146	3－175	—	
〃	—	(28.5)	1.5	0.5	3－147	3－174	—	
〃	B	(35.0)	(1.5)	0.7	3－148	3－173	—	

第10表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2－5	B	35.0	(1.5)	0.5	3-149	3-172	—	
〃	—	(26.0)	(1.5)	0.5	3-150	3-171	—	
〃	B	(21.7)	(1.5)	0.6	3-151	3-170	—	
〃	—	—	—	—	3-152	3-169	—	※
〃	—	—	—	—	3-153	3-168	—	※
〃	B	(35.0)	(1.5)	0.7	3-154	3-167	—	
〃	B	(9.1)	(1.3)	0.7	3-155	3-166	—	
〃	—	—	—	—	3-156	3-165	—	※
〃	—	—	—	—	3-157	3-164	—	※
〃	—	(16.6)	(1.5)	0.3	3-158	3-163	—	
〃	—	—	—	—	3-159	3-162	—	※
〃		(22.2)	1.5	0.5	3-160	3-161	—	
2－6	B	34.5	1.6	0.8	3-181	3-220	—	
〃	B	34.4	1.6	0.3	3-182	3-219	—	
〃	B	34.5	1.6	0.7	3-183	3-218	—	
〃	B	34.3	1.5	0.5	3-184	3-217	—	
〃	B	34.5	1.5	0.5	3-185	3-216	—	
〃	B	34.6	1.6	0.7	3-186	3-215	—	
〃	B	34.5	1.5	0.6	3-187	3-214	—	
〃	B	34.6	1.6	0.4	3-188	3-213	—	
〃	B	34.5	1.6	0.5	3-189	3-212	—	
〃	B	34.6	1.6	0.5	3-190	3-211	—	
〃	B	34.6	1.5	0.6	3-191	3-210	—	
〃	B	34.4	1.5	0.7	3-192	3-209	—	
〃	B	34.6	1.6	0.5	3-193	3-208	—	
〃	B	34.6	1.55	0.6	3-194	3-207	—	
〃	B	34.5	1.5	0.6	3-195	3-206	—	
〃	B	(34.6)	1.6	0.5	3-196	3-205	—	
〃	B	34.6	1.6	0.6	3-197	3-204	—	
〃	B	34.5	1.4	0.3	3-198	3-203	—	
〃	B	34.5	1.6	0.3	3-199	3-202	—	
〃	B	34.7	1.6	1.0	3-200	3-201	—	
2－7	B	(32.0)	(1.6)	0.6	3-221	3-263	—	巻頭番号「二之七」
〃	B	(22.7)	1.7	0.4	3-222	3-262	—	
〃	—	(13.1)	(1.7)	0.9	3-223	3-261	—	
〃	—	(27.7)	(1.3)	0.5	3-224	3-260	—	
〃	B	(19.5)	(1.4)	0.6	3-225	3-259	—	
〃	B	(26.7)	1.6	0.4	3-226	3-258	—	
〃	B	32.9	(1.3)	0.6	3-227	3-257	—	
〃	—	(11.5)	(1.6)	0.9	3-228	3-256	—	
〃	B	(33.0)	1.6	0.5	3-229	3-255	—	
〃	—	—	—	—	3-230	3-254	—	※
〃	B	(33.0)	(1.7)	0.4	3-231	3-253	—	
〃	B	(24.0)	(1.1)	0.6	3-232	3-252	—	
〃	—	—	—	—	3-233	3-251	—	※
〃	B	33.1	1.7	0.5	3-234	3-250	—	
〃	—	—	—	—	3-235	3-249	—	※
〃	—	—	—	—	未記入	3-248	—	片面写経 ※
〃	B	(15.5)	1.7	0.3	3-236	3-247	—	
〃	—	—	—	—	3-237	3-246	—	※

第 11 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2－7	B	33.2	(1.5)	0.8	3-238	3-245	—	
〃	—	—	—	—	3-239	3-244	—	※
〃	—	—	—	—	3-240	3-243	—	※
〃	B	(33.0)	(1.3)	0.5	3-241	3-242	—	
2－8	—	(31.0)	(1.6)	0.6	3-264	3-299	—	
〃	—	—	—	—	3-265	3-298	—	※
〃	B	(11.0)	(1.5)	0.7	3-266	3-297	—	
〃	—	—	—	—	3-267	3-296	—	※
〃	—	(13.9)	(1.3)	0.7	3-268	3-295	—	
〃	B	(15.4)	1.6	0.8	3-269	3-294	—	
〃	B	(21.5)	(1.6)	0.6	3-270	3-293	—	
〃	—	—	—	—	3-271	3-292	—	※
〃	B	(29.6)	1.6	0.9	3-272	3-291	—	
〃	—	—	—	—	3-273	3-290	—	※
〃	B	(25.6)	(1.3)	0.5	3-274	3-289	—	
〃	B	(15.6)	(1.4)	0.8	3-275	3-288	—	
〃	—	—	—	—	3-276	3-287	—	※
〃	B	(22.3)	(1.6)	0.6	3-277	3-286	—	
〃	B	(24.5)	(1.3)	0.7	3-278	3-285	—	
〃	B	(20.6)	1.5	0.8	3-279	3-284	—	
〃	—	—	—	—	3-280	3-283	—	※
〃	—	(30.1)	1.5	1.0	3-281	3-282	—	
2－9	B	(26.8)	(1.4)	0.8	3-300	3-339	—	
〃	B	(24.2)	1.6	0.5	3-301	3-338	—	
〃	B	(27.4)	(1.6)	0.5	3-302	3-337	—	
〃	—	—	—	—	3-303	3-336	—	※
〃	—	—	—	—	3-304	3-335	—	※
〃	—	—	—	—	3-305	3-334	—	※
〃	—	—	—	—	3-306	3-333	—	※
〃	—	—	—	—	3-307	3-332	—	※
〃	B	(25.2)	(1.5)	0.4	3-308	3-331	—	
〃	—	—	—	—	3-309	3-330	—	※
〃	B	(32.5)	1.6	0.7	3-310	3-329	—	
〃	—	—	—	—	3-311	3-328	—	※
〃	—	—	—	—	3-312	3-327	—	※
〃	—	(16.4)	(1.6)	0.7	3-313	3-326	—	
〃	B	(16.3)	(1.3)	0.6	3-314	3-325	—	
〃	B	(13.6)	(1.4)	0.5	3-315	3-324	—	
〃	B	26.0	1.6	0.9	3-316	3-323	—	
〃	—	(24.8)	(1.6)	0.5	3-317	3-322	—	
〃	B	(26.8)	1.5	0.5	3-318	3-321	—	
〃	—	—	—	—	3-319	3-320	—	※
2－10	B	34.3	(1.5)	0.8	3-340	3-379	—	巻束番号「二之十」
〃	—	(24.3)	(1.5)	0.8	3-341	3-378	—	
〃	B	(31.8)	1.5	0.7	3-342	3-377	—	
〃	B	34.5	(1.5)	0.7	3-343	3-376	—	
〃	—	(28.6)	(1.5)	0.7	3-344	3-375	—	
〃	—	—	—	—	3-345	3-374	—	※
〃	B	(6.8)	(1.5)	0.6	3-346	3-373	—	
〃	—	—	—	—	3-347	3-372	—	※

第 12 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2−10	B	(30.0)	(1.5)	1.0	3−348	3−371	—	
〃	B	34.6	1.5	1.0	3−349	3−370	—	
〃	—	—	—	—	3−350	3−369	—	※
〃	B	(9.0)	(1.2)	0.8	3−351	3−368	—	
〃	B	34.7	1.5	0.4	3−352	3−367	—	
〃	B	(16.6)	1.6	0.5	3−353	3−366	—	
〃	—	—	—	—	3−354	3−365	—	※
〃	—	(25.7)	(1.6)	0.4	3−355	3−364	—	
〃	—	—	—	—	3−356	3−363	—	※
〃	B	(12.6)	(1.5)	0.6	3−357	3−362	—	
〃	—	—	—	—	3−358	3−361	—	※
〃	—	(19.9)	(1.6)	0.4	3−359	3−360	—	
2−11	—	(29.0)	1.5	0.5	3−380	4− 27	—	巻束番号「二之十一」
〃	B	(11.9)	1.5	0.6	3−381	4− 26	—	
〃	—	—	—	—	3−382	4− 25	—	※
〃	—	—	—	—	3−383	4− 24	—	※
〃	B	(7.9)	1.5	0.5	3−384	4− 23	—	
〃	—	(13.1)	(1.5)	0.4	3−385	4− 22	—	
〃	B	(18.6)	(1.1)	0.3	3−386	4− 21	—	
〃	—	(18.8)	(1.5)	0.6	3−387	4− 20	—	
〃	—	(22.5)	1.5	0.5	3−388	4− 19	—	
〃	B	(24.8)	(1.4)	0.4	3−389	4− 18	—	
〃	—	(29.5)	(1.5)	0.6	3−390	4− 17	—	
〃	B	(29.6)	(1.5)	0.3	3−391	4− 16	—	
〃	—	—	—	—	3−392	4− 15	—	※
〃	B	(31.2)	(1.3)	0.4	3−393	4− 14	—	
〃	B	(14.8)	(1.5)	0.6	3−394	4− 13	—	
〃	—	—	—	—	4− 1	4− 12	—	※
〃	B	(24.3)	(1.4)	0.7	4− 2	4− 11	—	
〃	—	—	—	—	4− 3	4− 10	—	※
〃	B	(25.0)	(1.2)	0.4	4− 4	4− 9	—	
〃	B	(15.9)	1.5	0.5	4− 5	4− 8	—	
〃	B	32.7	1.6	0.6	4− 6	4− 7	—	
2−12	—	—	—	—	4− 28	4− 67	—	※
〃	B	(21.6)	(1.6)	0.8	4− 29	4− 66	33	
〃	B	(18.7)	(1.4)	0.7	4− 30	4− 65	〃	
〃	B	32.8	(1.6)	0.4	4− 31	4− 64	〃	
〃	B	(20.8)	1.6	1.0	4− 32	4− 63	〃	
〃	B	(32.7)	(1.6)	0.5	4− 33	4− 62	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.5	4− 34	4− 61	〃	
〃	—	(27.0)	(1.3)	0.6	4− 35	4− 60	〃	
〃	—	—	—	—	4− 36	4− 59	—	※
〃	—	(24.2)	(1.7)	0.8	4− 37	4− 58	33	
〃	B	32.9	1.6	0.4	4− 38	4− 57	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.7	4− 39	4− 56	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.9	4− 40	4− 55	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.4	4− 41	4− 54	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.5	4− 42	4− 53	〃	
〃	B	32.8	1.65	0.3	4− 43	4− 52	〃	
〃	B	32.9	(1.6)	1.1	4− 44	4− 51	〃	

第13表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2−12	B	32.75	(1.65)	0.4	4− 45	4− 50	33	
〃	B	32.9	1.6	1.2	4− 46	4− 49	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.7	4− 47	4− 48	〃	
2−13	B	(34.6)	1.8	0.5	4− 68	4−107	34	巻束番号「二之十三」
〃	B	34.9	(1.8)	0.5	4− 69	4−106	〃	
〃	B	(34.9)	1.8	0.9	4− 70	4−105	〃	
〃	B	34.9	1.8	0.6	4− 71	4−104	〃	
〃	B	34.9	1.8	0.5	4− 72	4−103	〃	
〃	B	(34.9)	1.8	0.9	4− 73	4−102	〃	
〃	B	(34.9)	1.8	1.0	4− 74	4−101	〃	
〃	B	34.9	1.8	0.8	4− 75	4−100	〃	
〃	B	35.0	1.8	0.7	4− 76	4− 99	〃	
〃	B	35.0	1.8	0.7	4− 77	4− 98	〃	
〃	B	(35.0)	(1.3)	0.4	4− 78	4− 97	〃	
〃	B	35.0	(1.7)	1.1	4− 79	4− 96	〃	
〃	B	35.0	1.8	0.7	4− 80	4− 95	〃	
〃	B	35.1	1.8	0.8	4− 81	4− 94	〃	
〃	B	(30.7)	(1.6)	0.8	4− 82	4− 93	〃	
〃	B	34.9	1.8	1.2	4− 83	4− 92	〃	
〃	B	35.0	1.8	0.3	4− 84	4− 91	〃	
〃	B	34.8	(1.8)	0.4	4− 85	4− 90	〃	
〃	B	35.0	(1.8)	0.5	4− 86	4− 89	〃	
〃	B	35.0	(1.8)	0.9	4− 87	4− 88	〃	
2−14	B	(34.2)	(1.4)	0.7	4−108	4−147	35	巻束番号「二之十四」
〃	B	(34.4)	(1.3)	0.3	4−109	4−146	〃	
〃	B	(34.3)	(1.3)	0.3	4−110	4−145	〃	
〃	B	34.4	1.4	0.3	4−111	4−144	〃	
〃	B	34.4	1.4	0.6	4−112	4−143	〃	
〃	B	34.4	(1.4)	0.3	4−113	4−142	〃	
〃	B	34.5	1.4	0.6	4−114	4−141	〃	
〃	B	34.4	1.4	0.5	4−115	4−140	〃	
〃	B	34.0	(1.3)	0.4	4−116	4−139	〃	
〃	B	34.4	(1.4)	0.4	4−117	4−138	〃	
〃	B	34.5	1.4	0.9	4−118	4−137	〃	
〃	B	34.5	1.4	0.6	4−119	4−136	〃	
〃	B	34.4	(1.4)	0.6	4−120	4−135	〃	
〃	B	34.6	1.4	0.8	4−121	4−134	〃	
〃	B	(34.4)	1.4	0.3	4−122	4−133	〃	
〃	B	34.5	1.5	1.2	4−123	4−132	〃	
〃	B	34.5	1.4	1.0	4−124	4−131	〃	
〃	B	34.5	1.4	0.6	4−125	4−130	〃	
〃	B	34.6	1.4	0.7	4−126	4−129	〃	
〃	B	(34.5)	1.4	0.7	4−127	4−128	〃	
2−15	—	(26.5)	(1.7)	0.8	4−148	4−187	36	巻束番号「二之十五」
〃	—	(16.0)	(1.6)	0.5	4−149	4−186	〃	
〃	—	—	—	—	4−150	4−185	—	※
〃	—	—	—	—	4−151	4−184	—	※
〃	B	(34.5)	(1.7)	0.3	4−152	4−183	36	
〃	B	(11.6)	(1.6)	0.5	4−153	4−182	〃	
〃	—	—	—	—	4−154	4−181	—	※

第 14 表　SG16 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
2−15	—	—	—	—	4−155	4−180	—	※
〃	—	—	—	—	4−156	4−179	—	※
〃	—	—	—	—	4−157	4−178	—	※
〃	—	—	—	—	4−158	4−177	—	※
〃	—	(15.7)	(1.6)	0.5	4−159	4−176	36	
〃	B	(18.5)	1.7	1.2	4−160	4−175	〃	
〃	—	—	—	—	4−161	4−174	—	※
〃	B	(16.8)	1.7	1.0	4−162	4−173	36	
〃	B	(15.8)	1.7	1.0	4−163	4−172	〃	
〃	B	(20.4)	1.7	0.9	4−164	4−171	〃	
〃	B	34.7	1.7	1.3	4−165	4−170	〃	
〃	B	34.6	(1.6)	0.9	4−166	4−169	〃	
〃	B	(25.3)	(1.7)	0.8	4−167	4−168	〃	
2−16	B	(32.2)	(1.3)	0.8	4−188	未記入	37	片面写経、巻束番号「二之十六」
〃	B	(31.8)	(1.3)	0.7	4−189	〃	〃	〃
〃	B	31.8	(1.3)	1.1	4−190	〃	〃	〃
〃	B	32.3	1.3	0.4	4−191	〃	〃	〃
〃	B	32.4	1.35	0.3	4−192	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.35	0.4	4−193	〃	〃	〃
〃	B	32.7	1.55	1.0	4−194	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.4	1.0	4−195	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.4	0.3	4−196	〃	〃	〃
〃	B	32.3	1.4	0.3	4−197	〃	〃	〃
〃	B	(32.7)	1.6	0.3	4−198	〃	〃	〃
〃	B	32.7	1.55	0.5	4−199	〃	〃	〃
〃	B	(32.5)	1.5	0.4	4−200	〃	〃	〃
3 − 1	B	(32.5)	1.75	0.5	5− 1	5− 36	38	巻束番号「三ノ一」
〃	B	32.7	1.7	0.6	5− 2	5− 35	〃	
〃	B	(33.0)	1.7	1.0	5− 3	5− 34	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.3	5− 4	5− 33	〃	
〃	B	33.1	1.75	0.6	5− 5	5− 32	〃	
〃	B	(33.1)	1.75	0.8	5− 6	5− 31	〃	
〃	B	(33.0)	1.5	0.5	5− 7	5− 30	〃	
〃	B	(33.0)	1.8	0.6	5− 8	5− 29	〃	
〃	B	(33.1)	1.8	1.0	5− 9	5− 28	〃	
〃	B	33.1	1.9	1.0	5− 10	5− 27	〃	
〃	B	32.8	1.5	0.5	5− 11	5− 26	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.9	5− 12	5− 25	〃	
〃	B	32.9	1.9	0.3	5− 13	5− 24	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.5	5− 14	5− 23	〃	
〃	B	33.2	1.8	0.8	5− 15	5− 22	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.6	5− 16	5− 21	〃	
〃	B	33.1	1.8	0.7	5− 17	5− 20	〃	
〃	B	33.1	1.7	1.0	5− 18	5− 19	〃	
3 − 2	B	34.5	1.6	0.4	5− 37	5− 76	39	巻束番号「三ノ二」
〃	B	34.5	1.7	1.0	5− 38	5− 75	〃	
〃	B	34.5	1.7	0.6	5− 39	5− 74	〃	
〃	B	34.4	1.6	0.3	5− 40	5− 73	〃	
〃	B	34.5	1.7	0.8	5− 41	5− 72	〃	
〃	B	34.5	1.8	0.5	5− 42	5− 71	〃	

第 15 表　S G 1 6 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	綴文 表面 品・行	綴文 裏面 品・行	図版番号	備考
3－2	B	34.5	1.7	0.7	5－ 43	5－ 70	39	
〃	B	(30.6)	1.7	0.7	5－ 44	5－ 69	〃	
〃	B	(34.3)	1.7	0.9	5－ 45	5－ 68	〃	
〃	B	34.3	1.8	1.0	5－ 46	5－ 67	〃	
〃	B	34.5	1.7	0.5	5－ 47	5－ 66	〃	
〃	B	34.6	1.7	0.4	5－ 48	5－ 65	〃	
〃	B	34.5	1.7	0.5	5－ 49	5－ 64	〃	
〃	B	34.5	1.7	0.5	5－ 50	5－ 63	〃	
〃	B	34.5	1.6	0.5	5－ 51	5－ 62	〃	
〃	B	34.6	1.5	0.9	5－ 52	5－ 61	〃	
〃	A	32.6	1.4	1.2	5－ 53	5－ 60	〃	
〃	B	34.6	1.7	0.4	5－ 54	5－ 59	〃	
〃	B	34.7	1.65	0.4	5－ 55	5－ 58	〃	
〃	B	34.6	1.6	0.8	5－ 56	5－ 57	〃	
3－3	B	32.7	1.65	0.7	5－ 77	6－ 13	40	巻束番号「三ノ三」
〃	B	32.7	1.7	0.4	5－ 78	6－ 12	〃	
〃	B	32.7	1.65	0.5	5－ 79	6－ 11	〃	
〃	B	32.6	1.75	0.7	5－ 80	6－ 10	〃	
〃	B	33.0	1.7	1.0	5－ 81	6－ 9	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.3	5－ 82	6－ 8	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.4	5－ 83	6－ 7	〃	
〃	B	32.7	1.5	0.9	5－ 84	6－ 6	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.5	5－ 85	6－ 5	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.9	5－ 86	6－ 4	〃	
〃	B	33.0	1.7	1.3	5－ 87	6－ 3	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.8	5－ 88	6－ 2	〃	
〃	B	32.6	1.7	0.3	5－ 89	6－ 1	〃	
〃	B	33.0	1.6	0.5	5－ 90	5－103	〃	
〃	B	33.0	1.75	0.5	5－ 91	5－102	〃	
〃	B	32.6	1.5	0.6	5－ 92	5－101	〃	
〃	B	32.7	1.7	0.7	5－ 93	5－100	〃	
〃	B	33.0	1.7	1.1	5－ 94	5－ 99	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.6	5－ 95	5－ 98	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.5	5－ 96	5－ 97	〃	
3－4	B	33.0	1.8	1.0	6－ 14	6－ 53	41	巻束番号「三ノ四」
〃	B	32.9	1.7	0.8	6－ 15	6－ 52	〃	
〃	B	(32.9)	1.7	0.4	6－ 16	6－ 51	〃	
〃	B	33.1	1.7	0.3	6－ 17	6－ 50	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.6	6－ 18	6－ 49	〃	
〃	A	32.8	1.5	0.9	6－ 19	6－ 48	〃	
〃	B	33.0	1.7	1.0	6－ 20	6－ 47	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.4	6－ 21	6－ 46	〃	
〃	B	33.0	1.6	0.5	6－ 22	6－ 45	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.7	6－ 23	6－ 44	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.9	6－ 24	6－ 43	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.8	6－ 25	6－ 42	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.2	6－ 26	6－ 41	〃	
〃	B	33.1	1.8	0.9	6－ 27	6－ 40	〃	
〃	B	32.7	1.7	0.3	6－ 28	6－ 39	〃	
〃	B	(33.2)	1.9	0.9	6－ 29	6－ 38	〃	

第 16 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
3－4	B	33.1	1.8	1.1	6－ 30	6－ 37	41	
〃	B	33.4	1.5	0.8	6－ 31	6－ 36	〃	
〃	B	33.4	1.7	0.3	6－ 32	6－ 35	〃	
〃	B	33.1	1.65	0.6	6－ 33	6－ 34	〃	
3－5	B	32.0	1.6	1.1	6－ 54	6－ 92	42	巻束番号「三ノ五」
〃		32.0	1.6	1.0	未記入	6－ 91	〃	片面写経
〃	B	32.0	1.7	0.3	6－ 55	6－ 90	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.7	6－ 56	6－ 89	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.9	6－ 57	6－ 88	〃	
〃	B	32.1	1.7	0.3	6－ 58	6－ 87	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.5	6－ 59	6－ 86	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.6	6－ 60	6－ 85	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.5	6－ 61	6－ 84	〃	
〃	B	(31.8)	1.6	0.2	6－ 62	6－ 83	〃	
〃	B	32.0	1.6	0.4	6－ 63	6－ 82	〃	
〃	B	32.0	1.6	1.0	6－ 64	6－ 81	〃	
〃	B	(32.0)	1.6	0.9	6－ 65	6－ 80	〃	
〃	B	31.8	1.65	1.0	6－ 66	6－ 79	〃	
〃	B	31.9	1.7	0.5	6－ 67	6－ 78	〃	
〃	B	(31.7)	1.7	0.4	6－ 68	6－ 77	〃	
〃	B	31.9	1.6	0.7	6－ 69	6－ 76	〃	
〃	B	32.0	1.7	0.5	6－ 70	6－ 75	〃	
〃	B	31.7	1.7	0.5	6－ 71	6－ 74	〃	
〃	B	32.0	1.6	0.5	6－ 72	6－ 73	〃	
3－6	B	32.6	1.6	0.4	6－ 93	7－ 20	43	巻束番号「三之六」
〃	B	32.9	1.6	0.8	6－ 94	7－ 19	〃	
〃	B	33.4	1.6	0.6	6－ 95	7－ 18	〃	
〃	B	(32.9)	1.6	0.5	6－ 96	7－ 17	〃	
〃	B	33.3	1.6	0.7	6－ 97	7－ 16	〃	
〃	B	33.2	1.6	0.9	6－ 98	7－ 15	〃	
〃	B	32.5	1.65	0.4	6－ 99	7－ 14	〃	
〃	B	33.3	1.6	0.4	6－100	7－ 13	〃	
〃	B	33.4	1.6	0.6	6－101	7－ 12	〃	
〃	B	33.3	1.55	0.8	6－102	7－ 11	〃	
〃	B	33.3	1.7	0.4	6－103	7－ 10	〃	
〃	B	33.5	1.7	0.8	6－104	7－ 9	〃	
〃	B	33.4	1.7	0.9	6－105	7－ 8	〃	
〃	B	33.5	1.6	0.6	6－106	7－ 7	〃	
〃	B	33.5	1.6	0.6	6－107	7－ 6	〃	
〃	B	33.5	1.5	0.4	6－108	7－ 5	〃	
〃	B	33.5	1.7	0.5	6－109	7－ 4	〃	
〃	B	32.8	1.4	0.5	6－110	7－ 3	〃	
〃	B	33.6	1.7	0.6	6－111	7－ 2	〃	
〃	B	(33.3)	1.7	0.3	6－112	7－ 1	〃	
〃	B	33.4	1.6	0.9	6－113	6－114	〃	
3－7	B	32.4	1.5	0.2	7－ 21	7－ 58	44	巻束番号「三ノ七」
〃	B	32.3	1.6	0.2	7－ 22	7－ 57	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.5	7－ 23	7－ 56	〃	
〃	B	32.3	1.6	0.6	7－ 24	7－ 55	〃	
〃	B	32.4	1.55	0.9	7－ 25	7－ 54	〃	

第17表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
3－7	B	32.5	1.6	0.5	7－ 26	7－ 53	44	
〃	B	32.5	1.6	0.9	7－ 27	7－ 52	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.5	7－ 28	7－ 51	〃	
〃	B	32.6	1.65	0.3	7－ 29	7－ 50	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.5	7－ 30	7－ 49	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.4	7－ 31	7－ 48	〃	
〃	B	32.8	1.55	0.6	7－ 32	7－ 47	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.5	7－ 33	7－ 46	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.5	7－ 34	7－ 45	〃	
〃	B	32.6	1.5	0.6	7－ 35	7－ 44	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.5	7－ 36	7－ 43	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.5	7－ 37	7－ 42	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.4	7－ 38	7－ 41	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.5	7－ 39	7－ 40	〃	
3－8	B	(30.9)	1.5	0.6	7－ 59	7－ 98	45	巻束番号「三之八」
〃	B	(23.4)	1.5	0.5	7－ 60	7－ 97	〃	
〃	B	(25.5)	1.5	1.0	7－ 61	7－ 96	〃	
〃	B	(25.2)	1.4	0.5	7－ 62	7－ 95	〃	
〃	B	(25.3)	(1.5)	0.5	7－ 63	7－ 94	〃	
〃	B	(30.6)	1.5	0.5	7－ 64	7－ 93	〃	
〃	B	(25.6)	1.5	1.0	7－ 65	7－ 92	〃	
〃	B	30.3	1.6	0.7	7－ 66	7－ 91	〃	
〃	B	30.6	1.6	0.4	7－ 67	7－ 90	〃	
〃	B	30.7	1.6	1.0	7－ 68	7－ 89	〃	
〃	B	30.6	1.4	0.6	7－ 69	7－ 88	〃	
〃	B	30.3	1.2	0.5	7－ 70	7－ 87	〃	
〃	B	30.7	1.3	0.8	7－ 71	7－ 86	〃	
〃	B	30.7	1.4	0.4	7－ 72	7－ 85	〃	
〃	B	30.8	1.4	0.2	7－ 73	7－ 84	〃	
〃	B	30.8	1.4	0.4	7－ 74	7－ 83	〃	
〃	B	30.7	1.4	0.5	7－ 75	7－ 82	〃	
〃	B	30.8	1.4	0.5	7－ 76	7－ 81	〃	
〃	B	(30.8)	1.3	0.5	7－ 77	7－ 80	〃	
〃	B	(25.0)	1.4	0.5	7－ 78	7－ 79	〃	
3－9	B	(33.1)	1.6	0.6	7－ 99	7－134	46	巻束番号「三ノ九」
〃	B	33.1	1.5	1.8	7－100	7－133	〃	
〃	B	33.2	1.5	0.6	7－101	7－132	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.8	7－102	7－131	〃	
〃	B	(34.1)	1.5	0.8	7－103	7－130	〃	
〃	B	32.5	1.5	1.2	7－104	7－129	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.9	7－105	7－128	〃	
〃	B	33.3	1.5	0.7	7－106	7－127	〃	
〃	B	33.3	1.6	1.2	7－107	7－126	〃	
〃	B	33.2	1.6	0.5	7－108	7－125	〃	
〃	B	33.2	1.5	1.0	7－109	7－124	〃	
〃	B	33.3	1.6	0.9	7－110	7－123	〃	
〃	B	32.7	1.6	1.6	7－111	7－122	〃	
〃	B	33.3	1.6	0.5	7－112	7－121	〃	
〃	B	(34.3)	1.4	0.9	7－113	7－120	〃	
〃	B	(32.0)	1.6	0.4	7－114	7－119	〃	

第 18 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
3－9	B	(32.0)	1.6	0.5	7−115	7−118	46	
〃	B	34.9	1.4	0.5	7−116	7−117	〃	
3−10	B	34.5	1.6	0.5	7−135	7−174	47	巻束番号「三之十」
〃	—	(30.0)	1.6	0.5	7−136	7−173	〃	
〃	B	34.7	1.6	0.4	7−137	7−172	〃	
〃	B	34.7	1.6	0.3	7−138	7−171	〃	
〃	B	34.7	1.6	0.3	7−139	7−170	〃	
〃	B	34.7	1.6	0.4	7−140	7−169	〃	
〃	B	34.8	1.6	0.5	7−141	7−168	〃	
〃	B	(34.6)	1.6	0.5	7−142	7−167	〃	
〃	B	34.3	0.6	0.5	7−143	7−166	〃	
〃	B	34.6	1.6	0.7	7−144	7−165	〃	
〃	B	34.1	1.6	0.3	7−145	7−164	〃	
〃	A	33.1	1.7	0.4	7−146	7−163	〃	
〃	A	33.0	1.7	0.5	7−147	7−162	〃	
〃	B	34.5	1.5	0.5	7−148	7−161	〃	
〃	B	34.6	1.5	0.5	7−149	7−160	〃	
〃	B	34.9	1.6	0.7	7−150	7−159	〃	
〃	B	34.7	1.5	0.3	7−151	7−158	〃	
〃	B	34.8	1.5	0.3	7−152	7−157	〃	
〃	B	34.8	1.5	0.5	7−153	7−156	〃	
〃	B	34.7	1.5	0.5	7−154	7−155	〃	
3−11	B	32.0	1.6	0.9	7−175	7−214	48	巻束番号「三之十一」
〃	B	31.9	1.7	0.5	7−176	7−213	〃	
〃	B	32.0	1.7	0.6	7−177	7−212	〃	
〃	B	32.0	1.7	0.8	7−178	7−211	〃	
〃	B	32.0	1.7	0.7	7−179	7−210	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.8	7−180	7−209	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.4	7−181	7−208	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.8	7−182	7−207	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.5	7−183	7−206	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.5	7−184	7−205	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.5	7−185	7−204	〃	
〃	B	32.2	1.7	1.0	7−186	7−203	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.9	7−187	7−202	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.6	7−188	7−201	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.7	7−189	7−200	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.5	7−190	7−199	〃	
〃	B	32.3	1.6	0.9	7−191	7−198	〃	
〃	B	32.2	1.6	1.0	7−192	7−197	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.5	7−193	7−196	〃	
〃	B	32.25	1.7	0.9	7−194	7−195	〃	
3−12	B	34.8	1.8	0.5	7−215	7−254	49	巻束番号「三之十二」
〃	B	34.8	1.9	0.8	7−216	7−253	〃	
〃	B	34.8	1.9	0.4	7−217	7−252	〃	
〃	B	34.8	1.8	0.5	7−218	7−251	〃	
〃	B	34.8	1.9	0.4	7−219	7−250	〃	
〃	B	34.8	1.9	1.0	7−220	7−249	〃	
〃	B	34.9	1.9	0.8	7−221	7−248	〃	
〃	B	34.9	1.8	0.9	7−222	7−247	〃	

第19表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
3−12	B	34.8	1.7	0.6	7−223	7−246	49	
〃	B	(34.8)	1.5	0.8	7−224	7−245	〃	
〃	B	(34.7)	1.6	0.5	7−225	7−244	〃	
〃	—	(16.0)	1.5	0.6	7−226	7−243	〃	
〃	—	—	—	—	7−227	7−242	—	※
〃	—	—	—	—	7−228	7−241	—	※
〃	B	(20.6)	1.5	0.6	7−229	7−240	49	
〃	B	(12.3)	(1.1)	1.1	7−230	7−239	〃	
〃	B	(21.7)	(1.1)	0.6	7−231	7−238	〃	
〃	B	(21.2)	1.6	1.0	7−232	7−237	〃	
〃	B	(20.9)	1.5	1.0	7−233	7−236	〃	
〃	B	(34.7)	1.4	0.4	7−234	7−235	〃	
3−13	B	32.95	1.65	0.5	7−255	7−294	50	巻頭番号「三之ロ」
〃	B	32.7	1.55	0.5	7−256	7−293	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.5	7−257	7−292	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.8	7−258	7−291	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.5	7−259	7−290	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.5	7−260	7−289	〃	
〃	B	32.9	1.7	1.0	7−261	7−288	〃	
〃	B	32.8	1.9	0.3	7−262	7−287	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.3	7−263	7−286	〃	
〃	B	32.9	(1.0)	0.6	7−264	7−285	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.7	7−265	7−284	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.9	7−266	7−283	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.3	7−267	7−282	〃	
〃	B	(33.0)	1.8	1.0	7−268	7−281	〃	
〃	B	33.1	1.7	0.5	7−269	7−280	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.6	7−270	7−279	〃	
〃	B	33.0	(1.7)	0.3	7−271	7−278	〃	
〃	B	32.9	1.6	1.0	7−272	7−277	〃	
〃	—	—	—	—	7−273	7−276	—	※
〃	—	(20.8)	1.6	0.9	7−274	7−275	50	
3−14	B	32.8	1.8	0.9	7−295	7−332	51	巻頭番号「三之十四」
〃	B	32.8	1.7	0.9	7−296	7−331	〃	
〃	B	32.8	1.8	0.5	7−297	7−330	〃	
〃	B	32.8	1.8	0.9	7−298	7−329	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.5	7−299	7−328	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.4	7−300	7−327	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.5	7−301	7−326	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.9	7−302	7−325	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.8	7−303	7−324	〃	
〃	B	33.0	(1.4)	0.8	7−304	7−323	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.5	7−305	7−322	〃	
〃	—	—	—	—	7−306	7−321	—	※
〃	—	—	—	—	7−307	7−320	—	※
〃	—	—	—	—	7−308	7−319	—	※
〃	—	—	—	—	7−309	7−318	—	※
〃	—	—	—	—	7−310	7−317	—	※
〃	—	—	—	—	7−311	7−316	—	※
〃	—	—	—	—	7−312	7−315	—	※

第 20 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
3−14	—	—	—	—	7−313	7−314	—	※
3−15	B	(25.2)	1.7	1.0	7−333	未記入	52	片面写経
〃	—	—	—	—	7−334	〃	—	〃 ※
〃	—	(17.1)	1.5	1.1	7−335	〃	52	〃
〃	—	(13.6)	1.5	1.0	7−336	〃	〃	〃
〃	—	29.0	1.6	0.9	7−337	〃	〃	〃
〃	—	(11.4)	1.6	1.0	7−338	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	7−339	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	7−340	〃	—	〃 ※
4−1	—	—	—	—	8− 1	8− 38	—	※
〃	—	(27.3)	(1.1)	0.7	8− 2	8− 37	—	
〃	—	—	—	—	8− 3	8− 36	—	※
〃	—	—	—	—	8− 4	8− 35	—	※
〃	—	—	—	—	8− 5	8− 34	—	※
〃	—	—	—	—	8− 6	8− 33	—	※
〃	—	—	—	—	8− 7	8− 32	—	※
〃	—	—	—	—	8− 8	8− 31	—	※
〃	—	—	—	—	8− 9	8− 30	—	※
〃	—	—	—	—	8− 10	8− 29	—	※
〃	—	—	—	—	8− 11	8− 28	—	※
〃	—	—	—	—	8− 12	8− 27	—	※
〃	—	—	—	—	8− 13	8− 26	—	※
〃	—	—	—	—	8− 14	8− 25	—	※
〃	—	(24.4)	(1.5)	0.6	8− 15	8− 24	—	
〃	—	—	—	—	8− 16	8− 23	—	※
〃	B	32.6	1.7	0.8	8− 17	8− 22	—	
〃	B	(16.1)	(1.6)	0.5	8− 18	8− 21	—	
〃	—	—	—	—	8− 19	8− 20	—	※
4−2	—	—	—	—	8− 39	8− 78	—	※
〃	—	(28.9)	(1.7)	0.8	8− 40	8− 77	—	
〃	B	(24.1)	(1.7)	0.7	8− 41	8− 76	—	
〃	—	—	—	—	8− 42	8− 75	—	※
〃	—	(25.8)	1.7	0.7	8− 43	8− 74	—	
〃	B	(26.5)	1.6	0.8	8− 44	8− 73	—	
〃	—	—	—	—	8− 45	8− 72	—	※
〃	B	(27.2)	1.6	0.7	8− 46	8− 71	—	
〃	B	32.3	1.6	0.8	8− 47	8− 70	—	
〃	—	(15.6)	1.7	0.7	8− 48	8− 69	—	
〃	B	(11.9)	1.7	1.0	8− 49	8− 68	—	
〃	B	(5.2)	(1.1)	0.9	8− 50	8− 67	—	
〃	B	32.6	1.7	0.6	8− 51	8− 66	—	
〃	—	—	—	—	8− 52	8− 65	—	※
〃	B	(22.6)	1.7	0.7	8− 53	8− 64	—	
〃	—	—	—	—	8− 54	8− 63	—	※
〃	B	32.8	1.7	0.7	8− 55	8− 62	—	
〃	—	—	—	—	8− 56	8− 61	—	※
〃	B	32.8	1.7	0.5	8− 57	8− 60	—	
〃	—	(20.8)	1.7	1.0	8− 58	8− 59	—	
4−3	B	(17.7)	1.6	0.8	8− 79	8−118	53	
〃	B	32.6	(1.6)	1.1	8− 80	8−117	〃	

第 21 表　S G 1 6 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
4－3	B	(26.3)	1.7	1.0	8－ 81	8－116	53	
〃	—	—	—	—	8－ 82	8－115	—	※
〃	B	32.6	1.7	0.4	8－ 83	8－114	53	
〃	B	(26.1)	1.6	0.4	8－ 84	8－113	〃	
〃	B	(30.8)	1.6	0.5	8－ 85	8－112	〃	
〃	B	32.6	1.7	0.7	8－ 86	8－111	〃	
〃	B	(32.8)	1.6	0.4	8－ 87	8－110	〃	
〃	—	(19.0)	(1.3)	0.6	8－ 88	8－109	〃	
〃	—	—	—	—	8－ 89	8－108	—	※
〃	B	32.6	(1.5)	0.5	8－ 90	8－107	53	
〃	B	(19.9)	(1.6)	0.5	8－ 91	8－106	〃	
〃	B	(11.7)	(1.6)	0.9	8－ 92	8－105	〃	
〃	B	32.8	(1.3)	1.1	8－ 93	8－104	〃	
〃	B	(26.9)	1.6	0.8	8－ 94	8－103	〃	
〃	B	32.8	(1.5)	1.2	8－ 95	8－102	〃	
〃	—	(30.3)	1.6	0.9	8－ 96	8－101	〃	
〃	B	(7.0)	(1.3)	0.4	8－ 97	8－100	〃	
〃	B	(26.1)	1.7	0.5	8－ 98	8－ 99	〃	
4－4	—	—	—	—	8－119	9－ 29	—	※
〃	B	(28.6)	(1.5)	0.5	8－120	9－ 28	—	
〃	—	(31.2)	1.6	0.7	8－121	9－ 27	—	
〃	B	(18.3)	1.7	0.9	8－122	9－ 26	—	
〃	B	(10.5)	1.6	1.1	8－123	9－ 25	—	
〃	—	—	—	—	8－124	9－ 24	—	※
〃	—	(19.5)	1.7	0.5	8－125	9－ 23	—	
〃	B	(24.5)	(1.5)	1.0	8－126	9－ 22	—	
〃	B	33.0	1.55	1.1	8－127	9－ 21	—	
〃	—	(18.0)	1.7	0.7	8－128	9－ 20	—	
〃	—	(18.7)	(1.6)	1.2	8－129	9－ 19	—	
〃	—	—	—	—	8－130	9－ 18	—	※
〃	B	(24.0)	1.6	0.9	9－ 1	9－ 17	—	
〃	—	—	—	—	9－ 2	9－ 16	—	※
〃	—	—	—	—	9－ 3	未記入	—	片面写経 ※
〃	—	(13.8)	(1.7)	0.9	9－ 4	9－ 15	—	
〃	B	(27.8)	(1.5)	0.5	9－ 5	9－ 14	—	
〃	—	—	—	—	9－ 6	9－ 13	—	※
〃	B	(17.2)	1.6	0.6	9－ 7	9－ 12	—	
〃	B	33.0	1.5	1.2	9－ 8	9－ 11	—	
〃	—	—	—	—	9－ 9	9－ 10	—	※
4－5	—	—	—	…	9－ 30	9－ 69	—	※
〃	—	—	—	—	9－ 31	9－ 68	—	※
〃	—	(15.4)	1.6	0.6	9－ 32	9－ 67	—	
〃	B	25.8	1.5	0.5	9－ 33	9－ 66	—	
〃	B	(25.7)	1.4	0.5	9－ 34	9－ 65	—	
〃	B	25.8	1.4	0.6	9－ 35	9－ 64	—	
〃	B	(6.5)	1.4	0.7	9－ 36	9－ 63	—	
〃	—	—	—	—	9－ 37	9－ 62	—	※
〃	—	(8.0)	1.4	0.5	9－ 38	9－ 61	—	
〃	—	—	—	—	9－ 39	9－ 60	—	※
〃	—	(15.6)	1.6	0.5	9－ 40	9－ 59	—	

第 22 表　S G 1 6 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長(cm)	幅(cm)	厚(mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
4－5	—	—	—	—	9－41	9－58	—	※
〃	B	(13.5)	1.5	0.6	9－42	9－57	—	
〃	—	—	—	—	9－43	9－56	—	※
〃	—	—	—	—	9－44	9－55	—	※
〃	—	(15.8)	1.2	0.5	9－45	9－54	—	
〃	B	(24.5)	(1.6)	0.4	9－46	9－53	—	
〃	B	(12.2)	(1.2)	0.7	9－47	9－52	—	
〃	—	—	—	—	9－48	9 51	—	※
〃	B	(26.0)	1.5	0.7	9－49	9－50	—	
4－6	—	(26.9)	1.5	0.3	9－70	10－36	—	
〃	—	—	—	—	9－71	10－35	—	※
〃	B	27.2	(1.4)	0.5	9－72	10－34	—	
〃	B	27.0	1.6	0.6	9－73	10－33	—	
〃	—	(26.0)	(1.4)	0.4	10－1	10－32	—	
〃	B	(15.1)	(1.4)	0.7	10－2	10－31	—	
〃	B	(14.6)	(1.6)	0.7	10－3	10－30	—	
〃	—	—	—	—	10－4	10－29	—	※
〃	B	(11.2)	(1.6)	0.6	10－5	10－28	—	
〃	—	(15.6)	(1.6)	0.5	10－6	10－27	—	
〃	—	(14.8)	(1.6)	0.5	10－7	10－26	—	
〃	B	27.6	(1.4)	0.5	10－8	10－25	—	
〃	B	26.3	1.5	0.5	10－9	10－24	—	
〃	B	(14.8)	1.5	0.5	10－10	10－23	—	
〃	—	(15.5)	(1.5)	0.5	10－11	10－22	—	
〃	B	27.1	1.5	0.6	10－12	10－21	—	
〃	B	(25.7)	1.6	0.4	10－13	10－20	—	
〃	—	—	—	—	10－14	10－19	—	※
〃	B	27.2	(1.5)	0.5	10－15	10－18	—	
〃	—	(21.9)	(1.5)	0.5	10－16	10－17	—	
4－7	—	—	—	—	10－37	10－76	—	※
〃	B	(23.4)	(1.6)	0.4	10－38	10－75	54	
〃	B	27.1	1.6	0.7	10－39	10－74	〃	
〃	B	(27.1)	1.6	0.5	10－40	10－73	〃	
〃	B	(24.6)	1.55	0.5	10－41	10－72	〃	
〃	B	(27.0)	(1.6)	0.6	10－42	10－71	〃	
〃	—	(23.5)	(1.4)	0.5	10－43	10－70	〃	
〃	—	—	—	—	10－44	10－69	—	※
〃	—	(17.1)	(1.5)	0.5	10－45	10－68	54	
〃	B	27.0	1.6	0.7	10－46	10－67	〃	
〃	B	27.3	(1.5)	0.5	10－47	10－66	〃	
〃	—	(16.4)	(1.6)	0.5	10－48	10－65	〃	
〃	B	(18.8)	(1.4)	0.5	10－49	10－64	〃	
〃	B	(11.8)	(1.5)	0.5	10－50	10－63	〃	
〃	B	(25.9)	(1.6)	0.5	10－51	10－62	〃	
〃	B	(26.8)	(1.6)	0.4	10－52	10－61	〃	
〃	—	(17.4)	(1.6)	0.5	10－53	10－60	〃	
〃	B	(17.5)	1.6	0.7	10－54	10－59	〃	
〃	—	—	—	—	10－55	10－58	—	※
〃	B	26.4	1.6	0.6	10－56	10－57	54	
4－8	—	—	—	—	10－77	10－116	—	※

第23表　SG16出土柿経観査復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
4－8	—	(28.6)	(1.7)	0.5	10－ 78	10–115	—	
〃	B	(10.2)	1.7	0.6	10－ 79	10–114	—	
〃	—	—	—	—	10－ 80	10–113	—	※
〃	—	(20.8)	1.6	0.8	10－ 81	10–112	—	
〃	—	—	—	—	10－ 82	10–111	—	※
〃	—	—	—	—	10－ 83	10–110	—	※
〃	—	(32.0)	1.7	1.4	10－ 84	10–109	—	
〃	B	(8.7)	1.7	0.4	10－ 85	10–108	—	
〃	—	(8.3)	1.7	0.3	10－ 86	10–107	—	
〃	—	—	—	—	10－ 87	10–106	—	※
〃	B	(26.5)	(1.6)	0.5	10－ 88	10–105	—	
〃	B	(12.0)	(1.6)	0.3	10－ 89	10–104	—	
〃	B	(23.3)	1.7	0.3	10－ 90	10–103	—	
〃	—	(10.6)	(1.6)	0.3	10－ 91	10–102	—	
〃	—	—	—	—	10－ 92	10–101	—	※
〃	B	(9.9)	1.6	0.5	10－ 93	10–100	—	
〃	B	(15.0)	1.7	0.4	10－ 94	10－ 99	—	
〃	B	33.5	1.6	0.3	10－ 95	10－ 98	—	
〃	—	(18.6)	(1.8)	0.6	10－ 96	10－ 97	—	
4－9	B	(31.4)	(1.6)	0.5	10–117	11－ 33	—	
〃	B	(32.0)	1.4	0.6	10–118	11－ 32	—	
〃	—	—	—	—	10–119	11－ 31	—	※
〃	B	32.1	(1.5)	0.9	10–120	11－ 30	—	
〃	B	(6.5)	(1.3)	0.4	10–121	11－ 29	—	
〃	—	(8.0)	(1.6)	0.4	10–122	11－ 28	—	
〃	—	—	—	—	10–123	11－ 27	—	※
〃	B	32.0	(1.3)	0.5	11－ 1	11－ 26	—	
〃	B	(22.0)	(1.1)	0.9	11－ 2	11－ 25	—	
〃	B	(21.8)	(1.3)	1.0	11－ 3	11－ 24	—	
〃	B	(32.3)	(1.3)	1.1	11－ 4	11－ 23	—	
〃	—	—	—	—	11－ 5	11－ 22	—	※
〃	B	32.8	(1.3)	0.9	11－ 6	11－ 21	—	
〃	—	(10.6)	(1.2)	1.1	11－ 7	11－ 20	—	
〃	B	(13.2)	(1.5)	0.8	11－ 8	11－ 19	—	
〃	B	(31.1)	(1.3)	0.5	11－ 9	11－ 18	—	
〃	B	(32.3)	(1.4)	0.5	11－ 10	11－ 17	—	
〃	B	(16.5)	1.4	0.5	11－ 11	11－ 16	—	
〃	—	—	—	—	11－ 12	11－ 15	—	※
〃	—	—	—	—	11－ 13	11－ 14	—	※
4–10	B	(28.6)	1.8	0.8	11－ 34	11－ 73	—	巻束番号「四之口」
〃	—	(32.7)	(1.7)	0.4	11－ 35	11－ 72	—	
〃	B	32.8	(1.6)	0.7	11－ 36	11－ 71	—	
〃	—	(32.5)	(1.6)	0.4	11－ 37	11－ 70	—	
〃	—	(20.6)	(1.4)	0.3	11－ 38	11－ 69	—	
〃	—	—	—	—	11－ 39	11－ 68	—	※
〃	B	(24.5)	(1.5)	0.4	11－ 40	11－ 67	—	
〃	B	32.8	(1.5)	0.8	11－ 41	11－ 66	—	
〃	—	—	—	—	11－ 42	11－ 65	—	※
〃	B	(33.7)	(1.5)	0.5	11－ 43	11－ 64	—	
〃	—	(13.0)	1.5	0.4	11－ 44	11－ 63	—	

第 24 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
4−10	B	(29.1)	1.5	0.5	11− 45	11− 62	—	
	B	(18.5)	(1.5)	0.8	11− 46	11− 61	—	
	—	(30.4)	1.6	1.0	11− 47	11− 60	—	
	B	(14.6)	(1.6)	0.8	11− 48	11− 59	—	
	B	32.7	1.6	0.8	11− 49	11− 58	—	
	B	(11.7)	1.6	0.6	11− 50	11− 57	—	
	B	(7.0)	1.6	0.8	11− 51	11− 56	—	
	B	32.7	1.6	0.4	11− 52	11− 55	—	
	B	(9.2)	(1.6)	0.5	11− 53	11− 54	—	
4−11	B	(26.7)	(1.4)	0.4	11− 74	11−114	—	巻束番号「四之十一」
〃	—	—	—	—	11− 75	11−113	—	※
〃	—	—	—	—	11− 76	11−112	—	※
〃	B	(7.6)	(1.3)	0.3	11− 77	11−111	—	
〃	B	(16.3)	(1.3)	0.5	11− 78	11−110	—	
〃	—	—	—	—	11− 79	11−109	—	※
〃	—	(24.6)	(1.4)	0.5	11− 80	11−108	—	
〃	—	—	—	—	11− 81	11−107	—	※
〃	—	—	—	—	未記入	11−106	—	片面写経 ※
〃	B	(20.4)	(1.5)	0.5	11− 82	11−105	—	
〃	B	(31.2)	(1.4)	0.4	11− 83	11−104	—	
〃	—	—	—	—	11− 84	11−103	—	※
〃	B	(22.6)	1.5	0.4	11− 85	11−102	—	
〃	—	—	—	—	11− 86	11−101	—	※
〃	B	(31.0)	(1.2)	0.4	11− 87	11−100	—	
〃	B	(31.1)	(1.4)	0.4	11− 88	11− 99	—	
〃	B	(31.0)	1.5	0.4	11− 89	11− 98	—	
〃	B	(22.7)	(1.5)	0.5	11− 90	11− 97	—	
〃	B	(31.1)	1.6	0.4	11− 91	11− 96	—	
〃	—	—	—	—	11− 92	11− 95	—	※
〃	—	—	—	—	11− 93	11− 94	—	※
4−12	—	—	—	—	11−115	11−158	—	※
〃	—	(16.5)	(1.3)	0.7	11−116	11−157	—	
〃	B	(12.4)	(1.4)	0.6	11−117	11−156	—	
〃	B	(13.6)	1.4	0.5	11−118	11−155	—	
〃	—	—	—	—	11−119	11−154	—	※
〃	—	—	—	—	11−120	11−153	—	※
〃	—	—	—	—	未記入	11−152	—	片面写経 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−151	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−150	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−149	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−148	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−147	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	〃	11−146	—	〃 ※
〃	B	(9.3)	(1.2)	0.7	11−121	11−145	—	
〃	B	(30.0)	(1.4)	0.8	11−122	11−144	—	
〃	B	(19.2)	1.4	0.8	11−123	11−143	—	
〃	B	(17.6)	1.3	0.4	11−124	11−142	—	
〃	—	(14.4)	(1.4)	0.3	11−125	11−141	—	
〃	B	(18.0)	1.4	0.9	11−126	11−140	—	
〃	B	(24.5)	1.4	0.9	11−127	11−139	—	

第 25 表　SG16 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
4−12	B	(10.3)	1.4	1.2	11−128	11−138	—	
〃	—	—	—	—	11−129	11−137	—	※
〃	—	—	—	—	11−130	11−136	—	※
〃	B	(18.6)	(1.2)	0.7	11−131	11−135	—	
〃	B	(15.9)	1.4	0.5	11−132	11−134	—	
〃	—	—	—	—	11−133	未記入	—	片面写経 ※
4−13	—	—	—	—	11−159	〃	—	〃 ※
〃	B	(30.8)	(1.4)	0.7	11−160	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	11−161	〃	—	〃 ※
5 − 1	—	(24.3)	1.6	0.6	11− 1	12− 40	—	巻束番号「五之口」
〃	—	(30.0)	(1.7)	0.4	12− 2	12− 39	—	
〃	—	—	—	—	12− 3	12− 38	—	※
〃	—	—	—	—	12− 4	12− 37	—	※
〃	—	—	—	—	12− 5	12− 36	—	※
〃	—	—	—	—	12− 6	12− 35	—	※
〃	B	(20.8)	1.7	0.4	12− 7	12− 34	—	
〃	—	—	—	—	12− 8	12− 33	—	※
〃	—	—	—	—	12− 9	12− 32	—	※
〃	—	—	—	—	12− 10	12− 31	—	※
〃	—	—	—	—	12− 11	12− 30	—	※
〃	—	—	—	—	12− 12	12− 29	—	※
〃	—	(16.5)	(1.8)	0.5	12− 13	12− 28	—	
〃	B	(10.3)	(1.7)	0.4	12− 14	12− 27	—	
〃	—	—	—	—	12− 15	12− 26	—	※
〃	—	—	—	—	12− 16	12− 25	—	※
〃	—	—	—	—	12− 17	12− 24	—	※
〃	—	—	—	—	12− 18	12− 23	—	※
〃	B	(13.9)	1.7	0.7	12− 19	12− 22	—	
〃	—	—	—	—	12− 20	12− 21	—	※
5 − 2	—	(22.9)	(1.7)	0.4	12− 41	12− 80	—	巻束番号「五之二」
〃	B	(26.5)	(1.7)	0.3	12− 42	12− 79	—	
〃	B	(30.3)	(1.7)	0.4	12− 43	12− 78	—	
〃	—	—	—	—	12− 44	12− 77	—	※
〃	—	—	—	—	12− 45	12− 76	—	※
〃	B	(27.5)	(1.7)	0.3	12− 46	12− 75	—	
〃	—	—	—	—	12− 47	12− 74	—	※
〃	—	—	—	—	12− 48	12− 73	—	※
〃	—	(13.6)	(1.4)	0.3	12− 49	12− 72	—	
〃	—	—	—	—	12− 50	12− 71	—	※
〃	B	(15.6)	(1.7)	0.3	12− 51	12− 70	—	
〃	—	—	—	—	12− 52	12− 69	—	※
〃	—	(21.9)	(1.4)	0.3	12− 53	12− 68	—	
〃	—	—	—	—	12− 54	12− 67	—	※
〃	B	(19.4)	(1.7)	0.6	12− 55	12− 66	—	
〃	B	(9.5)	1.8	0.6	12− 56	12− 65	—	
〃	—	—	—	—	12− 57	12− 64	—	※
〃	B	(14.4)	(1.5)	0.3	12− 58	12− 63	—	
〃	B	(25.0)	(1.7)	0.9	12− 59	12− 62	—	
〃	—	—	—	—	12− 60	12− 61	—	※
5 − 3	—	(20.6)	1.7	0.5	13− 81	13− 16	—	巻束番号「五之三」

第 26 表　S G 1 6 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
5－3	—	—	—	—	12- 82	13- 15	—	※
〃	—	(16.6)	1.7	0.4	12- 83	13- 14	—	
〃	—	—	—	—	12- 84	13- 13	—	※
〃	—	—	—	—	12- 85	13- 12	—	※
〃	—	(17.1)	1.7	0.5	12- 86	13- 11	—	
〃	—	—	—	—	12- 87	13- 10	—	※
〃	—	—	—	—	12- 88	13- 9	—	※
〃	—	—	—	—	12- 89	13- 8	—	※
〃	—	(10.2)	1.4	0.4	12- 90	13- 7	—	
〃	B	(19.0)	1.7	0.4	12- 91	13- 6	—	
〃	—	(16.3)	(1.2)	0.5	12- 92	13- 5	—	
〃	—	(21.8)	1.7	0.5	12- 93	13- 4	—	
〃	—	—	—	—	12- 94	13- 3	—	※
〃	—	—	—	—	12- 95	13- 2	—	※
〃	—	(12.1)	1.6	0.5	12- 96	13- 1	—	
〃	—	—	—	—	12- 97	12-104	—	※
〃	—	—	—	—	12- 98	12-103	—	※
〃	B	32.3	(1.6)	0.3	12- 99	12-102	—	
〃	—	—	—	—	12-100	12-101	—	※
5－4	—	(25.5)	(1.7)	0.4	13- 17	13- 56	55	巻束番号「五之口」
〃	—	—	—	—	13- 18	13- 55	—	※
〃	—	—	—	—	13- 19	13- 54	—	※
〃	—	—	—	—	13- 20	13- 53	—	※
〃	B	(6.2)	1.7	0.3	13- 21	13- 52	55	
〃	—	—	—	—	13- 22	13- 51	—	※
〃	—	—	—	—	13- 23	13- 50	—	※
〃	B	(12.9)	(1.1)	0.5	13- 24	13- 49	55	
〃	B	(16.0)	(1.6)	0.3	13- 25	13- 48	〃	
〃	B	(19.0)	(1.7)	0.3	13- 26	13- 47	〃	
〃	B	(25.0)	(1.7)	0.4	13- 27	13- 46	〃	
〃	—	(19.8)	(1.7)	0.3	13- 28	13- 45	〃	
〃	B	(25.4)	(1.6)	0.3	13- 29	13- 44	〃	
〃	B	(27.9)	(1.7)	0.5	13- 30	13- 43	〃	
〃	B	(25.8)	(1.7)	0.6	13- 31	13- 42	〃	
〃	B	32.3	(1.7)	0.4	13- 32	13- 41	〃	
〃	B	(28.0)	(1.6)	0.3	13- 33	13- 40	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.3	13- 34	13- 39	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.9	13- 35	13- 38	〃	
〃	B	32.2	(1.7)	0.4	13- 36	13- 37	〃	
5－5	B	32.5	(1.8)	0.5	13- 57	14- 27	56	巻束番号「五之五」
〃	B	(32.5)	(1.7)	0.4	13- 58	14- 26	〃	
〃	B	32.5	1.7	0.3	13- 59	14- 25	〃	
〃	B	32.5	1.7	0.6	13- 60	14- 24	〃	
〃	B	32.5	(1.3)	0.9	13- 61	14- 23	〃	
〃	B	32.4	(1.7)	0.4	13- 62	14- 22	〃	
〃	B	32.4	(1.6)	0.5	13- 63	14- 21	〃	
〃	B	32.4	(1.6)	0.6	13- 64	14- 20	〃	
〃	B	(32.4)	(1.7)	0.3	13- 65	14- 19	〃	
〃	B	32.5	(1.4)	0.3	13- 66	14- 18	〃	
〃	B	32.4	(1.4)	0.3	13- 67	14- 17	〃	

第 27 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
5－5	B	(28.0)	(1.7)	0.4	13- 68	14- 16	56	
〃	B	32.5	(1.7)	0.8	13- 69	14- 15	〃	
〃	B	32.3	(1.68)	0.6	14- 1	14- 14	〃	
〃	B	32.4	(1.7)	0.3	14- 2	14- 13	〃	
〃	B	(27.0)	(1.8)	0.5	14- 3	14- 12	〃	
〃	B	32.2	(1.8)	0.3	14- 4	14- 11	〃	
〃	B	32.3	(1.8)	0.5	14- 5	14- 10	〃	
〃	—	32.4	1.7	0.4	14- 6	14- 9	〃	
〃	B	(32.5)	1.7	0.3	14- 7	14- 8	〃	
5－6	B	32.6	1.7	0.4	14- 28	14- 67	57	巻束番号「五之六」
〃	B	32.6	1.8	0.4	14- 29	14- 66	〃	
〃	—	(26.0)	(1.7)	0.3	14- 30	14- 65	〃	
〃	B	32.6	(1.7)	0.3	14- 31	14- 64	〃	
〃	B	(32.5)	(1.8)	0.4	14- 32	14- 63	〃	
〃	B	32.7	(1.75)	0.4	14- 33	14- 62	〃	
〃	B	(32.7)	(1.85)	0.8	14- 34	14- 61	〃	
〃	B	(32.7)	(1.7)	0.3	14- 35	14- 60	〃	
〃	B	32.7	1.8	0.9	14- 36	14- 59	〃	
〃	B	32.8	1.8	0.3	14- 37	14- 58	〃	
〃	B	32.7	(1.85)	0.3	14- 38	14- 57	〃	
〃	B	32.6	(1.7)	0.4	14- 39	14- 56	〃	
〃	B	32.8	(1.8)	0.3	14- 40	14- 55	〃	
〃	B	32.8	(1.8)	0.4	14- 41	14- 54	〃	
〃	B	32.7	(1.7)	0.6	14- 42	14- 53	〃	
〃	B	32.8	1.75	0.6	14- 43	14- 52	〃	
〃	B	32.8	(1.7)	0.6	14- 44	14- 51	〃	
〃	B	(32.3)	(1.8)	0.3	14- 45	14- 50	〃	
〃	B	32.6	(1.6)	0.4	14- 46	14- 49	〃	
〃	B	32.7	(1.6)	0.4	14- 47	14- 48	〃	
5－7	B	32.7	1.5	0.3	14- 68	14-107	58	巻束番号「五之七」
〃	B	32.7	1.5	0.3	14- 69	14-106	〃	
〃	B	33.0	1.4	0.3	14- 70	14-105	〃	
〃	B	33.0	1.5	0.6	14- 71	14-104	〃	
〃	B	33.1	(1.4)	0.3	14- 72	14-103	〃	
〃	B	32.6	(1.4)	0.4	14- 73	14-102	〃	
〃	B	33.1	(1.5)	0.5	14- 74	14-101	〃	
〃	B	33.3	1.5	0.4	14- 75	14-100	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.4	14- 76	14- 99	〃	
〃	B	33.2	1.5	0.7	14- 77	14- 98	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.9	14- 78	14- 97	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.4	14- 79	14- 96	〃	
〃	B	33.0	1.5	0.6	14- 80	14- 95	〃	
〃	B	33.0	1.5	0.3	14- 81	14- 94	〃	
〃	B	32.7	1.5	0.9	14- 82	14- 93	〃	
〃	B	33.3	1.5	0.6	14- 83	14- 92	〃	
〃	B	33.5	1.5	0.6	14- 84	14- 91	〃	
〃	B	33.2	1.5	0.5	14- 85	14- 90	〃	
〃	B	33.0	1.5	0.3	14- 86	14- 89	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.5	14- 87	14- 88	〃	
5－8	—	(33.7)	1.5	0.4	14-108	14-147	59	巻束番号「五之八」

第 28 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
5－8	B	(34.7)	1.5	0.9	14-109	14-146	59	
〃	B	34.7	1.6	0.6	14-110	14-145	〃	
〃	B	34.5	1.6	0.5	14-111	14-144	〃	
〃	B	(34.4)	1.6	0.7	14-112	14-143	〃	
〃	B	(34.5)	1.6	0.5	14-113	14-142	〃	
〃	B	(34.5)	1.6	0.3	14-114	14-141	〃	
〃	B	34.7	1.6	0.3	14-115	14-140	〃	
〃	B	(34.8)	1.6	0.5	14-116	14-139	〃	
〃	B	(34.7)	1.6	0.4	14-117	14-138	〃	
〃	B	(34.7)	(1.6)	0.3	14-118	14-137	〃	
〃	B	34.8	1.6	1.2	14-119	14-136	〃	
〃	B	(34.6)	(1.3)	0.6	14-120	14-135	〃	
〃	B	34.8	(1.4)	0.9	14-121	14-134	〃	
〃	B	(32.6)	(1.3)	0.5	14-122	14-133	〃	
〃	B	(33.1)	(1.5)	1.1	14-123	14-132	〃	
〃	B	(34.8)	(1.0)	0.6	14-124	14-131	〃	
〃	—	(25.4)	(0.9)	0.4	14-125	14-130	〃	
〃	B	34.9	1.5	0.9	14-126	14-129	〃	
〃	B	(34.2)	(1.4)	0.4	14-127	14-128	〃	
5－9	B	32.8	1.8	0.3	14-148	14-187	60	巻束番号「五之九」
〃	—	(25.9)	(1.8)	0.3	14-149	14-186	〃	
〃	—	(15.4)	(1.8)	0.3	14-150	14-185	〃	
〃	B	(20.0)	(1.9)	0.3	14-151	14-184	〃	
〃	B	(18.8)	(1.4)	0.8	14-152	14-183	〃	
〃	B	(21.5)	(1.0)	0.9	14-153	14-182	〃	
〃	—	(15.0)	(1.8)	0.5	14-154	14-181	〃	
〃	—	(9.0)	(1.4)	0.5	14-155	14-180	〃	
〃	—	(15.6)	(1.8)	0.5	14-156	14-179	〃	
〃	—	(15.3)	(1.8)	0.6	14-157	14-178	〃	
〃	B	(20.1)	1.8	0.4	14-158	14-177	〃	
〃	B	(21.2)	1.8	0.3	14-159	14-176	〃	
〃	B	(4.5)	1.8	0.2	14-160	14-175	〃	
〃	—	—	—	—	14-161	14-174	〃	※
〃	—	(16.5)	1.8	0.3	14-162	14-173	〃	
〃	—	(18.5)	1.7	0.6	14-163	14-172	〃	
〃	—	(16.7)	1.8	0.4	14-164	14-171	〃	
〃	—	(15.0)	1.7	0.3	14-165	14-170	〃	
〃	B	(6.4)	(1.5)	0.5	14-166	14-169	〃	
〃	B	(16.0)	1.8	0.5	14-167	14-168	〃	
5－10	B	(18.5)	1.7	1.0	14-188	15- 31	61	
〃	B	(15.4)	1.7	0.2	14-189	15- 30	〃	
〃	B	(7.0)	(1.1)	0.3	14-190	15- 29	〃	
〃	B	(19.8)	(1.7)	0.4	14-191	15- 28	〃	
〃	B	(29.5)	(1.4)	0.3	14-192	15- 27	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.8	14-193	15- 26	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.5	14-194	15- 25	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.5	14-195	15- 24	〃	
〃	B	32.9	(1.85)	0.2	14-196	15- 23	〃	
〃	B	(33.0)	(1.9)	0.4	15- 1	15- 22	〃	
〃	B	(32.9)	1.8	0.5	15- 2	15- 21	〃	

第29表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
5—10	B	(32.9)	1.8	0.4	15- 3	15- 20	61	
〃	B	(32.8)	(1.7)	0.4	15- 4	15- 19	〃	
〃	B	32.95	(1.8)	0.7	15- 5	15- 18	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.3	15- 6	15- 17	〃	
〃	B	32.8	1.8	0.4	15- 7	15- 16	〃	
〃	B	32.8	(1.8)	0.5	15- 8	15- 15	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.5	15- 9	15- 14	〃	
〃	B	(29.7)	(1.8)	0.3	15- 10	15- 13	〃	
〃	B	(27.5)	(1.7)	1.0	15- 11	15- 12	〃	
5—11	B	(32.6)	1.8	0.3	15- 32	15- 71	62	巻束番号「五之十一」
〃	B	(32.6)	1.8	0.4	15- 33	15- 70	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.5	15- 34	15- 69	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.5	15- 35	15- 68	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.3	15- 36	15- 67	〃	
〃	B	(32.8)	1.7	0.5	15- 37	15- 66	〃	
〃	B	(32.7)	(1.7)	0.5	15- 38	15- 65	〃	
〃	B	(32.9)	(1.8)	0.3	15- 39	15- 64	〃	
〃	B	(24.9)	1.8	0.2	15- 40	15- 63	〃	
〃	B	(24.0)	(1.8)	0.6	15- 41	15- 62	〃	
〃	B	(24.2)	1.7	0.5	15- 42	15- 61	〃	
〃	B	(24.0)	(1.8)	0.3	15- 43	15- 60	〃	
〃	B	(24.3)	(1.8)	0.3	15- 44	15- 59	〃	
〃	B	32.6	(1.7)	0.5	15- 45	15- 58	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.3	15- 46	15- 57	〃	
〃	B	33.0	(1.7)	0.6	15- 47	15- 56	〃	
〃	B	32.8	(1.7)	0.4	15- 48	15- 55	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.3	15- 49	15- 54	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.3	15- 50	15- 53	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.3	15- 51	15- 52	〃	
5—12	B	32.2	1.6	0.5	15- 72	15-109	63	巻束番号「五之十二」
〃	B	32.2	1.5	0.5	15- 73	15-108	〃	
〃	B	32.2	1.5	0.6	15- 74	15-107	〃	
〃	B	32.2	1.6	0.5	15- 75	15-106	〃	
〃	B	32.4	1.6	0.6	15- 76	15-105	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.6	15- 77	15-104	〃	
〃	B	32.2	1.5	0.6	15- 78	15-103	〃	
〃	B	32.6	1.5	0.7	15- 79	15-102	〃	
〃	B	32.2	1.5	0.5	15- 80	15-101	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.4	15- 81	15-100	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.8	15- 82	15- 99	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.5	15- 83	15- 98	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.5	15- 84	15- 97	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.7	15- 85	15- 96	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.8	15- 86	15- 95	〃	
〃	B	32.3	1.5	0.5	15- 87	15- 94	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.5	15- 88	15- 93	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.5	15- 89	15- 92	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.5	15- 90	15- 91	〃	
5—13	B	32.8	1.6	1.2	15-110	15-149	64	巻束番号「五之十三」
〃	B	(32.6)	1.7	0.8	15-111	15-148	〃	

第 30 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
5—13	B	(32.4)	1.6	0.4	15-112	15-147	64	
〃	B	(33.2)	1.8	0.5	15-113	15-146	〃	
〃	B	(33.3)	1.8	0.5	15-114	15-145	〃	
〃	B	(31.4)	1.8	0.3	15-115	15-144	〃	
〃	B	32.45	1.7	0.5	15-116	15-143	〃	
〃	B	(32.3)	1.8	0.4	15-117	15-142	〃	
〃	B	(19.0)	(1.6)	0.5	15-118	15-141	〃	
〃	B	(19.0)	1.7	0.4	15-119	15-140	〃	
〃	B	(18.6)	(1.7)	0.4	15-120	15-139	〃	
〃	B	(18.5)	(1.7)	0.2	15-121	15-138	〃	
〃	B	32.7	1.8	0.5	15-122	15-137	〃	
〃	B	(30.0)	(1.7)	0.3	15-123	15-136	〃	
〃	B	32.8	(1.7)	0.5	15-124	15-135	〃	
〃	B	(18.2)	1.8	0.3	15-125	15-134	〃	
〃	B	(32.8)	1.8	0.4	15-126	15-133	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.4	15-127	15-132	〃	
〃	B	32.4	(1.7)	0.3	15-128	15-131	〃	
〃	B	32.9	1.8	0.6	15-129	15-130	〃	
5—14	B	32.9	1.8	0.8	15-150	未記入	65	片面写経、巻束番号「五之十四」
〃	B	32.9	1.8	0.4	15-151	〃	〃	〃
〃	B	(32.9)	1.8	0.5	15-152	〃	〃	〃
〃	B	(32.2)	1.8	0.4	15-153	〃	〃	〃
〃	B	32.9	1.8	0.3	15-154	〃	〃	〃
〃	B	33.0	(1.6)	0.4	15-155	〃	〃	〃
〃	B	(32.4)	1.8	0.3	15-156	〃	〃	〃
〃	B	(27.7)	1.7	0.5	15-157	〃	〃	〃
〃	B	(27.0)	1.7	0.4	15-158	〃	〃	〃
〃	B	(16.7)	1.7	0.3	15-159	〃	〃	〃
〃	B	(32.9)	1.8	0.3	15-160	〃	〃	〃
〃	B	(33.0)	1.8	0.3	15-161	〃	〃	〃
〃	B	(31.3)	1.8	0.3	15-162	〃	〃	〃
6—1	B	32.7	1.6	1.0	16- 1	16- 40	66	巻束番号「六之一」
〃	B	32.9	1.5	0.6	16- 2	16- 39	〃	
〃	B	31.9	1.6	0.3	16- 3	16- 38	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.5	16- 4	16- 37	〃	
〃	B	33.1	1.7	0.8	16- 5	16- 36	〃	
〃	B	32.5	1.7	0.3	16- 6	16- 35	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.5	16- 7	16- 34	〃	
〃	B	33.0	1.6	0.5	16- 8	16- 33	〃	
〃	B	(28.8)	1.7	0.4	16- 9	16- 32	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.6	16- 10	16- 31	〃	
〃	A	(32.2)	1.8	0.3	16- 11	16- 30	〃	
〃	B	(20.7)	1.6	0.8	16- 12	16- 29	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.9	16- 13	16- 28	〃	
〃	A	(31.8)	1.5	0.6	16- 14	16- 27	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.3	16- 15	16- 26	〃	
〃	A	(32.3)	1.7	0.7	16- 16	16- 25	〃	
〃	A	(32.3)	1.7	1.0	16- 17	16- 24	〃	
〃	A	(32.3)	1.7	0.8	16- 18	16- 23	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.5	16- 19	16- 22	〃	

第 31 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6－1	B	32.6	1.6	1.1	16－ 20	16－ 21	66	
6－2	B	33.0	1.8	1.1	16－ 41	16－ 80	67	巻束番号「六之二」
〃	B	(32.8)	1.6	0.5	16－ 42	16－ 79	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.7	16－ 43	16－ 78	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.4	16－ 44	16－ 77	〃	
〃	B	33.0	1.8	1.0	16－ 45	16－ 76	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.3	16－ 46	16－ 75	〃	
〃	B	33.0	1.8	1.1	16－ 47	16－ 74	〃	
〃	B	32.8	1.8	1.0	16－ 48	16－ 73	〃	
〃	B	33.0	1.7	1.2	16－ 49	16－ 72	〃	
〃	B	33.0	(1.4)	0.5	16－ 50	16－ 71	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.8	16－ 51	16－ 70	〃	
〃	B	33.2	1.7	0.8	16－ 52	16－ 69	〃	
〃	B	33.1	(1.45)	0.8	16－ 53	16－ 68	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.5	16－ 54	16－ 67	〃	
〃	B	(33.0)	1.6	0.3	16－ 55	16－ 66	〃	
〃	B	33.1	1.65	0.8	16－ 56	16－ 65	〃	
〃	B	33.1	1.7	0.7	16－ 57	16－ 64	〃	
〃	B	33.2	1.6	0.4	16－ 58	16－ 63	〃	
〃	B	33.0	1.6	0.3	16－ 59	16－ 62	〃	
〃	B	(33.2)	1.7	0.9	16－ 60	16－ 61	〃	
6－3	B	(31.6)	1.6	0.8	16－ 81	17－ 2	68	巻束番号「六之三」
〃	B	31.6	1.5	0.6	16－ 82	17－ 1	〃	
〃	B	31.5	(1.55)	0.7	16－ 83	16-116	〃	
〃	B	32.0	1.4	0.8	16－ 84	16-115	〃	
〃	B	31.9	1.5	0.8	16－ 85	16-114	〃	
〃	B	31.4	(1.5)	0.3	16－ 86	16-113	〃	
〃	B	31.9	1.4	0.4	16－ 87	16-112	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.6	16－ 88	16-111	〃	
〃	B	32.1	1.6	0.6	16－ 89	16-110	〃	
〃	B	32.2	1.65	1.0	16－ 90	16-109	〃	
〃	B	32.2	1.6	0.6	16－ 91	16-108	〃	
〃	A	32.2	1.4	0.5	16－ 92	16-107	〃	
〃	A	31.8	1.5	0.6	16－ 93	16-106	〃	
〃	B	31.6	1.5	0.9	16－ 94	16-105	〃	
〃	B	31.9	1.4	0.5	16－ 95	16-104	〃	
〃	B	32.3	1.6	0.4	16－ 96	16-103	〃	
〃	B	30.4	1.5	0.8	16－ 97	16-102	〃	
〃	B	31.3	1.5	0.3	16－ 98	16-101	〃	
〃	B	32.4	1.6	1.0	16－ 99	16-100	〃	
6－4	B	32.6	1.4	1.3	17－ 3	17－ 39	69	巻束番号「六之四」
〃	B	32.5	(1.4)	0.6	17－ 4	17－ 38	〃	
〃	B	32.5	1.4	1.0	17－ 5	17－ 37	〃	
〃	B	(30.5)	1.4	0.8	17－ 6	17－ 36	〃	
〃	B	(32.2)	1.4	0.9	17－ 7	17－ 35	〃	
〃	B	32.4	1.6	0.7	17－ 8	17－ 34	〃	
〃	B	(27.6)	1.4	1.0	17－ 9	17－ 33	〃	
〃	B	(32.6)	(1.35)	0.9	17－ 10	17－ 32	〃	
〃	—	(28.3)	1.4	0.4	17－ 11	17－ 31	〃	
〃	B	(32.7)	1.4	1.0	17－ 12	17－ 30	〃	

第 32 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6－4	B	(31.5)	1.5	0.8	17- 13	17- 29	69	
〃	B	32.6	1.4	0.9	17- 14	17- 28	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.9	17- 15	17- 27	〃	
〃	B	32.3	1.8	0.8	17- 16	17- 26	〃	
〃	B	(27.7)	1.6	0.5	17- 17	17- 25	〃	
〃	B	(32.6)	1.6	0.3	17- 18	17- 24	〃	
〃	B	32.7	1.7	0.9	17- 19	17- 23	〃	
〃	B	32.2	1.7	0.9	17- 20	17- 22	〃	
〃	—	—	—	—	17- 21	未記入	—	片面写経 ※
6－5	B	32.2	1.5	0.8	17- 40	17- 79	70	巻束番号「六之五」
〃	B	32.4	1.6	0.3	17- 41	17- 78	〃	
〃	B	32.3	1.4	0.3	17- 42	17- 77	〃	
〃	B	32.2	1.4	0.6	17- 43	17- 76	〃	
〃	A	31.3	1.5	0.5	17- 44	17- 75	〃	
〃	A	31.2	1.4	0.4	17- 45	17- 74	〃	
〃	A	(27.9)	1.5	0.9	17- 46	17- 73	〃	
〃	A	31.2	1.6	0.9	17- 47	17- 72	〃	
〃	A	31.6	1.6	1.0	17- 48	17- 71	〃	
〃	A	(31.3)	1.5	0.5	17- 49	17- 70	〃	
〃	A	(32.5)	1.4	0.3	17- 50	17- 69	〃	
〃	B	32.8	1.6	1.0	17- 51	17- 68	〃	
〃	B	33.0	1.3	0.8	17- 52	17- 67	〃	
〃	B	32.7	1.5	0.5	17- 53	17- 66	〃	
〃	B	32.3	1.4	0.3	17- 54	17- 65	〃	
〃	B	33.0	(1.6)	0.4	17- 55	17- 64	〃	
〃	B	32.7	1.4	0.6	17- 56	17- 63	〃	
〃	B	32.7	1.4	0.9	17- 57	17- 62	〃	
〃	B	32.4	1.4	0.7	17- 58	17- 61	〃	
〃	B	32.7	1.4	0.8	17- 59	17- 60	〃	
6－6	B	34.3	1.6	0.4	17- 80	17-117	71	巻束番号「六之六」
〃	A	33.7	1.6	0.8	17- 81	17-116	〃	
〃	B	34.3	1.7	1.5	17- 82	17-115	〃	
〃	B	34.1	1.6	1.0	17- 83	17-114	〃	
〃	B	34.3	1.7	0.5	17- 84	17-113	〃	
〃	B	34.3	1.6	0.5	17- 85	17-112	〃	
〃	B	34.3	1.5	0.7	17- 86	17-111	〃	
〃	B	34.3	1.7	1.0	17- 87	17-110	〃	
〃	B	34.1	1.5	1.0	17- 88	17-109	〃	
〃	A	33.7	(1.4)	0.5	17- 89	17-108	〃	
〃	A	33.6	1.7	1.0	17- 90	17-107	〃	
〃	B	34.4	(1.6)	0.4	17- 91	17-106	〃	
〃	B	34.4	(1.4)	0.4	17- 92	17-105	〃	
〃	B	34.4	(1.4)	0.5	17- 93	17-104	〃	
〃	B	(14.7)	(1.2)	0.7	17- 94	17-103	〃	
〃	B	34.5	(1.2)	0.9	17- 95	17-102	〃	
〃	B	(19.3)	(1.2)	0.9	17- 96	17-101	〃	
〃	B	(19.8)	(1.1)	0.7	17- 97	17-100	〃	
〃	B	(20.0)	(1.2)	0.9	17- 98	17- 99	〃	
6－7	B	32.8	1.5	0.4	17-118	18- 5	72	巻束番号「六之七」
〃	B	32.8	1.5	0.2	17-119	18- 4	〃	

第 33 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6－7	B	32.7	1.5	0.2	17-120	18- 3	72	
〃	B	32.9	1.4	0.3	17-121	18- 2	〃	
〃	—	—	—	—	17-122	18- 1	—	※
〃	—	—	—	—	17-123	17-150	—	※
〃	—	(14.9)	1.6	0.3	17-124	17-149	72	
〃	B	(17.5)	1.7	0.8	17-125	17-148	〃	
〃	—	—	—	—	17-126	17-147	〃	※
〃	—	(23.0)	1.6	0.3	17-127	17-146	—	
〃	—	—	—	—	17-128	17-145	—	※
〃	—	—	—	—	17-129	17-144	—	※
〃	—	—	—	—	17-130	17-143	—	※
〃	—	—	—	—	17-131	17-142	—	※
〃	B	(6.2)	1.5	0.4	17-132	17-141	72	
〃	—	—	—	—	17-133	17-140	—	※
〃	B	(21.3)	1.6	0.8	17-134	17-139	72	
〃	—	—	—	—	17-135	17-138	—	※
〃	—	—	—	—	17-136	17-137	—	※
6－8	B	(12.5)	(1.5)	0.6	18- 6	18- 39	73	
〃	B	(27.8)	1.7	0.7	18- 7	18- 38	〃	
〃	—	—	—	—	18- 8	18- 37	—	※
〃	B	27.8	1.7	0.8	18- 9	18- 36	73	
〃	—	—	—	—	18- 10	18- 35	—	※
〃	—	—	—	—	18- 11	18- 34	—	※
〃	—	—	—	—	18- 12	18- 33	—	※
〃	—	(14.0)	1.5	0.6	18- 13	18- 32	73	
〃	—	(21.3)	(1.1)	0.8	18- 14	18- 31	〃	
〃	B	27.6	1.7	0.6	18- 15	18- 30	〃	
〃	B	27.9	1.5	0.4	18- 16	18- 29	〃	
〃	—	(10.8)	(1.4)	0.5	18- 17	18- 28	〃	
〃	—	(24.0)	1.6	0.5	18- 18	18- 27	〃	
〃	—	—	—	—	18- 19	18- 26	—	※
〃	B	(8.6)	0.9	0.5	18- 20	18- 25	73	
〃	B	(23.9)	1.6	0.6	18- 21	18- 24	〃	
〃	B	(24.4)	1.6	0.7	18- 22	18- 23	〃	
6－9	—	—	—	—	18- 40	19- 3	—	※
〃	—	—	—	—	18- 41	19- 2	—	※
〃	—	(22.8)	1.5	0.5	18- 42	19- 1	74	
〃	—	(20.3)	1.5	0.5	18- 43	18- 76	〃	
〃	—	(17.7)	1.5	0.5	18- 44	18- 75	〃	
〃	—	—	—	—	18- 45	18- 74	—	※
〃	—	—	—	—	18- 46	18- 73	—	※
〃	—	—	—	—	18- 47	18- 72	—	※
〃	B	(19.2)	1.4	0.3	18- 48	18- 71	74	
〃	—	—	—	—	18- 49	18- 70	—	※
〃	—	—	—	—	18- 50	18- 69	—	※
〃	—	—	—	—	18- 51	18- 68	—	※
〃	B	(10.0)	(1.4)	0.4	18- 52	18- 67	74	
〃	—	—	—	—	18- 53	18- 66	—	※
〃	—	—	—	—	18- 54	18- 65	—	※
〃	—	—	—	—	18- 55	18- 64	—	※

第 34 表　SG16 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6－9	—	—	—	—	18－56	18－63	—	※
〃	—	(19.2)	1.4	0.3	18－57	18－62	74	
〃	—	(22.0)	(1.1)	0.3	18－58	18－61	〃	
〃	—	—	—	—	18－59	18－60	—	※
6－10	B	(29.9)	(1.3)	0.8	19－4	19－39	75	巻束番号「六之十」
〃	—	—	—	—	19－5	19－38	—	※
〃	—	—	—	—	19－6	19－37	—	※
〃	—	(19.0)	1.4	0.3	19－7	19－36	75	
〃	B	30.7	1.4	0.7	19－8	19－35	〃	
〃	B	30.8	1.5	0.7	19－9	19－34	〃	
〃	B	31.0	1.5	1.3	19－10	19－33	〃	
〃	B	30.5	1.5	1.0	19－11	19－32	〃	
〃	B	30.3	1.4	0.5	19－12	19－31	〃	
〃	B	30.9	1.6	0.5	19－13	19－30	〃	
〃	B	31.0	1.5	0.4	19－14	19－29	〃	
〃	B	31.0	1.5	0.7	19－15	19－28	〃	
〃	—	(25.2)	1.5	0.4	19－16	19－27	〃	
〃	B	31.0	1.5	0.4	19－17	19－26	〃	
〃	B	(31.0)	1.4	0.5	19－18	19－25	〃	
〃	—	—	—	—	19－19	19－24	—	※
〃	B	31.0	1.4	0.7	19－20	19－23	75	
〃	B	31.1	1.4	0.5	19－21	19－22	〃	
6－11	—	—	—	—	19－40	19－79	—	※
〃	B	(32.8)	(1.5)	0.4	19－41	19－78	76	
〃	B	(32.7)	(1.8)	0.3	19－42	19－77	〃	
〃	—	(23.0)	(1.8)	0.3	19－43	19－76	〃	
〃	—	(31.0)	1.8	0.3	19－44	19－75	〃	
〃	B	32.4	1.7	1.1	19－45	19－74	〃	
〃	B	(21.7)	1.7	0.8	19－46	19－73	〃	
〃	B	(32.4)	1.6	1.0	19－47	19－72	〃	
〃	B	32.4	1.8	1.0	19－48	19－71	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.9	19－49	19－70	〃	
〃	B	(22.6)	(1.6)	0.6	19－50	19－69	〃	
〃	—	—	—	—	19－51	19－68	—	※
〃	—	—	—	—	19－52	19－67	—	※
〃	B	32.7	1.7	0.7	19－53	19－66	76	
〃	B	32.5	1.6	1.0	19－54	19－65	〃	
〃	B	32.7	1.7	1.5	19－55	19－64	〃	
〃	B	32.7	1.5	1.0	19－56	19－63	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.9	19－57	19－62	〃	
〃	B	32.8	1.6	1.1	19－58	19－61	〃	
〃	B	33.0	1.5	1.0	19－59	19－60	〃	
6－12	A	(33.1)	1.6	0.9	19－80	19－109	77	巻束番号「六之十二」
〃	B	(33.5)	1.5	0.9	19－81	19－108	〃	
〃	B	(29.0)	(0.9)	0.9	19－82	19－107	〃	
〃	—	—	—	—	19－83	19－106	—	※
〃	—	(19.8)	1.7	1.1	19－84	19－105	77	
〃	B	(28.2)	1.5	1.3	19－85	19－104	〃	
〃	B	(31.5)	1.6	0.4	19－86	19－103	〃	
〃	B	(29.2)	(1.4)	0.6	19－87	19－102	〃	

第35表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6—12	B	(29.3)	1.5	0.8	19- 88	19-101	77	
〃	B	29.2	1.5	0.9	19- 89	19-100	〃	
〃	B	(33.7)	1.5	0.4	19- 90	19- 99	〃	
〃	B	(29.5)	1.5	0.4	19- 91	19- 98	〃	
〃	A	(29.2)	1.6	0.6	19- 92	19- 97	〃	
〃	A	(30.3)	1.6	0.5	19- 93	19- 96	〃	
〃	B	(31.5)	1.6	0.8	19- 94	19- 95	〃	
6—13	—	—	—	—	19-110	未記入	—	片面写経 ※
〃	B	25.9	1.5	0.3	19-111	〃	78	〃
〃	B	25.7	1.5	0.5	19-112	〃	〃	〃
〃	B	26.8	1.4	0.3	19-113	〃	〃	〃
〃	B	27.4	1.4	0.6	19-114	〃	〃	〃
〃	B	(26.8)	1.5	0.5	19-115	〃	〃	〃
〃	B	(20.5)	1.3	0.5	19-116	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	19-117	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19-118	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19-119	〃	—	〃 ※
〃	B	(25.0)	1.4	0.4	19-120	〃	78	〃
〃	B	(8.2)	(1.3)	0.5	19-121	〃	〃	〃
〃	B	(10.5)	(1.5)	0.4	19-122	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	19-123	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19-124	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19-125	〃	—	〃 ※
〃	—	(14.9)	1.7	0.4	19-126	〃	78	〃
〃	—	—	—	—	19-127	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19-128	〃	—	〃 ※
6—14	B	(26.4)	1.5	0.4	19-129	〃	79	片面写経，巻束番号「六之十四」
〃	—	—	—	—	19-130	〃	—	〃 ※
〃	B	(20.5)	1.6	0.5	19-131	〃	79	〃
〃	—	—	—	—	19-132	〃	—	〃 ※
〃	B	(16.5)	1.5	0.4	19-133	〃	79	〃
〃	B	(25.5)	1.5	0.5	19-134	〃	〃	〃
〃	B	(13.7)	1.6	0.5	19-135	〃	〃	〃
〃	B	(19.1)	1.4	0.6	19-136	〃	〃	〃
〃	B	(7.2)	1.6	0.5	19-137	〃	〃	〃
〃	B	(24.5)	(1.3)	0.4	19-138	〃	〃	〃
〃	—	(23.7)	1.6	0.3	19-139	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	19-140	〃	—	〃 ※
〃	B	(6.4)	1.1	0.5	19-141	〃	79	〃
〃	—	(10.3)	1.4	0.5	19-142	〃	〃	〃
〃	B	(16.8)	1.6	0.5	19-143	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	19-144	〃	—	〃 ※
〃	—	(22.0)	1.6	0.5	19-145	〃	79	〃
〃	—	(24.4)	1.5	0.3	19-146	〃	〃	〃
〃	B	(12.0)	1.6	0.5	19-147	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	19-148	〃	—	〃 ※
6—15	B	(11.1)	1.5	0.5	19-149	〃	—	〃
〃	B	(27.6)	1.5	0.6	19-150	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19-151	〃	—	〃 ※
〃	B	27.7	1.4	0.6	19-152	〃	—	〃

第 36 表　SG16 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
6−15	B	(22.5)	1.4	0.4	19−153	未記入	—	
〃	B	26.6	1.6	0.5	19−154	〃	—	〃
〃	—	(14.4)	1.5	0.5	19−155	〃	—	〃
〃	B	26.8	1.5	0.5	19−156	〃	—	〃
〃	—	(11.0)	1.5	0.5	19−157	〃	—	〃
〃	B	26.6	1.7	0.7	19−158	〃	—	〃
〃	B	22.0	1.7	0.8	19−159	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19−160	〃	—	〃
〃	B	27.7	1.5	0.5	19−161	〃	—	〃
〃	—	(19.6)	1.7	0.4	19−162	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19−163	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19−164	〃	—	〃 ※
〃	—	(11.4)	1.5	0.4	19−165	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19−166	〃	—	〃 ※
〃	B	(5.7)	(1.0)	0.4	19−167	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19−168	〃	—	〃 ※
6−16	B	25.8	1.4	0.8	19−169	〃	—	〃
〃	—	—	—	—	19−170	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19−171	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	19−172	〃	—	〃 ※
7 − 1	B	33.0	1.8	1.1	20− 1	20− 40	80	巻束番号「七之初」
〃	—	—	—	—	20− 2	20− 39	—	※
〃	—	—	—	—	20− 3	20− 38	—	※
〃	—	—	—	—	20− 4	20− 37	—	※
〃	B	(16.5)	(1.6)	0.4	20− 5	20− 36	80	
〃	B	(7.2)	(1.7)	0.2	20− 6	20− 35	〃	
〃	—	—	—	—	20− 7	20− 34	—	※
〃	B	33.0	1.6	0.8	20− 8	20− 33	80	
〃	—	—	—	—	20− 9	20− 32	—	※
〃	—	—	—	—	20− 10	20− 31	—	※
〃	B	25.2	1.6	0.6	20− 11	20− 30	80	
〃	B	(10.8)	1.8	0.7	20− 12	20− 29	〃	
〃	—	(22.2)	(1.3)	0.4	20− 13	20− 28	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.4	20− 14	20− 27	〃	
〃	—	(27.7)	1.8	0.4	20− 15	20− 26	〃	
〃	B	(15.9)	1.6	1.0	20− 16	20− 25	〃	
〃	—	(30.5)	1.7	0.5	20− 17	20− 24	〃	
〃	B	(18.6)	(1.2)	1.0	20− 18	20− 23	〃	
〃	B	32.4	1.4	0.6	20− 19	20− 22	〃	
〃	—	(29.8)	1.5	0.5	20− 20	20− 21	〃	
7 − 2	B	32.9	1.8	0.3	20− 41	20− 78	81	巻束番号「ロロニ」
〃	B	32.9	1.8	0.3	20− 42	20− 77	〃	
〃	B	32.8	1.8	0.5	20− 43	20− 76	〃	
〃	—	(11.1)	(1.2)	1.0	20− 44	20− 75	〃	
〃	B	(22.1)	1.8	0.6	20− 45	20− 74	〃	
〃	—	—	—	—	20− 46	20− 73	—	※
〃	—	—	—	—	20− 47	20− 72	—	※
〃	—	—	—	—	20− 48	20− 71	—	※
〃	B	(19.1)	(1.9)	0.7	20− 49	20− 70	81	
〃	B	(17.0)	1.9	0.9	20− 50	20− 69	〃	

第 37 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
7－2	B	33.0	1.9	0.8	20－51	20－68	81	
〃	—	—	—	—	20－52	20－67	—	※
〃	—	—	—	—	20－53	20－66	—	※
〃	—	—	—	—	20－54	20－65	—	※
〃	B	33.0	1.8	0.6	20－55	20－64	81	
〃	B	(24.5)	1.8	0.9	20－56	20－63	〃	
〃	B	33.2	1.8	0.9	20－57	20－62	〃	
〃	B	33.2	1.8	0.8	20－58	20－61	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.9	20－59	20－60	〃	
7－3	B	26.6	1.8	0.6	20－79	21－25	82	巻束番号「口之参」
〃	B	26.8	1.7	0.5	20－80	21－24	〃	
〃	B	26.5	1.8	0.5	20－81	21－23	〃	
〃	B	26.5	1.6	0.5	20－82	21－22	〃	
〃	B	26.5	1.8	0.5	20－83	21－21	〃	
〃	B	25.8	1.5	0.4	20－84	21－20	〃	
〃	B	27.3	1.5	0.4	20－85	21－19	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.5	20－86	21－18	〃	
〃	B	27.3	1.5	0.5	20－87	21－17	〃	
〃	B	26.3	1.8	0.5	20－88	21－16	〃	
〃	B	25.6	1.6	0.4	20－89	21－15	〃	
〃	B	(16.5)	1.7	0.3	20－90	21－14	〃	
〃	B	26.6	0.6	0.5	20－91	21－13	〃	
〃	B	(27.3)	1.5	0.4	21－1	21－12	〃	
〃	B	25.5	1.6	0.5	21－2	21－11	〃	
〃	B	26.7	1.5	0.4	21－3	21－10	〃	
〃	B	(26.6)	1.6	0.5	21－4	21－9	〃	
〃	B	26.1	1.65	0.3	21－5	21－8	〃	
〃	B	26.7	1.5	0.5	21－6	21－7	〃	
7－4	B	25.6	1.5	0.6	21－26	21－65	83	巻束番号「七之四」
〃	B	26.6	1.5	0.4	21－27	21－64	〃	
〃	B	26.6	1.5	0.6	21－28	21－63	〃	
〃	B	25.4	1.4	0.4	21－29	21－62	〃	
〃	B	26.5	1.5	0.2	21－30	21－61	〃	
〃	B	26.9	1.4	0.4	21－31	21－60	〃	
〃	B	25.5	1.4	0.5	21－32	21－59	〃	
〃	B	25.4	1.4	0.5	21－33	21－58	〃	
〃	B	26.9	1.5	0.6	21－34	21－57	〃	
〃	B	26.9	1.4	0.5	21－35	21－56	〃	
〃	B	26.8	1.5	0.5	21－36	21－55	〃	
〃	B	25.6	1.6	0.6	21－37	21－54	〃	
〃	B	25.6	1.4	0.5	21－38	21－53	〃	
〃	B	26.8	1.5	0.5	21－39	21－52	〃	
〃	B	25.7	1.5	0.5	21－40	21－51	〃	
〃	B	(20.6)	1.5	0.5	21－41	21－50	〃	
〃	B	25.7	1.5	0.5	21－42	20－49	〃	
〃	—	(20.2)	1.4	0.5	21－43	20－48	〃	
〃	B	26.0	1.5	0.5	21－44	20－47	〃	
〃	B	26.0	1.4	0.8	21－45	20－46	〃	
7－5	B	26.1	1.5	0.6	22－1	23－10	84	
〃	B	26.0	1.5	0.3	22－2	23－9	〃	

第38表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
7－5	B	26.2	1.5	0.5	22- 3	23- 8	84	
〃	B	26.0	1.5	0.5	22- 4	23- 7	〃	
〃	B	26.2	1.5	0.3	22- 5	23- 6	〃	
〃	B	(20.5)	1.3	0.6	22- 6	23- 5	〃	
〃	B	(20.5)	1.3	0.6	22- 7	23- 4	〃	
〃	B	(21.1)	1.3	0.3	22- 8	23- 3	〃	
〃	B	(20.6)	1.3	0.5	22- 9	23- 2	〃	
〃	B	(23.7)	1.2	0.5	22- 10	23- 1	〃	
〃	B	(20.7)	1.2	0.6	22- 11	22- 29	〃	
〃	B	(20.7)	1.4	0.4	22- 12	22- 28	〃	
〃	B	(20.7)	1.3	0.4	22- 13	22- 27	〃	
〃	B	(20.6)	1.3	0.4	22- 14	22- 26	〃	
〃	B	(20.4)	1.4	0.4	22- 15	22- 25	〃	
〃	B	(20.4)	1.5	0.5	22- 16	22- 24	〃	
〃	B	(20.4)	1.4	0.5	22- 17	22- 23	〃	
〃	B	(20.3)	1.3	0.4	22- 18	22- 22	〃	
〃	B	(20.4)	1.3	0.4	22- 19	未記入	〃	片面写経
〃	B	(20.4)	1.3	0.6	22- 20	22- 21	〃	
7－6	B	(26.9)	(1.6)	0.6	23- 11	23- 52	85	巻束番号「七之六」
〃	B	27.0	1.6	0.6	23- 12	23- 51	〃	
〃	B	27.1	1.5	0.4	23- 13	23- 50	〃	
〃	B	27.1	1.55	0.5	23- 14	23- 49	〃	
〃	B	27.1	1.55	0.6	23- 15	23- 48	〃	
〃	B	27.1	1.55	0.5	23- 16	23- 47	〃	
〃	B	27.1	1.5	0.8	23- 17	23- 46	〃	
〃	B	26.8	1.6	0.3	23- 18	23- 45	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.7	23- 19	23- 44	〃	
〃	B	26.4	1.5	0.6	23- 20	23- 43	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.5	23- 21	23- 42	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.5	23- 22	23- 41	〃	
〃	B	27.0	1.5	0.5	23- 23	23- 40	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.4	23- 24	23 39	〃	
〃	B	26.9	1.6	0.5	23- 25	23- 38	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.6	23- 26	23- 37	〃	
〃	A	26.8	1.7	0.7	23- 27	23- 36	〃	
〃	A	26.8	1.6	0.8	23- 28	23- 35	〃	
〃	A	26.7	1.6	0.5	23- 29	23- 34	〃	
〃	A	26.6	1.7	0.5	23- 30	23- 33	〃	
〃	A	26.7	1.6	0.5	23- 31	23- 32	〃	
7－7	B	26.3	1.5	0.6	23- 53	23- 92	86	巻束番号「七之七」
〃	B	26.5	1.4	0.6	23- 54	23- 91	〃	
〃	B	26.4	1.4	0.7	23- 55	23- 90	〃	
〃	B	26.2	1.4	0.5	23- 56	23- 89	〃	
〃	B	26.5	1.4	0.7	23- 57	23- 88	〃	
〃	B	26.5	1.4	0.7	23- 58	23- 87	〃	
〃	B	26.3	1.4	0.7	23- 59	23- 86	〃	
〃	B	26.5	1.3	0.7	23- 60	23- 85	〃	
〃	B	26.5	1.4	0.6	23- 61	23- 84	〃	
〃	B	26.9	1.4	0.6	23- 62	23- 83	〃	
〃	B	26.5	1.4	0.5	23- 63	23- 82	〃	

第 39 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長（cm）	幅（cm）	厚（mm）	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
7－7	B	26.5	1.3	0.5	23- 64	23- 81	86	
〃	B	26.2	1.3	0.6	23- 65	23- 80	〃	
〃	B	26.1	1.3	0.6	23- 66	23- 79	〃	
〃	B	(18.8)	1.3	0.6	23- 67	23- 78	〃	
〃	B	(18.7)	1.2	0.6	23- 68	23- 77	〃	
〃	B	(26.7)	1.4	0.6	23- 69	23- 76	〃	
〃	B	(26.6)	1.3	0.7	23- 70	23- 75	〃	
〃	B	(26.1)	1.3	0.6	23- 71	23- 74	〃	
〃	B	(26.1)	1.4	0.6	23- 72	23- 73	〃	
7－8	B	(25.1)	1.5	0.8	23- 93	23-127	87	巻束番号「七之八」
〃	B	26.1	1.3	0.5	23- 94	23-126	〃	
〃	B	26.3	1.35	0.5	23- 95	23-125	〃	
〃	B	26.2	1.3	0.5	23- 96	23-124	〃	
〃	B	26.4	1.4	0.6	23- 97	23-123	〃	
〃	B	25.8	1.5	0.3	23- 98	23-122	〃	
〃	B	26.2	1.3	0.4	23- 99	23-121	〃	
〃	B	26.1	1.5	0.6	23-100	23-120	〃	
〃	B	(24.7)	1.4	0.5	23-101	23-119	〃	
〃	B	(24.8)	1.4	0.5	23-102	23-118	〃	
〃	B	(24.7)	1.5	0.4	23-103	23-117	〃	
〃	B	(23.3)	1.3	0.6	23-104	未記入	〃	片面写経
〃	B	(26.2)	1.3	0.5	23-105	23-116	〃	
〃	B	(26.2)	1.5	0.7	23-106	23-115	〃	
〃	B	26.1	1.4	0.7	23-107	23-114	〃	
〃	B	26.1	1.4	0.7	23-108	23-113	〃	
〃	B	26.4	1.55	0.4	23-109	23-112	〃	
〃	B	25.7	1.4	0.4	23-110	23-111	〃	
7－9	B	27.5	1.5	0.5	23-128	23-167	88	巻束番号「七之九」
〃	B	27.5	1.55	0.6	23-129	23-166	〃	
〃	B	25.8	1.4	0.5	23-130	23-165	〃	
〃	B	25.3	1.4	0.5	23-131	23-164	〃	
〃	B	25.7	1.4	0.5	23-132	23-163	〃	
〃	B	27.4	1.6	0.7	23-133	23-162	〃	
〃	B	27.3	1.5	0.6	23-134	23-161	〃	
〃	B	27.5	1.5	0.5	23-135	23-160	〃	
〃	B	27.5	1.6	0.6	23-136	23-159	〃	
〃	B	27.5	1.55	0.6	23-137	23-158	〃	
〃	A	26.7	1.6	0.5	23-138	23-157	〃	
〃	B	27.3	1.4	0.5	23-139	23-156	〃	
〃	B	27.3	1.5	0.5	23-140	23-155	〃	
〃	B	27.3	1.4	0.5	23-141	23-154	〃	
〃	B	26.0	1.5	0.6	23-142	23-153	〃	
〃	B	26.1	1.5	0.6	23-143	23-152	〃	
〃	B	26.1	1.5	0.7	23-144	23-151	〃	
〃	B	25.8	1.5	0.9	23-145	23-150	〃	
〃	A	26.5	1.6	0.4	23-146	23-149	〃	
〃	B	27.4	1.6	0.5	23-147	23-148	〃	
7－10	B	27.4	(1.6)	0.4	24- 1	24- 40	89	巻束番号「七之十」
〃	B	27.1	1.6	0.6	24- 2	24- 39	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.5	24- 3	24- 38	〃	

第 40 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
7−10	B	27.2	1.6	0.5	24− 4	24− 37	89	
〃	B	27.1	1.5	0.3	24− 5	24− 36	〃	
〃	B	27.3	1.6	0.5	24− 6	24− 35	〃	
〃	B	25.9	1.5	0.6	24− 7	24− 34	〃	
〃	B	26.5	1.6	0.6	24− 8	24− 33	〃	
〃	B	27.2	1.5	0.5	24− 9	24− 32	〃	
〃	B	27.3	1.5	0.5	24− 10	24− 31	〃	
〃	B	27.2	(1.4)	0.5	24− 11	24− 30	〃	
〃	B	27.1	1.6	0.7	24− 12	24− 29	〃	
〃	B	27.2	1.6	0.5	24− 13	24− 28	〃	
〃	B	(25.8)	1.6	0.3	24− 14	24− 27	〃	
〃	B	27.2	1.6	0.5	24− 15	24− 26	〃	
〃	B	27.3	1.6	0.5	24− 16	24− 25	〃	
〃	A	26.8	1.6	0.6	24− 17	24− 24	〃	
〃	B	27.5	1.5	0.4	24− 18	24− 23	〃	
〃	B	27.5	1.6	0.5	24− 19	24− 22	〃	
〃	B	27.6	(1.6)	0.5	24− 20	24− 21	〃	
7−11	B	33.4	1.5	0.6	24− 41	24− 77	90	巻束番号「七之十壹」
〃	B	(33.0)	1.5	0.6	24− 42	24− 76	〃	
〃	B	33.4	1.5	0.5	24− 43	未記入	〃	片面写経
〃	B	(32.5)	1.5	0.6	24− 44	24− 75	〃	
〃	B	35.0	1.5	0.7	24− 45	24− 74	〃	
〃	B	(32.4)	1.6	0.8	24− 46	24− 73	〃	
〃	B	34.9	1.6	1.0	24− 47	24− 72	〃	
〃	B	(32.4)	1.5	0.7	24− 48	24− 71	〃	
〃	B	34.9	1.6	1.0	24− 49	24− 70	〃	
〃	B	(32.4)	1.4	0.9	24− 50	24− 69	〃	
〃	B	34.8	1.6	1.0	24− 51	24− 68	〃	
〃	B	(32.2)	(1.4)	0.5	24− 52	24− 67	〃	
〃	B	(31.7)	1.6	0.5	24− 53	24− 66	〃	
〃	B	(32.1)	1.5	0.5	24− 54	24− 65	〃	
〃	B	34.6	1.6	0.6	24− 55	24− 64	〃	
〃	B	(32.5)	1.6	0.7	24− 56	24− 63	〃	
〃	B	34.6	1.5	1.0	24− 57	24− 62	〃	
〃	B	34.1	1.6	0.9	24− 58	24− 61	〃	
〃	B	(32.2)	1.5	0.4	24− 59	24− 60	〃	
7−12	B	32.7	1.7	0.9	24− 78	未記入	91	片面写経，巻束番号「七之十貳」
〃	B	32.6	1.7	0.5	24− 79	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.7	0.7	24− 80	〃	〃	〃
〃	B	32.5	(1.4)	1.0	24− 81	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.7	0.8	24− 82	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.7	0.8	24− 83	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.5	24− 84	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.5	24− 85	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.9	24− 86	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.5	0.9	24− 87	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.3	24− 88	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.4	24− 89	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.3	24− 90	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.6	0.5	24− 91	〃	〃	〃

第41表　SG16出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
7−12	B	32.6	1.7	0.5	24− 92	未記入	91	片面写経
〃	B	32.7	1.7	0.5	24− 93	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.6	24− 94	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.7	0.7	24− 95	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.5	0.9	24− 96	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.6	0.9	24− 97	〃	〃	〃
7−13	B	(25.7)	(1.5)	0.5	24− 98	〃	92	片面写経，巻束番号「七之十参」
〃	B	(25.7)	1.5	0.5	24− 99	〃	〃	〃
〃	B	(25.3)	1.6	0.5	24−100	〃	〃	〃
〃	B	(26.0)	1.4	0.6	24−101	〃	〃	〃
〃	B	(27.2)	1.6	0.5	24−102	〃	〃	〃
〃	B	(26.2)	1.7	0.5	24−103	〃	〃	〃
〃	B	(26.1)	1.7	0.5	24−104	〃	〃	〃
〃	B	(26.1)	1.4	0.7	24−105	〃	〃	〃
〃	B	(27.1)	1.6	0.4	24−106	〃	〃	〃
〃	B	(27.2)	(1.5)	0.6	24−107	〃	〃	〃
〃	B	(25.7)	(1.0)	1.0	24−108	〃	〃	〃
〃	—	—	—	—	24−109	〃	—	〃 ※
〃	—	—	—	—	24−110	〃	—	〃 ※
〃	B	(25.8)	(1.5)	0.6	24−111	24−124	92	
〃	B	(26.3)	1.6	0.6	24−112	24−123	〃	
〃	B	(27.0)	1.6	0.3	24−113	24−122	〃	
〃	—	—	—	—	24−114	24−121	—	※
〃	B	(27.0)	1.6	0.6	24−115	24−120	92	
〃	B	(25.7)	1.6	0.5	24−116	24−119	〃	
〃	—	(24.2)	(1.5)	0.5	24−117	24−118	〃	
8−1	—	—	—	—	25− 1	25− 40	—	※
〃	B	32.2	1.6	0.5	25− 2	25− 39	93	
〃	B	(32.3)	1.6	0.7	25− 3	25− 38	〃	
〃	—	(20.2)	1.6	0.7	25− 4	25− 37	〃	
〃	B	32.4	1.7	1.0	25− 5	25− 36	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.6	25− 6	25− 35	〃	
〃	B	32.2	1.6	0.6	25− 7	25− 34	〃	
〃	B	32.5	1.7	0.6	25− 8	25− 33	〃	
〃	B	(29.9)	1.5	0.6	25− 9	25− 32	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.6	25− 10	25− 31	〃	
〃	B	32.2	1.6	0.5	25− 11	25− 30	〃	
〃	B	32.4	1.7	0.8	25− 12	25− 29	〃	
〃	B	32.4	1.6	0.9	25− 13	25− 28	〃	
〃	B	32.4	1.6	0.7	25− 14	25− 27	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.7	25− 15	25− 26	〃	
〃	B	32.5	1.5	0.4	25− 16	25− 25	〃	
〃	B	32.4	1.6	0.6	25− 17	25− 24	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.7	25− 18	25− 23	〃	
〃	B	32.4	1.5	0.6	25− 19	25− 22	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.7	25− 20	25− 21	〃	
8−2	B	(32.3)	1.65	0.5	25− 41	25− 80	94	巻束番号「八之二」
〃	B	(32.7)	1.7	0.4	25− 42	25− 79	〃	
〃	B	(32.1)	1.8	0.6	25− 43	25− 78	〃	
〃	B	32.5	1.8	0.7	25− 44	25− 77	〃	

第 42 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
8－2	B	32.8	1.8	1.0	25- 45	25- 76	94	
〃	B	32.9	1.8	0.7	25- 46	25- 75	〃	
〃	B	32.7	1.8	0.3	25- 47	25- 74	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.8	25- 48	25- 73	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.9	25- 49	25- 72	〃	
〃	B	33.1	1.8	0.5	25- 50	25- 71	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.9	25- 51	25- 70	〃	
〃	B	32.2	1.6	0.5	25- 52	25- 69	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.5	25- 53	25- 68	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.5	25- 54	25- 67	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.5	25- 55	25- 66	〃	
〃	B	32.9	1.6	0.4	25- 56	25- 65	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.4	25- 57	25- 64	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.6	25- 58	25- 63	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.4	25- 59	25- 62	〃	
〃	B	33.0	1.8	0.7	25- 60	25- 61	〃	
8－3	B	31.7	1.8	0.5	25- 81	25-120	95	巻頭番号「八之三」
〃	B	31.7	1.8	0.5	25- 82	25-119	〃	
〃	B	31.8	1.8	0.7	25- 83	25-118	〃	
〃	B	32.0	1.8	0.9	25- 84	25-117	〃	
〃	B	32.0	1.8	0.8	25- 85	25-116	〃	
〃	B	31.9	(0.9)	0.4	25- 86	25-115	〃	
〃	B	(23.5)	(1.1)	0.3	25- 87	25-114	〃	
〃	B	(19.7)	(1.2)	0.4	25- 88	25-113	〃	
〃	B	(25.3)	(1.5)	0.6	25- 89	25-112	〃	
〃	—	—	—	—	25- 90	25-111	—	※
〃	—	—	—	—	25- 91	25-110	—	※
〃	B	(28.2)	1.8	0.4	25- 92	25-109	95	
〃	—	—	—	—	25- 93	25-108	—	※
〃	—	—	—	—	25- 94	25-107	—	※
〃	B	(11.0)	(1.6)	0.5	25- 95	25-106	95	
〃	B	(32.0)	1.7	0.8	25- 96	25-105	〃	
〃	B	(22.5)	1.4	0.4	25- 97	25-104	〃	
〃	—	—	—	—	25- 98	25-103	—	※
〃	—	—	—	—	25- 99	25-102	—	※
〃	—	—	—	—	25-100	25-101	—	※
8－4	—	(21.8)	(1.4)	0.3	25-121	26- 37	96	巻頭番号「八之口」
〃	B	(32.7)	1.6	0.6	25-122	26- 36	〃	
〃	B	32.6	1.6	1.0	25-123	26- 35	〃	
〃	B	(26.5)	1.8	0.4	26- 1	26- 34	〃	
〃	B	32.3	1.7	0.7	26- 2	26- 33	〃	
〃	B	32.4	1.8	0.3	26- 3	26- 32	〃	
〃	B	32.7	1.7	0.3	26- 4	26- 31	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.6	26- 5	26- 30	〃	
〃	B	32.7	1.6	0.5	26- 6	26- 29	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.4	26- 7	26- 28	〃	
〃	B	(26.7)	1.8	0.5	26- 8	26- 27	〃	
〃	B	32.8	1.7	1.0	26- 9	26- 26	〃	
〃	B	32.7	1.65	0.6	26- 10	26- 25	〃	
〃	B	(31.1)	(1.4)	0.8	26- 11	26- 24	〃	

第 43 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
8－4	B	32.3	1.6	1.1	26- 12	26- 23	96	
〃	B	32.8	1.5	0.5	26- 13	26- 22	〃	
〃	B	(28.6)	1.65	0.7	26- 14	26- 21	〃	
〃	B	(30.9)	1.4	0.6	26- 15	26- 20	〃	
〃	B	32.7	1.4	0.5	26- 16	26- 19	〃	
〃	B	(32.4)	(1.5)	0.5	26- 17	26- 18	〃	
8－5	B	33.3	1.7	1.0	26- 38	26- 77	97	巻束番号「八之五」
〃	B	33.2	1.65	1.0	26- 39	26- 76	〃	
〃	B	33.3	1.7	0.8	26- 40	26- 75	〃	
〃	B	33.2	1.7	0.8	26- 41	26- 74	〃	
〃	B	32.9	1.7	0.7	26- 42	26- 73	〃	
〃	B	33.0	(1.5)	1.2	26- 43	26- 72	〃	
〃	B	33.2	1.5	1.1	26- 44	26- 71	〃	
〃	B	32.8	1.5	1.1	26- 45	26- 70	〃	
〃	B	33.0	1.5	0.8	26- 46	26- 69	〃	
〃	B	32.8	1.7	0.4	26- 47	26- 68	〃	
〃	B	33.1	1.5	0.5	26- 48	26- 67	〃	
〃	B	(32.8)	1.5	0.6	26- 49	26- 66	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.5	26- 50	26- 65	〃	
〃	B	33.1	(1.6)	1.6	26- 51	26- 64	〃	
〃	B	33.0	(1.3)	0.4	26- 52	26- 63	〃	
〃	B	33.1	(1.3)	0.5	26- 53	26- 62	〃	
〃	B	33.0	1.7	0.9	26- 54	26- 61	〃	
〃	B	(32.8)	(1.4)	0.7	26- 55	26- 60	〃	
〃	B	33.0	1.6	0.3	26- 56	26- 59	〃	
〃	B	33.0	(1.8)	0.4	26- 57	26- 58	〃	
8－6	B	33.6	1.6	1.0	26- 78	27- 28	98	巻束番号「八之六」
〃	B	33.6	(1.6)	0.4	26- 79	27- 27	〃	
〃	B	33.5	1.7	0.5	26- 80	27- 26	〃	
〃	B	(24.0)	(1.8)	0.6	26- 81	27- 25	〃	
〃	B	(24.5)	(1.7)	0.8	26- 82	27- 24	〃	
〃	B	(26.3)	(1.2)	0.4	26- 83	27- 23	〃	
〃	B	(26.0)	(1.2)	0.5	26- 84	27- 22	〃	
〃	B	(14.9)	(1.2)	0.3	26- 85	27- 21	〃	
〃	B	(15.6)	(1.5)	0.6	26- 86	27- 20	〃	
〃	—	—	—	—	26- 87	27- 19	—	楽
〃	B	33.2	(1.7)	0.5	26- 88	27- 18	98	
〃	B	33.3	(1.7)	0.3	26- 89	27- 17	〃	
〃	B	33.4	1.5	0.9	27- 1	27- 16	〃	
〃	B	(26.2)	(1.5)	0.6	27- 2	27- 15	〃	
〃	B	(18.0)	(1.3)	0.3	27- 3	27- 14	〃	
〃	B	(23.0)	(1.7)	0.5	27- 4	27- 13	〃	
〃	B	(24.8)	1.6	1.2	27- 5	27- 12	〃	
〃	B	33.4	1.7	1.1	27- 6	27- 11	〃	
〃	B	(32.0)	(1.4)	0.7	27- 7	27- 10	〃	
〃	B	(17.5)	1.6	0.8	27- 8	27- 9	〃	
8－7	B	(32.4)	1.6	0.4	27- 29	27- 68	99	巻束番号「八ロセ」
〃	B	32.4	1.55	0.4	27- 30	27- 67	〃	
〃	B	32.5	1.55	0.3	27- 31	27- 66	〃	
〃	B	32.6	1.55	0.7	27- 32	27- 65	〃	

第 44 表　ＳＧ１６出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
8－7	B	32.5	1.58	0.9	27－ 33	27－ 64	99	
〃	B	32.6	1.58	0.5	27－ 34	27－ 63	〃	
〃	B	32.7	1.55	0.9	27－ 35	27－ 62	〃	
〃	B	(32.6)	1.55	0.9	27－ 36	27－ 61	〃	
〃	B	32.7	1.65	0.3	27－ 37	27－ 60	〃	
〃	B	32.5	1.55	0.5	27－ 38	27－ 59	〃	
〃	B	32.7	1.58	0.4	27－ 39	27－ 58	〃	
〃	B	32.6	1.7	0.3	27－ 40	27－ 57	〃	
〃	B	(32.7)	1.65	0.5	27－ 41	27－ 56	〃	
〃	B	(32.6)	(1.6)	0.7	27－ 42	27－ 55	〃	
〃	B	(32.7)	1.6	0.6	27－ 43	27－ 54	〃	
〃	B	32.8	1.6	0.4	27－ 44	27－ 53	〃	
〃	B	32.5	1.6	0.5	27－ 45	27－ 52	〃	
〃	B	(32.6)	1.65	0.5	27－ 46	27－ 51	〃	
〃	B	(27.3)	1.65	0.5	27－ 47	27－ 50	〃	
〃	B	32.8	1.62	0.2	27－ 48	27－ 49	〃	
8－8	B	(32.9)	1.68	0.4	27－ 69	28－ 5	100	巻束番号「八之八」
〃	B	33.1	1.65	0.5	27－ 70	28－ 4	〃	
〃	B	33.2	1.65	0.3	27－ 71	28－ 3	〃	
〃	B	33.1	1.6	0.3	27－ 72	28－ 2	〃	
〃	B	33.2	1.6	0.5	27－ 73	27－ 1	〃	
〃	B	33.3	1.6	0.4	27－ 74	27-103	〃	
〃	B	32.9	1.4	0.4	27－ 75	27-102	〃	
〃	B	32.8	1.5	0.4	27－ 76	27-101	〃	
〃	B	33.4	1.5	0.4	27－ 77	27-100	〃	
〃	B	(33.3)	1.55	0.6	27－ 78	27－ 99	〃	
〃	B	33.4	1.6	0.5	27－ 79	27－ 98	〃	
〃	B	(33.5)	1.6	0.3	27－ 80	27－ 97	〃	
〃	B	(33.3)	1.5	0.8	27－ 81	27－ 96	〃	
〃	B	33.3	1.5	0.5	27－ 82	27－ 95	〃	
〃	B	32.6	1.6	0.3	27－ 83	27－ 94	〃	
〃	B	33.4	1.6	0.5	27－ 84	27－ 93	〃	
〃	B	33.5	1.6	1.0	27－ 85	27－ 92	〃	
〃	B	33.6	1.6	0.5	27－ 86	27－ 91	〃	
〃	B	(33.5)	1.7	0.3	27－ 87	27－ 90	〃	
〃	B	(28.2)	(1.5)	0.3	27－ 88	27－ 89	〃	
8－9	B	32.8	1.4	0.4	28－ 6	28－ 45	101	巻束番号「八之九」
〃	B	32.8	1.2	1.0	28－ 7	28－ 44	〃	
〃	B	32.7	1.3	0.7	28－ 8	28－ 43	〃	
〃	B	(32.8)	1.4	1.1	28－ 9	28－ 42	〃	
〃	B	32.7	1.3	0.7	28－ 10	28－ 41	〃	
〃	B	(29.9)	1.3	1.0	28－ 11	28－ 40	〃	
〃	—	—	—	—	28－ 12	28－ 39	—	※
〃	B	(10.9)	(1.3)	0.4	28－ 13	28－ 38	101	
〃	B	(10.5)	(1.0)	1.1	28－ 14	28－ 37	〃	
〃	B	(23.2)	1.4	1.1	28－ 15	28－ 36	〃	
〃	—	—	—	—	28－ 16	28－ 35	—	※
〃	B	(11.7)	(1.2)	1.2	28－ 17	28－ 34	101	
〃	—	—	—	—	28－ 18	28－ 33	—	※
〃	B	(11.2)	(1.1)	0.8	28－ 19	28－ 32	101	

第 45 表　SG16 出土柿経観察復原表

巻・束	頭部形態	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	経文 表面 品・行	経文 裏面 品・行	図版番号	備考
8－9	B	(12.1)	(1.2)	0.5	28- 20	28- 31	101	
〃	B	(13.6)	(1.2)	0.9	28- 21	28- 30	〃	
〃	B	(14.8)	(1.3)	0.4	28- 22	28- 29	〃	
〃	B	(33.2)	(1.3)	0.6	28- 23	28- 28	〃	
〃	B	32.8	(1.3)	0.8	28- 24	28- 27	〃	
〃	B	(19.9)	(1.3)	1.0	28- 25	28- 26	〃	
8－10	B	32.8	1.4	0.9	28- 46	28- 85	102	巻束番号「八之十」
〃	B	32.7	1.35	0.8	28- 47	28- 84	〃	
〃	B	32.8	1.4	0.4	28- 48	28- 83	〃	
〃	—	(31.4)	1.4	0.5	28- 49	28- 82	〃	
〃	B	32.8	1.3	1.3	28- 50	28- 81	〃	
〃	B	32.9	1.3	0.8	28- 51	28- 80	〃	
〃	B	32.8	1.3	0.8	28- 52	28- 79	〃	
〃	B	32.9	1.3	1.0	28- 53	28- 78	〃	
〃	B	32.8	1.3	1.1	28- 54	28- 77	〃	
〃	B	32.8	1.4	0.9	28- 55	28- 76	〃	
〃	B	32.9	1.3	0.8	28- 56	28- 75	〃	
〃	B	32.9	1.3	0.9	28- 57	28- 74	〃	
〃	B	(32.7)	1.4	1.0	28- 58	28- 73	〃	
〃	B	32.9	(1.4)	0.7	28- 59	28- 72	〃	
〃	B	32.8	1.3	1.0	28- 60	28- 71	〃	
〃	B	32.9	1.4	0.7	28- 61	28- 70	〃	
〃	B	32.8	1.4	0.5	28- 62	28- 69	〃	
〃	B	32.7	(1.3)	0.7	28- 63	28- 68	〃	
〃	B	32.6	1.3	1.0	28- 64	28- 67	〃	
〃	B	(32.5)	1.4	1.0	28- 65	28- 66	〃	
8－11	B	32.4	1.5	0.3	28- 86	未記入	103	片面写経，巻束番号「八之十一」
〃	A	(21.6)	1.4	0.3	28- 87	〃	〃	〃
〃	B	(24.6)	1.5	0.5	28- 88	〃	〃	〃
〃	B	(25.6)	1.6	0.6	28- 89	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.6	0.7	28- 90	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.6	0.3	28- 91	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.5	1.0	28- 92	〃	〃	〃
〃	B	32.3	1.5	0.4	28- 93	〃	〃	〃
〃	B	32.7	1.5	0.5	28- 94	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.6	0.3	28- 95	〃	〃	〃
〃	B	32.6	1.6	0.3	28- 96	〃	〃	〃
〃	B	32.5	1.5	0.4	28- 97	28-104	〃	
〃	B	32.5	1.4	0.3	28- 98	28-103	〃	
〃	B	32.9	1.5	0.5	28- 99	28-102	〃	
〃	B	32.9	1.5	0.4	28-100	28-101	〃	

第46表　SG16出土柿経観察復原表

井相田C遺跡出土柿経の復元

――出土柿経片等の経文同定――

法華経巻第一～巻第八

――柿経の巻束ごとの復元について――

○経文は、巻束ごとに区切った。巻束は、柿経に書いた、束の順番を示す巻束番号に基づく。

○出土した柿経で、確認した経文を黒字、未確認を赤字で示した。

○柿経に書写している経文の表裏関係を示すため、板の表に書写している経文をa、その板の裏に書写している経文をaというように、アルファベットで表裏関係を表示した。

○経文の「巻名」、「品題」、「行数」は、各行の経文の上に数字で表示した。例えば、一―一―5と表示している場合は、巻第一の序品第一の5行目のことである。

○「巻名」と「品題」が連続する場合は、「巻名」と「品題」の表示は省略した。

卷第一－一

1 a 妙法蓮華經序品第一
2 b 如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
3 c 大比丘衆萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已
4 d 盡無復煩惱逮得己利盡諸有結心得自在
5 e 其名曰阿若憍陳如摩訶迦葉優樓頻螺迦
6 f 葉伽耶迦葉那提迦葉舍利弗大目犍連摩
7 g 訶迦旃延阿㝹樓馱劫賓那憍梵波提離婆
8 h 多畢陵伽婆蹉薄拘羅摩訶拘絺羅難陀孫
9 i 陀羅難陀富樓那彌多羅尼子須菩提阿難
10 j 羅睺羅如是衆所知識大阿羅漢等復有學
11 k 無學二千人摩訶波闍波提比丘尼與眷屬
12 l 六千人俱羅睺羅母耶輸陀羅比丘尼亦與
13 m 眷屬俱菩薩摩訶薩八萬人皆於阿耨多羅
14 n 三藐三菩提不退轉皆得陀羅尼樂說辯才
15 o 轉不退轉法輪供養無量百千諸佛於諸佛
16 p 所殖衆德本常為諸佛之所稱歎以慈修身
17 q 善入佛慧通達大智到於彼岸名稱普聞無
18 r 量世界能度無數百千衆生其名曰文殊師
19 s 利菩薩觀世音菩薩得大勢菩薩常精進菩
20 t 薩不休息菩薩寶掌菩薩藥王菩薩勇施菩
21 t' 薩寶月菩薩月光菩薩滿月菩薩大力菩薩
22 s' 無量力菩薩越三界菩薩跋陀婆羅菩薩彌
23 r' 勒菩薩寶積菩薩導師菩薩如是等菩薩摩
24 q' 訶薩八萬人俱爾時釋提桓因與其眷屬二
25 p' 萬天子俱復有名月天子普香天子寶光天
26 o' 子四大天王與其眷屬萬天子俱自在天子
27 n' 大自在天子與其眷屬三萬天子俱娑婆世
28 m' 界主梵天王尸棄大梵光明大梵等與其眷
29 l' 屬萬二千天子俱有八龍王難陀龍王跋難
30 k' 陀龍王娑伽羅龍王和修吉龍王德叉迦龍
31 j' 王阿那婆達多龍王摩那斯龍王優鉢羅龍
32 i' 王等各與若干百千眷屬俱有四緊那羅王
33 h' 法緊那羅王妙法緊那羅王大法緊那羅王
34 g' 持法緊那羅王各與若干百千眷屬俱有四
35 f' 乾闥婆王樂乾闥婆王樂音乾闥婆王美乾
36 e' 闥婆王美音乾闥婆王各與若干百千眷屬
37 d' 俱有四阿修羅王婆稚阿修羅王佉羅騫馱
38 c' 阿修羅王毘摩質多羅阿修羅王羅睺阿修
39 b' 羅王各與若干百千眷屬俱有四迦樓羅王
40 a' 大威德迦樓羅王大身迦樓羅王大滿迦樓

卷第一－二

41 a 羅王如意迦樓羅王各與若干百千眷屬俱
42 b 韋提希子阿闍世王與若干百千眷屬俱各
43 c 禮佛足退坐一面爾時世尊四衆圍遶供養
44 d 恭敬尊重讚歎為諸菩薩說大乘經名無量
45 e 義教菩薩法佛所護念佛說此經已結加趺
46 f 坐入於無量義處三昧身心不動是時天雨
47 g 曼陀羅華摩訶曼陀羅華曼殊沙華摩訶曼
48 h 殊沙華而散佛上及諸大衆普佛世界六種
49 i 震動爾時會中比丘比丘尼優婆塞優婆夷
50 j 天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩
51 k 睺羅伽人非人及諸小王轉輪聖王是諸大
52 l 衆得未曾有歡喜合掌一心觀佛爾時佛放
53 m 眉間白毫相光照東方萬八千世界靡不周
54 n 遍下至阿鼻地獄上至阿迦尼吒天於此世
55 o 界盡見彼土六趣衆生又見彼土現在諸佛
56 p 及聞諸佛所說經法并見彼諸比丘比丘尼
57 q 優婆塞優婆夷諸修行得道者復見諸菩薩
58 r 摩訶薩種種因緣種種信解種種相貌行菩
59 s 薩道復見諸佛般涅槃者復見諸佛般涅槃
60 t 後以佛舍利起七寶塔爾時彌勒菩薩作是
61 t' 念今者世尊現神變相以何因緣而有此瑞
62 s' 今佛世尊入于三昧是不可思議現希有事
63 r' 當以問誰誰能答者復作此念是文殊師利
64 q' 法王之子已曾親近供養過去無量諸佛必
65 p' 應見此希有之相我今當問爾時比丘比丘
66 o' 尼優婆塞優婆夷及諸天龍鬼神等咸作此
67 n' 念是佛光明神通之相今當問誰爾時彌勒
68 m' 菩薩欲自決疑又觀四衆比丘比丘尼優婆
69 l' 塞優婆夷及諸天龍鬼神等衆會之心而問
70 k' 文殊師利言以何因緣而有此瑞神通之相
71 j' 放大光明照于東方萬八千土悉見彼佛國
72 i' 界莊嚴於是彌勒菩薩欲重宣此義以偈問
73 h' 曰
74 g' 文殊師利　導師何故　眉間白毫　大光普照
75 f' 雨曼陀羅　曼殊沙華　栴檀香風　悅可衆心
76 e' 以是因緣　地皆嚴淨　而此世界　六種震動
77 d' 時四部衆　咸皆歡喜　身意快然　得未曾有
78 c' 眉間光明　照于東方　萬八千土　皆如金色
79 b' 從阿鼻獄　上至有頂　諸世界中　六道衆生
80 a' 生死所趣　善惡業緣　受報好醜　於此悉見

卷第一－三

81 a 又覩諸佛　聖主師子　演說經典　微妙第一
82 b 其聲清淨　出柔軟音　教諸菩薩　無數億萬
83 c 梵音深妙　令人樂聞　各於世界　講說正法
84 d 種種因緣　以無量喻　照明佛法　開悟衆生
85 e 若人遭苦　厭老病死　為說涅槃　盡諸苦際
86 f 若人有福　曾供養佛　志求勝法　為說緣覺
87 g 若有佛子　修種種行　求無上慧　為說淨道
88 h 文殊師利　我住於此　見聞若斯　及千億事
89 i 如是衆多　今當略說　我見彼土　恒沙菩薩
90 j 種種因緣　而求佛道　或有行施　金銀珊瑚
91 k 真珠摩尼　硨磲瑪瑙　金剛諸珍　奴婢車乘
92 l 寶飾輦輿　歡喜布施　迴向佛道　願得是乘
93 m 三界第一　諸佛所歎　或有菩薩　駟馬寶車
94 n 欄楯華蓋　軒飾布施　復見菩薩　身肉手足
95 o 及妻子施　求無上道　又見菩薩　頭目身體
96 p 欣樂施與　求佛智慧　文殊師利　我見諸王
97 q 往詣佛所　問無上道　便捨樂土　宮殿臣妾
98 r 剃除鬚髮　而被法服　或見菩薩　而作比丘
99 s 獨處閑靜　樂誦經典　又見菩薩　勇猛精進
100 t 入於深山　思惟佛道　又見離欲　常處空閑
101 t' 深修禪定　得五神通　又見菩薩　安禪合掌
102 s' 以千萬偈　讚諸法王　復見菩薩　智深志固
103 r' 能問諸佛　聞悉受持　又見佛子　定慧具足
104 q' 以無量喻　為衆講法　欣樂說法　化諸菩薩
105 p' 破魔兵衆　而擊法鼓　又見菩薩　寂然宴默
106 o' 天龍恭敬　不以為喜　又見菩薩　處林放光
107 n' 濟地獄苦　令入佛道　又見佛子　未嘗睡眠
108 m' 經行林中　懃求佛道　又見具戒　威儀無缺
109 l' 淨如寶珠　以求佛道　又見佛子　住忍辱力
110 k' 增上慢人　惡罵捶打　皆悉能忍　以求佛道
111 j' 又見菩薩　離諸戲笑　及癡眷屬　親近智者
112 i' 一心除亂　攝念山林　億千萬歲　以求佛道
113 h' 或見菩薩　餚饍飲食　百種湯藥　施佛及僧
114 g' 名衣上服　價直千萬　或無價衣　施佛及僧
115 f' 千萬億種　栴檀寶舍　衆妙臥具　施佛及僧
116 e' 清淨園林　華果茂盛　流泉浴池　施佛及僧
117 d' 如是等施　種種微妙　歡喜無厭　求無上道
118 c' 或有菩薩　說寂滅法　種種教詔　無數衆生
119 b' 或見菩薩　觀諸法性　無有二相　猶如虛空
120 a' 又見佛子　心無所著　以此妙慧　求無上道

卷第一－四

121 a 文殊師利　又有菩薩　佛滅度後　供養舍利
122 b 又見佛子　造諸塔廟　無數恒沙　嚴飾國界
123 c 寶塔高妙　五千由旬　縱廣正等　二千由旬
124 d 一一塔廟　各千幢幡　珠交露幔　寶鈴和鳴
125 e 諸天龍神　人及非人　香華伎樂　常以供養
126 f 文殊師利　諸佛子等　為供舍利　嚴飾塔廟
127 g 國界自然　殊特妙好　如天樹王　其華開敷
128 h 佛放一光　我及衆會　見此國界　種種殊妙
129 i 諸佛神力　智慧希有　放一淨光　照無量國
130 j 我等見此　得未曾有　佛子文殊　願決衆疑
131 k 四衆欣仰　瞻仁及我　世尊何故　放斯光明
132 l 佛子時答　決疑令喜　何所饒益　演斯光明
133 m 佛坐道場　所得妙法　為欲說此　為當授記
134 n 示諸佛土　衆寶嚴淨　及見諸佛　此非小緣
135 o 文殊當知　四衆龍神　瞻察仁者　為說何等
136 p 爾時文殊師利語彌勒菩薩摩訶薩及諸大
137 q 士善男子等如我惟忖今佛世尊欲說大法
138 r 雨大法雨吹大法螺擊大法鼓演大法義諸
139 s 善男子我於過去諸佛曾見此瑞放斯光已
140 t 即說大法是故當知今佛現光亦復如是欲
141 t' 令衆生咸得聞知一切世間難信之法故現
142 s' 斯瑞諸善男子如過去無量無邊不可思議
143 r' 阿僧祇劫爾時有佛號日月燈明如來應供
144 q' 正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈
145 p' 夫天人師佛世尊演說正法初善中善後善
146 o' 其義深遠其語巧妙純一無雜具足清白梵
147 n' 行之相為求聲聞者說應四諦法度生老病
148 m' 死究竟涅槃為求辟支佛者說應十二因緣
149 l' 法為諸菩薩說應六波羅蜜令得阿耨多羅
150 k' 三藐三菩提成一切種智次復有佛亦名日
151 j' 月燈明次復有佛亦名日月燈明如是二萬
152 i' 佛皆同一字號日月燈明又同一姓姓頗羅
153 h' 墮彌勒當知初佛後佛皆同一字名日月燈
154 g' 明十號具足所可說法初中後善其最後佛
155 f' 未出家時有八王子一名有意二名善意三
156 e' 名無量意四名寶意五名增意六名除疑意
157 d' 七名響意八名法意是八王子威德自在各
158 c' 領四天下是諸王子聞父出家得阿耨多羅
159 b' 三藐三菩提悉捨王位亦隨出家發大乘意
160 a' 常修梵行皆為法師已於千萬佛所殖諸善

卷第一—五

161 a 本是時日月燈明佛說大乘經名無量義教
162 b 菩薩法佛所護念說是經已即於大衆中結
163 c 跏趺坐入於無量義處三昧身心不動是時
164 d 天雨曼陀羅華摩訶曼陀羅華曼殊沙華摩
165 e 訶曼殊沙華而散佛上及諸大衆普佛世界
166 f 六種震動爾時會中比丘比丘尼優婆塞優
167 g 婆夷天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那
168 h 羅摩睺羅伽人非人及諸小王轉輪聖王等
169 i 是諸大衆得未曾有歡喜合掌一心觀佛爾
170 j 時如來放眉間白毫相光照東方萬八千佛
171 k 土靡不周遍如今所見是諸佛土彌勒當知
172 l 爾時會中有二十億菩薩樂欲聽法是諸菩
173 m 薩見此光明普照佛土得未曾有欲知此光
174 n 所爲因緣時有菩薩名曰妙光有八百弟子
175 o 是時日月燈明佛從三昧起因妙光菩薩說
176 p 大乘經名妙法蓮華教菩薩法佛所護念六
177 q 十小劫不起于座時會聽者亦坐一處六十
178 r 小劫身心不動聽佛所說謂如食頃是時衆
179 s 中無有一人若身若心而生懈惓日月燈明
180 t 佛於六十小劫說是經已即於梵魔沙門婆
181 t' 羅門及天人阿修羅衆中而宣此言如來於
182 s' 今日中夜當入無餘涅槃時有菩薩名曰德
183 r' 藏日月燈明佛即授其記告諸比丘是德藏
184 q' 菩薩次當作佛號曰淨身多陀阿伽度阿羅
185 p' 訶三藐三佛陀佛授記已便於中夜入無餘
186 o' 涅槃佛滅度後妙光菩薩持妙法蓮華經滿
187 n' 八十小劫爲人演說日月燈明佛八子皆師
188 m' 妙光妙光教化令其堅固阿耨多羅三藐三
189 l' 菩提是諸王子供養無量百千萬億佛已皆
190 k' 成佛道其最後成佛者名曰然燈八百弟子
191 j' 中有一人號曰求名貪著利養雖復讀誦衆
192 i' 經而不通利多所忘失故號求名是人亦以
193 h' 種諸善根因緣故得値無量百千萬億諸佛
194 g' 供養恭敬尊重讚歎彌勒當知爾時妙光菩
195 f' 薩豈異人乎我身是也求名菩薩汝身是也
196 e' 今見此瑞與本無異是故惟忖今日如來當
197 d' 說大乘經名妙法蓮華教菩薩法佛所護念
198 c' 爾時文殊師利於大衆中欲重宣此義而說
199 b' 偈言
200 a' 我念過去世 無量無數劫 有佛人中尊 號日月燈明

卷第一—六

201 a 世尊演說法 度無量衆生 無數億菩薩 令入佛智慧
202 b 佛未出家時 所生八王子 見大聖出家 亦隨修梵行
203 c 時佛說大乘 經名無量義 於諸大衆中 而爲廣分別
204 d 佛說此經已 即於法座上 跏趺坐三昧 名無量義處
205 e 天雨曼陀華 天鼓自然鳴 諸天龍鬼神 供養人中尊
206 f 一切諸佛土 即時大震動 佛放眉間光 現諸希有事
207 g 此光照東方 萬八千佛土 示一切衆生 生死業報處
208 h 有見諸佛土 以衆寶莊嚴 琉璃頗梨色 斯由佛光照
209 i 及見諸天人 龍神夜叉衆 乾闥緊那羅 各供養其佛
210 j 又見諸如來 自然成佛道 身色如金山 端嚴甚微妙
211 k 如淨琉璃中 內現眞金像 世尊在大衆 敷演深法義
212 l 一一諸佛土 聲聞衆無數 因佛光所照 悉見彼大衆
213 m 或有諸比丘 在於山林中 精進持淨戒 猶如護明珠
214 n 又見諸菩薩 行施忍辱等 其數如恒沙 斯由佛光照
215 o 又見諸菩薩 深入諸禪定 身心寂不動 以求無上道
216 p 又見諸菩薩 知法寂滅相 各於其國土 說法求佛道
217 q 爾時四部衆 見日月燈佛 現大神通力 其心皆歡喜
218 r 各各自相問 是事何因緣 天人所奉尊 適從三昧起
219 s 讚妙光菩薩 汝爲世間眼 一切所歸信 能奉持法藏
220 t 如我所說法 唯汝能證知 世尊既讚歎 令妙光歡喜
221 t' 說是法華經 滿六十小劫 不起於此座 所說上妙法
222 s' 是妙光法師 悉皆能受持 佛說是法華 令衆歡喜已
223 r' 尋即於是日 告於天人衆 諸法實相義 已爲汝等說
224 q' 我今於中夜 當入於涅槃 汝一心精進 當離於放逸
225 p' 諸佛甚難値 億劫時一遇 世尊諸子等 聞佛入涅槃
226 o' 各各懷悲惱 佛滅一何速 聖主法之王 安慰無量衆
227 n' 我若滅度時 汝等勿憂怖 是德藏菩薩 於無漏實相
228 m' 心已得通達 其次當作佛 號曰爲淨身 亦度無量衆
229 l' 佛此夜滅度 如薪盡火滅 分布諸舍利 而起無量塔
230 k' 比丘比丘尼 其數如恒沙 倍復加精進 以求無上道
231 j' 是妙光法師 奉持佛法藏 八十小劫中 廣宣法華經
232 i' 是諸八王子 妙光所開化 堅固無上道 當見無數佛
233 h' 供養諸佛已 隨順行大道 相繼得成佛 轉次而授記
234 g' 最後天中天 號曰燃燈佛 諸仙之導師 度脫無量衆
235 f' 是妙光法師 時有一弟子 心常懷懈怠 貪著於名利
236 e' 求名利無厭 多遊族姓家 棄捨所習誦 廢忘不通利
237 d' 以是因緣故 號之爲求名 亦行衆善業 得見無數佛
238 c' 供養於諸佛 隨順行大道 具六波羅蜜 今見釋師子
239 b' 其後當作佛 號名曰彌勒 廣度諸衆生 其數無有量
240 a' 彼佛滅度後 懈怠者汝是 妙光法師者 今則我身是

卷第一—七

241 a 我見燈明佛 本光瑞如此 以是知今佛 欲說法華經
242 b 今相如本瑞 是諸佛方便 今佛放光明 助發實相義
243 c 諸人今當知 合掌一心待 佛當雨法雨 充足求道者
244 d 諸求三乘人 若有疑悔者 佛當爲除斷 令盡無有餘
1 e 妙法蓮華經方便品第二
2 f 爾時世尊從三昧安詳而起告舍利弗諸佛
3 g 智慧甚深無量其智慧門難解難入一切聲
4 h 聞辟支佛所不能知所以者何佛曾親近百
5 i 千萬億無數諸佛盡行諸佛無量道法勇猛
6 j 精進名稱普聞成就甚深未曾有法隨宜所
7 k 說意趣難解舍利弗吾從成佛已來種種因
8 l 緣種種譬喩廣演言教無數方便引導衆生
9 m 令離諸著所以者何如來方便知見波羅蜜
10 n 皆已具足舍利弗如來知見廣大深遠無量
11 o 無礙力無所畏禪定解脫三昧深入無際成
12 p 就一切未曾有法舍利弗如來能種種分別
13 q 巧說諸法言辭柔軟悅可衆心舍利弗取要
14 r 言之無量無邊未曾有法佛悉成就止舍利
15 s 弗不須復說所以者何佛所成就第一希有
16 t 難解之法唯佛與佛乃能究盡諸法實相所
17 t' 謂諸法如是相如是性如是體如是力如是
18 s' 作如是因如是緣如是果如是報如是本末
19 r' 究竟等爾時世尊欲重宣此義而說偈言
20 q' 世雄不可量 諸天及世人 一切衆生類 無能知佛者
21 p' 佛力無所畏 解脫諸三昧 及佛諸餘法 無能測量者
22 o' 本從無數佛 具足行諸道 甚深微妙法 難見難可了
23 n' 於無量億劫 行此諸道已 道場得成果 我已悉知見
24 m' 如是大果報 種種性相義 我及十方佛 乃能知是事
25 l' 是法不可示 言辭相寂滅 諸餘衆生類 無有能得解
26 k' 除諸菩薩衆 信力堅固者 諸佛弟子衆 曾供養諸佛
27 j' 一切漏已盡 住是最後身 如是諸人等 其力所不堪
28 i' 假使滿世間 皆如舍利弗 盡思共度量 不能測佛智
29 h' 正使滿十方 皆如舍利弗 及餘諸弟子 亦滿十方刹
30 g' 盡思共度量 亦復不能知 辟支佛利智 無漏最後身
31 f' 亦滿十方界 其數如竹林 斯等共一心 於億無量劫
32 e' 欲思佛實智 莫能知少分 新發意菩薩 供養無數佛
33 d' 了達諸義趣 又能善說法 如稻麻竹葦 充滿十方刹
34 c' 一心以妙智 於恒河沙劫 咸皆共思量 不能知佛智
35 b' 不退諸菩薩 其數如恒沙 一心共思求 亦復不能知
36 a' 又告舍利弗 無漏不思議 甚深微妙法 我今已具得

卷第一—八

37 a 唯我知是相 十方佛亦然 舍利弗當知 諸佛語無異
38 b 於佛所說法 當生大信力 世尊法久後 要當說眞實
39 c 告諸聲聞衆 及求緣覺乘 我令脫苦縛 逮得涅槃者
40 d 佛以方便力 示以三乘教 衆生處處著 引之令得出
41 e 爾時大衆中有諸聲聞漏盡阿羅漢阿若憍
42 f 陳如等千二百人及發聲聞辟支佛心比丘
43 g 比丘尼優婆塞優婆夷各作是念今者世尊
44 h 何故慇懃稱歎方便而作是言佛所得法甚
45 i 深難解有所言說意趣難知一切聲聞辟支
46 j 佛所不能及佛說一解脫義我等亦得此法
47 k 到於涅槃而今不知是義所趣爾時舍利弗
48 l 知四衆心疑自亦未了而白佛言世尊何因
49 m 何緣慇懃稱歎諸佛第一方便甚深微妙難
50 n 解之法我自昔來未曾從佛聞如是說今者
51 o 四衆咸皆有疑唯願世尊敷演斯事世尊何
52 p 故慇懃稱歎甚深微妙難解之法爾時舍利
53 q 弗欲重宣此義而說偈言
54 r 慧日大聖尊 久乃說是法 自說得如是 力無畏三昧
55 s 禪定解脫等 不可思議法 道場所得法 無能發問者
56 t 我意難可測 亦無能問者 無問而自說 稱歎所行道
57 t' 智慧甚微妙 諸佛之所得 無漏諸羅漢 及求涅槃者
58 s' 今皆墮疑網 佛何故說是 其求緣覺者 比丘比丘尼
59 r' 諸天龍鬼神 及乾闥婆等 相視懷猶豫 瞻仰兩足尊
60 q' 是事爲云何 願佛爲解說 於諸聲聞衆 佛說我第一
61 p' 我今自於智 疑惑不能了 爲是究竟法 爲是所行道
62 o' 佛口所生子 合掌瞻仰待 願出微妙音 時爲如實說
63 n' 諸天龍神等 其數如恒沙 求佛諸菩薩 大數有八萬
64 m' 又諸萬億國 轉輪聖王至 合掌以敬心 欲聞具足道
65 l' 爾時佛告舍利弗止止不須復說若說是事
66 k' 一切世間諸天及人皆當驚疑舍利弗重白
67 j' 佛言世尊唯願說之唯願說之所以者何是
68 i' 會無數百千萬億阿僧祇衆生曾見諸佛諸
69 h' 根猛利智慧明了聞佛所說則能敬信爾時
70 g' 舍利弗欲重宣此義而說偈言
71 f' 法王無上尊 唯說願勿慮 是會無量衆 有能敬信者
72 e' 佛復止舍利弗若說是事一切世間天人阿
73 d' 修羅皆當驚疑增上慢比丘將墜於大坑爾
74 c' 時世尊重說偈言
75 b' 止止不須說 我法妙難思 諸增上慢者 聞必不敬信
76 a' 爾時舍利弗重白佛言世尊唯願說之唯願

巻第一—九

a 説之今此會中如我等比百千萬億世世已
b 曾從佛受化如此人等必能敬信長夜安隱
c 多所饒益爾時舍利弗欲重宣此義而説偈
d 言
e 無上兩足尊 願説第一法 我爲佛長子 唯垂分別説
f 是會無量衆 能敬信此法 佛已曾世世 教化如是等
g 皆一心合掌 欲聽受佛語 我等千二百 及餘求佛者
h 願爲此衆故 唯垂分別説 是等聞此法 則生大歡喜
i 爾時世尊告舍利弗汝已慇懃三請豈得不
j 説汝今諦聽善思念之吾當爲汝分別解説
k 説此語時會中有比丘比丘尼優婆塞優婆
l 夷五千人等即從座起禮佛而退所以者何
m 此輩罪根深重及增上慢未得謂得未證謂
n 證有如此失是以不住世尊默然而不制止
o 爾時佛告舍利弗我今此衆無復枝葉純有
p 貞實舍利弗如是增上慢人退亦佳矣汝今
q 善聽當爲汝説舍利弗言唯然世尊願樂欲
r 聞佛告舍利弗如是妙法諸佛如來時乃説
s 之如優曇鉢華時一現耳舍利弗汝等當信
t 佛之所説言不虚妄舍利弗諸佛隨宜説法
t' 意趣難解所以者何我以無數方便種種因
s' 縁譬喩言辭演説諸法是法非思量分別之
r' 所能解唯有諸佛乃能知之所以者何諸佛
q' 世尊唯以一大事因縁故出現於世舍利弗
p' 云何名諸佛世尊唯以一大事因縁故出現
o' 於世諸佛世尊欲令衆生開佛知見使得清
n' 淨故出現於世欲示衆生佛知見故出現於
m' 世欲令衆生悟佛知見故出現於世欲令衆
l' 生入佛知見道故出現於世舍利弗是爲諸
k' 佛以一大事因縁故出現於世佛告舍利
j' 弗諸佛如來但教化菩薩諸有所作常爲一
i' 事唯以佛之知見示悟衆生舍利弗如來但
h' 以一佛乘故爲衆生説法無有餘乘若二若
g' 三舍利弗一切十方諸佛法亦如是舍利弗
f' 過去諸佛以無量無數方便種種因縁譬喩
e' 言辭而爲衆生演説諸法是法皆爲一佛乘
d' 故是諸衆生從諸佛聞法究竟皆得一切種
c' 智舍利弗未來諸佛當出於世亦以無量無
b' 數方便種種因縁譬喩言辭而爲衆生演説
a' 諸法是法皆爲一佛乘故是諸衆生從佛聞

巻第一—十

a 法究竟皆得一切種智舍利弗現在十方無
b 量百千萬億佛土中諸佛世尊多所饒益安
c 樂衆生是諸佛亦以無量無數方便種種因
d 縁譬喩言辭而爲衆生演説諸法是法皆爲
e 一佛乘故是諸衆生從佛聞法究竟皆得一
f 切種智舍利弗是諸佛但教化菩薩欲以佛
g 之知見示衆生故欲以佛之知見悟衆生故
h 欲令衆生入佛知見道故舍利弗我今亦復
i 如是知諸衆生有種種欲深心所著隨其本
j 性以種種因縁譬喩言辭方便力故而爲説
k 法舍利弗如此皆爲得一佛乘一切種智故
l 舍利弗十方世界中尚無二乘何況有三舍
m 利弗諸佛出於五濁惡世所謂劫濁煩惱濁
n 衆生濁見濁命濁如是舍利弗劫濁亂時衆
o 生垢重慳貪嫉妬成就諸不善根故諸佛以
p 方便力於一佛乘分別説三舍利弗若我弟
q 子自謂阿羅漢辟支佛者不聞不知諸佛如
r 來但教化菩薩事此非佛弟子非阿羅漢非
s 辟支佛又舍利弗是諸比丘比丘尼自謂已
t 得阿羅漢是最後身究竟涅槃便不復志求
t' 阿耨多羅三藐三菩提當知此輩皆是增上
s' 慢人所以者何若有比丘實得阿羅漢若不
r' 信此法無有是處除佛滅度後現前無佛所
q' 以者何佛滅度後如是等經受持讀誦解義
p' 者是人難得若遇餘佛於此法中便得決
o' 了舍利弗汝等當一心信解受持佛語諸佛
n' 如來言無虚妄無有餘乘唯一佛乘爾時世
m' 尊欲重宣此義而説偈言
l' 比丘比丘尼 有懷增上慢 優婆塞我慢 優婆夷不信
k' 如是四衆等 其數有五千 不自見其過 於戒有缺漏
j' 護惜其瑕疵 是小智已出 衆中之糟糠 佛威德故去
i' 斯人尠福德 不堪受是法 此衆無枝葉 唯有諸貞實
h' 舍利弗善聽 諸佛所得法 無量方便力 而爲衆生説
g' 衆生心所念 種種所行道 若干諸欲性 先世善惡業
f' 佛悉知是已 以諸縁譬喩 言辭方便力 令一切歡喜
e' 或説修多羅 伽陀及本事 本生未曾有 亦説於因縁
d' 譬喩并祇夜 優波提舍經 鈍根樂小法 貪著於生死
c' 於諸無量佛 不行深妙道 衆苦所惱亂 爲是説涅槃
b' 我設是方便 令得入佛慧 未曾説汝等 當得成佛道
a' 所以未曾説 説時未至故 今正是其時 決定説大乘

巻第一—十一

a 我此九部法 隨順衆生説 入大乘爲本 以故説是經
b 有佛子心淨 柔軟亦利根 無量諸佛所 而行深妙道
c 爲此諸佛子 説是大乘經 我記如是人 來世成佛道
d 以深心念佛 修持淨戒故 此等聞得佛 大喜充遍身
e 佛知彼心行 故爲説大乘 聲聞若菩薩 聞我所説法
f 乃至於一偈 皆成佛無疑 十方佛土中 唯有一乘法
g 無二亦無三 除佛方便説 但以假名字 引導於衆生
h 説佛智慧故 諸佛出於世 唯此一事實 餘二則非眞
i 終不以小乘 濟度於衆生 佛自住大乘 如其所得法
j 定慧力莊嚴 以此度衆生 自證無上道 大乘平等法
k 若以小乘化 乃至於一人 我則墮慳貪 此事爲不可
l 若人信歸佛 如來不欺誑 亦無貪嫉意 斷諸法中惡
m 故佛於十方 而獨無所畏 我以相嚴身 光明照世間
n 無量衆所尊 爲説實相印 舍利弗當知 我本立誓願
o 欲令一切衆 如我等無異 如我昔所願 今者已滿足
p 化一切衆生 皆令入佛道 若我遇衆生 盡教以佛道
q 無智者錯亂 迷惑不受教 我知此衆生 未曾修善本
r 堅著於五欲 癡愛故生惱 以諸欲因縁 墜墮三惡道
s 輪迴六趣中 備受諸苦毒 受胎之微形 世世常增長
t 薄德少福人 衆苦所逼迫 入邪見稠林 若有若無等
t' 依止此諸見 具足六十二 深著虚妄法 堅受不可捨
s' 我慢自矜高 諂曲心不實 於千萬億劫 不聞佛名字
r' 亦不聞正法 如是人難度 是故舍利弗 我爲設方便
q' 説諸盡苦道 示之以涅槃 我雖説涅槃 是亦非眞滅
p' 諸法從本來 常自寂滅相 佛子行道已 來世得作佛
o' 我有方便力 開示三乘法 一切諸世尊 皆説一乘道
n' 今此諸大衆 皆應除疑惑 諸佛語無異 唯一無二乘
m' 過去無數劫 無量滅度佛 百千萬億種 其數不可量
l' 如是諸世尊 種種縁譬喩 無數方便力 演説諸法相
k' 是諸世尊等 皆説一乘法 化無量衆生 令入於佛道
j' 又諸大聖主 知一切世間 天人群生類 深心之所欲
i' 更以異方便 助顯第一義 若有衆生類 値諸過去佛
h' 若聞法布施 或持戒忍辱 精進禪智等 種種修福慧
g' 如是諸人等 皆已成佛道 諸佛滅度已 若人善軟心
f' 如是諸衆生 皆已成佛道 諸佛滅度已 供養舍利者
e' 起萬億種塔 金銀及頗梨 硨磲與碼碯 玫瑰琉璃珠
d' 清淨廣嚴飾 莊校於諸塔 或有起石廟 栴檀及沈水
c' 木櫁并餘材 甎瓦泥土等 若於曠野中 積土成佛廟
b' 乃至童子戲 聚沙爲佛塔 如是諸人等 皆已成佛道
a' 若人爲佛故 建立諸形像 刻彫成衆相 皆已成佛道

巻第一—十二

a 或以七寶成 鍮石赤白銅 白鑞及鉛錫 鐵木及與泥
b 或以膠漆布 嚴飾作佛像 如是諸人等 皆已成佛道
c 綵畫作佛像 百福莊嚴相 自作若使人 皆已成佛道
d 乃至童子戲 若草木及筆 或以指爪甲 而畫作佛像
e 如是諸人等 漸漸積功德 具足大悲心 皆已成佛道
f 但化諸菩薩 度脱無量衆 若人於塔廟 寶像及畫像
g 以華香幡蓋 敬心而供養 若使人作樂 擊鼓吹角貝
h 簫笛琴箜篌 琵琶鐃銅鈸 如是衆妙音 盡持以供養
i 或以歡喜心 歌唄頌佛德 乃至一小音 皆已成佛道
j 若人散亂心 乃至以一華 供養於畫像 漸見無數佛
k 或有人禮拜 或復但合掌 乃至舉一手 或復小低頭
l 以此供養像 漸見無量佛 自成無上道 廣度無數衆
m 入無餘涅槃 如薪盡火滅 若人散亂心 入於塔廟中
n 一稱南無佛 皆已成佛道 於諸過去佛 現在或滅後
o 若有聞是法 皆已成佛道 未來諸世尊 其數無有量
p 是諸如來等 亦方便説法 一切諸如來 以無量方便
q 度脱諸衆生 入佛無漏智 若有聞法者 無一不成佛
r 諸佛本誓願 我所行佛道 普欲令衆生 亦同得此道
s 未來世諸佛 雖説百千億 無數諸法門 其實爲一乘
t 諸佛兩足尊 知法常無性 佛種從縁起 是故説一乘
t' 是法住法位 世間相常住 於道場知已 導師方便説
s' 天人所供養 現在十方佛 其數如恒沙 出現於世間
r' 安隱衆生故 亦説如是法 知第一寂滅 以方便力故
q' 雖示種種道 其實爲佛乘 知衆生諸行 深心之所念
p' 過去所習業 欲性精進力 及諸根利鈍 以種種因縁
o' 譬喩亦言辭 隨應方便説 今我亦如是 安隱衆生故
n' 以種種法門 宣示於佛道 我以智慧力 知衆生性欲
m' 方便説諸法 皆令得歡喜 舍利弗當知 我以佛眼觀
l' 見六道衆生 貧窮無福慧 入生死險道 相續苦不斷
k' 深著於五欲 如犛牛愛尾 以貪愛自蔽 盲瞑無所見
j' 不求大勢佛 及與斷苦法 深入諸邪見 以苦欲捨苦
i' 爲是衆生故 而起大悲心 我始坐道場 觀樹亦經行
h' 於三七日中 思惟如是事 我所得智慧 微妙最第一
g' 衆生諸根鈍 著樂癡所盲 如斯之等類 云何而可度
f' 爾時諸梵王 及諸天帝釋 護世四天王 及大自在天
e' 并餘諸天衆 眷屬百千萬 恭敬合掌禮 請我轉法輪
d' 我即自思惟 若但讚佛乘 衆生沒在苦 不能信是法
c' 破法不信故 墜於三惡道 我寧不説法 疾入於涅槃
b' 尋念過去佛 所行方便力 我今所得道 亦應説三乘
a' 作是思惟時 十方佛皆現 梵音慰喩我 善哉釋迦文

巻第一―十三

1-2-
237 a 第一之導師 得是無上法 隨諸一切佛 而用方便力
238 b 我等亦皆得 最妙第一法 為諸衆生類 分別說三乘
239 c 少智樂小法 不自信作佛 是故以方便 分別說諸果
240 d 雖復說三乘 但為教菩薩 舍利弗當知 我聞聖師子
241 e 深淨微妙音 喜稱南無佛 復作如是念 我出濁惡世
242 f 如諸佛所說 我亦隨順行 思惟是事已 即趣波羅柰
243 g 諸法寂滅相 不可以言宣 以方便力故 為五比丘說
244 h 是名轉法輪 便有涅槃音 及以阿羅漢 法僧差別名
245 i 從久遠劫來 讚示涅槃法 生死苦永盡 我常如是說
246 j 舍利弗當知 我見佛子等 志求佛道者 無量千萬億
247 k 咸以恭敬心 皆來至佛所 曾從諸佛聞 方便所說法
248 l 我即作是念 如來所以出 為說佛慧故 今正是其時
249 m 舍利弗當知 鈍根小智人 著相憍慢者 不能信是法
250 n 今我喜無畏 於諸菩薩中 正直捨方便 但說無上道
251 o 菩薩聞是法 疑網皆已除 千二百羅漢 悉亦當作佛
252 p 如三世諸佛 說法之儀式 我今亦如是 說無分別法
253 q 諸佛興出世 懸遠值遇難 正使出于世 說是法復難
254 r 無量無數劫 聞是法亦難 能聽是法者 斯人亦復難
255 s 譬如優曇華 一切皆愛樂 天人所希有 時時乃一出
256 t 聞法歡喜讚 乃至發一言 則為已供養 一切三世佛

1-2-
257 t' 是人甚希有 過於優曇華 汝等勿有疑 我為諸法王
258 s' 普告諸大衆 但以一乘道 教化諸菩薩 無聲聞弟子
259 r' 汝等舍利弗 聲聞及菩薩 當知是妙法 諸佛之祕要
260 q' 以五濁惡世 但樂著諸欲 如是等衆生 終不求佛道
261 p' 當來世惡人 聞佛說一乘 迷惑不信受 破法墮惡道
262 o' 有慚愧清淨 志求佛道者 當為如是等 廣讚一乘道

n' （未記入）
m' （未記入）
l' （未記入）
k' （未記入）
j' （未記入）
i' （未記入）
h' （未記入）
g' （未記入）
f' （未記入）
e' （未記入）
d' （未記入）
c' （未記入）
b' （未記入）
a' （未記入）

巻第一―十四

1-2-
263 a 舍利弗當知 諸佛法如是 以萬億方便 隨宜而說法
264 b 其不習學者 不能曉了此 汝等既已知 諸佛世之師

1-2-
265 b' 隨宜方便事 無復諸疑惑 心生大歡喜 自知當作佛
266 a' 妙法蓮華經卷第一

巻第二―一

2-3-
1 a 妙法蓮華經譬喩品第三
2 b 尒時舍利弗踊躍歡喜即起合掌瞻仰尊顏
3 c 而白佛言今從世尊聞此法音心懷踊躍得
4 d 未曾有所以者何我昔從佛聞如是法見諸
5 e 菩薩受記作佛而我等不豫斯事甚自感傷
6 f 失於如來無量知見世尊我常獨處山林樹
7 g 下若坐若行每作是念我等同入法性云何
8 h 如來以小乘法而見濟度是我等咎非世尊
9 i 也所以者何若我等待說所因成就阿耨多
10 j 羅三藐三菩提者必以大乘而得度脫然我
11 k 等不解方便隨宜所說初聞佛法遇便信受
12 l 思惟取證世尊我從昔來終日竟夜每自剋
13 m 責而今從佛聞所未聞未曾有法斷諸疑悔
14 n 身意泰然快得安隱今日乃知眞是佛子從
15 o 佛口生從法化生得佛法分尒時舍利弗欲
16 p 重宣此義而說偈言
17 q 我聞是法音 得所未曾有 心懷大歡喜 疑網皆已除
18 r 昔來蒙佛教 不失於大乘 佛音甚希有 能除衆生惱
19 s 我已得漏盡 聞亦除憂惱 我處於山谷 或在林樹下
20 t 若坐若經行 常思惟是事 嗚呼深自責 云何而自欺

t' （未記入）
s' （未記入）
r' （未記入）
q' （未記入）
p' （未記入）
o' （未記入）
n' （未記入）
m' （未記入）
l' （未記入）
k' （未記入）
j' （未記入）
i' （未記入）
h' （未記入）
g' （未記入）
f' （未記入）
e' （未記入）
d' （未記入）
c' （未記入）
b' （未記入）
a' （未記入）

巻第二―二

2-3-
21 a 我等亦佛子 同入無漏法 不能於未來 演說無上道
22 b 金色三十二 十力諸解脫 同共一法中 而不得此事
23 c 八十種妙好 十八不共法 如是等功德 而我皆已失
24 d 我獨經行時 見佛在大衆 名聞滿十方 廣饒益衆生
25 e 自惟失此利 我為自欺誑 我常於日夜 每思惟是事
26 f 欲以問世尊 為失為不失 我常見世尊 稱讚諸菩薩
27 g 以是於日夜 籌量如是事 今聞佛音聲 隨宜而說法
28 h 無漏難思議 令衆至道場 我本著邪見 為諸梵志師
29 i 世尊知我心 拔邪說涅槃 我悉除邪見 於空法得證
30 j 尒時心自謂 得至於滅度 而今乃自覺 非是實滅度
31 k 若得作佛時 具三十二相 天人夜叉衆 龍神等恭敬
32 l 是時乃可謂 永盡滅無餘 佛於大衆中 說我當作佛
33 m 聞如是法音 疑悔悉已除 初聞佛所說 心中大驚疑
34 n 將非魔作佛 惱亂我心耶 佛以種種緣 譬喩巧言說
35 o 其心安如海 我聞疑網斷 佛說過去世 無量滅度佛
36 p 安住方便中 亦皆說是法 現在未來佛 其數無有量
37 q 亦以諸方便 演說如是法 如今者世尊 從生及出家
38 r 得道轉法輪 亦以方便說 世尊說實道 波旬無此事
39 s 以是我定知 非是魔作佛 我墮疑網故 謂是魔所為
40 t 聞佛柔軟音 深遠甚微妙 演暢清淨法 我心大歡喜

2-3-
41 t' 疑悔永已盡 安住實智中 我定當作佛 為天人所敬
42 s' 轉無上法輪 教化諸菩薩
43 r' 尒時佛告舍利弗吾今於天人沙門婆羅門
44 q' 等大衆中說我昔曾於二萬億佛所為無上
45 p' 道故常教化汝汝亦長夜隨我受學我以方
46 o' 便引導汝故生我法中舍利弗我昔教汝志
47 n' 願佛道汝今悉忘而便自謂已得滅度我今
48 m' 還欲令汝憶念本願所行道故為諸聲聞說
49 l' 是大乘經名妙法蓮華教菩薩法佛所護念
50 k' 舍利弗汝於未來世過無量無邊不可思議
51 j' 劫供養若干千萬億佛奉持正法具足菩薩
52 i' 所行之道當得作佛號曰華光如來應供正
53 h' 徧知明行足善逝世間解無上士調御丈夫
54 g' 天人師佛世尊國名離垢其土平正清淨嚴
55 f' 飾安隱豐樂天人熾盛瑠璃為地有八交道
56 e' 黃金為繩以界其側其傍各有七寶行樹常
57 d' 有華菓華光如來亦以三乘教化衆生舍利
58 c' 弗彼佛出時雖非惡世以本願故說三乘法
59 b' 其劫名大寶莊嚴何故名曰大寶莊嚴其國
60 a' 中以菩薩為大寶故彼諸菩薩無量無邊不

卷第二－十

340 a 計我見者 莫說此經 凡夫淺識 深著五欲
341 b 聞不能解 亦勿為說 若人不信 毀謗此經
342 c 則斷一切 世間佛種 或復顰蹙 而懷疑惑
343 d 汝當聽說 此人罪報 若佛在世 若滅度後
344 e 其有誹謗 如斯經典 見有讀誦 書持經者
345 f 輕賤憎嫉 而懷結恨 此人罪報 汝今復聽
346 g 其人命終 入阿鼻獄 具足一劫 劫盡更生
347 h 如是展轉 至無數劫 從地獄出 當墮畜生
348 i 若狗野干 其形頜瘦 黧黮疥癩 人所觸嬈
349 j 又復為人 之所惡賤 常困飢渴 骨肉枯竭
350 k 生受楚毒 死被瓦石 斷佛種故 受斯罪報
351 l 若作駱駝 或生驢中 身常負重 加諸杖捶
352 m 但念水草 餘無所知 謗斯經故 獲罪如是
353 n 有作野干 來入聚落 身體疥癩 又無一目
354 o 為諸童子 之所打擲 受諸苦痛 或時致死
355 p 於此死已 更受蟒身 其形長大 五百由旬
356 q 聾騃無足 蜿轉腹行 為諸小蟲 之所唼食
357 r 晝夜受苦 無有休息 謗斯經故 獲罪如是
358 s 若得為人 諸根闇鈍 矬陋攣躄 盲聾背傴
359 t 有所言說 人不信受 口氣常臭 鬼魅所著
360 t' 貧窮下賤 為人所使 多病痟瘦 無所依怙
361 s' 雖親附人 人不在意 若有所得 尋復忘失
362 r' 若修醫道 順方治病 更增他疾 或復致死
363 q' 若自有病 無人救療 設服良藥 而復增劇
364 p' 若他反逆 抄劫竊盜 如是等罪 橫羅其殃
365 o' 如斯罪人 永不見佛 眾聖之王 說法教化
366 n' 如斯罪人 常生難處 狂聾心亂 永不聞法
367 m' 於無數劫 如恒河沙 生輒聾瘂 諸根不具
368 l' 常處地獄 如遊園觀 在餘惡道 如己舍宅
369 k' 駝驢猪狗 是其行處 謗斯經故 獲罪如是
370 j' 若得為人 聾盲瘖瘂 貧窮諸衰 以自莊嚴
371 i' 水腫乾痟 疥癩癰疽 如是等病 以為衣服
372 h' 身常臭處 垢穢不淨 深著我見 增益瞋恚
373 g' 婬欲熾盛 不擇禽獸 謗斯經故 獲罪如是
374 f' 告舍利弗 謗斯經者 若說其罪 窮劫不盡
375 e' 以是因緣 我故語汝 無智人中 莫說此經
376 d' 若有利根 智慧明了 多聞強識 求佛道者
377 c' 如是之人 乃可為說 若人曾見 億百千佛
378 b' 植諸善本 深心堅固 如是之人 乃可為說
379 a' 若人精進 常修慈心 不惜身命 乃可為說

卷第二－十一

380 a 若人恭敬 無有異心 離諸凡愚 獨處山澤
381 b 如是之人 乃可為說 又舍利弗 若見有人
382 c 捨惡知識 親近善友 如是之人 乃可為說
383 d 若見佛子 持戒清潔 如淨明珠 求大乘經
384 e 如是之人 乃可為說 若人無瞋 質直柔軟
385 f 常愍一切 恭敬諸佛 如是之人 乃可為說
386 g 復有佛子 於大眾中 以清淨心 種種因緣
387 h 譬喻言辭 說法無礙 如是之人 乃可為說
388 i 若有比丘 為一切智 四方求法 合掌頂受
389 j 但樂受持 大乘經典 乃至不受 餘經一偈
390 k 如是之人 乃可為說 如人至心 求佛舍利
391 l 如是求經 得已頂受 其人不復 志求餘經
392 m 亦未曾念 外道典籍 如是之人 乃可為說
393 n 告舍利弗 我說是相 求佛道者 窮劫不盡
394 o 如是等人 則能信解 汝當為說 妙法華經
1 p 妙法蓮華經信解品第四
2 q 爾時慧命須菩提摩訶迦旃延摩訶迦葉摩
3 r 訶目揵連從佛所聞未曾有法世尊授舍利
4 s 弗阿耨多羅三藐三菩提記發希有心歡喜
5 t 踊躍即從座起整衣服偏袒右肩右膝著地
6 u 一心合掌曲躬恭敬瞻仰尊顏而白佛言我
7 u' 等居僧之首年並朽邁自謂已得涅槃無所
8 t' 堪任不復進求阿耨多羅三藐三菩提世尊
9 s' 往昔說法既久我時在座身體疲懈但念空
10 r' 無相無作於菩薩法遊戲神通淨佛國土成
11 q' 就眾生心不喜樂所以者何世尊令我等出
12 p' 於三界得涅槃證又今我等年已朽邁於佛
13 o' 教化菩薩阿耨多羅三藐三菩提不生一念
14 n' 好樂之心我等今於佛前聞授聲聞阿耨多
15 m' 羅三藐三菩提記心甚歡喜得未曾有不謂
16 l' 於今忽然得聞希有之法深自慶幸獲大善
17 k' 利無量珍寶不求自得世尊我等今者樂說
18 j' 譬喻以明斯義譬若有人年既幼稚捨父逃
19 i' 逝久住他國或十二十至五十歲年既長大
20 h' 加復窮困馳騁四方以求衣食漸漸遊行遇
21 g' 向本國其父先來求子不得中止一城其家
22 f' 大富財寶無量金銀琉璃珊瑚虎珀頗梨珠
23 e' 等其諸倉庫悉皆盈溢多有僮僕臣佐吏民
24 d' 象馬車乘牛羊無數出入息利乃遍他國商
25 c' 估賈客亦甚眾多時貧窮子遊諸聚落經歷
26 b' 國邑遂到其父所止之城父每念子與子離
27 a' 別五十餘年而未曾向人說如此事但自思

卷第二－十二

28 a 惟心懷悔恨自念老朽多有財物金銀珍寶
29 b 倉庫盈溢無有子息一旦終沒財物散失無
30 c 所委付是以慇懃每憶其子復作是念我若
31 d 得子委付財物坦然快樂無復憂慮世尊爾
32 e 時窮子傭賃展轉遇向父舍住立門側遙見
33 f 其父踞師子床寶机承足諸婆羅門剎利居
34 g 士皆恭敬圍遶以真珠瓔珞價直千萬莊嚴
35 h 其身吏民僮僕手執白拂侍立左右覆以寶
36 i 帳垂諸華幡香水灑地散眾名華羅列寶物
37 j 出內取與有如是等種種嚴飾威德特尊窮
38 k 子見父有大力勢即懷恐怖悔來至此竊作
39 l 是念此或是王或是王等非我傭力得物之
40 m 處不如往至貧里肆力有地衣食易得若久
41 n 住此或見逼迫強使我作作是念已疾走而
42 o 去時富長者於師子座見子便識心大歡喜
43 p 即作是念我財物庫藏今有所付我常思念
44 q 此子無由見之而忽自來甚適我願我雖年
45 r 朽猶故貪惜即遣傍人急追將還爾時使者
46 s 疾走往捉窮子驚愕稱怨大喚我不相犯何
47 t 為見捉使者執之逾急強牽將還于時窮子
48 t' 自念無罪而被囚執此必定死轉更惶怖悶
49 s' 絕躃地父遙見之而語使言不須此人勿強
50 r' 將來以冷水灑面令得醒悟莫復與語所以
51 q' 者何父知其子志意下劣自知豪貴為子所
52 p' 難審知是子而以方便不語他人云是我子
53 o' 使者語之我今放汝隨意所趣窮子歡喜得
54 n' 未曾有從地而起往至貧里以求衣食爾時
55 m' 長者將欲誘引其子而設方便密遣二人形
56 l' 色憔悴無威德者汝可詣彼徐語窮人此有
57 k' 作處倍與汝直窮子若許將來使作若言欲
58 j' 何所作便可語之雇汝除糞我等二人亦共
59 i' 汝作時二使人即求窮子既已得之具陳上
60 h' 事爾時窮子先取其價尋與除糞其父見子
61 g' 愍而怪之又以他日於窓牖中遙見子身羸
62 f' 瘦憔悴糞土塵坌污穢不淨即脫瓔珞細軟
63 e' 上服嚴飾之具更著麤弊垢膩之衣塵土坌
64 d' 身右手執持除糞之器狀有所畏語諸作人
65 c' 汝等勤作勿得懈息以方便故得近其子後
66 b' 復告言咄男子汝常此作勿復餘去當加汝
67 a' 價諸有所須瓫器米麵鹽醋之屬莫自疑難

卷二－十三

68 a 亦有老弊使人須者相給好自安意我如汝
69 b 父勿復憂慮所以者何我年老大而汝少壯
70 c 汝常作時無有欺怠瞋恨怨言都不見汝有
71 d 此諸惡如餘作人自今已後如所生子即時
72 e 長者更與作字名之為兒爾時窮子雖欣此
73 f 遇猶故自謂客作賤人由是之故於二十年
74 g 中常令除糞過是已後心相體信入出無難
75 h 然其所止猶在本處世尊爾時長者有疾自
76 i 知將死不久語窮子言我今多有金銀珍寶
77 j 倉庫盈溢其中多少所應取與汝悉知之我
78 k 心如是當體此意所以者何今我與汝便為
79 l 不異宜加用心無令漏失爾時窮子即受教
80 m 勅領知眾物金銀珍寶及諸庫藏而無悕取
81 n 一飡之意然其所止故在本處下劣之心亦
82 o 未能捨復經少時父知子意漸已通泰成就
83 p 大志自鄙先心臨欲終時而命其子并會親
84 q 族國王大臣剎利居士皆悉已集即自宣言
85 r 諸君當知此是我子我之所生於某城中捨
86 s 吾逃走伶俜辛苦五十餘年其本字某我名
87 t 某甲昔在本城懷憂推覓忽於此間遇會得
88 t' 之此實我子我實其父今我所有一切財物
89 s' 皆是子有先所出內是子所知世尊是時窮
90 r' 子聞父此言即大歡喜得未曾有而作是念
91 q' 我本無心有所悕求今此寶藏自然而至世
92 p' 尊大富長者則是如來我等皆似佛子如來
93 o' 常說我等為子世尊我等以三苦故於生死
94 n' 中受諸熱惱迷惑無知樂著小法今日世尊
95 m' 令我等思惟蠲除諸法戲論之糞我等於中
96 l' 勤加精進得至涅槃一日之價既得此已心
97 k' 大歡喜自以為足便自謂言於佛法中勤精
98 j' 進故所得弘多然世尊先知我等心著弊欲
99 i' 樂於小法便見縱捨不為分別汝等當有如
100 h' 來知見寶藏之分世尊以方便力說如來智
101 g' 慧我等從佛得涅槃一日之價以為大得於
102 f' 此大乘無有志求我等又因如來智慧為諸
103 e' 菩薩開示演說而自於此無有志願所以者
104 d' 何佛知我等心樂小法以方便力隨我等說
105 c' 而我等不知真是佛子今我等方知世尊於
106 b' 佛智慧無所悋惜所以者何我等昔來真是
107 a' 佛子而但樂小法若我等有樂大之心佛則

22-4-109 a 爲我說大乘法令出經中唯說一乘而者於
b 菩薩聞聲聲聞樂小法者然佛實以大乘
c 教化是故我等說本無心有所佛求令法王
d 大寶自然而至如佛子所應得者皆已得之
e 尒時摩訶迦葉欲重此義而說偈言
f 我等今日聞佛音教歡喜踊躍得未曾有
g 佛說聲聞當作佛無上寶聚不求自得
h 譬如童子幼稚無識捨父逃逝遠到他土
i 周遊諸國五十餘年其父憂念四方推求
j 求之既疲頓止一城造立舍宅五欲自娛
k 其家巨富多諸金銀硨磲瑪瑙車渠馬碯
l 象馬牛羊輦輿重乘田業僮僕人民衆多
m 出入息利乃遍於國商估賈人無處不有
n 千萬億衆圍繞恭敬尊重之所愛念
o 衆庶豪族皆共宗重以諸禪故住來者衆
p 豪富如是有大力勢而年朽邁轉更念子
q 從本已來經五十餘年猶故不說汝等皆
r 懷疑怖當謂此人來欲惱我說諸法者
s 但教汝等捨諸妄想貪著之處汝既已生
t 信樂柔軟其心調伏自謂眞是我之子也
u 是諸長者以珍寶物與其財寶
v 爾時窮子得值珍寶心大歡喜
w 而此長者有大智慧深識諸根通達其志
x 即呼窮子付以家業
y 窮子得已於意猶故自謂客作貧賤之事
z 我本貧窮無有財物客作辛苦
a' 今此財寶亦我所有
b' 我昔所以不言之故
c' 今者父王忽於大衆說我是子
d' 我於此座實懷疑懼
e' 恐王見逼強使我作
f' 即便念昔小心劣弱
g' 今日父王以無上道
h' 歡喜踊躍得未曾有
i' 所以者何一切法
j' 皆悉空寂無生無滅
k' 無大無小無漏無爲
l' 如是思惟不生歡樂
m' 於諸法中不盡其源
n' 但觀涅槃亦令永滅
o' 滅度無所依止
p' 不生慧樂
q' 不知此法有諸菩薩
r' 其心決定深入佛智
s' 爲聲聞人說隨順佛道
t' 終日說法心不貪著
u' 亦復不爲諸菩薩說
v' 令其於法而得自在
w' 未盡神通之力
x' 未近菩薩道
y' 不能莊嚴淨佛國土
z' 不成就衆生
a'' 爲離諸苦故說涅槃
b'' 我等於此法中
c'' 既已得入
d'' 又以佛道教化
e'' 令諸菩薩得聞是法
f'' 隨其所樂而爲說法
g'' 我等於此法中
h'' 既已得入
i'' 又以佛道教化
j'' 令諸菩薩得聞是法
k'' 隨其所樂而爲說法
l'' 我等於此法中
m'' 既已得入
n'' 又以佛道教化
o'' 令諸菩薩得聞是法
p'' 隨其所樂而爲說法
q'' 我等於此法中
r'' 既已得入
s'' 又以佛道教化
t'' 令諸菩薩得聞是法
u'' 隨其所樂而爲說法
v'' 我等於此法中
w'' 既已得入
x'' 又以佛道教化
y'' 令諸菩薩得聞是法
z'' 隨其所樂而爲說法
a''' 我等於此法中
b''' 既已得入
c''' 又以佛道教化
d''' 令諸菩薩得聞是法
e''' 隨其所樂而爲說法
f''' 我等於此法中
g''' 既已得入
h''' 又以佛道教化
i''' 令諸菩薩得聞是法
j''' 隨其所樂而爲說法
k''' 我等於此法中
l''' 既已得入
m''' 又以佛道教化
n''' 令諸菩薩得聞是法
o''' 隨其所樂而爲說法
p''' 我等於此法中
q''' 既已得入
r''' 又以佛道教化
s''' 令諸菩薩得聞是法
t''' 隨其所樂而爲說法
u''' 我等於此法中
v''' 既已得入
w''' 又以佛道教化
x''' 令諸菩薩得聞是法
y''' 隨其所樂而爲說法
z''' 我等於此法中
a'''' 既已得入
b'''' 又以佛道教化
c'''' 令諸菩薩得聞是法
d'''' 隨其所樂而爲說法
e'''' 我等於此法中
f'''' 既已得入
g'''' 又以佛道教化
h'''' 令諸菩薩得聞是法
i'''' 隨其所樂而爲說法
j'''' 我等於此法中
k'''' 既已得入
l'''' 又以佛道教化
m'''' 令諸菩薩得聞是法
n'''' 隨其所樂而爲說法
o'''' 我等於此法中
p'''' 既已得入
q'''' 又以佛道教化
r'''' 令諸菩薩得聞是法
s'''' 隨其所樂而爲說法
t'''' 我等於此法中
u'''' 既已得入
v'''' 又以佛道教化
w'''' 令諸菩薩得聞是法
x'''' 隨其所樂而爲說法
y'''' 我等於此法中
z'''' 既已得入
a''''' 又以佛道教化
b''''' 令諸菩薩得聞是法
c''''' 隨其所樂而爲說法
d''''' 我等於此法中
e''''' 既已得入
f''''' 又以佛道教化
g''''' 令諸菩薩得聞是法
h''''' 隨其所樂而爲說法
i''''' 我等於此法中
j''''' 既已得入
k''''' 又以佛道教化
l''''' 令諸菩薩得聞是法
m''''' 隨其所樂而爲說法

22-4-148 a 請諸門外止宿草庵自念貧事我無此物
b 又如子心無二無大欲貪財物但聚麤穢
c 汝等長夜隨我等說是我等子
d 隨我化行經五十歲自見子意已二十年
e 尒於某城捨失走子周行求索遂至此
f 凡我所有舍宅人民皆悉應作
g 子念昔者志意下劣今於父所大獲珍寶
h 財及舍宅一切財物其大歡喜得未曾有
i 佛亦如是知我樂小未曾說言汝等作佛
j 而說我等得諸漏盡成就小乘譬如窮子
k 佛教我等說最上道修習此者當得成佛
l 我承佛教爲大菩薩以諸因緣種種譬喻
m 若干言辭說無上道諸佛子等從我聞法
n 日夜思惟隨教修習是時諸佛即授其記
o 汝於來世當得作佛一切諸佛秘藏之法
p 但爲菩薩演其實事而不爲我說斯眞要
q 如窮子得近其父聞知諸物心不貪取
r 我等長夜於佛智慧無貪無願不復志願
s 我等雖說佛法實藏自無志願亦復如是
t 我等若聞淨佛國土教化衆生都無欣樂

22-4-168 a 所以者何一切法皆悉空寂無生無滅
b 無大無小無漏無爲如是思惟不生歡樂
c 於諸法中不盡其源但觀涅槃亦令永滅
d 滅度無所依止不生慧樂不知此法有諸菩薩
e 其心決定深入佛智爲聲聞人說隨順佛道
f 終日說法心不貪著亦復不爲諸菩薩說
g 令其於法而得自在未盡神通之力
h 未近菩薩道不能莊嚴淨佛國土
i 不成就衆生爲離諸苦故說涅槃
j 我等於此法中既已得入
k 以佛道教化諸菩薩令隨其所樂而爲說法
l 於一劫中說一相法
m 妙法蓮華經譬喻品第三

22-4-188 a 手足供給鎖鑰禮敬一切供養皆不懈怠
b 若以頭戴兩脇侍衛於恒沙劫盡心恭敬
c 又以美膳種種湯藥及諸飮具
d 牛頭栴檀及諸餘香衣布敷地
e 如斯等事於恒沙劫亦不懈怠
f 諸佛有無量無邊不可思議大神通力
g 無漏無爲諸法之王現於下劣隨衆生所
h 取相凡夫隨宜爲說諸佛秘法得最自在
i 知諸衆生種種欲樂及其志力隨所堪任
j 以無量諸譬喻法隨諸衆生宿世善惡
k 又知成熟未成熟者種種異見分別知已

3-5-1 a 妙法蓮華經藥草喻品第五
b 尒時世尊告摩訶迦葉及諸大弟子善哉善
c 哉迦葉汝能如是隨喜如來眞實功德汝今諦聽
d 當有無量無邊阿僧祇功德汝等若於無量
e 億劫說不能盡諸佛如來當知亦復如是隨
f 若有所說悉皆眞實又迦葉譬如三千大
g 千世界山川谿谷土地所生卉木叢林及諸藥草種類
h 若干名色各異密布彌覆大雲起已遍
i 至三千大千世界普潤一時其雲所出
j 一味之水草木叢林及諸藥草隨上中下各有
k 所受一雲所雨而各滋茂根莖枝葉華果
l 實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
m 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
n 雲普覆一切衆生既覆已普爲人天廣
o 演斯法大聖世尊於衆會中而唱是言
p 我是如來應供正遍知明行足善逝世間
q 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
r 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
s 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
t 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
u 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
v 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
w 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
x 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
y 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
z 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
a' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
b' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
c' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
d' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
e' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
f' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
g' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
h' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
i' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
j' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
k' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
l' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
m' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
n' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
o' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
p' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
q' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
r' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
s' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
t' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
u' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
v' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
w' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
x' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
y' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
z' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
a'' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
b'' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
c'' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
d'' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
e'' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
f'' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
g'' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
h'' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
i'' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
j'' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
k'' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
l'' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
m'' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
n'' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
o'' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
p'' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
q'' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
r'' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
s'' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
t'' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
u'' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
v'' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
w'' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
x'' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
y'' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
z'' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
a''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
b''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
c''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
d''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
e''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
f''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
g''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
h''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
i''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
j''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
k''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
l''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
m''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
n''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
o''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
p''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
q''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
r''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
s''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
t''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
u''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
v''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
w''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
x''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
y''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
z''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
a'''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
b'''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
c'''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
d'''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
e'''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
f'''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
g'''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
h'''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
i'''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
j'''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
k'''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
l'''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
m'''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
n'''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
o'''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
p'''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
q'''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
r'''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
s'''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
t'''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
u'''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
v'''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
w'''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
x'''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
y'''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
z'''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
a''''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
b''''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
c''''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
d''''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
e''''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
f''''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
g''''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
h''''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
i''''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
j''''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
k''''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
l''''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
m''''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有

3-5-19 r 雲如以大音聲普遍世界天人所聞如彼
s 大雲潤種三千大千國土於大衆中而唱是
t 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
u 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
v 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
w 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
x 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
y 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
z 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
a' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
b' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
c' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
d' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
e' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
f' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
g' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
h' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
i' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
j' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
k' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
l' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
m' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
n' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
o' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
p' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
q' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
r' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
s' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
t' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
u' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
v' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
w' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
x' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
y' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
z' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
a'' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
b'' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
c'' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
d'' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
e'' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
f'' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
g'' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
h'' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
i'' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
j'' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
k'' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
l'' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
m'' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
n'' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
o'' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
p'' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
q'' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
r'' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
s'' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
t'' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
u'' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
v'' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
w'' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
x'' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
y'' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
z'' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
a''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
b''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
c''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
d''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
e''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
f''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
g''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
h''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
i''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
j''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
k''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
l''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
m''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
n''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
o''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
p''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
q''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
r''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
s''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
t''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
u''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
v''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
w''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
x''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
y''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
z''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
a'''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
b'''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
c'''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
d'''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
e'''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
f'''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
g'''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
h'''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
i'''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
j'''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
k'''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
l'''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
m'''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
n'''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
o'''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
p'''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
q'''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
r'''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
s'''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
t'''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
u'''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
v'''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
w'''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
x'''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
y'''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
z'''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
a''''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂
b''''' 現世得聞正法既聞法已隨其所應各得
c''''' 成就譬如大雲雨於一切卉木叢林及諸藥草
d''''' 小根小莖小枝小葉中根中莖中枝中葉大
e''''' 根大莖大枝大葉諸樹大小隨上中下各有
f''''' 所受一雲所雨稱其種性而得生長華果
g''''' 敷實雖一地所生一雨所潤諸草木各有差
h''''' 別迦葉當知如來亦復如是出現於世如大
i''''' 雲普雨於三千大千國土於大衆中而唱是
j''''' 言我是如來應供正遍知明行足善逝世間
k''''' 解無上士調御丈夫天人師佛世尊以無數
l''''' 方便種種爲衆生說隨其所樂及其根性
m''''' 所堪受力而爲說法種種事業皆令安樂

3-5-36 a' 若持讀誦如說修行所得功德不自覺知唯

巻第三—二

3-5-37
37 a 以者何唯有如來知此衆生種相體性念何
38 b 事思何事修何事云何念云何思云何修以
39 c 何法念以何法思以何法修以何法得何法
40 d 衆生住於種種之地唯有如來如實見之明
41 e 了無礙如彼卉木叢林諸藥草等而不自知
42 f 上中下性如來知是一相一味之法所謂解
43 g 脫相離相滅相究竟涅槃常寂滅相終歸於
44 h 空佛知是已觀衆生心欲而將護之是故不
45 i 即為說一切種智汝等迦葉甚為希有能知
46 j 如來隨宜說法能信能受所以者何諸佛世
47 k 尊隨宜說法難解難知尔時世尊欲重宣此
48 l 義而說偈言
49 m 破有法王 出現世間 隨衆生欲 種種說法
50 n 如來尊重 智慧深遠 久默斯要 不務速說
51 o 有智若聞 則能信解 無智疑悔 則為永失
52 p 是故迦葉 隨力為說 以種種緣 令得正見
53 q 迦葉當知 譬如大雲 起於世間 遍覆一切
54 r 慧雲含潤 電光晃曜 雷聲遠震 令衆悅豫
55 s 日光掩蔽 地上清涼 靉靆垂布 如可承攬
56 t 其雨普等 四方俱下 流澍無量 率土充洽
3-5-57
57 t' 山川險谷 幽邃所生 卉木藥草 大小諸樹
58 s' 百穀苗稼 甘蔗蒲萄 雨之所潤 無不豐足
59 r' 乾地普洽 藥木並茂 其雲所出 一味之水
60 q' 草木叢林 隨分受潤 一切諸樹 上中下等
61 p' 稱其大小 各得生長 根莖枝葉 華果光色
62 o' 一雨所及 皆得鮮澤 如其體相 性分大小
63 n' 所潤是一 而各滋茂 佛亦如是 出現於世
64 m' 譬如大雲 普覆一切 既出于世 為諸衆生
65 l' 分別演說 諸法之實 大聖世尊 於諸天人
66 k' 一切衆中 而宣是言 我為如來 兩足之尊
67 j' 出于世間 猶如大雲 充潤一切 枯槁衆生
68 i' 皆令離苦 得安隱樂 世間之樂 及涅槃樂
69 h' 諸天人衆 一心善聽 皆應到此 覲無上尊
70 g' 我為世尊 無能及者 安隱衆生 故現於世
71 f' 為大衆說 甘露淨法 其法一味 解脫涅槃
72 e' 以一妙音 演暢斯義 常為大乘 而作因緣
73 d' 我觀一切 普皆平等 無有彼此 愛憎之心
74 c' 我無貪著 亦無限礙 恒為一切 平等說法
75 b' 如為一人 衆多亦然 常演說法 曾無他事
76 a' 去來坐立 終不疲厭 充足世間 如雨普潤

巻第三—三

3-5-77
77 a 貴賤上下 持戒毀戒 威儀具足 及不具足
78 b 正見邪見 利根鈍根 等雨法雨 而無懈倦
79 c 一切衆生 聞我法者 隨力所受 住於諸地
80 d 或處人天 轉輪聖王 釋梵諸王 是小藥草
81 e 知無漏法 能得涅槃 起六神通 及得三明
82 f 獨處山林 常行禪定 得緣覺證 是中藥草
83 g 求世尊處 我當作佛 行精進定 是上藥草
84 h 又諸佛子 專心佛道 常行慈悲 自知作佛
85 i 決定無疑 是名小樹 安住神通 轉不退輪
86 j 度無量億 百千衆生 如是菩薩 名為大樹
87 k 佛平等說 如一味雨 隨衆生性 所受不同
88 l 如彼草木 所稟各異 佛以此喻 方便開示
89 m 種種言辭 演說一法 於佛智慧 如海一滴
90 n 我雨法雨 充滿世間 一味之法 隨力修行
91 o 如彼叢林 藥草諸樹 隨其大小 漸增茂好
92 p 諸佛之法 常以一味 令諸世間 普得具足
93 q 漸次修行 皆得道果 聲聞緣覺 處於山林
94 r 住最後身 聞法得果 是名藥草 各得增長
95 s 若諸菩薩 智慧堅固 了達三界 求最上乘
96 t 是名小樹 而得增長 復有住禪 得神通力
3-5-97
97 t' 聞諸法空 心大歡喜 放無數光 度諸衆生
98 s' 是名大樹 而得增長 如是迦葉 佛所說法
99 r' 譬如大雲 以一味雨 潤於人華 各得成實
100 q' 迦葉當知 以諸因緣 種種譬喻 開示佛道
101 p' 是我方便 諸佛亦然 今為汝等 說最實事
102 o' 諸聲聞衆 皆非滅度 汝等所行 是菩薩道
103 n' 漸漸修學 悉當成佛
3-6-1
1 m' 妙法蓮華經授記品第六
2 l' 尔時世尊說是偈已告諸大衆唱如是言我
3 k' 此弟子摩訶迦葉於未來世當得奉覲三百
4 j' 万億諸佛世尊供養恭敬尊重讚歎廣宣諸
5 i' 佛無量大法於最後身得成為佛名曰光明
6 h' 如來應供正遍知明行足善逝世間解無上
7 g' 士調御丈夫天人師佛世尊國名光德劫名
8 f' 大莊嚴佛壽十二小劫正法住世二十小劫
9 e' 像法亦住二十小劫國界嚴飾無諸穢惡瓦
10 d' 礫荊棘便利不淨其土平正無有高下坑坎
11 c' 堆阜琉璃為地寶樹行列黃金為繩以界道
12 b' 側散諸寶華周遍清淨其國菩薩無量千億
13 a' 諸聲聞衆亦復無數無有魔事雖有魔及魔

巻第三—四

3-6-14
14 a 民皆護佛法尔時世尊欲重宣此義而說偈
15 b 言
16 c 告諸比丘 我以佛眼 見是迦葉 於未來世
17 d 過無數劫 當得作佛 而於來世 供養奉覲
18 e 三百万億 諸佛世尊 為佛智慧 淨修梵行
19 f 供養最上 二足尊已 修習一切 無上之慧
20 g 於最後身 得成為佛 其土清淨 琉璃為地
21 h 多諸寶樹 行列道側 金繩界道 見者歡喜
22 i 常出好香 散衆名華 種種奇妙 以為莊嚴
23 j 其地平正 無有丘坑 諸菩薩衆 不可稱計
24 k 其心調柔 逮大神通 奉持諸佛 大乘經典
25 l 諸聲聞衆 無漏後身 法王之子 亦不可計
26 m 乃以天眼 不能數知 其佛當壽 十二小劫
27 n 正法住世 二十小劫 像法亦住 二十小劫
28 o 光明世尊 其事如是
29 p 尔時大目揵連須菩提摩訶迦旃延等皆悉悚慄
30 q 一心合掌瞻仰尊顏目不暫捨即共同聲
31 r 而說偈言
32 s 大雄猛世尊 諸釋之法王 哀愍我等故 而賜佛音聲
33 t 若知我深心 見為授記者 如以甘露灑 除熱得清涼
3-6-34
34 t 如從飢國來 忽遇大王饍 心猶懷疑懼 未敢即便食
35 s' 若復得王教 然後乃敢食 我等亦如是 每惟小乘過
36 r' 不知當云何 得佛無上慧 雖聞佛音聲 言我等作佛
37 q' 心尚懷憂懼 如未敢便食 若蒙佛授記 尔乃快安樂
38 p' 大雄猛世尊 常欲安世間 願賜我等記 如飢須教食
39 o' 尔時世尊知諸大弟子心之所念告諸比丘
40 n' 是須菩提於當來世奉覲三百万億那由他
41 m' 佛供養恭敬尊重讚歎常修梵行具菩薩道
42 l' 於最後身得成為佛號曰名相如來應供正
43 k' 遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫
44 j' 天人師佛世尊劫名有寶國名寶生其土平
45 i' 正頗梨為地寶樹莊嚴無諸丘坑沙礫荊棘
46 h' 便利之穢寶華覆地周遍清淨其土人民皆
47 g' 處寶臺珍妙樓閣聲聞弟子無量無邊算數
48 f' 譬喻所不能知諸菩薩衆無數千万億那由
49 e' 他佛壽十二小劫正法住世二十小劫像法
50 d' 亦住二十小劫其佛常處虛空為衆說法度
51 c' 脫無量菩薩及聲聞衆尔時世尊欲重宣此
52 b' 義而說偈言
53 a' 諸比丘衆 今告汝等 皆當一心 聽我所說

巻第三—五

3-6-54
54 a 我大弟子 須菩提者 當得作佛 号曰名相
b （未 記 入）
55 c 當供無數 万億諸佛 隨佛所行 漸具大道
56 d 最後身得 三十二相 端正姝妙 猶如寶山
57 e 其佛國土 嚴淨第一 衆生見者 無不愛樂
58 f 佛於其中 度無量衆 其佛法中 多諸菩薩
59 g 皆悉利根 轉不退輪 彼國常以 菩薩莊嚴
60 h 諸聲聞衆 不可稱數 皆得三明 具六神通
61 i 住八解脫 有大威德 其佛說法 現於無量
62 j 神通變化 不可思議 諸天人民 數如恒沙
63 k 皆共合掌 聽受佛語 其佛當壽 十二小劫
64 l 正法住世 二十小劫 像法亦住 二十小劫
65 m 尔時世尊復告諸比丘衆我今語汝是大迦
66 n 旃延於當來世以諸供具供養奉事八千億
67 o 佛恭敬尊重諸佛滅後各起塔廟高千由旬
68 p 縱廣正等五百由旬以金銀琉璃硨磲碼碯
69 q 真珠玫瑰七寶合成衆華瓔珞塗香末香燒
70 r 香繒蓋幢幡供養塔廟過是已後當復供養
71 s 二万億佛亦復如是供養是諸佛已具菩薩
72 t 道當得作佛号曰閻浮那提金光如來應供
3-6-73
73 t' 正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈
74 s' 夫天人師佛世尊其土平正頗梨為地寶樹
75 r' 莊嚴黃金為繩以界道側妙華覆地周遍清
76 q' 淨見者歡喜無四惡道地獄餓鬼畜生阿修
77 p' 羅道多有天人諸聲聞衆及諸菩薩無量万
78 o' 億莊嚴其國佛壽十二小劫正法住世二十
79 n' 小劫像法亦住二十小劫尔時世尊欲重宣
80 m' 此義而說偈言
81 l' 諸比丘衆 皆一心聽 如我所說 真實無異
82 k' 是迦旃延 當以種種 妙好供具 供養諸佛
83 j' 諸佛滅後 起七寶塔 亦以華香 供養舍利
84 i' 其最後身 得佛智慧 成等正覺 國土清淨
85 h' 度脫無量 万億衆生 皆為十方 之所供養
86 g' 佛之光明 無能勝者 其佛号曰 閻浮金光
87 f' 菩薩聲聞 斷一切有 無量無數 莊嚴其國
88 e' 尔時世尊復告大衆我今語汝是大目揵連
89 d' 當以種種供具供養八千諸佛恭敬尊重諸
90 c' 佛滅後各起塔廟高千由旬縱廣正等五百
91 b' 由旬以金銀琉璃硨磲碼碯真珠玫瑰七寶
92 a' 合成衆華瓔珞塗香末香燒香繒蓋幢幡以

卷第三—六

a 用供養過是已後當復供養二百万億諸佛
b 亦復如是當得成佛號曰多摩羅跋栴檀香
c 如來應供正遍知明行足善逝世間解無上
d 士調御丈夫天人師佛世尊劫名喜滿國名
e 意樂其土平正頗梨為地寶樹莊嚴散真珠
f 華周遍清淨見者歡喜多諸天人菩薩聲聞
g 其數無量佛壽二十四小劫正法住世四十
h 小劫像法亦住四十小劫尒時世尊欲重宣
i 此義而說偈言
j 我此弟子 大目犍連 捨是身已 得見八千
k 二百万億 諸佛世尊 為佛道故 供養恭敬
l 於諸佛所 常修梵行 於無量劫 奉持佛法
m 諸佛滅後 起七寶塔 長表金剎 華香伎樂
n 而以供養 諸佛塔廟 漸漸具足 菩薩道已
o 於意樂國 而得作佛 號多摩羅 栴檀之香
p 其佛壽命 二十四劫 常為天人 演說佛道
q 聲聞無量 如恒河沙 三明六通 有大威德
r 菩薩無數 志固精進 於佛智慧 皆不退轉
s 佛滅度後 正法當住 四十小劫 像法亦尒
t 我諸弟子 威德具足 其數五百 皆當授記
u 於未來世 咸得成佛 我及汝等 宿世因緣
u′ 吾今當說 汝等善聽
t′ 妙法蓮華經化城喻品第七
s′ 佛告諸比丘乃往過去無量無邊不可思議
r′ 阿僧祇劫尒時有佛名大通智勝如來應供
q′ 正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈
p′ 夫天人師佛世尊其國名好城劫名大相諸
o′ 比丘彼佛滅度已來甚大久遠譬如三千大
n′ 千世界所有地種假使有人磨以為墨過於
m′ 東方千國土乃下一點大如微塵又過千國
l′ 土復下一點如是展轉盡地種墨於汝等意
k′ 云何是諸國土若算師若算師弟子能得邊
j′ 際知其數不不也世尊諸比丘是人所經國
i′ 土若點不點盡抹為塵一塵一劫彼佛滅度
h′ 已來復過是數無量無邊百千万億阿僧祇
g′ 劫我以如來知見力故觀彼久遠猶若今日
f′ 尒時世尊欲重宣此義而說偈言
e′ 我念過去世 無量無邊劫 有佛兩足尊 名大通智勝
d′ 如人以力磨 三千大千土 盡此諸地種 皆悉以為墨
c′ 過於千國土 乃下一塵點 如是展轉點 盡此諸塵墨
b′ 如是諸國土 點與不點等 復盡抹為塵 一塵為一劫
a′ 此諸微塵數 其劫復過是 彼佛滅度來 如是無量劫

卷第三—七

a 如來無礙智 知彼佛滅度 及聲聞菩薩 如見今滅度
b 諸比丘當知 佛智淨微妙 無漏無所礙 通達無量劫
c 佛告諸比丘大通智勝佛壽五百四十万億
d 那由他劫其佛本坐道場破魔軍已垂得阿
e 耨多羅三藐三菩提而諸佛法不現在前如
f 是一小劫乃至十小劫結跏趺坐身心不動
g 而諸佛法猶不在前尒時忉利諸天先為彼
h 佛於菩提樹下敷師子座高一由旬佛於此
i 座當得阿耨多羅三藐三菩提適坐此座時
j 諸梵天王雨眾天華面百由旬香風時來吹
k 去萎華更雨新者如是不絕滿十小劫供養
l 於佛乃至滅度常雨此華四王諸天為供養
m 佛常擊天鼓其餘諸天作天伎樂滿十小劫
n 至于滅度亦復如是諸比丘大通智勝佛過
o 十小劫諸佛之法乃現在前成阿耨多羅三
p 藐三菩提其佛未出家時有十六子其第一
q 者名曰智積諸子各有種種珍異玩好之具
r 聞父得成阿耨多羅三藐三菩提皆捨所珍
s 往詣佛所諸母涕泣而隨送之其祖轉輪聖
s′ 王與一百大臣及餘百千万億人民皆共圍
r′ 繞隨至道場咸欲親近大通智勝如來供養
q′ 恭敬尊重讚歎到已頭面禮足繞佛畢已一
p′ 心合掌瞻仰世尊以偈頌曰
o′ 大威德世尊 為度眾生故 於無量億歲 尒乃得成佛
n′ 諸願已具足 善哉吉無上 世尊甚希有 一坐十小劫
m′ 身體及手足 靜然安不動 其心常惔怕 未曾有散亂
l′ 究竟永寂滅 安住無漏法 今者見世尊 安隱成佛道
k′ 我等得善利 稱慶大歡喜 眾生常苦惱 盲瞑無導師
j′ 不識苦盡道 不知求解脫 長夜增惡趣 減損諸天眾
i′ 從冥入於冥 永不聞佛名 今佛得最上 安隱無漏法
h′ 我等及天人 為得最大利 是故咸稽首 歸命無上尊
g′ 尒時十六王子偈讚佛已勸請世尊轉於法
f′ 輪咸作是言世尊說法多所安隱憐愍饒益
e′ 諸天人民重說偈言
d′ 世雄無等倫 百福自莊嚴 得無上智慧 願為世間說
c′ 度脫於我等 及諸眾生類 為分別顯示 令得是智慧
b′ 若我等得佛 眾生亦復然 世尊知眾生 深心之所念
a′ 亦知所行道 又知智慧力 欲樂及修福 宿命所行業

卷第三—八

a 世尊悉知已 當轉無上輪
b 佛告諸比丘大通智勝佛得阿耨多羅三藐
c 三菩提時十方各五百万億諸佛世界六種
d 震動其國中間幽冥之處日月威光所不能
e 照而皆大明其中眾生各得相見咸作是言
f 此中云何忽生眾生又其國界諸天宮殿乃
g 至梵宮六種震動大光普照遍滿世界勝諸
h 天光尒時東方五百万億諸國土中梵天宮
i 殿光明照曜倍於常明諸梵天王各作是念
j 今者宮殿光明昔所未有以何因緣而現此
k 相是時諸梵天王即各相詣共議此事時彼
l 眾中有一大梵天王名救一切為諸梵眾而
m 說偈言
n 我等諸宮殿 光明昔未有 此是何因緣 宜各共求之
o 為大德天生 為佛出世間 而此大光明 遍照於十方
p 尒時五百万億國土諸梵天王與宮殿俱各
q 以衣裓盛諸天華共詣西方推尋是相見大
r 通智勝如來處于道場菩提樹下坐師子座
s 諸天龍王乾闥婆緊那羅摩睺羅伽人非人
t 等恭敬圍繞及見十六王子請佛轉法輪即
t′ 時諸梵天王頭面禮佛繞百千帀即以天華
s′ 而散佛上其所散華如須彌山并以供養佛
r′ 菩提樹其菩提樹高十由旬華供養已各以
q′ 宮殿奉上彼佛而作是言唯見哀愍饒益我
p′ 等所獻宮殿願垂納處時諸梵天王即於佛
o′ 前一心同聲以偈頌曰
n′ 世尊甚希有 難可得值遇 具無量功德 能救護一切
m′ 天人之大師 哀愍於世間 十方諸眾生 普皆蒙饒益
l′ 我等所從來 五百万億國 捨深禪定樂 為供養佛故
k′ 我等先世福 宮殿甚嚴飾 今以奉世尊 唯願哀納受
j′ 尒時諸梵天王偈讚佛已各作是言唯願世
i′ 尊轉於法輪度脫眾生開涅槃道時諸梵天
h′ 王一心同聲而說偈言
g′ 世雄兩足尊 唯願演說法 以大慈悲力 度苦惱眾生
f′ 尒時大通智勝如來默然許之又諸比丘東
e′ 南方五百万億國土諸大梵王各自見宮殿
d′ 光明照曜昔所未有歡喜踊躍生希有心即
c′ 各相詣共議此事時彼眾中有一大梵天王
b′ 名曰大悲為諸梵眾而說偈言
a′ 是事何因緣 而現如此相 我等諸宮殿 光明昔未有

卷第三—九

a 為大德天生 為佛出世間 未曾見此相 當共一心求
b 過千万億土 尋光共推之 多是佛出世 度脫苦眾生
c 尒時五百万億諸梵天王與宮殿俱各以衣
d 裓盛諸天華共詣西北方推尋是相見大通
e 智勝如來處于道場菩提樹下坐師子座諸
f 天龍王乾闥婆緊那羅摩睺羅伽人非人等
g 恭敬圍繞及見十六王子請佛轉法輪時諸
h 梵天王頭面禮佛繞百千帀即以天華而散
i 佛上所散之華如須彌山并以供養佛菩提
j 樹華供養已各以宮殿奉上彼佛而作是言
k 唯見哀愍饒益我等所獻宮殿願垂納處尒
l 時諸梵天王即於佛前一心同聲以偈頌曰
m 聖主天中王 迦陵頻伽聲 哀愍眾生者 我等今敬禮
n 世尊甚希有 久遠乃一現 一百八十劫 空過無有佛
o 三惡道充滿 諸天眾減少 今佛出於世 為眾生作眼
p 世間所歸趣 救護於一切 為眾生之父 哀愍饒益者
q 我等宿福慶 今得值世尊
r 尒時諸梵天王偈讚佛已各作是言唯願世
r′ 尊哀愍一切轉於法輪度脫眾生時諸梵天
q′ 王一心同聲而說偈言
p′ 大聖轉法輪 顯示諸法相 度苦惱眾生 令得大歡喜
o′ 眾生聞此法 得道若生天 諸惡道減少 忍善者增益
n′ 尒時大通智勝如來默然許之又諸比丘南
m′ 方五百万億國土諸大梵王各自見宮殿光
l′ 明照曜昔所未有歡喜踊躍生希有心即各
k′ 相詣共議此事以何因緣我等宮殿有此光
j′ 曜而彼眾中有一大梵天王名曰妙法為諸
i′ 梵眾而說偈言
h′ 我等諸宮殿 光明甚威曜 此非無因緣 是相宜求之
g′ 過於百千劫 未曾見是相 為大德天生 為佛出世間
f′ 尒時五百万億諸梵天王與宮殿俱各以衣
e′ 裓盛諸天華共詣北方推尋是相見大通智
d′ 勝如來處于道場菩提樹下坐師子座諸天
c′ 龍王乾闥婆緊那羅摩睺羅伽人非人等恭
b′ 敬圍繞及見十六王子請佛轉法輪時諸梵
a′ 天王頭面禮佛繞百千帀即以天華而散佛

卷第三—十

3·7

上所散之華如須彌山，幷以供養佛菩提樹。華供養已，各以宮殿奉上彼佛，而作是言：「唯見哀愍饒益我等，所獻宮殿願垂納處。」爾時諸梵天王即於佛前一心同聲以偈頌曰：

世尊甚難見　破諸煩惱者　過百三十劫　今乃得一見
諸飢渴眾生　以法雨充滿　昔所未曾覩　無量智慧者
如優曇波羅　今日乃值遇　我等諸宮殿　蒙光故嚴飾
世尊大慈愍　唯願垂納受

爾時諸梵天王偈讚佛已，各作是言：「唯願世尊轉於法輪，令一切世間諸天魔梵沙門婆羅門皆獲安隱而得度脫。」時諸梵天王一心同聲以偈頌曰：

唯願天人尊　轉無上法輪　擊于大法鼓　而吹大法螺
普雨大法雨　度無量眾生　我等咸歸請　當演深遠音

爾時大通智勝如來默然許之。西南方乃至下方亦復如是。爾時上方五百萬億國土諸大梵王，皆悉自覩所止宮殿光明威曜，昔所未有，歡喜踊躍，生希有心，即各相詣共議此事：「以何因緣我等宮殿有斯光明？」而彼眾中有一大梵天王，名曰尸棄，為諸梵眾而說偈言：

今以何因緣　我等諸宮殿　威德光明曜　嚴飾未曾有
如是之妙相　昔所未聞見　為大德天生　為佛出世間

爾時五百萬億諸梵天王與宮殿俱，各以衣裓盛諸天華，共詣下方推尋是相。見大通智勝如來處于道場菩提樹下，坐師子座，諸天、龍王、乾闥婆、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等恭敬圍繞，及見十六王子請佛轉法輪。時諸梵天王頭面禮佛，繞百千匝，即以天華而散佛上，所散之華如須彌山，幷以供養佛菩提樹。華供養已，各以宮殿奉上彼佛，而作是言：「唯見哀愍饒益我等，所獻宮殿願垂納處。」時諸梵天王即於佛前一心同聲以偈頌曰：

善哉見諸佛　救世之聖尊　能於三界獄　勉出諸眾生
普智天人尊　哀愍群萌類　能開甘露門　廣度於一切
於昔無量劫　空過無有佛　世尊未出時　十方常闇瞑
三惡道增長　阿修羅亦盛　諸天眾轉減　死多墮惡道
不從佛聞法　常行不善事　色力及智慧　斯等皆減少
罪業因緣故　失樂及樂想　住於邪見法　不識善儀則
不蒙佛所化　常墮於惡道　佛為世間眼　久遠時乃出

卷第三—十一

3·7

哀愍諸眾生　故現於世間　超出成正覺　我等甚欣慶
及餘一切眾　喜歎未曾有　我等諸宮殿　蒙光故嚴飾
今以奉世尊　唯垂哀納受　願以此功德　普及於一切
我等與眾生　皆共成佛道

爾時五百萬億諸梵天王偈讚佛已，各白佛言：「唯願世尊轉於法輪，多所安隱，多所度脫。」時諸梵天王而說偈言：

世尊轉法輪　擊甘露法鼓　度苦惱眾生　開示涅槃道
唯願受我請　以大微妙音　哀愍而敷演　無量劫習法

爾時大通智勝如來受十方諸梵天王及十六王子請，即時三轉十二行法輪，若沙門婆羅門，若天魔梵及餘世間所不能轉，謂是苦，是苦集，是苦滅，是苦滅道；及廣說十二因緣法：無明緣行，行緣識，識緣名色，名色緣六入，六入緣觸，觸緣受，受緣愛，愛緣取，取緣有，有緣生，生緣老死憂悲苦惱；無明滅則行滅，行滅則識滅，識滅則名色滅，名色滅則六入滅，六入滅則觸滅，觸滅則受滅，受滅則愛滅，愛滅則取滅，取滅則有滅，有滅則生滅，生滅則老死憂悲苦惱滅。佛於天人大眾之中說是法時，六百萬億那由他人，以不受一切法故，而於諸漏心得解脫，皆得深妙禪定、三明、六通，具八解脫。第二、第三、第四說法時，千萬億恒河沙那由他等眾生，亦以不受一切法故，而於諸漏心得解脫。從是已後，諸聲聞眾無量無邊不可稱數。爾時十六王子皆以童子出家而為沙彌，諸根通利，智慧明了，已曾供養百千萬億諸佛，淨修梵行，求阿耨多羅三藐三菩提，俱白佛言：「世尊！是諸無量千萬億大德聲聞皆已成就。世尊！亦當為我等說阿耨多羅三藐三菩提法，我等聞已，皆共修學。世尊！我等志願如來知見，深心所念，佛自證知。」爾時轉輪聖王所將眾中八萬億人，見十六王子出家，亦求出家，王即聽許。爾時彼佛受沙彌請，過二萬劫已，乃於四眾之中說是大乘經，名妙法蓮華，教菩薩法，佛所護念。說是經已，十六沙彌為阿耨多羅三藐三菩提故，皆共受持，諷誦通利。說是經時，十六菩薩沙彌皆悉信受，聲聞眾中亦有信解，其餘眾生千萬億種皆生疑惑。佛說是經於八千劫

卷第三—十二

3·7

未曾休廢。說此經已，即入靜室，住於禪定八萬四千劫。是時十六菩薩沙彌，知佛入室寂然禪定，各昇法座，亦於八萬四千劫為四部眾廣說分別妙法華經，一一皆度六百萬億那由他恒河沙等眾生，示教利喜，令發阿耨多羅三藐三菩提心。大通智勝佛過八萬四千劫已，從三昧起，往詣法座，安詳而坐，普告大眾：「是十六菩薩沙彌甚為希有，諸根通利，智慧明了，已曾供養無量千萬億數諸佛，於諸佛所常修梵行，受持佛智，開示眾生，令入其中。汝等皆當數數親近而供養之。所以者何？若聲聞、辟支佛及諸菩薩，能信是十六菩薩所說經法，受持不毀者，是人皆當得阿耨多羅三藐三菩提如來之慧。」佛告諸比丘：「是十六菩薩常樂說是妙法蓮華經，一一菩薩所化六百萬億那由他恒河沙等眾生，世世所生與菩薩俱，從其聞法，悉皆信解。以此因緣，得值四萬億諸佛世尊，于今不盡。諸比丘！我今語汝：彼佛弟子十六沙彌，今皆得阿耨多羅三藐三菩提，於十方國土現在說法，有無量百千萬億菩薩聲聞以為眷屬。其二沙彌東方作佛，一名阿閦，在歡喜國；二名須彌頂。東南方二佛，一名師子音，二名師子相。南方二佛，一名虛空住，二名常滅。西南方二佛，一名帝相，二名梵相。西方二佛，一名阿彌陀，二名度一切世間苦惱。西北方二佛，一名多摩羅跋栴檀香神通，二名須彌相。北方二佛，一名雲自在，二名雲自在王。東北方佛，名壞一切世間怖畏。第十六，我釋迦牟尼佛，於娑婆國土成阿耨多羅三藐三菩提。諸比丘！我等為沙彌時，各各教化無量百千萬億恒河沙等眾生，從我聞法，為阿耨多羅三藐三菩提。此諸眾生，于今有住聲聞地者，我常教化阿耨多羅三藐三菩提，是諸人等，應以是法漸入佛道。所以者何？如來智慧難信難解。爾時所化無量恒河沙等眾生者，汝等諸比丘及我滅度後未來世中聲聞弟子是也。我滅度後，復有弟子不聞是經，不知不覺菩薩所行，自於所得功德生滅度想，當入涅槃。我於餘國作佛，更有異名。是人雖生滅度之想，入

卷第三—十三

3·7

於涅槃，而於彼土求佛智慧，得聞是經，唯以佛乘而得滅度，更無餘乘，除諸如來方便說法。諸比丘！若如來自知涅槃時到，眾又清淨，信解堅固，了達空法，深入禪定，便集諸菩薩及聲聞眾，為說是經。世間無有二乘而得滅度，唯一佛乘得滅度耳。比丘當知！如來方便深入眾生之性，知其志樂小法，深著五欲，為是等故說於涅槃，是人若聞，則便信受。譬如五百由旬險難惡道，曠絕無人怖畏之處，若有多眾欲過此道至珍寶處，有一導師，聰慧明達，善知險道通塞之相，將導眾人欲過此難。所將人眾中路懈退，白導師言：『我等疲極而復怖畏，不能復進；前路猶遠，今欲退還。』導師多諸方便而作是念：『此等可愍，云何捨大珍寶而欲退還？』作是念已，以方便力，於險道中過三百由旬，化作一城，告眾人言：『汝等勿怖，莫得退還。今此大城，可於中止，隨意所作。若入是城，快得安隱；若能前至寶所，亦可得去。』是時疲極之眾，心大歡喜，歎未曾有：『我等今者免斯惡道，快得安隱。』於是眾人前入化城，生已度想，生安隱想。爾時導師知此人眾既得止息，無復疲倦，即滅化城，語眾人言：『汝等去來，寶處在近，向者大城，我所化作，為止息耳。』諸比丘！如來亦復如是，今為汝等作大導師，知諸生死煩惱惡道險難長遠，應去應度。若眾生但聞一佛乘者，則不欲見佛，不欲親近，便作是念：『佛道長遠，久受勤苦乃可得成。』佛知是心怯弱下劣，以方便力而於中道為止息故，說二涅槃。若眾生住於二地，如來爾時即便為說：『汝等所作未辦，汝所住地近於佛慧，當觀察籌量，所得涅槃非真實也，但是如來方便之力，於一佛乘分別說三。』如彼導師為止息故化作大城，既知息已而告之言：『寶處在近，此城非實，我化作耳。』」爾時世尊欲重宣此義而說偈言：

大通智勝佛　十劫坐道場　佛法不現前　不得成佛道
諸天神龍王　阿修羅眾等　常雨於天華　以供養彼佛
諸天擊天鼓　幷作眾伎樂　香風吹萎華　更雨新好者
過十小劫已　乃得成佛道　諸天及世人　心皆懷踊躍
彼佛十六子　皆與其眷屬　千萬億圍繞　俱行至佛所

巻第三—十四

3・7・295

295 a 頭面禮佛足 而請轉法輪 聖師子法雨 充我及一切
296 b 世尊甚難値 久遠時一現 為覺悟群生 震動於一切
297 c 東方諸世界 五百萬億國 梵宮殿光曜 昔所未曾有
298 d 諸梵見此相 尋來至佛所 散華以供養 并奉上宮殿
299 e 請佛轉法輪 以偈而讃歎 佛知時未至 受請默然坐
300 f 三方及四維 上下亦復爾 散華奉宮殿 請佛轉法輪
301 g 世尊甚難値 願以大慈悲 廣開甘露門 轉無上法輪
302 h 無量慧世尊 受彼衆人請 為宣種種法 四諦十二縁
303 i 無明至老死 皆從生縁有 如是衆過患 汝等應當知
304 j 宣暢是法時 六百萬億姟 得盡諸苦際 皆成阿羅漢
305 k 第二説法時 千萬恒沙衆 於諸法不受 亦得阿羅漢
306 l 從是後得道 其數無有量 萬億劫算數 不能得其邊
307 m 時十六王子 出家作沙彌 皆共請彼佛 演説大乘法
308 n 我等及營從 皆當成佛道 願得如世尊 慧眼第一淨
309 o 佛知童子心 宿世之所行 以無量因縁 種種諸譬喩
310 p 説六波羅蜜 及諸神通事 分別眞實法 菩薩所行道
311 q 説是法華經 如恒河沙偈 彼佛説經已 靜室入禪定
312 r 一心一處坐 八萬四千劫 是諸沙彌等 知佛禪未出
313 s 為無量億衆 説佛無上慧 各各坐法座 説是大乘經

3・7・314

314 s' 於佛宴寂後 宣揚助法化 一一沙彌等 所度諸衆生
315 r' 有六百萬億 恒河沙等衆 彼佛滅度後 是諸聞法者
316 q' 在在諸佛土 常與師倶生 是十六沙彌 具足行佛道
317 p' 今現在十方 各得成正覺 爾時聞法者 各在諸佛所
318 o' 其有住聲聞 漸教以佛道 我在十六數 曾亦為汝説
319 n' 是故以方便 引汝趣佛慧 以是本因縁 今説法華經
320 m' 令汝入佛道 慎勿懷驚懼 譬如險惡道 迥絶多毒獸
321 l' 又復無水草 人所怖畏處 無數千萬衆 欲過此險道
322 k' 其路甚曠遠 經五百由旬 時有一導師 強識有智慧
323 j' 明了心決定 在險濟衆難 衆人皆疲惓 而白導師言
324 i' 我等今頓乏 於此欲退還 導師作是念 此輩甚可愍
325 h' 如何欲退還 而失大珍寶 尋時思方便 當設神通力
326 g' 化作大城郭 莊嚴諸舍宅 周匝有園林 渠流及浴池
327 f' 重門高樓閣 男女皆充滿 即作是化已 慰衆言勿懼
328 e' 汝等入此城 各可隨所樂 諸人既入城 心皆大歡喜
329 d' 皆生安隱想 自謂已得度 導師知息已 集衆而告言
330 c' 汝等當前進 此是化城耳 我見汝疲極 中路欲退還
331 b' 故以方便力 權化作此城 汝今勤精進 當共至寶所
332 a' 我亦復如是 為一切導師 見諸求道者 中路而懈廢

巻第三—十五

3・7・333

333 a 不能度生死 煩惱諸險道 故以方便力 為息説涅槃
334 b 言汝等苦滅 所作皆已辦 既知到涅槃 皆得阿羅漢
335 c 爾乃集大衆 為説眞實法 諸佛方便力 分別説三乘
336 d 唯有一佛乘 息處故説二 今為汝説實 汝所得非滅
337 e 為佛一切智 當發大精進 汝證一切智 十力等佛法
338 f 具三十二相 乃是眞實滅 諸佛之導師 為息説涅槃
339 g 既知是息已 引入於佛慧
340 h 妙法蓮華經巻第三

a' （未記入）
b' （未記入）
c' （未記入）
d' （未記入）
e' （未記入）
f' （未記入）
g' （未記入）
h' （未記入）

巻第四—一

4・8・1

1 a 妙法蓮華經五百弟子受記品第八
2 b 爾時富樓那彌多羅尼子 從佛聞是智慧方
3 c 便隨宜説法 又聞授諸大弟子阿耨多羅三
4 d 藐三菩提記 復聞宿世因縁之事 復聞諸佛
5 e 有大自在神通之力 得未曾有 心淨踊躍
6 f 即從座起 到於佛前 頭面禮足 却住一面 瞻仰
7 g 尊顏 目不暫捨 而作是念 世尊甚奇特 所為
8 h 希有 隨順世間若干種性 以方便知見 而為
9 i 説法 拔出衆生處處貪著 我等於佛功徳 言
10 j 不能宣 唯佛世尊 能知我等深心本願 爾時
11 k 佛告諸比丘 汝等見是富樓那彌多羅尼子
12 l 不 我常稱其於説法人中 最為第一 亦常歎
13 m 其種種功徳 精勤護持 助宣我法 能於四衆
14 n 示教利喜 具足解釋佛之正法 而大饒益同
15 o 梵行者 自捨如來 無能盡其言論之辯 汝等
16 p 勿謂富樓那 但能護持 助宣我法 亦於過去
17 q 九十億諸佛所 護持助宣佛之正法 於彼説
18 r 法人中 亦最第一 又於諸佛所説空法 明了
19 s 通達 得四無礙智 常能審諦 清淨説法 無有

4・8・20

20 s' 疑惑 具足菩薩神通之力 隨其壽命 常修梵
21 r' 行 彼佛世人 咸皆謂之實是聲聞 而富樓那
22 q' 以斯方便 饒益無量百千衆生 又化無量阿
23 p' 僧祇人 令立阿耨多羅三藐三菩提 為淨佛
24 o' 土故 常作佛事 教化衆生 諸比丘 富樓那亦
25 n' 於七佛説法人中 而得第一 今於我所説法
26 m' 人中 亦為第一 於賢劫中 當來諸佛説法人
27 l' 中 亦復第一 而皆護持 助宣佛法 亦於未來
28 k' 護持助宣無量無邊諸佛之法 教化饒益
29 j' 無量衆生 令立阿耨多羅三藐三菩提 為淨佛
30 i' 土故 常勤精進 教化衆生 漸漸具足菩薩之
31 h' 道 過無量阿僧祇劫 當於此土 得阿耨多羅
32 g' 三藐三菩提 號曰法明如來 應供 正遍知 明
33 f' 行足 善逝 世間解 無上士 調御丈夫 天人師
34 e' 佛世尊 其佛以恒河沙等三千大千世界 為
35 d' 一佛土 七寶為地 地平如掌 無有山陵谿澗
36 c' 溝壑 七寶臺觀充滿其中 諸天宮殿 近處虚
37 b' 空 人天交接 兩得相見 無諸惡道 亦無女人
38 a' 一切衆生 皆以化生 無有婬欲 得大神通 身

巻第四—二

4・8・39

39 a 出光明 飛行自在 志念堅固 精進智慧 普皆
40 b 金色 三十二相 而自莊嚴 其國衆生 常以二
41 c 食 一者法喜食 二者禪悦食 有無量阿僧祇
42 d 千萬億那由他諸菩薩衆 得大神通 四無礙
43 e 智 善能教化衆生之類 其聲聞衆 算數校計
44 f 所不能知 皆得具足六通 三明 及八解脱 其
45 g 佛國土 有如是等無量功徳 莊嚴成就 劫名
46 h 寶明 國名善淨 其佛壽命無量阿僧祇劫 法
47 i 住甚久 佛滅度後 起七寶塔 遍滿其國 爾時
48 j 世尊 欲重宣此義 而説偈言
49 k 諸比丘諦聽 佛子所行道 善學方便故 不可得思議
50 l 知衆樂小法 而畏於大智 是故諸菩薩 作聲聞縁覺
51 m 以無數方便 化諸衆生類 自説是聲聞 去佛道甚遠
52 n 度脱無量衆 皆悉得成就 雖小欲懈怠 漸當令作佛
53 o 内祕菩薩行 外現是聲聞 少欲厭生死 實自淨佛土
54 p 示衆有三毒 又現邪見相 我弟子如是 方便度衆生
55 q 若我具足説 種種現化事 衆生聞是者 心則懷疑惑
56 r 今此富樓那 於昔千億佛 勤修所行道 宣護諸佛法
57 s 為求無上慧 而於諸佛所 現居弟子上 多聞有智慧
58 t 所説無所畏 能令衆歡喜 未曾有疲倦 而以助佛事

4・8・59

59 t' 已度大神通 具四無礙智 知衆根利鈍 常説清淨法
60 s' 演暢如是義 教諸千億衆 令住大乘法 而自淨佛土
61 r' 未來亦供養 無量無數佛 護助宣正法 亦自淨佛土
62 q' 常以諸方便 説法無所畏 度不可計衆 成就一切智
63 p' 供養諸如來 護持法寶藏 其後得成佛 號名曰法明
64 o' 其國名善淨 七寶所合成 劫名為寶明 菩薩衆甚多
65 n' 其數無量億 皆度大神通 威徳力具足 充滿其國土
66 m' 聲聞亦無數 三明八解脱 得四無礙智 以是等為僧
67 l' 其國諸衆生 婬欲皆已斷 純一變化生 具相莊嚴身
68 k' 法喜禪悦食 更無餘食想 無有諸女人 亦無諸惡道
69 j' 富樓那比丘 功徳悉成滿 當得斯淨土 賢聖衆甚多
70 i' 如是無量事 我今但略説
71 h' 爾時千二百阿羅漢 心自在者 作是念 我等
72 g' 歡喜 得未曾有 若世尊各見授記 如餘大弟
73 f' 子者 不亦快乎 佛知此等心之所念 告摩訶
74 e' 迦葉 是千二百阿羅漢 我今當現前次第與
75 d' 授阿耨多羅三藐三菩提記 於此衆中 我大
76 c' 弟子憍陳如比丘 當供養六萬二千億佛 然
77 b' 後得成為佛 號曰普明如來 應供 正遍知 明
78 a' 行足 善逝 世間解 無上士 調御丈夫 天人師

卷第四—三

4・8・79 a 佛世尊 其五百阿羅漢 優樓頻螺迦葉 伽耶迦葉
80 b 那提迦葉迦留陀夷優陀夷阿㝹樓馱
81 c 離婆多劫賓那薄拘羅周陀莎伽陀等皆當
82 d 得阿耨多羅三藐三菩提 盡同一號 名曰普明
83 e 爾時世尊欲重宣此義而說偈言
84 f 憍陳如比丘 當見無量佛 過阿僧祇劫 乃成等正覺
85 g 常放大光明 具足諸神通 名聞遍十方 一切之所敬
86 h 常說無上道 故號為普明 其國土清淨 菩薩皆勇猛
87 i 咸昇妙樓閣 遊諸十方國 以無上供具 奉獻於諸佛
88 j 作是供養已 心懷大歡喜 須臾還本國 有如是神力
89 k 佛壽六萬劫 正法住倍壽 像法復倍是 法滅天人憂
90 l 其五百比丘 次第當作佛 同號曰普明 轉次而授記
91 m 我滅度之後 某甲當作佛 其所化世間 亦如我今日
92 n 國土之嚴淨 及諸神通力 菩薩聲聞眾 正法及像法
93 o 壽命劫多少 皆如上所說 迦葉汝已知 五百自在者
94 p 餘諸聲聞眾 亦當復如是 其不在此會 汝當為宣說
95 q 爾時五百阿羅漢於佛前得受記已歡喜踊
96 r 躍即從座起到於佛前頭面禮足悔過自責
97 s 世尊我等常作是念自謂已得究竟滅度今
98 t 乃知之如無智者所以者何我等應得如來

4・8・99 t′ 智慧而便自以小智為足世尊譬如有人至
100 s′ 親友家醉酒而臥是時親友官事當行以無
101 r′ 價寶珠繫其衣裏與之而去其人醉臥都不
102 q′ 覺知起已遊行到於他國為衣食故勤力求
103 p′ 索甚大艱難若少有所得便以為足於後親
104 o′ 友會遇見之而作是言咄哉丈夫何為衣食
105 n′ 乃至如是我昔欲令汝得安樂五欲自恣於
106 m′ 某年日月以無價寶珠繫汝衣裏今故現在
107 l′ 而汝不知勤苦憂惱以求自活甚為癡也汝
108 k′ 今可以此寶貿易所須常可如意無所乏短
109 j′ 佛亦如是為菩薩時教化我等令發一切智
110 i′ 心而尋廢忘不知不覺既得阿羅漢道自謂
111 h′ 滅度資生艱難得少為足一切智願猶在不
112 g′ 失今者世尊覺悟我等作如是言諸比丘汝
113 f′ 等所得非究竟滅我久令汝等種佛善根以
114 e′ 方便故示涅槃相而汝謂為實得滅度世尊
115 d′ 我今乃知實是菩薩得受阿耨多羅三藐三
116 c′ 菩提記以是因緣甚大歡喜得未曾有爾時
117 b′ 阿若憍陳如等欲重宣此義而說偈言
118 a′ 我等聞無上 安隱授記聲 歡喜未曾有 禮無量智佛

卷第四—四

4・8・119 a 今於世尊前 自悔諸過咎 於無量佛寶 得少涅槃分
120 b 如無智愚人 便自以為足 譬如貧窮人 往至親友家
121 c 其家甚大富 具設諸肴饍 以無價寶珠 繫著內衣裏
122 d 默與而捨去 時臥不覺知 是人既已起 遊行詣他國
123 e 求衣食自濟 資生甚艱難 得少便為足 更不願好者
124 f 不覺內衣裏 有無價寶珠 與珠之親友 後見此貧人
125 g 苦切責之已 示以所繫珠 貧人見此珠 其心大歡喜
126 h 富有諸財物 五欲而自恣 我等亦如是 世尊於長夜
127 i 常愍見教化 令種無上願 我等無智故 不覺亦不知
128 j 得少涅槃分 自足不求餘 今佛覺悟我 言非實滅度
129 k 得佛無上慧 爾乃為真滅 我今從佛聞 授記莊嚴事
130 l 及轉次受決 身心遍歡喜
4・9・1 m 妙法蓮華經授學無學人記品第九
2 n 爾時阿難羅睺羅而作是念我等每自思惟
3 o 設得授記不亦快乎即從座起到於佛前頭
4 p 面禮足俱白佛言世尊我等於此亦應有分
5 q 唯有如來我等所歸又我等為一切世間天
6 r 人阿修羅所見知識阿難常為侍者護持法
7 s 藏羅睺羅是佛之子若佛見授阿耨多羅三
8 t 藐三菩提記者我願既滿眾望亦足爾時學
9 u 無學聲聞弟子二千人皆從座起偏袒右肩

4・9・10 u′ 到於佛前一心合掌瞻仰世尊如阿難羅睺
11 t′ 羅所願住立一面爾時佛告阿難汝於來世
12 s′ 當得作佛號山海慧自在通王如來應供正
13 r′ 遍知明行足善逝世間解無上士調御丈夫
14 q′ 天人師佛世尊當供養六十二億諸佛護持
15 p′ 法藏然後得阿耨多羅三藐三菩提教化二
o′ （未記入）
16 n′ 十千萬億恒河沙諸菩薩等令成阿耨多羅
17 m′ 三藐三菩提國名常立勝幡其土清淨琉璃
18 l′ 為地劫名妙音遍滿其佛壽命無量千萬億
19 k′ 阿僧祇劫若人於千萬億無量阿僧祇劫中
20 j′ 算數校計不能得知正法住世倍於壽命像
21 i′ 法住世復倍正法阿難是山海慧自在通王
22 h′ 佛為十方無量千萬億恒河沙等諸佛如來
23 g′ 所共讚歎稱其功德爾時世尊欲重宣此義
24 f′ 而說偈言
25 e′ 我今僧中說 阿難持法者 當供養諸佛 然後成正覺
26 d′ 號曰山海慧 自在通王佛 其國土清淨 名常立勝幡
27 c′ 教化諸菩薩 其數如恒沙 佛有大威德 名聞滿十方
28 b′ 壽命無有量 以愍眾生故 正法倍壽命 像法復倍是
29 a′ 如恒河沙等 無數諸眾生 於此佛法中 種佛道因緣

卷第四—五

4・9・30 a 爾時會中新發意菩薩八千人咸作是念我
31 b 等尚不聞諸大菩薩得如是記有何因緣而
32 c 諸聲聞得如是決爾時世尊知諸菩薩心之
33 d 所念而告之曰諸善男子我與阿難等於空
34 e 王佛所同時發阿耨多羅三藐三菩提心阿
35 f 難常樂多聞我常勤精進是故我已得成阿
36 g 耨多羅三藐三菩提而阿難護持我法亦護
37 h 將來諸佛法藏教化成就諸菩薩眾其本願
38 i 如是故獲斯記阿難面於佛前自聞授記及
39 j 國土莊嚴所願具足心大歡喜得未曾有即
40 k 時憶念過去無量千萬億諸佛法藏通達無
41 l 礙如今所聞亦識本願爾時阿難而說偈言
42 m 世尊甚希有 令我念過去 無量諸佛法 如今日所聞
43 n 我今無復疑 安住於佛道 方便為侍者 護持諸佛法
44 o 爾時佛告羅睺羅汝於來世當得作佛號蹈
45 p 七寶華如來應供正遍知明行足善逝世間
46 q 解無上士調御丈夫天人師佛世尊當供養
47 r 十世界微塵等數諸佛如來常為諸佛而作
48 s 長子猶如今也是蹈七寶華佛國土莊嚴
49 t 壽命劫數所化弟子正法像法亦如山海慧自

4・9・50 t′ 在通王如來無異亦為此佛而作長子過是
51 s′ 已後當得阿耨多羅三藐三菩提爾時世尊
52 r′ 欲重宣此義而說偈言
53 q′ 我為太子時 羅睺為長子 我今成佛道 受法為法子
54 p′ 於未來世中 見無量億佛 皆為其長子 一心求佛道
55 o′ 羅睺羅密行 唯我能知之 現為我長子 以示諸眾生
56 n′ 無量億千萬 功德不可數 安住於佛法 以求無上道
57 m′ 爾時世尊見學無學二千人其意柔軟寂然
58 l′ 清淨一心觀佛佛告阿難汝見是學無學二
59 k′ 千人不唯然已見阿難是諸人等當供養五
60 j′ 十世界微塵數諸佛如來恭敬尊重護持法
61 i′ 藏末後同時於十方國各得成佛皆同一號
62 h′ 名曰寶相如來應供正遍知明行足善逝世
63 g′ 間解無上士調御丈夫天人師佛世尊壽命
64 f′ 一劫國土莊嚴聲聞菩薩正法像法皆悉同
65 e′ 等爾時世尊欲重宣此義而說偈言
66 d′ 是二千聲聞 今於我前住 悉皆與授記 未來當成佛
67 c′ 所供養諸佛 如上說塵數 護持其法藏 後當成正覺
68 b′ 各於十方國 悉同一名號 俱時坐道場 以證無上慧
69 a′ 皆名為寶相 國土及弟子 正法與像法 悉等無有異

卷第四—六

4・9・70 a 咸以諸神通 度十方眾生 名聞普周遍 漸入於涅槃
71 b 爾時學無學二千人聞佛授記歡喜踊躍而
72 c 說偈言
73 d 世尊慧燈明 我聞授記音 心歡喜充滿 如甘露見灌
4・10・1 e 妙法蓮華經法師品第十
2 f 爾時世尊因藥王菩薩告八萬大士藥王汝
3 g 見是大眾中無量諸天龍王夜叉乾闥婆阿
4 h 修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人與非人及
5 i 比丘比丘尼優婆塞優婆夷求聲聞者求辟
6 j 支佛者求佛道者如是等類咸於佛前聞妙
7 k 法華經一偈一句乃至一念隨喜者我皆與
8 l 授記當得阿耨多羅三藐三菩提佛告藥王
9 m 又如來滅度之後若有人聞妙法華經乃至
10 n 一偈一句一念隨喜者我亦與授阿耨多羅
11 o 三藐三菩提記若復有人受持讀誦解說書
12 p 寫妙法華經乃至一偈於此經卷敬視如佛
13 q 種種供養華香瓔珞末香塗香燒香繒蓋幢幡
14 r 衣服伎樂乃至合掌恭敬藥王當知是諸
15 s 人等已曾供養十萬億佛於諸佛所成就大
16 t 願愍眾生故生此人間藥王若有人問何等

4・10・17 t′ 眾生於未來世當得作佛應示是諸人等於
18 s′ 未來世必得作佛何以故若善男子善女人
19 r′ 於法華經乃至一句受持讀誦解說書寫種
20 q′ 種供養經卷華香瓔珞末香塗香燒香繒蓋
21 p′ 幢幡衣服伎樂合掌恭敬是人一切世間所
22 o′ 應瞻奉應以如來供養而供養之當知此人
23 n′ 是大菩薩成就阿耨多羅三藐三菩提哀愍
24 m′ 眾生願生此間廣演分別妙法華經何況盡
25 l′ 能受持種種供養者藥王當知是人自捨清
26 k′ 淨業報於我滅度後愍眾生故生於惡世廣
27 j′ 演此經若是善男子善女人我滅度後能竊
28 i′ 為一人說法華經乃至一句當知是人則如
29 h′ 來使如來所遣行如來事何況於大眾中廣
30 g′ 為人說藥王若有惡人以不善心於一劫中
31 f′ 現於佛前常毀罵佛其罪尚輕若人以一惡
32 e′ 言毀呰在家出家讀誦法華經者其罪甚重
33 d′ 藥王其有讀誦法華經者當知是人以佛莊
34 c′ 嚴而自莊嚴則為如來肩所荷擔其所至方
35 b′ 應隨向禮一心合掌恭敬供養尊重讚歎華
36 a′ 香瓔珞末香塗香燒香繒蓋幢幡衣服肴饌

巻第四―七

4-10-37

37 a 作諸伎樂人中上供而供養之應持天寶而
38 b 以散之天上寶聚應以奉獻所以者何是人
39 c 歡喜說法須臾聞之即得究竟阿耨多羅三
40 d 藐三菩提故爾時世尊欲重宣此義而說偈
41 e 言
42 f 若欲住佛道　成就自然智　常當勤供養　受持法華者
43 g 其有欲疾得　一切種智慧　當受持是經　并供養持者
44 h 若有能受持　妙法華經者　當知佛所使　愍念諸衆生
45 i 諸有能受持　妙法華經者　捨於清淨土　愍衆故生此
46 j 當知如是人　自在所欲生　能於此惡世　廣說無上法
47 k 應以天華香　及天寶衣服　天上妙寶聚　供養說法者
48 l 吾滅後惡世　能持是經者　當合掌禮敬　如供養世尊
49 m 上饌衆甘美　及種種衣服　供養是佛子　冀得須臾聞
50 n 若能於後世　受持是經者　我遣在人中　行於如來事
51 o 若於一劫中　常懷不善心　作色而罵佛　獲無量重罪
52 p 其有讀誦持　是法華經者　須臾加惡言　其罪復過彼
53 q 有人求佛道　而於一劫中　合掌在我前　以無數偈讚
54 r 由是讚佛故　得無量功德　歎美持經者　其福復過彼
55 s 於八十億劫　以最妙色聲　及與香味觸　供養持經者
56 t 如是供養已　若得須臾聞　則應自欣慶　我今獲大利

4-10-57

57 t' 藥王今告汝　我所說諸經　而於此經中　法華最第一
58 s' 爾時佛復告藥王菩薩摩訶薩我所說經典
59 r' 無量千萬億已說今說當說而於其中此法
60 q' 華經最為難信難解藥王此經是諸佛秘要
61 p' 之藏不可分布妄授與人諸佛世尊之所守
62 o' 護從昔已來未曾顯說而此經者如來現在
63 n' 猶多怨嫉況滅度後藥王當知如來滅後其
64 m' 能書持讀誦供養為他人說者如來則為以
65 l' 衣覆之又為他方現在諸佛之所護念是人
66 k' 有大信力及志願力諸善根力當知是人與
67 j' 如來共宿則為如來手摩其頭藥王在在處
68 i' 處若說若讀若誦若書若經卷所住之處皆
69 h' 應起七寶塔極令高廣嚴飾不須復安舍利
70 g' 所以者何此中已有如來全身此塔應以一
71 f' 切華香瓔珞繒蓋幢幡伎樂歌頌供養恭敬
72 e' 尊重讚歎若有人得見此塔禮拜供養當知
73 d' 是等皆近阿耨多羅三藐三菩提藥王多有
74 c' 人在家出家行菩薩道若不能得見聞讀誦
75 b' 書持供養是法華經者當知是人未善行菩
76 a' 薩道若有得聞是經典者乃能善行菩薩之

巻第四―八

4-10-77

77 a 道若有衆生求佛道者若見若聞是法華經
78 b 聞已信解受持者當知是人得近阿耨多羅
79 c 三藐三菩提藥王譬如有人渴乏須水於彼
80 d 高原穿鑿求之猶見乾土知水尚遠施功不
81 e 已轉見濕土遂漸至泥其心決定知水必近
82 f 菩薩亦復如是若未聞未解未能修習是法
83 g 華經當知是人去阿耨多羅三藐三菩提尚
84 h 遠若得聞解思惟修習必知得近阿耨多羅
85 i 三藐三菩提所以者何一切菩薩阿耨多羅
86 j 三藐三菩提皆屬此經此經開方便門示眞
87 k 實相是法華經藏深固幽遠無人能到今佛
88 l 教化成就菩薩而為開示藥王若有菩薩聞
89 m 是法華經驚疑怖畏當知是為新發意菩薩
90 n 若聲聞人聞是經驚疑怖畏當知是為增上
91 o 慢者藥王若有善男子善女人如來滅後欲
92 p 為四衆說是法華經者云何應說是善男子
93 q 善女人入如來室著如來衣坐如來座爾乃
94 r 應為四衆廣說斯經如來室者一切衆生中
95 s 大慈悲心是如來衣者柔和忍辱心是如來
96 t 座者一切法空是安住是中然後以不懈怠

4-10-97

97 t' 心為諸菩薩及四衆廣說是法華經藥王我
98 s' 於餘國遣化人為其集聽法衆亦遣化比丘
99 r' 比丘尼優婆塞優婆夷聽其說法是諸化人
100 q' 聞法信受隨順不逆若說法者在空閑處我
101 p' 時廣遣天龍鬼神乾闥婆阿修羅等聽其說
102 o' 法我雖在異國時時令說法者得見我身若
103 n' 於此經忘失句逗我還為說令得具足爾時
104 m' 世尊欲重宣此義而說偈言
105 l' 欲捨諸懈怠　應當聽此經　是經難得聞　信受者亦難
106 k' 如人渴須水　穿鑿於高原　猶見乾燥土　知去水尚遠
107 j' 漸見濕土泥　決定知近水　藥王汝當知　如是諸人等
108 i' 不聞法華經　去佛智甚遠　若聞是深經　決了聲聞法
109 h' 是諸經之王　聞已諦思惟　當知此人等　近於佛智慧
110 g' 若人說此經　應入如來室　著於如來衣　而坐如來座
111 f' 處衆無所畏　廣為分別說　大慈悲為室　柔和忍辱衣
112 e' 諸法空為座　處此為說法　若說此經時　有人惡口罵
113 d' 加刀杖瓦石　念佛故應忍　我千萬億土　現淨堅固身
114 c' 於無量億劫　為衆生說法　若我滅度後　能說此經者
115 b' 我遣化四衆　比丘比丘尼　及清信士女　供養於法師
116 a' 引導諸衆生　集之令聽法　若人欲加惡　刀杖及瓦石

巻第四―九

4-10-117

117 a 則遣變化人　為之作衛護　若說法之人　獨在空閑處
118 b 寂寞無人聲　讀誦此經典　我爾時為現　清淨光明身
119 c 若忘失章句　為說令通利　若人具是德　或為四衆說
120 d 空處讀誦經　皆得見我身　若人在空閑　我遣天龍王
121 e 夜叉鬼神等　為作聽法衆　是人樂說法　分別無罣礙
122 f 諸佛護念故　能令大衆喜　若親近法師　速得菩薩道
123 g 隨順是師學　得見恒沙佛

4-11-1

1 h 妙法蓮華經見寶塔品第十一
2 i 爾時佛前有七寶塔高五百由旬縱廣二百
3 j 五十由旬從地踊出住在空中種種寶物而
4 k 莊校之五千欄楯龕室千萬無數幢幡以為
5 l 嚴飾垂寶瓔珞寶鈴萬億而懸其上四面皆
6 m 出多摩羅跋栴檀之香充遍世界其諸幡蓋
7 n 以金銀琉璃硨磲碼碯眞珠玫瑰七寶合成
8 o 高至四天王宮三十三天雨天曼陀羅華供
9 p 養寶塔餘諸天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓
10 q 羅緊那羅摩睺羅伽人非人等千萬億衆以
11 r 一切華香瓔珞幡蓋伎樂供養寶塔恭敬尊
12 s 重讚歎爾時寶塔中出大音聲歎言善哉善
13 t 哉釋迦牟尼世尊能以平等大慧教菩薩法

4-11-14

14 t' 佛所護念妙法華經為大衆說如是如是釋
15 s' 迦牟尼世尊如所說者皆是眞實爾時四衆
16 r' 見大寶塔住在空中又聞塔中所出音聲皆
17 q' 得法喜怪未曾有從座而起恭敬合掌卻住
18 p' 一面爾時有菩薩摩訶薩名大樂說知一切
19 o' 世間天人阿修羅等心之所疑而白佛言世
20 n' 尊以何因緣有此寶塔從地踊出又於其中
21 m' 發是音聲爾時佛告大樂說菩薩此寶塔中
22 l' 有如來全身乃往過去東方無量千萬億阿
23 k' 僧祇世界國名寶淨彼中有佛號曰多寶其
24 j' 佛行菩薩道時作大誓願若我成佛滅度之
25 i' 後於十方國土有說法華經處我之塔廟
26 h' 為聽是經故踊現其前為作證明讚言善哉
27 g' 彼佛成道已臨滅度時於天人大衆中告諸
28 f' 比丘我滅度後欲供養我全身者應起一大
29 e' 塔其佛以神通願力十方世界在在處處若
30 d' 有說法華經者彼之寶塔皆踊出其前全身
31 c' 在於塔中讚言善哉善哉大樂說今多寶如
32 b' 來塔聞說法華經故從地踊出讚言善哉善
33 a' 哉是時大樂說菩薩以如來神力故白佛言

巻第四―十

4-11-34

34 a 世尊我等願欲見此佛身佛告大樂說菩薩
35 b 摩訶薩是多寶佛有深重願若我寶塔為聽
36 c 法華經故出於諸佛前時其有欲以我身示
37 d 四衆者彼佛分身諸佛在於十方世界說法
38 e 盡還集一處然後我身乃出現耳大樂說我
39 f 分身諸佛在於十方世界說法者今應當集
40 g 大樂說白佛言世尊我等亦願欲見世尊分
41 h 身諸佛禮拜供養爾時佛放白毫一光即見
42 i 東方五百萬億那由他恒河沙等國土諸佛
43 j 彼諸國土皆以頗梨為地寶樹寶衣以為莊
44 k 嚴無數千萬億菩薩充滿其中遍張寶幔寶
45 l 網羅上彼國諸佛以大妙音而說諸法及見
46 m 無量千萬億菩薩遍滿諸國為衆說法南西
47 n 北方四維上下白毫相光所照之處亦復如
48 o 是
49 p 爾時十方諸佛各告衆菩薩言善男子我今
50 q 應往娑婆世界釋迦牟尼佛所并供養多寶
51 r 如來寶塔時娑婆世界即變清淨琉璃為地
52 s 寶樹莊嚴黃金為繩以界八道無諸聚落村
53 t 營城邑大海江河山川林藪燒大寶香曼陀

4-11-54

54 t' 羅華遍布其地以寶網幔羅覆其上懸諸寶
55 s' 鈴唯留此會衆移諸天人置於他土是時諸
56 r' 佛各將一大菩薩以為侍者至娑婆世界各
57 q' 到寶樹下一一寶樹高五百由旬枝葉華果
58 p' 次第莊嚴諸寶樹下皆有師子之座高五由
59 o' 旬亦以大寶而校飾之爾時諸佛各於此座
60 n' 結跏趺坐如是展轉遍滿三千大千世界而
61 m' 於釋迦牟尼佛一方所分之身猶故未盡時
62 l' 釋迦牟尼佛欲容受所分身諸佛故八方各
63 k' 更變二百萬億那由他國皆令清淨無有地
64 j' 獄餓鬼畜生及阿修羅又移諸天人置於他
65 i' 土所化之國亦以琉璃為地寶樹莊嚴樹高
66 h' 五百由旬枝葉華果次第嚴飾樹下皆有寶
67 g' 師子座高五由旬種種諸寶以為莊校亦無
68 f' 大海江河及目眞鄰陀山摩訶目眞鄰陀山
69 e' 鐵圍山大鐵圍山須彌山等諸山王通為一
70 d' 佛國土寶地平正寶交露幔遍覆其上懸諸
71 c' 幡蓋燒大寶香諸天寶華遍布其地釋迦牟
72 b' 尼佛為諸佛當來坐故復於八方各變二百
73 a' 萬億那由他國皆令清淨無有地獄餓鬼畜

巻第四—十一

4・11・74 a 生及阿修羅又移諸天人置於他土所化之
75 b 國亦以琉璃為地寶樹莊嚴樹高五百由旬
76 c 枝葉華果次第嚴飾樹下皆有寶師子座高
77 d 五由旬亦以大寶而校飾之亦無大海江河
78 e 及目真鄰陀山摩訶目真鄰陀山鐵圍山大
79 f 鐵圍山須彌山等諸山王通為一佛國土寶
80 g 地平正寶交露幔遍覆其上懸諸幡蓋燒大
81 h 寶香諸天寶華遍布其地尒時東方釋迦牟
i （未記入）
82 j 尼佛所分之身百千萬億那由他恒河沙等
83 k 國土中諸佛各各說法來集於此如是次第
84 l 十方諸佛皆悉來集坐於八方尒時一一方
85 m 四百萬億那由他國土諸佛如來遍滿其中
86 n 是時諸佛各在寶樹下坐師子座皆遣侍者
87 o 問訊釋迦牟尼佛各齎寶華滿掬而告之言
88 p 善男子汝往詣耆闍崛山釋迦牟尼佛所如
89 q 我辭曰少病少惱氣力安樂及菩薩聲聞眾
90 r 悉安隱不以此寶華散佛供養而作是言彼
91 s 某甲佛與欲開此寶塔諸佛遣使亦復如是
92 t 尒時釋迦牟尼佛見所分身佛悉已來集各
93 u 各坐於師子之座皆聞諸佛與欲同開寶塔
4・11・94 u′ 即從座起住虛空中一切四眾起立合掌
95 t′ 一心觀佛於是釋迦牟尼佛以右指開七寶
96 s′ 塔戶出大音聲如却關鑰開大城門即時一
97 r′ 切眾會皆見多寶如來於寶塔中坐師子座
98 q′ 全身不散如入禪定又聞其言善哉善哉釋
99 p′ 迦牟尼佛快說是法華經我為聽是經故而
100 o′ 來至此尒時四眾等見過去無量千萬億劫
101 n′ 滅度佛說如是言歎未曾有以天寶華聚散
102 m′ 多寶佛及釋迦牟尼佛上尒時多寶佛於寶
103 l′ 塔中分半座與釋迦牟尼佛而作是言釋迦
104 k′ 牟尼佛可就此座即時釋迦牟尼佛入其塔
105 j′ 中坐其半座結加趺坐尒時大眾見二如來
106 i′ 在七寶塔中師子座上結加趺坐各作是念
107 h′ 佛座高遠唯願如來以神通力令我等輩俱
108 g′ 處虛空即時釋迦牟尼佛以神通力接諸大
109 f′ 眾皆在虛空以大音聲普告四眾誰能於此
110 e′ 娑婆國土廣說妙法華經今正是時如來不
111 d′ 久當入涅槃佛欲以此妙法華經付囑有在
112 c′ 尒時世尊欲重宣此義而說偈言
113 b′ 聖主世尊　雖久滅度　在寶塔中　尚為法來
114 a′ 諸人云何　不勤為法　此佛滅度　無央數劫

巻第四—十二

4・11・115 a 處處聽法　以難遇故　彼佛本願　我滅度後
116 b 在在所往　常為聽法　又我分身　無量諸佛
117 c 如恒沙等　來欲聽法　及見滅度　多寶如來
118 d 各捨妙土　及弟子眾　天人龍神　諸供養事
119 e 令法久住　故來至此　為坐諸佛　以神通力
120 f 移無量眾　令國清淨　諸佛各各　詣寶樹下
g （未記入）
h （未記入）
i （未記入）
j （未記入）
k （未記入）
l （未記入）
m （未記入）
121 n 如清涼池　蓮華莊嚴　其寶樹下　諸師子座
122 o 佛坐其上　光明嚴飾　如夜闇中　然大炬火
123 p 身出妙香　遍十方國　眾生蒙薰　喜不自勝
124 q 譬如大風　吹小樹枝　以是方便　令法久住
125 r 告諸大眾　我滅度後　誰能護持　讀說斯經
126 s 今於佛前　自說誓言　其多寶佛　雖久滅度
127 t 以大誓願　而師子吼　多寶如來　及與我身
128 u 所集化佛　當知此意　諸佛子等　誰能護法
129 v 當發大願　令得久住　其有能護　此經法者
130 w 則為供養　我及多寶　此多寶佛　處於寶塔
131 x 常遊十方　為是經故　亦復供養　諸來化佛
132 y 莊嚴光飾　諸世界者　若說此經　則為見我
133 z 多寶如來　及諸化佛　諸善男子　各諦思惟
z′ （未記入）
4・11・134 y′ 此為難事　宜發大願　諸餘經典　數如恒沙
135 x′ 雖說此等　未足為難　若接須彌　擲置他方
136 w′ 無數佛土　亦未為難　若以足指　動大千界
137 v′ 遠擲他國　亦未為難　若立有頂　為眾演說
138 u′ 無量餘經　亦未為難　若佛滅度　於惡世中
139 t′ 能說此經　是則為難　假使有人　手把虛空
140 s′ 而以遊行　亦未為難　於我滅後　若自書持
141 r′ 若使人書　是則為難　若以大地　置足甲上
142 q′ 昇於梵天　亦未為難　佛滅度後　於惡世中
143 p′ 暫讀此經　是則為難　假使劫燒　擔負乾草
144 o′ 入中不燒　亦未為難　我滅度後　若持此經
145 n′ 為一人說　是則為難　若持八萬　四千法藏
146 m′ 十二部經　為人演說　令諸聽者　得六神通
147 l′ 雖能如是　亦未為難　於我滅後　聽受此經
148 k′ 問其義趣　是則為難　若人說法　令千萬億
149 j′ 無量無數　恒沙眾生　得阿羅漢　具六神通
150 i′ 雖有是益　亦未為難　於我滅後　若能奉持
151 h′ 如斯經典　是則為難　我為佛道　於無量土
152 g′ 從始至今　廣說諸經　而於其中　此經第一
153 f′ 若有能持　則持佛身　諸善男子　於我滅後
154 e′ 誰能受持　讀誦此經　今於佛前　自說誓言
155 d′ 此經難持　若暫持者　我則歡喜　諸佛亦然
156 c′ 如是之人　諸佛所歎　是則勇猛　是則精進
157 b′ 是名持戒　行頭陀者　則為疾得　無上佛道
158 a′ 能於來世　讀持此經　是真佛子　住淳善地

巻第四—十三

4・11・159 a 佛滅度後　能解其義　是諸天人　世間之眼
160 b 於恐畏世　能須臾說　一切天人　皆應供養
161 c 妙法蓮華經卷第四
c′ （未記入）
b′ （未記入）
a′ （未記入）

卷第五—一

5-12-1
1 a 妙法蓮華經提婆達多品第十二
2 b 尓時佛告諸菩薩及天人四衆吾於過去無
3 c 量劫中求法華經無有懈惓於多劫中常作
4 d 國王發願求於無上菩提心不退轉爲欲滿
5 e 足六波羅蜜勤行布施心無悋惜象馬七珍
6 f 國城妻子奴婢僕從頭目髓腦身肉手足不
7 g 惜軀命時世人民壽命無量爲於法故捐捨
8 h 國位委政太子擊鼓宣令四方求法誰能爲
9 i 我說大乘者吾當終身供給走使時有仙人
10 j 來白王言我有大乘名妙法蓮華經若不違
11 k 我當爲宣說王聞仙言歡喜踊躍即隨仙人
12 l 供給所須採果汲水拾薪設食乃至以身而
13 m 爲床座身心無倦于時奉事經於千歲爲於
14 n 法故精勤給侍令無所乏尓時世尊欲重宣
15 o 此義而說偈言
16 p 我念過去劫　爲求大法故　雖作世國王　不貪五欲樂
17 q 搥鐘告四方　誰有大法者　若爲我解說　身當爲奴僕
18 r 時有阿私仙　來白於大王　我有微妙法　世間所希有
19 s 若能修行者　吾當爲汝說　時王聞仙言　心生大喜悅
20 t 即便隨仙人　供給於所須　採薪及果蓏　隨時恭敬與
5-12-21
21 t' 情存妙法故　身心無懈惓　普爲諸衆生　勤求於大法
22 s' 亦不爲己身　及以五欲樂　故爲大國王　勤求獲此法
23 r' 遂致得成佛　今故爲汝說
24 q' 佛告諸比丘尓時王者則我身是時仙人者
25 p' 今提婆達多是由提婆達多善知識故令我
26 o' 具足六波羅蜜慈悲喜捨三十二相八十種
27 n' 好紫磨金色十力四無所畏四攝法十八不
28 m' 共神通道力成等正覺廣度衆生皆因提婆
29 l' 達多善知識故告諸四衆提婆達多却後過
30 k' 無量劫當得成佛號曰天王如來應供正遍
31 j' 知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天
32 i' 人師佛世尊世界名天道時天王佛住世二
33 h' 十中劫廣爲衆生說於妙法恒河沙衆生得
34 g' 阿羅漢果無量衆生發緣覺心恒河沙衆生
35 f' 發無上道心得無生忍至不退轉時天王佛
36 e' 般涅槃後正法住世二十中劫全身舍利起
37 d' 七寶塔高六十由旬縱廣四十由旬諸天人
38 c' 民悉以雜華末香燒香塗香衣服瓔珞幢幡
39 b' 寶蓋伎樂歌頌禮拜供養七寶妙塔無量衆
40 a' 生得阿羅漢果無數衆生悟辟支佛不可思

卷第五—二

5-12-41
41 a 議衆生發菩提心至不退轉佛告諸比丘未
42 b 來世中若有善男子善女人聞妙法華經提
43 c 婆達多品淨心信敬不生疑惑者不墮地獄
44 d 餓鬼畜生生十方佛前所生之處常聞此經
45 e 若生人天中受勝妙樂若在佛前蓮華化生
46 f 於時下方多寶世尊所從菩薩名曰智積白
47 g 多寶佛當還本土釋迦牟尼佛告智積曰善
48 h 男子且待須臾此有菩薩名文殊師利可與
49 i 相見論說妙法可還本土尓時文殊師利坐
50 j 千葉蓮華大如車輪俱來菩薩亦坐寶蓮華
51 k 從於大海娑竭羅龍宮自然涌出住虛空中
52 l 詣靈鷲山從蓮華下至於佛所頭面敬禮二
53 m 世尊足修敬已畢往智積所共相慰問却坐
54 n 一面智積菩薩問文殊師利仁往龍宮所化
55 o 衆生其數幾何文殊師利言其數無量不可
56 p 稱計非口所宣非心所測且待須臾自當有
57 q 證所言未竟無數菩薩坐寶蓮華從海涌出
58 r 詣靈鷲山住在虛空此諸菩薩皆是文殊師
59 s 利之所化度具菩薩行皆共論說六波羅蜜
60 t 本聲聞人在虛空中說聲聞行今皆修行大
5-12-61
61 t' 乘空義文殊師利謂智積曰於海教化其事
62 s' 如此尓時智積菩薩以偈讚曰
63 r' 大智德勇健　化度無量衆　今此諸大會　及我皆已見
64 q' 演暢實相義　開闡一乘法　廣導諸衆生　令速成菩提
65 p' 文殊師利言我於海中唯常宣說妙法華經
66 o' 智積問文殊師利言此經甚深微妙諸經中
67 n' 寶世所希有頗有衆生勤加精進修行此經
68 m' 速得佛不文殊師利言有娑竭羅龍王女年
69 l' 始八歲智慧利根善知衆生諸根行業得陁
70 k' 羅尼諸佛所說甚深秘藏悉能受持深入禪
71 j' 定了達諸法於刹那頃發菩提心得不退轉
72 i' 辯才無礙慈念衆生猶如赤子功德具足心
73 h' 念口演微妙廣大慈悲仁讓志意和雅能至
74 g' 菩提智積菩薩言我見釋迦如來於無量劫
75 f' 難行苦行積功累德求菩提道未曾止息觀
76 e' 三千大千世界乃至無有如芥子許非是菩
77 d' 薩捨身命處爲衆生故然後乃得成菩提道
78 c' 不信此女於須臾頃便成正覺言論未訖時
79 b' 龍王女忽現於前頭面禮敬却住一面以偈
80 a' 讚曰

卷第五—三

5-12-81
81 a 深達罪福相　徧照於十方　微妙淨法身　具相三十二
82 b 以八十種好　用莊嚴法身　天人所戴仰　龍神咸恭敬
83 c 一切衆生類　無不宗奉者　又聞成菩提　唯佛當證知
84 d 我闡大乘教　度脫苦衆生
85 e 尓時舍利弗語龍女言汝謂不久得無上道
86 f 是事難信所以者何女身垢穢非是法器云
87 g 何能得無上菩提佛道懸曠經無量劫勤苦
88 h 積行具修諸度然後乃成又女人身猶有五
89 i 障一者不得作梵天王二者帝釋三者魔王
90 j 四者轉輪聖王五者佛身云何女身速得成
91 k 佛尓時龍女有一寶珠價直三千大千世界
92 l 持以上佛佛即受之龍女謂智積菩薩尊者
93 m 舍利弗言我獻寶珠世尊納受是事疾不答
94 n 言甚疾女言以汝神力觀我成佛復速於此
95 o 當時衆會皆見龍女忽然之間變成男子具
96 p 菩薩行即往南方無垢世界坐寶蓮華成等
97 q 正覺三十二相八十種好普爲十方一切衆
98 r 生演說妙法尓時娑婆世界菩薩聲聞天龍
99 s 八部人與非人皆遙見彼龍女成佛普爲時
100 t 會人天說法心大歡喜悉遙敬禮無量衆生
5-12-101
101 t' 聞法解悟得不退轉無量衆生得受道記無
102 s' 垢世界六反震動娑婆世界三千衆生住不
103 r' 退地三千衆生發菩提心而得受記智積菩
104 q' 薩及舍利弗一切衆會默然信受
5-13-1
1 p' 妙法蓮華經勸持品第十三
2 o' 尓時藥王菩薩摩訶薩及大樂說菩薩摩訶
3 n' 薩與二萬菩薩眷屬俱皆於佛前作是誓言
4 m' 唯願世尊不以爲慮我等於佛滅後當奉持
5 l' 讀誦說此經典後惡世衆生善根轉少多增
6 k' 上慢貪利供養增不善根遠離解脫雖難可
7 j' 教化我等當起大忍力讀誦此經持說書寫
8 i' 種種供養不惜身命尓時衆中五百阿羅漢
9 h' 得受記者白佛言世尊我等亦自誓願於異
10 g' 國土廣說此經復有學無學八千人得受記
11 f' 者從座而起合掌向佛作是誓言世尊我等
12 e' 亦當於他國土廣說此經所以者何是娑婆
13 d' 國中人多弊惡懷增上慢功德淺薄瞋濁諂
14 c' 曲心不實故尓時佛姨母摩訶波闍波提比
15 b' 丘尼與學無學比丘尼六千人俱從座而起
16 a' 一心合掌瞻仰尊顏目不暫捨於時世尊告

卷第五—四

5-13-17
17 a 憍曇彌何故憂色而視如來汝心將無謂我
18 b 不說汝名授阿耨多羅三藐三菩提記耶憍
19 c 曇彌我先總說一切聲聞皆已授記今汝欲
20 d 知記者將來之世當於六萬八千億諸佛法
21 e 中爲大法師及六千學無學比丘尼俱爲法
22 f 師汝如是漸漸具菩薩道當得作佛號一切
23 g 衆生喜見如來應供正遍知明行足善逝世
24 h 間解無上士調御丈夫天人師佛世尊憍曇
25 i 彌是一切衆生喜見佛及六千菩薩轉次授
26 j 記得阿耨多羅三藐三菩提尓時羅睺羅母
27 k 耶輸陁羅比丘尼作是念世尊於授記中獨
28 l 不說我名佛告耶輸陁羅汝於來世百千萬
29 m 億諸佛法中修菩薩行爲大法師漸具佛道
30 n 於善國中當得作佛號具足千萬光相如來
31 o 應供正遍知明行足善逝世間解無上士調
32 p 御丈夫天人師佛世尊佛壽無量阿僧祇劫
33 q 尓時摩訶波闍波提比丘尼及耶輸陁羅比
34 r 丘尼并其眷屬皆大歡喜得未曾有即於佛
35 s 前而說偈言
36 t 世尊導師　安隱天人　我等聞記　心安具足
5-13-37
37 t' 諸比丘尼說是偈已白佛言世尊我等亦能
38 s' 於他方國土廣宣此經
39 r' 尓時世尊視八十萬億那由他諸菩薩摩訶
40 q' 薩是諸菩薩皆是阿惟越致轉不退法輪得
41 p' 諸陁羅尼即從座起至於佛前一心合掌而
42 o' 作是念若世尊告勅我等持說此經者當如
43 n' 佛教廣宣斯法復作是念佛今默然不見告
44 m' 勅我當云何時諸菩薩敬順佛意并欲自滿
45 l' 本願便於佛前作師子吼而發誓言世尊我
46 k' 等於如來滅後周旋往返十方世界能令衆
47 j' 生書寫此經受持讀誦解說其義如法修行
48 i' 正憶念皆是佛之威力唯願世尊在於他方
49 h' 遙見守護即時諸菩薩俱同發聲而說偈言
50 g' 唯願不爲慮　於佛滅度後　恐怖惡世中　我等當廣說
51 f' 有諸無智人　惡口罵詈等　及加刀杖者　我等皆當忍
52 e' 惡世中比丘　邪智心諂曲　未得謂爲得　我慢心充滿
53 d' 或有阿練若　納衣在空閑　自謂行眞道　輕賤人間者
54 c' 貪著利養故　與白衣說法　爲世所恭敬　如六通羅漢
55 b' 是人懷惡心　常念世俗事　假名阿練若　好出我等過
56 a' 而作如是言　此諸比丘等　爲貪利養故　說外道論議

巻第五―五

a 自作此經典　誑惑世間人　爲求名聞故　分別於是經
b 常在大衆中　欲毀我等故　向國王大臣　婆羅門居士
c 及餘比丘衆　誹謗説我惡　謂是邪見人　説外道論議
d 我等敬佛故　悉忍是諸惡　爲斯所輕言　汝等皆是佛
e 如此輕慢言　皆當忍受之　濁劫惡世中　多有諸恐怖
f 惡鬼入其身　罵詈毀辱我　我等敬信佛　當著忍辱鎧
g 爲説是經故　忍此諸難事　我不愛身命　但惜無上道
h 我等於來世　護持佛所囑　世尊自當知　濁世惡比丘
i 不知佛方便　隨宜所説法　惡口而顰蹙　數數見擯出
j 遠離於塔寺　如是等衆惡　念佛告勅故　皆當忍是事
k 諸聚落城邑　其有求法者　我皆到其所　説佛所囑法
l 我是世尊使　處衆無所畏　我當善説法　願佛安穏住
m 我於世尊前　諸來十方佛　發如是誓言　佛自知我心
n 妙法蓮華經安樂行品第十四
o 尓時文殊師利法王子菩薩摩訶薩白佛言
p 世尊是諸菩薩甚爲難有敬順佛故發大誓
q 願於後惡世護持讀説是法華經世尊菩
r 薩摩訶薩於後惡世云何能説是經佛告文
s 殊師利若菩薩摩訶薩於後惡世欲説是經
t 當安住四法一者安住菩薩行處親近處能
t′ 爲衆生演説是經文殊師利云何名菩薩摩
s′ 訶薩行處若菩薩摩訶薩住忍辱地柔和善
r′ 順而不卒暴心亦不驚又復於法無所行而
q′ 觀諸法如實相亦不行不分別是名菩薩摩
p′ 訶薩行處云何名菩薩摩訶薩親近處菩薩
o′ 摩訶薩不親近國王王子大臣官長不親近
n′ 諸外道梵志尼揵子等及造世俗文筆讃詠
m′ 外書及路伽耶陀逆路伽耶陀者亦不親近
l′ 諸有兇戲相扠相撲及那羅等種種變現之
k′ 戲又不親近旃陀羅及畜猪羊雞狗畋獵漁
j′ 捕諸惡律儀如是人等或時來者則爲説法
i′ 無所悕望又不親近求聲聞比丘比丘尼優
h′ 婆塞優婆夷亦不問訊若於房中若經行處
g′ 若在講堂中不共住止或時來者隨宜説法
f′ 無所悕求文殊師利又菩薩摩訶薩不應於
e′ 女人身取能生欲想相而爲説法亦不樂見
d′ 若入他家不與小女處女寡女等共語亦復
c′ 不近五種不男之人以爲親厚不獨入他家
b′ 若有因縁須獨入時但一心念佛若爲女人
a′ 説法不露齒笑不現胸臆乃至爲法猶不親

巻第五―六

a 厚況復餘事不樂畜年少弟子沙彌小兒亦
b 不樂與同師常好坐禪在於閑處修攝其心
c 文殊師利是名初親近處復次菩薩摩訶薩
d 觀一切法空如實相不顛倒不動不退不轉
e 如虚空無所有性一切語言道斷不生不出
f 不起無名無相實無所有無量無邊無礙無
g 障但以因縁有從顛倒生故説常樂觀如是
h 法相是名菩薩摩訶薩第二親近處尓時世
i 尊欲重宣此義而説偈言
j 若有菩薩　於後惡世　無怖畏心　欲説是經
k 應入行處　及親近處　常離國王　及國王子
l 大臣官長　兇險戲者　及旃陀羅　外道梵志
m 亦不親近　増上慢人　貪著小乘　三藏學者
n 破戒比丘　名字羅漢　及比丘尼　好戲笑者
o 深著五欲　求現滅度　諸優婆夷　皆勿親近
p 若是人等　以好心來　到菩薩所　爲聞佛道
q 菩薩則以　無所畏心　不懐悕望　而爲説法
r 寡女處女　及諸不男　皆勿親近　以爲親厚
s 亦莫親近　屠兒魁膾　畋獵漁捕　爲利殺害
t 販肉自活　衒賣女色　如是之人　皆勿親近
t′ 兇險相撲　種種嬉戲　諸婬女等　盡勿親近
s′ 莫獨屏處　爲女説法　若説法時　無得戲笑
r′ 入里乞食　將一比丘　若無比丘　一心念佛
q′ 是則名爲　行處近處　以此二處　能安樂説
p′ 又復不行　上中下法　有爲無爲　實不實法
o′ 亦不分別　是男是女　不得諸法　不知不見
n′ 是則名爲　菩薩行處　一切諸法　空無所有
m′ 無有常住　亦無起滅　是名智者　所親近處
l′ 顛倒分別　諸法有無　是實非實　是生非生
k′ 在於閑處　修攝其心　安住不動　如須彌山
j′ 觀一切法　皆無所有　猶如虚空　無有堅固
i′ 不生不出　不動不退　常住一相　是名近處
h′ 若有比丘　於我滅後　入是行處　及親近處
g′ 説斯經時　無有怯弱　菩薩有時　入於靜室
f′ 以正憶念　隨義觀法　從禪定起　爲諸國王
e′ 王子臣民　婆羅門等　開化演暢　説斯經典
d′ 其心安穏　無有怯弱　文殊師利　是名菩薩
c′ 安住初法　能於後世　説法華經
b′ 又文殊師利如來滅後於末法中欲説是經
a′ 應住安樂行若口宣説若讀經時不樂説人

巻第五―七

a 及經典過亦不輕慢諸餘法師不説他人好
b 惡長短於聲聞人亦不稱名説其過惡亦不
c 稱名讃歎其美又亦不生怨嫌之心善修如
d 是安樂心故諸有聽者不逆其意有所難問
e 不以小乘法答但以大乘而爲解説令得一
f 切種智尓時世尊欲重宣此義而説偈言
g 菩薩常樂　安穏説法　於清淨地　而施床座
h 以油塗身　澡浴塵穢　著新淨衣　内外倶淨
i 安處法座　隨問爲説　若有比丘　及比丘尼
j 諸優婆塞　及優婆夷　國王王子　群臣士民
k 以微妙義　和顏爲説　若有難問　隨義而答
l 因縁譬喩　敷演分別　以是方便　皆使發心
m 漸漸増益　入於佛道　除嬾惰意　及懈怠想
n 離諸憂惱　慈心説法　晝夜常説　無上道教
o 以諸因縁　無量譬喩　開示衆生　咸令歡喜
p 衣服臥具　飮食醫藥　而於其中　無所悕望
q 但一心念　説法因縁　願成佛道　令衆亦尓
r 是則大利　安樂供養　我滅度後　若有比丘
s 能演説斯　妙法華經　心無嫉恚　諸惱障礙
t 亦無憂愁　及罵詈者　又無怖畏　加刀杖等
t′ 亦無擯出　安住忍故　智者如是　善修其心
s′ 能住安樂　如我上説　其人功徳　千萬億劫
r′ 算數譬喩　説不能盡
q′ 又文殊師利菩薩摩訶薩於後末世法欲滅
p′ 時受持讀誦斯經典者無懐嫉妬諂誑之心
o′ 亦勿輕罵學佛道者求其長短若比丘比丘
n′ 尼優婆塞優婆夷求聲聞者求辟支佛者求
m′ 菩薩道者無得惱之令其疑悔語其人言汝
l′ 等去道甚遠終不能得一切種智所以者何
k′ 汝是放逸之人於道懈怠故又亦不應戲論
j′ 諸法有所諍競當於一切衆生起大悲想於
i′ 諸如來起慈父想於諸菩薩起大師想於十
h′ 方諸大菩薩常應深心恭敬禮拜於一切衆
g′ 生平等説法以順法故不多不少乃至深愛
f′ 法者亦不爲多説文殊師利是菩薩摩訶薩
e′ 於後末世法欲滅時有成就是第三安樂行
d′ 者説是法時無能惱亂得好同學共讀誦是
c′ 經亦得大衆而來聽受聽已能持持已能誦
b′ 誦已能説説已能書若使人書供養經卷恭
a′ 敬尊重讃歎尓時世尊欲重宣此義而説偈

巻第五―八

a 言
b 若欲説是經　當捨嫉恚慢　諂誑邪僞心　常修質直行
c 不輕蔑於人　亦不戲論法　不令他疑悔　云汝不得佛
d 是佛子説法　常柔和能忍　慈悲於一切　不生懈怠心
e 十方大菩薩　愍衆故行道　應生恭敬心　是則我大師
f 於諸佛世尊　生無上父想　破於憍慢心　説法無障礙
g 第三法如是　智者應守護　一心安樂行　無量衆所敬
h 又文殊師利菩薩摩訶薩於後末世法欲滅
i 時有持是法華經者於在家出家人中生大
j 慈心於非菩薩人中生大悲心應作是念如
k 是之人則爲大失如來方便隨宜説法不聞
l 不知不覺不問不信不解其人雖不問不信
m 不解是經我得阿耨多羅三藐三菩提時隨
n 在何地以神通力智慧力引之令得住是法
o 中文殊師利是菩薩摩訶薩於如來滅後有
p 成就此第四法者説是法時無有過失常爲
q 比丘比丘尼優婆塞優婆夷國王王子大臣
r 人民婆羅門居士等供養恭敬尊重讃歎虚
s 空諸天爲聽法故亦常隨侍若在聚落城邑
t 空閑林中有人來欲難問者諸天晝夜常爲
t′ 法故而衛護之能令聽者皆得歡喜所以者
s′ 何此經是一切過去未來現在諸佛神力所
r′ 護故文殊師利是法華經於無量國中乃至
q′ 名字不可得聞何況得見受持讀誦文殊師
p′ 利譬如強力轉輪聖王欲以威勢降伏諸國
o′ 而諸小王不順其命時轉輪王起種種兵而
n′ 往討伐王見兵衆戰有功者即大歡喜隨功
m′ 賞賜或與田宅聚落城邑或與衣服嚴身之
l′ 具或與種種珍寶金銀瑠璃車磲馬脳珊瑚
k′ 琥珀象馬車乘奴婢人民唯髻中明珠不以
j′ 與之所以者何獨王頂上有此一珠若以與
i′ 之王諸眷屬必大驚怪文殊師利如來亦復
h′ 如是以禪定智慧力得法國土王於三界而
g′ 諸魔王不肯順伏如來賢聖諸將與之共戰
f′ 其有功者心亦歡喜於四衆中爲説諸經令
e′ 其心悦賜以禪定解脱無漏根力諸法之財
d′ 又復賜與涅槃之城言得滅度引導其心令
c′ 皆歡喜而不爲説是法華經文殊師利如轉
b′ 輪王見諸兵衆有大功者心甚歡喜以此難
a′ 信之珠久在髻中不妄與人而今與之如來

卷第五—九

亦復如是於三界中為大法王以法教化一切衆生見賢聖軍與五陰魔煩惱魔死魔共戰有大功勳滅三毒出三界破魔網尒時如來亦大歡喜此法華經能令衆生至一切智一切世間多怨難信先所未說而今說之文殊師利此法華經是諸如來第一之說於諸說中最為甚深末後賜與如彼強力之王久護明珠今乃與之文殊師利此法華經諸佛如來祕密之藏於諸經中最在其上長夜守護不妄宣說始於今日乃與汝等而敷演之

尒時世尊欲重宣此義而說偈言

常行忍辱　哀愍一切　乃能演說　佛所讚經
後末世時　持此經者　於家出家　及非菩薩
應生慈悲　斯等不聞　不信是經　則為大失
我得佛道　以諸方便　為說此法　令住其中
譬如強力　轉輪之王　兵戰有功　賞賜諸物
象馬車乘　嚴身之具　及諸田宅　聚落城邑
或與衣服　種種珍寶　奴婢財物　歡喜賜與
如有勇健　能為難事　王解髻中　明珠賜之
如來亦尒　為諸法王　忍辱大力　智慧寶藏
以大慈悲　如法化世　見一切人　受諸苦惱
欲求解脫　與諸魔戰　為是衆生　說種種法
以大方便　說此諸經　既知衆生　得其力已
末後乃為　說是法華　如王解髻　明珠與之
此經為尊　衆經中上　我常守護　不妄開示
今正是時　為汝等說　我滅度後　求佛道者
欲得安隱　演說斯經　應當親近　如是四法
讀是經者　常無憂惱　又無病痛　顏色鮮白
不生貧窮　卑賤醜陋　衆生樂見　如慕賢聖
天諸童子　以為給使　刀杖不加　毒不能害
若人惡罵　口則閉塞　遊行無畏　如師子王
智慧光明　如日之照　若於夢中　但見妙事
見諸如來　坐師子座　諸比丘衆　圍繞說法
又見龍神　阿修羅等　數如恒沙　恭敬合掌
自見其身　而為說法　又見諸佛　身相金色
放無量光　照於一切　以梵音聲　演說諸法
佛為四衆　說無上法　見身處中　合掌讚佛
聞法歡喜　而為供養　得陀羅尼　證不退智
佛知其心　深入佛道　即為授記　成最正覺
汝善男子　當於來世　得無量智　佛之大道

卷第五—十

國土嚴淨　廣大無比　亦有四衆　合掌聽法
又見自身　在山林中　修習善法　證諸實相
深入禪定　見十方佛
諸佛身金色　百福相莊嚴　聞法為人說　常有是好夢
又夢作國王　捨宮殿眷屬　及上妙五欲　行詣於道場
在菩提樹下　而處師子座　求道過七日　得諸佛之智
成無上道已　起而轉法輪　為四衆說法　經千萬億劫
說無漏妙法　度無量衆生　後當入涅槃　如烟盡燈滅
若後惡世中　說是第一法　是人得大利　如上諸功德

妙法蓮華經從地涌出品第十五

尒時他方國土諸來菩薩摩訶薩過八恒河沙數於大衆中起立合掌作禮而白佛言世尊若聽我等於佛滅後在此娑婆世界勤加精進護持讀誦書寫供養是經典者當於此土而廣說之尒時佛告諸菩薩摩訶薩衆止善男子不須汝等護持此經所以者何我娑婆世界自有六萬恒河沙等菩薩摩訶薩一一菩薩各有六萬恒河沙眷屬是諸人等能於我滅後護持讀誦廣說此經佛說是時娑婆世界三千大千國土地皆震裂而於其中有無量千萬億菩薩摩訶薩同時涌出是諸菩薩身皆金色三十二相無量光明先盡在娑婆世界之下此界虛空中住是諸菩薩聞釋迦牟尼佛所說音聲從下發來一一菩薩皆是大衆唱導之首各將六萬恒河沙等眷屬況將五萬四萬三萬二萬一萬恒河沙等眷屬者況復乃至一恒河沙半恒河沙四分之一乃至千萬億那由他分之一況復千萬億那由他眷屬況復億萬眷屬況復千萬百萬乃至一萬況復一千一百乃至一十況復將五四三二一弟子者況復單己樂遠離行如是等比無量無邊算數譬喻所不能知是諸菩薩從地出已各詣虛空七寶妙塔多寶如來釋迦牟尼佛所到已向二世尊頭面禮足乃至諸寶樹下師子座上佛所亦皆作禮右繞三帀合掌恭敬以諸菩薩種種讚法而以讚歎住在一面欣樂瞻仰於二世尊是諸菩薩摩訶薩從初涌出以諸菩薩種種讚法而讚於佛如是時間經五十小劫是時釋迦牟尼佛默然而坐及諸四衆亦皆默然五十

卷第五—十一

小劫佛神力故令諸大衆謂如半日尒時四衆亦以佛神力故見諸菩薩遍滿無量百千萬億國土虛空是菩薩衆中有四導師一名上行二名無邊行三名淨行四名安立行是四菩薩於其衆中最為上首唱導之師在大衆前各共合掌觀釋迦牟尼佛而問訊言世尊少病少惱安樂行不所應度者受教易不不令世尊生疲勞耶尒時四大菩薩而說偈言

世尊安樂　少病少惱　教化衆生　得無疲倦
又諸衆生　受化易不　不令世尊　生疲勞耶

尒時世尊於菩薩大衆中而作是言如是如是諸善男子如來安樂少病少惱諸衆生等易可化度無有疲勞所以者何是諸衆生世世已來常受我化亦於過去諸佛供養尊重種諸善根此諸衆生始見我身聞我所說即皆信受入如來慧除先修習學小乘者如是之人我今亦令得聞是經入於佛慧尒時諸大菩薩而說偈言

善哉善哉　大雄世尊　諸衆生等　易可化度
能問諸佛　甚深智慧　聞已信解　我等隨喜

於時世尊讚歎上首諸大菩薩善哉善哉善男子汝等能於如來發隨喜心

尒時彌勒菩薩及八千恒河沙諸菩薩衆皆作是念我等從昔已來不見不聞如是大菩薩摩訶薩衆從地踊出住世尊前合掌供養問訊如來時彌勒菩薩摩訶薩知八千恒河沙諸菩薩等心之所念幷欲自決所疑合掌向佛以偈問曰

無量千萬億　大衆諸菩薩　昔所未曾見　願兩足尊說
是從何所來　以何因緣集　巨身大神通　智慧叵思議
其志念堅固　有大忍辱力　衆生所樂見　為從何所來
一一諸菩薩　所將諸眷屬　其數無有量　如恒河沙等
或有大菩薩　將六萬恒沙　如是諸大衆　一心求佛道
是諸大師等　六萬恒河沙　俱來供養佛　及護持是經
將五萬恒沙　其數過於是　四萬及三萬　二萬至一萬
一千一百等　乃至一恒沙　半及三四分　億萬分之一
千萬那由他　萬億諸弟子　乃至於半億　其數復過上
百萬至一萬　一千及一百　五十與一十　乃至三二一
單己無眷屬　樂於獨處者　俱來至佛所　其數轉過上

卷第五—十二

如是諸大衆　若人行籌數　過於恒沙劫　猶不能盡知
是諸大威德　精進菩薩衆　誰為其說法　教化而成就
從誰初發心　稱揚何佛法　受持行誰經　修習何佛道
如是諸菩薩　神通大智力　四方地震裂　皆從中涌出
世尊我昔來　未曾見是事　願說其所從　國土之名號
我常遊諸國　未曾見是事　我於此衆中　乃不識一人
忽然從地出　願說其因緣　今此之大會　無量百千億
是諸菩薩等　皆欲知此事　是諸菩薩衆　本末之因緣
無量德世尊　唯願決衆疑

尒時釋迦牟尼分身諸佛從無量千萬億他方國土來者在於八方諸寶樹下師子座上結跏趺坐其佛侍者各各見是菩薩大衆於三千大千世界四方從地涌出住於虛空各白其佛言世尊此諸無量無邊阿僧祇菩薩大衆從何所來尒時諸佛各告侍者諸善男子且待須臾有菩薩摩訶薩名曰彌勒釋迦牟尼佛之所授記次後作佛已問斯事佛今答之汝等自當因是得聞尒時釋迦牟尼佛告彌勒菩薩善哉善哉阿逸多乃能問佛如是大事汝等當共一心被精進鎧發堅固意如來今欲顯發宣示諸佛智慧諸佛自在神通之力諸佛師子奮迅之力諸佛威猛大勢之力尒時世尊欲重宣此義而說偈言

當精進一心　我欲說此事　勿得有疑悔　佛智叵思議
汝今出信力　住於忍善中　昔所未聞法　今皆當得聞
我今安慰汝　勿得懷疑懼　佛無不實語　智慧不可量
所得第一法　甚深叵分別　如是今當說　汝等一心聽

尒時世尊說此偈已告彌勒菩薩我今於此大衆宣告汝等阿逸多是諸大菩薩摩訶薩無量無數阿僧祇從地涌出汝等昔所未見者我於是娑婆世界得阿耨多羅三藐三菩提已教化示導是諸菩薩調伏其心令發道意此諸菩薩皆於是娑婆世界之下此界虛空中住於諸經典讀誦通利思惟分別正憶念阿逸多是諸善男子等不樂在衆多有所說常樂靜處勤行精進未曾休息亦不依止人天而住常樂深智無有障礙亦常樂於諸佛之法一心精進求無上慧尒時世尊欲重

巻第五—十三

5-15

a 宣此義而說偈言
b 阿逸汝當知 是諸大菩薩 從無數劫來 修習佛智慧
c 悉是我所化 令發大道心 此等是我子 依止是世界
d 常行頭陀事 志樂於靜處 捨大眾憒鬧 不樂多所說
e 如是諸子等 學習我道法 晝夜常精進 為求佛道故
f 在娑婆世界 下方空中住 志念力堅固 常勤求智慧
g 說種種妙法 其心無所畏 我於伽耶城 菩提樹下坐
h 得成最正覺 轉無上法輪 爾乃教化之 令初發道心
i 今皆住不退 悉當得成佛 我今說實語 汝等一心信
j 我從久遠來 教化是等眾
k 爾時彌勒菩薩摩訶薩及無數諸菩薩等心
l 生疑惑怪未曾有而作是念云何世尊於少
m 時間教化如是無量無邊阿僧祇諸大菩薩
n 令住阿耨多羅三藐三菩提即白佛言世尊
o 如來為太子時出於釋宮去伽耶城不遠坐
p 於道場得成阿耨多羅三藐三菩提從是已
q 來始過四十餘年世尊云何於此少時大作
r 佛事以佛勢力以佛功德教化如是無量大
s 菩薩眾當成阿耨多羅三藐三菩提世尊此
t 大菩薩眾假使有人於千萬億劫數不能盡

5-15

t' 不得其邊斯等久遠已來於無量無邊諸佛
s' 所殖諸善根成就菩薩道常修梵行世尊如
r' 此之事世所難信譬如有人色美髮黑年二
q' 十五指百歲人言是我子其百歲人亦指年
p' 少言是我父生育我等是事難信佛亦如是
o' 得道已來其實未久而此大眾諸菩薩等已
n' 於無量千萬億劫為佛道故勤行精進善入
m' 出住無量百千萬億三昧得大神通久修梵
l' 行善能次第習諸善法巧於問答人中之寶
k' 一切世間甚為希有今日世尊方云得佛道
j' 時初令發心教化示導令向阿耨多羅三藐
i' 三菩提世尊得佛未久乃能作此大功德事
h' 我等雖復信佛隨宜所說佛所出言未曾虛
g' 妄佛所知者皆悉通達然諸新發意菩薩於
f' 佛滅後若聞是語或不信受而起破法罪業
e' 因緣唯然世尊願為解說除我等疑及未來
d' 世諸善男子聞此事已亦不生疑爾時彌勒
c' 菩薩欲重宣此義而說偈言
b' 佛昔從釋種 出家近伽耶 坐於菩提樹 爾來尚未久
a' 此諸佛子等 其數不可量 久已行佛道 住於神通力

巻第五—十四

5-15

a 善學菩薩道 不染世間法 如蓮華在水 從地而涌出
b 皆起恭敬心 住於世尊前 是事難思議 云何而可信
c 佛得道甚近 所成就甚多 願為除眾疑 如實分別說
d 譬如少壯人 年始二十五 示人百歲子 髮白而面皺
e 是等我所生 子亦說是父 父少而子老 舉世所不信
f 世尊亦如是 得道來甚近 是諸菩薩等 志固無怯弱
g 從無量劫來 而行菩薩道 巧於難問答 其心無所畏
h 忍辱心決定 端正有威德 十方佛所讚 善能分別說
i 不樂在人眾 常好在禪定 為求佛道故 於下空中住
j 我等從佛聞 於此事無疑 願佛為未來 演說令開解
k 若有於此經 生疑不信者 即當墮惡道 願今為解說
l 是無量菩薩 云何於少時 教化令發心 而住不退地
m 妙法蓮華經卷第五

a'（未記入）
b'（未記入）
c'（未記入）
d'（未記入）
e'（未記入）
f'（未記入）
g'（未記入）
h'（未記入）
i'（未記入）
j'（未記入）
k'（未記入）
l'（未記入）
m'（未記入）

巻第六—一

6-16

a 妙法蓮華經如來壽量品第十六
b 爾時佛告諸菩薩及一切大眾諸善男子汝
c 等當信解如來誠諦之語復告大眾汝等當
d 信解如來誠諦之語又復告諸大眾汝等當
e 信解如來誠諦之語是時菩薩大眾彌勒為
f 首合掌白佛言世尊唯願說之我等當信受
g 佛語如是三白已復言唯願說之我等當信
h 受佛語爾時世尊知諸菩薩三請不止而告
i 之言汝等諦聽如來祕密神通之力一切世
j 間天人及阿修羅皆謂今釋迦牟尼佛出釋
k 氏宮去伽耶城不遠坐於道場得阿耨多羅
l 三藐三菩提然善男子我實成佛已來無量
m 無邊百千萬億那由他劫譬如五百千萬億
n 那由他阿僧祇三千大千世界假使有人抹
o 為微塵過於東方五百千萬億那由他阿僧
p 祇國乃下一塵如是東行盡是微塵諸善男
q 子於意云何是諸世界可得思惟校計知其
r 數不彌勒菩薩等俱白佛言世尊是諸世界
s 無量無邊非算數所知亦非心力所及一切
t 聲聞辟支佛以無漏智不能思惟知其限數

6-16

t' 我等住阿惟越致地於是事中亦所不達世
s' 尊如是諸世界無量無邊爾時佛告大菩薩
r' 眾諸善男子今當分明宣語汝等是諸世界
q' 若著微塵及不著者盡以為塵一塵一劫我
p' 成佛已來復過於此百千萬億那由他阿僧
o' 祇劫自從是來我常在此娑婆世界說法教
n' 化亦於餘處百千萬億那由他阿僧祇國導
m' 利眾生諸善男子於是中間我說然燈佛等
l' 又復言其入於涅槃如是皆以方便分別諸
k' 善男子若有眾生來至我所我以佛眼觀其
j' 信等諸根利鈍隨所應度處處自說名字不
i' 同年紀大小亦復現言當入涅槃又以種種
h' 方便說微妙法能令眾生發歡喜心諸善男
g' 子如來見諸眾生樂於小法德薄垢重者為
f' 是人說我少出家得阿耨多羅三藐三菩提
e' 然我實成佛已來久遠若斯但以方便教化
d' 眾生令入佛道作如是說諸善男子如來所
c' 演經典皆為度脫眾生或說己身或說他身
b' 或示己身或示他身或示己事或示他事諸
a' 所言說皆實不虛所以者何如來如實知見

巻第六—二

6-16

a 三界之相無有生死若退若出亦無在世及
b 滅度者非實非虛非如非異不如三界見於
c 三界如斯之事如來明見無有錯謬以諸眾
d 生有種種性種種欲種種行種種憶想分別
e 故欲令生諸善根以若干因緣譬喻言辭種
f 種說法所作佛事未曾暫廢如是我成佛已
g 來甚大久遠壽命無量阿僧祇劫常住不滅
h 諸善男子我本行菩薩道所成壽命今猶未
i 盡復倍上數然今非實滅度而便唱言當取
j 滅度如來以是方便教化眾生所以者何若
k 佛久住於世薄德之人不種善根貧窮下賤
l 貪著五欲入於憶想妄見網中若見如來常
m 在不滅便起憍恣而懷厭怠不能生於難遭
n 之想恭敬之心是故如來以方便說比丘當
o 知諸佛出世難可值遇所以者何諸薄德人
p 過無量百千萬億劫或有見佛或不見者以
q 此事故我作是言諸比丘如來難可得見斯
r 眾生等聞如是語必當生於難遭之想心懷
s 戀慕渴仰於佛便種善根是故如來雖不實
t 滅而言滅度又善男子諸佛如來法皆如是

6-16

t' 為度眾生皆實不虛譬如良醫智慧聰達明
s' 練方藥善治眾病其人多諸子息若十二十
r' 乃至百數以有事緣遠至餘國諸子於後飲
q' 他毒藥藥發悶亂宛轉于地是時其父還來
p' 歸家諸子飲毒或失本心或不失者遙見其
o' 父皆大歡喜拜跪問訊善安隱歸我等愚癡
n' 誤服毒藥願見救療更賜壽命父見子等苦
m' 惱如是依諸經方求好藥草色香美味皆悉
l' 具足擣篩和合與子令服而作是言此大良
k' 藥色香美味皆悉具足汝等可服速除苦惱
j' 無復眾患其諸子中不失心者見此良藥色
i' 香俱好即便服之病盡除愈餘失心者見其
h' 父來雖亦歡喜問訊求索治病然與其藥而
g' 不肯服所以者何毒氣深入失本心故於此
f' 好色香藥而謂不美父作是念此子可愍為
e' 毒所中心皆顛倒雖見我喜求索救療如是
d' 好藥而不肯服我今當設方便令服此藥即
c' 作是言汝等當知我今衰老死時已至是好
b' 良藥今留在此汝可取服勿憂不差作是教
a' 已復至他國遣使還告汝父已死是時諸子

卷第六—三

6-16-81 a 聞父背喪心大憂惱而作是念若父在者慈
82 b 愍我等能見救護今者捨我遠喪他國自惟
83 c 孤露無復恃怙常懷悲感心遂醒悟乃知此
84 d 藥色香味美即取服之毒病皆愈其父聞子
85 e 悉已得差尋便來歸咸使見之諸善男子於
86 f 意云何頗有人能說此良醫虛妄罪不不也
87 g 世尊佛言我亦如是成佛已來無量無邊百
88 h 千萬億那由他阿僧祇劫為眾生故以方便
89 i 力言當滅度亦無有能如法說我虛妄過者
90 j 爾時世尊欲重宣此義而說偈言
91 k 自我得佛來　所經諸劫數　無量百千萬　億載阿僧祇
92 l 常說法教化　無數億眾生　令入於佛道　爾來無量劫
93 m 為度眾生故　方便現涅槃　而實不滅度　常住此說法
94 n 我常住於此　以諸神通力　令顛倒眾生　雖近而不見
95 o 眾見我滅度　廣供養舍利　咸皆懷戀慕　而生渴仰心
96 p 眾生既信伏　質直意柔軟　一心欲見佛　不自惜身命
97 q 時我及眾僧　俱出靈鷲山　我時語眾生　常在此不滅
98 r 以方便力故　現有滅不滅　餘國有眾生　恭敬信樂者
99 s 我復於彼中　為說無上法　汝等不聞此　但謂我滅度
6-16-100 s' 我見諸眾生　沒在於苦海　故不為現身　令其生渴仰
101 r' 因其心戀慕　乃出為說法　神通力如是　於阿僧祇劫
102 q' 常在靈鷲山　及餘諸住處　眾生見劫盡　大火所燒時
103 p' 我此土安穩　天人常充滿　園林諸堂閣　種種寶莊嚴
104 o' 寶樹多花果　眾生所遊樂　諸天擊天鼓　常作眾伎樂
105 n' 雨曼陀羅華　散佛及大眾　我淨土不毀　而眾見燒盡
106 m' 憂怖諸苦惱　如是悉充滿　是諸罪眾生　以惡業因緣
107 l' 過阿僧祇劫　不聞三寶名　諸有修功德　柔和質直者
108 k' 則皆見我身　在此而說法　或時為此眾　說佛壽無量
109 j' 久乃見佛者　為說佛難值　我智力如是　慧光照無量
110 i' 壽命無數劫　久修業所得　汝等有智者　勿於此生疑
111 h' 當斷令永盡　佛語實不虛　如醫善方便　為治狂子故
112 g' 實在而言死　無能說虛妄　我亦為世父　救諸苦患者
113 f' 為凡夫顛倒　實在而言滅　以常見我故　而生憍恣心
114 e' 放逸著五欲　墮於惡道中　我常知眾生　行道不行道
115 d' 隨應所可度　為說種種法　每自作是念　以何令眾生
116 c' 得入無上道　速成就佛身
6-17-1 b' 妙法蓮華經分別功德品第十七
2 a' 爾時大會聞佛說壽命劫數長遠如是無量

卷第六—四

6-17-3 a 無邊阿僧祇眾生得大饒益於時世尊告彌
4 b 勒菩薩摩訶薩阿逸多我說是如來壽命長
5 c 遠時六百八十萬億那由他恒河沙眾生得
6 d 無生法忍復有千倍菩薩摩訶薩得聞持陀
7 e 羅尼門復有一世界微塵數菩薩摩訶薩得
8 f 樂說無礙辯才復有一世界微塵數菩薩摩
9 g 訶薩得百千萬億無量旋陀羅尼復有三千
10 h 大千世界微塵數菩薩摩訶薩能轉不退法
11 i 輪復有二千中國土微塵數菩薩摩訶薩能
12 j 轉清淨法輪復有小千國土微塵數菩薩摩
13 k 訶薩八生當得阿耨多羅三藐三菩提復有
14 l 四四天下微塵數菩薩摩訶薩四生當得阿
15 m 耨多羅三藐三菩提復有三四天下微塵數
16 n 菩薩摩訶薩三生當得阿耨多羅三藐三菩
17 o 提復有二四天下微塵數菩薩摩訶薩二生
18 p 當得阿耨多羅三藐三菩提復有一四天下
19 q 微塵數菩薩摩訶薩一生當得阿耨多羅三
20 r 藐三菩提復有八世界微塵數眾生皆發阿
21 s 耨多羅三藐三菩提心佛說是諸菩薩摩訶
s' （未記入）
6-17-22 r' 薩得大法利時於虛空中雨曼陀羅華摩訶
23 q' 曼陀羅華以散無量百千萬億寶樹下師子
24 p' 座上諸佛并散七寶塔中師子座上釋迦牟
25 o' 尼佛及久滅度多寶如來亦散一切諸大菩
26 n' 薩及四部眾又雨細末栴檀沈水香等於虛
27 m' 空中天鼓自鳴妙聲深遠又雨千種天衣垂
28 l' 諸瓔珞真珠瓔珞摩尼珠瓔珞如意珠瓔珞
29 k' 遍於九方眾寶香爐燒無價香自然周至供
30 j' 養大會一一佛上有諸菩薩執持幡蓋次第
31 i' 而上至于梵天是諸菩薩以妙音聲歌無量
32 h' 頌讚歎諸佛爾時彌勒菩薩從座而起偏袒
33 g' 右肩合掌向佛而說偈言
34 f' 佛說希有法　昔所未曾聞　世尊有大力　壽命不可量
35 e' 無數諸佛子　聞世尊分別　說得法利者　歡喜充遍身
36 d' 或住不退地　或得陀羅尼　或無礙樂說　萬億旋總持
37 c' 或有大千界　微塵數菩薩　各各皆能轉　不退之法輪
38 b' 復有中千界　微塵數菩薩　各各皆能轉　清淨之法輪
39 a' 復有小千界　微塵數菩薩　餘各八生在　當得成佛道

卷第六—五

6-17-40 a 復有四三二　如此四天下　微塵諸菩薩　隨數生成佛
41 b 或一四天下　微塵數菩薩　餘有一生在　當成一切智
42 c 如是等眾生　聞佛壽長遠　得無量無漏　清淨之果報
43 d 復有八世界　微塵數眾生　聞佛說壽命　皆發無上心
44 e 世尊說無量　不可思議法　多有所饒益　如虛空無邊
45 f 雨天曼陀羅　摩訶曼陀羅　釋梵如恒沙　無數佛土來
46 g 雨栴檀沈水　繽紛而亂墜　如鳥飛空下　供散於諸佛
47 h 天鼓虛空中　自然出妙聲　天衣千萬種　旋轉而來下
48 i 眾寶妙香爐　燒無價之香　自然悉周遍　供養諸世尊
49 j 其大菩薩眾　執七寶幡蓋　高妙萬億種　次第至梵天
50 k 一一諸佛前　寶幢懸勝幡　亦以千萬偈　歌詠諸如來
51 l 如是種種事　昔所未曾有　聞佛壽無量　一切皆歡喜
52 m 佛名聞十方　廣饒益眾生　一切具善根　以助無上心
53 n 爾時佛告彌勒菩薩摩訶薩阿逸多其有眾
54 o 生聞佛壽命長遠如是乃至能生一念信解
55 p 所得功德無有限量若有善男子善女人為
56 q 阿耨多羅三藐三菩提故於八十萬億那由
57 r 他劫行五波羅蜜檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼
58 s 提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪波羅蜜除般若
59 t 波羅蜜以是功德比前功德百分千分百千
6-17-60 t' 萬億分不及其一乃至算數譬喻所不能知
61 s' 若善男子有如是功德於阿耨多羅三藐三
62 r' 菩提退者無有是處爾時世尊欲重宣此義
63 q' 而說偈言
64 p' 若人求佛慧　於八十萬億　那由他劫數　行五波羅蜜
65 o' 於是諸劫中　布施供養佛　及緣覺弟子　并諸菩薩眾
66 n' 珍異之飲食　上服與臥具　栴檀立精舍　以園林莊嚴
67 m' 如是等布施　種種皆微妙　盡此諸劫數　以迴向佛道
68 l' 若復持禁戒　清淨無缺漏　求於無上道　諸佛之所歎
69 k' 若復行忍辱　住於調柔地　設眾惡來加　其心不傾動
70 j' 諸有得法者　懷於增上慢　為此所輕惱　如是亦能忍
71 i' 若復勤精進　志念常堅固　於無量億劫　一心不懈息
72 h' 又於無數劫　住於空閑處　若坐若經行　除睡常攝心
73 g' 以是因緣故　能生諸禪定　八十億萬劫　安住心不亂
74 f' 持此一心福　願求無上道　我得一切智　盡諸禪定際
75 e' 是人於百千　萬億劫數中　行此諸功德　如上之所說
76 d' 有善男女等　聞我說壽命　乃至一念信　其福過於彼
77 c' 若人悉無有　一切諸疑悔　深心須臾信　其福為如此
78 b' 其有諸菩薩　無量劫行道　聞我說壽命　是則能信受
79 a' 如是諸人等　頂受此經典　願我於未來　長壽度眾生

卷第六—六

6-17-80 a 如今日世尊　諸釋中之王　道場師子吼　說法無所畏
81 b 我等未來世　一切所尊敬　坐於道場時　說壽亦如是
82 c 若有深心者　清淨而質直　多聞能總持　隨義解佛語
83 d 如是諸人等　於此無有疑
84 e 又阿逸多若有聞佛壽命長遠解其言趣是
85 f 人所得功德無有限量能起如來無上之慧
86 g 何況廣聞是經若教人聞若自持若教人持
87 h 若自書若教人書若以華香瓔珞幢幡繒蓋
88 i 香油酥燈供養經卷是人功德無量無邊能
89 j 生一切種智阿逸多若善男子善女人聞我
90 k 說壽命長遠深心信解則為見佛常在耆闍
91 l 崛山共大菩薩諸聲聞眾圍繞說法又見此
92 m 娑婆世界其地琉璃坦然平正閻浮檀金以
93 n 界八道寶樹行列諸臺樓觀皆悉寶成其菩
94 o 薩眾咸處其中若有能如是觀者當知是為
95 p 深信解相又復如來滅後若聞是經而不毀
96 q 呰起隨喜心當知已為深信解相何況讀誦
97 r 受持之者斯人則為頂戴如來阿逸多是善
98 s 男子善女人不須為我復起塔寺及作僧坊
6-17-99 s' 以四事供養眾僧所以者何是善男子善女
100 r' 人受持讀誦是經典者為已起塔造立僧坊
101 q' 供養眾僧則為以佛舍利起七寶塔高廣漸
102 p' 小至于梵天懸諸幡蓋及眾寶鈴華香瓔珞
103 o' 末香塗香燒香眾鼓伎樂簫笛箜篌種種舞
104 n' 戲以妙音聲歌唄讚頌則為於無量千萬億
105 m' 劫作是供養已阿逸多若我滅後聞是經典
106 l' 有能受持若自書若教人書則為起立僧坊
107 k' 以赤栴檀作諸殿堂三十有二高八多羅樹
108 j' 高廣嚴好百千比丘於其中止園林浴池經
109 i' 行禪窟衣服飲食床褥湯藥一切樂具充滿
110 h' 其中如是僧坊堂閣若干百千萬億其數無
111 g' 量以此現前供養於我及比丘僧是故我說
112 f' 如來滅後若有受持讀誦為他人說若自書
113 e' 若教人書供養經卷不須復起塔寺及造僧
114 d' 坊供養眾僧況復有人能持是經兼行布施
115 c' 持戒忍辱精進一心智慧其德最勝無量無
116 b' 邊譬如虛空東西南北四維上下無量無邊
117 a' 是人功德亦復如是無量無邊疾至一切

巻第六—七

6-17-118 a 種智若人讀誦受持是經為他人說若自書
119 b 若教人書復能起塔及造僧坊供養讚歎聲
120 c 聞衆僧亦以百千萬億讚歎之法讚歎菩薩
121 d 功德又為他人種種因緣隨義解說此法華
122 e 經復能清淨持戒與柔和者而共同止忍辱
123 f 無瞋志念堅固常貴坐禪得諸深定精進勇
124 g 猛攝諸善法利根智慧善答問難阿逸多若
125 h 我滅後諸善男子善女人受持讀誦是經典
126 i 者復有如是諸善功德當知是人已趣道場
127 j 近阿耨多羅三藐三菩提坐道樹下阿逸多
128 k 是善男子善女人若坐若立若經行處此中
129 l 便應起塔一切天人皆應供養如佛之塔
130 m 尒時世尊欲重宣此義而說偈言
131 n 若我滅度後　能奉持此經　斯人福無量　如上之所說
132 o 是則為具足　一切諸供養　以舍利起塔　七寶而莊嚴
133 p 表剎甚高廣　漸小至梵天　寶鈴千萬億　風動出妙音
134 q 又於無量劫　而供養此塔　華香諸瓔珞　天衣衆伎樂
135 r 然香油酥燈　周匝常照明　惡世法末時　能持是經者
136 s 則為已如上　具足諸供養　若能持此經　則如佛現在
6-17-137 s' 以牛頭栴檀　起僧坊供養　堂有三十二　高八多羅樹
138 r' 上饌妙衣服　床臥皆具足　百千衆住處　園林諸流池
139 q' 經行及禪窟　種種皆嚴好　若有信解心　受持讀誦書
140 p' 若復教人書　及供養經卷　散華香末香　以須曼瞻蔔
141 o' 阿提目多伽　薰油常然之　如是供養者　得無量功德
142 n' 如虛空無邊　其福亦如是　況復持此經　兼布施持戒
143 m' 忍辱樂禪定　不瞋不惡口　恭敬於塔廟　謙下諸比丘
144 l' 遠離自高心　常思惟智慧　有問難不瞋　隨順為解說
145 k' 若能行是行　功德不可量　若見此法師　成就如是德
146 j' 應以天華散　天衣覆其身　頭面接足禮　生心如佛想
147 i' 又應作是念　不久詣道樹　得無漏無為　廣利諸人天
148 h' 其所住止處　經行若坐臥　乃至說一偈　是中應起塔
149 g' 莊嚴令妙好　種種以供養　佛子住此地　則是佛受用
150 f' 常在於其中　經行若坐臥
6-18-1 e' 妙法蓮華經隨喜功德品第十八
2 d' 尒時彌勒菩薩摩訶薩白佛言世尊若有善
3 c' 男子善女人聞是法華經隨喜者得幾所福
4 b' 而說偈言
5 a' 世尊滅度後　其有聞是經　若能隨喜者　為得幾所福

巻第六—八

6-18-6 a 尒時佛告彌勒菩薩摩訶薩阿逸多如來滅
7 b 後若比丘比丘尼優婆塞優婆夷及餘智者
8 c 若長若幼聞是經隨喜已從法會出至於餘
9 d 處若在僧坊若空閑地若城邑巷陌聚落田
10 e 里如其所聞為父母宗親善友知識隨力演
11 f 說是諸人等聞已隨喜復行轉教餘人聞已
12 g 亦隨喜轉教如是展轉至第五十阿逸多其
13 h 第五十善男子善女人隨喜功德我今說之
14 i 汝當善聽若四百萬億阿僧祇世界六趣四
15 j 生衆生卵生胎生濕生化生若有形無形有
16 k 想無想非有想非無想無足二足四足多足
17 l 如是等在衆生數者有人求福隨其所欲娛
18 m 樂之具皆給與之一一衆生與滿閻浮提金
19 n 銀琉璃車𤦲馬瑙珊瑚虎珀諸妙珍寶及象
20 o 馬車乘七寶所成宮殿樓閣等是大施主如
21 p 是布施滿八十年已而作是念我已施衆生
22 q 娛樂之具隨意所欲然此衆生皆已衰老年
6-18-23 q' 過八十髮白面皺將死不久我當以佛法而
24 p' 訓導之即集此衆生宣布法化示教利喜一
25 o' 時皆得須陀洹道斯陀含道阿那含道阿羅
26 n' 漢道盡諸有漏於深禪定皆得自在具八解
27 m' 脫於汝意云何是大施主所得功德寧為多
28 l' 不彌勒白佛言世尊是人功德甚多無量無
29 k' 邊若是施主但施衆生一切樂具功德無量
30 j' 何況令得阿羅漢果佛告彌勒我今分明語
31 i' 汝是人以一切樂具施於四百萬億阿僧祇
32 h' 世界六趣衆生又令得阿羅漢果所得功德
33 g' 不如是第五十人聞法華經一偈隨喜功德
34 f' 百分千分百千萬億分不及其一乃至算數
35 e' 譬喻所不能知阿逸多如是第五十人展轉
36 d' 聞法華經隨喜功德尚無量無邊阿僧祇何
37 c' 況最初於會中聞而隨喜者其福復勝無量
38 b' 無邊阿僧祇不可得比又阿逸多若人為是
39 a' 經故往詣僧坊若坐若立須臾聽受緣是功

巻第六—九

6-18-40 a 德轉身所生得好上妙象馬車乘珍寶輦輿
41 b 及乘天宮若復有人於講法處坐更有人來
42 c 勸令坐聽若分座令坐是人功德轉身得帝
43 d 釋坐處若梵天王坐處若轉輪聖王所坐之
44 e 處阿逸多若復有人語餘人言有經名法華
45 f 可共往聽即受其教乃至須臾間聞是人功
46 g 德轉身得與陀羅尼菩薩共生一處利根智
47 h 慧百千萬世終不瘖瘂口氣不臭舌常無病
48 i 口亦無病齒不垢黑不黃不疏亦不缺落不
49 j 差不曲脣不下垂亦不褰縮不麁澁不瘡胗
50 k 亦不缺壞亦不喎斜不厚不大亦不黧黑無
51 l 諸可惡鼻不匾㔸亦不曲戾面色不黑亦不
52 m 狹長亦不窊曲無有一切不可喜相脣舌牙
53 n 齒悉皆嚴好鼻修高直面貌圓滿眉高而長
54 o 額廣平正人相具足世世所生見佛聞法信
55 p 受教誨阿逸多汝且觀是勸於一人令往聽
56 q 法功德如此何況一心聽說讀誦而於大衆
57 r 為人分別如說修行尒時世尊欲重宣此義
58 s 而說偈言
59 t 若人於法會　得聞是經典　乃至於一偈　隨喜為他說
6-18-60 t' 如是展轉教　至于第五十　最後人獲福　今當分別之
61 s' 如有大施主　供給無量衆　具滿八十歲　隨意之所欲
62 r' 見彼衰老相　髮白而面皺　齒疏形枯竭　念其死不久
63 q' 我今應當教　令得於道果　即為方便說　涅槃真實法
64 p' 世皆不牢固　如水沫泡焰　汝等咸應當　疾生厭離心
65 o' 諸人聞是法　皆得阿羅漢　具足六神通　三明八解脫
66 n' 最後第五十　聞一偈隨喜　是人福勝彼　不可為譬喻
67 m' 如是展轉聞　其福尚無量　何況於法會　初聞隨喜者
68 l' 若有勸一人　將引聽法華　言此經深妙　千萬劫難遇
69 k' 即受教往聽　乃至須臾聞　斯人之福報　今當分別說
70 j' 世世無口患　齒不疏黃黑　脣不厚褰缺　無有可惡相
71 i' 舌不乾黑短　鼻高修且直　額廣而平正　面目悉端嚴
72 h' 為人所喜見　口氣無臭穢　優鉢華之香　常從其口出
73 g' 若故詣僧坊　欲聽法華經　須臾聞歡喜　今當說其福
74 f' 後生天人中　得妙象馬車　珍寶之輦輿　及乘天宮殿
75 e' 若於講法處　勸人坐聽經　是福因緣得　釋梵轉輪座
76 d' 何況一心聽　解說其義趣　如說而修行　其福不可限
6-19-1 c' 妙法蓮華經法師功德品第十九
2 b' 尒時佛告常精進菩薩摩訶薩若善男子善
3 a' 女人受持是法華經若讀若誦若解說若書

巻第六—十

6-19-4 a 寫是人當得八百眼功德千二百耳功德八
5 b 百鼻功德千二百舌功德八百身功德千二
6 c 百意功德以是功德莊嚴六根皆令清淨是
7 d 善男子善女人父母所生清淨肉眼見於三
8 e 千大千世界內外所有山林河海下至阿鼻
9 f 地獄上至有頂亦見其中一切衆生及業因
10 g 緣果報生處悉見悉知尒時世尊欲重宣此
11 h 義而說偈言
12 i 若於大衆中　以無所畏心　說是法華經　汝聽其功德
13 j 是人得八百　功德殊勝眼　以是莊嚴故　其目甚清淨
14 k 父母所生眼　悉見三千界　內外彌樓山　須彌及鐵圍
15 l 并諸餘山林　大海江河水　下至阿鼻獄　上至有頂天
16 m 其中諸衆生　一切皆悉見　雖未得天眼　肉眼力如是
17 n 復次常精進若善男子善女人受持此經若
18 o 讀若誦若解說若書寫得千二百耳功德以
19 p 是清淨耳聞三千大千世界下至阿鼻地獄
20 q 上至有頂其中內外種種所有語言音聲象
21 r 聲馬聲牛聲車聲啼哭聲愁歎聲螺聲鼓聲
6-19-22 r' 鐘聲鈴聲笑聲語聲男聲女聲童子聲童女
23 q' 聲法聲非法聲苦聲樂聲凡夫聲聖人聲喜
24 p' 聲不喜聲天聲龍聲夜叉聲乾闥婆聲阿修
25 o' 羅聲迦樓羅聲緊那羅聲摩睺羅伽聲火聲
26 n' 水聲風聲地獄聲畜生聲餓鬼聲比丘聲比
27 m' 丘尼聲聲聞聲辟支佛聲菩薩聲佛聲以要
28 l' 言之三千大千世界中一切內外所有諸聲
29 k' 雖未得天耳以父母所生清淨常耳皆悉聞
30 j' 知如是分別種種音聲而不壞耳根尒時世
31 i' 尊欲重宣此義而說偈言
32 h' 父母所生耳　清淨無濁穢　以此常耳聞　三千世界聲
33 g' 象馬車牛聲　鍾鈴螺鼓聲　琴瑟箜篌聲　簫笛之音聲
34 f' 清淨好歌聲　聽之而不著　無數種人聲　聞悉能解了
35 e' 又聞諸天聲　微妙之歌音　及聞男女聲　童子童女聲
36 d' 山川險谷中　迦陵頻伽聲　命命等諸鳥　悉聞其音聲
37 c' 地獄衆苦痛　種種楚毒聲　餓鬼飢渴逼　求索飲食聲
38 b' 諸阿修羅等　居在大海邊　自共言語時　出于大音聲
39 a' 如是說法者　安住於此間　遙聞是衆聲　而不壞耳根

卷第六—十一

6-19-40
40 a 十方世界中 禽獸鳴相呼 其說法之人 於此悉聞之
41 b 其諸梵天上 光音及遍淨 乃至有頂天 言語之音聲
42 c 法師住於此 悉皆得聞之 一切比丘衆 及諸比丘尼
43 d 若讀誦經典 若爲他人說 法師住於此 悉皆得聞之
44 e 復有諸菩薩 讀誦於經法 若爲他人說 撰集解其義
45 f 如是諸音聲 悉皆得聞之 諸佛大聖尊 教化衆生者
46 g 於諸大會中 演說微妙法 持此法華者 悉皆得聞之
47 h 三千大千界 內外諸音聲 下至阿鼻獄 上至有頂天
48 i 皆聞其音聲 而不壞耳根 其耳聰利故 悉能分別知
49 j 持是法華者 雖未得天耳 但用所生耳 功德已如是
50 k 復次常精進若善男子善女人受持是經若
51 l 讀若誦若解說若書寫成就八百鼻功德以
52 m 是清淨鼻根聞於三千大千世界上下內外
53 n 種種諸香須曼那華香闍提華香末利華香
54 o 瞻蔔華香波羅羅華香赤蓮華香青蓮華香
55 p 白蓮華香華樹香菓樹香栴檀香沈水香多
56 q 摩羅跋香多伽羅香及千萬種和香若末若
57 r 丸若塗香持是經者於此間住悉能分別又
58 s 復別知衆生之香象香馬香牛羊等香男香
59 t 女香童子香童女香及草木叢林香若近若

6-19-60
60 t′ 遠所有諸香悉皆得聞分別不錯持是經者
61 s′ 雖住於此亦聞天上諸天之香波利質多羅
62 r′ 拘鞞陀羅樹香及曼陀羅華香摩訶曼陀羅
63 q′ 華香曼殊沙華香摩訶曼殊沙華香栴檀沈
64 p′ 水種種末香諸雜華香如是等天香和合所
65 o′ 出之香無不聞知又聞諸天身香釋提桓因
66 n′ 在勝殿上五欲娛樂嬉戲時香若在妙法堂
67 m′ 上爲忉利諸天說法時香若於諸園遊戲時
68 l′ 香及餘天等男女身香皆悉遙聞如是展轉
69 k′ 乃至梵天上至有頂諸天身香亦皆聞之并
70 j′ 聞諸天所燒之香及聲聞香辟支佛香菩薩
71 i′ 香諸佛身香亦皆遙聞知其所在雖聞此香
72 h′ 然於鼻根不壞不錯若欲分別爲他人說憶
73 g′ 念不謬爾時世尊欲重宣此義而說偈言
74 f′ 是人鼻清淨 於此世界中 若香若臭物 種種悉聞知
75 e′ 須曼那闍提 多摩羅栴檀 沈水及桂香 種種華菓香
76 d′ 及知衆生香 男子女人香 說法者遠住 聞香知所在
77 c′ 大勢轉輪王 小轉輪及子 群臣諸宮人 聞香知所在
78 b′ 身所著珍寶 及地中寶藏 轉輪王寶女 聞香知所在
79 a′ 諸人嚴身具 衣服及瓔珞 種種所塗香 聞則知其身

卷第六—十二

6-19-80
80 a 諸天若行坐 遊戲及神變 持是法華者 聞香悉能知
81 b 諸樹華菓實 及酥油香氣 持經者住此 悉知其所在
82 c 諸山深嶮處 栴檀樹華敷 衆生在中者 聞香皆能知
83 d 鐵圍山大海 地中諸衆生 持經者聞香 悉知其所在
84 e 阿修羅男女 及其諸眷屬 鬪諍遊戲時 聞香皆能知
85 f 曠野險隘處 師子象虎狼 野牛水牛等 聞香知所在
86 g 若有懷妊者 未辯其男女 無根及非人 聞香悉能知
87 h 以聞香力故 知其初懷妊 成就不成就 安樂產福子
88 i 以聞香力故 知男女所念 染欲癡恚心 亦知修善者
89 j 地中衆伏藏 金銀諸珍寶 銅器之所盛 聞香悉能知
90 k 種種諸瓔珞 無能識其價 聞香知貴賤 出處及所在
91 l 天上諸華等 曼陀曼殊沙 波利質多樹 聞香悉能知
92 m 天上諸宮殿 上中下差別 衆寶華莊嚴 聞香悉能知
93 n 天園林勝殿 諸觀妙法堂 在中而娛樂 聞香悉能知
94 o 諸天若聽法 或受五欲時 來往行坐臥 聞香悉能知

6-19-95
95 o′ 天女所著衣 好華香莊嚴 周旋遊戲時 聞香悉能知
96 n′ 如是展轉上 乃至於梵天 入禪出禪者 聞香悉能知
97 m′ 光音遍淨天 乃至于有頂 初生及退沒 聞香悉能知
98 l′ 諸比丘衆等 於法常精進 若坐若經行 及讀誦經法
99 k′ 或在林樹下 專精而坐禪 持經者聞香 悉知其所在
100 j′ 菩薩志堅固 坐禪若讀經 或爲人說法 聞香悉能知
101 i′ 在在方世尊 一切所恭敬 愍衆而說法 聞香悉能知
102 h′ 衆生在佛前 聞經皆歡喜 如法而修行 聞香悉能知
103 g′ 雖未得菩薩 無漏法生鼻 而是持經者 先得此鼻相
104 f′ 復次常精進若善男子善女人受持是經若
105 e′ 讀若誦若解說若書寫得千二百舌功德若
106 d′ 好若醜若美不美及諸苦澀物在其舌根
107 c′ 皆變成上味如天甘露無不美者若以舌根
108 b′ 於大衆中有所演說出深妙聲能入其心皆
109 a′ 令歡喜快樂又諸天子天女釋梵諸天聞是

卷第六—十三

6-19-110
110 a 深妙音聲有所演說言論次第皆悉來聽及
111 b 諸龍龍女夜叉夜叉女乾闥婆乾闥婆女阿
112 c 修羅阿修羅女迦樓羅迦樓羅女緊那羅緊
113 d 那羅女摩睺羅伽摩睺羅伽女爲聽法故皆
114 e 來親近恭敬供養及比丘比丘尼優婆塞優
115 f 婆夷國王王子群臣眷屬小轉輪王大轉輪
116 g 王七寶千子內外眷屬乘其宮殿俱來聽法
117 h 以是菩薩善說法故婆羅門居士國內人民
118 i 盡其形壽隨侍供養又諸聲聞辟支佛菩薩
119 j 諸佛常樂見之是人所在方面諸佛皆向其
120 k 處說法悉能受持一切佛法又能出於深妙
121 l 法音爾時世尊欲重宣此義而說偈言
122 m 是人舌根淨 終不受惡味 其有所食噉 悉皆成甘露
123 n 以深淨妙聲 於大衆說法 以諸因緣喩 引導衆生心
124 o 聞者皆歡喜 設諸上供養 諸天龍夜叉 及阿修羅等
125 p 皆以恭敬心 而共來聽法 是說法之人 若欲以妙音
126 q 遍滿三千界 隨意即能至 大小轉輪王 及千子眷屬
127 r 合掌恭敬心 常來聽受法 諸天龍夜叉 羅刹毘舍闍
128 s 亦以歡喜心 常樂來供養 梵天王魔王 自在大自在

a′ ——未記入——
b′ ——未記入——
c′ ——未記入——
d′ ——未記入——
e′ ——未記入——
f′ ——未記入——
g′ ——未記入——
h′ ——未記入——
i′ ——未記入——
j′ ——未記入——
k′ ——未記入——
l′ ——未記入——
m′ ——未記入——
n′ ——未記入——
o′ ——未記入——
p′ ——未記入——
q′ ——未記入——
r′ ——未記入——
s′ ——未記入——

卷第六—十四

6-19-129
129 a 如是諸天衆 常來至其所 諸佛及弟子 聞其說法音
130 b 常念而守護 或時爲現身
131 c 復次常精進若善男子善女人受持是經若
132 d 讀若誦若解說若書寫得八百身功德得清
133 e 淨身如淨琉璃衆生憙見其身淨故三千大
134 f 千世界衆生生時死時上下好醜生善處惡
135 g 處悉於中現及鐵圍山大鐵圍山彌樓山摩
136 h 訶彌樓山等諸山王及其中衆生悉於中現
137 i 下至阿鼻地獄上至有頂所有及衆生悉於
138 j 中現若聲聞辟支佛菩薩諸佛說法皆於身
139 k 中現其色像爾時世尊欲重宣此義而說偈
140 l 言
141 m 若持法華者 其身甚清淨 如彼淨琉璃 衆生皆憙見
142 n 又如淨明鏡 悉見諸色像 菩薩於淨身 皆見世所有
143 o 唯獨自明了 餘人所不見 三千世界中 一切諸群萌
144 p 天人阿修羅 地獄鬼畜生 如是諸色像 皆於身中現
145 q 諸天等宮殿 乃至於有頂 鐵圍及彌樓 摩訶彌樓山
146 r 諸大海水等 皆於身中現 諸佛及聲聞 佛子菩薩等
147 s 若獨若在衆 說法悉皆現 雖未得無漏 法性之妙身
148 t 以清淨常體 一切於中現

a′ ——未記入——
b′ ——未記入——
c′ ——未記入——
d′ ——未記入——
e′ ——未記入——
f′ ——未記入——
g′ ——未記入——
h′ ——未記入——
i′ ——未記入——
j′ ——未記入——
k′ ——未記入——
l′ ——未記入——
m′ ——未記入——
n′ ——未記入——
o′ ——未記入——
p′ ——未記入——
q′ ——未記入——
r′ ——未記入——
s′ ——未記入——
t′ ——未記入——

巻第六—十五

6-19-149 a 復次常精進若善男子善女人如來滅後受
150 b 持是經若讀若誦若解說若書寫得千二百
151 c 意功德以是清淨意根乃至聞一偈一句通
152 d 達無量無邊之義解是義已能演說一句一
153 e 偈至於一月四月乃至一歲諸所說法隨其
154 f 義趣皆與實相不相違背若說俗間經書治
155 g 世語言資生業等皆順正法三千大千世界
156 h 六趣衆生心之所行心所動作心所戲論皆
157 i 悉知之雖未得無漏智慧而其意根清淨如
158 j 此是人有所思惟籌量言說皆是佛法無不
159 k 眞實亦是先佛經中所說 爾時世尊欲重宣
160 l 此義而說偈言
161 m 是人意清淨 明利無穢濁 以此妙意根 知上中下法
162 n 乃至聞一偈 通達無量義 次第如法說 月四月至歲
163 o 是世界內外 一切諸衆生 若天龍及人 夜叉鬼神等
164 p 其在六趣中 所念若干種 持法華之報 一時皆悉知
165 q 十方無數佛 百福莊嚴相 爲衆生說法 悉聞能受持
166 r 思惟無量義 說法亦無量 終始不忘錯 以持法華故
167 s 悉知諸法相 隨義識次第 達名字語言 如所知演說
168 t 此人有所說 皆是先佛法 以演此法故 於衆無所畏

t′（未記入）
s′（未記入）
r′（未記入）
q′（未記入）
p′（未記入）
o′（未記入）
n′（未記入）
m′（未記入）
l′（未記入）
k′（未記入）
j′（未記入）
i′（未記入）
h′（未記入）
g′（未記入）
f′（未記入）
e′（未記入）
d′（未記入）
c′（未記入）
b′（未記入）
a′（未記入）

巻第六—十六

6-19-169 a 持法華經者 意根淨若斯 雖未得無漏 先有如是相
170 b 是人持此經 安住希有地 爲一切衆生 歡喜而愛敬
171 c 能以千萬種 善巧之語言 分別而說法 持法華經故
172 d 妙法蓮華經卷第六

d′（未記入）
c′（未記入）
b′（未記入）
a′（未記入）

巻第七—一

7-20-1 a 妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十
2 b 爾時佛告得大勢菩薩摩訶薩汝今當知若
3 c 比丘比丘尼優婆塞優婆夷持法華經者若
4 d 有惡口罵詈誹謗獲大罪報如前所說其所
5 e 得功德如向所說眼耳鼻舌身意清淨得大
6 f 勢乃往古昔過無量無邊不可思議阿僧祇
7 g 劫有佛名威音王如來應供正遍知明行足
8 h 善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世
9 i 尊劫名離衰國名大成其威音王佛於彼世
10 j 中爲天人阿修羅說法爲求聲聞者說應四
11 k 諦法度生老病死究竟涅槃爲求辟支佛者
12 l 說應十二因緣法爲諸菩薩因阿耨多羅三
13 m 藐三菩提說應六波羅蜜法究竟佛慧得大
14 n 勢是威音王佛壽四十萬億那由他恒河沙
15 o 劫正法住世劫數如一閻浮提微塵像法住
16 p 世劫數如四天下微塵其佛饒益衆生已然
17 q 後滅度正法像法滅盡之後於此國土復有
18 r 佛出亦號威音王如來應供正遍知明行足
19 s 善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世
20 t 尊如是次第有二萬億佛皆同一號最初威

7-20-21 t′ 音王如來既已滅度正法滅後於像法中增
22 s′ 上慢比丘有大勢力爾時有一菩薩比丘名
23 r′ 常不輕得大勢以何因緣名常不輕是比丘
24 q′ 凡有所見若比丘比丘尼優婆塞優婆夷皆
25 p′ 悉禮拜讚歎而作是言我深敬汝等不敢輕
26 o′ 慢所以者何汝等皆行菩薩道當得作佛而
27 n′ 是比丘不專讀誦經典但行禮拜乃至遠見
28 m′ 四衆亦復故往禮拜讚歎而作是言我不敢
29 l′ 輕於汝等汝等皆當作佛四衆之中有生
30 k′ 瞋恚心不淨者惡口罵詈言是無知比丘從
31 j′ 何所來自言我不輕汝而與我等授記當得
32 i′ 作佛我等不用如是虛妄授記如此經歷多
33 h′ 年常被罵詈不生瞋恚常作是言汝當作佛
34 g′ 說是語時衆人或以杖木瓦石而打擲之避
35 f′ 走遠住猶高聲唱言我不敢輕於汝等汝等
36 e′ 皆當作佛以其常作是語故增上慢比丘比
37 d′ 丘尼優婆塞優婆夷號之爲常不輕是比丘
38 c′ 臨欲終時於虛空中具聞威音王佛先所說
39 b′ 法華經二十千萬億偈悉能受持即得如上
40 a′ 眼根清淨耳鼻舌身意根清淨得是六根清

巻第七—二

7-20-41 a 淨已更增壽命二百萬億那由他歲廣爲人
42 b 說是法華經於時增上慢四衆比丘比丘尼
43 c 優婆塞優婆夷輕賤是人爲作不輕名者見
44 d 其得大神通力樂說辯力大善寂力聞其所
45 e 說皆信伏隨從是菩薩復化千萬億衆令住
46 f 阿耨多羅三藐三菩提命終之後得値二千
47 g 億佛皆號日月燈明於其法中說是法華經
48 h 以是因緣復値二千億佛同號雲自在燈王
49 i 於此諸佛法中受持讀誦爲諸四衆說此經
50 j 典故得是常眼清淨耳鼻舌身意諸根清淨
51 k 於四衆中說法心無所畏得大勢是常不輕
52 l 菩薩摩訶薩供養如是若干諸佛恭敬尊重
53 m 讚歎種諸善根於後復値千萬億佛亦於諸
54 n 佛法中說是經典功德成就當得作佛得大
55 o 勢於意云何爾時常不輕菩薩豈異人乎則
56 p 我身是若我於宿世不受持讀誦此經爲他
57 q 人說者不能疾得阿耨多羅三藐三菩提我
58 r 於先佛所受持讀誦此經爲人說故疾得阿
59 s 耨多羅三藐三菩提得大勢彼時四衆比丘

7-20-60 s′ 比丘尼優婆塞優婆夷以瞋恚意輕賤我故
61 r′ 二百億劫常不値佛不聞法不見僧千劫於
62 q′ 阿鼻地獄受大苦惱畢是罪已復遇常不輕
63 p′ 菩薩教化阿耨多羅三藐三菩提得大勢於
64 o′ 汝意云何爾時四衆常輕是菩薩者豈異人
65 n′ 乎今此會中跋陀婆羅等五百菩薩師子月
66 m′ 等五百比丘尼思佛等五百優婆塞皆於阿
67 l′ 耨多羅三藐三菩提不退轉者是得大勢當
68 k′ 知是法華經大饒益諸菩薩摩訶薩能令至
69 j′ 於阿耨多羅三藐三菩提是故諸菩薩摩訶
70 i′ 薩於如來滅後常應受持讀誦解說書寫是
71 h′ 經爾時世尊欲重宣此義而說偈言
72 g′ 過去有佛 號威音王 神智無量 將導一切
73 f′ 天人龍神 所共供養 是佛滅後 法欲盡時
74 e′ 有一菩薩 名常不輕 時諸四衆 計著於法
75 d′ 不輕菩薩 往到其所 而語之言 我不輕汝
76 c′ 汝等行道 皆當作佛 諸人聞已 輕毀罵詈
77 b′ 不輕菩薩 能忍受之 其罪畢已 臨命終時
78 a′ 得聞此經 六根清淨 神通力故 增益壽命

巻第七―三

7-20-79
79 a 復為諸人　広説是経　諸著法衆　皆蒙菩薩
80 b 教化成就　令住仏道　不軽命終　値無数仏
81 c 説是経故　得無量福　漸具功徳　疾成仏道
82 d 彼時不軽　則我身是　時四部衆　著法之者
83 e 聞不軽言　汝当作仏　以是因縁　値無数仏
84 f 此会菩薩　五百之衆　并及四部　清信士女
85 g 今於我前　聴法者是　我於前世　勧是諸人
86 h 聴受斯経　第一之法　開示教人　令住涅槃
87 i 世世受持　如是経典　億億万劫　至不可議
88 j 時乃得聞　是法華経　億億万劫　至不可議
89 k 諸仏世尊　時説是経　是故行者　於仏滅後
90 l 聞如是経　勿生疑惑　応当一心　広説此経
91 m 世世値仏　疾成仏道
7-21-1
1 n 妙法蓮華経如来神力品第二十一
2 o 爾時千世界微塵等菩薩摩訶薩従地涌出
3 p 者皆於仏前一心合掌瞻仰尊顔而白仏言
4 q 世尊我等於仏滅後世尊分身所在国土滅
5 r 度之処当広説此経所以者何我等亦自欲
6 s 得是真浄大法受持読誦解説書写而供養
7-21-7
7 s' 之爾時世尊於文殊師利等無量百千万億
8 r' 旧住娑婆世界菩薩摩訶薩及諸比丘比丘
9 q' 尼優婆塞優婆夷天龍夜叉乾闥婆阿修羅
10 p' 迦楼羅緊那羅摩睺羅伽人非人等一切衆
11 o' 前現大神力出広長舌上至梵世一切毛孔
12 n' 放於無量無数色光皆悉遍照十方世界衆
13 m' 宝樹下師子座上諸仏亦復如是出広長舌
14 l' 放無量光釈迦牟尼仏及宝樹下諸仏現神
15 k' 力時満百千歳然後還摂舌相一時謦欬倶
16 j' 共弾指是二音声遍至十方諸仏世界地皆
17 i' 六種震動其中衆生天龍夜叉乾闥婆阿修
18 h' 羅迦楼羅緊那羅摩睺羅伽人非人等以仏
19 g' 神力故皆見此娑婆世界無量無辺百千万
20 f' 億衆宝樹下師子座上諸仏及見釈迦牟尼
21 e' 仏共多宝如来在宝塔中坐師子座又見無
22 d' 量無辺百千万億菩薩摩訶薩及諸四衆恭
23 c' 敬囲繞釈迦牟尼仏既見是已皆大歓喜得
24 b' 未曾有即時諸天於虚空中高声唱言過此
25 a' 無量無辺百千万億阿僧祇世界有国名娑

巻第七―四

7-21-26
26 a 婆是中有仏名釈迦牟尼今為諸菩薩摩訶
27 b 薩説大乗経名妙法蓮華教菩薩法仏所護
28 c 念汝等当深心随喜亦当礼拝供養釈迦牟
29 d 尼仏彼諸衆生聞虚空中声已合掌向娑婆
30 e 世界作如是言南無釈迦牟尼仏南無釈迦
31 f 牟尼仏以種種華香瓔珞幡蓋及諸厳身之
32 g 具珍宝妙物皆共遥散娑婆世界所散諸物
33 h 従十方来譬如雲集変成宝帳遍覆此間諸
34 i 仏之上于時十方世界通達無礙如一仏土
35 j 爾時仏告上行等菩薩大衆諸仏神力如是
36 k 無量無辺不可思議若我以是神力於無量
37 l 無辺百千万億阿僧祇劫為嘱累故説此経
38 m 功徳猶不能尽以要言之如来一切所有之
39 n 法如来一切自在神力如来一切秘要之蔵
40 o 如来一切甚深之事皆於此経宣示顕説是
41 p 故汝等於如来滅後応当一心受持読誦解
42 q 説書写如説修行所在国土若有受持読誦
43 r 解説書写如説修行若経巻所住之処若於
44 s 園中若於林中若於樹下若於僧坊若白衣
45 t 舎若在殿堂若山谷曠野是中皆応起塔供
7-21-46
46 t' 養所以者何当知是処即是道場諸仏於此
47 s' 得阿耨多羅三藐三菩提諸仏於此転於法
48 r' 輪諸仏於此而般涅槃爾時世尊欲重宣此
49 q' 義而説偈言
50 p' 諸仏救世者　住於大神通　為悦衆生故　現無量神力
51 o' 舌相至梵天　身放無数光　為求仏道者　現此希有事
52 n' 諸仏謦欬声　及弾指之声　周聞十方国　地皆六種動
53 m' 以仏滅度後　能持是経故　諸仏皆歓喜　現無量神力
54 l' 嘱累是経故　讃美受持者　於無量劫中　猶故不能尽
55 k' 是人之功徳　無辺無有窮　如十方虚空　不可得辺際
56 j' 能持是経者　則為已見我　亦見多宝仏　及諸分身者
57 i' 又見我今日　教化諸菩薩　能持是経者　令我及分身
58 h' 滅度多宝仏　一切皆歓喜　十方現在仏　并過去未来
59 g' 亦見亦供養　亦令得歓喜　諸仏坐道場　所得秘要法
60 f' 能持是経者　不久亦当得　能持是経者　於諸法之義
61 e' 名字及言辞　楽説無窮尽　如風於空中　一切無障礙
62 d' 於如来滅後　知仏所説経　因縁及次第　随義如実説
63 c' 如日月光明　能除諸幽冥　斯人行世間　能滅衆生闇
64 b' 教無量菩薩　畢竟住一乗　是故有智者　聞此功徳利
65 a' 於我滅度後　応受持斯経　是人於仏道　決定無有疑

巻第七―五

7-22-1
1 a 妙法蓮華経嘱累品第二十二
2 b 爾時釈迦牟尼仏従法座起現大神力以右
3 c 手摩無量菩薩摩訶薩頂而作是言我於無
4 d 量百千万億阿僧祇劫修習是難得阿耨多
5 e 羅三藐三菩提法今以付嘱汝等汝等応当
6 f 一心流布此法広令増益如是三摩諸菩薩
7 g 摩訶薩頂而作是言我於無量百千万億阿
8 h 僧祇劫修習是難得阿耨多羅三藐三菩提
9 i 法今以付嘱汝等汝等当受持読誦広宣此
10 j 法令一切衆生普得聞知所以者何如来有
11 k 大慈悲無諸慳悋亦無所畏能与衆生仏之
12 l 智慧如来智慧自然智慧如来是一切衆生
13 m 之大施主汝等亦応随学如来之法勿生慳
14 n 悋於未来世若有善男子善女人信如来智
15 o 慧者当為演説此法華経使得聞知為令其
16 p 人得仏慧故若有衆生不信受者当於如来
17 q 余深法中示教利喜汝等若能如是則為已
18 r 報諸仏之恩時諸菩薩摩訶薩聞仏作是説
19 s 已皆大歓喜遍満其身益加恭敬曲躬低頭
20 t 合掌向仏倶発声言如世尊勅当具奉行唯
7-22-21
21 t' 然世尊願不有慮諸菩薩摩訶薩衆如是三
s' （未記入）
22 r' 反倶発声言如世尊勅当具奉行唯然世尊
23 q' 願不有慮爾時釈迦牟尼仏令十方来諸分
24 p' 身仏各還本土而作是言諸仏各随所安多
25 o' 宝仏塔還可如故説是語時十方無量分身
26 n' 諸仏坐宝樹下師子座上者及多宝仏并上
27 m' 行等無辺阿僧祇菩薩大衆舎利弗等声聞
28 l' 四衆及一切世間天人阿修羅等聞仏所説
29 k' 皆大歓喜
7-23-1
1 j' 妙法蓮華経薬王菩薩本事品第二十三
2 i' 爾時宿王華菩薩白仏言世尊薬王菩薩云
3 h' 何遊於娑婆世界世尊是薬王菩薩有若干
4 g' 百千万億那由他難行苦行善哉世尊願少
5 f' 解説諸天龍神夜叉乾闥婆阿修羅迦楼羅
6 e' 緊那羅摩睺羅伽人非人等又他国土諸来
7 d' 菩薩及此声聞衆聞皆歓喜爾時仏告宿王
8 c' 華菩薩乃往過去無量恒河沙劫有仏号日
9 b' 月浄明徳如来応供正遍知明行足善逝世
10 a' 間解無上士調御丈夫天人師仏世尊其仏

巻第七―六

7-23-11
11 a 有八十億大菩薩摩訶薩七十二恒河沙大
12 b 声聞衆仏寿四万二千劫菩薩寿命亦等彼
13 c 国無有女人地獄餓鬼畜生阿修羅等及以
14 d 諸難地平如掌瑠璃所成宝樹荘厳宝帳覆
15 e 上垂宝華幡宝瓶香炉周遍国界七宝為台
16 f 一樹一台其樹去台尽一箭道此諸宝樹皆
17 g 有菩薩声聞而坐其下諸宝台上各有百億
18 h 諸天作天伎楽歌歎於仏以為供養爾時彼
19 i 仏為一切衆生喜見菩薩及衆菩薩諸声聞
20 j 衆説法華経是一切衆生喜見菩薩楽習苦
21 k 行於日月浄明徳仏法中精進経行一心求
22 l 仏満万二千歳已得現一切色身三昧得此
23 m 三昧已心大歓喜即作念言我得現一切色
24 n 身三昧皆是得聞法華経力我今当供養日
25 o 月浄明徳仏及法華経即時入是三昧於虚
26 p 空中雨曼陀羅華摩訶曼陀羅華細抹堅黒
27 q 栴檀満虚空中如雲而下又雨海此岸栴檀
28 r 之香此香六銖価直娑婆世界以供養仏作
29 s 是供養已従三昧起而自念言我雖以神力
30 t 供養於仏不如以身供養即服諸香栴檀薫
31 u 陸兜楼婆畢力迦沈水膠香又飲瞻蔔諸華
7-23-32
32 u' 香油満千二百歳已香油塗身於日月浄明
33 t' 徳仏前以天宝衣而自纏身灌諸香油以
34 s' 神通力願而自然身光明遍照八十億恒河
35 r' 沙世界其中諸仏同時讃言善哉善哉善男
36 q' 子是真精進是名真法供養如来若以華香
37 p' 瓔珞焼香抹香塗香天繒幡蓋及海此岸栴
38 o' 檀之香如是等種種諸物供養所不能及仮
39 n' 使国城妻子布施亦所不及善男子是名第
40 m' 一之施於諸施中最尊最上以法供養諸如
41 l' 来故作是語已而各黙然其身火燃千二百
42 k' 歳過是已後其身乃尽一切衆生喜見菩薩
43 j' 作如是法供養已命終之後復生日月浄明
44 i' 徳仏国中於浄徳王家結跏趺坐忽然化生
45 h' 即為其父而説偈言
46 g' 大王今当知　我経行彼処　即時得一切　現諸身三昧
47 f' 勤行大精進　捨所愛之身
48 e' 説是偈已而白父言日月浄明徳仏今故現
49 d' 在我先供養仏已得解一切衆生語言陀羅
50 c' 尼復聞是法華経八百千万億那由他甄迦
51 b' 羅頻婆羅阿閦婆等偈大王我今当還供養
52 a' 此仏白已即坐七宝之台上昇虚空高七多

巻第七—七

7-23-53

53 a 樹往到佛所頭面禮足合十指爪以偈讚
54 b 佛
55 c 容顏甚奇妙　光明照十方　我適曾供養　今復還親近
56 d 尓時一切眾生喜見菩薩說是偈已而白佛
57 e 言世尊世尊猶故在世尓時日月淨明德佛
58 f 告一切眾生喜見菩薩善男子我涅槃時到
59 g 滅盡時至汝可安施牀座我於今夜當般涅
60 h 槃又勅一切眾生喜見菩薩善男子我以佛
61 i 法囑累於汝及諸菩薩大弟子并阿耨多羅
62 j 三藐三菩提法亦以三千大千七寶世界諸
63 k 寶樹寶臺及給侍諸天悉付於汝我滅度後
64 l 所有舍利亦付囑汝當令流布廣設供養應
65 m 起若干千塔如是日月淨明德佛勅一切眾
66 n 生喜見菩薩已於夜後分入於涅槃尓時一
67 o 切眾生喜見菩薩見佛滅度悲感懊惱戀慕
68 p 於佛即以海此岸栴檀為𧂐供養佛身而以
69 q 燒之火滅已後收取舍利作八萬四千寶瓶
70 r 以起八萬四千塔高三世界表剎莊嚴垂諸
71 s 幡蓋懸眾寶鈴尓時一切眾生喜見菩薩復
72 t 自念言我雖作是供養心猶未足我今當更

7-23-73

73 t' 供養舍利便語諸菩薩大弟子及天龍夜叉
74 s' 等一切大眾汝等當一心念我今供養日月
75 r' 淨明德佛舍利作是語已即於八萬四千塔
76 q' 前然百福莊嚴臂七萬二千歲而以供養令
77 p' 無數求聲聞眾無量阿僧祇人發阿耨多羅
78 o' 三藐三菩提心皆使得住現一切色身三昧
79 n' 尓時諸菩薩天人阿修羅等見其無臂憂惱
80 m' 悲哀而作是言此一切眾生喜見菩薩是我
81 l' 等師教化我者而今燒臂身不具足于時一
82 k' 切眾生喜見菩薩於大眾中立此誓言我捨
83 j' 兩臂必當得佛金色之身若實不虛令我兩
84 i' 臂還復如故作是誓已自然還復由斯菩薩
85 h' 福德智慧淳厚所致當尓之時三千大千世
86 g' 界六種震動天雨寶華一切天人得未曾有
87 f' 佛告宿王華菩薩於汝意云何一切眾生喜
88 e' 見菩薩豈異人乎今藥王菩薩是也其所捨
89 d' 身布施如是無量百千萬億那由他數宿王
90 c' 華若有發心欲得阿耨多羅三藐三菩提者
91 b' 能然手指乃至足一指供養佛塔勝以國城
92 a' 妻子及三千大千國土山林河池諸珍寶物

巻第七—八

7-23-93

93 a 而供養者若復有人以七寶滿三千大千世
94 b 界供養於佛及大菩薩辟支佛阿羅漢是人
95 c 所得功德不如受持此法華經乃至一四句
96 d 偈其福最多宿王華譬如一切川流江河諸
97 e 水之中海為第一此法華經亦復如是於諸
98 f 如來所說經中最為深大又如土山黑山小
99 g 鐵圍山大鐵圍山及十寶山眾山之中須彌
100 h 山為第一此法華經亦復如是於諸經中最
101 i 為其上又如眾星之中月天子最為第一此
102 j 法華經亦復如是於千萬億種諸經法中最
103 k 為照明又如日天子能除諸闇此經亦復如
104 l 是能破一切不善之闇又如諸小王中轉輪
105 m 聖王最為第一此經亦復如是於眾經中最
106 n 為其尊又如帝釋於三十三天中王此經亦
107 o 復如是諸經中王又如大梵天王一切眾生
108 p 之父此經亦復如是一切賢聖學無學及發
109 q 菩薩心者之父又如一切凡夫人中須陀洹
110 r 斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛為第一此經

7-23-111

111 r' 亦復如是一切如來所說若菩薩所說若聲
112 q' 聞所說諸經法中最為第一有能受持是經
113 p' 典者亦復如是於一切眾生中亦為第一一
114 o' 切聲聞辟支佛中菩薩為第一此經亦復如
115 n' 是於一切諸經法中最為第一如佛為諸法
116 m' 王此經亦復如是諸經中王宿王華此經能
l' （未　記　入）
117 k' 救一切眾生者此經能令一切眾生離諸苦
118 j' 惱此經能大饒益一切眾生充滿其願如清
119 i' 涼池能滿一切諸渴乏者如寒者得火如裸
120 h' 者得衣如商人得主如子得母如渡得船如
121 g' 病得醫如暗得燈如貧得寶如民得王如賈
122 f' 客得海如炬除暗此法華經亦復如是能令
123 e' 眾生離一切苦一切病痛能解一切生死之
124 d' 縛若人得聞此法華經若自書若使人書所
125 c' 得功德以佛智慧籌量多少不得其邊若書
126 b' 是經卷華香瓔珞燒香末香塗香幡蓋衣服
127 a' 種種之燈蘇燈油燈諸香油燈瞻蔔油燈須

巻第七—九

7-23-128

128 a 曼那油燈波羅羅油燈婆利師迦油燈那婆
129 b 摩利油燈供養所得功德亦復無量宿王華
130 c 若有人聞是藥王菩薩本事品者亦得無量
131 d 無邊功德若有女人聞是藥王菩薩本事品
132 e 能受持者盡是女身後不復受若如來滅後
133 f 後五百歲中若有女人聞是經典如說修行
134 g 於此命終即往安樂世界阿彌陀佛大菩薩
135 h 眾圍遶住處生蓮華中寶座之上不復為貪
136 i 欲所惱亦復不為瞋恚愚癡所惱亦復不為
137 j 憍慢嫉妬諸垢所惱得菩薩神通無生法忍
138 k 得是忍已眼根清淨以是清淨眼根見七百
139 l 萬二千億那由他恒河沙等諸佛如來是時
140 m 諸佛遙共讚言善哉善哉善男子汝能於釋
141 n 迦牟尼佛法中受持讀誦思惟是經為他人
142 o 說所得福德無量無邊火不能燒水不能漂
143 p 汝之功德千佛共說不能令盡汝今已能破
144 q 諸魔賊壞生死軍諸餘怨敵皆悉摧滅善男
145 r 子百千諸佛以神通力共守護汝於一切世
146 s 間天人之中無如汝者唯除如來其諸聲聞
147 t 辟支佛乃至菩薩智慧禪定無有與汝等者

7-23-148

148 t' 宿王華此菩薩成就如是功德智慧之力若
149 s' 有人聞是藥王菩薩本事品能隨喜讚善者
150 r' 是人現世口中常出青蓮華香身毛孔中常
151 q' 出牛頭栴檀之香所得功德如上所說是故
152 p' 宿王華以此藥王菩薩本事品囑累於汝我
153 o' 滅度後後五百歲中廣宣流布於閻浮提無
154 n' 令斷絕惡魔魔民諸天龍夜叉鳩槃荼等得
155 m' 其便也宿王華汝當以神通之力守護是經
156 l' 所以者何此經則為閻浮提人病之良藥若
157 k' 人有病得聞是經病即消滅不老不死宿王
158 j' 華汝若見有受持是經者應以青蓮花盛滿
159 i' 末香供散其上散已作是念言此人不久必
160 h' 當取草坐於道場破諸魔軍當吹法螺擊大
161 g' 法鼓度脫一切眾生老病死海是故求佛道
162 f' 者見有受持是經典人應當如是生恭敬心
163 e' 說是藥王菩薩本事品時八萬四千菩薩得
164 d' 解一切眾生語言陀羅尼多寶如來於寶塔
165 c' 中讚宿王華菩薩言善哉善哉宿王華汝成
166 b' 就不可思議功德乃能問釋迦牟尼佛如此
167 a' 之事利益無量一切眾生

巻第七—十

7-24-1

1 a 妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四
2 b 尓時釋迦牟尼佛放大人相肉髻光明及放
3 c 眉間白毫相光遍照東方百八萬億那由他
4 d 恒河沙等諸佛世界過是數已有世界名淨
5 e 光莊嚴其國有佛號淨華宿王智如來應供
6 f 正遍知明行足善逝世間解無上士調御丈
7 g 夫天人師佛世尊為無量無邊菩薩大眾恭
8 h 敬圍遶而為說法釋迦牟尼佛白毫光明遍
9 i 照其國尓時一切淨光莊嚴國中有一菩薩
10 j 名曰妙音久已植眾德本供養親近無量百
11 k 千萬億諸佛而悉成就甚深智慧得妙幢相
12 l 三昧法華三昧淨德三昧宿王戲三昧無緣
13 m 三昧智印三昧解一切眾生語言三昧集一
14 n 切功德三昧清淨三昧神通遊戲三昧慧炬
15 o 三昧莊嚴王三昧淨光明三昧淨藏三昧不
16 p 共三昧日旋三昧得如是等百千萬億恒河
17 q 沙等諸大三昧釋迦牟尼佛光照其身即白
18 r 淨華宿王智佛言世尊我當往詣娑婆世界
19 s 礼拜親近供養釋迦牟尼佛及見文殊師利
20 t 法王子菩薩藥王菩薩勇施菩薩宿王華菩

7-24-21

21 t 薩上行意菩薩莊嚴王菩薩藥上菩薩尓時
22 s 淨華宿王智佛告妙音菩薩汝莫輕彼國生
23 r 下劣想善男子彼娑婆世界高下不平土石
24 q 諸山穢惡充滿佛身卑小諸菩薩眾其形亦
25 p 小而汝身四萬二千由旬我身六百八十萬
26 o 由旬汝身第一端正百千萬福光明殊妙是
27 n 故汝往莫輕彼國若佛菩薩及國土生下劣
28 m 想妙音菩薩白其佛言世尊我今詣娑婆世
29 l 界皆是如來之力如來神通遊戲如來功德
30 k 智慧莊嚴於是妙音菩薩不起于座身不動
31 j 搖而入三昧以三昧力於耆闍崛山去法座
32 i 不遠化作八萬四千眾寶蓮華閻浮檀金為
33 h 莖白銀為葉金剛為鬚甄叔迦寶以為其臺
34 g 尓時文殊師利法王子見是蓮華而白佛言
35 f 世尊是何因緣先現此瑞有若干千萬蓮華
36 e 閻浮檀金為莖白銀為葉金剛為鬚甄叔迦
37 d 寶以為其臺尓時釋迦牟尼佛告文殊師利
38 c 是妙音菩薩摩訶薩欲從淨華宿王智佛國
39 b 與八萬四千菩薩圍遶而來至此娑婆世界
40 a 供養親近礼拜於我亦欲供養聽法華經文

巻第七—十一

7-24-41

41 a 殊師利白佛言世尊是菩薩種何善本修何
42 b 功徳而有是大神通力行何三昧願為我
43 c 等説是三昧名字我等亦欲勤修行之行此
44 d 三昧乃能見是菩薩色相大小威儀進止唯
45 e 願世尊以神通力彼菩薩來令我得見爾時
46 f 釋迦牟尼佛告文殊師利此久滅度多寶如
47 g 來當為汝等而現其相時多寶佛告彼菩薩
48 h 善男子來文殊師利法王子欲見汝身于時
49 i 妙音菩薩於彼國沒與八万四千菩薩俱共
50 j 發來所經諸國六種震動皆悉雨於七寶蓮
51 k 華百千天樂不鼓自鳴是菩薩目如廣大青
52 l 蓮華葉正使和合百千万月其面貌端正復
53 m 過於此身眞金色無量百千功徳莊嚴威徳
54 n 熾盛光明照曜諸相具足如那羅延堅固之
55 o 身入七寶臺上昇虛空去地七多羅樹諸菩
56 p 薩衆恭敬圍繞而來詣此娑婆世界耆闍崛
57 q 山到已下七寶臺以價直百千瓔珞持至釋
58 r 迦牟尼佛所頭面礼足奉上瓔珞而白佛言
59 s 世尊淨華宿王智佛問訊世尊少病少惱起

7-24-60

60 s' 居輕利安樂行不四大調和不世事可忍不
61 r' 衆生易度不無多貪欲瞋恚愚癡嫉妬慳慢
62 q' 不無不孝父母不敬沙門邪見不善心不攝
63 p' 五情不世尊衆生能降伏諸魔怨不久滅度
64 o' 多寶如來在七寶塔中來聽法不又問訊多
65 n' 寶如來安隱少惱堪忍久住不世尊我今欲
66 m' 見多寶佛身唯願世尊示我令見爾時釋迦
67 l' 牟尼佛語多寶佛是妙音菩薩欲得相見時
68 k' 多寶佛告妙音言善哉善哉汝能為供養釋
69 j' 迦牟尼佛及聽法華經并見文殊師利等故
70 i' 來至此爾時華徳菩薩白佛言世尊是妙音
71 h' 菩薩種何善根修何功徳有是神力佛告華
72 g' 徳菩薩過去有佛名雲雷音王多陀阿伽度
73 f' 阿羅訶三藐三佛陀國名現一切世間劫名
74 e' 喜見妙音菩薩於万二千歳以十万種伎樂
75 d' 供養雲雷音王佛并奉上八万四千七寶鉢
c' （未記入）
76 b' 以是因緣果報今生淨華宿王智佛國有是
77 a' 神力華徳於汝意云何爾時雲雷音王佛所

巻第七—十二

7-24-78

78 a 妙音菩薩伎樂供養奉上寶器者豈異人乎
79 b 今此妙音菩薩摩訶薩是華徳是妙音菩薩
80 c 已曾供養親近無量諸佛久植徳本又値恒
81 d 河沙等百千万億那由他佛華徳汝但見妙
82 e 音菩薩其身在此而是菩薩現種種身處處
83 f 為諸衆生說是經典或現梵王身或現帝釋
84 g 身或現自在天身或現大自在天身或現天
85 h 大將軍身或現毗沙門天王身或現轉輪聖
86 i 王身或現諸小王身或現長者身或現居士
87 j 身或現宰官身或現婆羅門身或現比丘比
88 k 丘尼優婆塞優婆夷身或現長者居士婦女
89 l 身或現宰官婦女身或現婆羅門婦女身或
90 m 現童男童女身或現天龍夜叉乾闥婆阿脩
91 n 羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身而
92 o 說是經諸有地獄餓鬼畜生及衆難處皆能
93 p 救濟乃至於王後宮變為女身而說是經華
94 q 徳是妙音菩薩能救護娑婆世界諸衆生者
95 r 是妙音菩薩如是種種變化現身在此娑婆
96 s 國土為諸衆生說是經典於神通變化智慧
97 t 無所損減是菩薩以若干智慧明照娑婆世

t' （未記入）
s' （未記入）
r' （未記入）
q' （未記入）
p' （未記入）
o' （未記入）
n' （未記入）
m' （未記入）
l' （未記入）
k' （未記入）
j' （未記入）
i' （未記入）
h' （未記入）
g' （未記入）
f' （未記入）
e' （未記入）
d' （未記入）
c' （未記入）
b' （未記入）
a' （未記入）

巻第七—十三

7-24-98

98 a 界令一切衆生各得所知於十方恒河沙世
99 b 界中亦復如是若應以聲聞形得度者現聲
100 c 聞形而為說法應以辟支佛形得度者現辟
101 d 支佛形而為說法應以菩薩形得度者現菩
102 e 薩形而為說法應以佛形得度者即現佛形
103 f 而為說法如是種種隨所應度而為現形
104 g 乃至應以滅度而得度者示現滅度華徳妙
105 h 音菩薩摩訶薩成就大神通智慧之力其事
106 i 如是爾時華徳菩薩白佛言世尊是妙音菩
107 j 薩深種善根世尊是菩薩住何三昧而能如
108 k 是在所變現度脫衆生佛告華徳菩薩善男
109 l 子其三昧名現一切色身妙音菩薩住是三
110 m 昧中能如是饒益無量衆生說是妙音菩薩
111 n 品時與妙音菩薩俱來者八万四千人皆得
112 o 現一切色身三昧此娑婆世界無量菩薩亦
113 p 得是三昧及陀羅尼爾時妙音菩薩摩訶薩
114 q 供養釋迦牟尼佛及多寶佛塔已還歸本土
115 r 所經諸國六種震動雨寶蓮華作百千万億
116 s 種種伎樂既到本國與八万四千菩薩圍遶
117 t 至淨華宿王智佛所白佛言世尊我到娑婆

7-24-118

118 t' 世界饒益衆生見釋迦牟尼佛及見多寶佛
119 s' 塔禮拜供養又見文殊師利法王子菩薩及
120 r' 見藥王菩薩得勤精進力菩薩勇施菩薩等
121 q' 亦令是八万四千菩薩得現一切色身三昧
122 p' 說是妙音菩薩來往品時四万二千天子得
123 o' 無生法忍華徳菩薩得法華三昧
124 n' 妙法蓮華經巻第七
m' （未記入）
l' （未記入）
k' （未記入）
j' （未記入）
i' （未記入）
h' （未記入）
g' （未記入）
f' （未記入）
e' （未記入）
d' （未記入）
c' （未記入）
b' （未記入）
a' （未記入）

巻第八—一

8-25-1

1 a 妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五
2 b 尒時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌
3 c 向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何因緣
4 d 名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無
5 e 量百千万億衆生受諸苦惱聞是觀世音菩
6 f 薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆
7 g 得解脫
8 h 若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不
9 i 能燒由是菩薩威神力故若為大水所漂稱
10 j 其名号即得淺處若有百千万億衆生為求
11 k 金銀瑠璃車璩馬碯珊瑚琥珀眞珠等寶入
12 l 於大海假使黑風吹其船舫飄墮羅刹鬼國
13 m 其中若有乃至一人稱觀世音菩薩名者是
14 n 諸人等皆得解脫羅刹之難以是因緣名觀
15 o 世音
16 p 若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼
17 q 所執刀杖尋段段壞而得解脫若三千大千
18 r 國土滿中夜叉羅刹欲來惱人聞其稱觀世
19 s 音菩薩名者是諸惡鬼尚不能以惡眼視之
20 t 況復加害

8-25-21

21 t' 設復有人若有罪若無罪杻械枷鎖檢繫其
22 s' 身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即得解脫
23 r' 若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸
24 q' 商人齎持重寶經過險路其中一人作是唱
25 p' 言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀
26 o' 世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生
27 n' 汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
28 m' 聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即
29 l' 得解脫無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之
30 k' 力巍巍如是
31 j' 若有衆生多於婬欲常念恭敬觀世音菩薩
32 i' 便得離欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩
33 h' 便得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩
34 g' 便得離癡無盡意觀世音菩薩有如是等大
35 f' 威神力多所饒益是故衆生常應心念
36 e' 若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩
37 d' 便生福徳智慧之男設欲求女便生端正有
38 c' 相之女宿植徳本衆人愛敬無盡意觀世音
39 b' 菩薩有如是力若有衆生恭敬禮拜觀世音
40 a' 菩薩福不唐捐是故衆生皆應受持觀世音

巻第八—二

8-25-41

菩薩名号無盡意若有人受持六十二億恒
河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服臥具
醫藥於汝意云何是善男子善女人功徳多
不無盡意言甚多世尊佛言若復有人受持
觀世音菩薩名号乃至一時禮拜供養是二
人福正等無異於百千万億劫不可窮盡無
盡意受持觀世音菩薩名号得如是無量無
邊福徳之利
無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何
遊此娑婆世界云何而為衆生説法方便之
力其事云何佛告無盡意菩薩善男子若有
國土衆生應以佛身得度者觀世音菩薩即
現佛身而為説法應以辟支佛身得度者即
現辟支佛身而為説法應以聲聞身得度者
即現聲聞身而為説法應以梵王身得度者
即現梵王身而為説法應以帝釋身得度者
即現帝釋身而為説法應以自在天身得度
者即現自在天身而為説法應以大自在天
身得度者即現大自在天身而為説法應以
天大將軍身得度者即現天大將軍身而為

8-25-61

説法應以毘沙門身得度者即現毘沙門身
而為説法應以小王身得度者即現小王身
而為説法應以長者身得度者即現長者身
而為説法應以居士身得度者即現居士身
而為説法應以宰官身得度者即現宰官身
而為説法應以婆羅門身得度者即現婆羅
門身而為説法應以比丘比丘尼優婆塞優
婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優
婆夷身而為説法應以長者居士宰官婆羅
門婦女身得度者即現婦女身而為説法應
以童男童女身得度者即現童男童女身而
為説法應以天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓
羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即
皆現之而為説法應以執金剛神得度者即
現執金剛神而為説法無盡意是觀世音菩
薩成就如是功徳以種種形遊諸國土度脱
衆生是故汝等應當一心供養觀世音菩薩
是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能
施無畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏
者無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀

巻第八—三

8-25-81

世音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩
金而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔
珞時觀世音菩薩不肯受之無盡意復白觀
世音菩薩言仁者愍我等故受此瓔珞尒時
佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩及四
衆天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅
摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞即時觀世
音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受其
瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉
多寶佛塔無盡意觀世音菩薩有如是自在
神力遊於娑婆世界尒時無盡意菩薩以偈
問曰
世尊妙相具 我今重問彼 佛子何因縁 名為觀世音
具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所
弘誓深如海 歴劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願
我為汝略説 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦
假使興害意 推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池
或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能沒
或在須彌峯 為人所推墮 念彼觀音力 如日虚空住
或被惡人逐 墮落金剛山 念彼觀音力 不能損一毛

8-25-101

或値怨賊繞 各執刀加害 念彼觀音力 咸即起慈心
或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壊
或囚禁枷鎖 手足被杻械 念彼觀音力 釋然得解脱
呪詛諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人
或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害
若惡獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方
蚖蛇及蝮蠍 氣毒煙火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去
雲雷鼓掣電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散
衆生被困厄 無量苦逼身 觀音妙智力 能救世間苦
具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身
種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅
眞觀清淨觀 廣大智慧觀 悲觀及慈觀 常願常瞻仰
無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間
悲體戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱焔
諍訟經官處 怖畏軍陣中 念彼觀音力 衆怨悉退散
妙音觀世音 梵音海潮音 勝彼世間音 是故須常念
念念勿生疑 觀世音淨聖 於苦惱死厄 能為作依怙
具一切功徳 慈眼視衆生 福聚海無量 是故應頂禮
尒時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若
有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門

巻第八—四

8-25-121

示現神通力者當知是人功徳不少佛説是
普門品時衆中八萬四千衆生皆發無等等
阿耨多羅三藐三菩提心

26-1

妙法蓮華經陀羅尼品第二十六
尒時藥王菩薩即從座起偏袒右肩合掌向
佛而白佛言世尊若善男子善女人有能受
持法華經者若讀誦通利若書寫經卷得幾
所福佛告藥王若有善男子善女人供養八
百万億那由他恒河沙等諸佛於汝意云何
其所得福寧為多不甚多世尊佛言若善男
子善女人能於是經乃至受持一四句偈讀
誦解義如説修行功徳甚多尒時藥王菩薩
白佛言世尊我今當與説法者陀羅尼咒以
守護之即説咒曰
安尒一 曼尒二 摩祢三 摩摩祢四 旨隷五 遮
梨第六 賖咩七 賖履多瑋八 羶帝九 目
帝十 目多履十一 娑履十二 阿瑋娑履十三
桑履十四 娑履十五 叉裔十六 阿叉裔十七 阿耆膩十八
羶帝十九 賖履二十 陀羅尼二十一 阿盧伽婆娑
簸蔗毘叉膩二十三 祢毘剃二十四 阿便哆邏

8-26-18

祢履剃二十五 阿亶哆波隷輸地二十六 漚究隷二十七
牟究隷二十八 阿羅隷二十九 波羅隷三十
首迦差三十一 阿三磨三履三十二 佛
馱毘吉利袠帝三十三 達磨波利差帝三十四
僧伽涅瞿沙祢三十五 婆舍婆舍輸地三十六 曼哆邏三十七
曼哆邏叉夜多三十八 郵樓哆三十九 郵樓哆憍舍略四十
惡叉邏四十一 惡叉冶多冶四十二 阿婆盧 阿摩若那
多夜四十三
世尊是陀羅尼神呪六十二億恒河沙等諸
佛所説若有侵毀此法師者則為侵毀是諸
佛已時釋迦牟尼佛讃藥王菩薩言善哉善
哉藥王汝愍念擁護此法師故説是陀羅尼
於諸衆生多所饒益
尒時勇施菩薩白佛言世尊我亦為擁護讀
誦受持法華經者説陀羅尼若此法師得是
陀羅尼若夜叉若羅刹若富單那若吉遮若
鳩槃荼若餓鬼等伺求其短無能得便即於
佛前而説呪曰
座隷一 摩訶座隷二 郁枳三 目枳四 阿

巻第八—五

8-26-38

隷五 阿羅婆第六 涅隷第七 涅隷多婆第
八 伊緻柅九 韋緻柅十 旨緻柅十一 涅隷墀
柅十二 涅犁墀婆底十三
世尊是陀羅尼神呪恒河沙等諸佛所説亦
皆隨喜若有侵毀此法師者則為侵毀是諸
佛已
尒時毘沙門天王護世者白佛言世尊我亦
為愍念衆生擁護此法師故説是陀羅尼即
説呪曰
阿梨一 那梨二 㝹那梨三 阿那盧四 那履五
拘那履六
世尊以是神呪擁護法師我亦自當擁護持
是經者令百由旬内無諸衰患
尒時持國天王在此會中與千万億那由他
乾闥婆衆恭敬圍遶前詣佛所合掌白佛言
世尊我亦以陀羅尼神呪擁護持法華經者
即説呪曰
阿伽祢一 伽祢二 瞿利三 乾陀利四 旃陀利
五 摩蹬耆六 常求利七 浮樓莎柅八 頞底九
世尊是陀羅尼神呪四十二億諸佛所説若

8-26-58

有侵毀此法師者則為侵毀是諸佛已
尒時有羅刹女等一名藍婆二名毘藍婆三
名曲齒四名華齒五名黒齒六名多髪七名
無厭足八名持瓔珞九名睾帝十名奪一切
衆生精氣是十羅刹女與鬼子母幷其子及
眷屬倶詣佛所同聲白佛言世尊我等亦欲
擁護讀誦受持法華經者除其衰患若有伺
求法師短者令不得便即於佛前而説呪曰
伊提履一 伊提泯二 伊提履三 阿提履四 伊
提履五 泥履六 泥履七 泥履八 泥履九 泥履
十 樓醯十一 樓醯十二 樓醯十三 樓醯十四 多
醯十五 多醯十六 多醯十七 兜醯十八 㝹醯十九
寧上我頭上莫惱於法師若夜叉若羅刹若
餓鬼若富單那若吉遮若毘陀羅若犍馱若
烏摩勒伽若阿跋摩羅若夜叉吉遮若人吉
遮若熱病若一日若二日若三日若四日乃
至七日若常熱病若男形若女形若童男形
若童女形乃至夢中亦復莫惱即於佛前
而説偈言
若不順我呪 惱亂説法者 頭破作七分 如阿梨樹枝

巻第八—六

8-26-78
78 a 如殺父母罪　亦如壓油殃　斗秤欺誑人　調達破僧罪
79 b 犯此法師者　當獲如是殃
80 c 諸羅剎女說此偈已白佛言世尊我等亦當
81 d 身自擁護受持讀誦修行是經者令得安隱
82 e 離諸衰患消眾毒藥佛告諸羅剎女善哉善
83 f 哉汝等但能擁護受持法華名者福不可量
84 g 何況擁護具足受持供養經卷華香瓔珞
85 h 末香塗香燒香幡蓋伎樂然種種燈酥燈油燈
86 i 諸香油燈蘇摩那華油燈瞻蔔華油燈婆師
87 j 迦華油燈優鉢羅華油燈如是等百千種供
88 k 養者皋諦汝等及眷屬應當擁護如是法師
89 l 說是陀羅尼品時六萬八千人得無生法忍
8-27-1
1 m 妙法蓮華經妙莊嚴王本事品第二十七
2 n 爾時佛告諸大眾乃往古世過無量無邊不
3 o 可思議阿僧祇劫有佛名雲雷音宿王華智
4 p 多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀國名光明
5 q 莊嚴劫名喜見彼佛法中有王名妙莊嚴其
6 r 王夫人名曰淨德有二子一名淨藏二名淨
7 s 眼是二子有大神力福德智慧久修菩薩所
8 t 行之道所謂檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提
8-27-9
9 t' 波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜
10 s' 方便波羅蜜慈悲喜捨乃至三十七品助道
11 r' 法皆悉明了通達又得菩薩淨三昧日星宿
12 q' 三昧淨光三昧淨色三昧淨照明三昧長莊
13 p' 嚴三昧大威德藏三昧於此三昧亦悉通達
14 o' 爾時彼佛欲引導妙莊嚴王及愍念眾生故
15 n' 說是法華經時淨藏淨眼二子到其母所合
16 m' 十指爪掌白言願母往詣雲雷音宿王華智
17 l' 佛所我等亦當侍從親近供養禮拜所以者
18 k' 何此佛於一切天人眾中說法華經宜應聽
19 j' 受母告子言汝父信受外道深著婆羅門法
20 i' 汝等應往白父與共俱去淨藏淨眼合十指
21 h' 爪掌白母我等是法王子而生此邪見家母
22 g' 告子言汝等當憂念汝父為現神變若得見
23 f' 者心必清淨或聽我等往至佛所於是二子
24 e' 念其父故踊在虛空高七多羅樹現種種神
25 d' 變於虛空中行住坐臥身上出水身下出火
26 c' 身下出水身上出火或現大身滿虛空中而
27 b' 復現小小復現大於空中滅忽然在地入地
28 a' 如水履水如地現如是等種種神變令其父

巻第八—七

8-27-29
29 a 王心淨信解時父見子神力如是心大歡喜
30 b 得未曾有合掌向子言汝等師為是誰誰之
31 c 弟子二子白言大王彼雲雷音宿王華智佛
32 d 今在七寶菩提樹下法座上坐於一切世間
33 e 天人眾中廣說法華經是我等師我是弟子
34 f 父語子言我今亦欲見汝等師可共俱往於
35 g 是二子從空中下到其母所合掌白母父王
36 h 今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心
37 i 我等為父已作佛事願母見聽於彼佛所出
38 j 家修道爾時二子欲重宣其意以偈白母
39 k 願母放我等　出家作沙門　諸佛甚難值　我等隨佛學
40 l 如優曇鉢華　值佛復難是　脫諸難亦難　願聽我出家
41 m 母即告言聽汝出家所以者何佛難值故於
42 n 是二子白父母言善哉父母願時往詣雲雷
43 o 音宿王華智佛所親覲供養所以者何佛難
44 p 得值如優曇波羅華又如一眼之龜值浮木
45 q 孔而我等宿福深厚生值佛法是故父母當
46 r 聽我等令得出家所以者何諸佛難值時亦
47 s 難遇彼時妙莊嚴王後宮八萬四千人皆悉
48 t 堪任受持是法華經淨眼菩薩於法華三昧
8-27-49
49 t' 久已通達淨藏菩薩已於無量百千萬億劫
50 s' 通達離諸惡趣三昧欲令一切眾生離諸惡
51 r' 趣故其王夫人得諸佛集三昧能知諸佛祕
52 q' 密之藏二子如是以方便力善化其父令心
53 p' 信解好樂佛法於是妙莊嚴王與群臣眷屬
54 o' 俱淨德夫人與後宮婇女眷屬俱其王二子
55 n' 與四萬二千人俱一時共詣佛所到已頭面
56 m' 禮足遶佛三帀卻住一面
57 l' 爾時彼佛為王說法示教利喜王大歡悅爾
58 k' 時妙莊嚴王及其夫人解頸真珠瓔珞價直
59 j' 百千以散佛上於虛空中化成四柱寶臺臺
60 i' 中有大寶床敷百千萬天衣其上有佛結跏
61 h' 趺坐放大光明爾時妙莊嚴王作是念佛身
62 g' 希有端嚴殊特成就第一微妙之色時雲雷
63 f' 音宿王華智佛告四眾言汝等見是妙莊嚴
64 e' 王於我前合掌立不此王於我法中作比丘
65 d' 精勤修習助佛道法當得作佛號娑羅樹王
66 c' 國名大光劫名大高王其娑羅樹王佛有無
67 b' 量菩薩眾及無量聲聞其國平正功德如是
68 a' 其王即時以國付弟王與夫人二子并諸眷

巻第八—八

8-27-69
69 a 屬於佛法中出家修道王出家已於八萬四
70 b 千歲常勤精進修行妙法華經過是已後得
71 c 一切淨功德莊嚴三昧即昇虛空高七多羅
72 d 樹而白佛言世尊此我二子已作佛事以神
73 e 通變化轉我邪心令得安住於佛法中得見
74 f 世尊此二子者是我善知識為欲發起宿世
75 g 善根饒益我故來生我家
76 h 爾時雲雷音宿王華智佛告妙莊嚴王言如
77 i 是如是如汝所言若善男子善女人種善根
78 j 故世世得善知識其善知識能作佛事示教
79 k 利喜令入阿耨多羅三藐三菩提大王當知
80 l 善知識者是大因緣所謂化導令得見佛發
81 m 阿耨多羅三藐三菩提心大王汝見此二子
82 n 不此二子已曾供養六十五百千萬億那由
83 o 他恆河沙諸佛親近恭敬於諸佛所受持法
84 p 華經愍念邪見眾生令住正見妙莊嚴王即
85 q 從虛空中下而白佛言世尊如來甚希有以
86 r 功德智慧故頂上肉髻光明顯照其眼長廣
87 s 而紺青色眉間毫相白如珂月齒白齊密常
88 t 有光明脣色赤好如頻婆果爾時妙莊嚴王
8-27-89
89 t' 讚歎佛如是等無量百千萬億功德已於如
90 s' 來前一心合掌復白佛言世尊未曾有也如
91 r' 來之法具足成就不可思議微妙功德教戒
92 q' 所行安隱快善我從今日不復自隨心行不
93 p' 生邪見憍慢瞋恚諸惡之心說是語已禮佛
94 o' 而出佛告大眾於意云何妙莊嚴王豈異人
95 n' 乎今華德菩薩是其淨德夫人今佛前光照
96 m' 莊嚴相菩薩是哀愍妙莊嚴王及諸眷屬故
97 l' 於彼中生其二子者今藥王菩薩藥上菩薩
98 k' 是藥王藥上菩薩成就如此諸大功德已
99 j' 於無量百千萬億諸佛所植眾德本成就不
100 i' 可思議諸善功德若有人識是二菩薩名字
101 h' 者一切世間諸天人民亦應禮拜佛說是妙
102 g' 莊嚴王本事品時八萬四千人遠塵離垢於
103 f' 諸法中得法眼淨
8-28-1
1 e' 妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八
2 d' 爾時普賢菩薩以自在神通力威德名聞與
3 c' 大菩薩無量無邊不可稱數從東方來所經
4 b' 諸國普皆震動雨寶蓮華作無量百千萬億
5 a' 種種伎樂又與無數諸天龍夜叉乾闥婆阿

巻第八—九

8-28-6
6 a 修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等大
7 b 眾圍遶各現威德神通之力到娑婆世界耆
8 c 闍崛山中頭面禮釋迦牟尼佛右遶七帀白
9 d 佛言世尊我於寶威德上王佛國遙聞此娑
10 e 婆世界說法華經與無量無邊百千萬億諸
11 f 菩薩眾共來聽受唯願世尊當為說之若善
12 g 男子善女人於如來滅後云何能得是法華
13 h 經佛告普賢菩薩若善男子善女人成就四
14 i 法於如來滅後當得是法華經一者為諸佛
15 j 護念二者殖眾德本三者入正定聚四者發
16 k 救一切眾生之心善男子善女人如是成就
17 l 四法於如來滅後必得是經爾時普賢菩薩
18 m 白佛言世尊於後五百歲濁惡世中其有受
19 n 持是經典者我當守護除其衰患令得安隱
20 o 使無伺求得其便者若魔若魔子若魔女若
21 p 魔民若為魔所著者若夜叉若羅剎若鳩槃
22 q 荼若毘舍闍若吉遮若富單那若韋陀羅等
23 r 諸惱人者皆不得便是人若行若立讀誦此
24 s 經我爾時乘六牙白象王與大菩薩眾俱詣
25 t 其所而自現身供養守護安慰其心亦為供
8-28-26
26 t' 養法華經故是人若坐思惟此經爾時我復
27 s' 乘白象王現其人前其人若於法華經有所
28 r' 忘失一句一偈我當教之與共讀誦還令通
29 q' 利爾時受持讀誦法華經者得見我身甚大
30 p' 歡喜轉復精進以見我故即得三昧及陀羅
31 o' 尼名為旋陀羅尼百千萬億旋陀羅尼法音
32 n' 方便陀羅尼得如是等陀羅尼世尊若後世
33 m' 後五百歲濁惡世中比丘比丘尼優婆塞優
34 l' 婆夷求索者受持者讀誦者書寫者欲修習
35 k' 是法華經於三七日中應一心精進滿三七
36 j' 日已我當乘六牙白象與無量菩薩而自圍
37 i' 遶以一切眾生所喜見身現其人前而為說
38 h' 法示教利喜亦復與其陀羅尼咒得是陀羅
39 g' 尼故無有非人能破壞者亦不為女人之所
40 f' 惑亂我身亦自常護是人唯願世尊聽我說
41 e' 此陀羅尼咒即於佛前而說咒曰
42 d' 阿檀地途賣反一檀陀婆地二檀陀婆帝三檀陀
43 c' 鳩賒隸四檀陀修陀隸五修陀隸六修陀羅
44 b' 婆底七佛馱波羶禰八薩婆陀羅尼阿婆多
45 a' 尼九薩婆婆沙阿婆多尼十修阿婆多尼十一

卷第八—十

8-28-46
46 a 僧伽婆履叉尼十二僧伽涅伽陀尼十三阿僧祇
47 b 十四僧伽波伽地十五帝隸阿惰僧伽兜略盧遮反
48 c 阿羅帝婆羅帝十六薩婆僧伽三摩地伽蘭地
49 d 十七薩婆達磨修波利剎帝十八薩婆薩埵樓馱憍舍略
50 e 阿㝹伽地十九辛阿毘吉利地帝二十
51 f 世尊若有菩薩得聞是陀羅尼者當知普賢
52 g 神通之力若法華經行閻浮提有受持者應
53 h 作此念皆是普賢威神之力若有受持讀誦
54 i 正憶念解其義趣如說修行當知是人行普
55 j 賢行於無量無邊諸佛所深種善根為諸如
56 k 來手摩其頭若但書寫是人命終當生忉利
57 l 天上是時八萬四千天女作眾伎樂而來迎
58 m 之其人即著七寶冠於婇女中娛樂快樂何
59 n 況受持讀誦正憶念解其義趣如說修行若
60 o 有人受持讀誦解其義趣是人命終為千佛
61 p 授手令不恐怖不墮惡趣即往兜率天上彌
62 q 勒菩薩所彌勒菩薩有三十二相大菩薩眾
63 r 所共圍繞有百千萬億天女眷屬而於中生
64 s 有如是等功德利益是故智者應當一心自
65 t 書若使人書受持讀誦正憶念如說修行世

8-28-66
66 t' 尊我今以神通力故守護是經於如來滅後
67 s' 閻浮提內廣令流布使不斷絕
68 r' 爾時釋迦牟尼佛讚言善哉善哉普賢汝能
69 q' 護助是經令多所眾生安樂利益汝已成就
70 p' 不可思議功德深大慈悲從久遠來發阿耨
71 o' 多羅三藐三菩提意而能作是神通之願守
72 n' 護是經我當以神通力守護能受持普賢菩
73 m' 薩名者普賢若有受持讀誦正憶念修習書
74 l' 寫是法華經者當知是人則見釋迦牟尼佛
75 k' 如從佛口聞此經典當知是人供養釋迦牟
76 j' 尼佛當知是人佛讚善哉當知是人為釋迦
77 i' 牟尼佛手摩其頭當知是人為釋迦牟尼佛
78 h' 衣之所覆如是之人不復貪著世樂不好外
79 g' 道經書手筆亦復不喜親近其人及諸惡者
80 f' 若屠兒若畜猪羊雞狗若獵師若衒賣女色
81 e' 是人心意質直有正憶念有福德力是人不
82 d' 為三毒所惱亦不為嫉妬我慢邪慢增上慢
83 c' 所惱是人少欲知足能修普賢之行普賢若
84 b' 如來滅後後五百歲若有人見受持讀誦法
85 a' 華經者應作是念此人不久當詣道場破諸

卷第八—十一

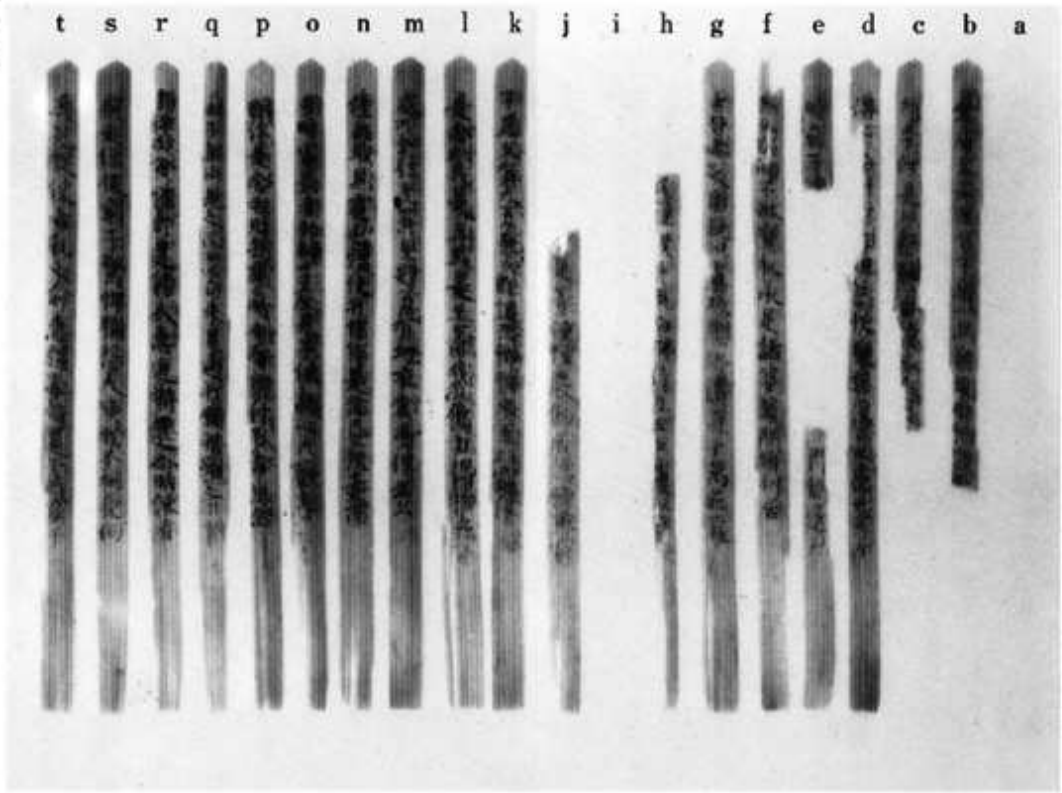
8-28-86
86 a 魔眾得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪擊法
87 b 鼓吹法螺雨法雨當坐天人大眾中師子法
88 c 座上普賢若於後世受持讀誦是經典者是
89 d 人不復貪著衣服臥具飲食資生之物所願
90 e 不虛亦於現世得其福報若有人輕毀之言
91 f 汝狂人耳空作是行終無所獲如是罪報當
92 g 世世無眼若有供養讚歎之者當於今世得
93 h 現果報若復見受持是經者出其過惡若
94 i 實若不實此人現世得白癩病若有輕笑之
95 j 者當世世牙齒疏缺醜脣平鼻手腳繚戾眼
96 k 目角睞身體臭穢惡瘡膿血水腹短氣諸惡
97 l 重病是故普賢若見受持是經典者當起遠
98 m 迎當如敬佛說是普賢勸發品時恒河沙等
99 n 無量無邊菩薩得百千萬億旋陀羅尼三千
100 o 大千世界微塵等諸菩薩具普賢道佛說是

8-28-101
101 o' 經時普賢等諸菩薩舍利弗等諸聲聞及諸
102 n' 天龍人非人等一切大會皆大歡喜受持佛
103 m' 語作禮而去
104 l' 妙法蓮華經卷第八

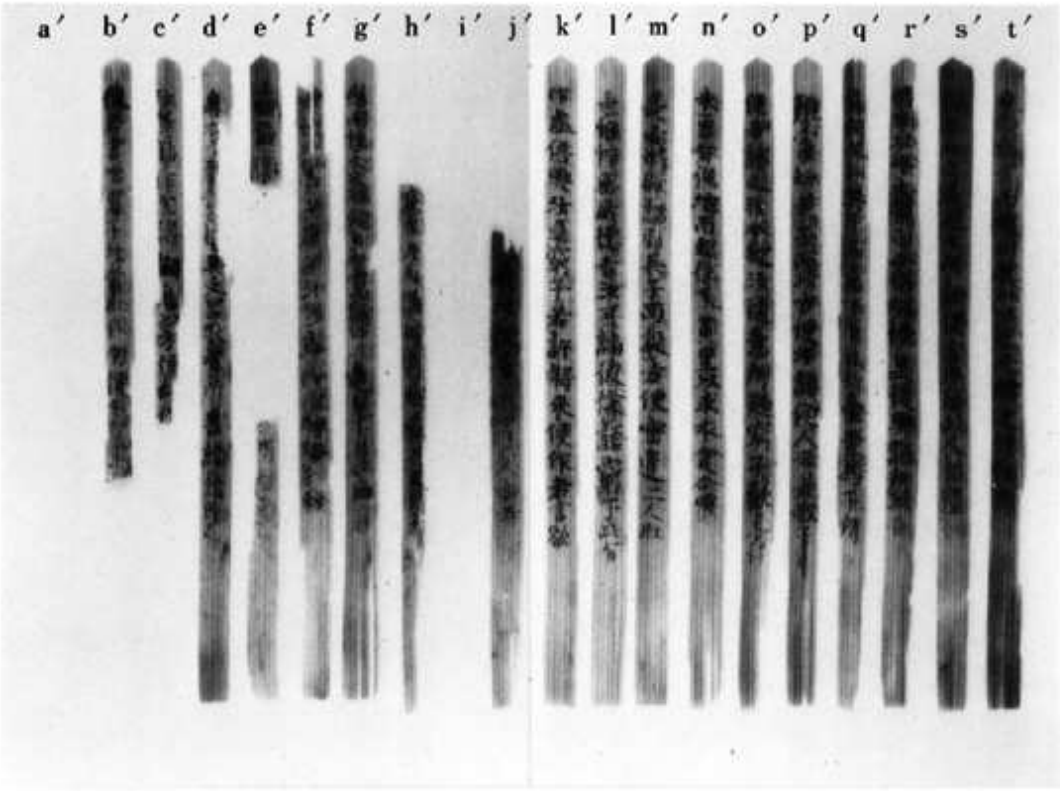
k' （未記入）
j' （未記入）
i' （未記入）
h' （未記入）
g' （未記入）
f' （未記入）
e' （未記入）
d' （未記入）
c' （未記入）
b' （未記入）
a' （未記入）

図

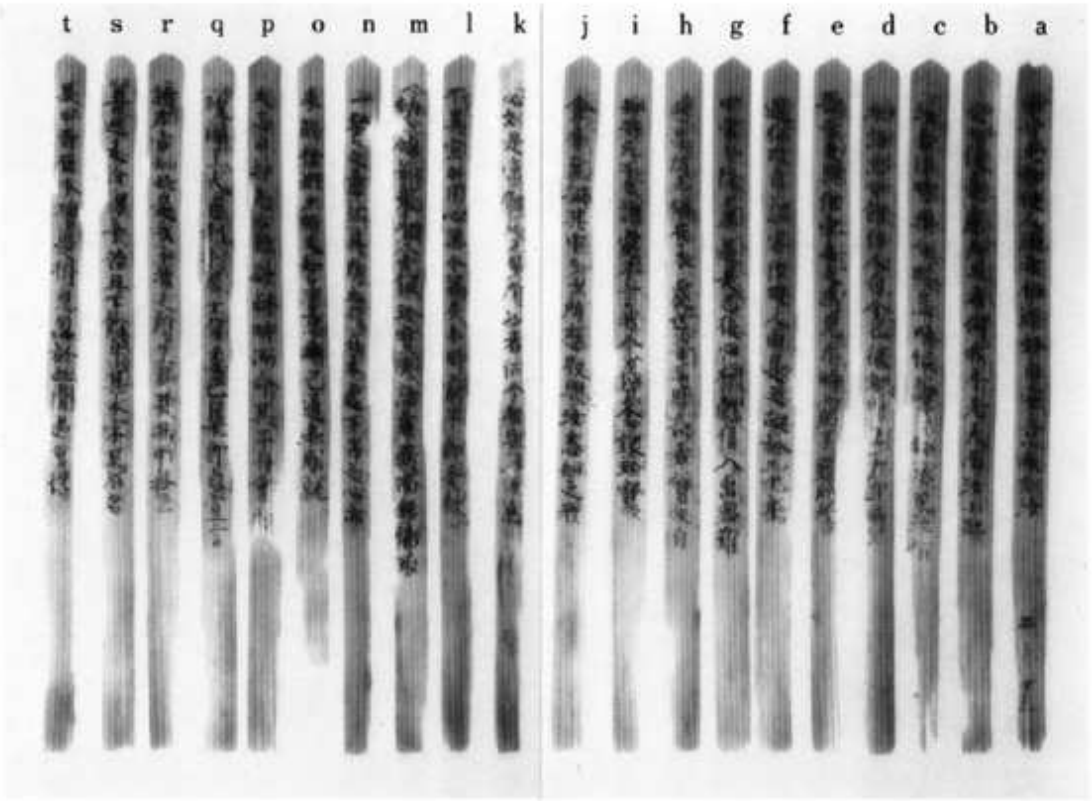
版



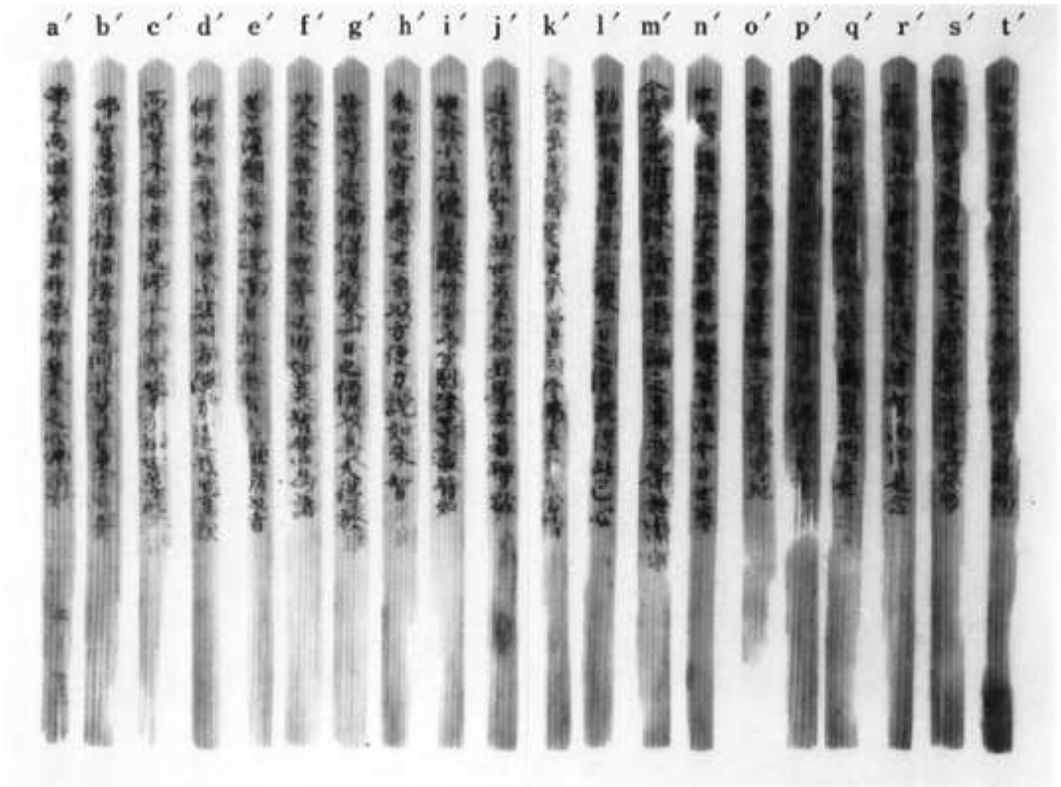
(1) 法華経信解品第四　　巻第二之十二（表面）



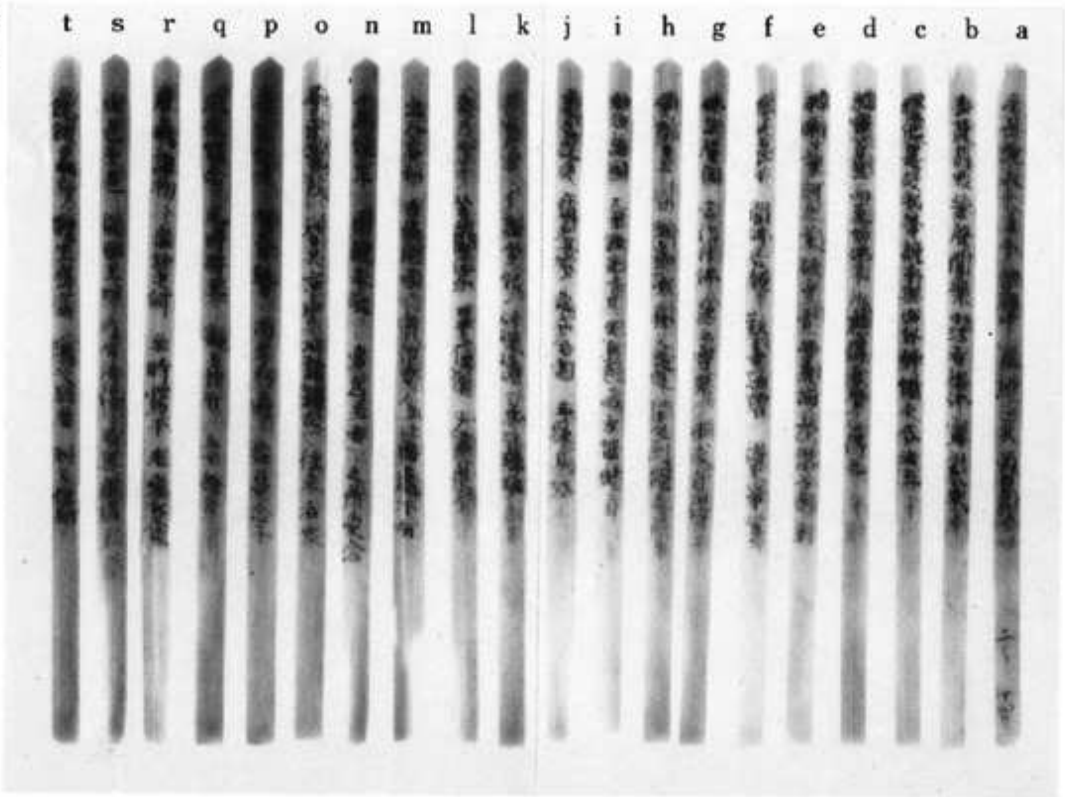
(2) 法華経信解品第四　　巻第二之十二（裏面）



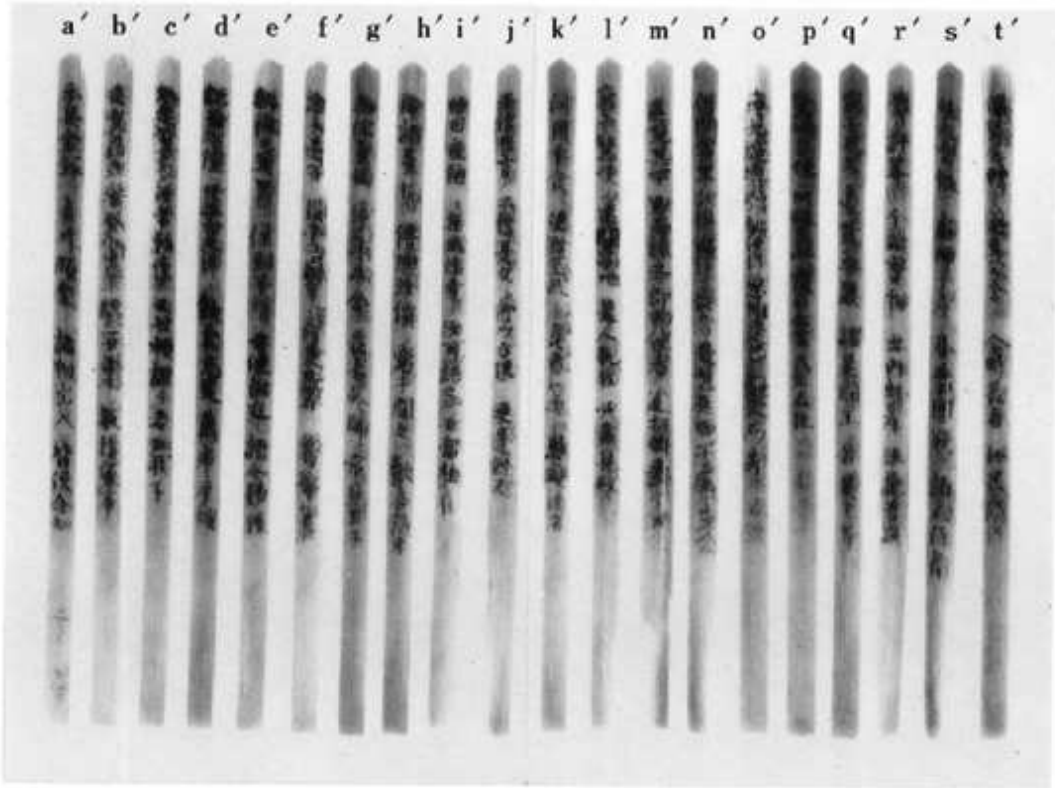
(1) 法華経信解品第四　　巻第二之十三（表面）



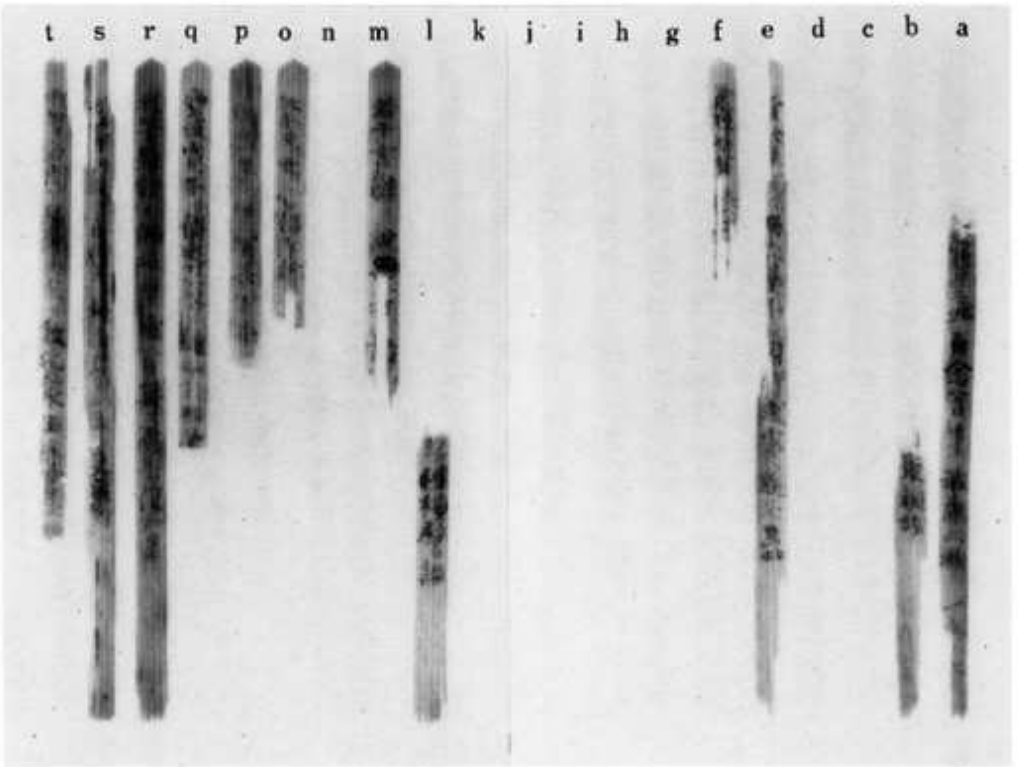
(2) 法華経信解品第四　　巻第二之十三（裏面）



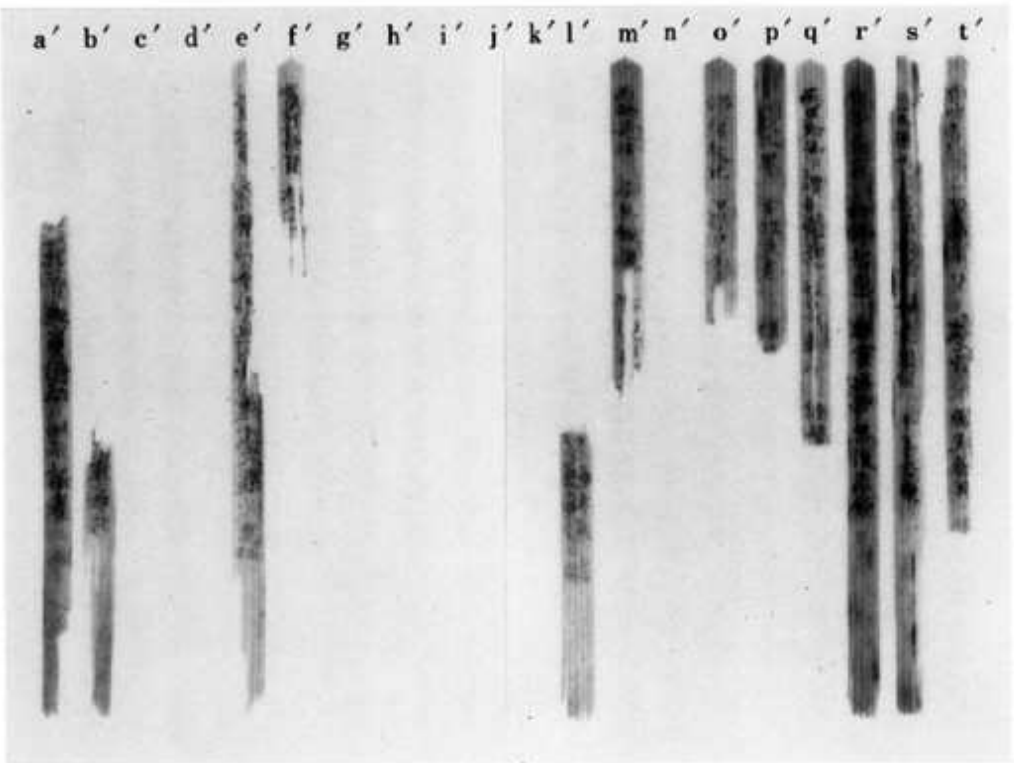
(1) 法華経信解品第四　　巻第二之十四（表面）



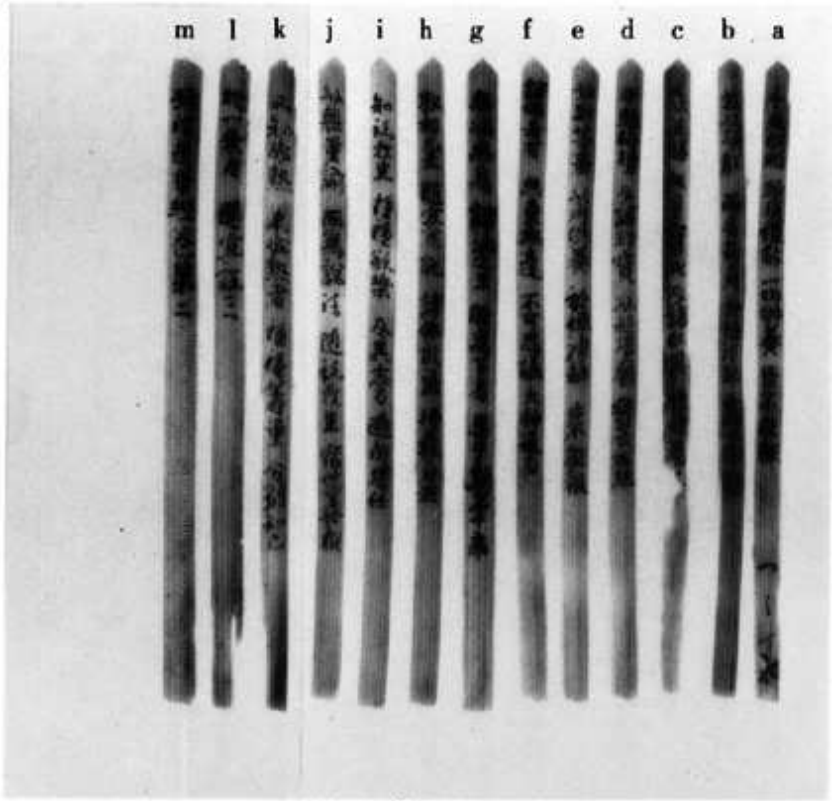
(2) 法華経信解品第四　　巻第二之十四（裏面）



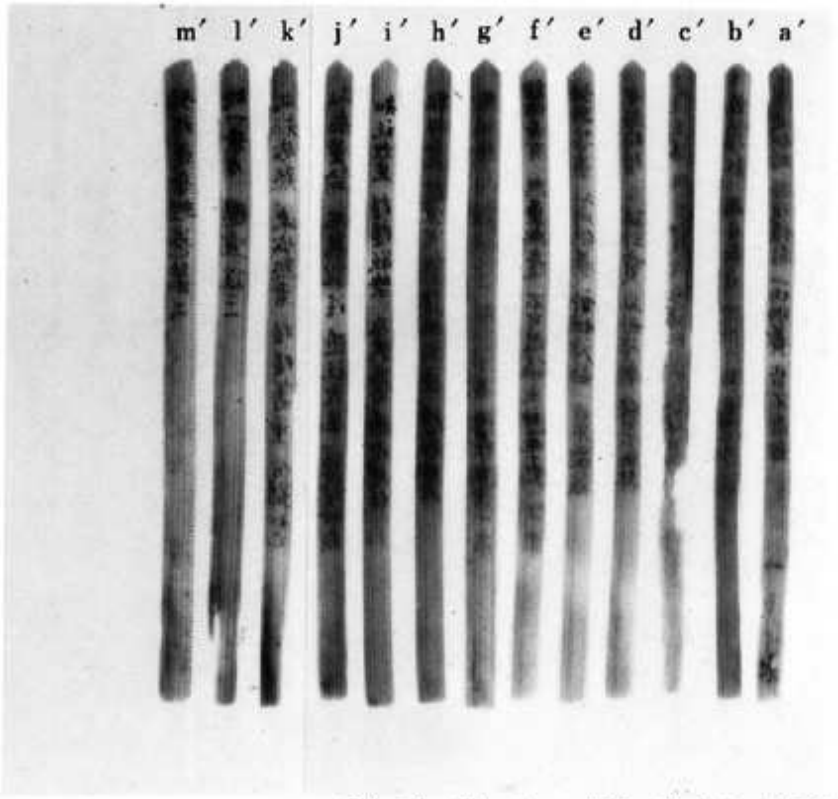
(1) 法華経信解品第四　　巻第二之十五（表面）



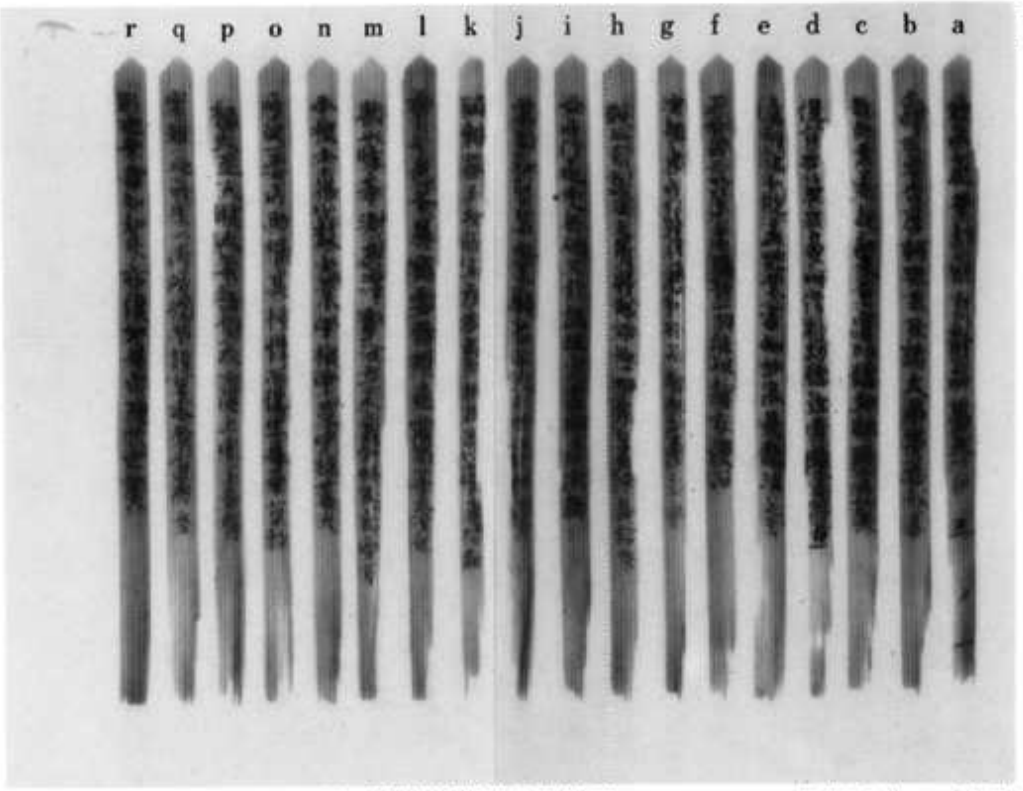
(2) 法華経信解品第四　　巻第二之十五（裏面）



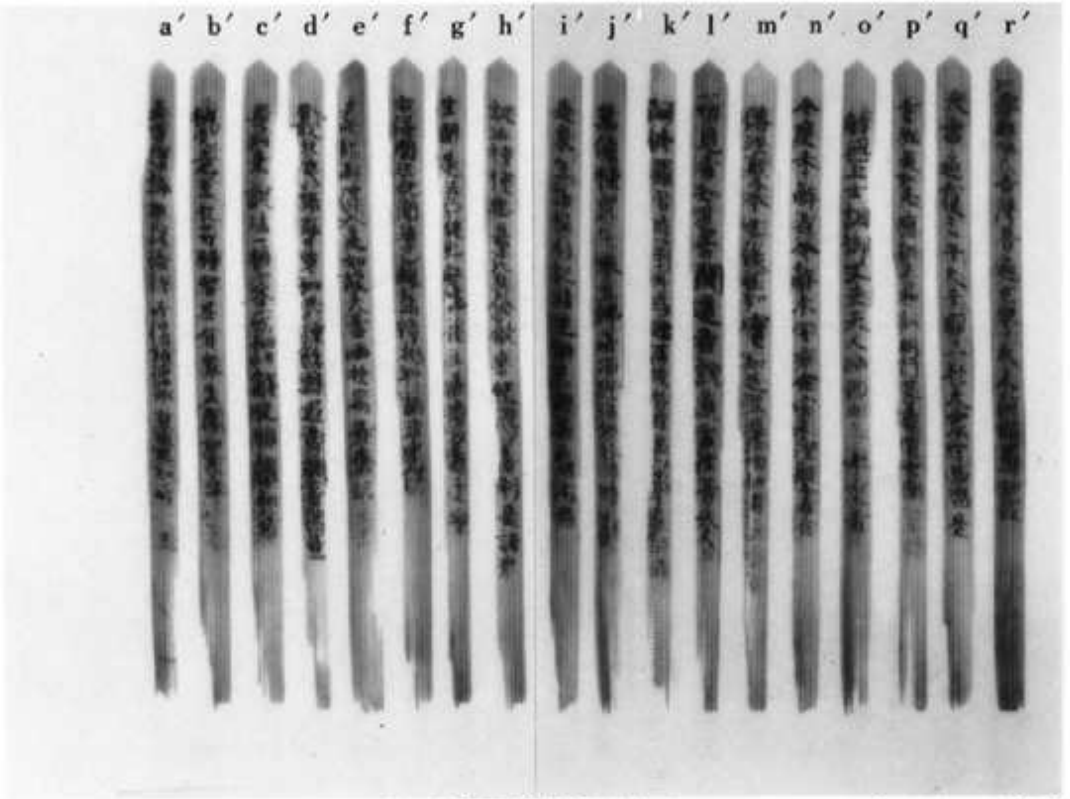
(1) 法華経信解品第四 巻第二之十六（表面）



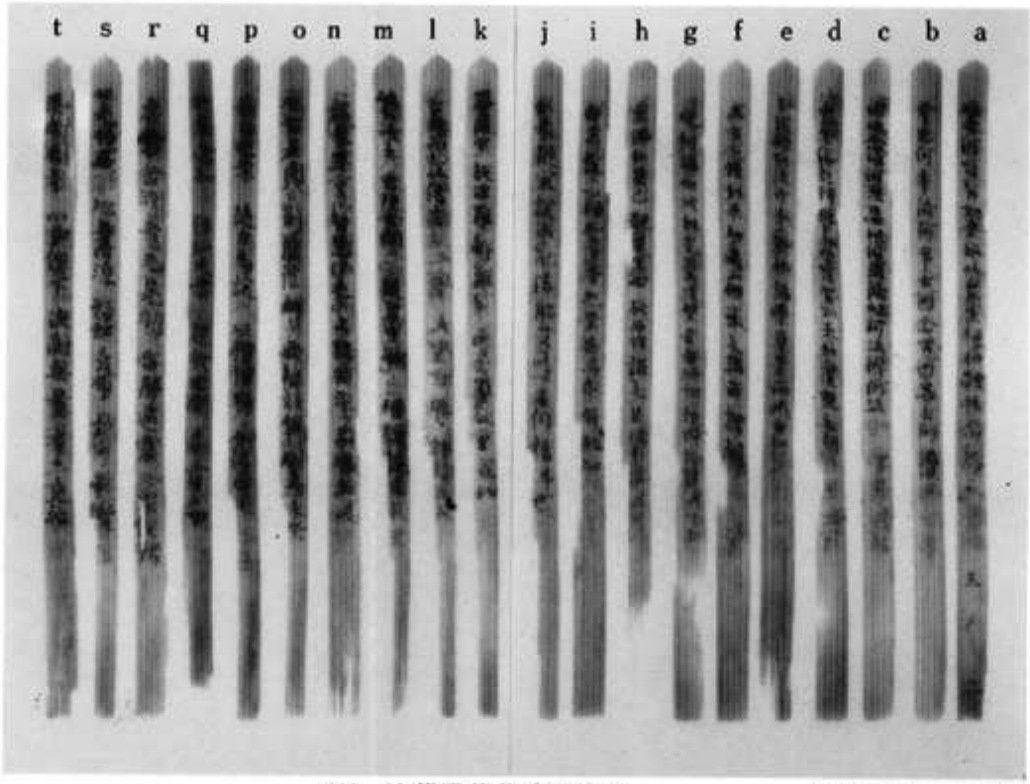
(2) 未 記 入　巻第二之十六（裏面）



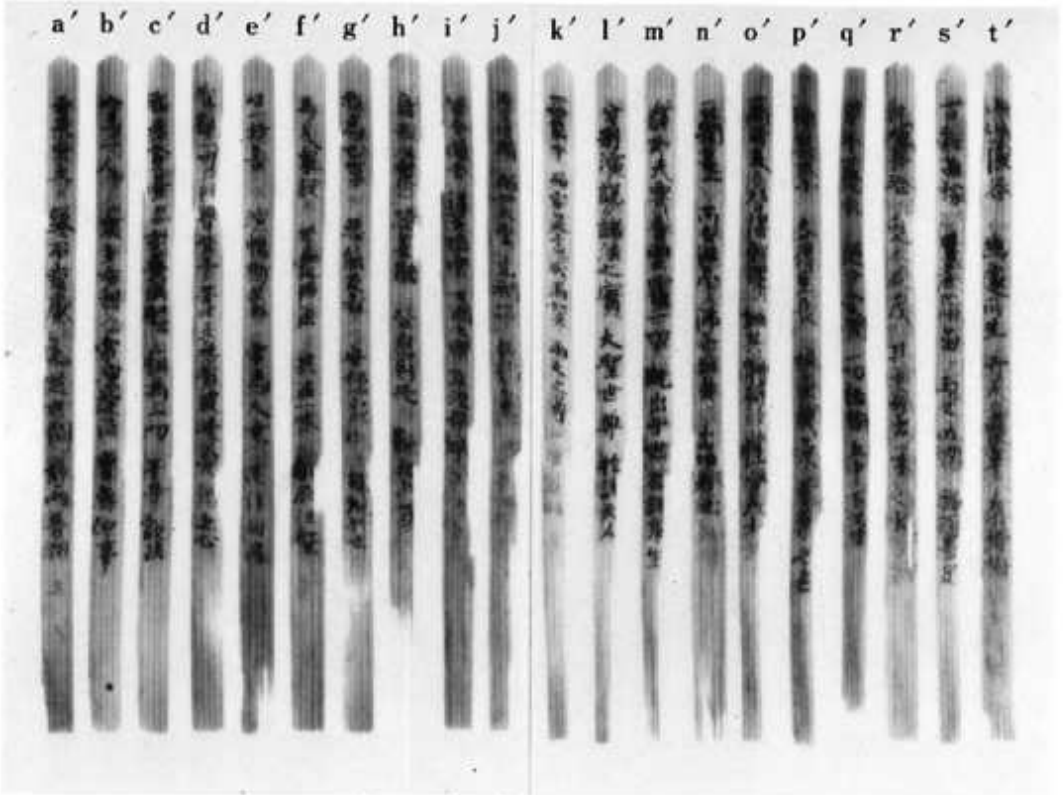
(1) 法華経薬草喩品第五　　巻第三之一（表面）



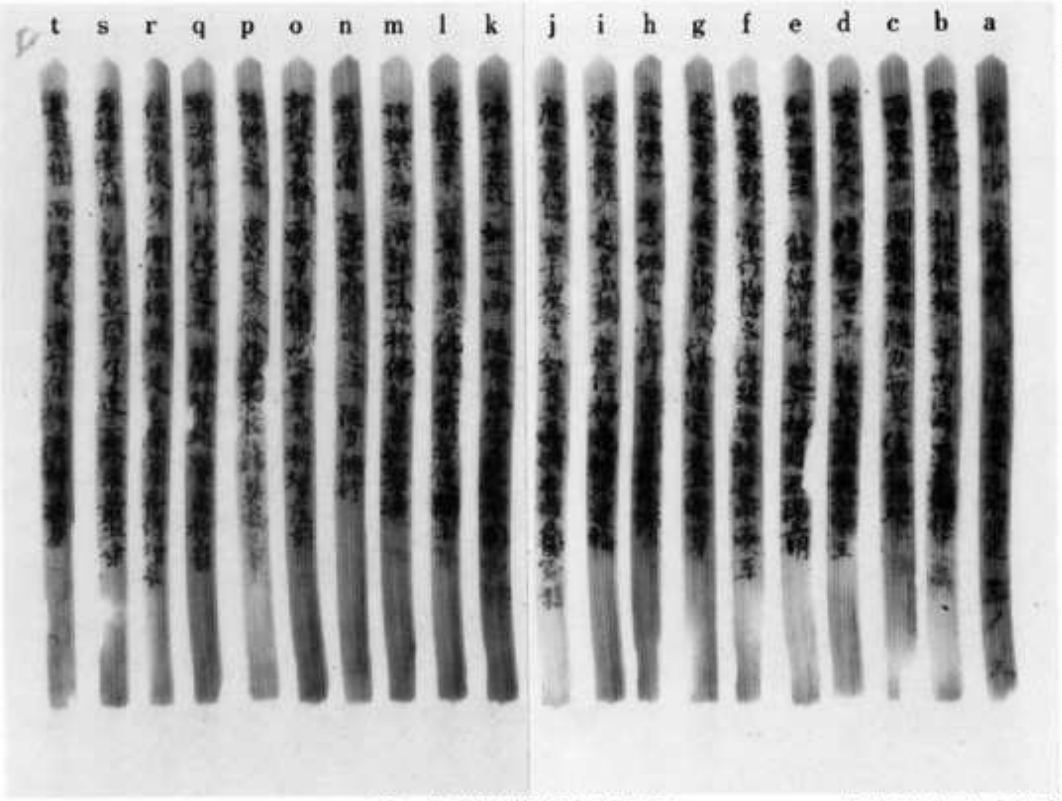
(2) 法華経薬草喩品第五　　巻第三之一（裏面）



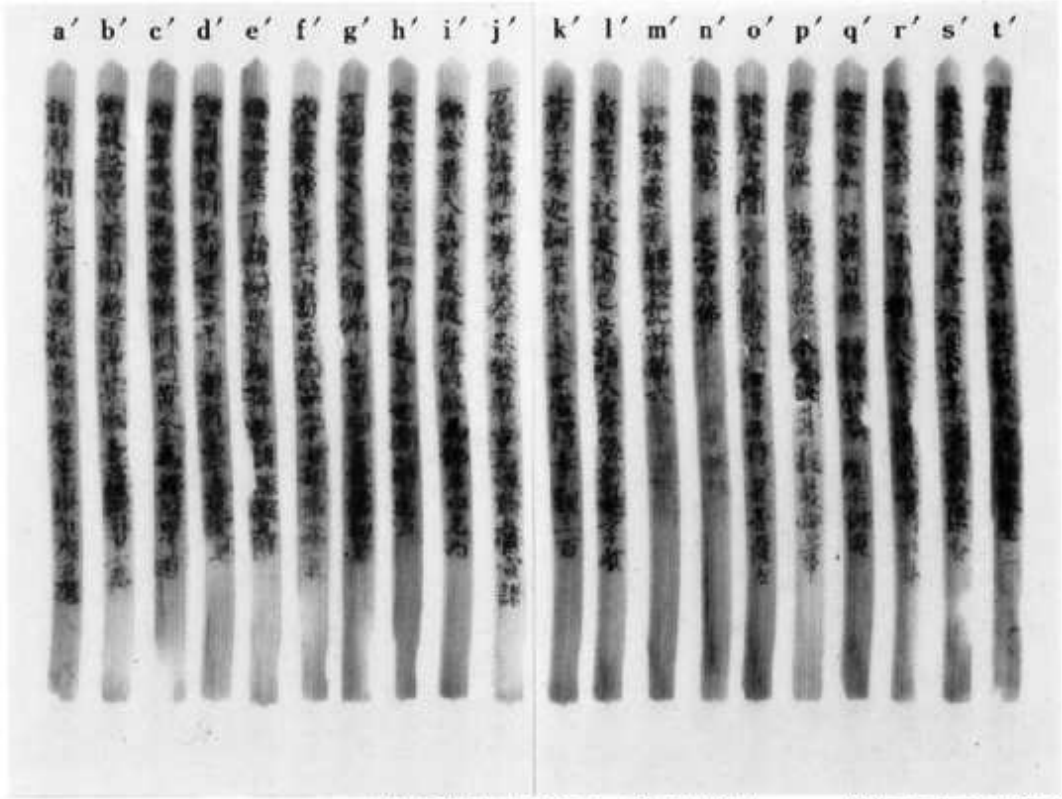
(1) 法華経薬草喩品第五　　巻第三之二（表面）



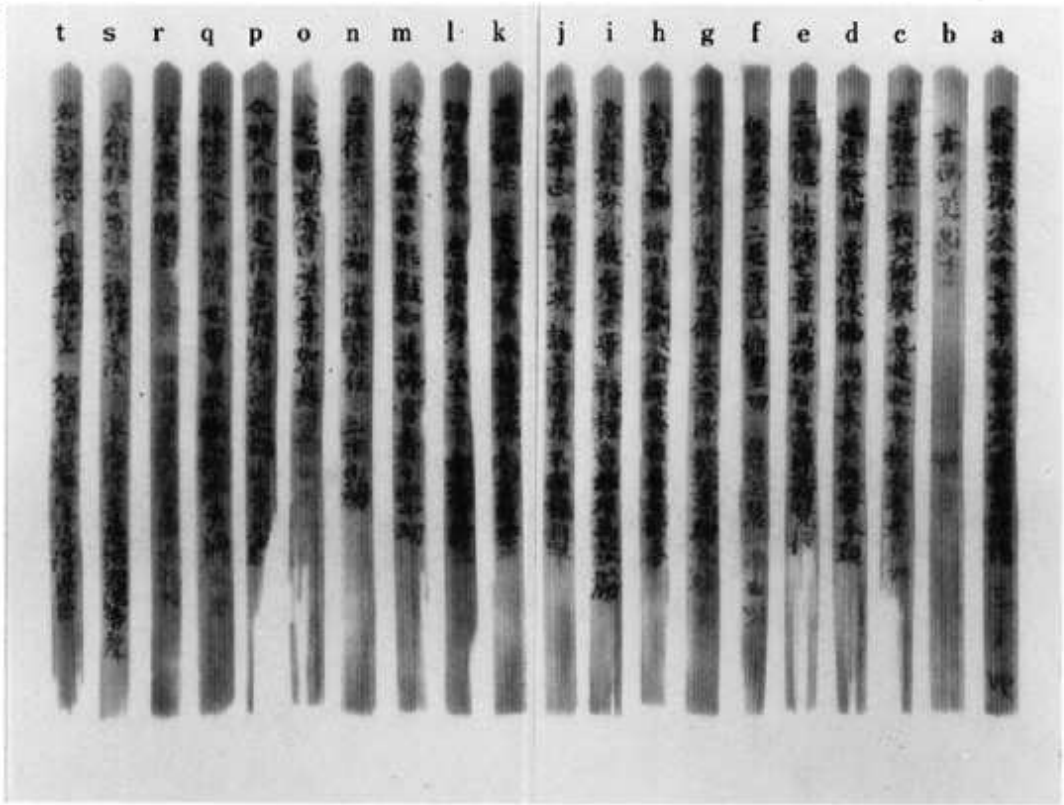
(2) 法華経薬草喩品第五　　巻第三之二（裏面）



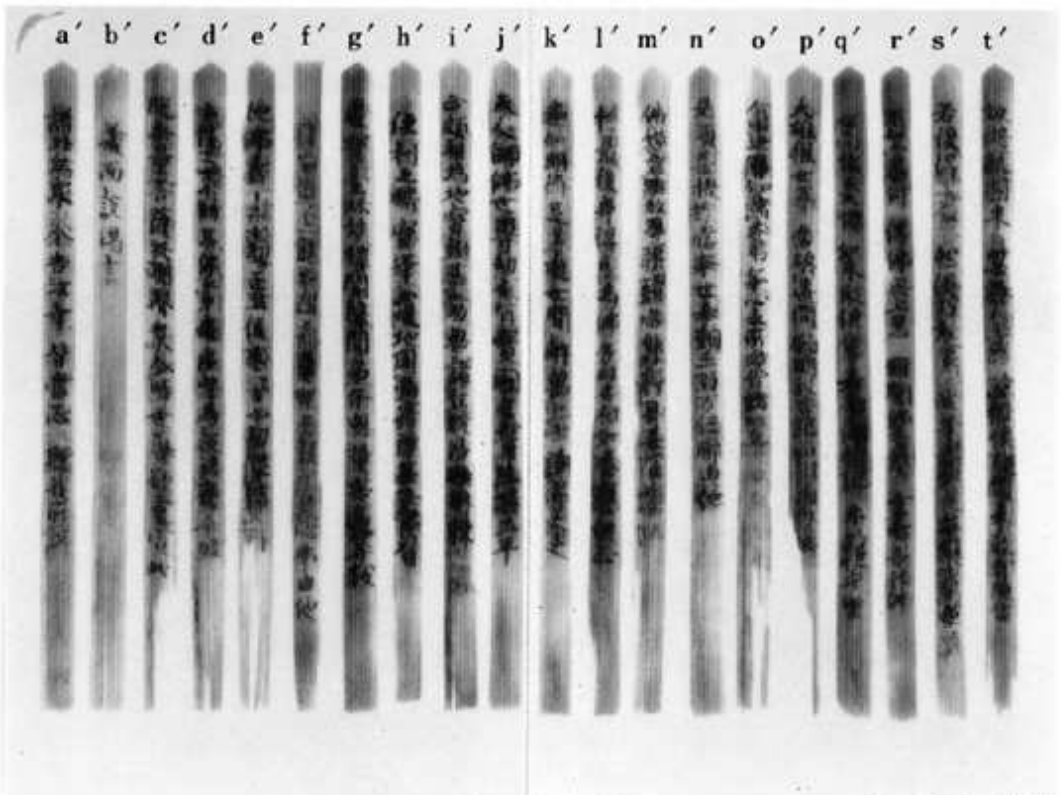
(1) 法華経薬草喩品第五　　巻第三之三（表面）



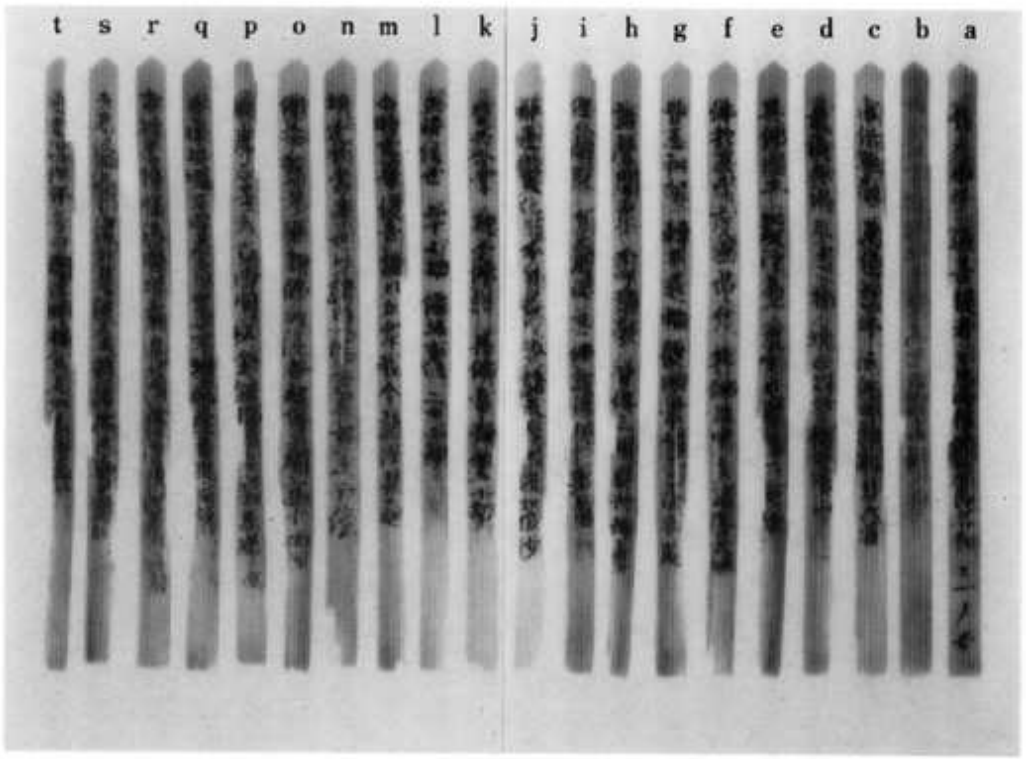
(2) 法華経薬草喩品第五，授記品第六　　巻第三之三（裏面）



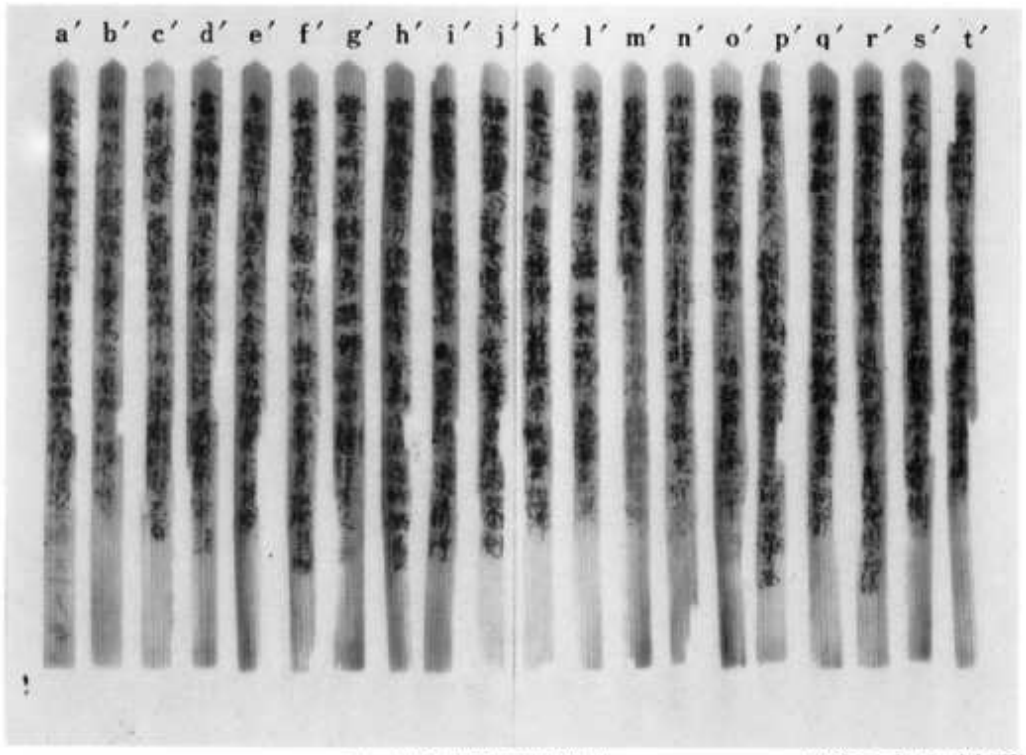
(1) 法華経授記品第六　　巻第三之四（表面）



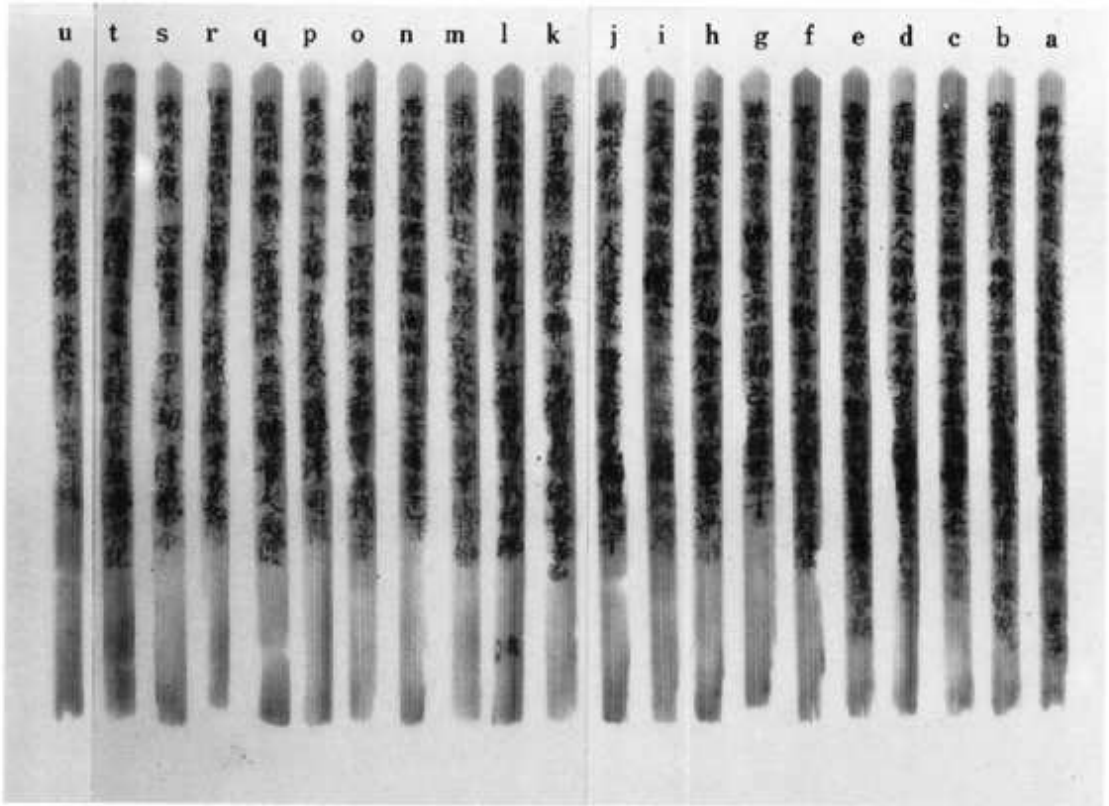
(2) 法華経授記品第六　　巻第三之四（裏面）



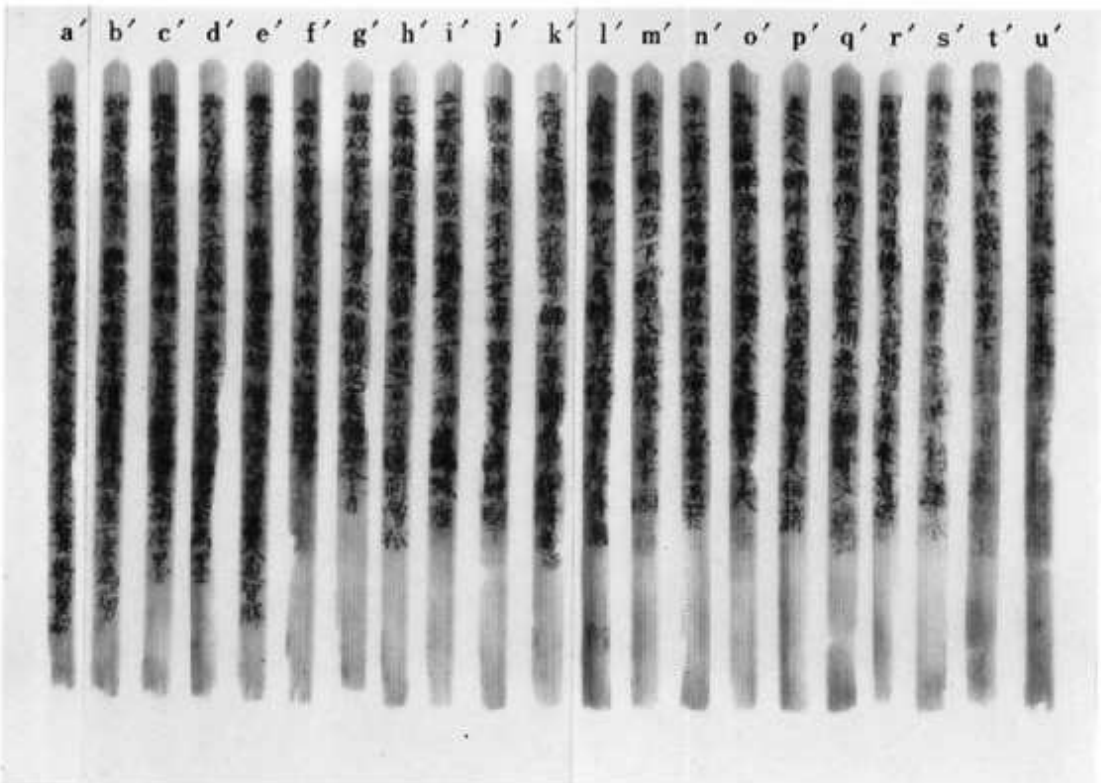
(1) 法華経授記品第六　　巻第三之五（表面）



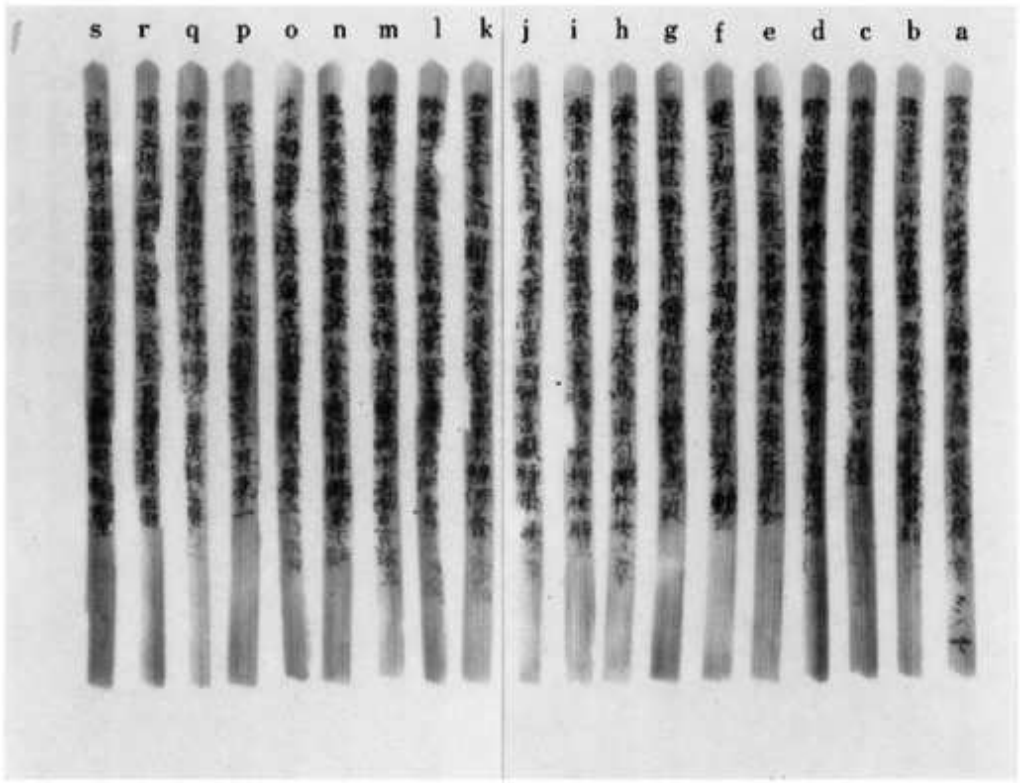
(2) 法華経授記品第六　　巻第三之五（裏面）



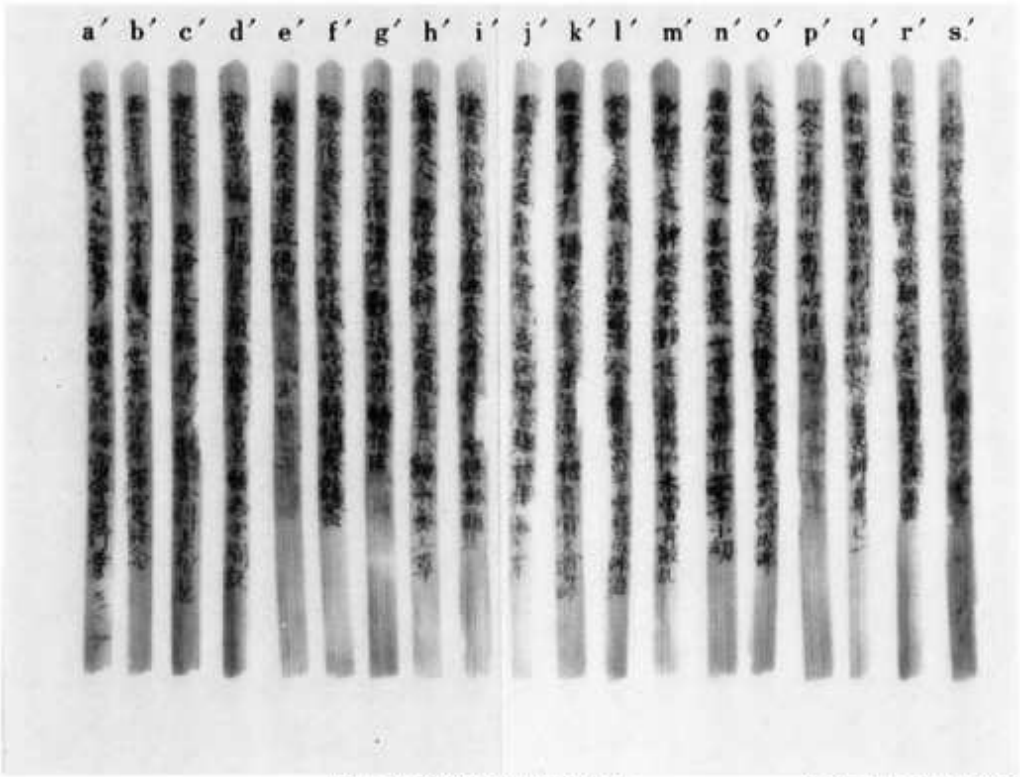
(1) 法華経授記品第六　　巻第三之六（表面）



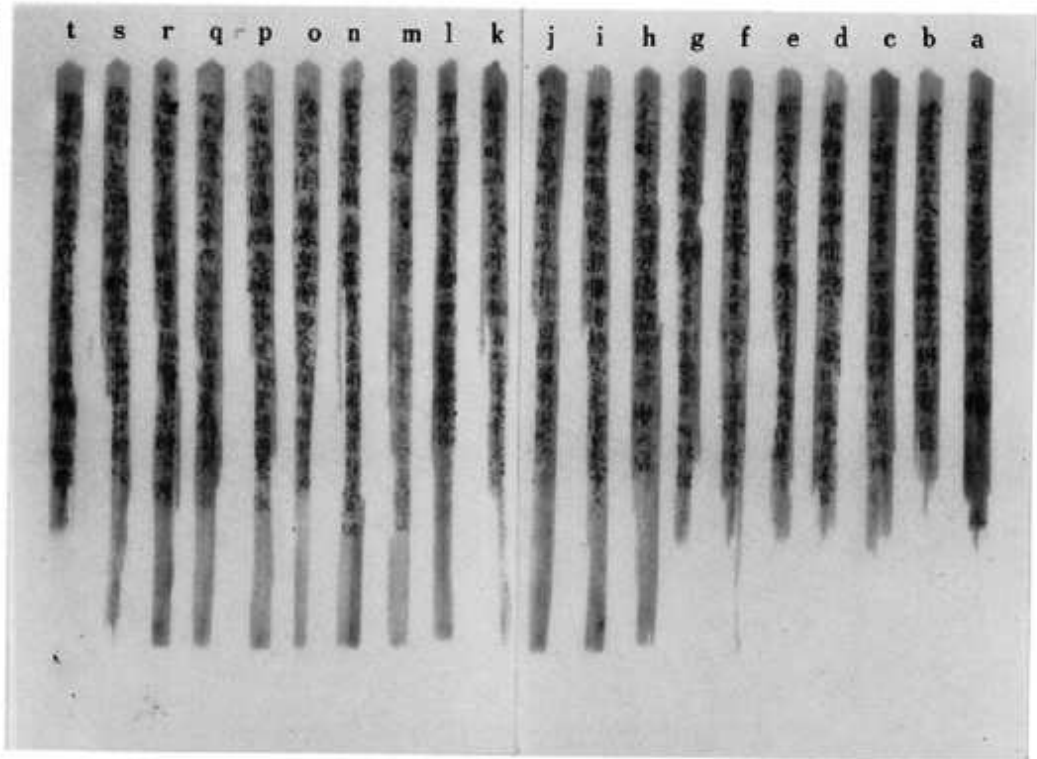
(2) 法華経授記品第六，化城喩品第七　　巻第三之六（裏面）



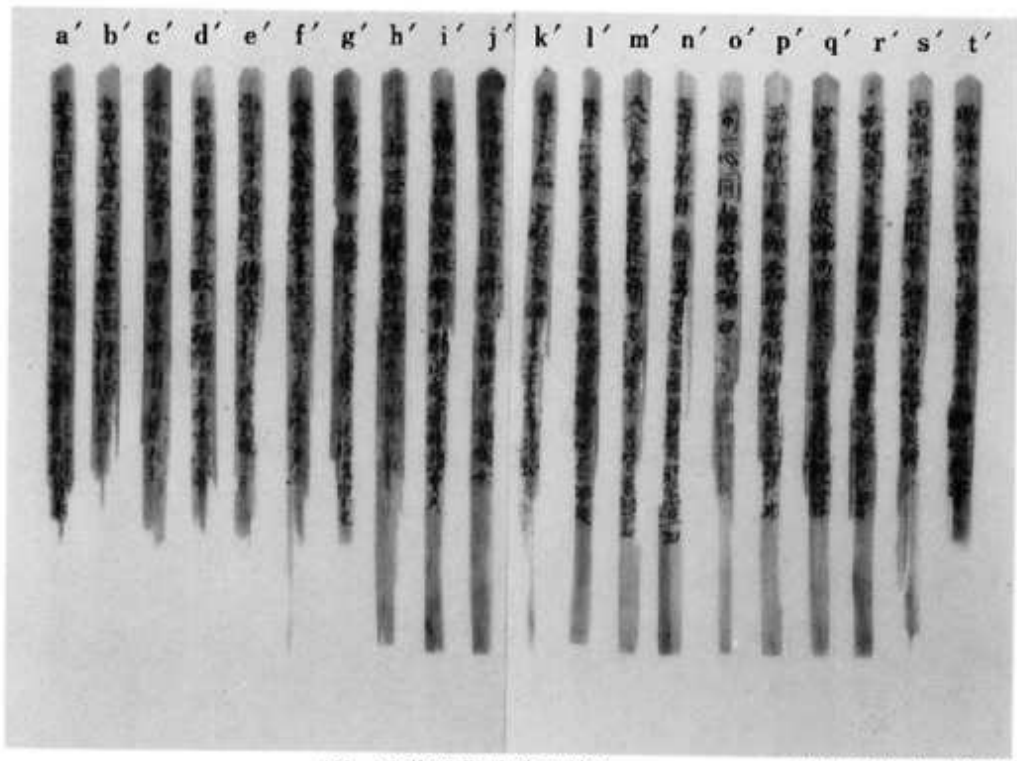
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之七（表面）



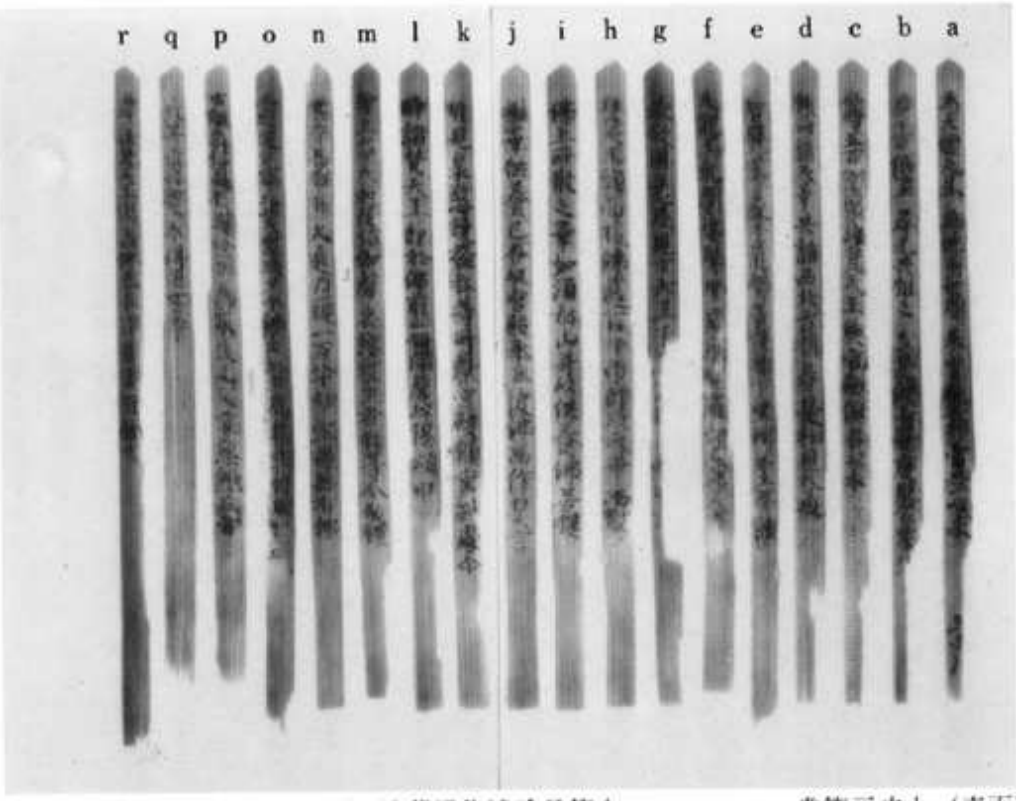
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之七（裏面）



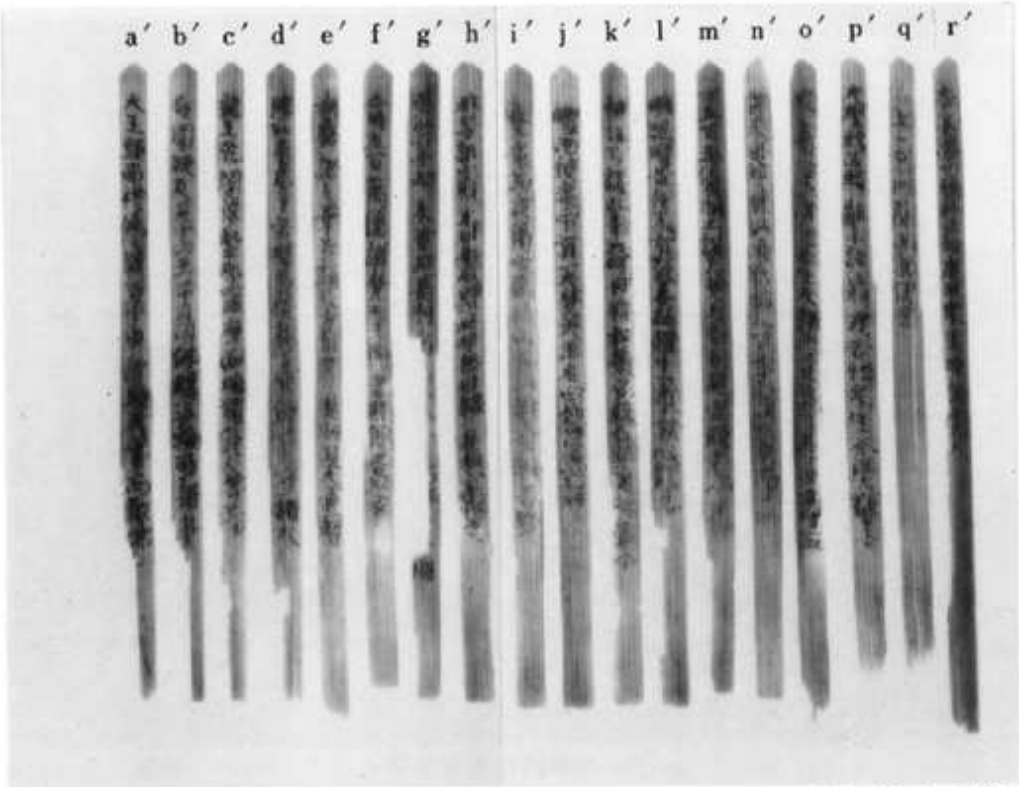
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之八（表面）



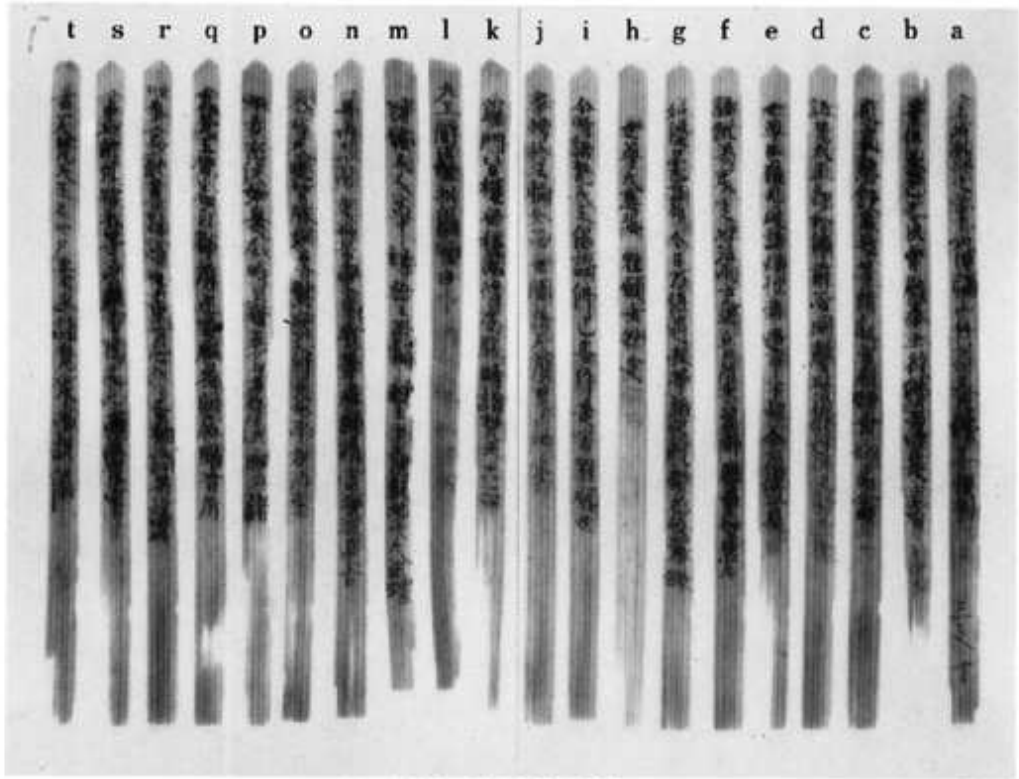
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之八（裏面）



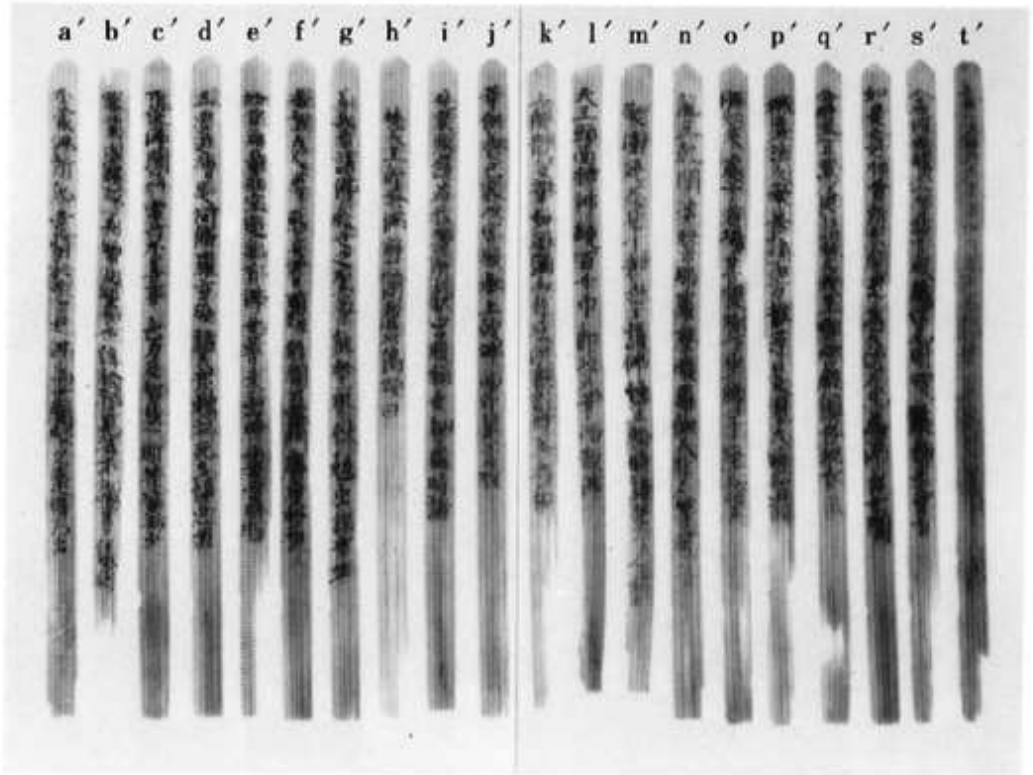
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之九（表面）



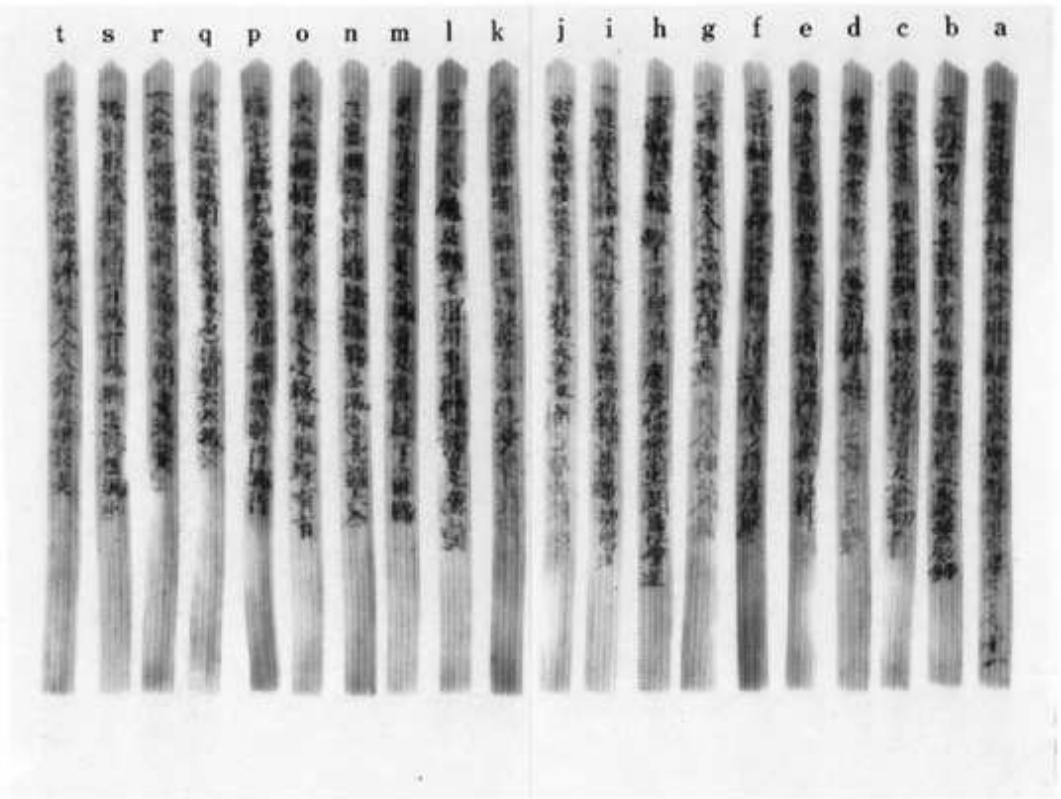
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之九（裏面）



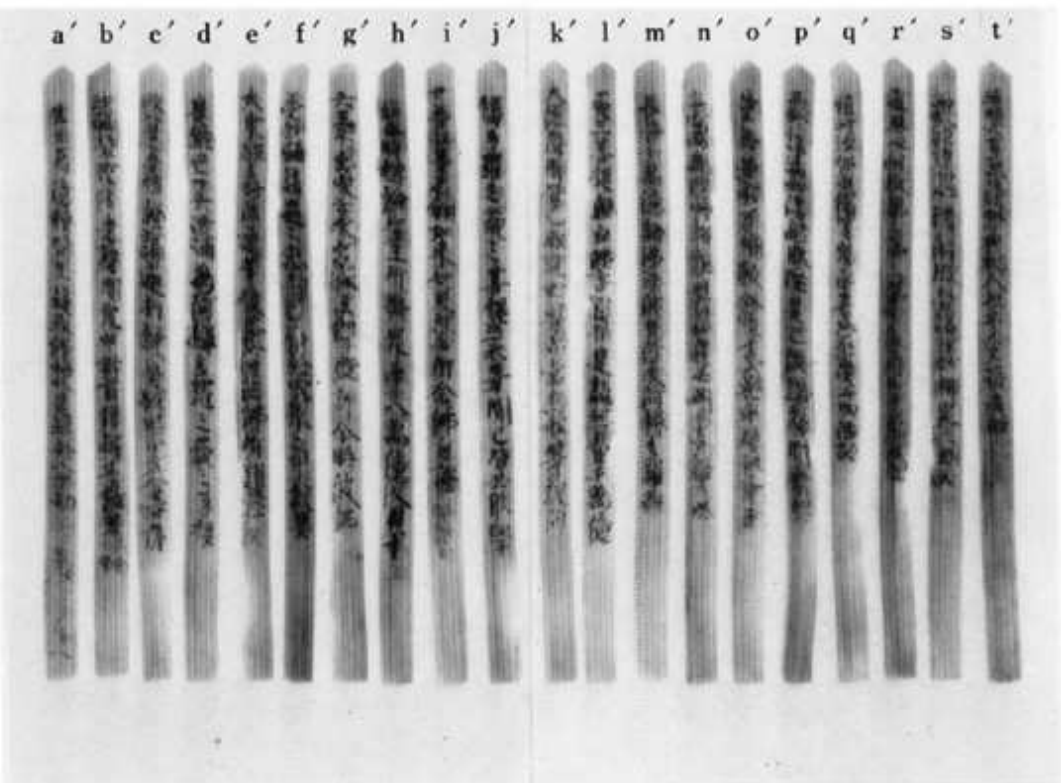
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十（表面）



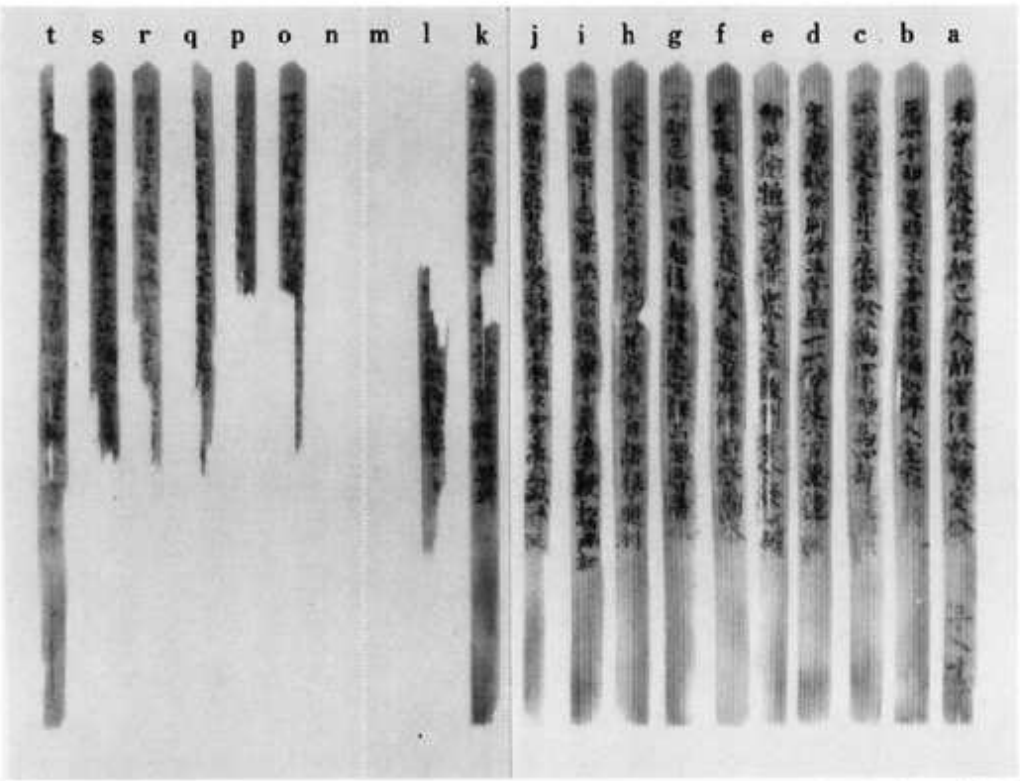
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十（裏面）



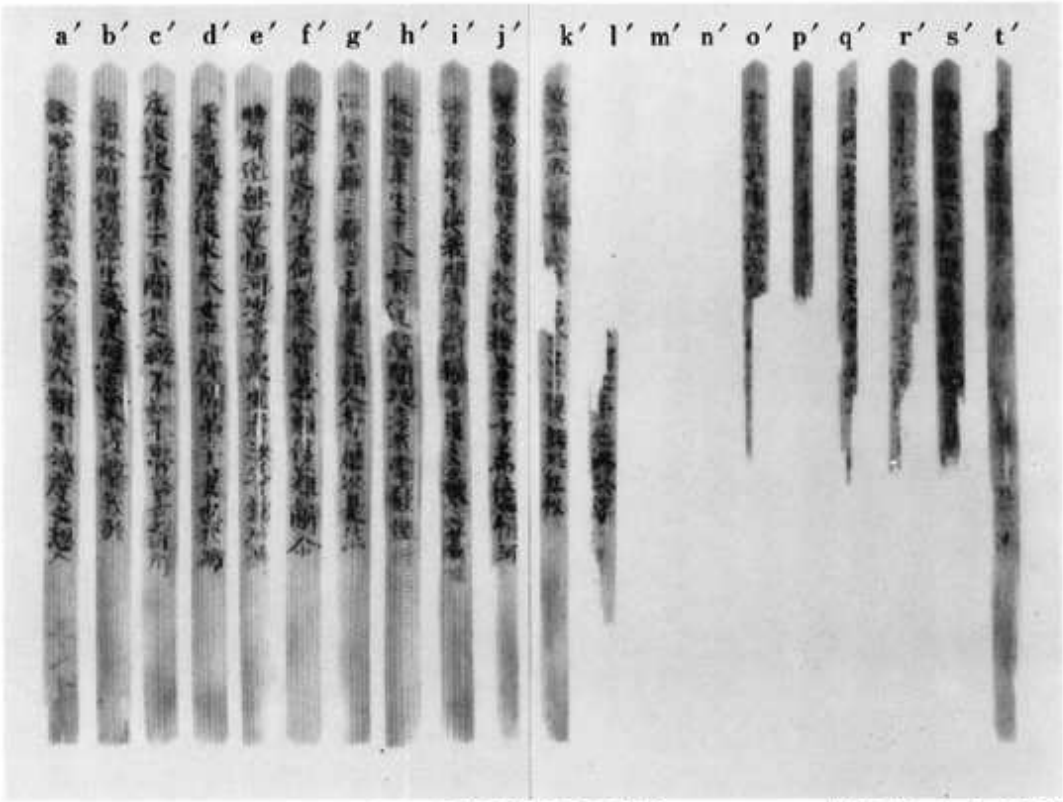
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十一（表面）



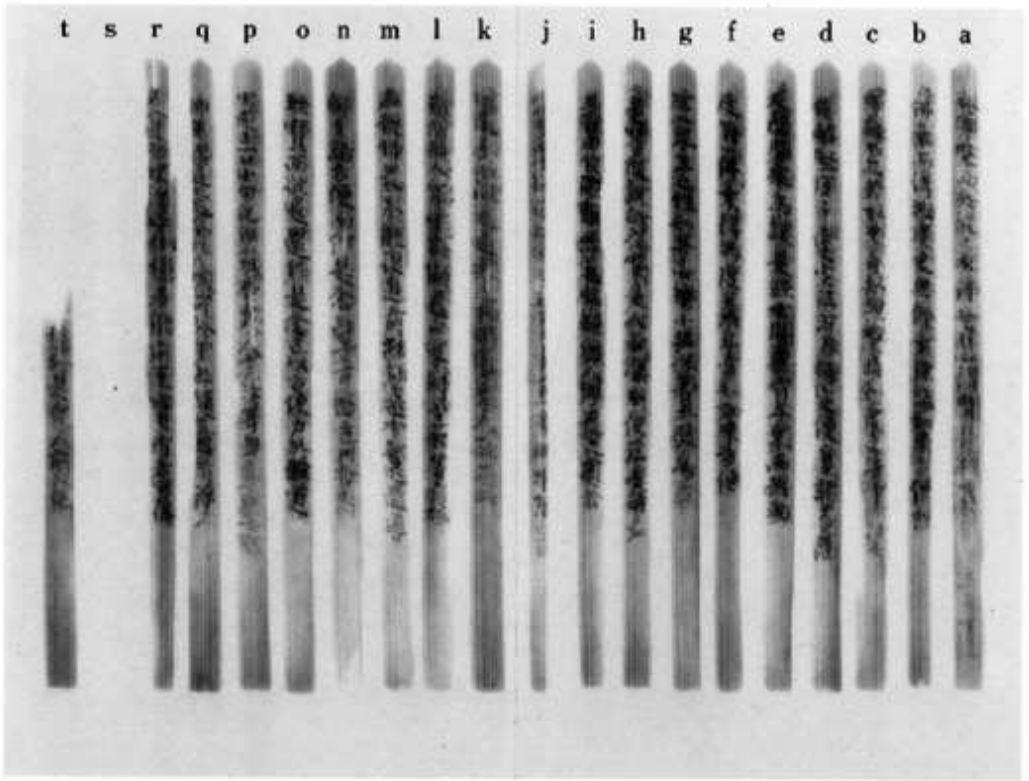
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十一（裏面）



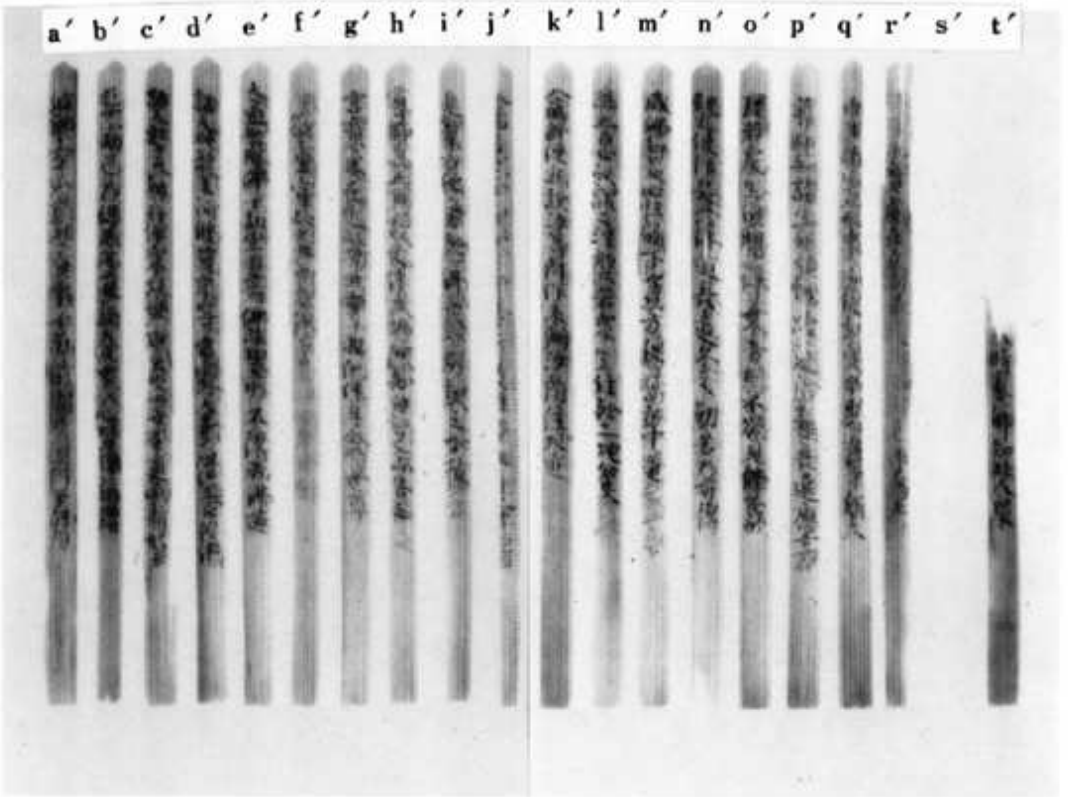
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十二（表面）



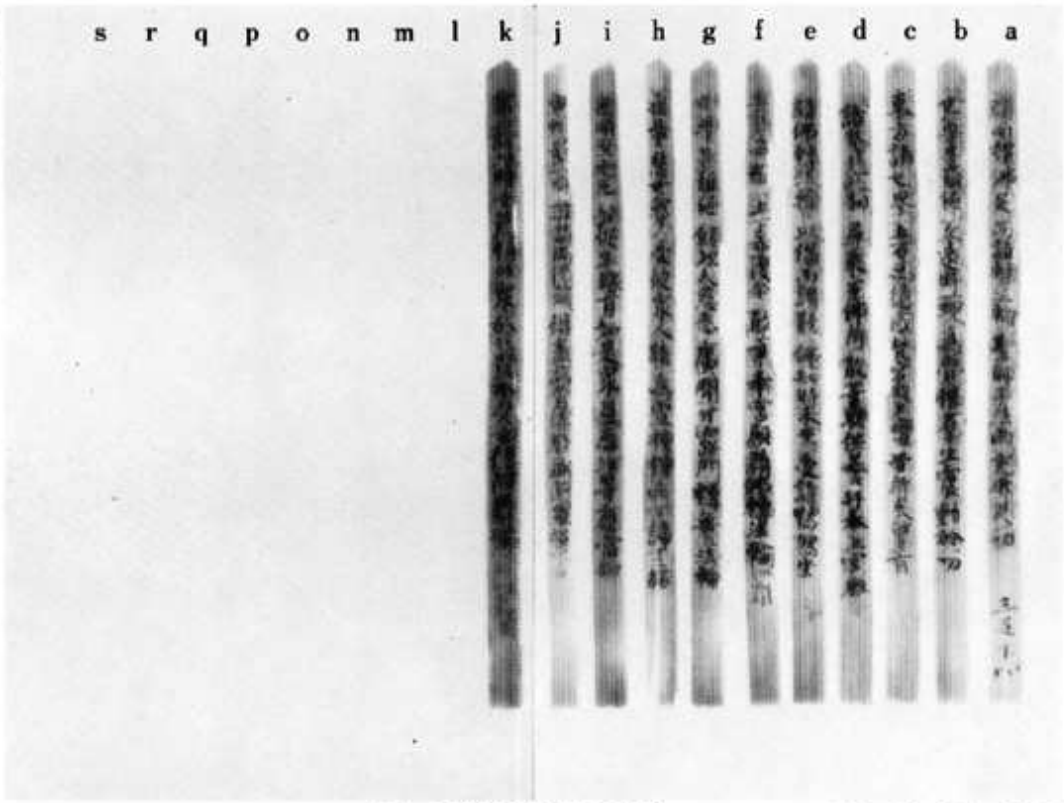
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十二（裏面）



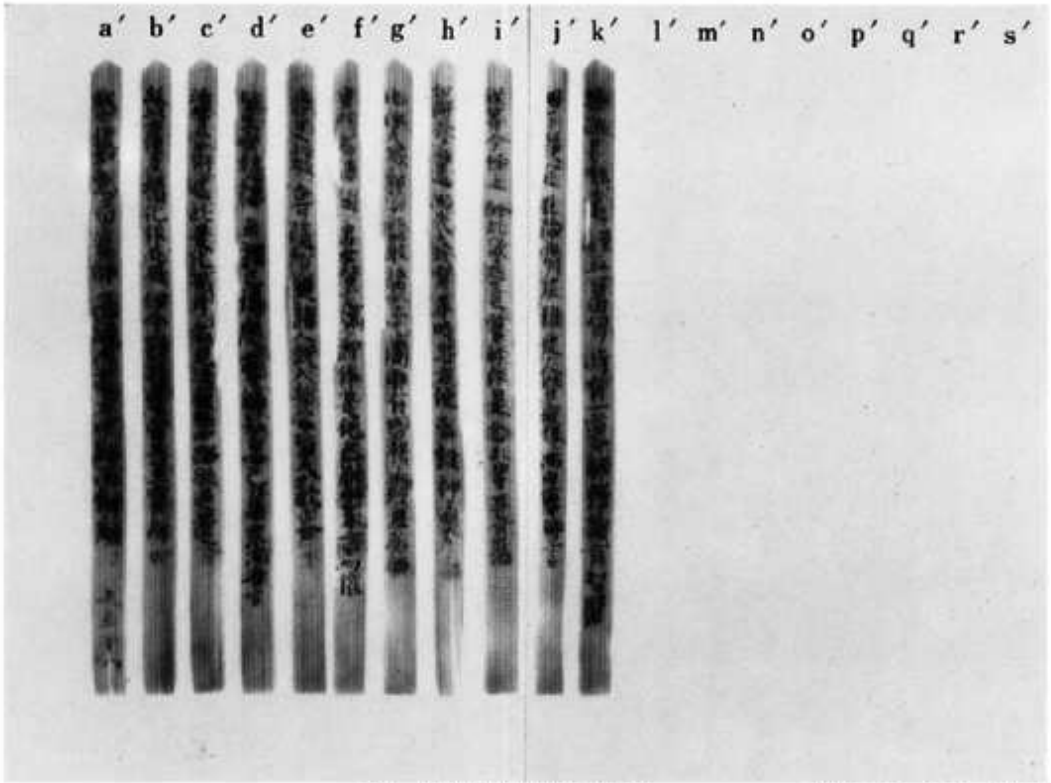
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十三（表面）



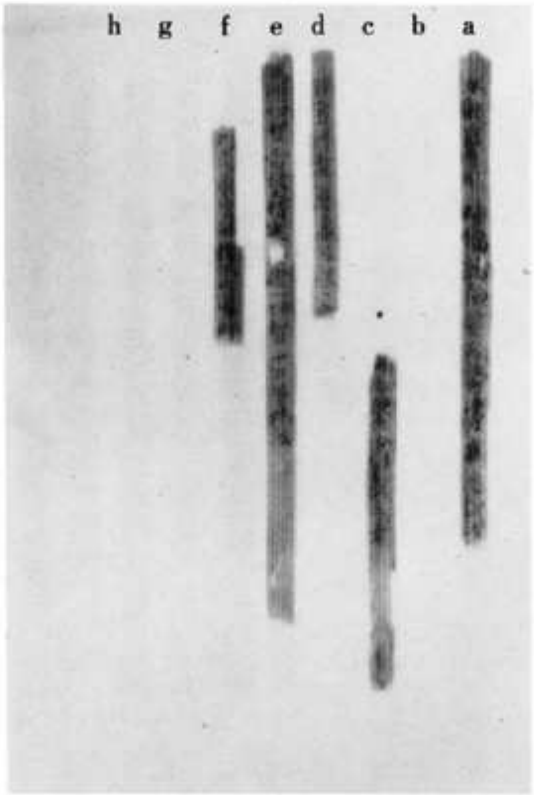
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十三（裏面）



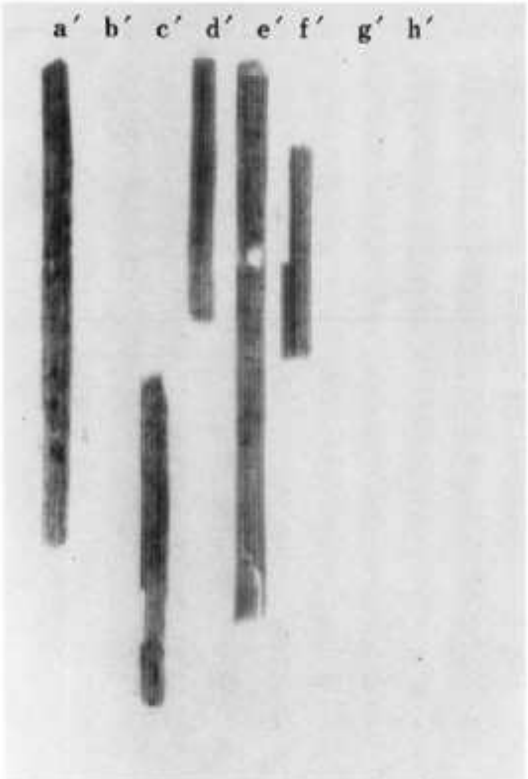
(1) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十四（表面）



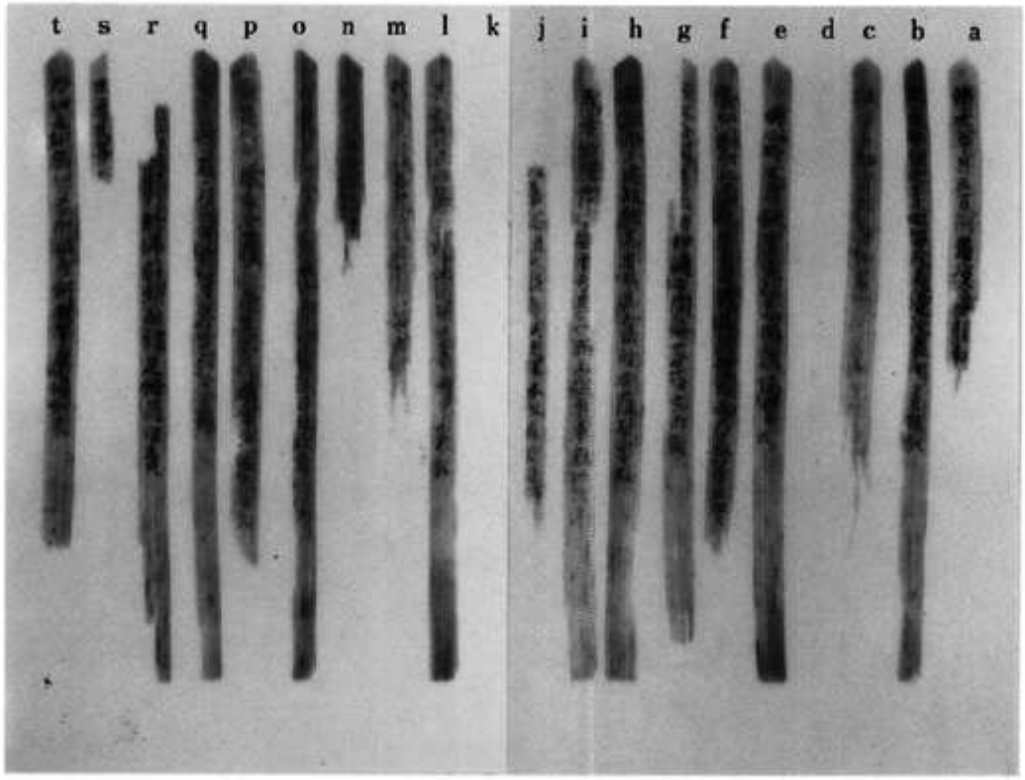
(2) 法華経化城喩品第七　　巻第三之十四（裏面）



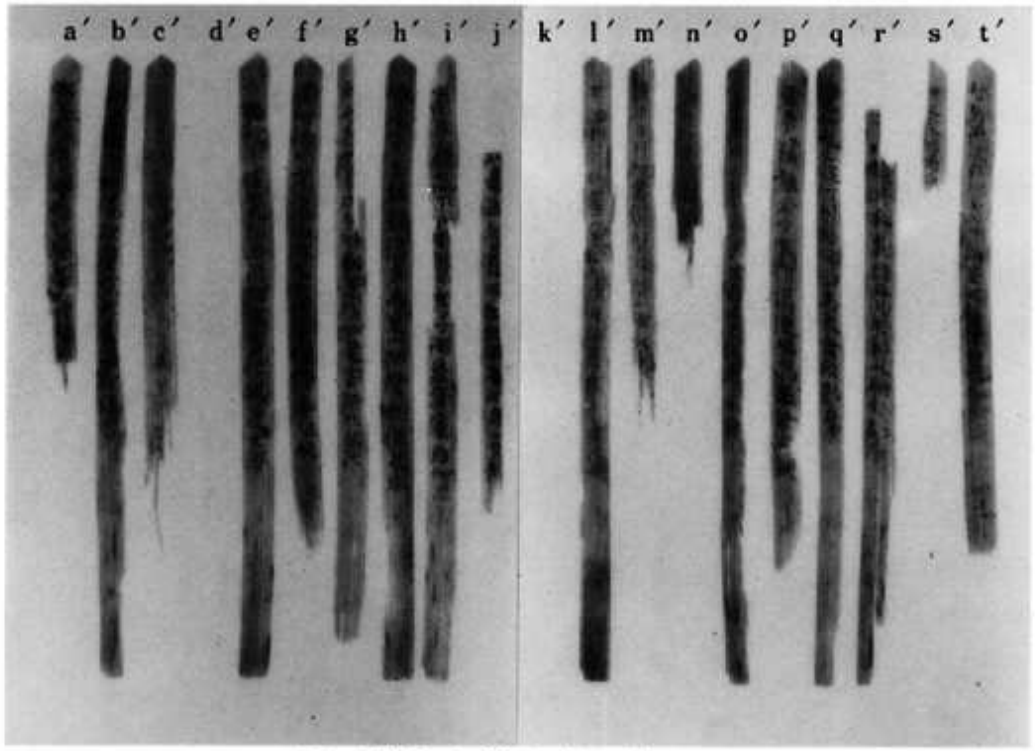
(1) 法華経化城喩品第七　巻第三之十五（表面）



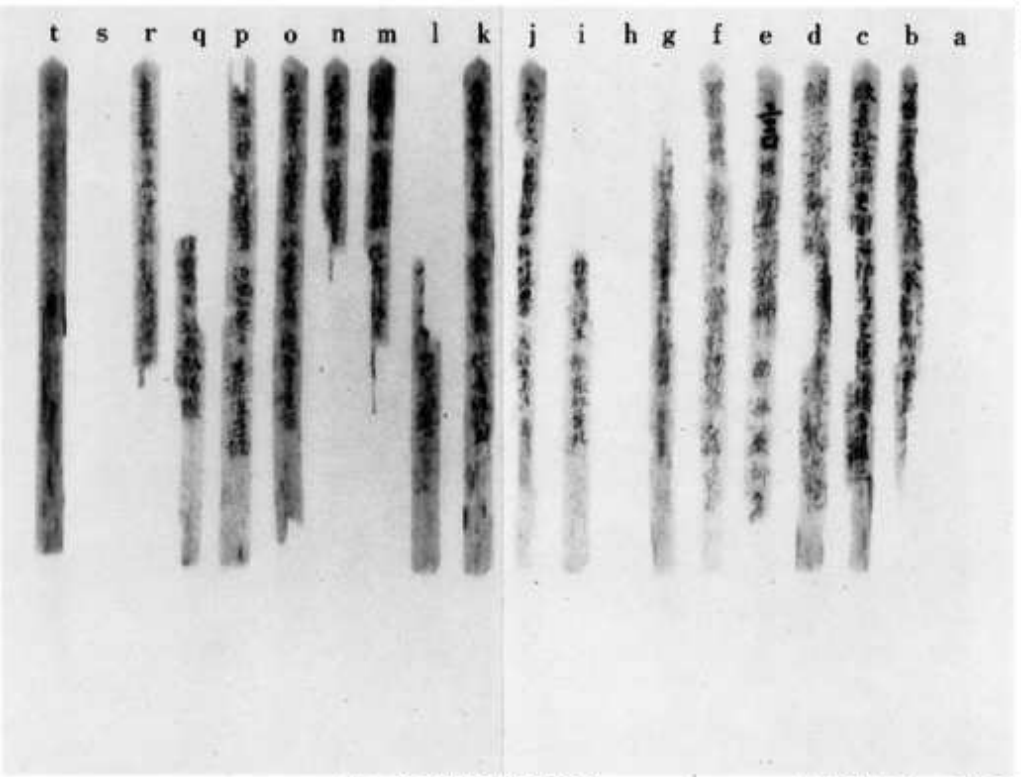
(2) 未　記　入　　巻第三之十五（裏面）



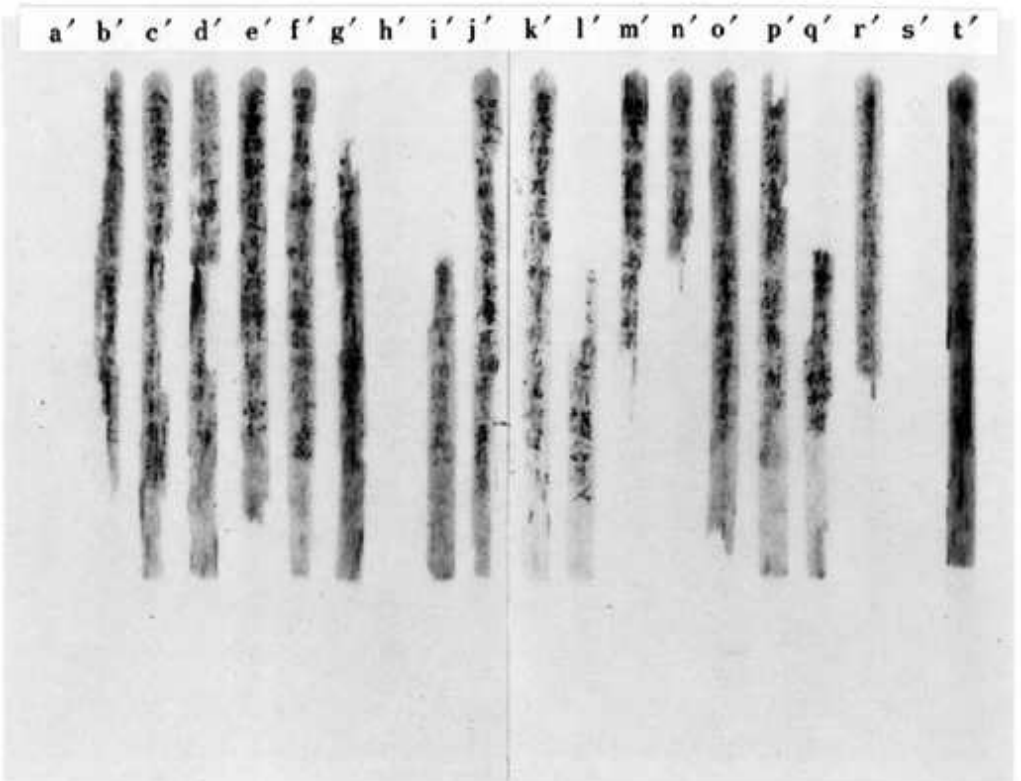
(1) 法華経五百弟子受記品第八　　巻第四之三（表面）



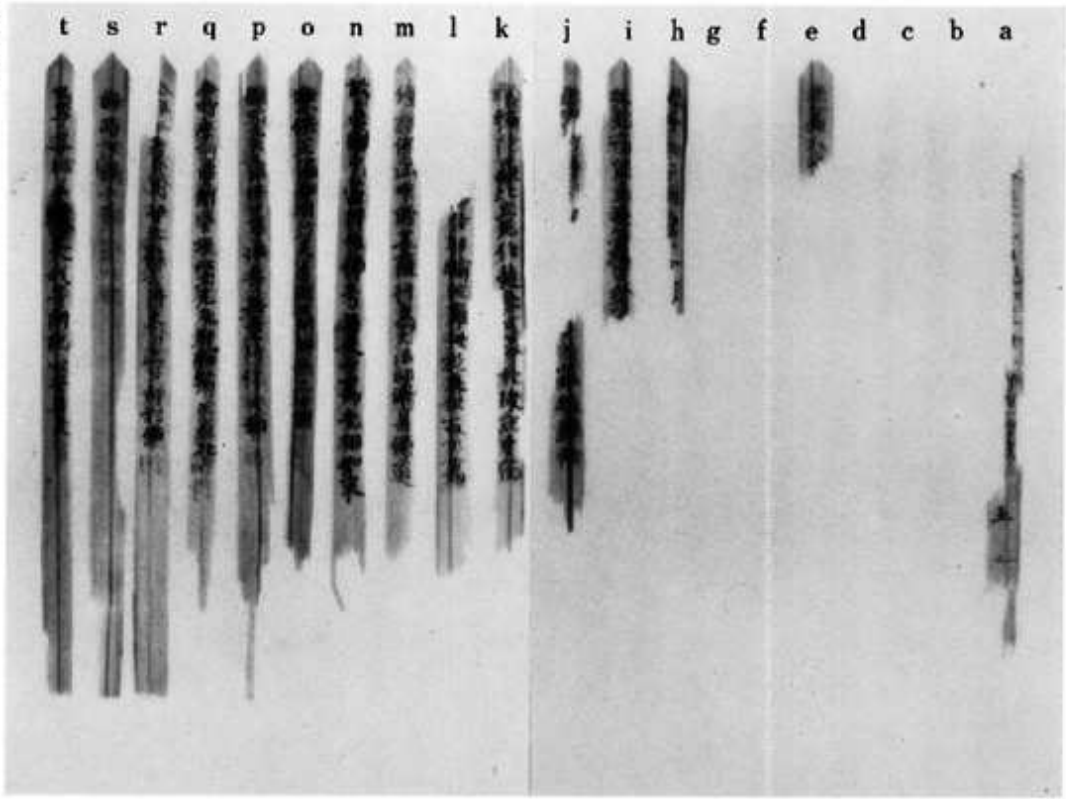
(2) 法華経五百弟子受記品第八　　巻第四之三（裏面）



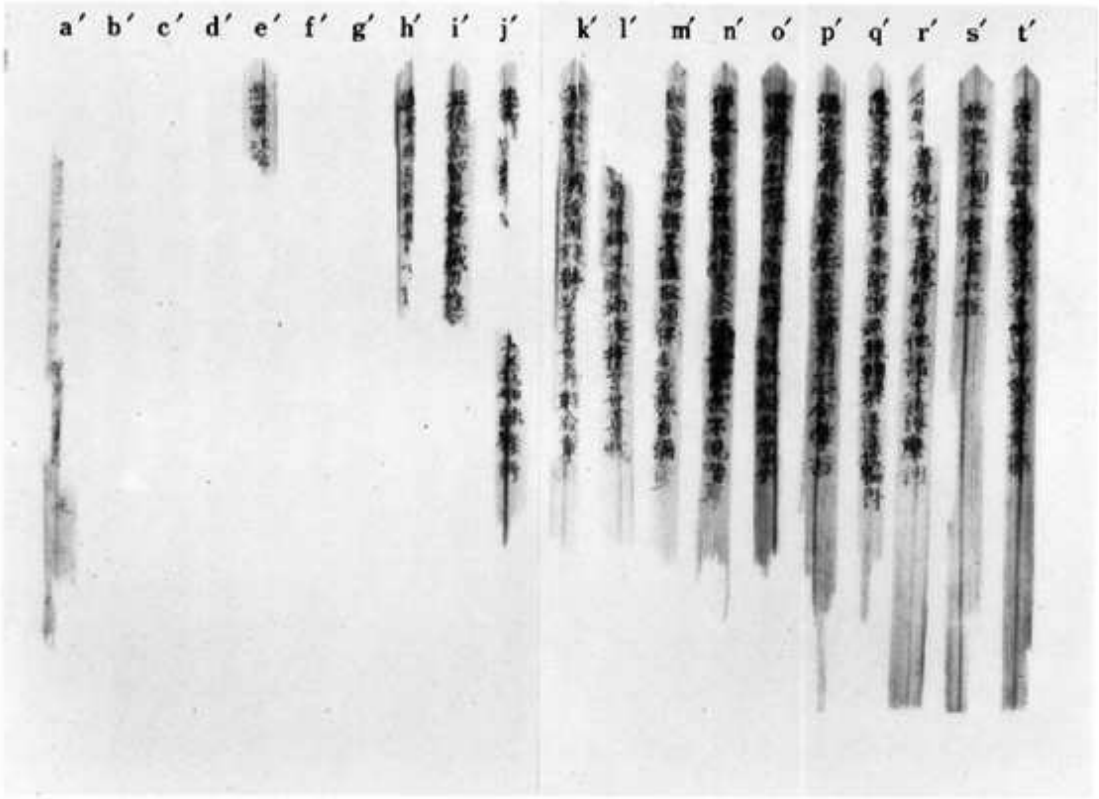
(1) 法華経法師品第十　　巻第四之七（表面）



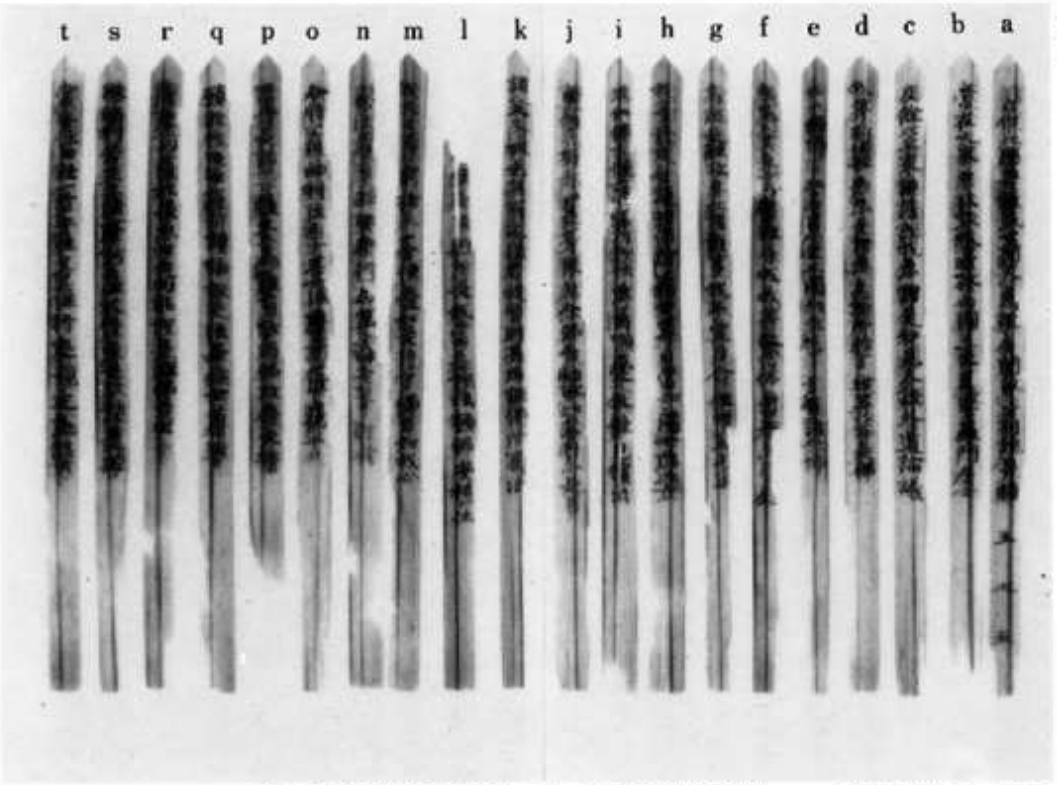
(2) 法華経法師品第十　　巻第四之七（裏面）



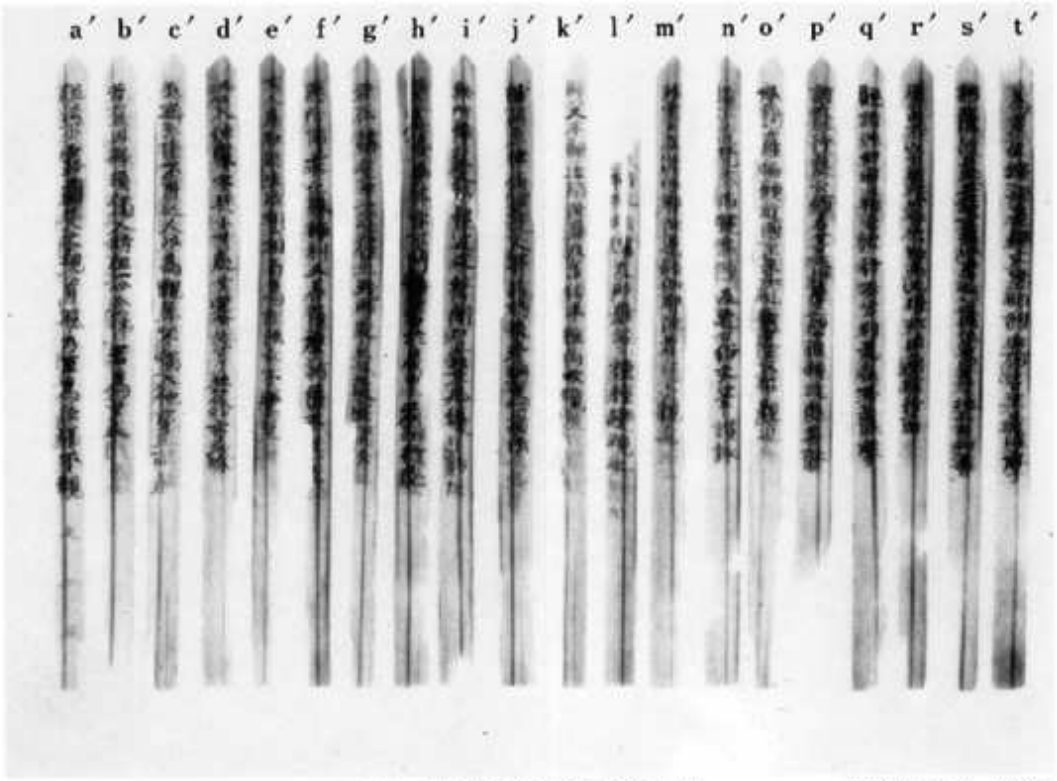
(1) 法華経勧持品第十三　　巻第五之四（表面）



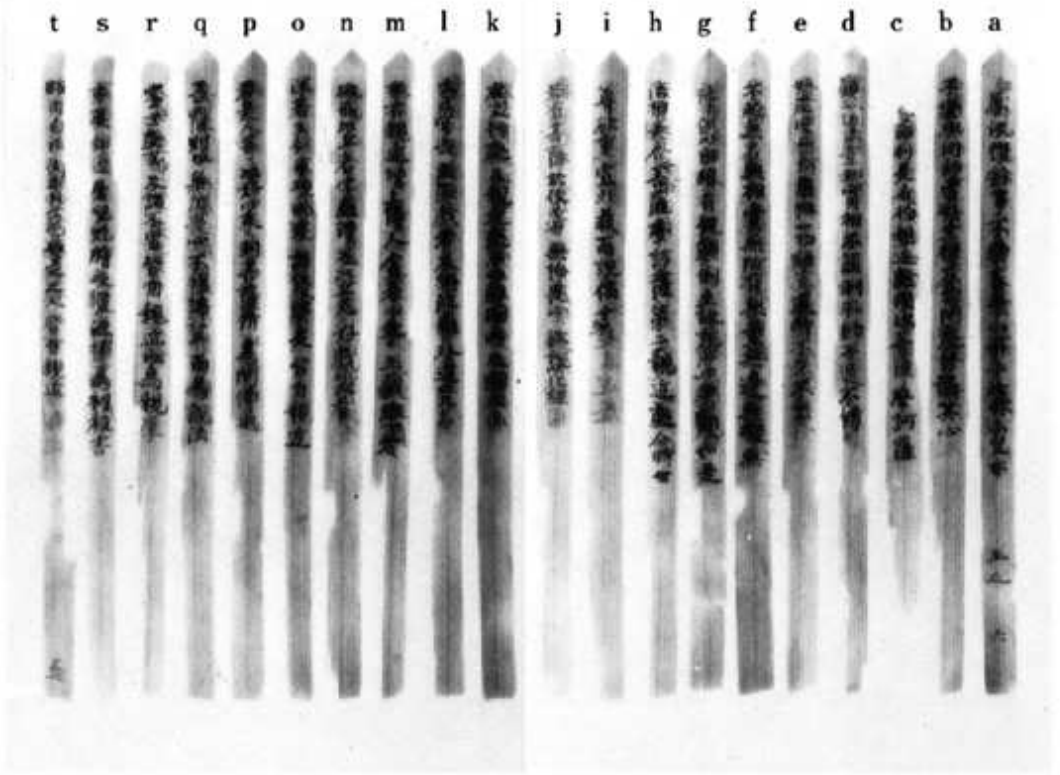
(2) 法華経勧持品第十三　　巻第五之四（裏面）



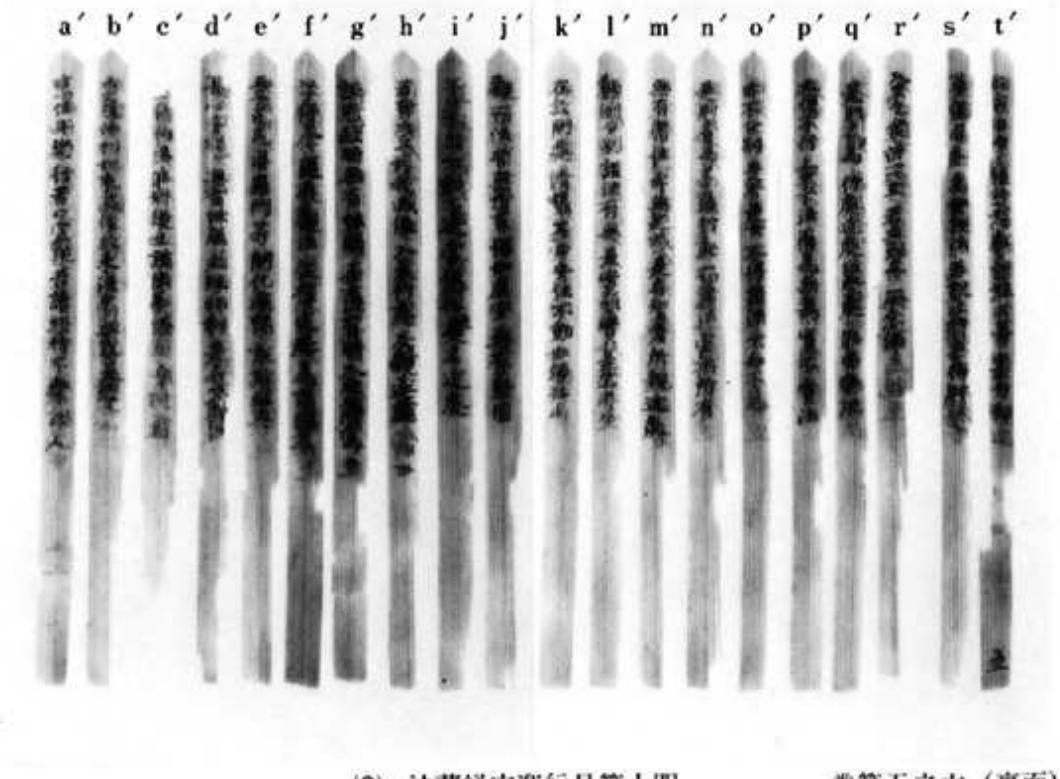
(1) 法華経勧持品第十三，安楽行品第十四　　巻第五之五（表面）



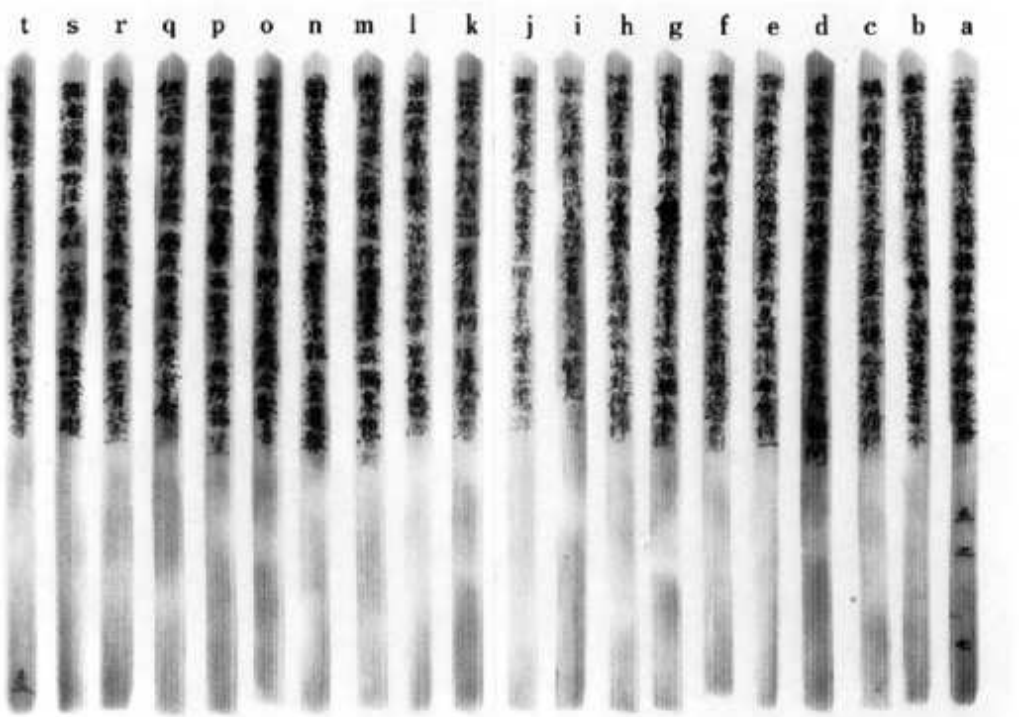
(2) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之五（裏面）



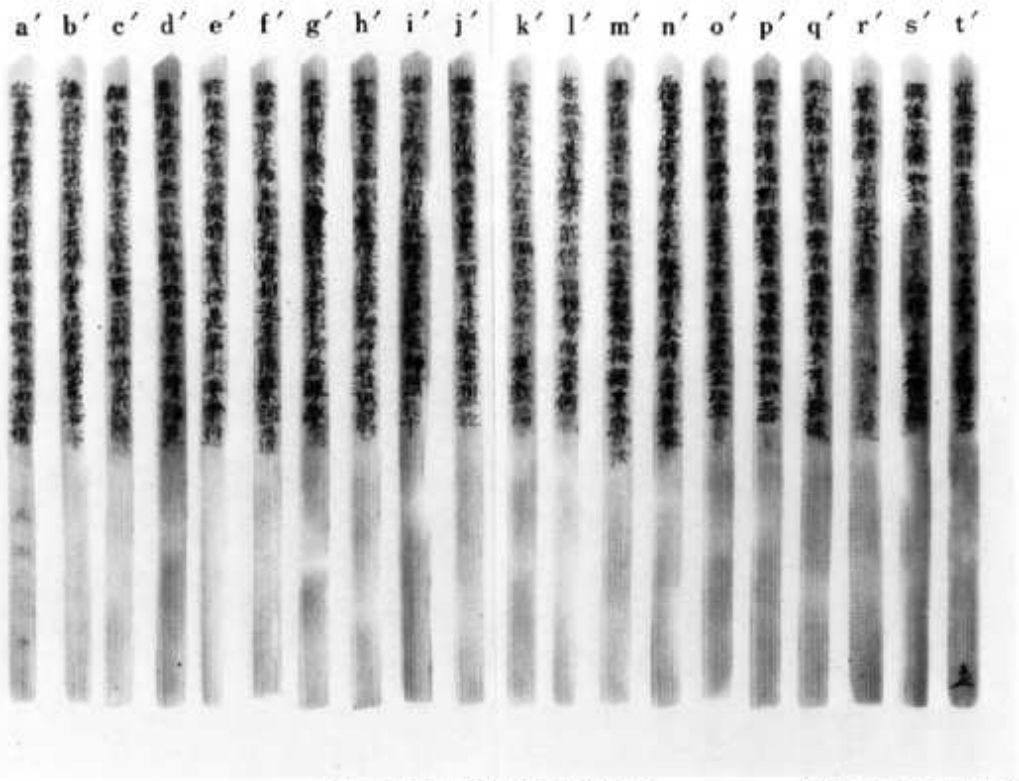
(1) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之六（表面）



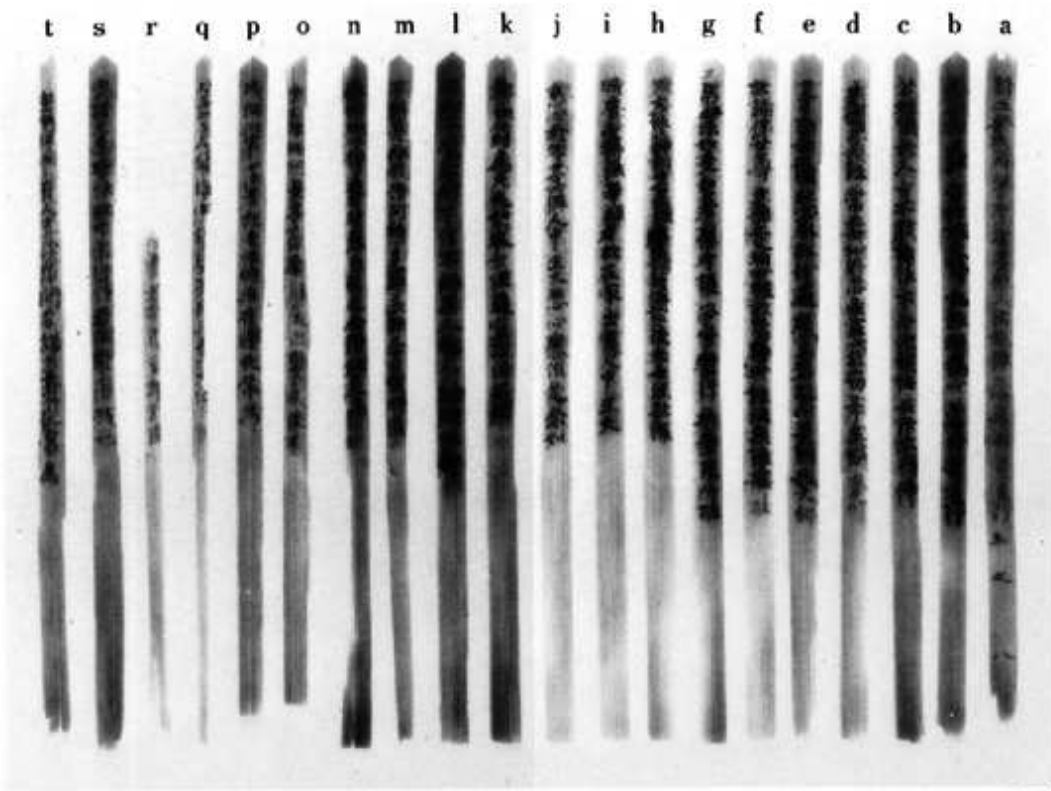
(2) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之六（裏面）



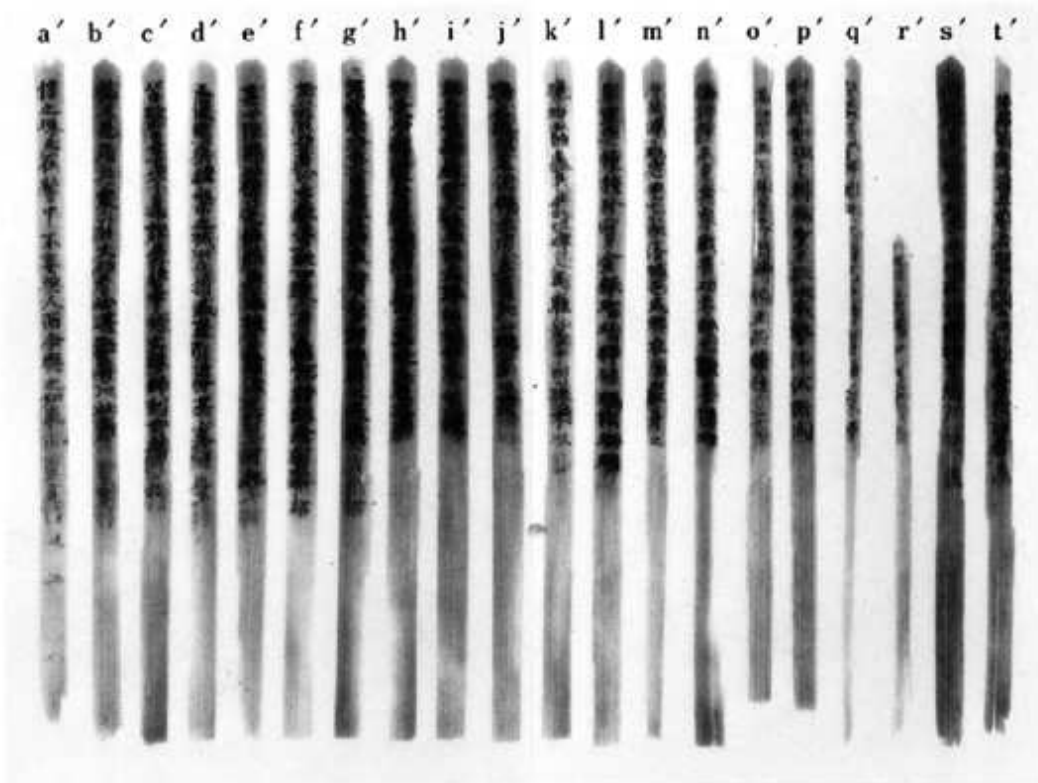
(1) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之七（表面）



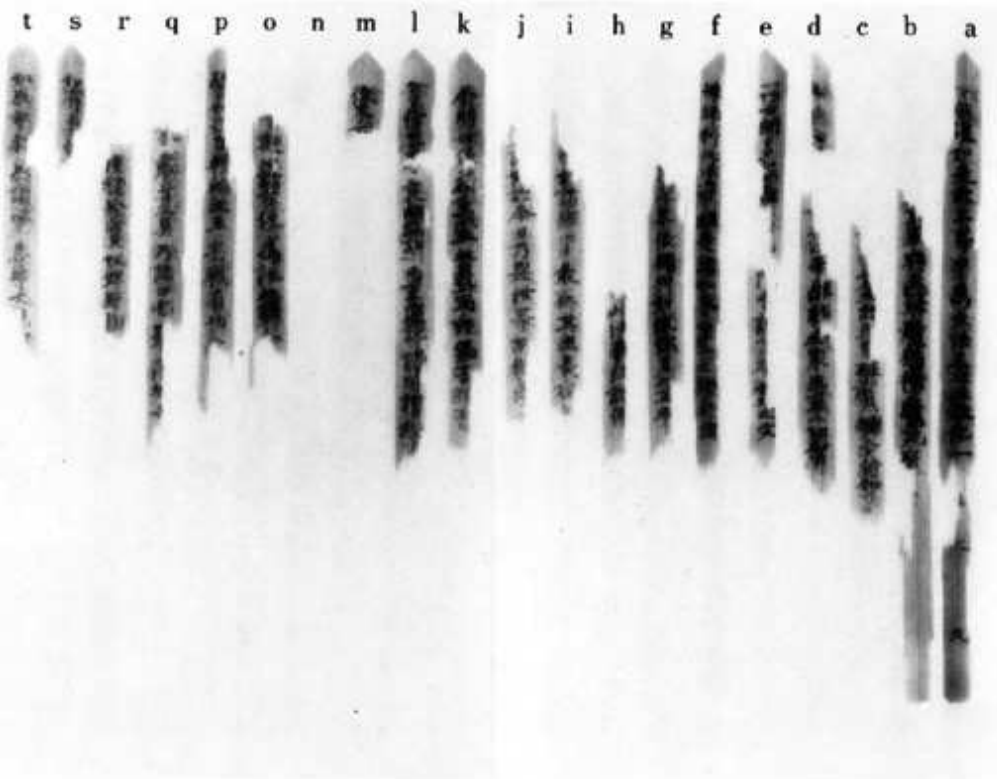
(2) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之七（裏面）



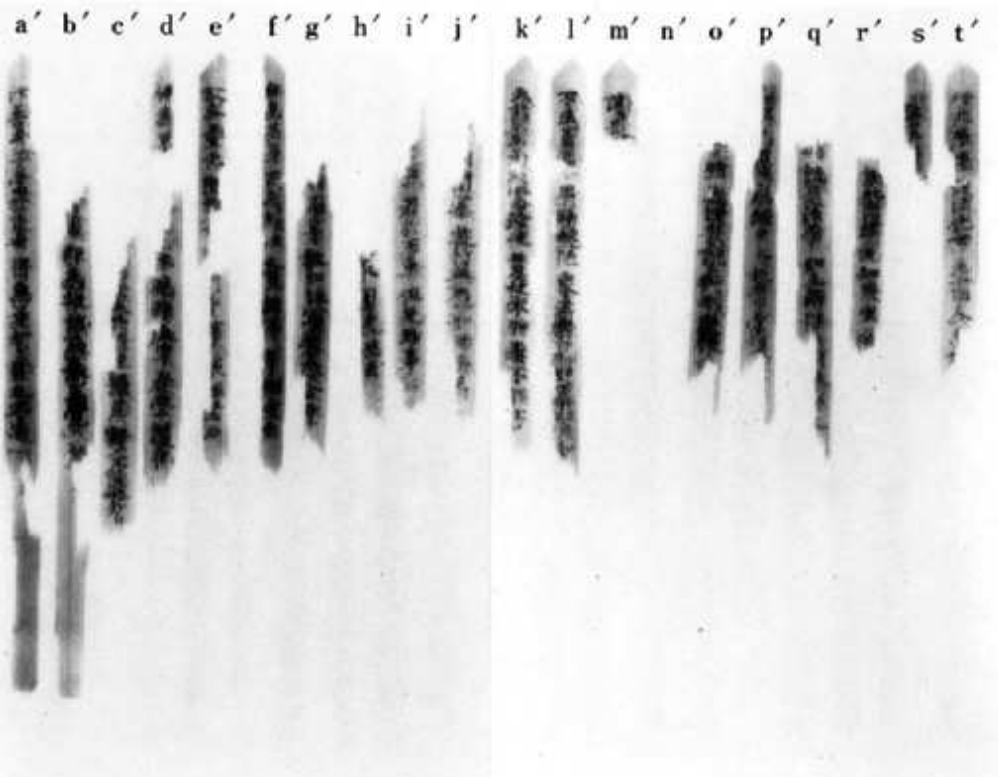
(1) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之八（表面）



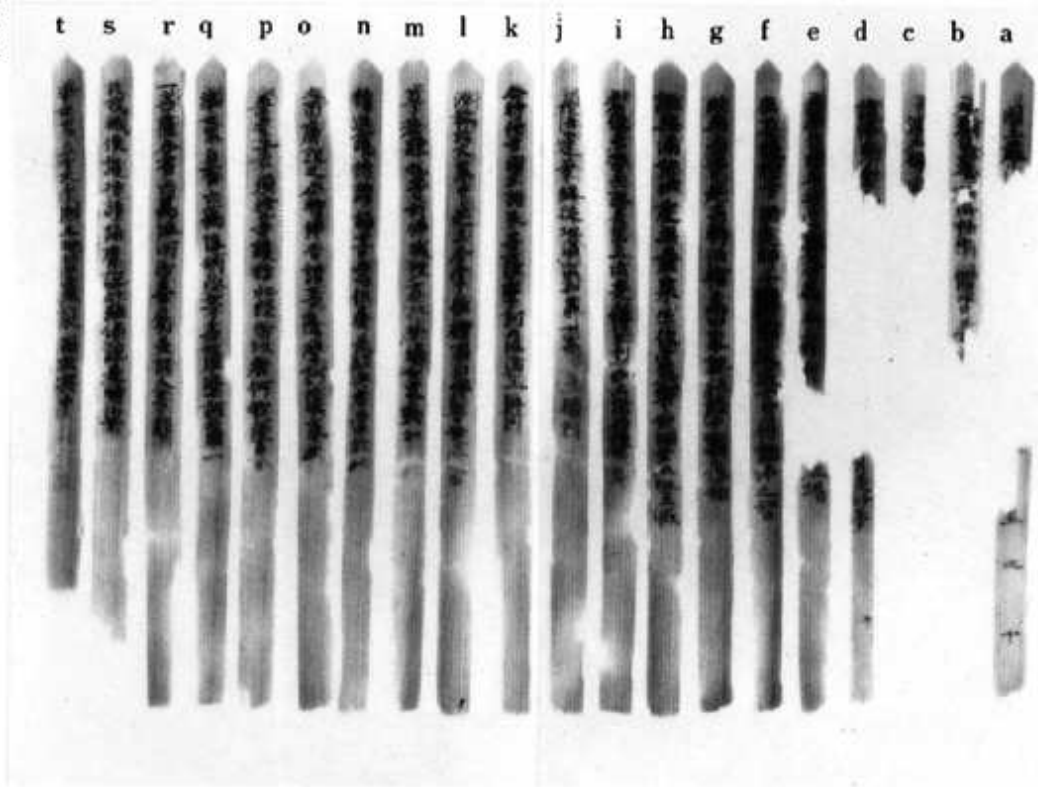
(2) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之八（裏面）



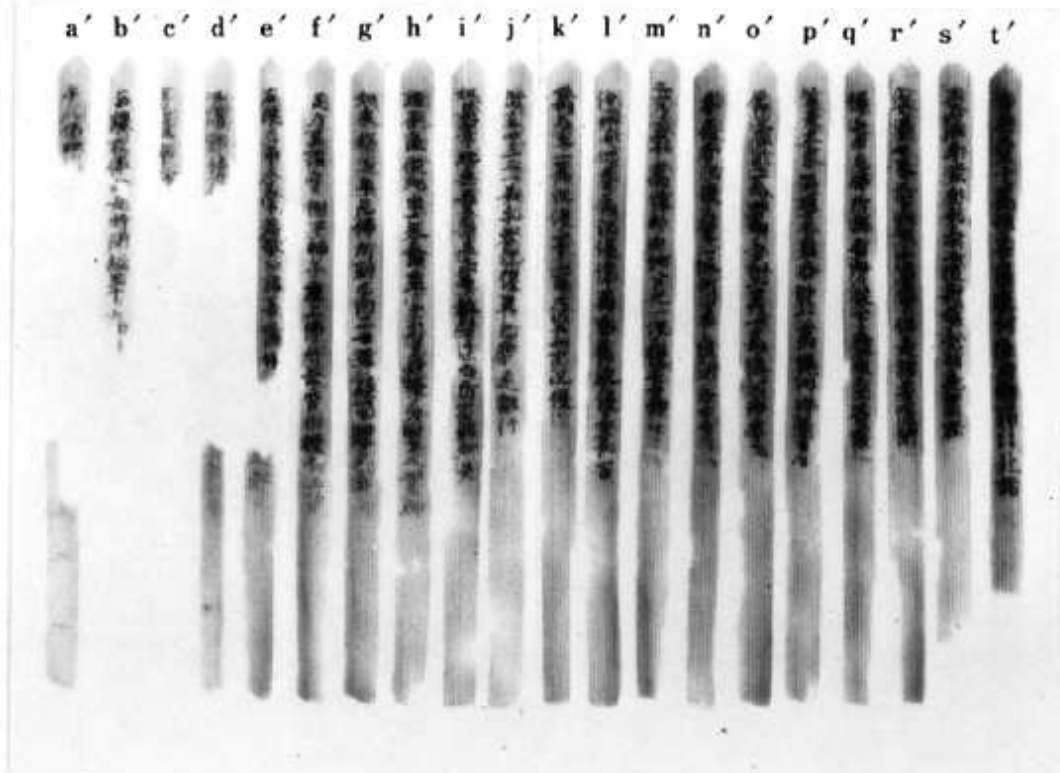
(1) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之九（表面）



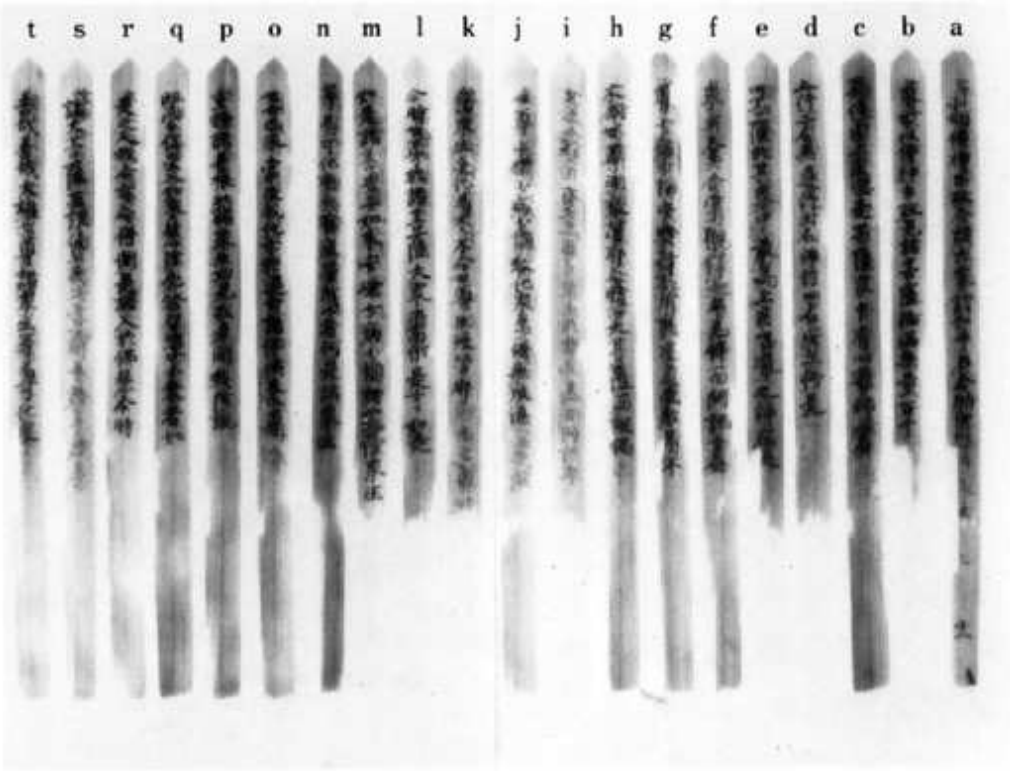
(2) 法華経安楽行品第十四　　巻第五之九（裏面）



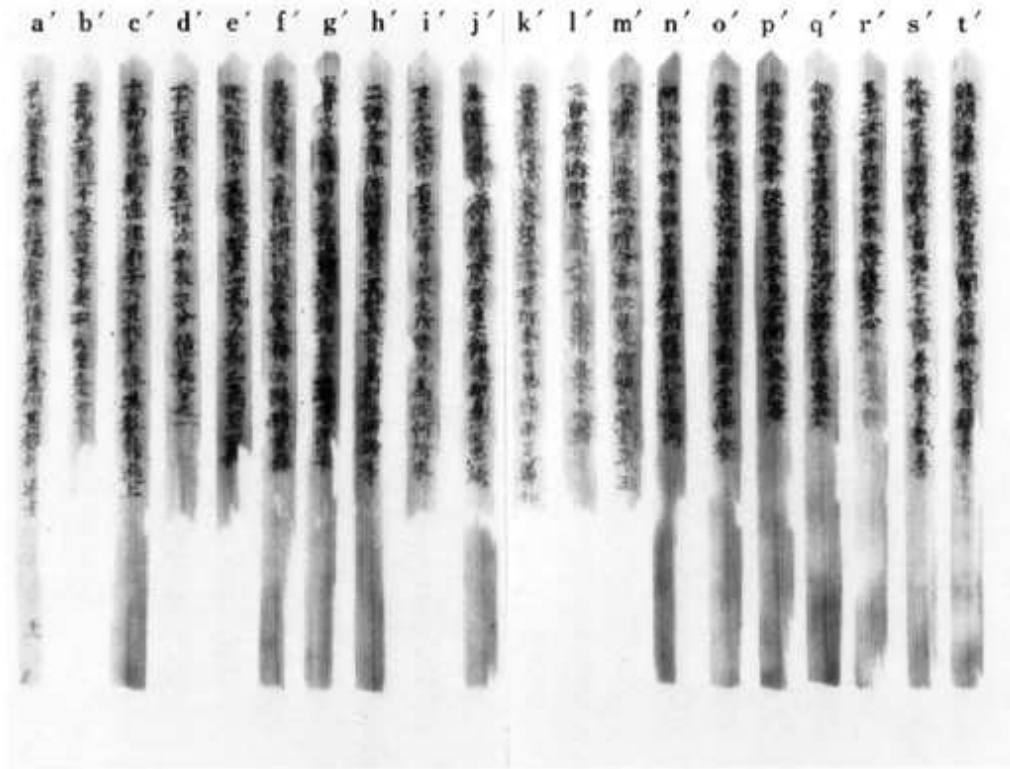
(1) 法華経安楽行品第十四，従地涌出品第十五　巻第五之十（表面）



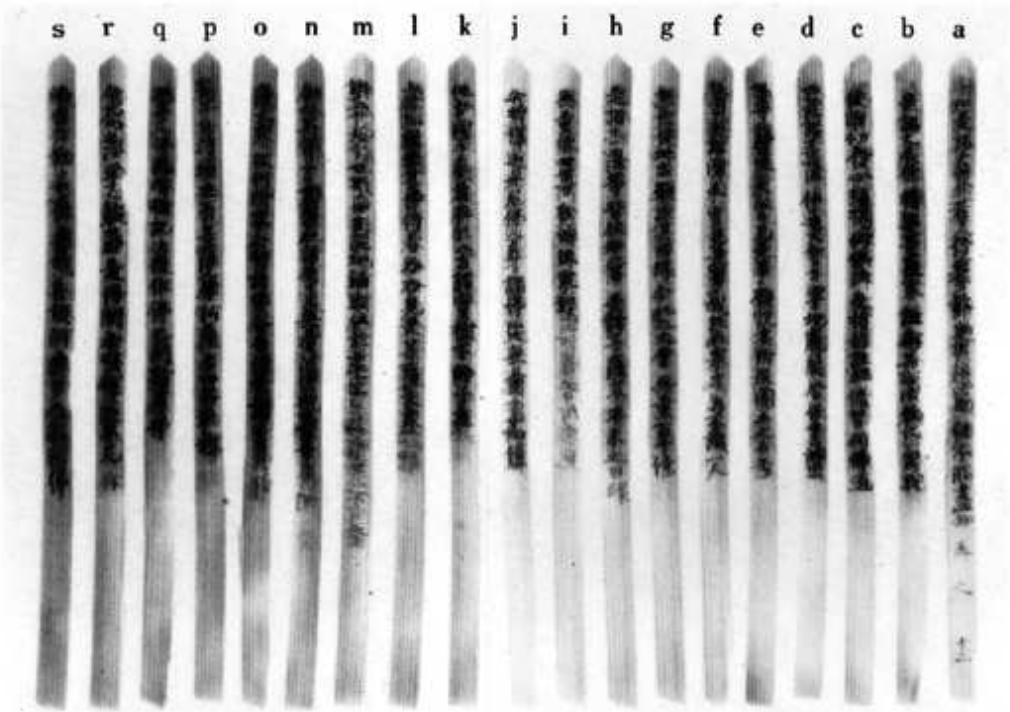
(2) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十（裏面）



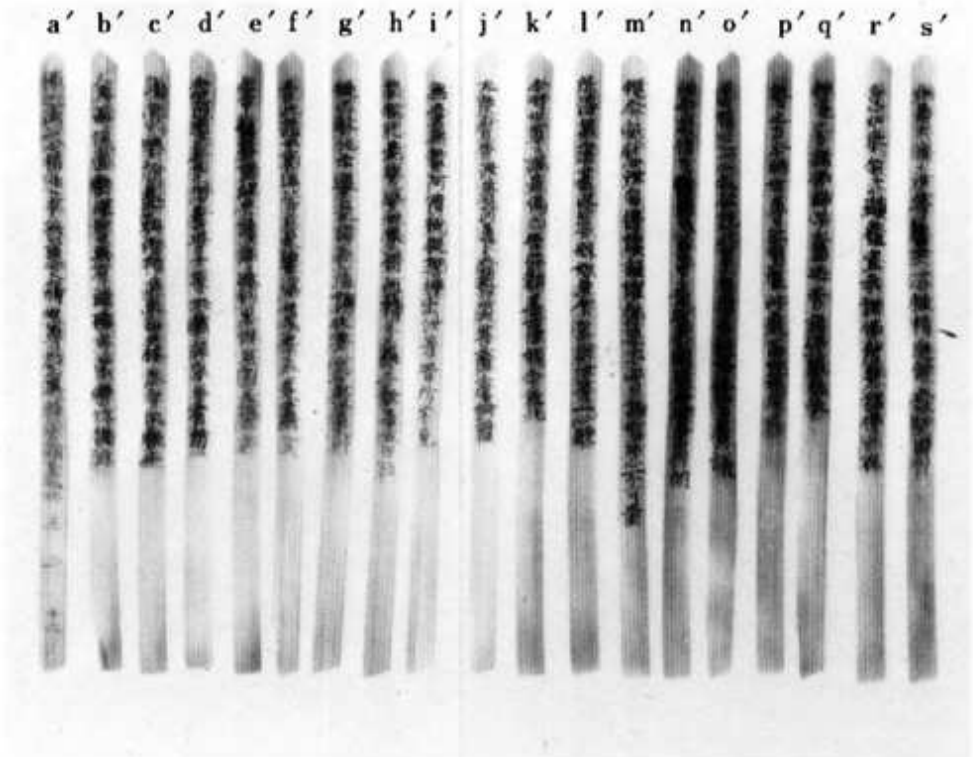
(1) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十一（表面）



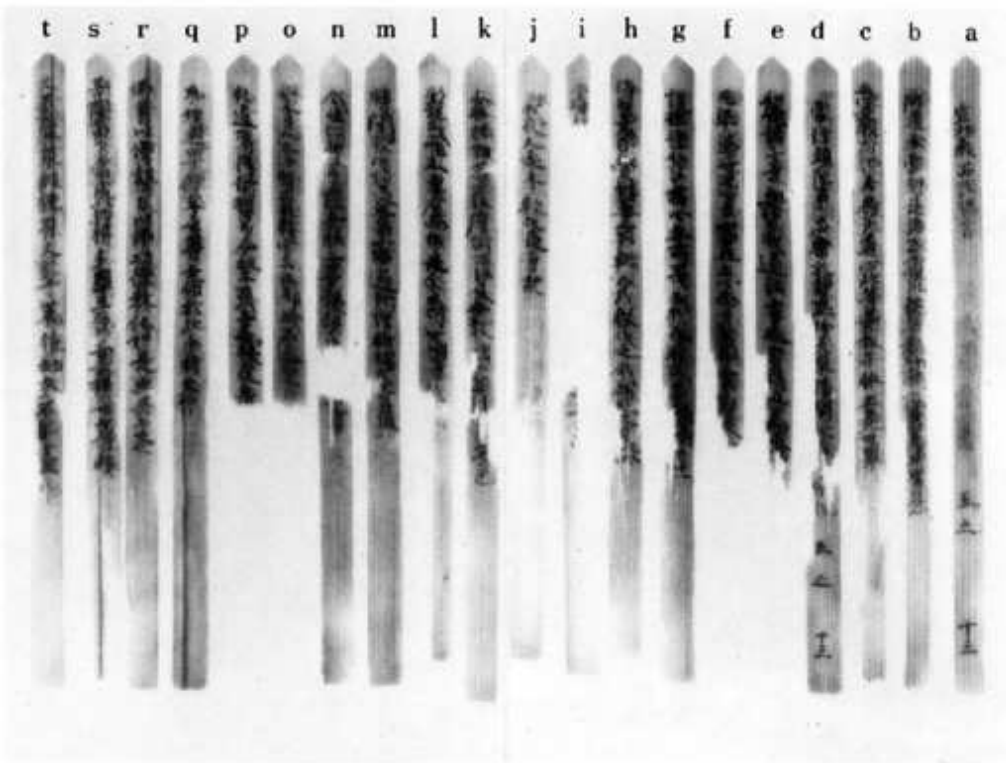
(2) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十一（裏面）



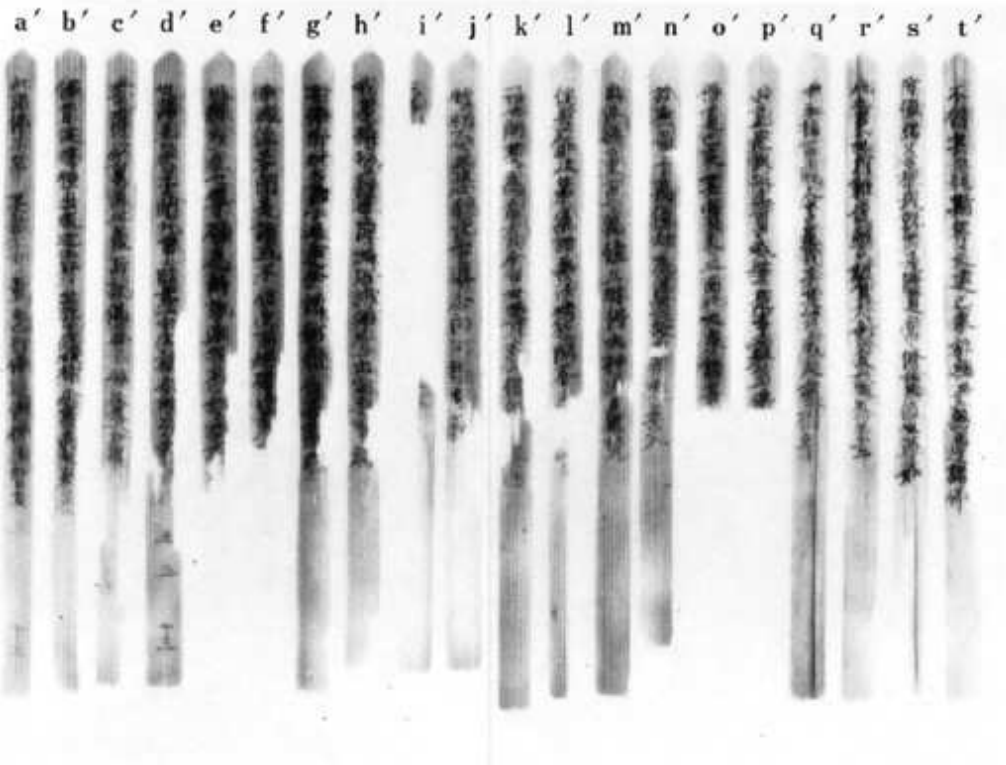
(1) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十二（表面）



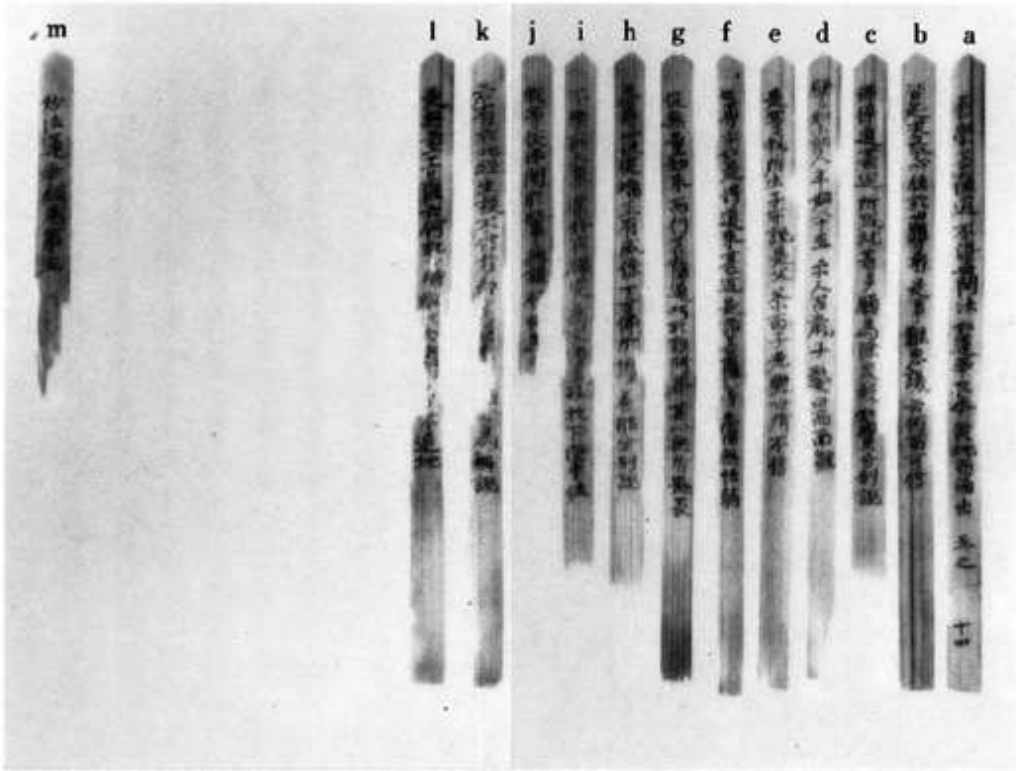
(2) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十二（裏面）



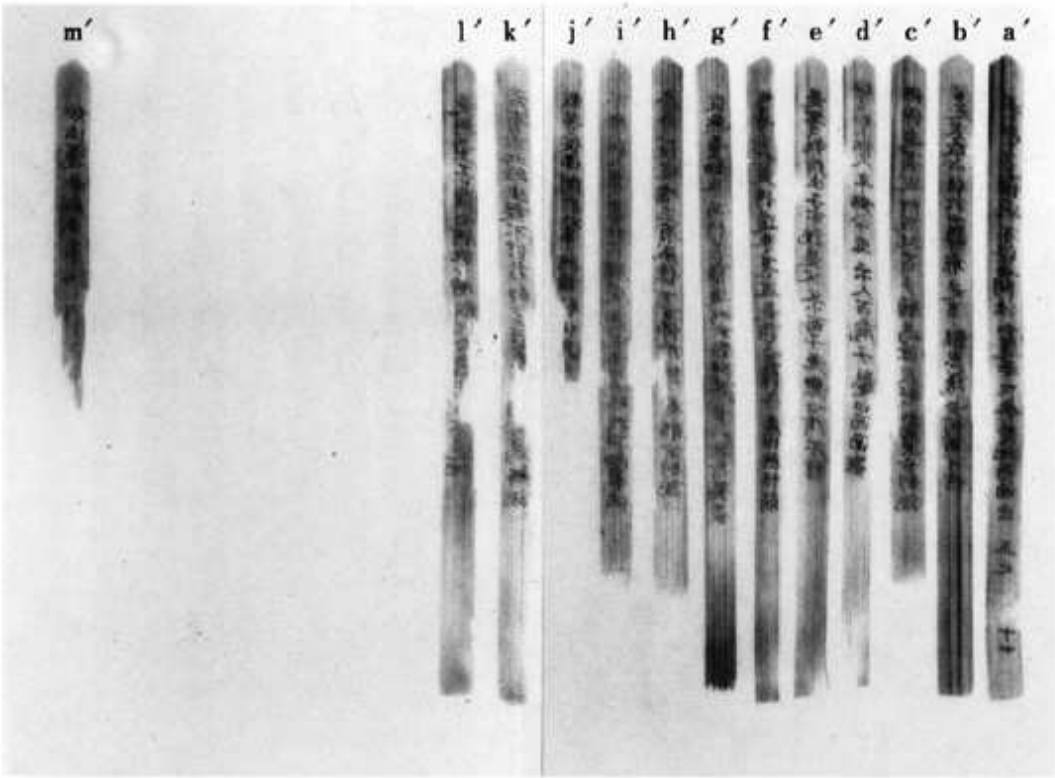
(1) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十三（表面）



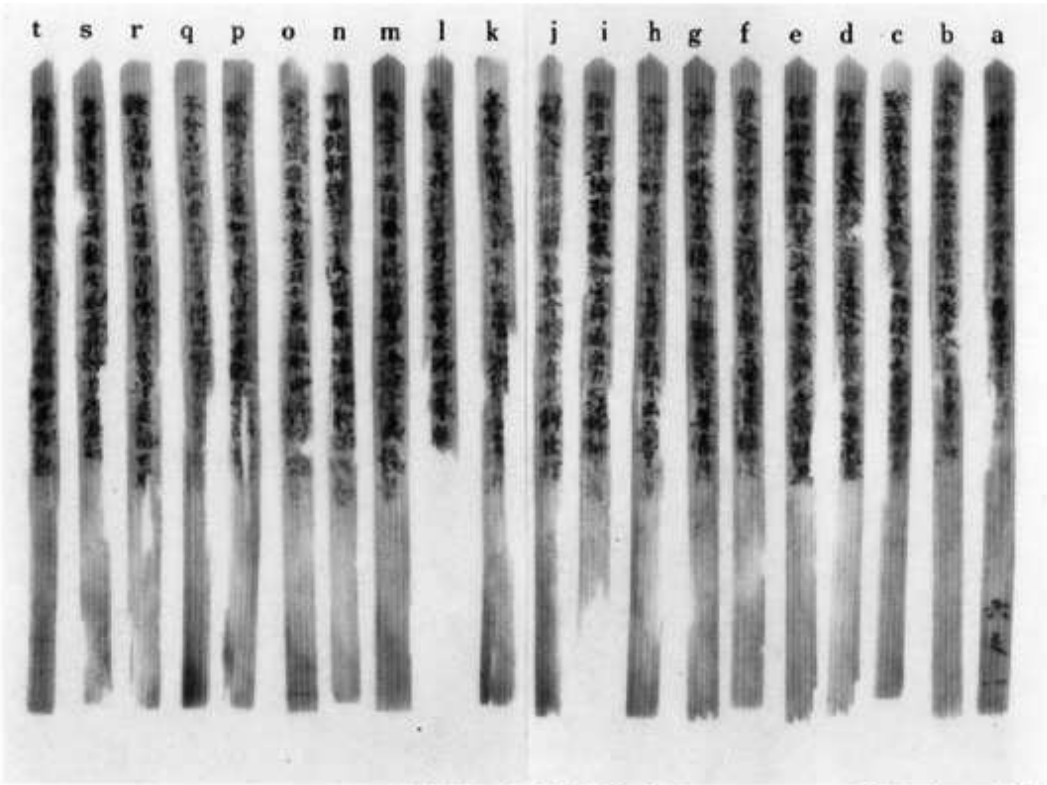
(2) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十三（裏面）



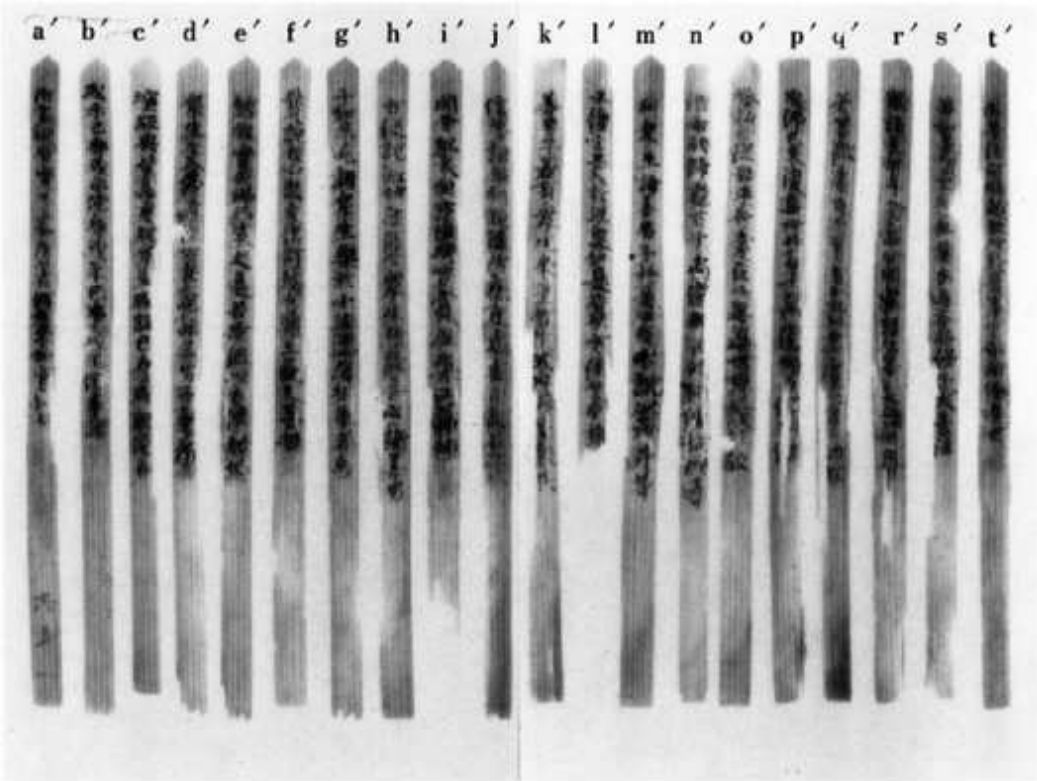
(1) 法華経従地涌出品第十五　　巻第五之十四（表面）



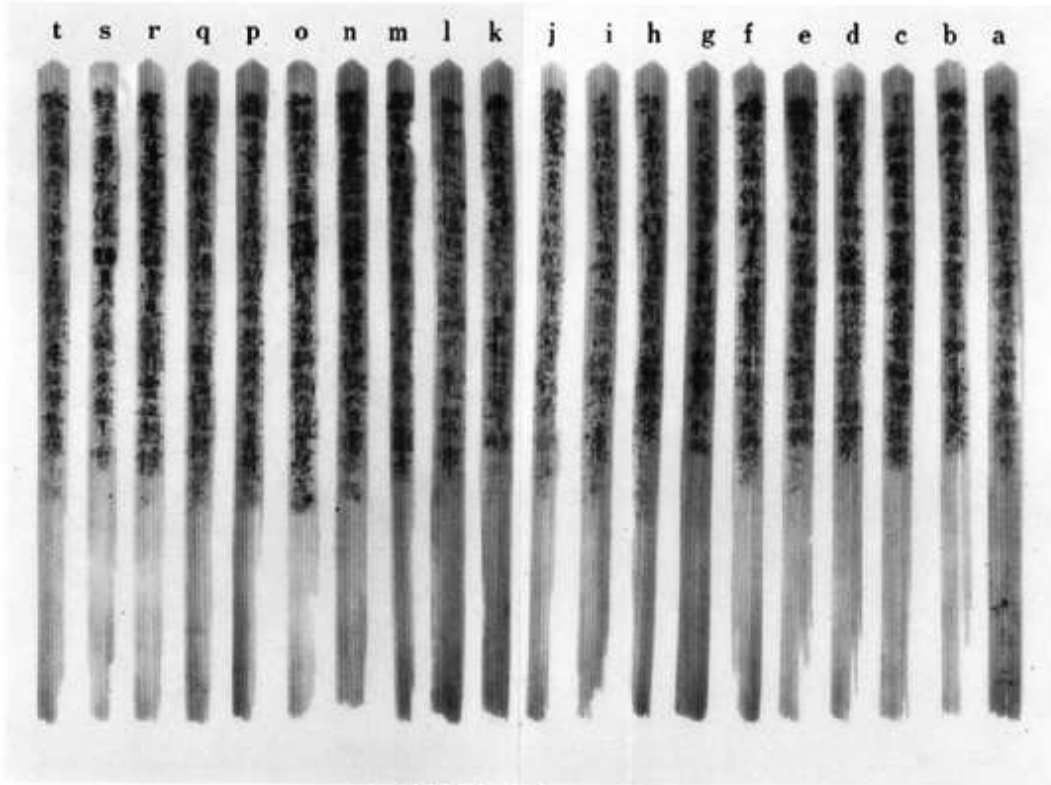
(2) 未　記　入　　巻第五之十四（裏面）



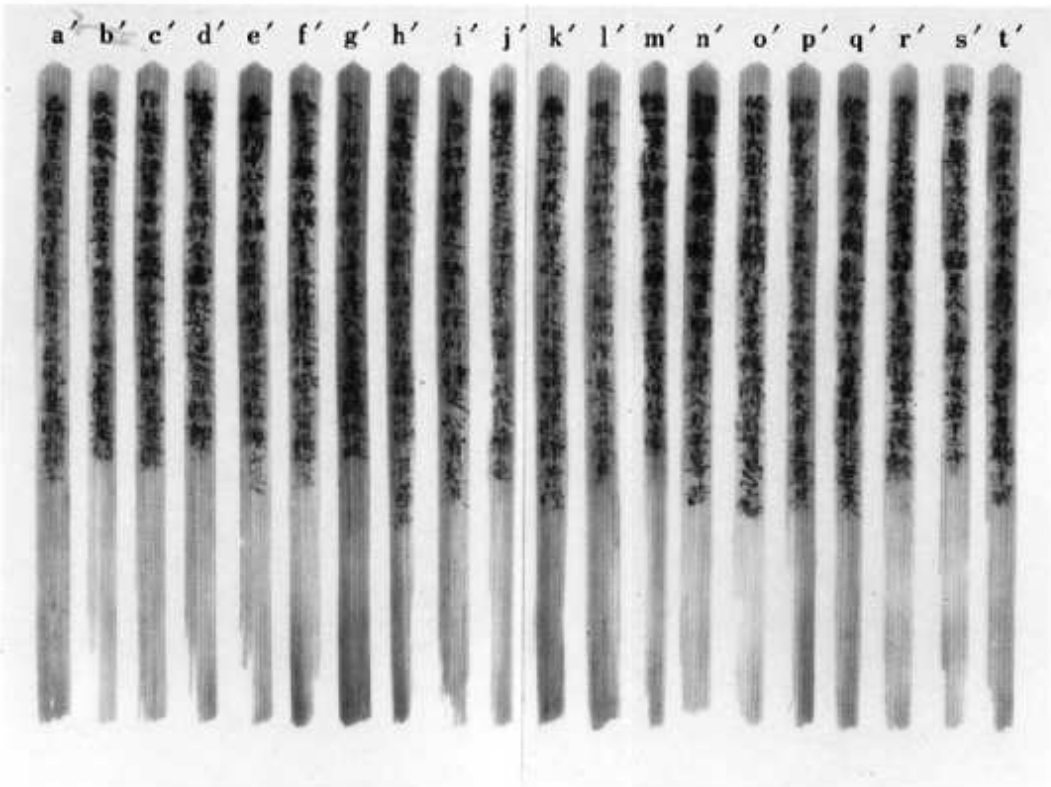
(1) 法華経如来寿量品第十六　　巻第六之一（表面）



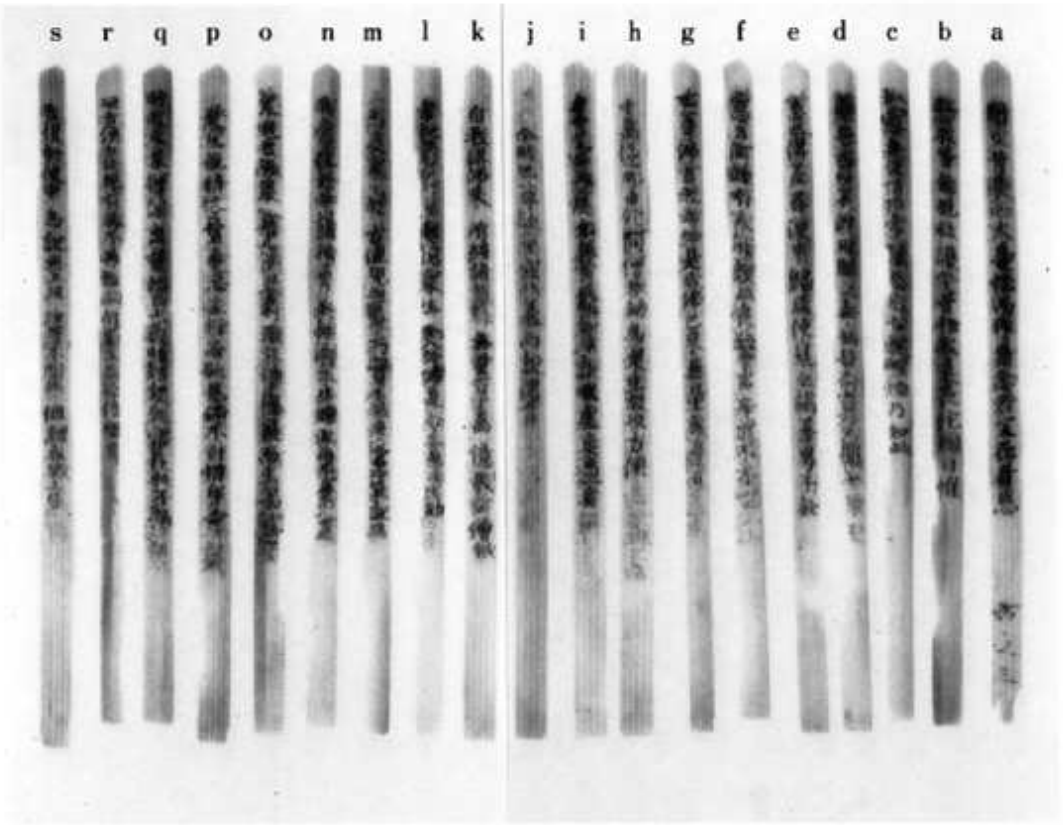
(2) 法華経如来寿量品第十六　　巻第六之一（裏面）



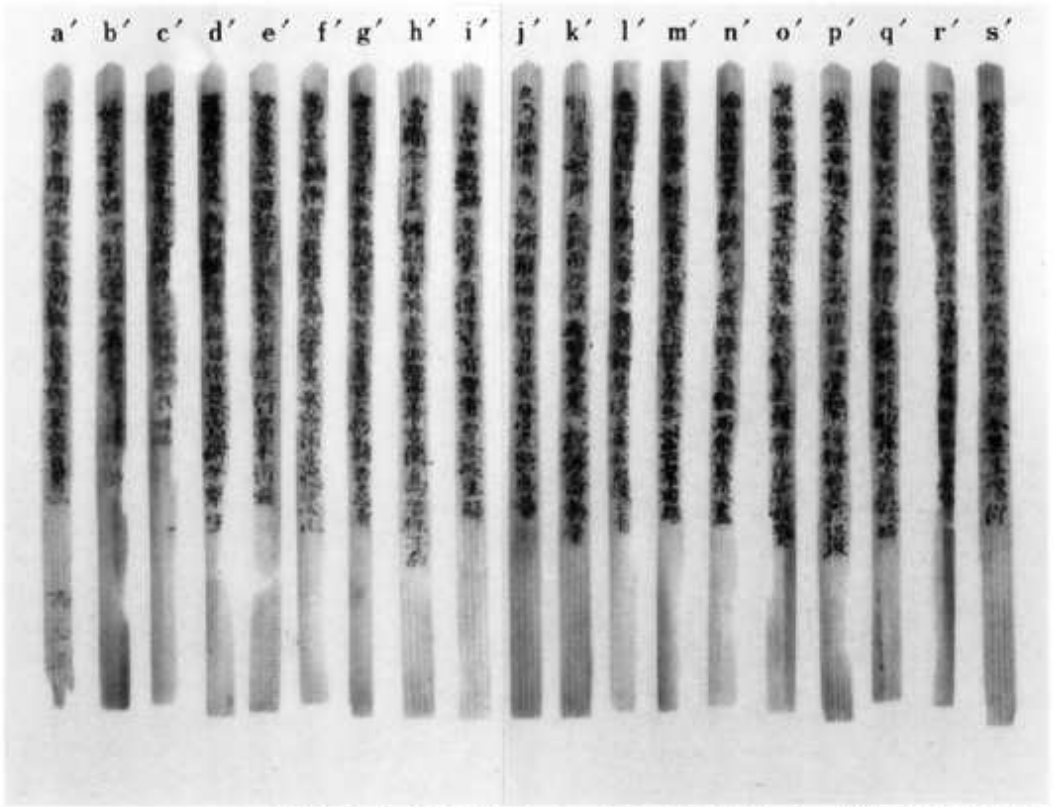
(1) 法華経如来寿量品第十六　　巻第六之二（表面）



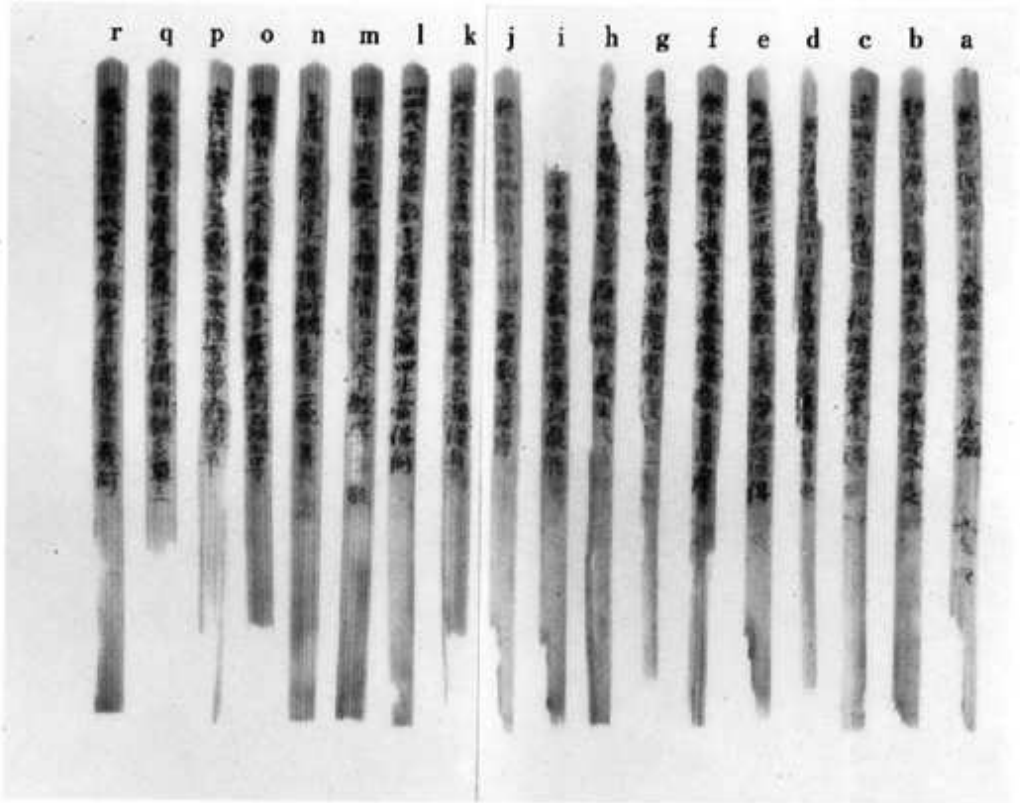
(2) 法華経如来寿量品第十六　　巻第六之二（裏面）



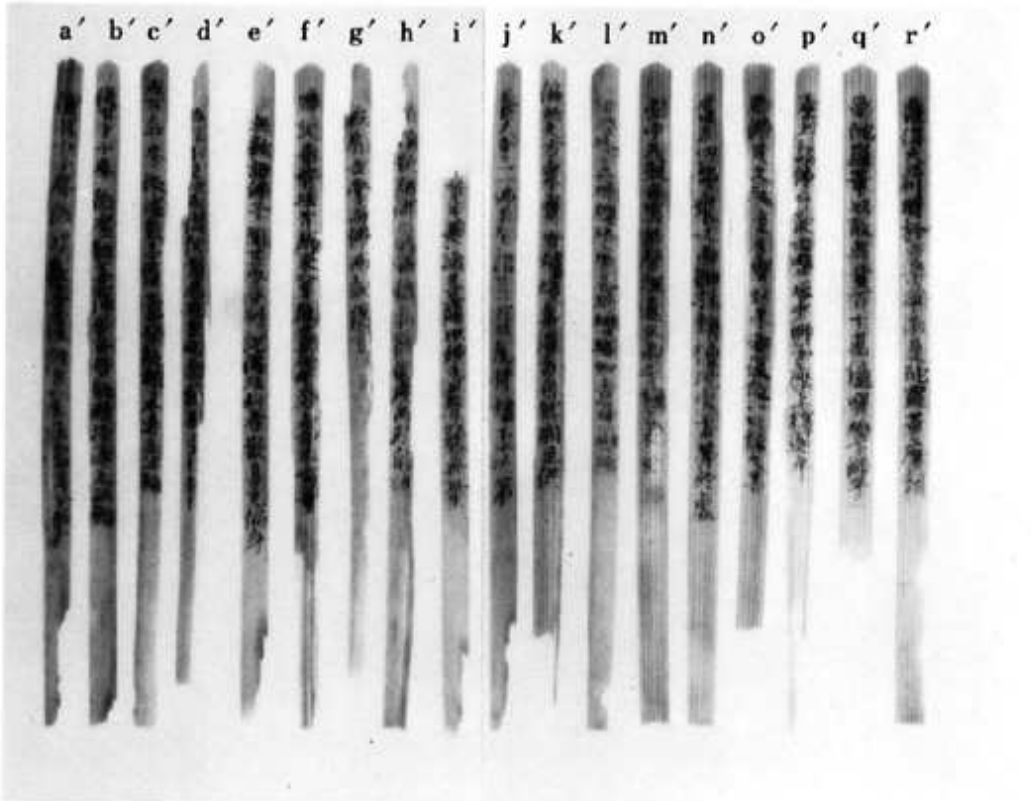
(1) 法華経如来寿量品第十六　　巻第六之三（表面）



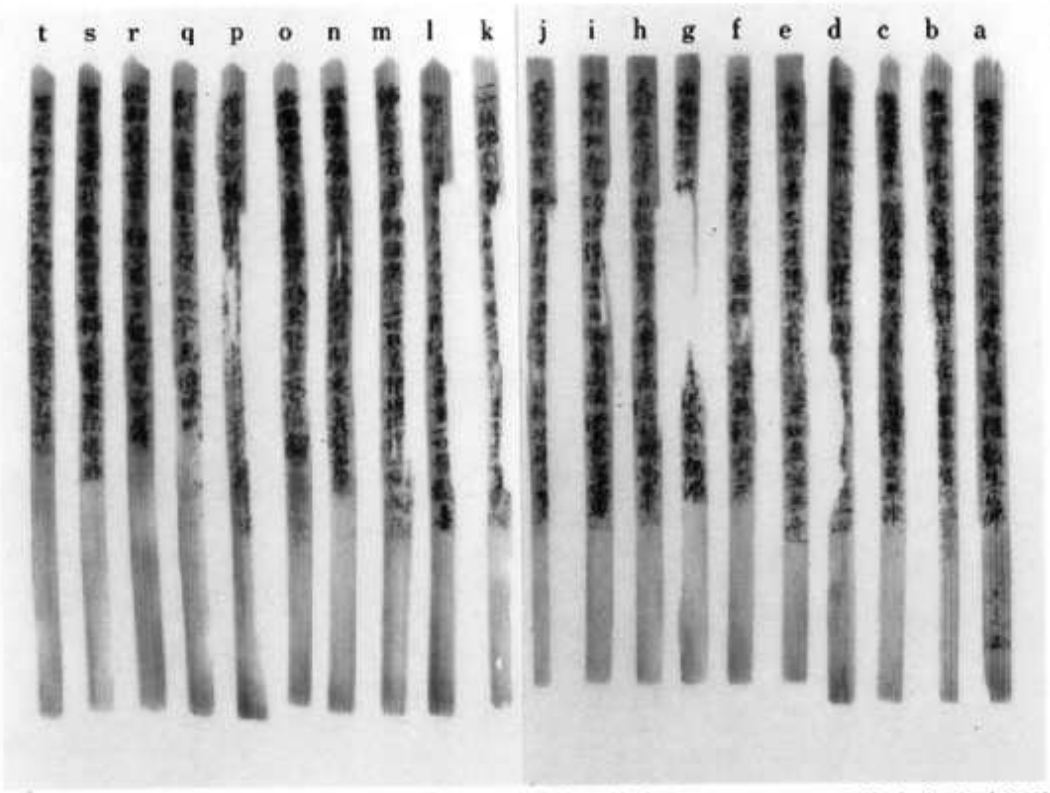
(2) 法華経如来寿量品第十六，分別功徳品第十七　巻第六之三（裏面）



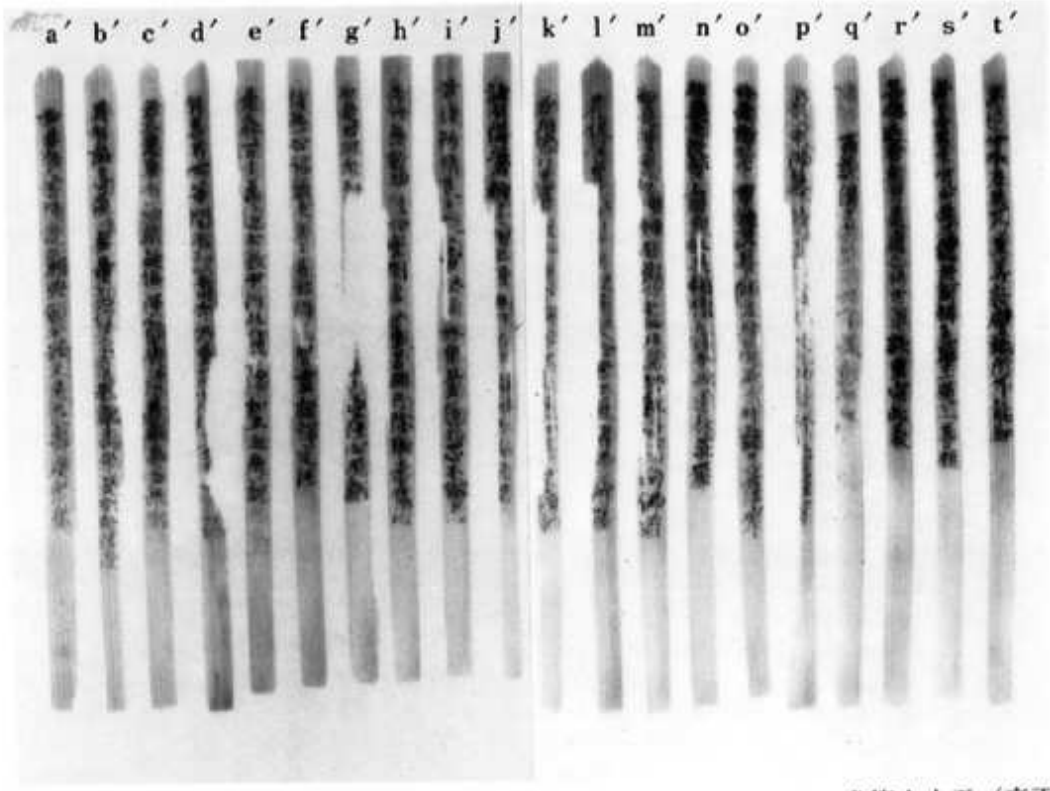
(1) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之四（表面）



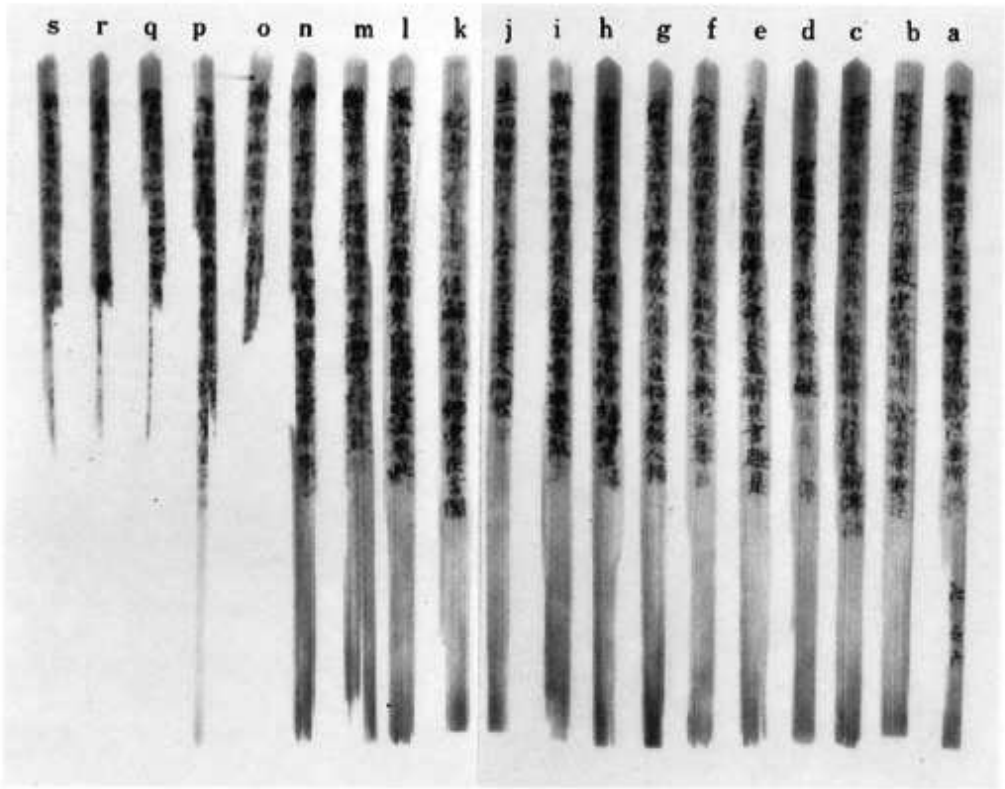
(2) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之四（裏面）



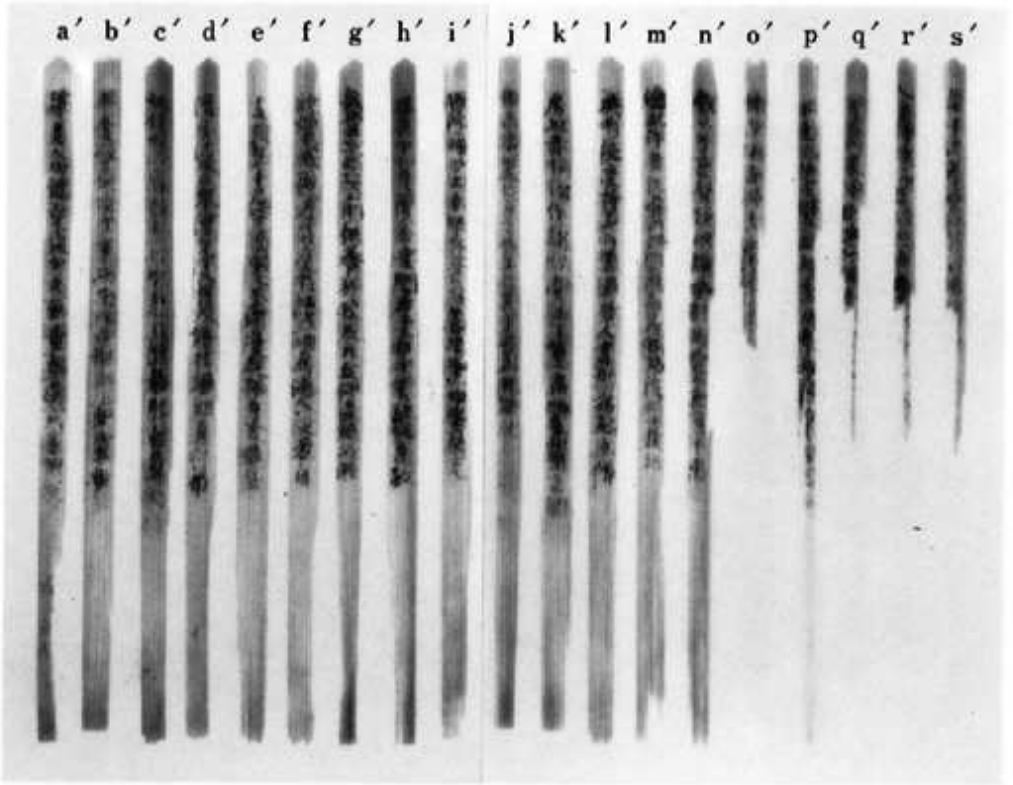
(1) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之五（表面）



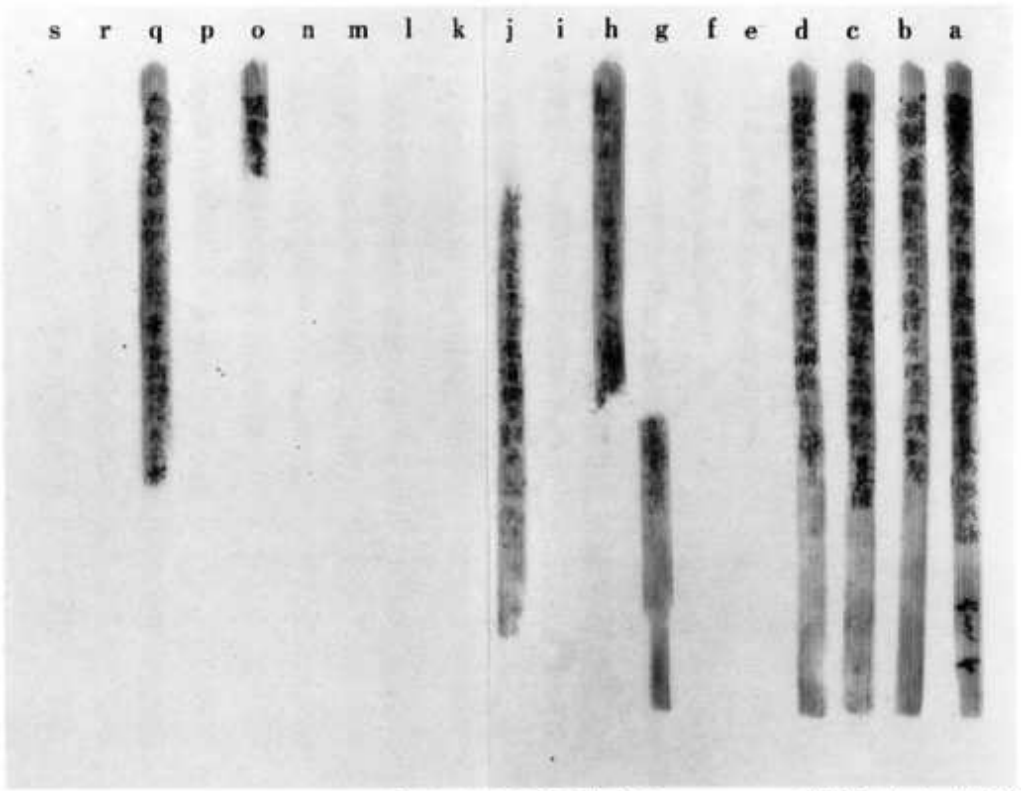
(2) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之五（裏面）



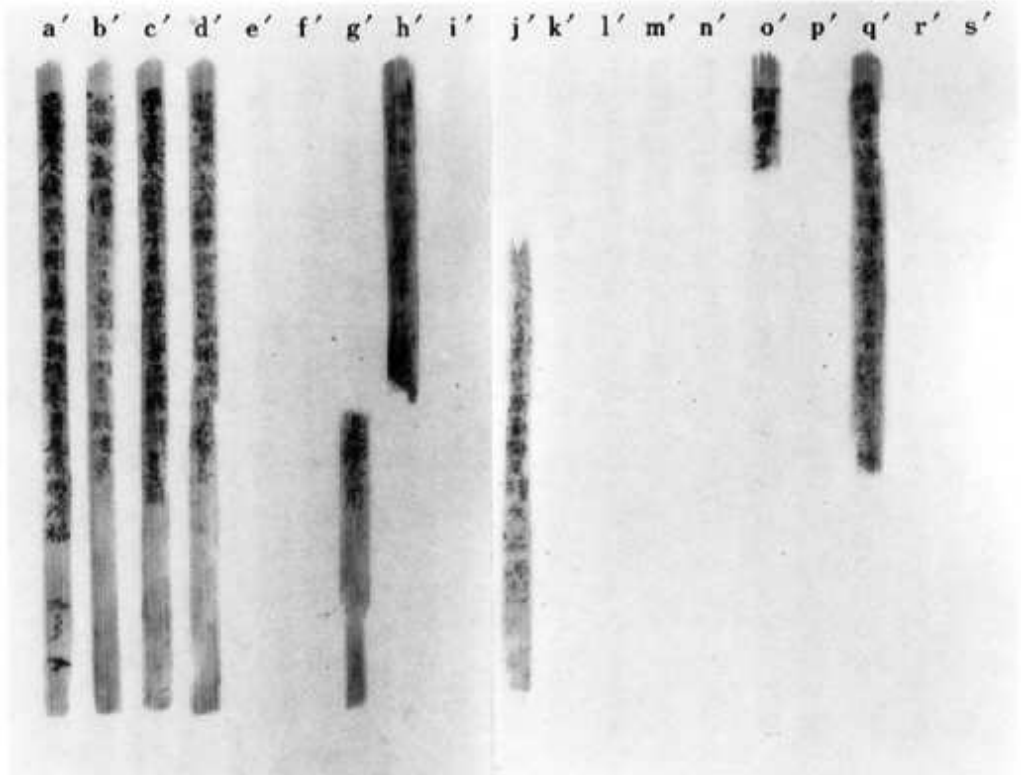
(1) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之六（表画）



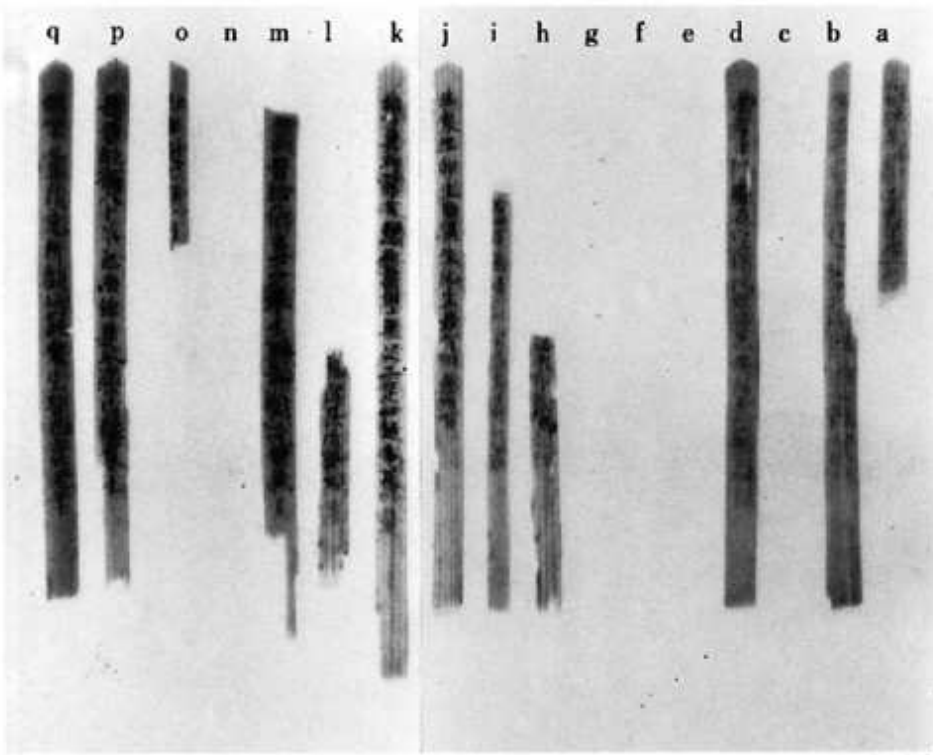
(2) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之六（裏面）



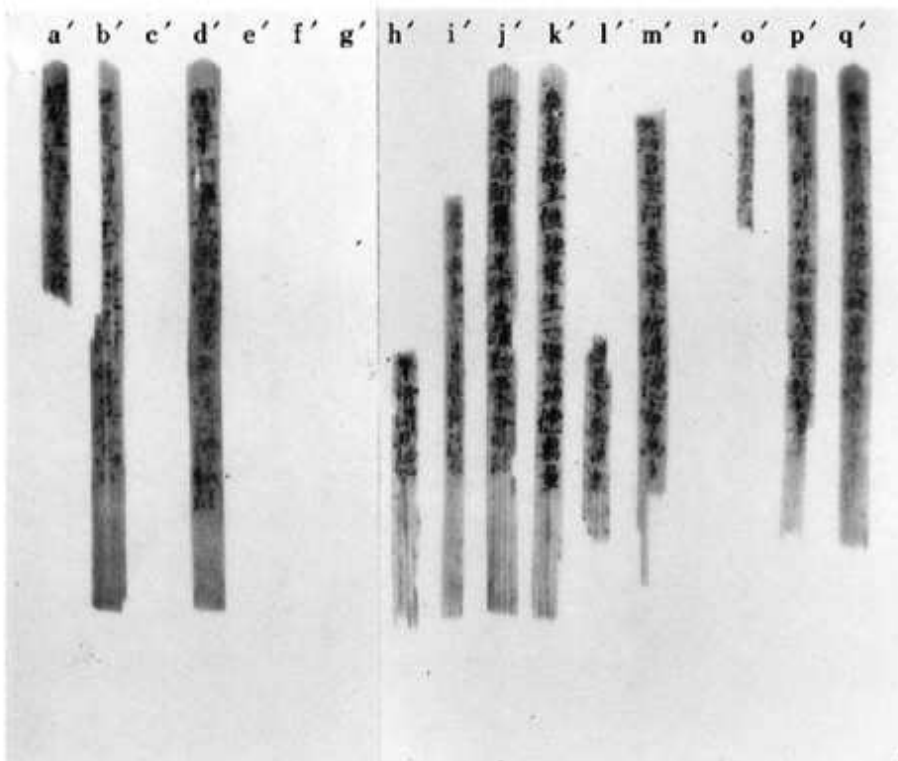
(1) 法華経分別功徳品第十七　　巻第六之七（表面）



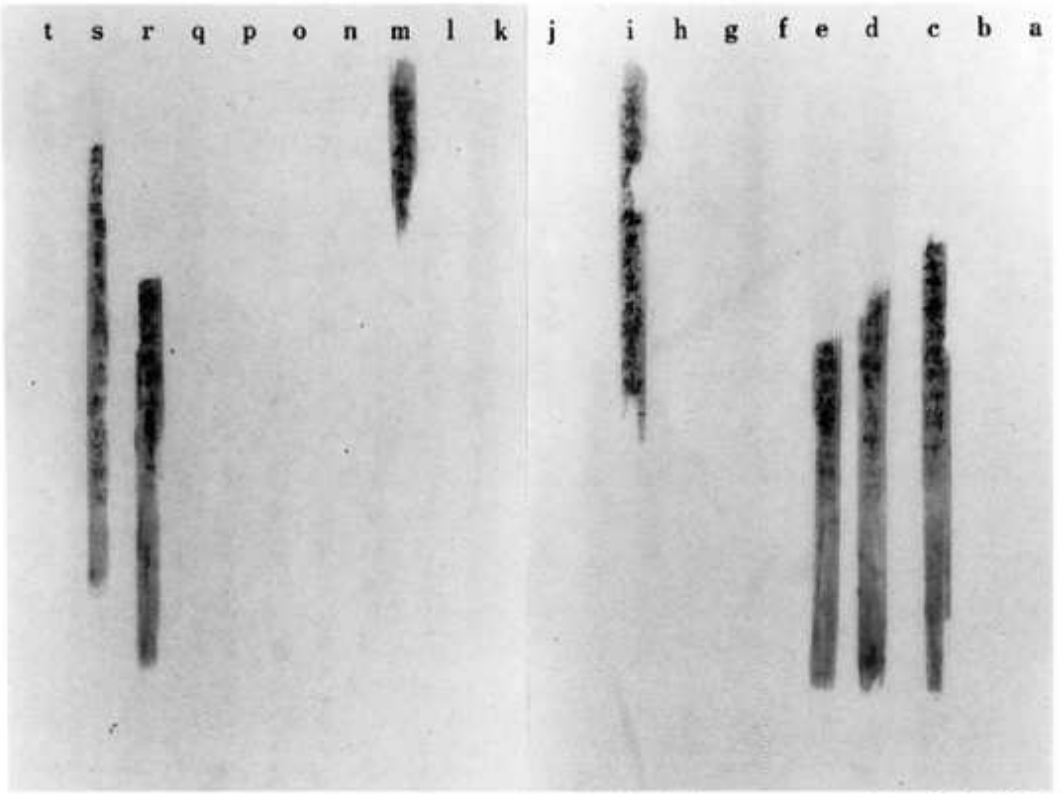
(2) 法華経分別功徳品第十七，随喜功徳品第十八　巻第六之七（裏面）



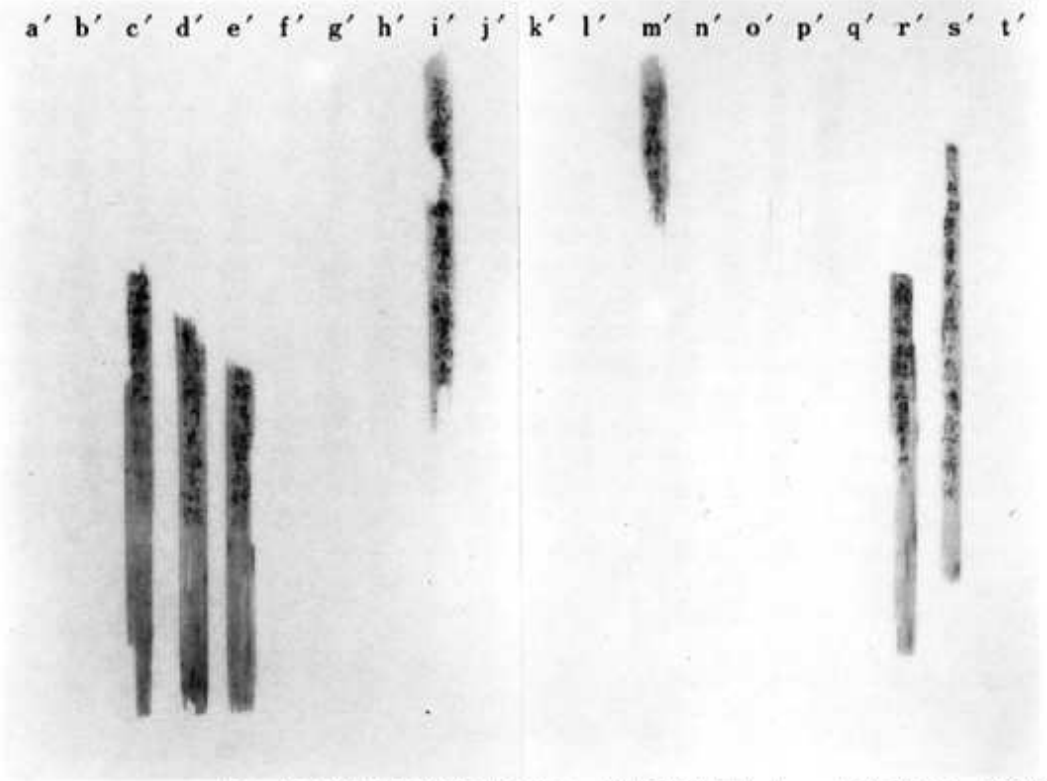
(1) 法華経随喜功徳品第十八　　巻第六之八（表面）



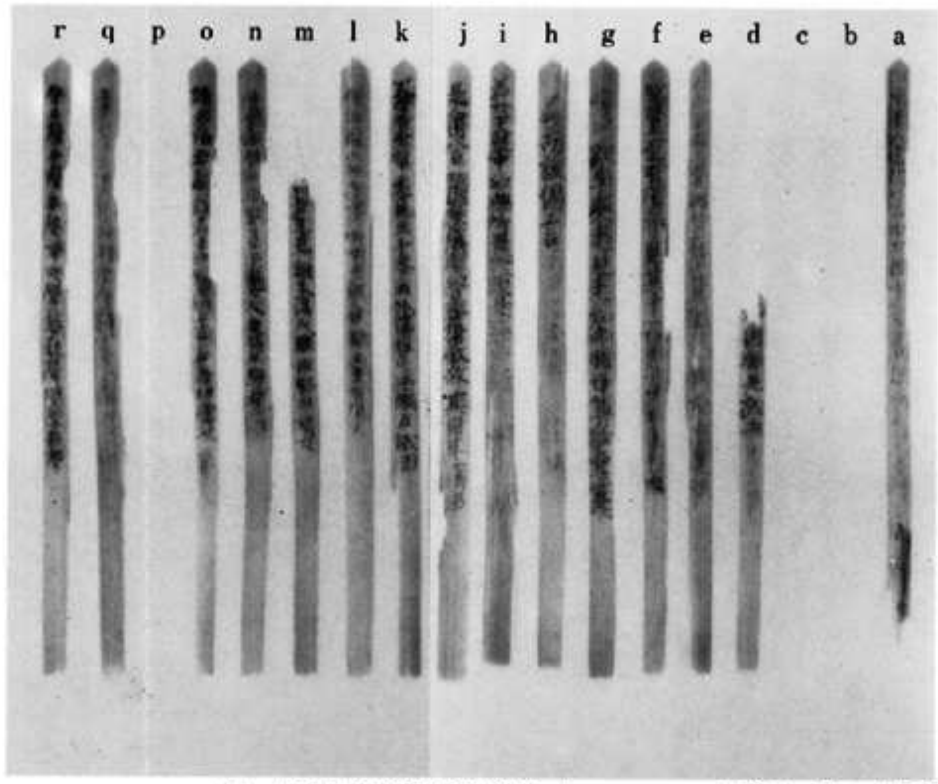
(2) 法華経随喜功徳品第十八　　巻第六之八（裏面）



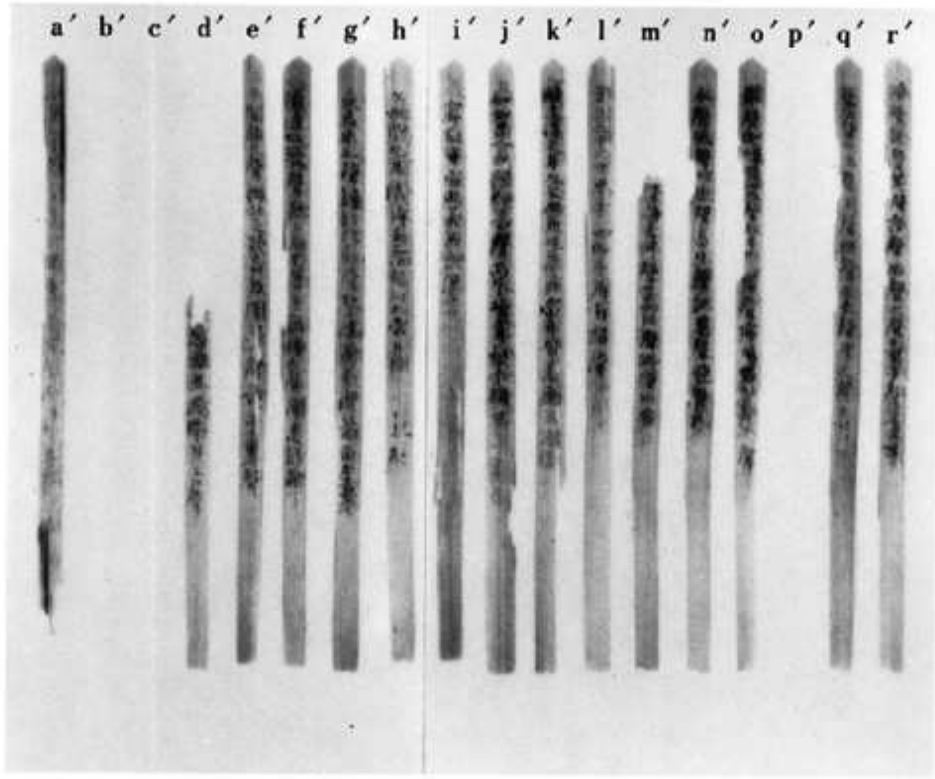
(1) 法華経随喜功徳品第十八　　巻第六之九（表面）



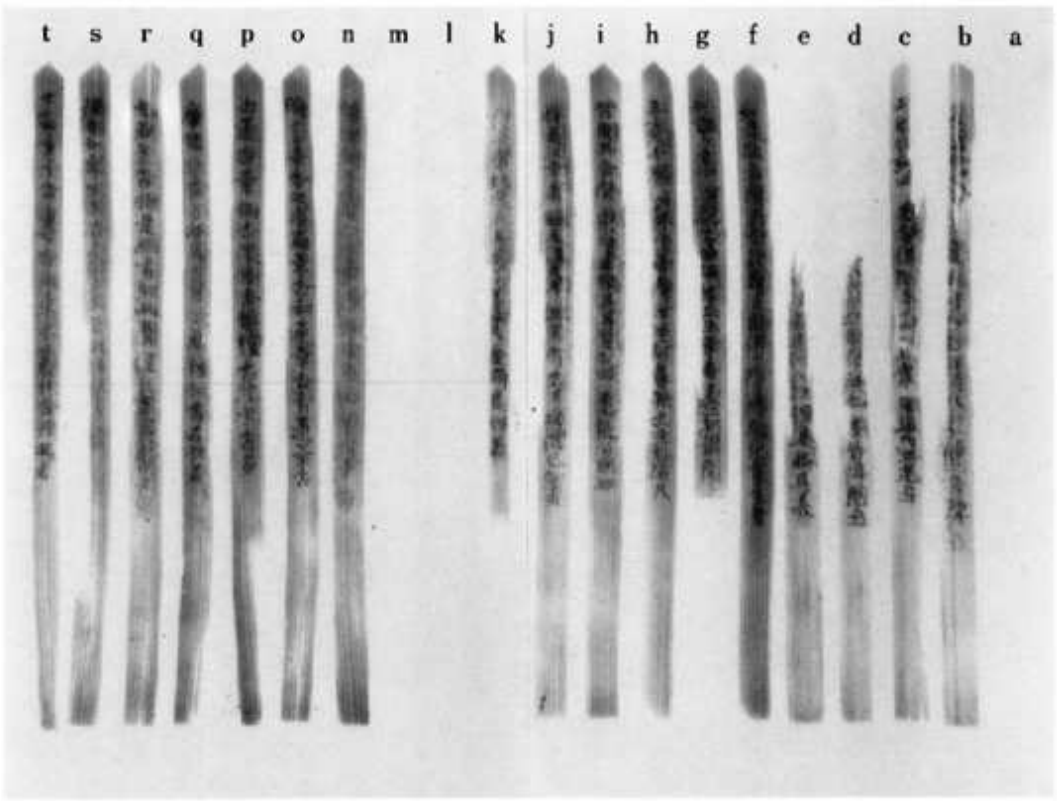
(2) 法華経随喜功徳品第十八，法師功徳品十九　巻第六之九（裏面）



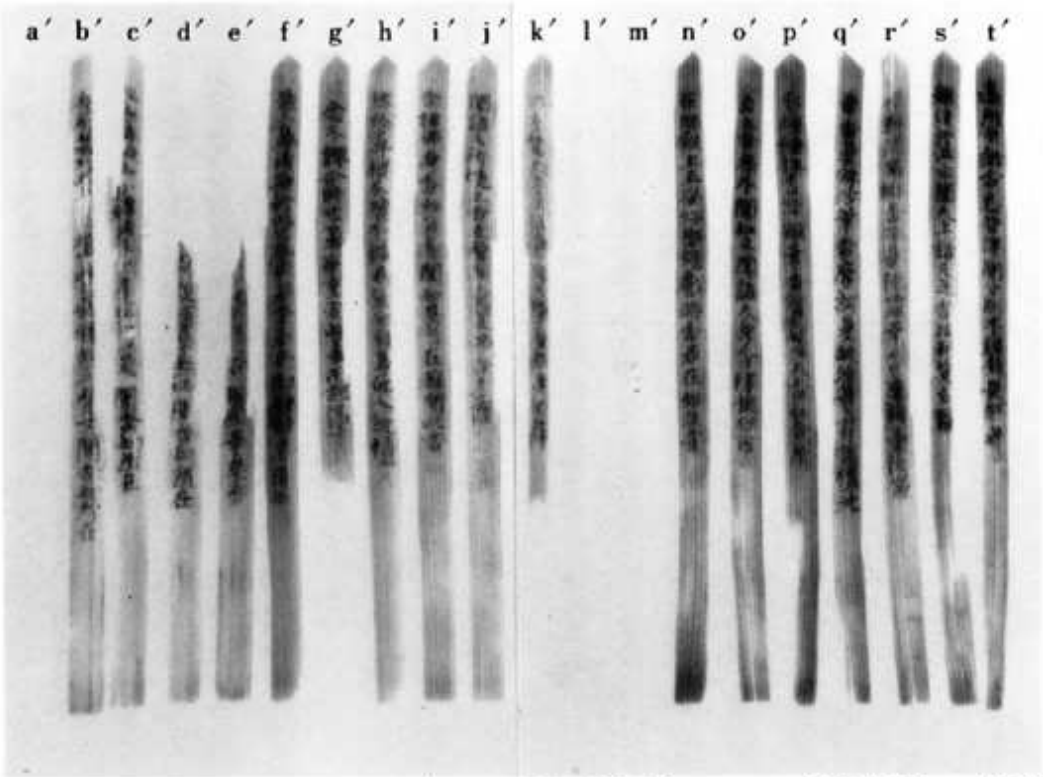
(1) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十（表面）



(2) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十（裏面）

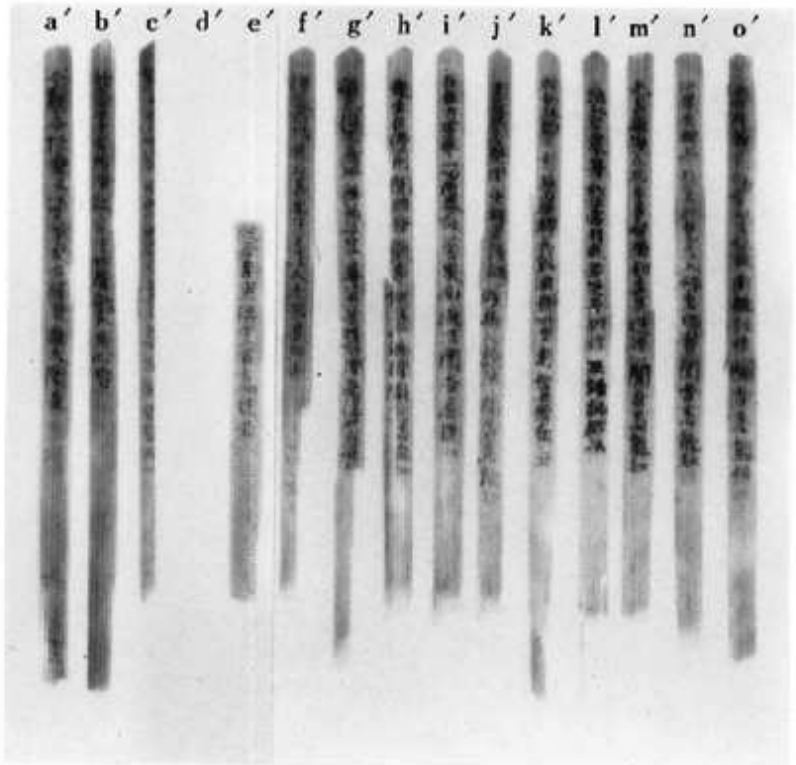


(1) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十一（表面）

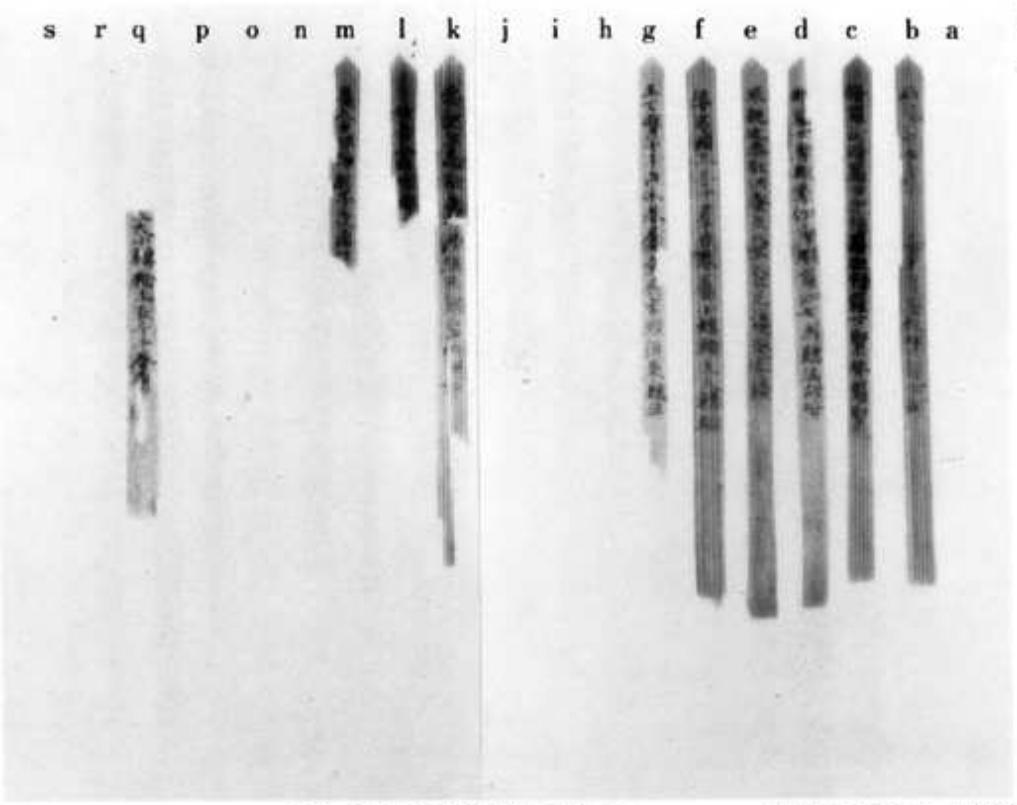


(2) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十一（裏面）

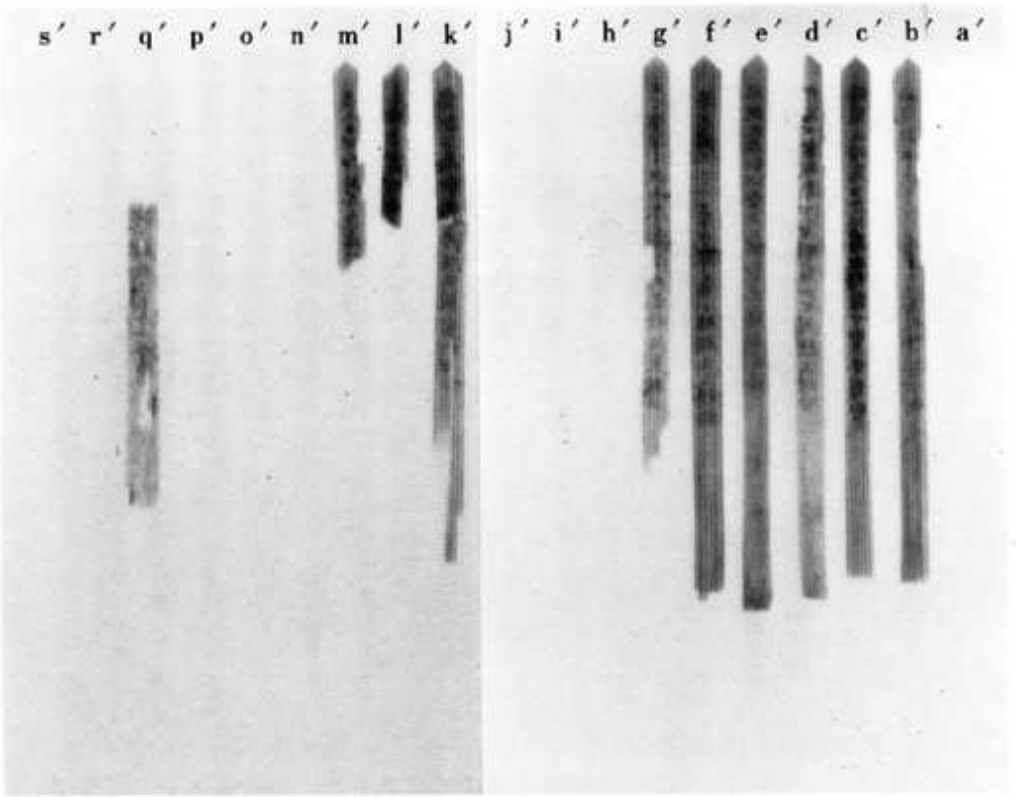
(1) 法華経法師功徳品第十九　巻第六之十二（表面）



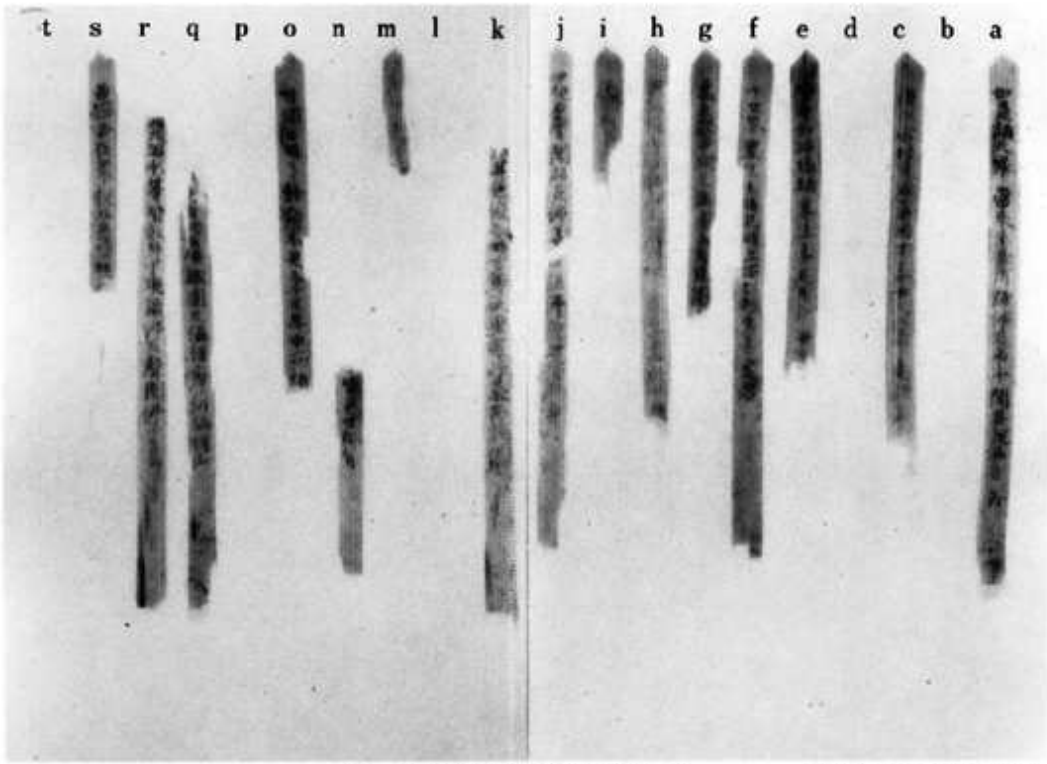
(2) 法華経法師功徳品第十九　巻第六之十二（裏面）



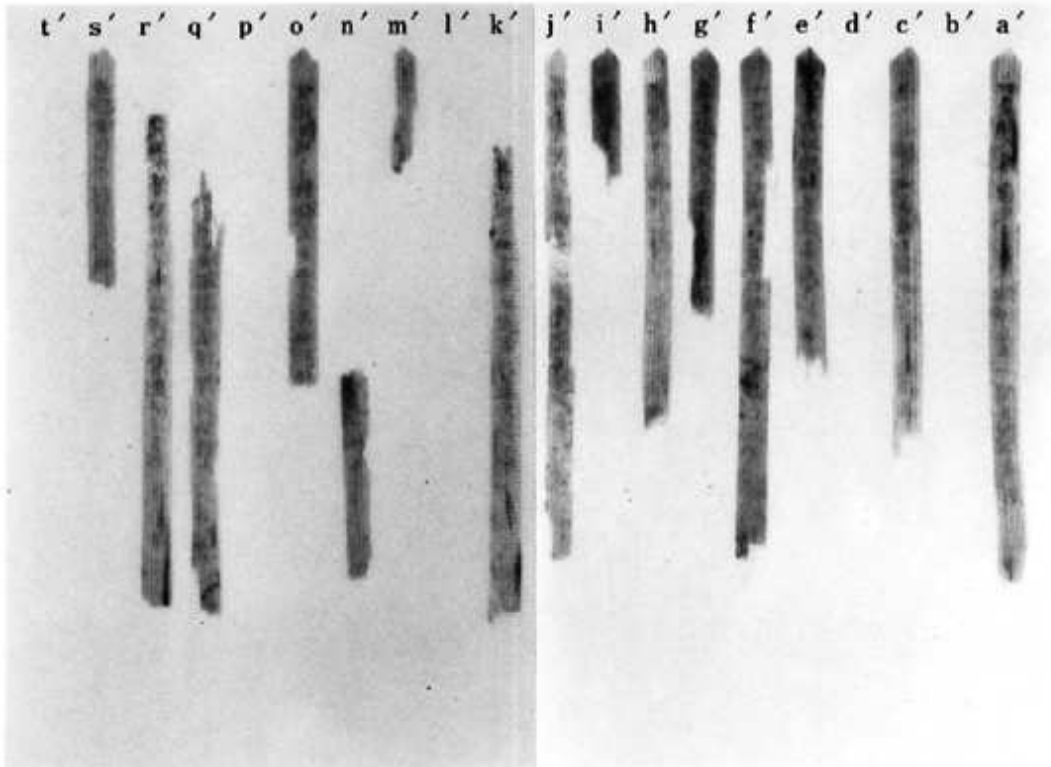
(1) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十三（表面）



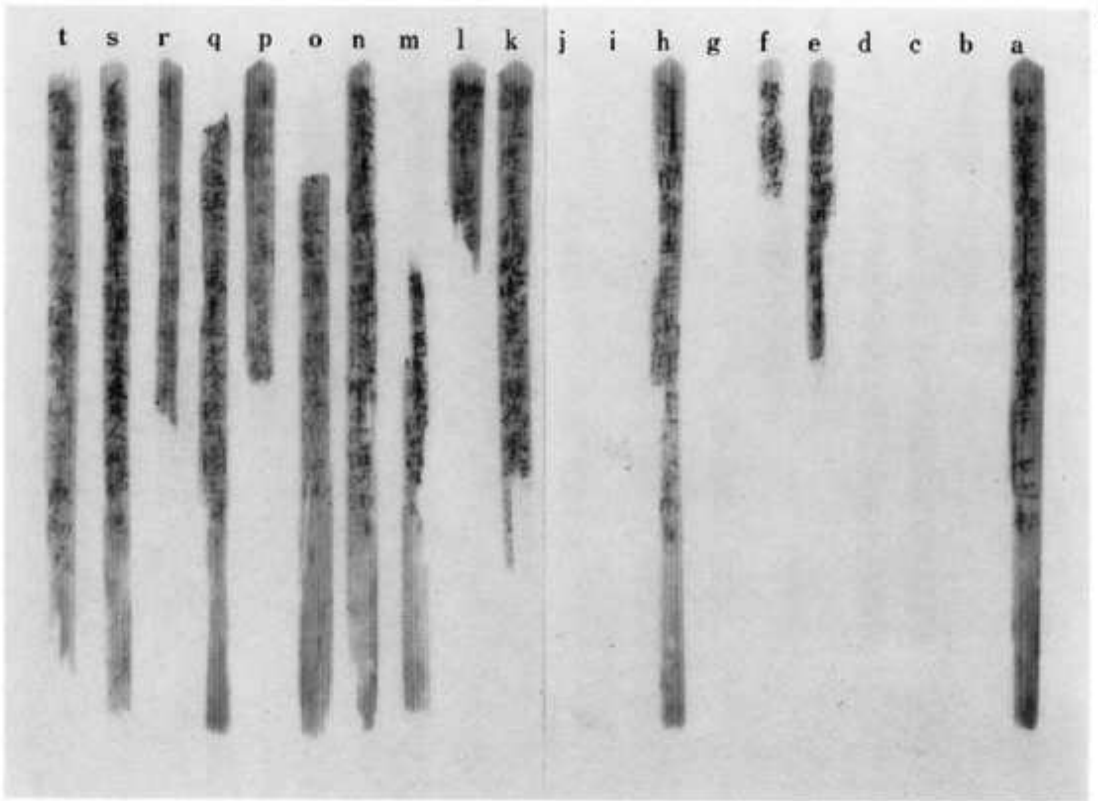
(2) 未　記　入　　巻第六之十三（裏面）



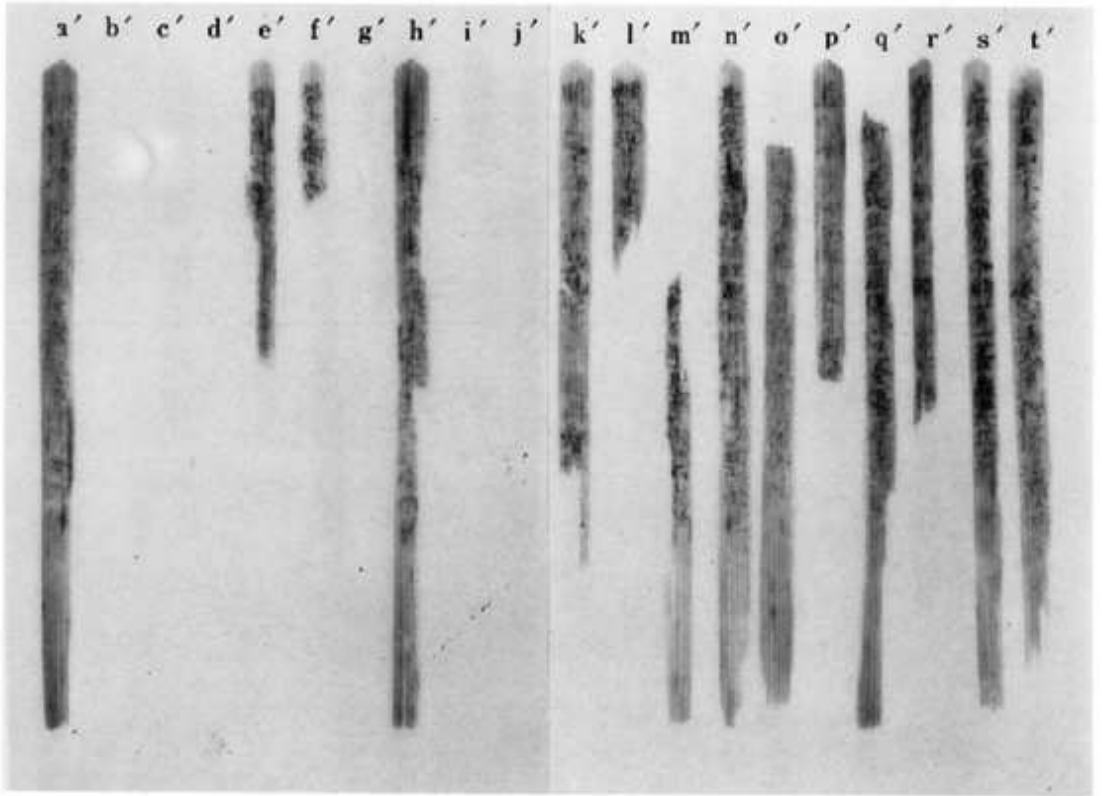
(1) 法華経法師功徳品第十九　　巻第六之十四（表面）



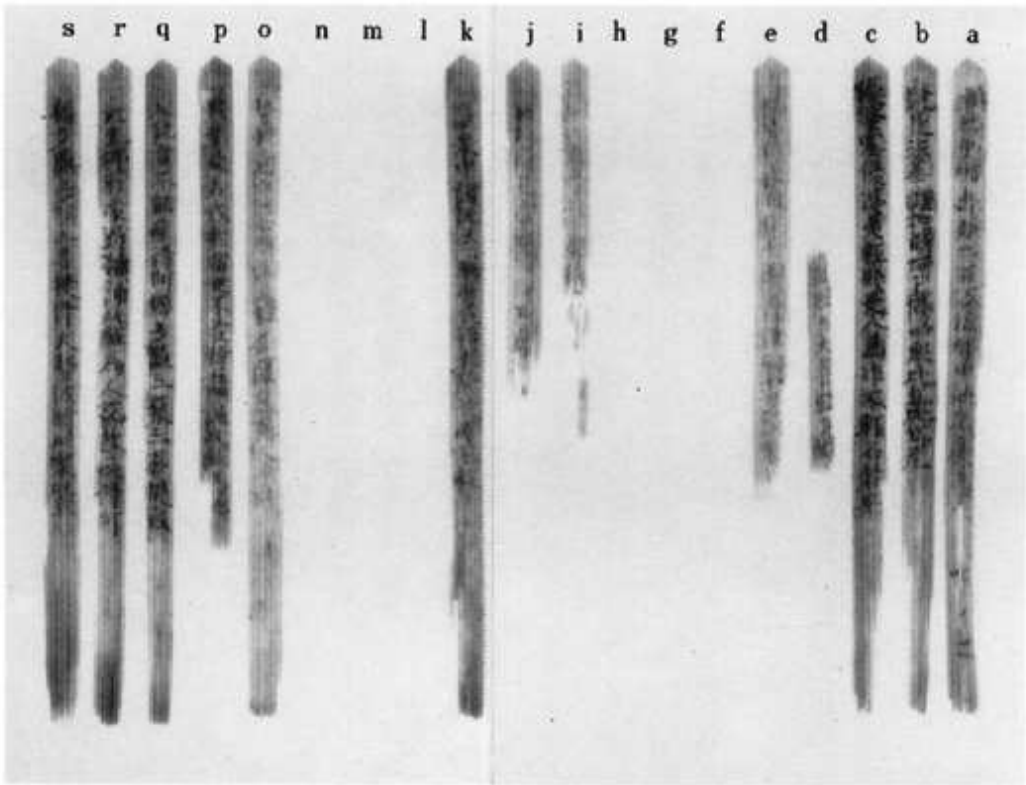
(2) 未　記　入　　巻第六之十四（裏面）



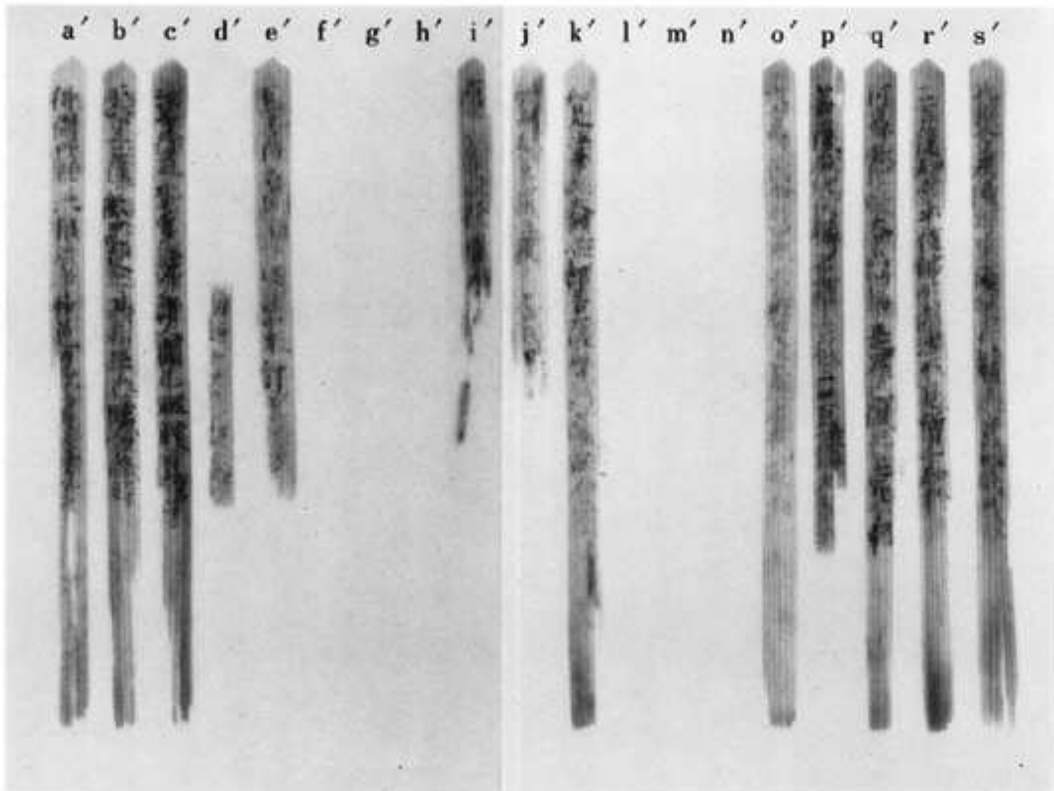
(1) 法華経常不軽菩薩品第二十　　巻第七之一（表面）



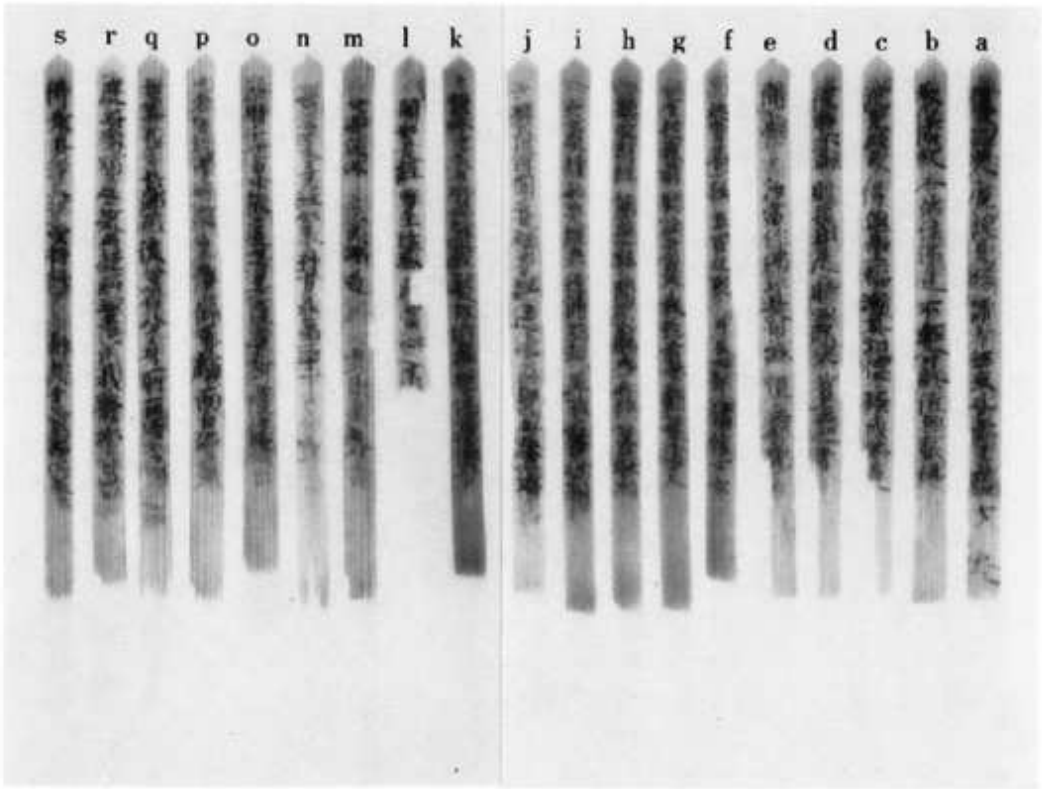
(2) 法華経常不軽菩薩品第二十　　巻第七之一（裏面）



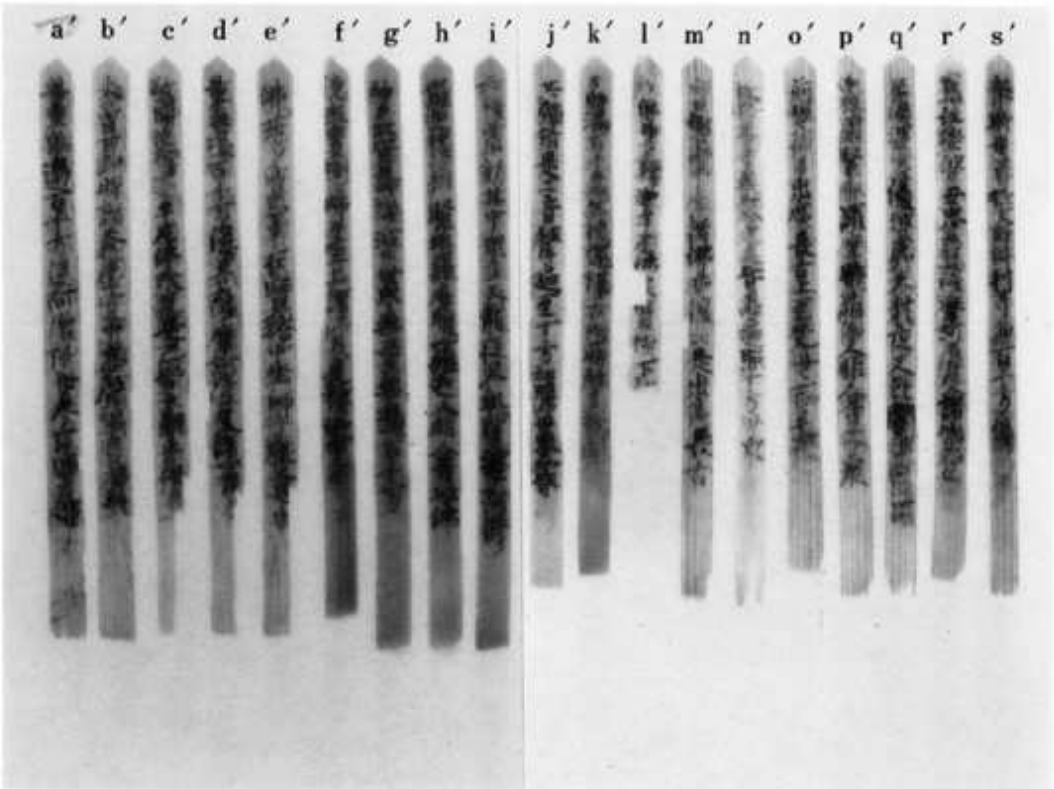
(1) 法華経常不軽菩薩品第二十　　巻第七之二（表面）



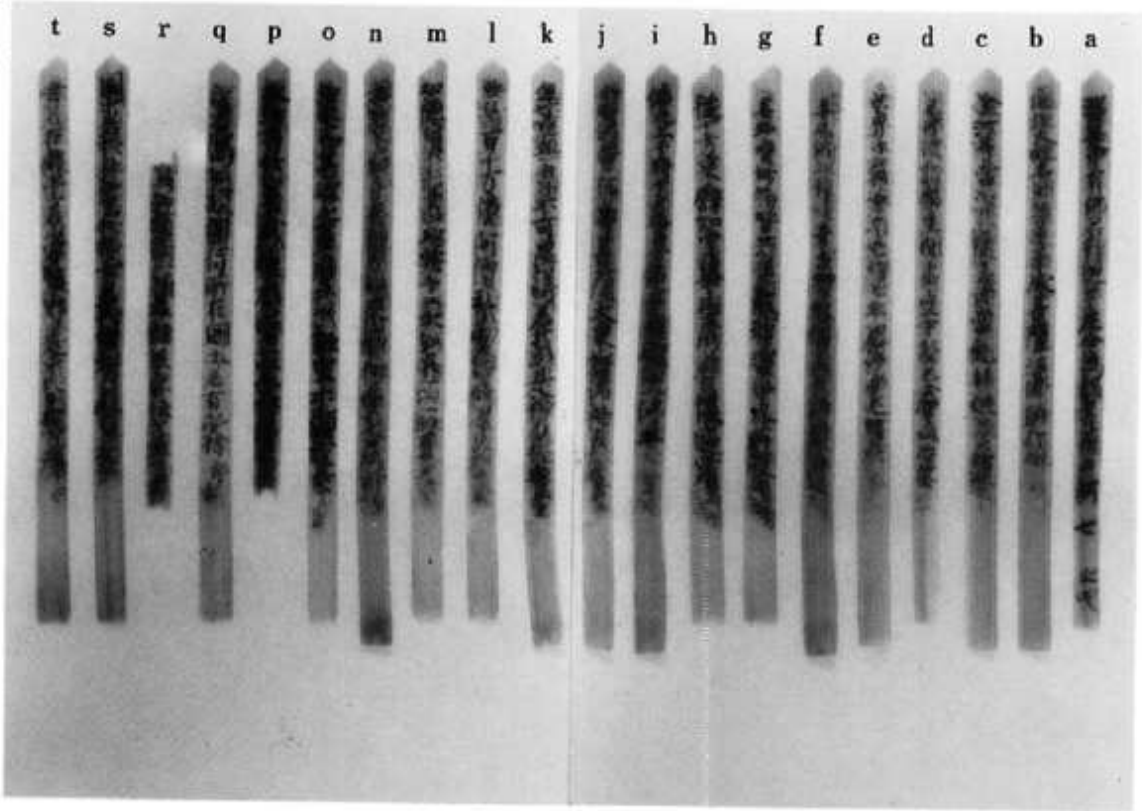
(2) 法華経常不軽菩薩品第二十　　巻第七之二（裏面）



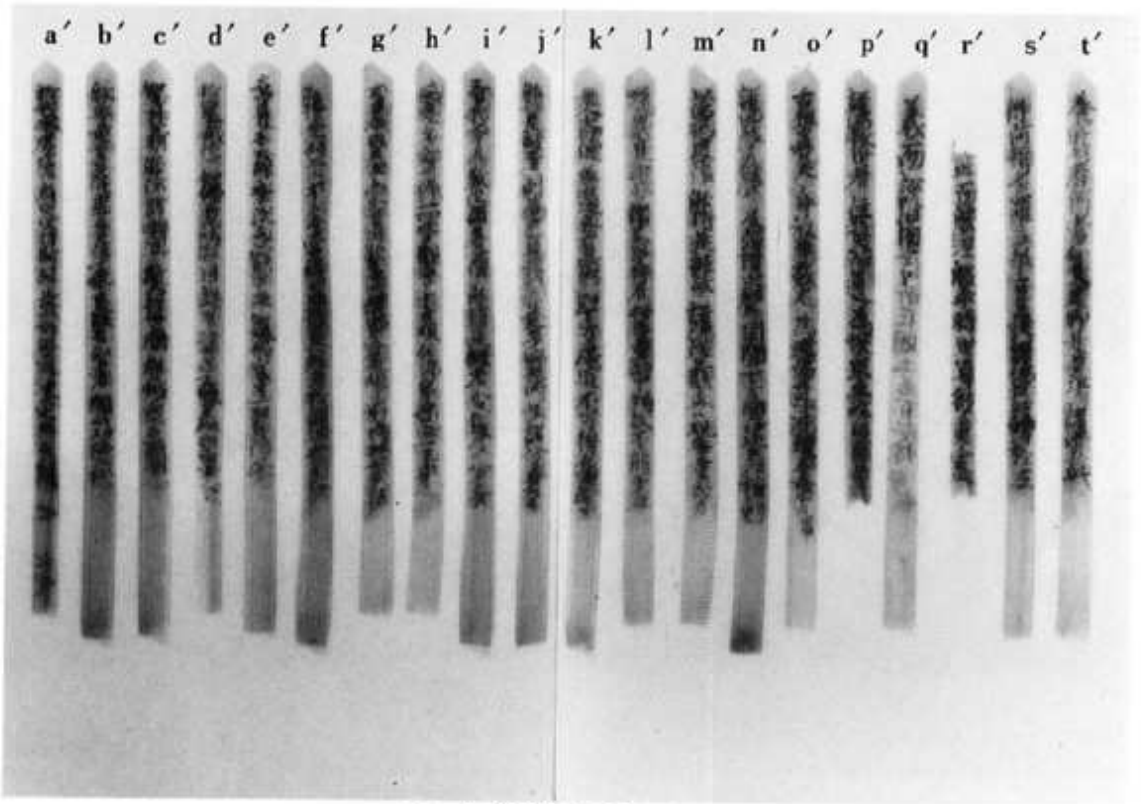
(1) 法華経常不軽菩薩品第二十，如来神力品第二十一 巻第七之三（表面）



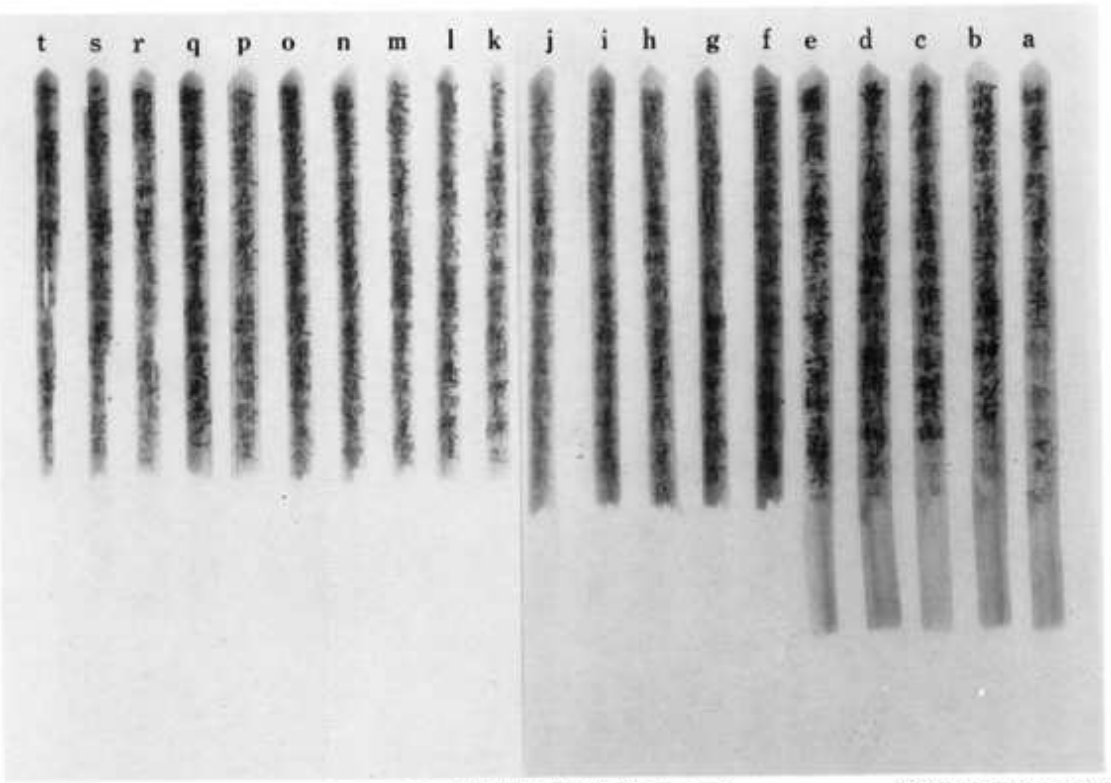
(2) 法華経如来神力品第二十一　　巻第七之三（裏面）



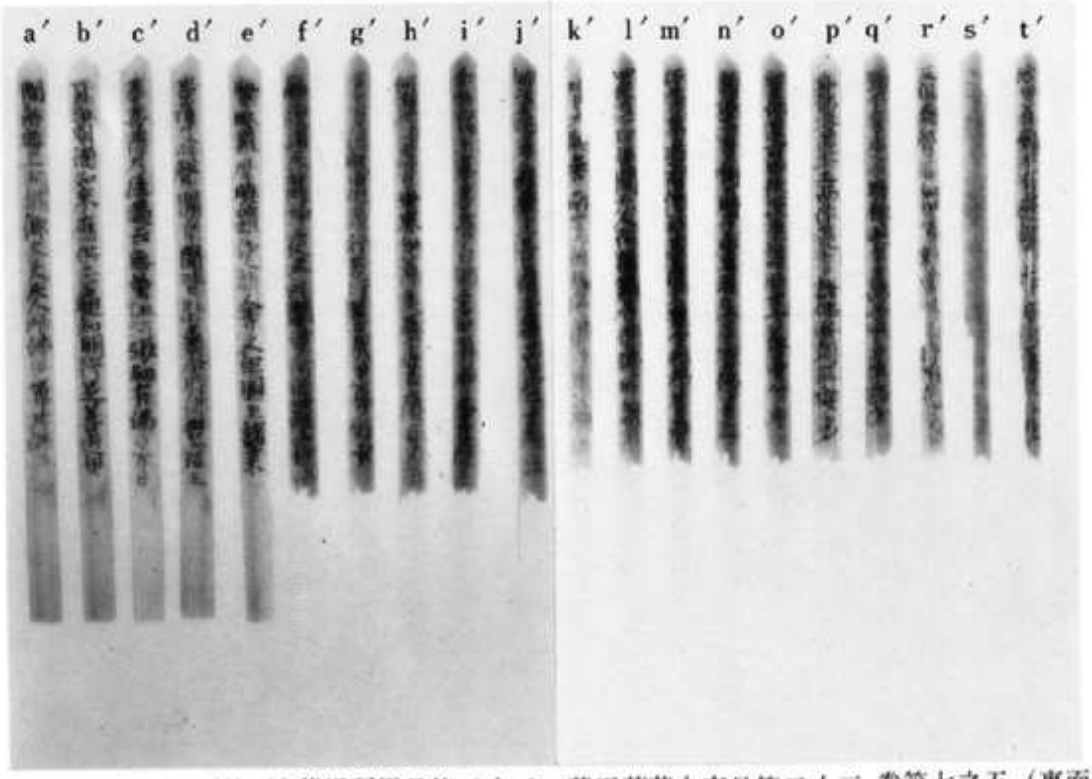
(1) 法華経如来神力品第二十一　　巻第七之四（表面）



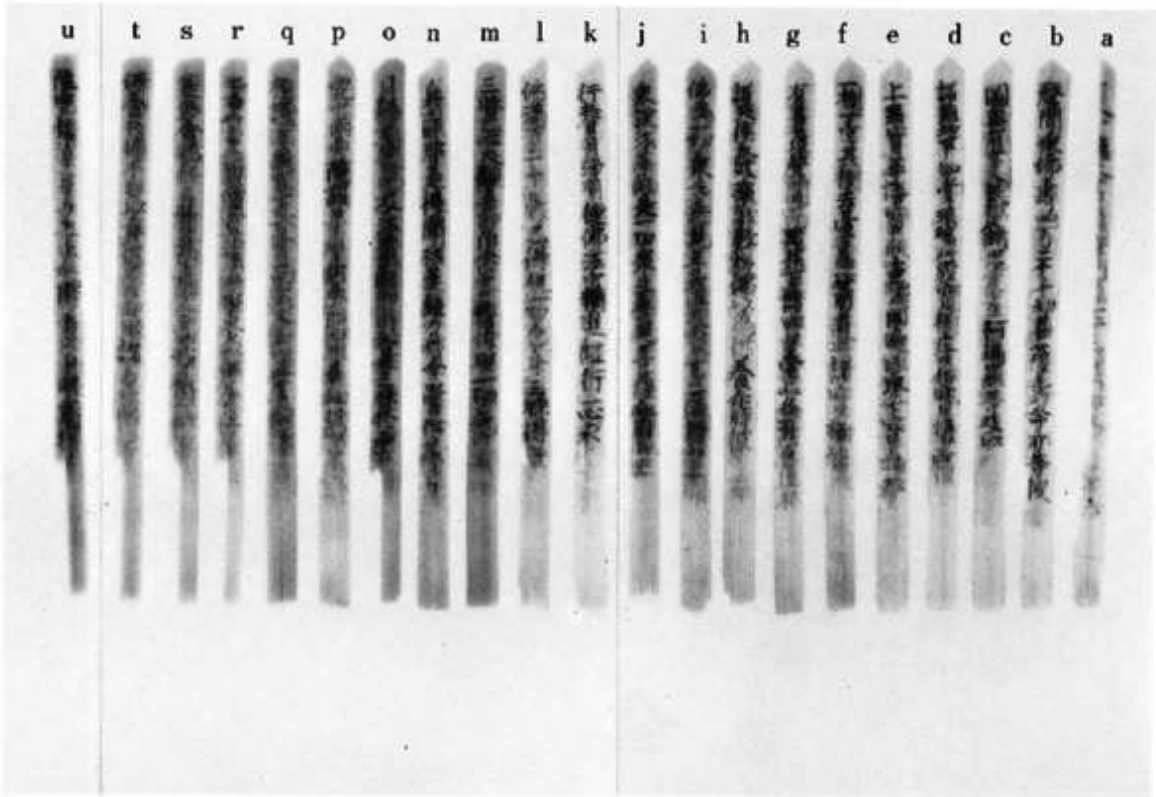
(2) 法華経如来神力品第二十一　　巻第七之四（裏面）



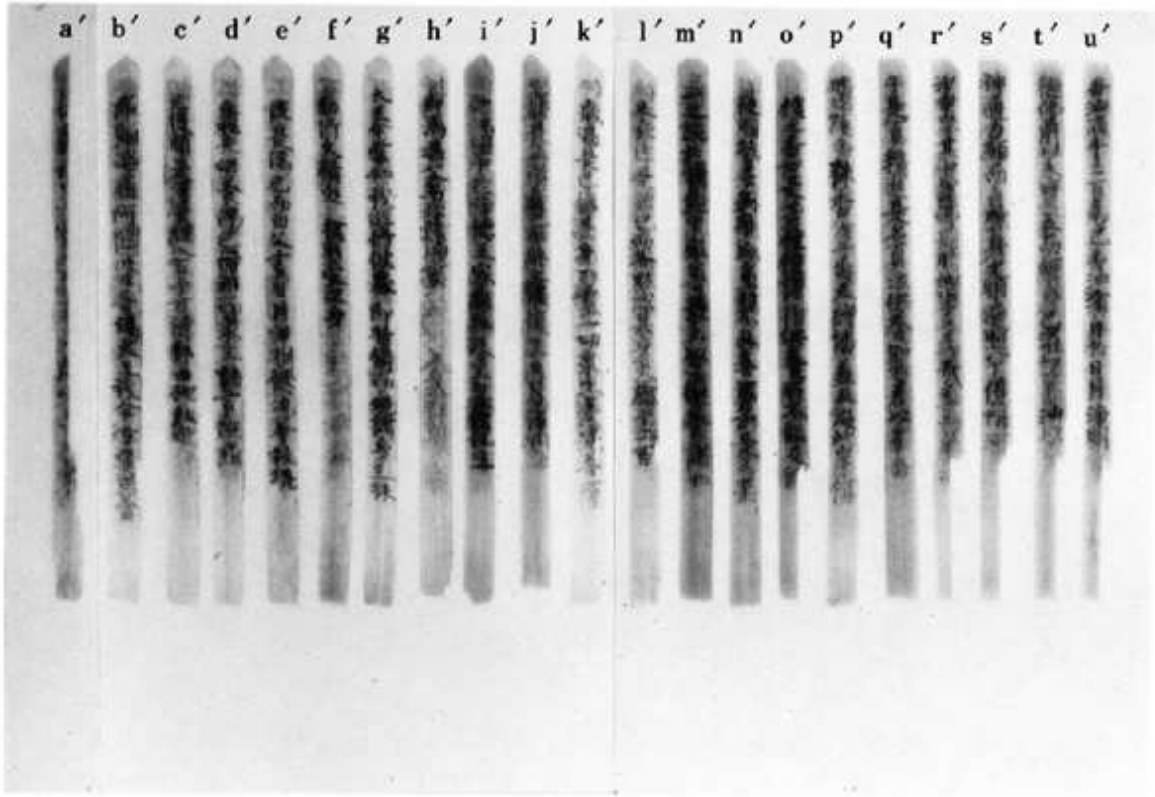
(1) 法華経嘱累品第二十二　　巻第七之五（表面）



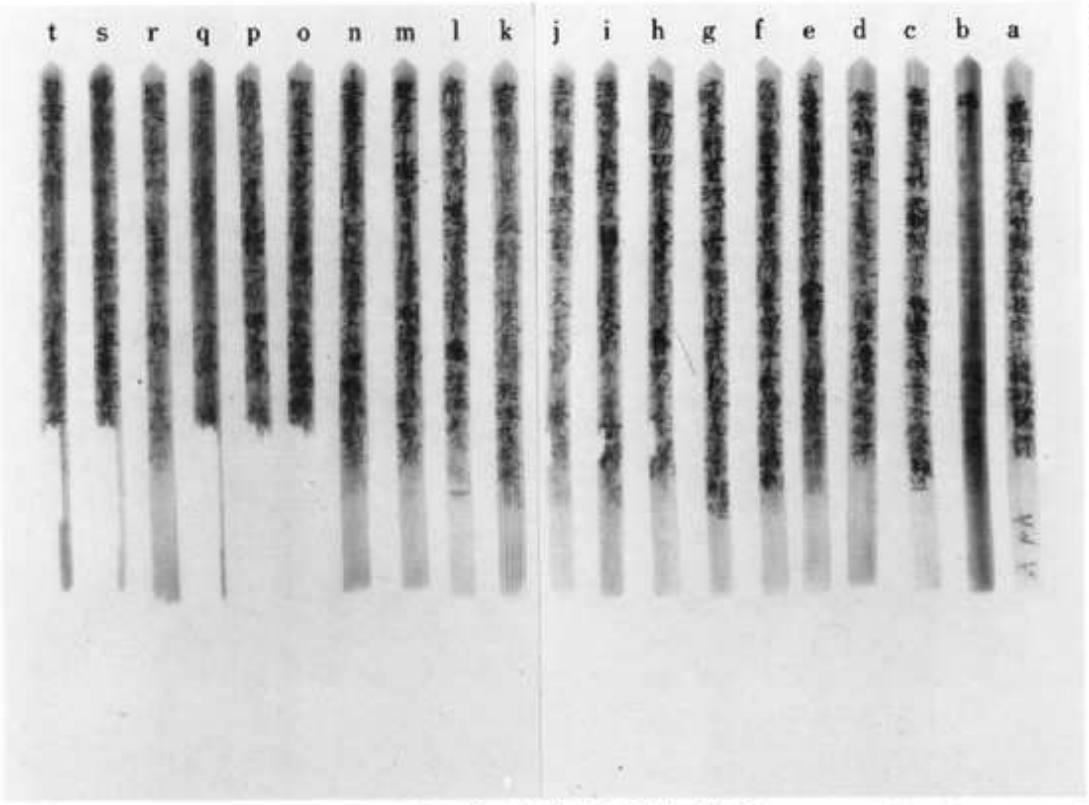
(2) 法華経嘱累品第二十二，薬王菩薩本事品第二十三　巻第七之五（裏面）



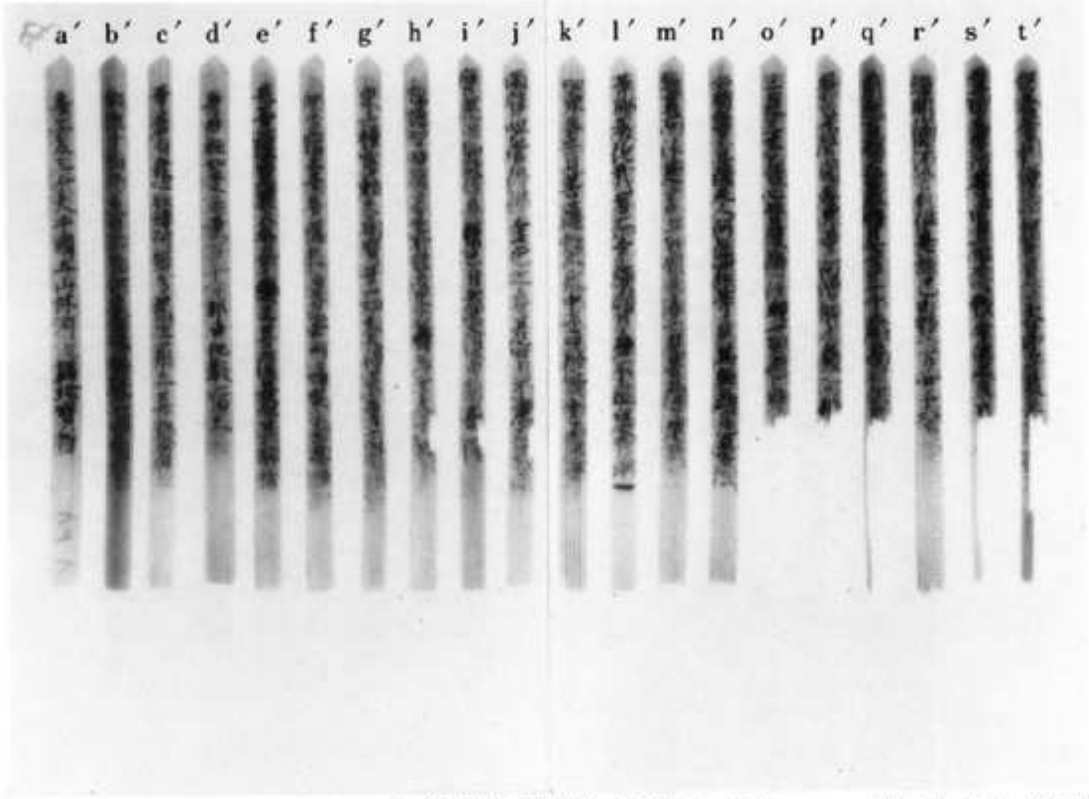
(1) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之六（表面）



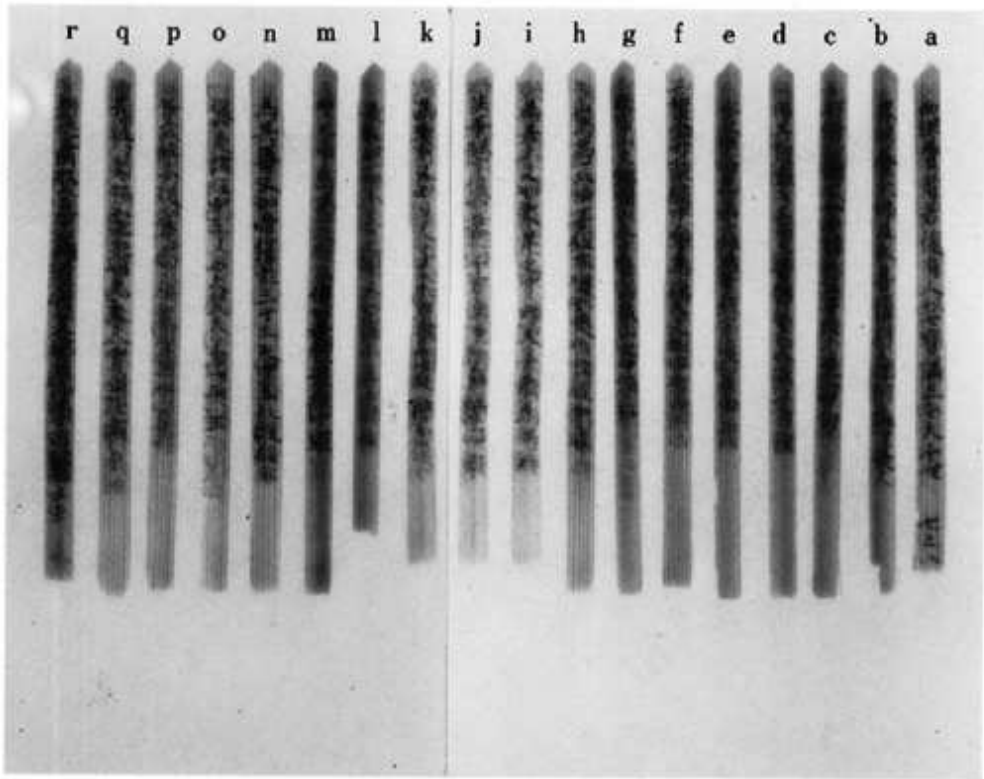
(2) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之六（裏面）



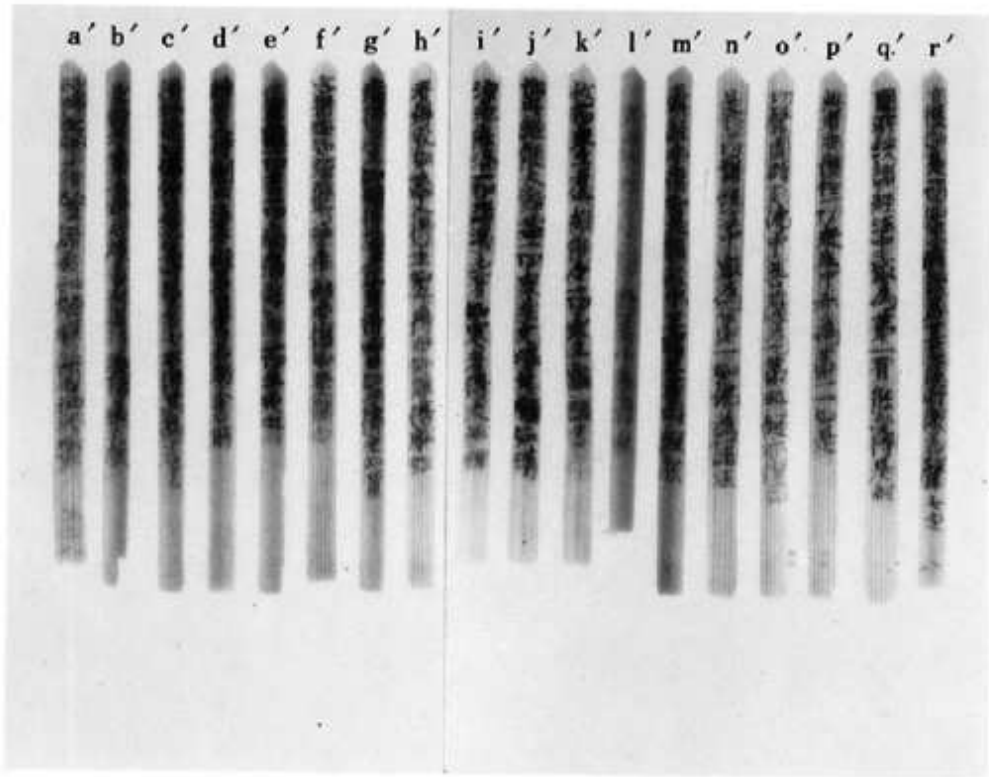
(1) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之七（表面）



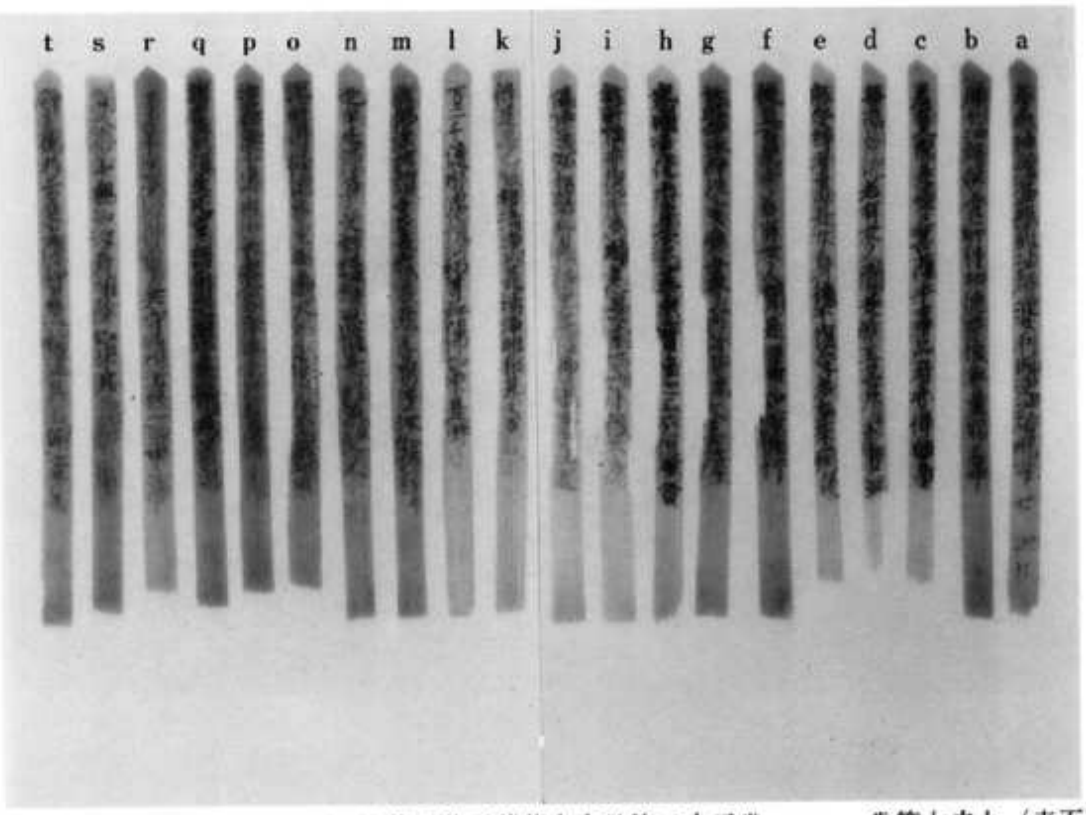
(2) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之七（裏面）



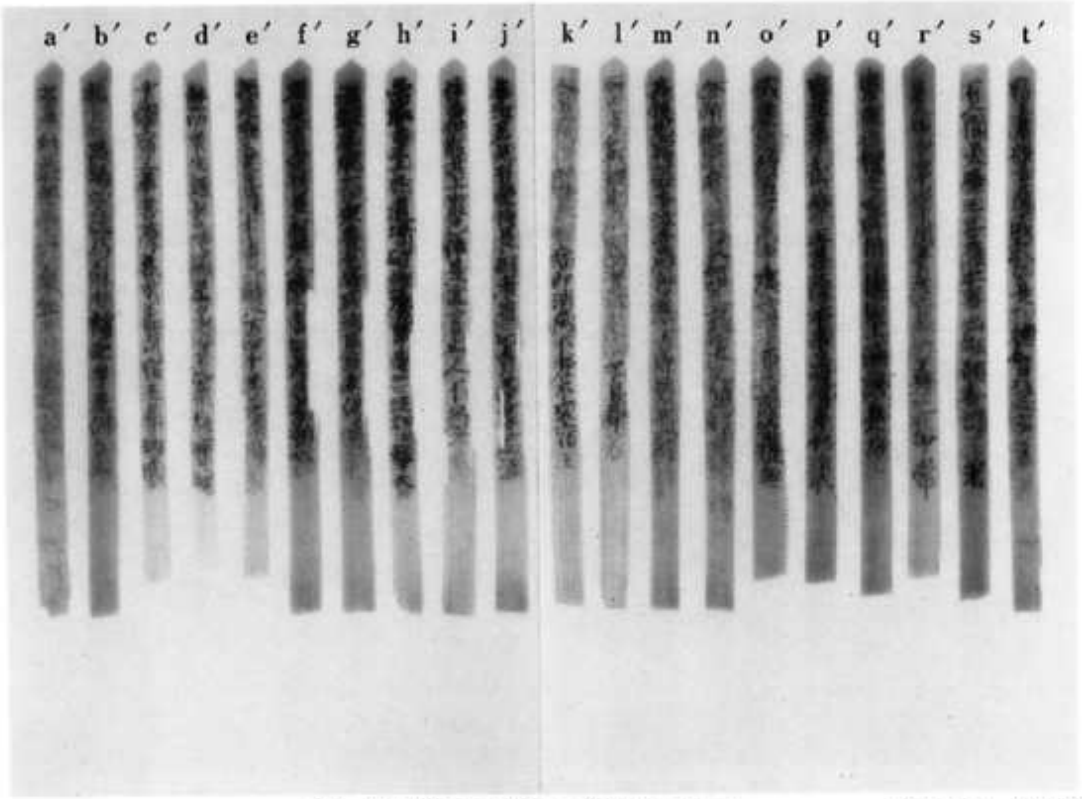
(1) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之八（表面）



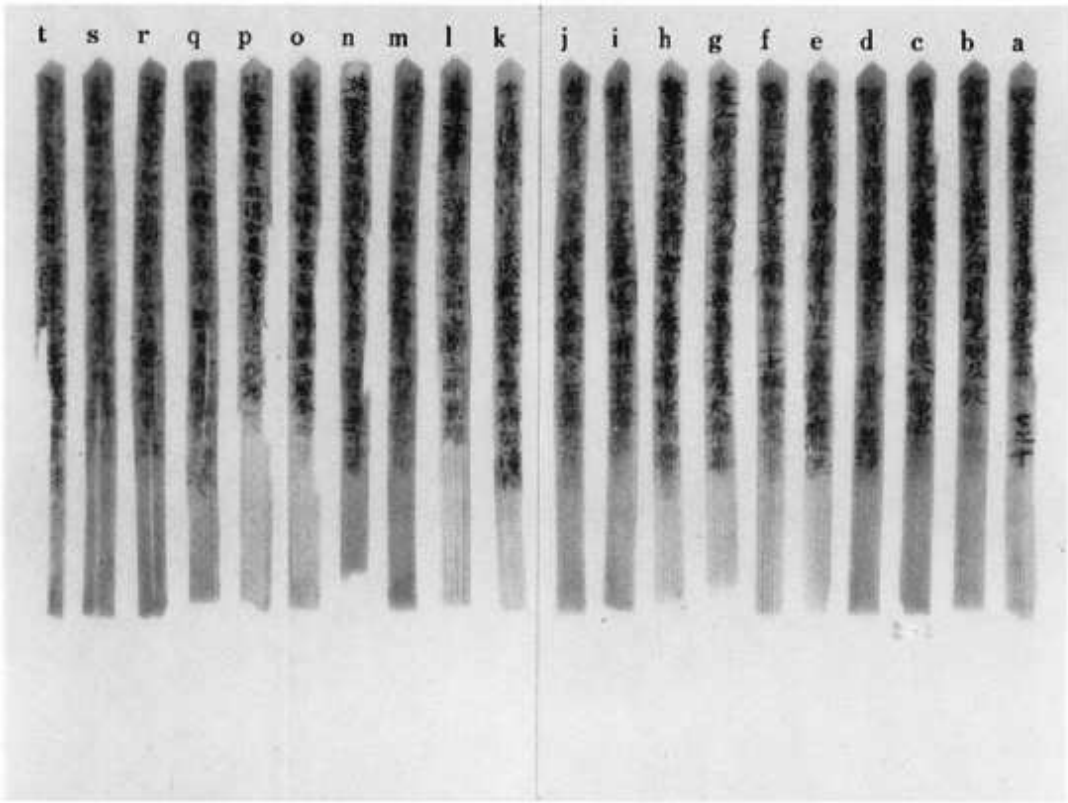
(2) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻第七之八（裏面）



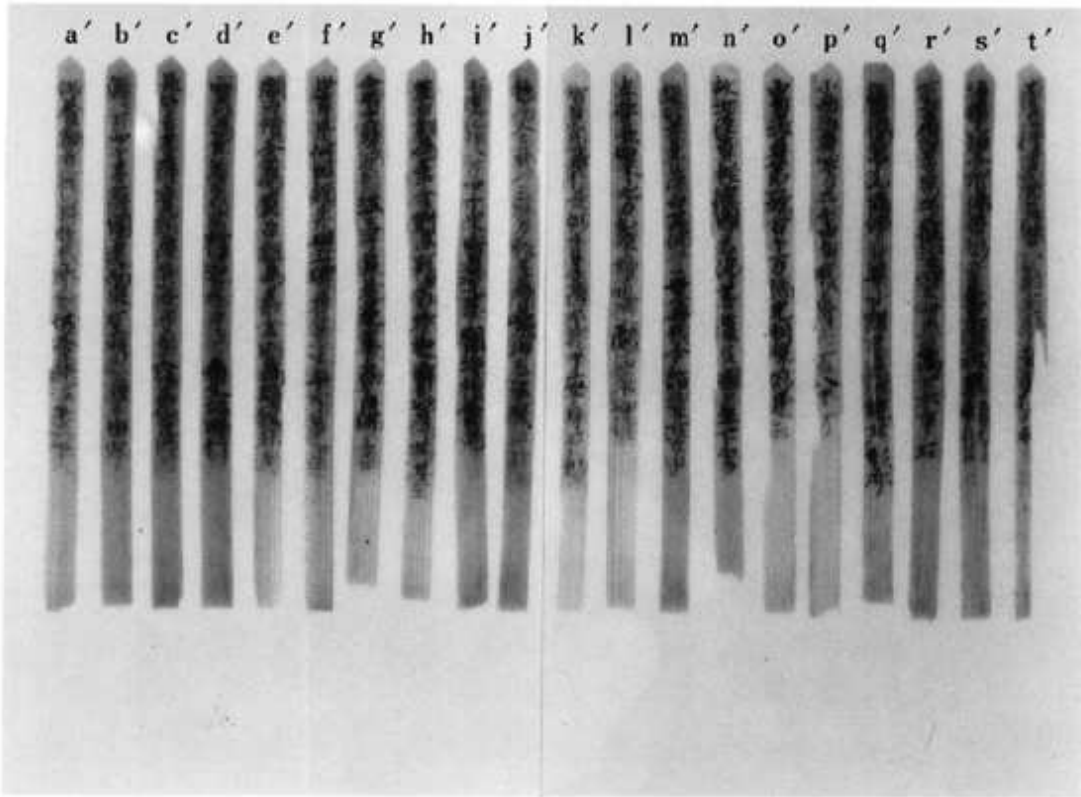
(1) 法華経薬王菩薩本事品第二十三巻　　巻第七之九（表面）



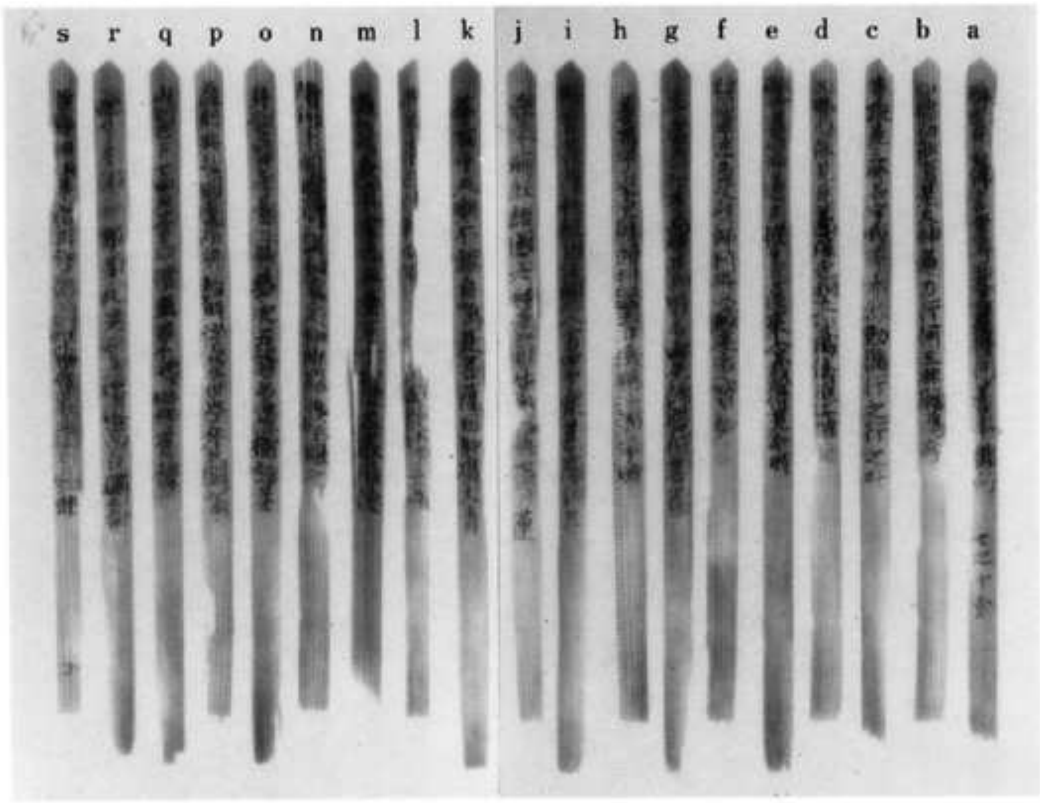
(2) 法華経薬王菩薩本事品第二十三　　巻七之九（裏面）



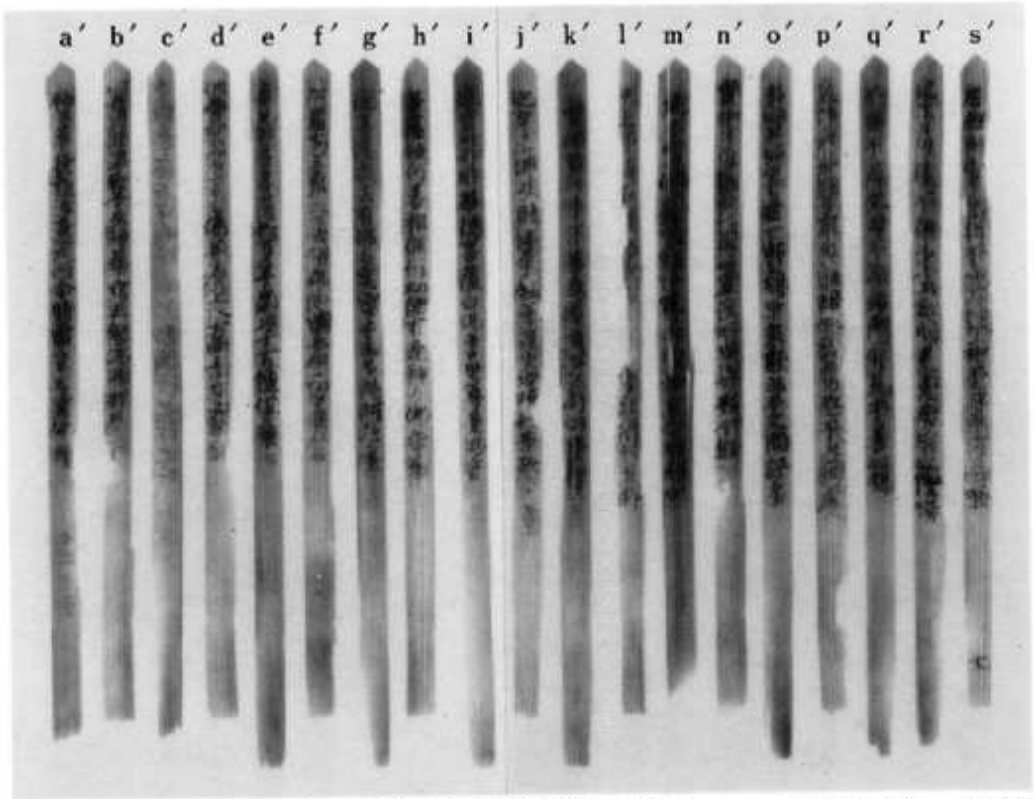
(1) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十（表面）



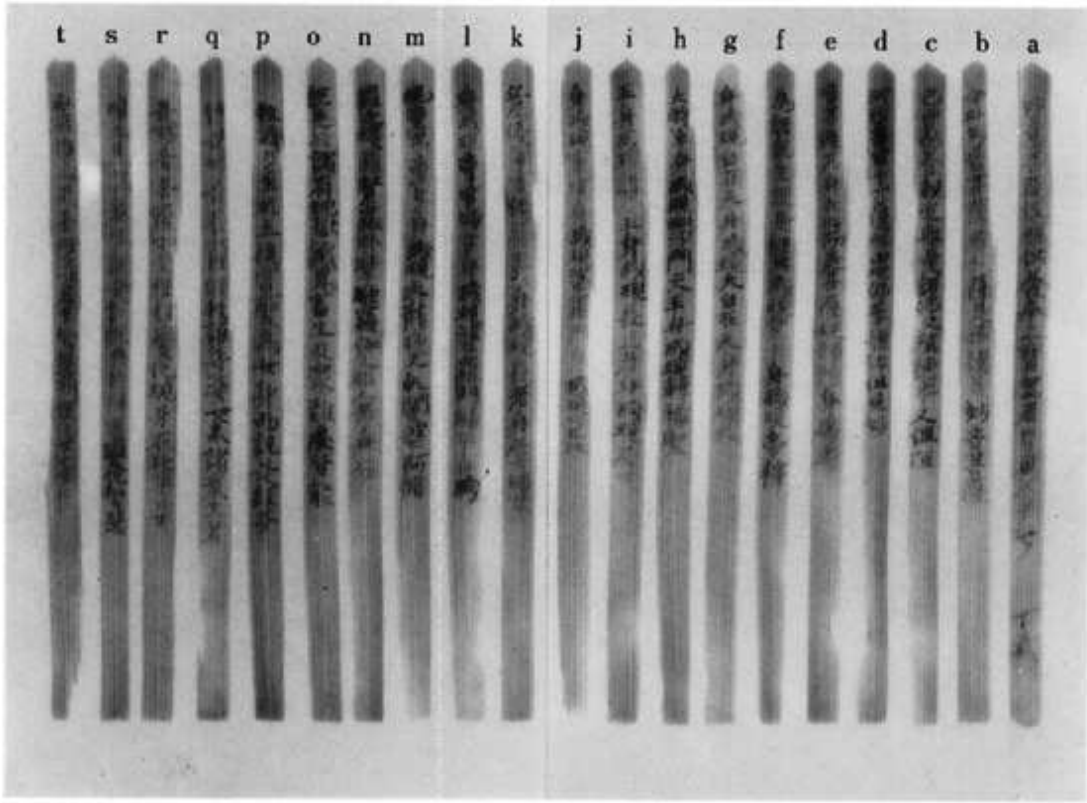
(2) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十（裏面）



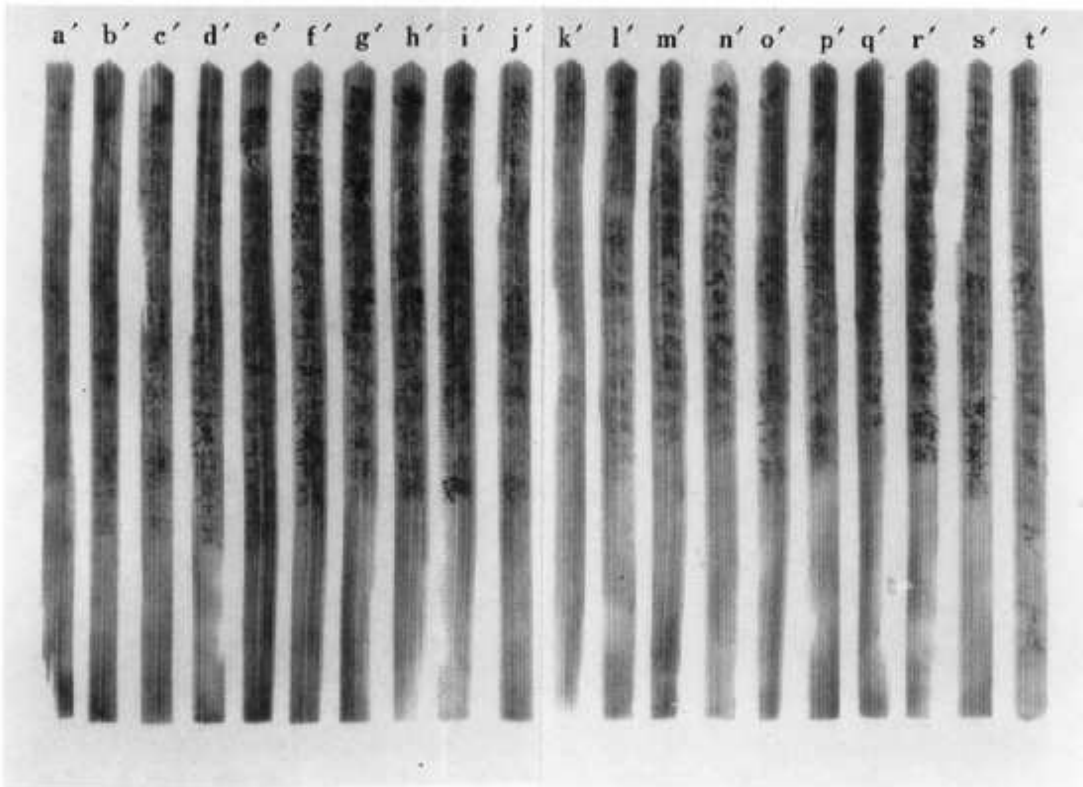
(1) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十一（表面）



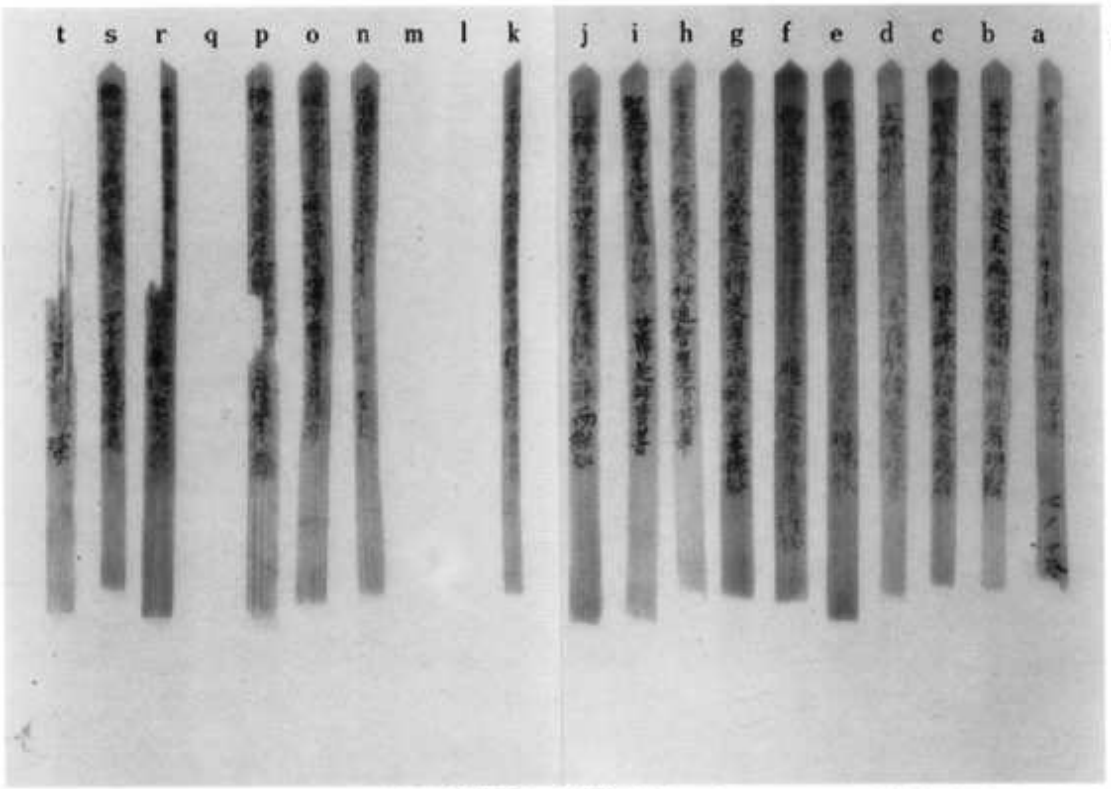
(2) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十一（裏面）



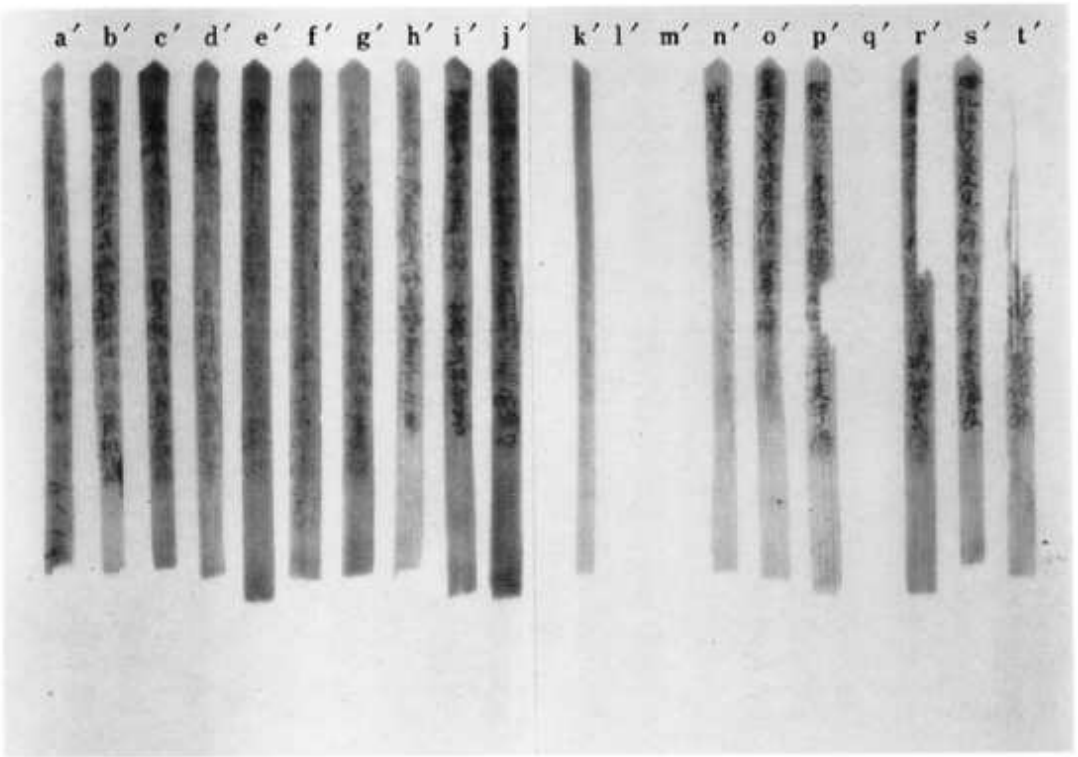
(1) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十二（表面）



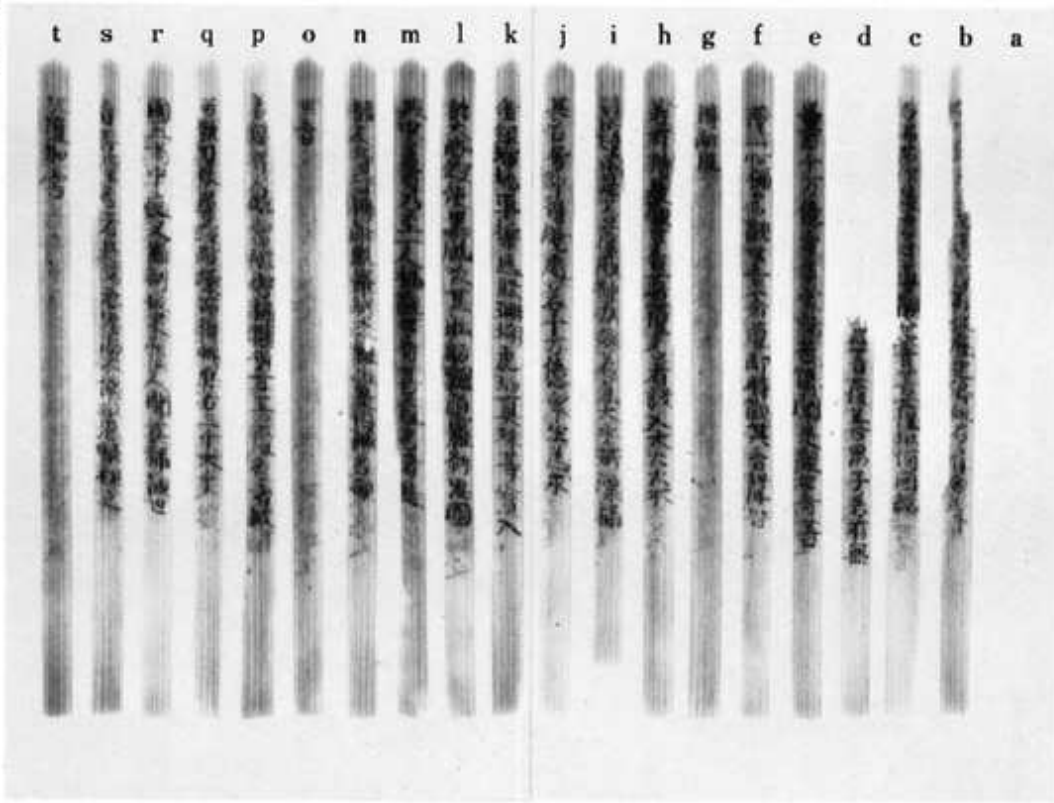
(2) 未　記　入　　巻第七之十二（裏面）



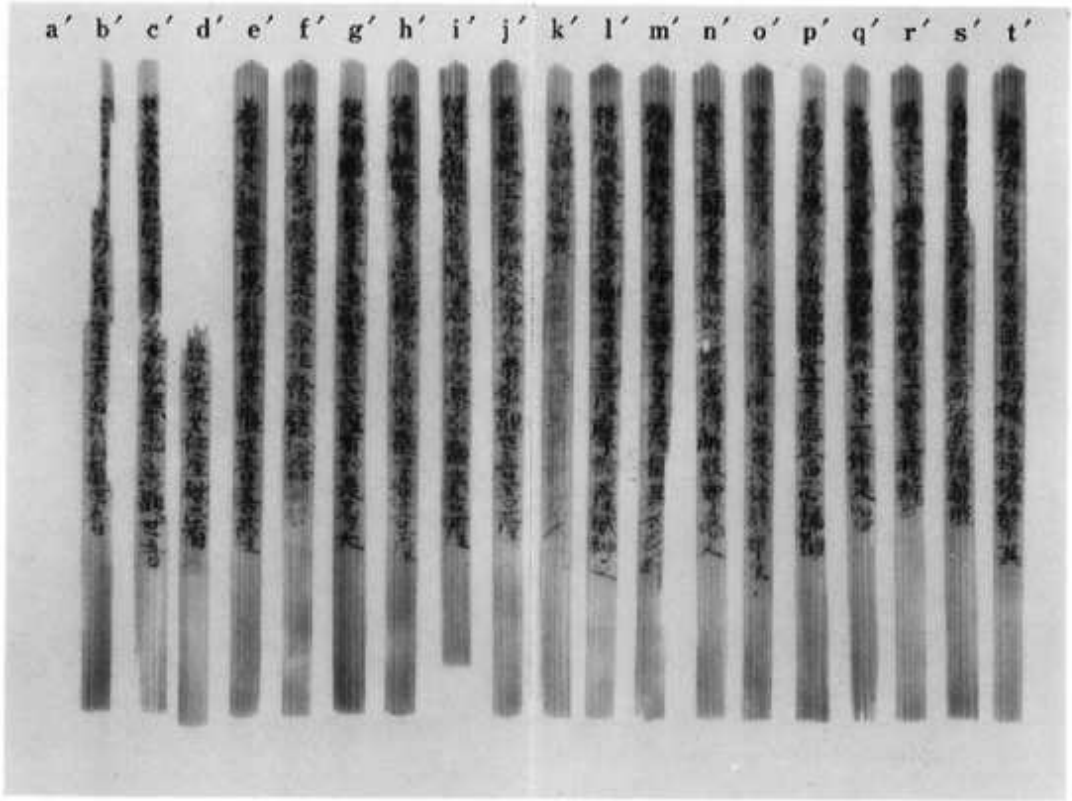
(1) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十三（表面）



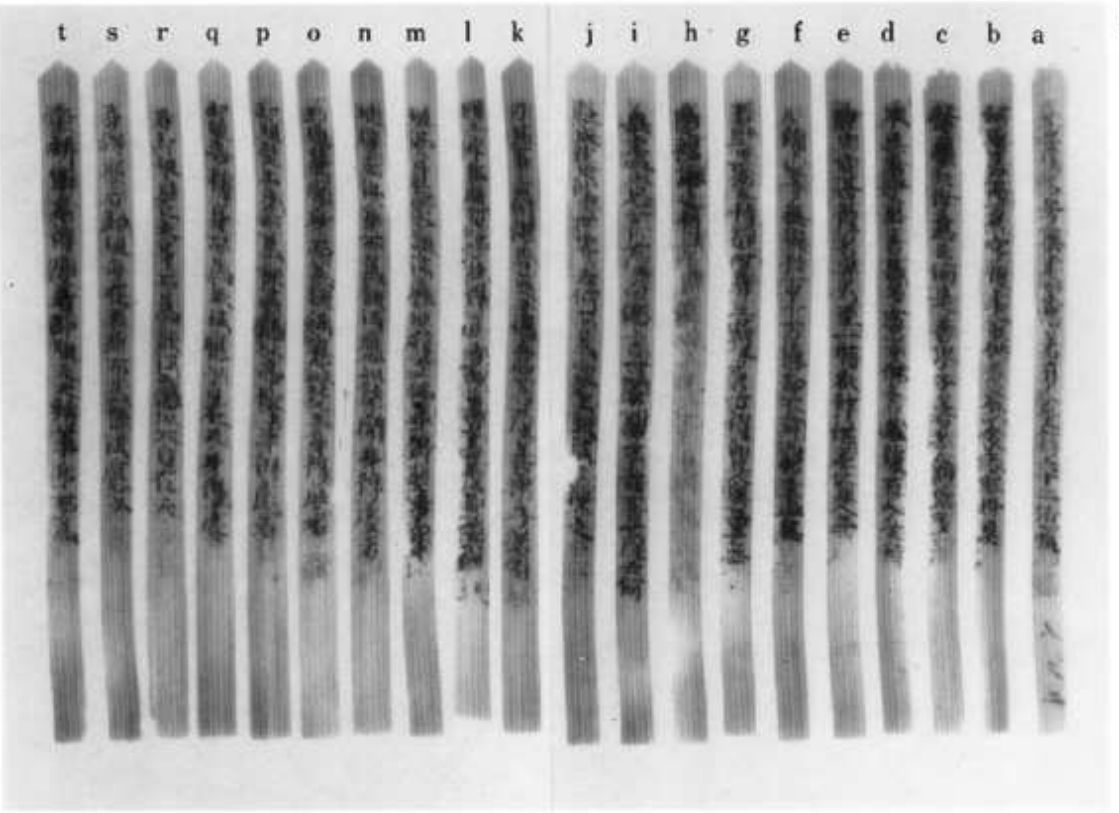
(2) 法華経妙音菩薩品第二十四　　巻第七之十三（裏面）



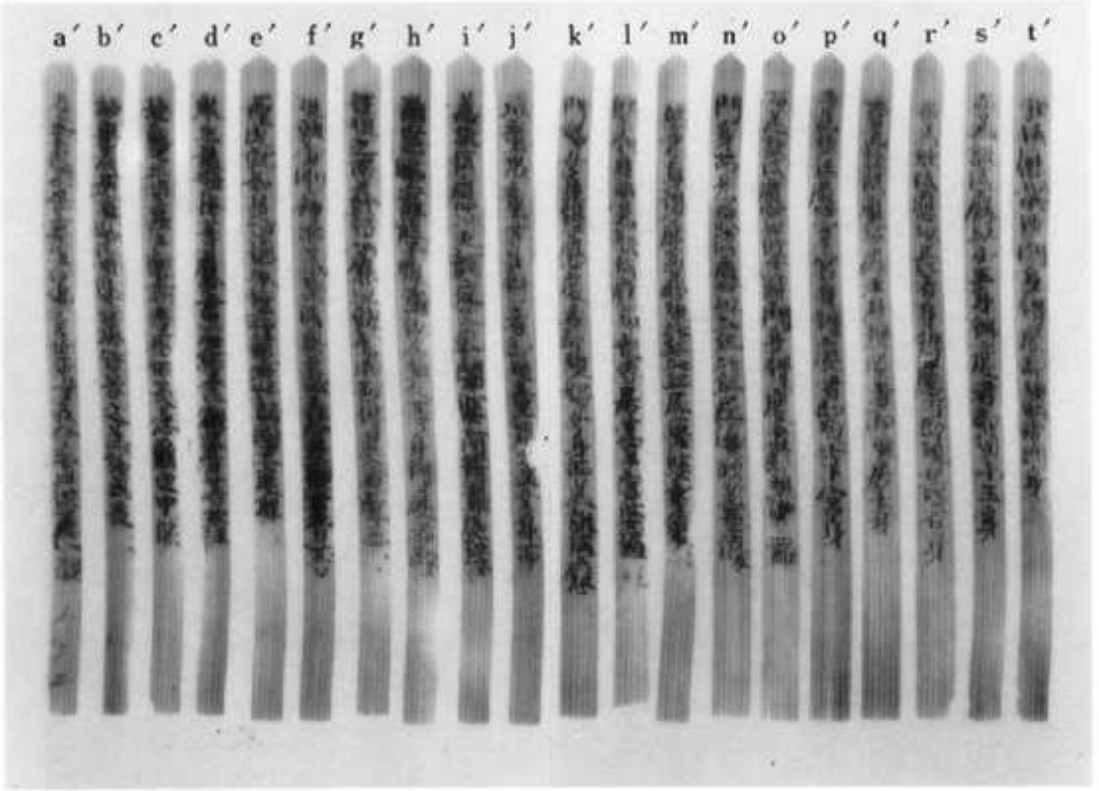
(1) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之一（表面）



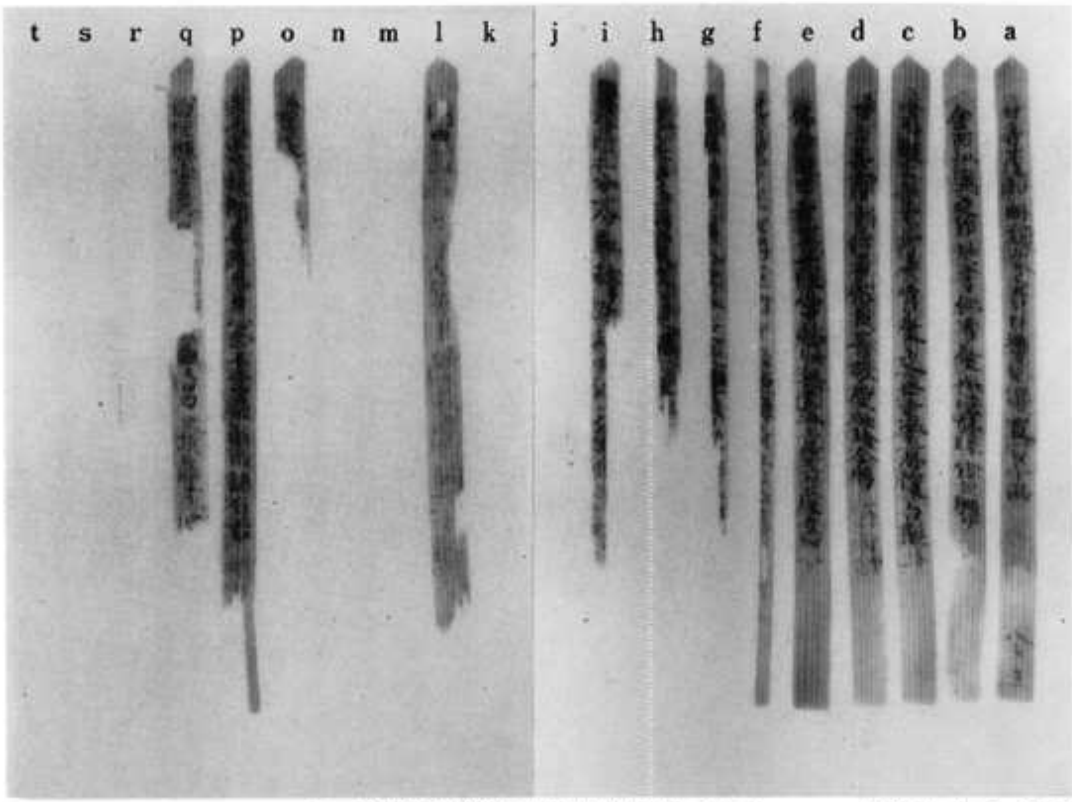
(2) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之一（裏面）



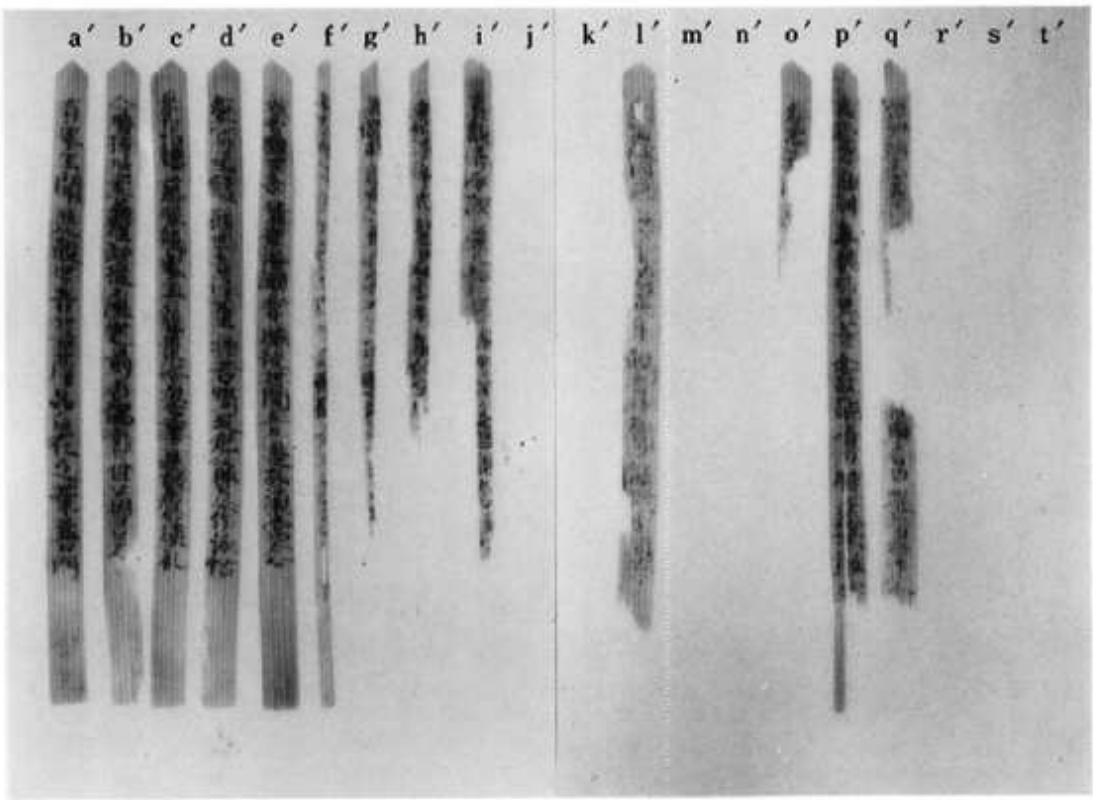
(1) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之二（表面）



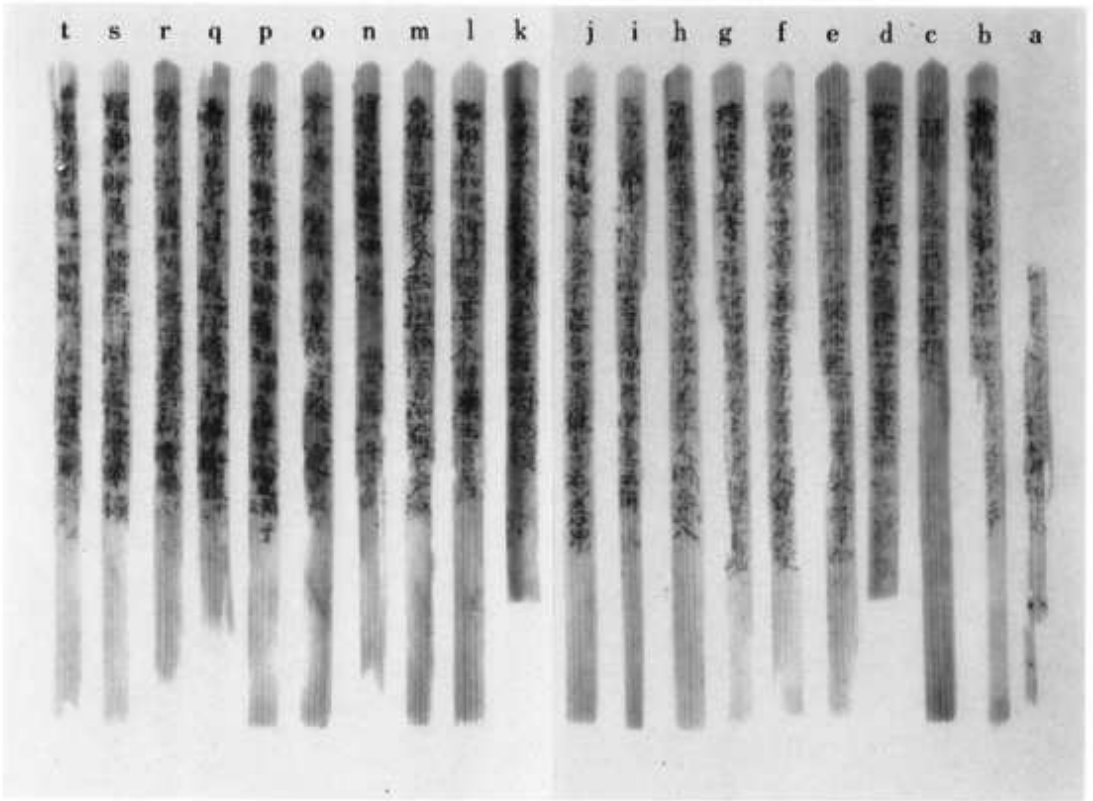
(2) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之二（裏面）



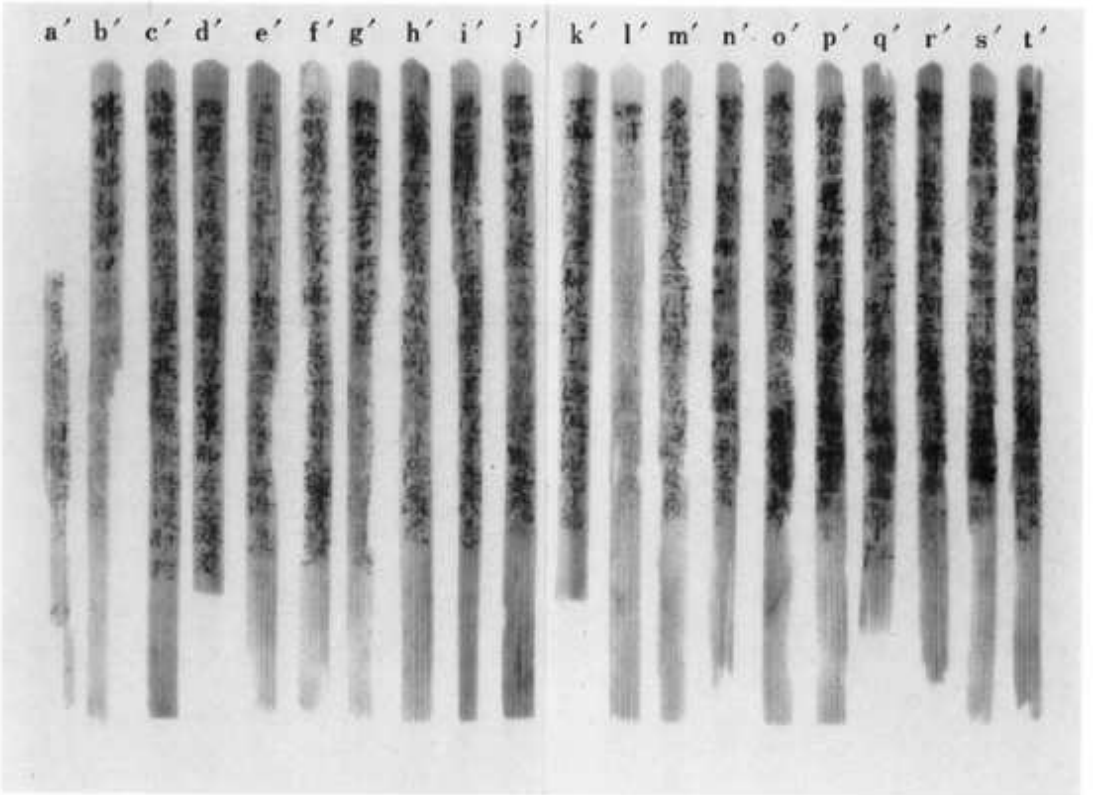
(1) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之三（表面）



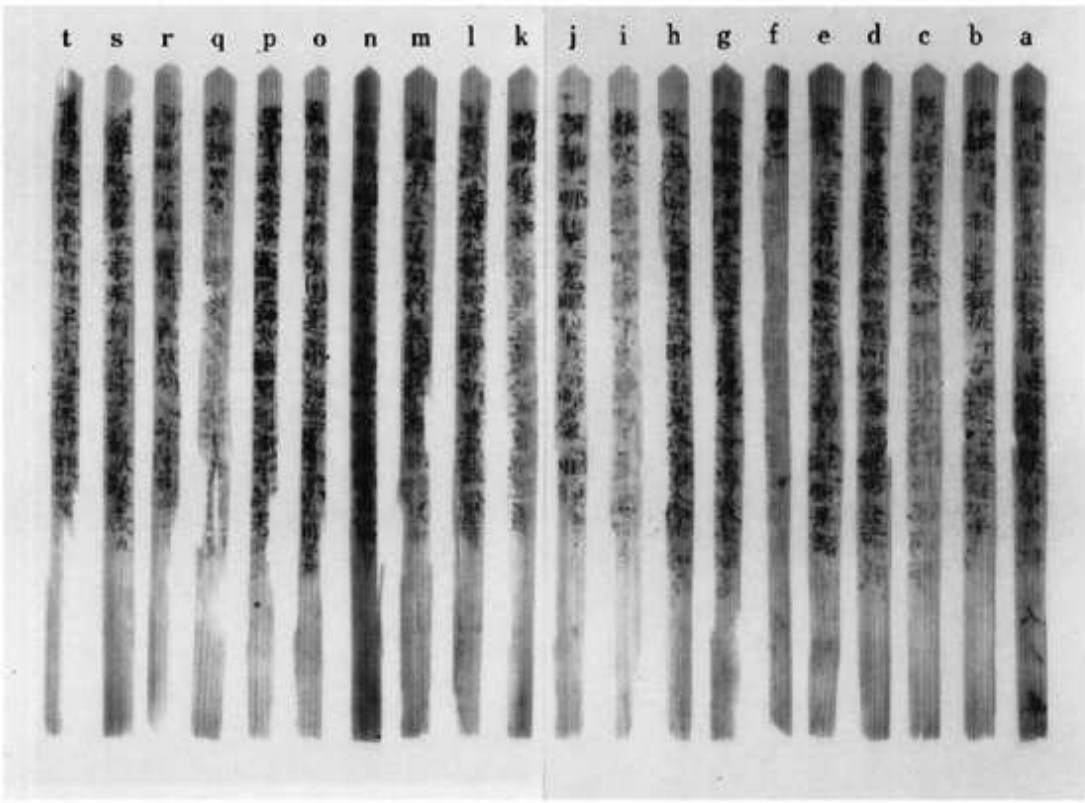
(2) 法華経観世音菩薩普門品第二十五　　巻第八之三（裏面）



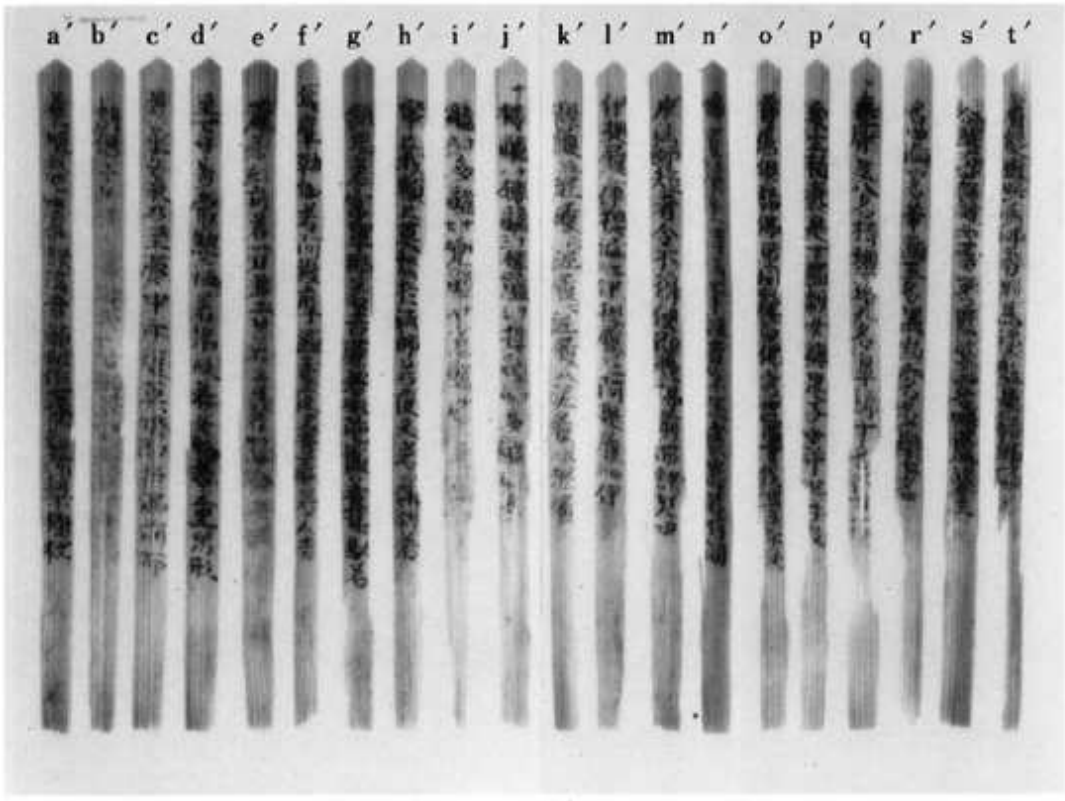
(1) 法華経観世音菩薩普門品第二十五，陀羅尼品第二十六 巻第八之四（表面）



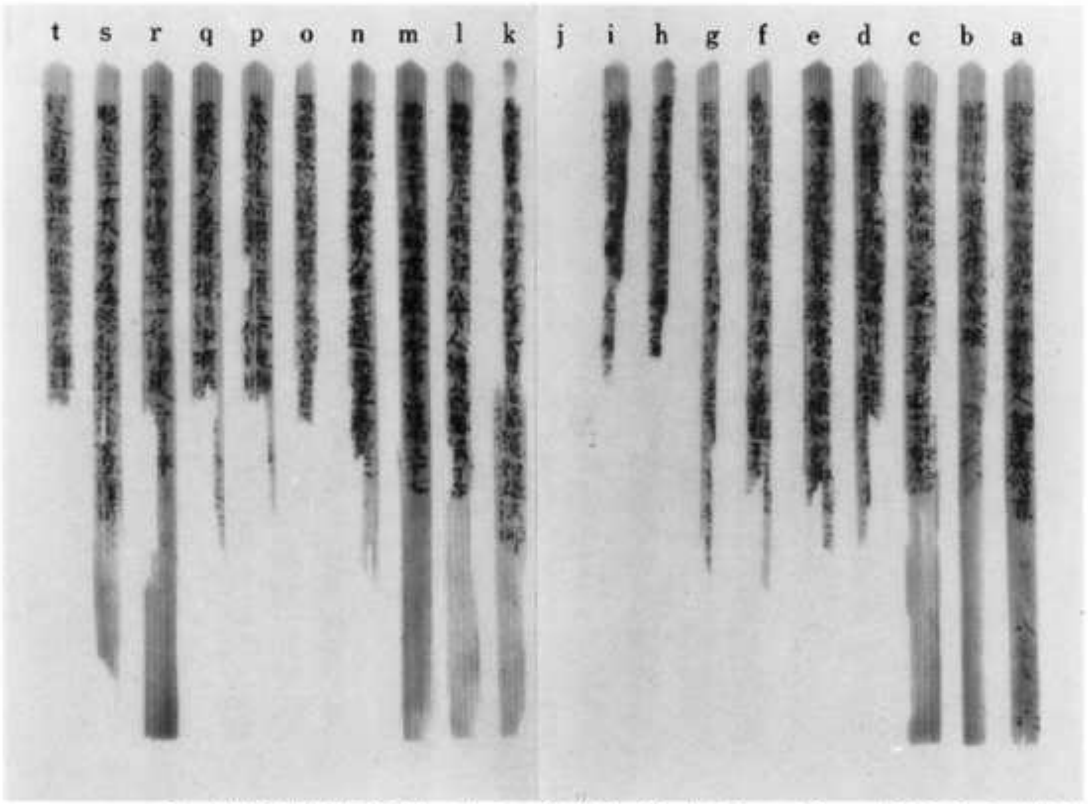
(2) 法華経陀羅尼品第二十六　　巻第八之四（裏面）



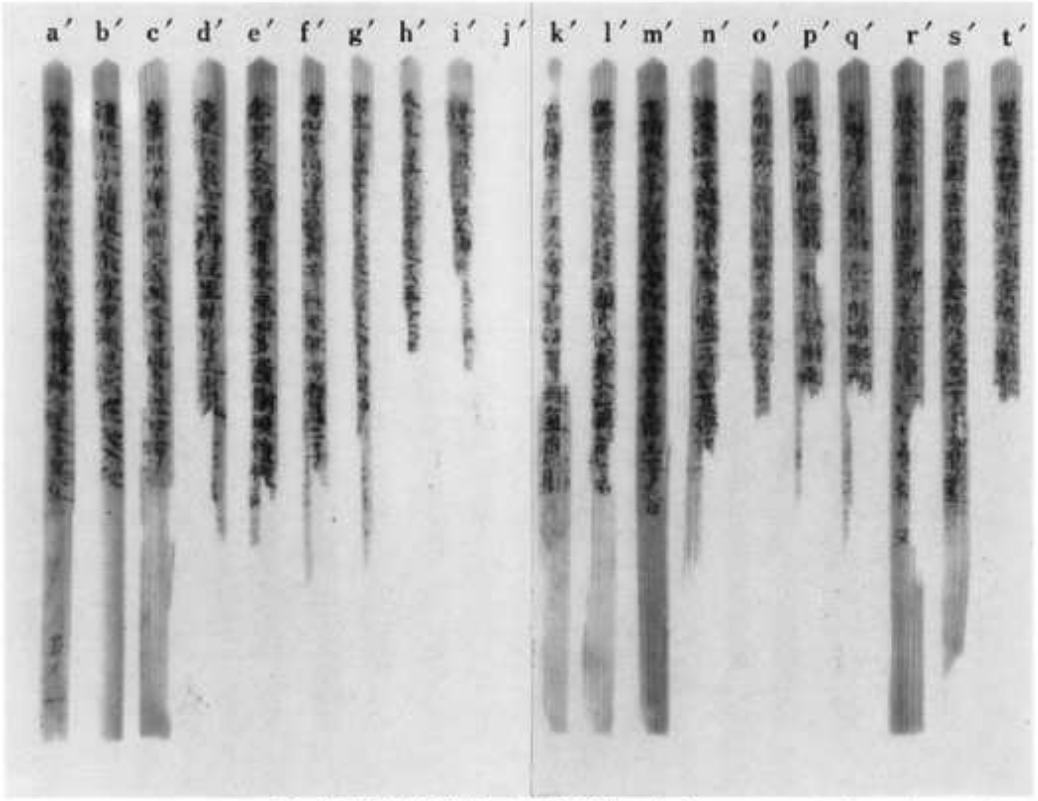
(1) 法華経陀羅尼品第二十六　　巻第八之五（表面）



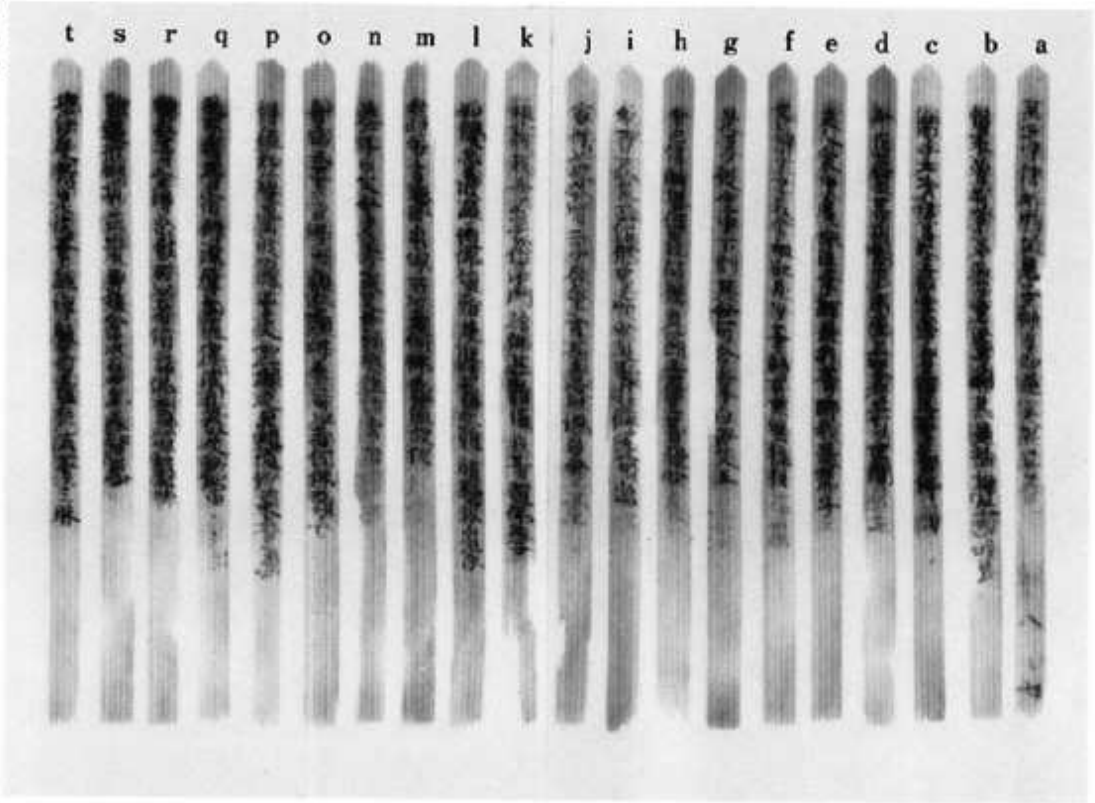
(2) 法華経陀羅尼品第二十六　　巻第八之五（裏面）



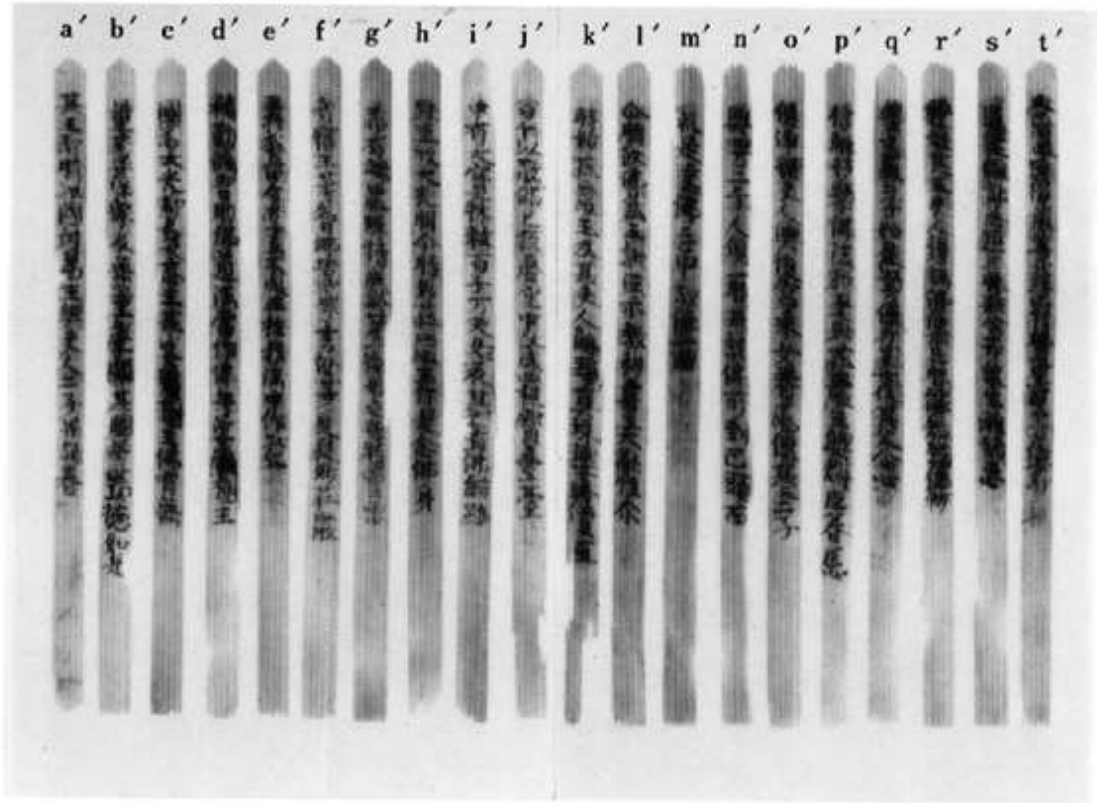
(1) 法華経陀羅尼品第二十六，妙荘厳王本事品第二十七　巻第八之六（表面）



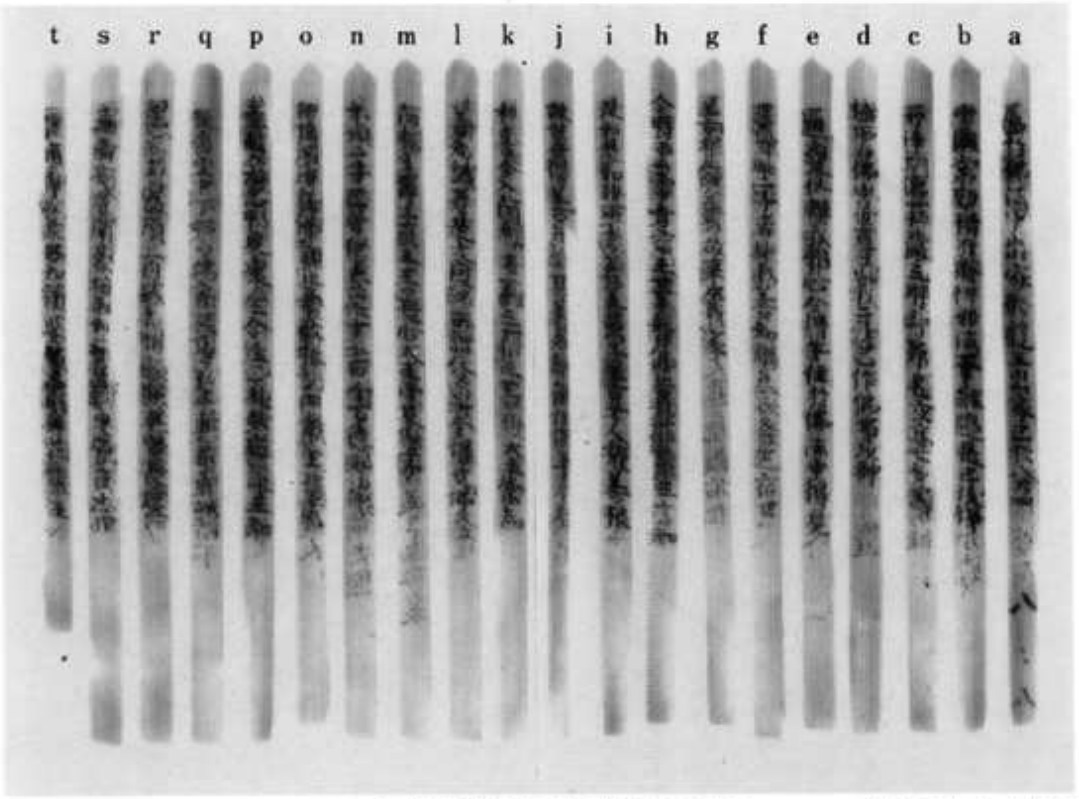
(2) 法華経妙荘厳王本事品第二十七　　巻第八之六（裏面）



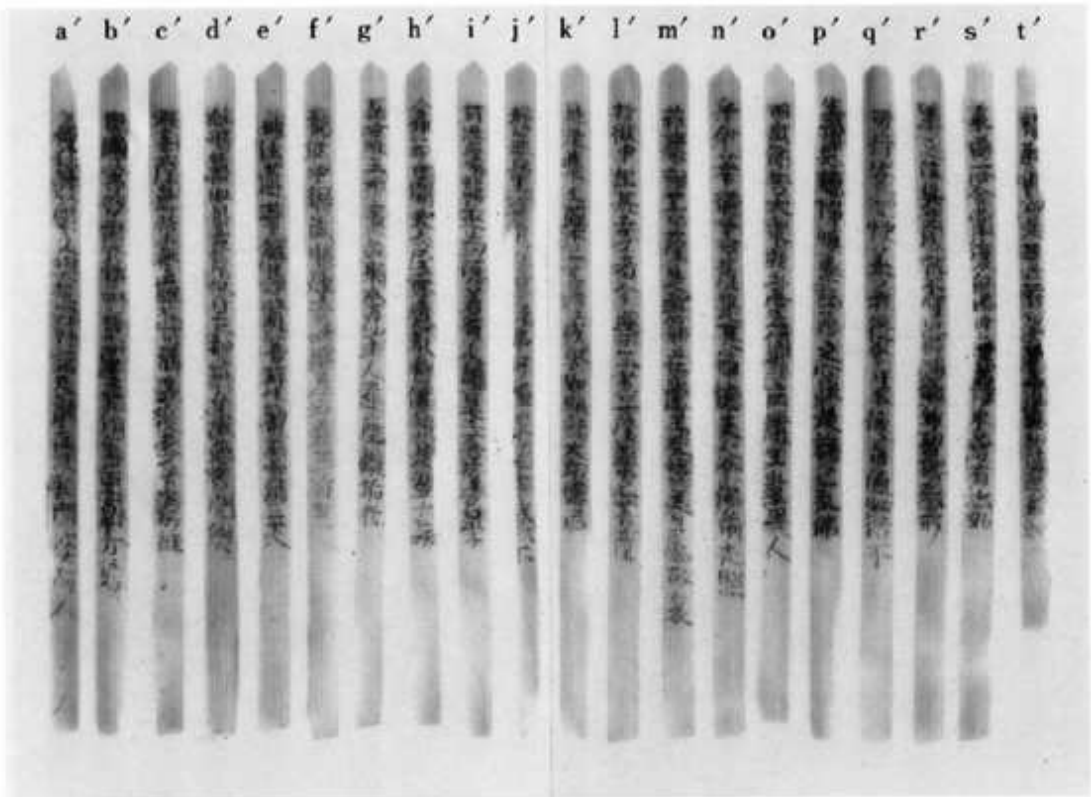
(1) 法華経妙荘厳王本事品第二十七　　巻第八之七（表面）



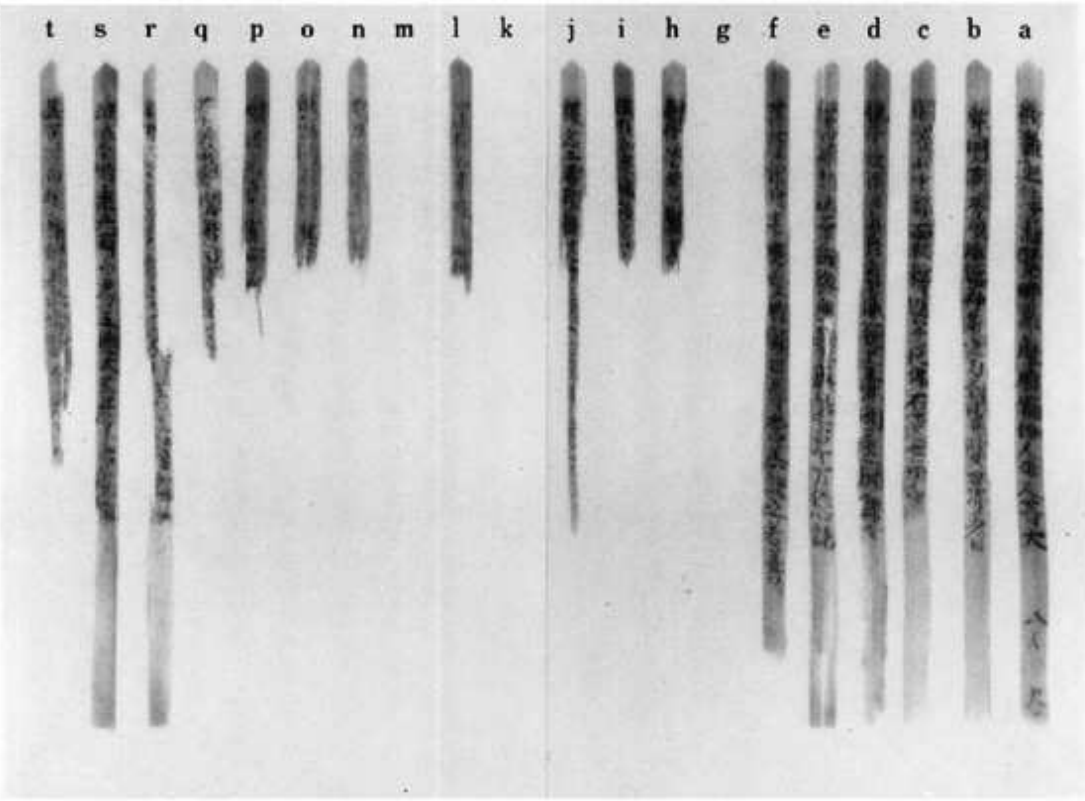
(2) 法華経妙荘厳王本事品第二十七　　巻第八之七（裏面）



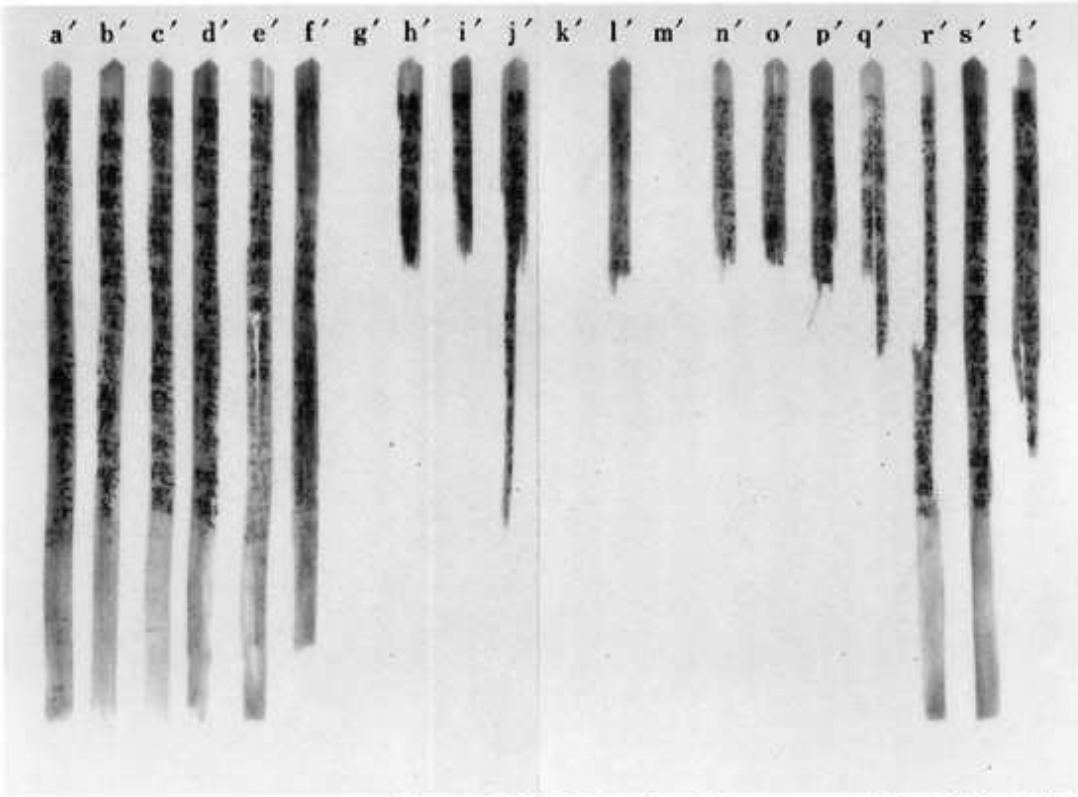
(1) 法華経妙荘厳王本事品第二十七　　巻第八之八（表面）



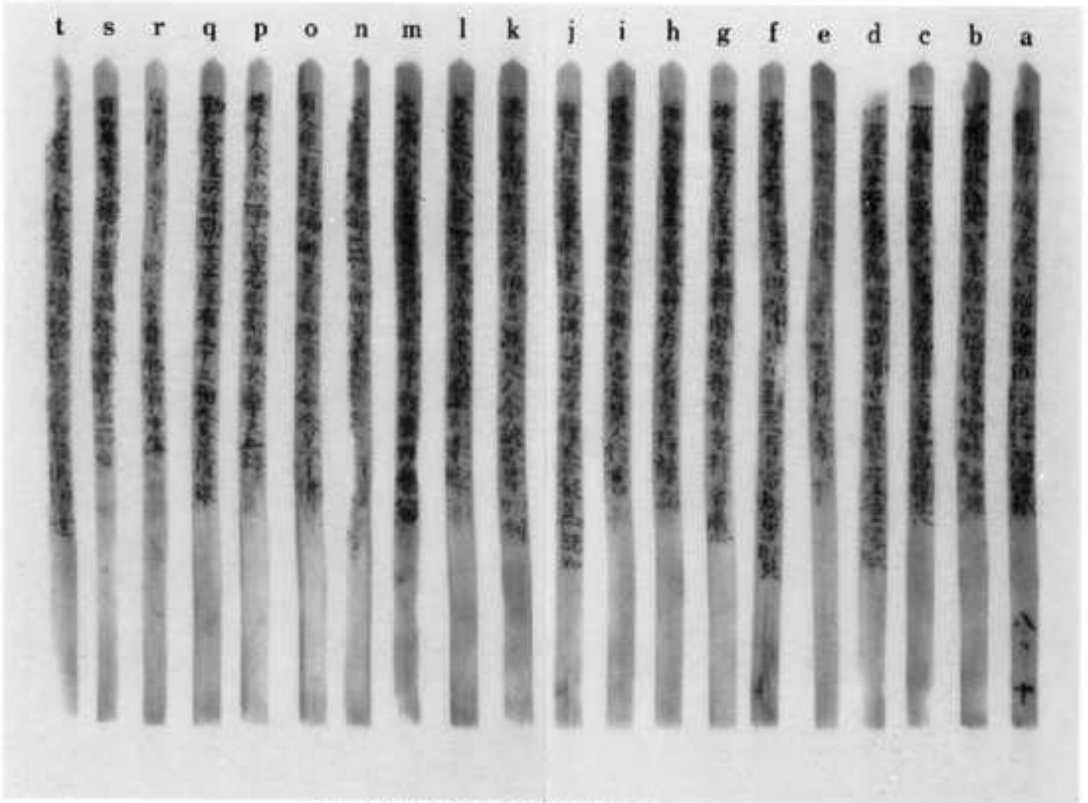
(2) 法華経好荘厳王本事品第二十七，普賢菩薩勧発品第二十八　巻第八之八（裏面）



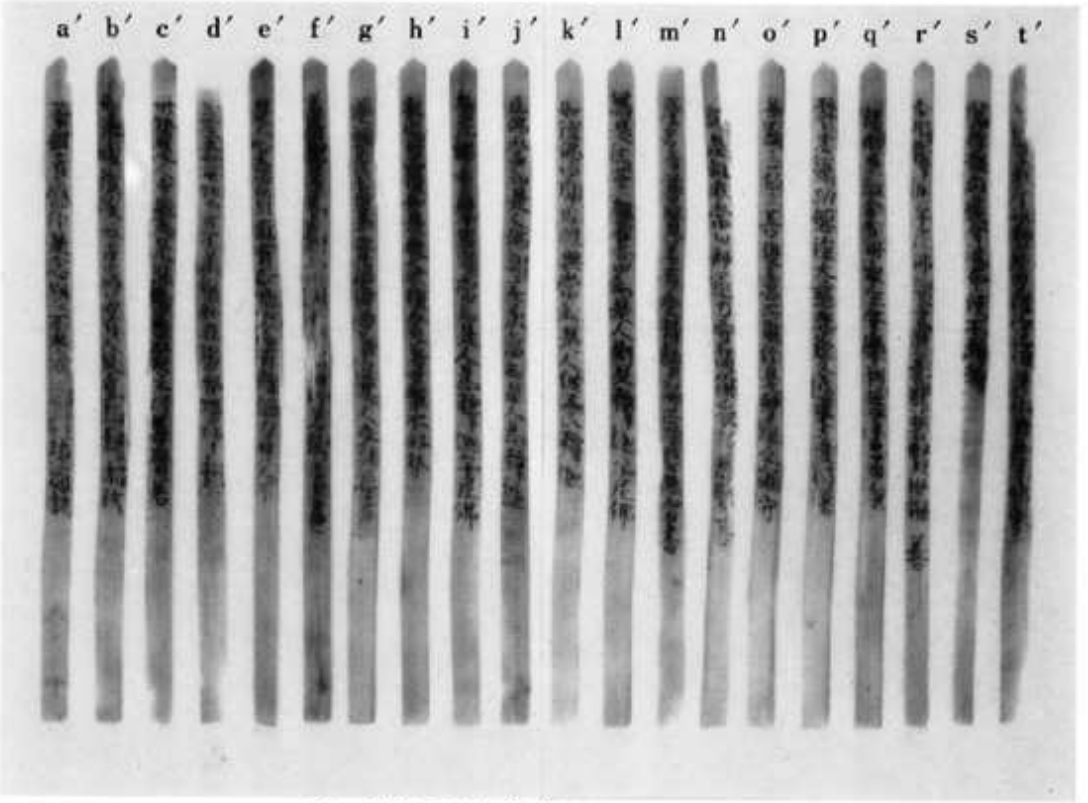
(1) 法華経普賢菩薩勧発品第二十八　　巻第八之九（表面）



(2) 法華経普賢菩薩勧発品第二十八　　巻第八之九（裏面）

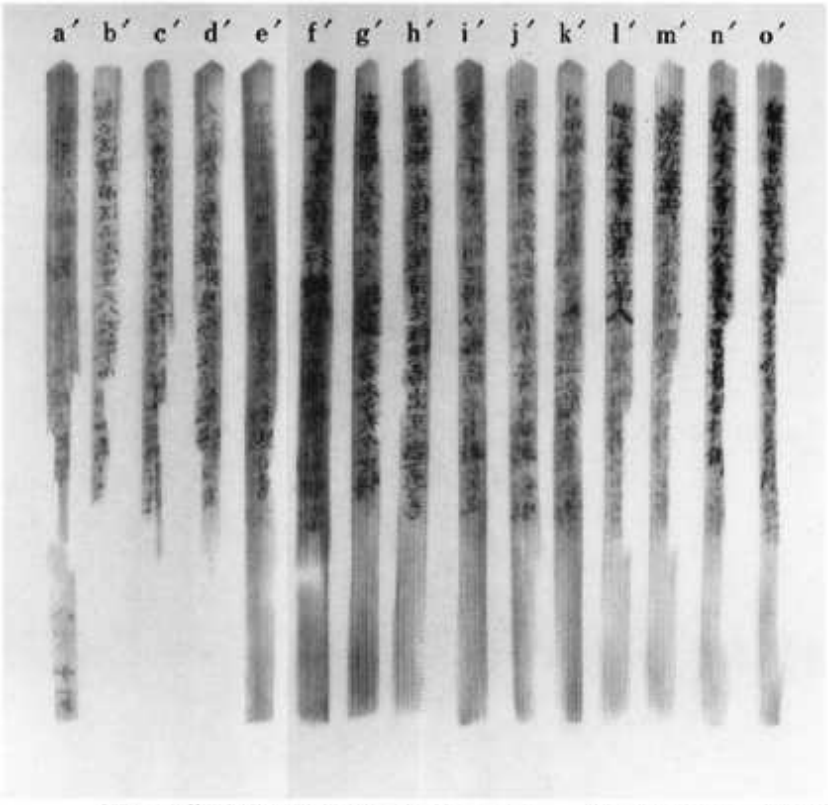


(1) 法華経普賢菩薩勧発品第二十八　　巻第八之十（表面）

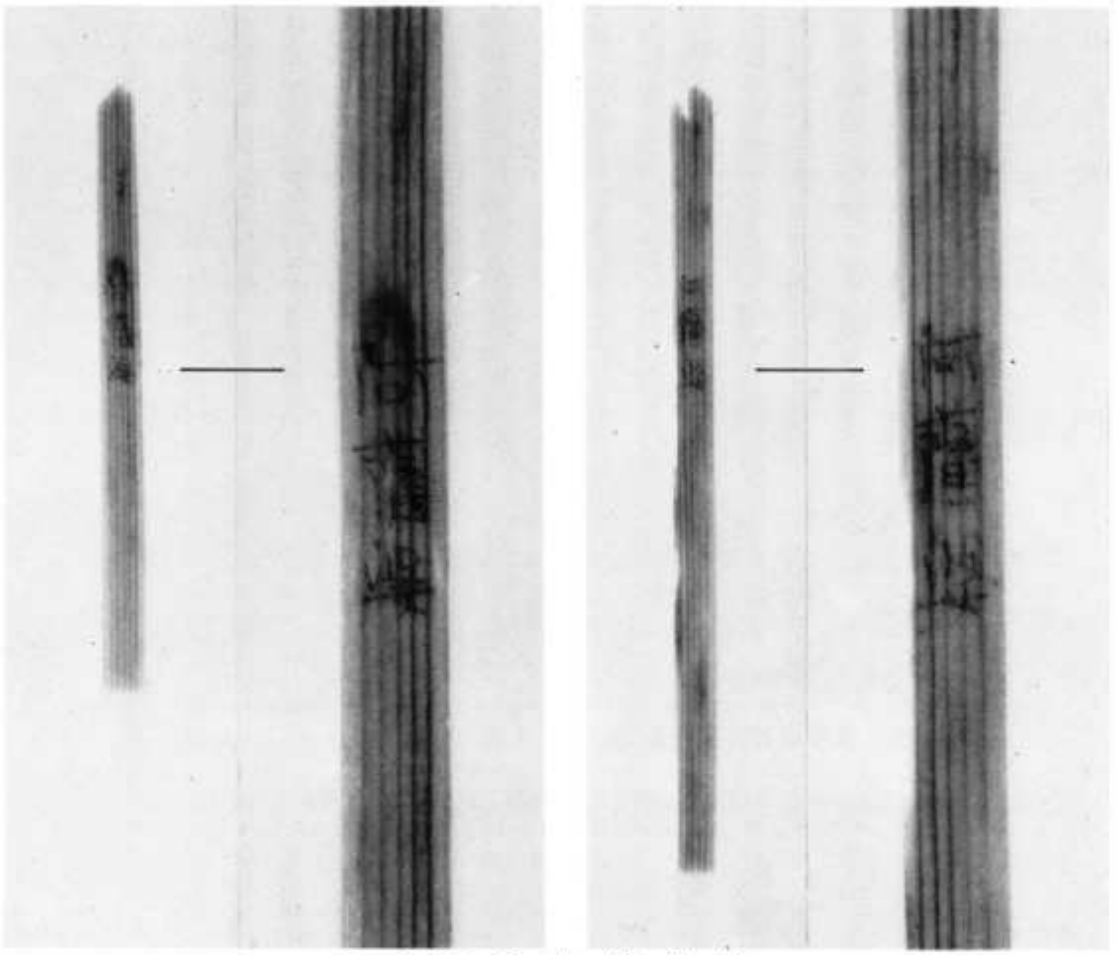


(2) 法華経普賢菩薩勧発品第二十八　　巻第八之十（裏面）

(1) 法華経善賢菩薩勧発品第二十八　巻第八之十一（表面）



(2) 法華経善賢菩薩勧発品第二十八　巻第八之十一（裏面）



SG16 出土笹塔婆

井相田C遺跡Ⅱ

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第179集 別冊

昭和63年３月31日　発行

編集発行　福 岡 市 教 育 委 員 会
福岡市中央区大名２－10－29

印　刷㈱　玉 川 印 刷 所